



目次

- 1. 改訂情報
- 2. 概要説明
 - 2.1. 概要
 - 2.2. 特徴
- 3. 詳細仕様
 - 3.1. 認可
 - 3.2. ユーザ
 - 3.2.1. ワークフローシステム管理者
 - 3.2.2. ワークフロー運用管理者
 - 3.2.2.1. 管理グループによる権限制御
 - 3.2.2.2. ワークフロー監査者
 - 3.2.3. 処理対象者
 - 3.2.4. 確認対象者
 - 3.2.5. 案件操作権限者
 - 3.2.5.1. 案件操作権限者のデータ構造
 - 3.2.6. 代理設定権限者
 - 3.2.7. 各ユーザが利用できる機能
 - 3.2.8. ユーザの登録先
 - 3.3. マスタ定義
 - 3.3.1. フロー定義
 - 3.3.2. コンテンツ定義
 - 3.3.3. ルート定義
 - 3.3.3.1. ルートテンプレート定義
 - 3.3.4. フロー定義とコンテンツ定義、ルート定義の関係
 - 3.3.4.1. バージョン
 - 3.3.4.2. フローの初期設定と個別設定
 - 3.3.5. ノード
 - 3.3.5.1. 動的承認ノードの補足
 - 3.3.5.2. 分岐開始ノードの補足
 - 3.3.5.3. 分岐終了ノードの補足
 - 3.3.5.4. 横配置ノードの補足
 - 3.3.5.5. 縦配置ノードの補足
 - 3.3.5.6. テンプレート置換ノードの補足
 - 3.3.5.7. システムノードの補足
 - 3.3.5.8. ノードの配置ルールと接続ルール
 - 3.3.5.8.1. 開始ノード
 - 3.3.5.8.2. 終了ノード
 - 3.3.5.8.3. 申請ノード
 - 3.3.5.8.4. 承認ノード
 - 3.3.5.8.5. 動的承認ノード
 - 3.3.5.8.6. システムノード
 - 3.3.5.8.7. 確認ノード
 - 3.3.5.8.8. 同期開始ノード
 - 3.3.5.8.9. 同期終了ノード
 - 3.3.5.8.10. 分岐開始ノード
 - 3.3.5.8.11. 分岐終了ノード
 - 3.3.5.8.12. 横配置ノード
 - 3.3.5.8.13. 縦配置ノード
 - 3.3.5.8.14. テンプレート置換ノード
 - 3.3.5.8.15. テンプレート開始ノード
 - 3.3.5.8.16. テンプレート終了ノード
 - 3.3.5.8.17. 分岐ノード、同期ノードに関する補足
 - 3.3.5.9. 分岐終了ノードと同期終了ノードの比較
 - 3.3.6. フローグループ
 - 3.3.7. ワークフロー運用管理者の管理権限
 - 3.4. ユーザ画面
 - 3.4.1. ユーザ画面の種類

- 3.4.2. 画面定義
- 3.4.3. 画面定義の設定
 - 3.4.3.1. ユーザ画面とコンテンツ定義
 - 3.4.3.2. ユーザ画面とフロー定義の初期設定
 - 3.4.3.3. ユーザ画面とフロー定義の個別設定
- 3.5. ユーザプログラム
 - 3.5.1. ユーザプログラムの種類
 - 3.5.2. ユーザプログラム定義
 - 3.5.3. ユーザプログラム定義の設定
 - 3.5.3.1. ユーザプログラムとコンテンツ定義
 - 3.5.3.2. ユーザプログラムとフローの初期設定
 - 3.5.3.3. ユーザプログラムとフロー定義の個別設定
- 3.6. 通知
 - 3.6.1. メール／IMBox 定義
 - 3.6.2. メール／IMBox の種類
 - 3.6.3. メール／IMBox の送信先
 - 3.6.3.1. 処理依頼
 - 3.6.3.2. 処理結果通知
 - 3.6.3.3. 参照依頼
 - 3.6.3.4. 確認依頼
 - 3.6.3.5. 代理通知
 - 3.6.3.6. 振替通知
 - 3.6.3.7. 自動催促
 - 3.6.3.8. 根回し
 - 3.6.4. メール／IMBox 置換文字列
 - 3.6.4.1. 案件プロパティの置換
 - 3.6.4.2. intra-mart URLの置換
 - 3.6.4.2.1. intra-martのURL
 - 3.6.4.2.2. 案件詳細のURL
 - 3.6.4.2.3. ベースURLを含まないintra-mart URL
 - 3.6.5. メール／IMBox 定義の作成
 - 3.6.6. メール／IMBox 定義の設定
 - 3.6.6.1. メール／IMBox 定義とコンテンツ定義
 - 3.6.6.2. メール／IMBox 定義とフロー定義の初期設定
 - 3.6.6.3. メール／IMBox 定義とフロー定義の個別設定
- 3.7. ルール
 - 3.7.1. ルール定義
 - 3.7.2. ルール定義の設定
- 3.8. 案件
 - 3.8.1. 案件の動作仕様
 - 3.8.2. ワークフロー処理の流れ
 - 3.8.3. 案件と申請基準日
 - 3.8.4. 案件とフロー定義の関係
 - 3.8.5. 案件とユーザコンテンツの関係
 - 3.8.5.1. 案件プロパティ
 - 3.8.6. 一時保存
 - 3.8.7. 案件と一覧の関係
 - 3.8.7.1. 申請一覧
 - 3.8.7.2. 案件一覧
 - 3.8.7.3. 一時保存一覧
 - 3.8.7.4. 未処理一覧
 - 3.8.7.5. 処理済一覧（未完了/完了）
 - 3.8.7.6. 確認一覧（未完了/完了）
 - 3.8.7.7. 参照一覧（未完了/完了）
 - 3.8.7.7.1. 利用者
 - 3.8.7.7.2. ワークフロー運用管理者
 - 3.8.7.7.3. ワークフローシステム管理者
 - 3.8.7.8. 過去案件一覧
 - 3.8.7.8.1. 利用者
 - 3.8.7.8.2. ワークフロー運用管理者

- 3.8.7.8.3. ワークフローシステム管理者
- 3.9. 処理対象
 - 3.9.1. 処理対象者
 - 3.9.2. 処理権限者
 - 3.9.2.1. 処理権限者の設定
 - 3.9.2.1.1. 処理権限者の設定方法
 - 3.9.2.2. 処理権限者プラグイン一覧
 - 3.9.2.3. 処理権限者プラグインの指定方法
 - 3.9.2.3.1. 拡張ポイントID / プラグインID
 - 3.9.2.3.2. パラメータ
 - 3.9.2.3.3. 処理権限者プラグインとパラメータ
 - 3.9.2.4. 前処理者に基づく処理対象者プラグインに関する注意事項
 - 3.9.2.5. 処理権限者の展開
 - 3.9.3. 代理
 - 3.9.3.1. 代理設定
 - 3.9.3.2. 代理期間
 - 3.9.3.3. 代理先の設定内容
 - 3.9.3.4. 代理先の展開
 - 3.9.4. 振替
 - 3.9.4.1. 振替先の設定内容
 - 3.9.4.2. 振替先の展開
 - 3.9.5. 担当組織の指定
 - 3.9.6. 標準組織
 - 3.9.7. 処理対象者の展開に関する補足
- 3.10. 処理
 - 3.10.1. 起票
 - 3.10.2. 未申請状態からの申請
 - 3.10.3. 申請
 - 3.10.4. 再申請
 - 3.10.5. 取止め
 - 3.10.6. 承認
 - 3.10.7. 承認終了
 - 3.10.8. 否認
 - 3.10.9. 保留
 - 3.10.10. 保留解除
 - 3.10.11. 差戻し
 - 3.10.12. 引戻し
 - 3.10.13. 各ノードで実行できる処理
 - 3.10.14. 差戻しの処理ルール
 - 3.10.15. 引戻しの処理ルール
- 3.11. 確認
 - 3.11.1. 確認機能
 - 3.11.2. 確認対象者
 - 3.11.2.1. 確認対象者の設定
 - 3.11.2.1.1. 確認対象者の設定方法
 - 3.11.2.2. 確認対象者プラグイン一覧
 - 3.11.2.3. 確認対象者プラグインの指定方法
 - 3.11.2.4. 確認対象者の展開
 - 3.11.3. 確認の処理ルール
 - 3.11.4. 差戻しの処理ルール
- 3.12. 案件操作・参照
 - 3.12.1. 案件操作でできる処理
 - 3.12.2. 案件操作権限者
 - 3.12.2.1. 案件操作権限者の設定内容
 - 3.12.2.2. 案件操作権限者プラグイン一覧
 - 3.12.2.3. 案件操作権限者プラグインの指定方法
 - 3.12.3. 案件操作の処理内容
 - 3.12.3.1. 参照
 - 3.12.3.2. 保留解除
 - 3.12.3.3. ノード処理対象者変更

- 3.12.3.4. ノード処理対象者再展開
 - 3.12.3.5. 動的承認ノードの削除
 - 3.12.3.6. 動的承認ノードの復活
 - 3.12.3.7. 横配置ノード、縦配置ノードの再設定・再展開
 - 3.12.3.8. ノード移動
 - 3.12.3.9. 案件操作権限者の追加
 - 3.12.3.10. 案件削除
- 3.12.4. 案件操作・ノード移動の処理ルール
- 3.12.5. 案件操作後の差戻しの処理ルール
- 3.12.6. 案件操作後の引戻しの処理ルール
- 3.13. 一括処理・一括確認
 - 3.13.1. 一括処理
 - 3.13.2. 一括確認
- 3.14. 連続処理
 - 3.14.1. 連続処理
 - 3.14.2. 連続確認
- 3.15. 自動処理
 - 3.15.1. 自動処理機能
 - 3.15.1.1. 処理期限自動処理
 - 3.15.1.2. 到達処理としての自動処理
 - 3.15.1.2.1. 既処理ユーザによる自動承認
 - 3.15.1.2.2. 再処理ユーザによる自動承認
 - 3.15.1.2.3. 連続したユーザによる自動承認
 - 3.15.2. 自動処理を設定できるノード
 - 3.15.3. 自動処理時にワークフローが設定する担当組織について
- 3.16. 自動催促
 - 3.16.1. 催促メール送信ジョブ／催促 IMBox 送信ジョブ
- 3.17. アーカイブ
 - 3.17.1. アーカイブ機能
 - 3.17.2. アーカイブ対象期間の決定ルール
 - 3.17.3. アーカイブデータの保存先
 - 3.17.4. リスナー
 - 3.17.5. 標準案件退避リスナー
 - 3.17.6. 参照権限
- 3.18. アラート
 - 3.18.1. アラート機能
 - 3.18.2. 標準提供のアラート検出プログラム
 - 3.18.2.1. 処理対象者無し検出ジョブ
 - 3.18.2.2. 処理停止検出（分岐開始）ジョブ
 - 3.18.2.3. 処理停止検出（分岐終了）ジョブ
 - 3.18.2.4. 処理中案件検出（経過日時指定）ジョブ
 - 3.18.2.5. 処理中ノード検出（経過日時指定）ジョブ
- 3.19. モニタリング
 - 3.19.1. モニタリング機能
 - 3.19.1.1. モニタリング更新ジョブ
- 3.20. 外部マスタ連携
 - 3.20.1. 同期リスナー機能
 - 3.20.2. 同期ジョブ機能
 - 3.20.2.1. 代理先同期ジョブ
- 3.21. 印影
 - 3.21.1. 印影設定
 - 3.21.1.1. テナント単位設定
 - 3.21.1.2. プラグイン設定
 - 3.21.1.3. コンテンツ画面の作成
 - 3.21.1.4. 印影設定ファイル
 - 3.21.2. 印影処理
 - 3.21.2.1. アクション処理－印影登録機能
 - 3.21.2.2. アクション処理－印影削除・復活機能
 - 3.21.2.3. 代理処理時の印影
 - 3.21.2.4. APIを利用したワークフロー処理時の印影

- 3.21.2.5. 自動承認、一括処理時の印影
 - 3.21.2.6. スマートフォンの印影
 - 3.21.3. 印影利用時の注意事項
- 3.22. 標準画面の処理の非同期
 - 3.22.1. 対象の標準画面の処理
 - 3.22.2. 設定
 - 3.22.2.1. テナント単位設定
 - 3.22.2.2. フロー単位設定
 - 3.22.2.3. 案件単位設定
 - 3.22.3. 同期処理の特性、非同期処理の特性
 - 3.22.3.1. 同期処理の特性
 - 3.22.3.2. 同期処理のイメージ
 - 3.22.3.3. 非同期処理の特性
 - 3.22.3.4. 非同期処理のイメージ
 - 3.22.4. 非同期処理の状況確認
 - 3.22.4.1. 非同期処理ステータス画面の場所
 - 3.22.4.2. 非同期処理ステータス画面の情報の説明
 - 3.22.5. 標準画面の非同期的な処理に関する注意事項
- 3.23. インポート/エクスポート
 - 3.23.1. エクスポートの仕様
 - 3.23.2. インポートの仕様
 - 3.23.2.1. バージョンを持たないマスタ定義のインポート仕様
 - 3.23.2.1.1. 一覧表示パターン定義インポートに関する注意事項
 - 3.23.2.1.2. 代理管理者設定インポートに関する注意事項
 - 3.23.2.2. バージョンを持つマスタ定義のインポート仕様
 - 3.23.2.3. 処理順序
 - 3.23.2.4. マスタ定義インポート時の整合性チェック
 - 3.23.2.4.1. 整合性チェック（エラー）
 - 3.23.2.4.2. 整合性チェック（警告）
 - 3.23.2.5. ロケール情報のインポート仕様
- 3.24. 処理対象者標準プラグイン結果キャッシュ
 - 3.24.1. 処理対象者標準プラグイン結果キャッシュとは
 - 3.24.2. 処理対象者標準プラグイン結果キャッシュの対象
 - 3.24.3. 処理対象者標準プラグイン結果キャッシュの単位
 - 3.24.4. 処理対象者標準プラグイン結果キャッシュのライフサイクル
 - 3.24.4.1. 処理対象者標準プラグイン結果キャッシュが作成されるタイミング
 - 3.24.4.2. 処理対象者標準プラグイン結果キャッシュが更新されるタイミング
 - 3.24.4.3. 処理対象者標準プラグイン結果キャッシュが削除されるタイミング
- 3.25. 対象者を展開する日付
 - 3.25.1. 申請基準日で各対象者を展開
 - 3.25.2. 申請基準日以外で各対象者を展開
 - 3.25.2.1. 申請基準日以外での申請者
 - 3.25.2.2. 申請基準日以外での処理権限者の展開／再展開
 - 3.25.2.3. 申請基準日以外での確認対象者の展開／再展開
 - 3.25.2.4. 申請基準日以外での案件操作権限者の展開／再展開
 - 3.25.2.5. 申請基準日以外での振替先の展開／再展開
- 3.26. 一括処理対象者変更
 - 3.26.1. 当該機能の利用目的
 - 3.26.2. 当該機能について
 - 3.26.3. 基準日について
 - 3.26.4. 他の機能との関連について
- 3.27. 振替、および一括処理対象者変更の履歴表示
 - 3.27.1. 他の機能との関連について
- 3.28. タイムゾーン
 - 3.28.1. IM-Workflow で利用する日付とタイムゾーン
- 3.29. 申請者承認防止処理
 - 3.29.1. 承認防止パターン
- 3.30. 遷移先プラグインに関する設定
 - 3.30.1. 「申請一覧」、「案件一覧」を利用する場合の遷移先プラグインに関する設定
 - 3.30.2. 【IM-Workflowを利用している場合】

- 3.30.3. 【IM-BIS を利用している場合】
- 4. ジョブ
 - 4.1. ジョブ一覧
 - 4.2. 参照者再展開ジョブ
- 5. 設定
 - 5.1. 設定一覧
 - 5.1.1. システム単位の設定
 - 5.1.1.1. システム設定
 - 5.1.1.1.1. 案件終了処理、到達処理、メール送信処理、IMBox送信処理の同期／非同期制御の設定
 - 5.1.1.1.2. 到達処理（承認）で同時アクセスエラー発生のリトライ設定
 - 5.1.1.1.3. XMLファイルキャッシュの設定
 - 5.1.1.1.4. 処理対象者標準プラグイン結果キャッシュ設定
 - 5.1.1.1.5. 処理対象者標準プラグインユーザ情報取得最大人数設定
 - 5.1.1.2. デザイン設定
 - 5.1.1.2.1. ルートデザイナの設定
 - 5.1.1.2.2. アイコンの設定
 - 5.1.1.3. キャッシュ設定
 - 5.1.1.3.1. リファレンス
 - 5.1.1.3.1.1. ファイルパスキャッシュ設定
 - 5.1.1.3.1.2. プラグインオブジェクトキャッシュ設定
 - 5.1.1.3.1.3. プラグインディスクリプタキャッシュ設定
 - 5.1.2. テナント 単位の設定
 - 5.1.2.1. 一覧表示画面の設定
 - 5.1.2.2. フローグループの設定
 - 5.1.2.3. 管理グループの設定
 - 5.1.2.4. 代理の設定
 - 5.1.2.5. 標準組織の設定
 - 5.1.2.6. 一時保存機能の設定
 - 5.1.2.7. 一括処理機能・一括確認機能の設定
 - 5.1.2.8. フロー画像出力機能の設定
 - 5.1.2.9. 根回しの設定
 - 5.1.2.10. 通知の設定
 - 5.1.2.11. バージョンの設定
 - 5.1.2.12. 自動処理、自動催促の設定
 - 5.1.2.13. アーカイブの設定
 - 5.1.2.14. アラートの設定
 - 5.1.2.15. リスナーの設定
 - 5.1.2.16. データ保存の設定
 - 5.1.2.17. ポップアップウィンドウサイズの設定
 - 5.1.2.18. 入力項目の設定
 - 5.1.2.19. GreyBoxのz-indexの設定
 - 5.1.2.20. 案件終了時のタスクアーカイブファイル作成省略の設定
 - 5.1.2.21. 印影設定
 - 5.1.2.22. ショートカットアクセスURLの設定
 - 5.1.2.23. スマートフォン用ユーザコンテンツのスキップ設定
 - 5.1.2.24. 標準画面の処理の同期／非同期設定
 - 5.1.2.25. 申請者除外設定
 - 5.1.2.26. 全角「%」、「_」のエスケープ設定
 - 5.1.2.27. 処理対象ユーザの所属情報取得方法設定
 - 5.1.2.28. インポート/エクスポートファイルのアップロード/ダウンロード設定
 - 5.1.2.29. トランザクションファイル（XMLファイル）圧縮可否
 - 5.1.2.30. 複数の処理対象者プラグインから展開されたユーザ情報をマージする処理方式
 - 5.1.2.31. 組織フィルタリング設定
 - 5.1.2.32. 案件一覧の設定
 - 5.2. カラムサイズの拡張
 - 5.2.1. 案件名のカラムサイズ設定
 - 5.2.2. 申請・処理時コメントのカラムサイズ設定
 - 5.2.3. 確認時コメントのカラムサイズ設定
 - 5.2.4. 添付ファイル名のカラムサイズ設定
 - 5.2.5. ノード設定名のカラムサイズ設定

- 5.2.6. 横配置・縦配置ノードで展開するノード名のコラムサイズ設定

改訂情報

変更年月日	変更内容
2012-10-01	初版
2012-12-21	第2版 「intra-mart URLの置換」を追加しました。 「ショートカットアクセスURLの設定」を追加しました。 「根回しの設定」から「ショートカットアクセスURLの設定」に、次の内容を移動しました。 - login-url - login-limit
2013-04-01	第3版 「分岐終了ノードと同期終了ノードの比較」を追加しました。 「ユーザ画面の種類」に、スマートフォン用画面種別を追加しました。 「intra-mart URLの置換」に、クライアントタイプ：スマートフォンの場合の説明を追加しました。 「スマートフォン用ユーザコンテンツのスキップ設定」を追加しました。
2013-07-01	第4版 「フロー定義」の表に非同期処理を追加しました。 「ユーザプログラムの種類」の説明を修正しました。 「処理権限者の設定」の説明に追記しました。 「代理設定」の説明を修正しました。 「一括処理」の説明に追記しました。 「既処理ユーザによる自動承認」の説明に追記しました。 「連続したユーザによる自動承認」の説明に追記しました。 「再処理ユーザによる自動承認」の説明を修正しました。 「自動処理を設定できるノード」の説明に追記しました。 「標準画面の処理の非同期」を追加しました。 「ジョブ一覧」に次のジョブを追加しました。 - 処理対象者標準プラグイン結果キャッシュ削除 - 未完了案件XMLデータ移行(File-Database) - 未完了案件XMLデータ移行(Database-File) 「案件終了処理、到達処理、メール送信処理、IMBox送信処理の同期／非同期制御の設定」に説明を追記しました。 「システム単位の設定」に「xml-file-cache-store-max-size」を追加しました。 「システム単位の設定」に「standard-plugin-result-cache-store-max-size」を追加しました。 「根回しの設定」の説明を修正しました。 「通知の設定」を追加しました。 「データ保存の設定」に「transaction-file-save-location」を追加しました。 「標準画面の処理の同期／非同期設定」を追加しました。 「申請者除外設定」を追加しました。
2013-10-01	第5版 「引戻しの処理ルール」の内容を追加しました。 「標準提供のアラート検出プログラム」の説明を修正しました。
2013-12-20	第6版 「処理対象者の展開に関する補足」の説明を修正しました。
2014-01-01	第7版 「印影設定ファイル」の「表、印影設定ファイル詳細ー印影設定該当」の説明を修正しました。 「ジョブ一覧」の「印影」の説明を修正しました。 「引戻しの処理ルール」の説明を修正しました。 「代理」に、代理有効期間より前時点における、代理元処理済みデータの参照に関する記述を追記しました。

変更年月日	変更内容
2014-04-01	第8版 「フローの初期設定と個別設定」の説明から、「一括確認機能の使用可否」を削除しました。 「一括処理」の説明を修正しました。 「一括確認」の説明を修正しました。 「自動処理時にワークフローが設定する担当組織について」を追加しました。 「同期リスナー機能」に説明を追加しました。 「代理先同期ジョブ」に説明を追加しました。 「ジョブ一覧」に「代理先同期ジョブ」のパラメータ説明を追加しました。 「ジョブ一覧」に「処理対象者標準プラグイン結果キャッシュ削除」のパラメータ説明を追加しました。 「システム単位の設定」の説明を、「システム設定」と「デザイン設定」に分割し、内容を更新しました。 「全角「%」、「_」のエスケープ設定」を追加しました。
2014-05-26	第9版 「案件操作権限者のデータ構造」に追記しました。 「参照権限」の説明を変更しました。
2014-08-01	第10版 「ユーザ」に「ワークフロー監査者」を追加しました。 「ワークフロー監査者」を追加しました。 「各ユーザが利用できる機能」に「ワークフロー監査者」を追加しました。 「案件とユーザコンテンツの関係」の案件番号の説明を修正しました。 「処理権限者の設定」の説明に追記しました。 「代理期間」の説明に追記しました。 「確認機能」に追記しました。 「案件操作でできる処理」に追記しました。 「インポート/エクスポート」を追加しました。 「ジョブ一覧」の次のジョブにおいて、ジョブ名と説明の記述内容が互い違いになっていたため修正しました。 - XMLデータ移行 「ジョブ一覧」に次のジョブを追加しました。 - 参照者再展開 「参照者再展開ジョブ」を追加しました。 「アーカイブの設定」に追記しました。 「処理対象ユーザの所属情報取得方法設定」に追記しました。 「インポート/エクスポートファイルのアップロード/ダウンロード設定」を追加しました。

変更年月日	変更内容
2014-12-01	第 1 1 版 「フロー定義」のフロー定義の機能設定に、添付ファイルのサイズ制限についての注釈を追記しました。 「フロー定義」に、システム日で対象者を展開の説明を追加しました。 「フローの初期設定と個別設定」の機能設定のうちノードに個別設定できるものに、添付ファイルのサイズ制限について注釈を追記しました。 「システムノードの補足」を追加しました。 「分岐終了ノードと同期終了ノードの比較」に、同期終了ノードにおける注意事項2を追加しました。 「画面定義」にSAStruts+S2JDBC、TERASOLUNA Global Frameworkで作成した画面に関する説明を追加しました。 「メール／IMBox の送信先」に、送信先・差出人のメールアドレスが空だった場合の挙動を追記しました。 「処理権限者の設定」に、「組織とその上位／下位組織」プラグインに関する説明を追記しました。 「処理権限者プラグイン一覧」を追加しました。 「前処理者に基づく処理対象者プラグインに関する注意事項」を追加しました。 「確認対象者プラグイン一覧」を追加しました。 「案件操作権限者」を追加しました。 「処理対象者標準プラグイン結果キャッシュ」を追加しました。 「対象者を展開する日付」を追加しました。 「ジョブ一覧」に次のジョブを変更・追加しました。 - 参照者再展開 - 確認対象者再展開 - 処理対象者再展開 「申請者除外設定」に、参照者、確認対象者について追記しました。
2015-04-01	第 1 2 版 「intra-mart URLの置換」の説明を変更しました。 「案件詳細のURL」を追加しました。 「ベースURLを含まないintra-mart URL」を追加しました。 「案件終了時のタスクアーカイブファイル作成省略の設定」の説明を修正しました。 「インポート/エクスポートファイルのアップロード/ダウンロード設定」の説明を変更しました。
2015-08-01	第 1 3 版 「ユーザプログラムの種類」に到達処理を追加しました。 「ユーザプログラムの種類」に「案件終了処理（トランザクションなし）」を追加しました。 「自動処理機能」の説明を変更しました。 「標準画面の非同期的な処理に関する注意事項」に一括処理・一括確認に関する注意事項を追加しました。 「マスタ定義インポート時の整合性チェック」にルート定義の整合性チェックを追加しました。 「タイムゾーン」を追加しました。 「データ保存の設定」の「transaction-file-save-location」説明を変更しました。
2015-12-01	第 1 4 版 「ユーザプログラム定義」に IM-LogicDesigner を追加しました。 「一括処理対象者変更」を追加しました。 「振替、および一括処理対象者変更の履歴表示」を追加しました。
2016-04-01	第 1 5 版 下記を追加・変更しました 「案件終了処理、到達処理、メール送信処理、IMBox送信処理の同期／非同期制御の設定」の説明を修正しました。 - 連携先に TERASOLUNA Server Framework for Java (5.x) を追加しました。 「キャッシュ設定」を追加しました。

変更年月日	変更内容
2016-08-01	第 1 6 版 下記を追加・変更しました 「ジョブ一覧」を変更しました。 「ジョブ一覧」に次のジョブを追加しました。 完了案件XMLデータ移行(File ->Database LOB) 完了案件XMLデータ移行(Database LOB->File) 過去案件XMLデータ移行(File ->Database LOB) 過去案件XMLデータ移行(Database LOB->File) 案件添付ファイル移行(File ->Database LOB) 案件添付ファイルデータ移行(Database LOB->File) 「案件操作・ノード移動の処理ルール」を変更しました。 「申請者除外設定」を変更しました。 「担当組織の指定」を変更しました。 「申請者承認防止処理」を追加しました。 「代理設定」に権限代理に関する補足説明を追加しました。 「処理権限者プラグインの指定方法」を追加しました。 「案件操作権限者プラグインの指定方法」を追加しました。 「確認対象者プラグインの指定方法」を追加しました。 「処理権限者の設定」を変更しました。 「確認対象者の設定」を変更しました。 「案件操作権限者の設定内容」を変更しました。 「マスタ定義インポート時の整合性チェック」を変更しました。 「データ保存の設定」を変更しました。
2016-09-01	第 1 7 版 下記を追加しました。 「ジョブ一覧」の以下ジョブに、実行時間に関する注意を追加しました。 未完了案件XMLデータ移行(Database LOB->File) 未完了案件XMLデータ移行(File ->Database LOB) 案件添付ファイル移行(File ->Database LOB) 案件添付ファイルデータ移行(Database LOB->File)
2016-12-01	第 1 8 版 下記を追加しました。 「テナント 単位の設定」に「トランザクションファイル (XML ファイル) 圧縮可否」を追加しました。 「ジョブ一覧」に次のジョブを追加しました。 未完了案件トランザクションXMLファイル圧縮 完了案件トランザクションXMLファイル圧縮 過去案件トランザクションXMLファイル圧縮 未完了案件トランザクションXMLファイル解凍 完了案件トランザクションXMLファイル解凍 過去案件トランザクションXMLファイル解凍 - 以下のジョブに、「トランザクションファイル (XMLファイル) 圧縮可否」設定に関する補足を追加しました。 未完了案件XMLデータ移行(Database LOB->File) 完了案件XMLデータ移行(Database LOB->File) 過去案件XMLデータ移行(Database LOB->File)
2017-04-01	第 1 9 版 下記を追加しました。 「フローグループの設定」に「一括処理対象者変更一覧画面のフローグループ検索条件表示」を追加しました。 「バージョンの設定」にインポート時の設定の注意事項を追加しました。

変更年月日	変更内容
2017-08-01	第 2 0 版 下記を追加しました。 ■ 「確認対象者再展開」に完了した案件の確認対象者の展開に関する説明を追加しました。 ■ 機械翻訳時の翻訳精度と可読性向上のため、以下のページの記号等の表現を変更しました。 ■ 承認防止パターン ■ ノードの配置ルールと接続ルール ■ 「テナント 単位の設定」に「複数の処理対象者プラグインから展開されたユーザ情報をマージする処理方式」を追加しました。
2017-12-01	第 2 1 版 下記を変更しました。 ■ 「アーカイブ」に関して、アーカイブデータの保存先、参照権限の説明を変更しました。 ■ 「リスナーの設定」を修正しました。 ■ 「テナント 単位の設定」に「組織フィルタリング設定」を追加しました。
2018-04-01	第 2 2 版 下記を追加・変更しました。 ■ 「案件と一覧の関係」 ■ 「APIを利用したワークフロー処理時の印影」のタイトル、表現の見直しを行いました。 ■ 「処理対象者再展開」にパラメータを追加しました。 ■ 以下に処理対象者プラグイン「ロジックフロー（ユーザ）」の説明を追加しました。 ■ 「処理権限者の設定」 ■ 「処理権限者プラグイン一覧」 ■ 「処理権限者プラグインの指定方法」 ■ 「担当組織の指定」 ■ 「確認対象者の設定」 ■ 「確認対象者プラグイン一覧」 ■ 「案件操作権限者の設定内容」 ■ 「案件操作権限者プラグイン一覧」
2018-08-01	第 2 3 版 下記を変更しました。 ■ 「リスナーの設定」にロジックフローの指定方法を追記しました。
2018-12-01	第 2 4 版 下記を変更しました。 ■ 「ジョブ一覧」に次のジョブを追加しました。 ■ 旧ノード連携情報削除
2019-04-01	第 2 5 版 下記を変更しました。 ■ 「案件と一覧の関係」に申請一覧と案件一覧を追加しました。 ■ 「テナント 単位の設定」に「案件一覧の設定」を追加しました。 ■ 「ジョブ一覧」に次のジョブを追加しました。 ■ トランザクションテーブルデータ補完（フローID） ■ 「遷移先プラグインに関する設定」を追加しました。

概要説明

概要

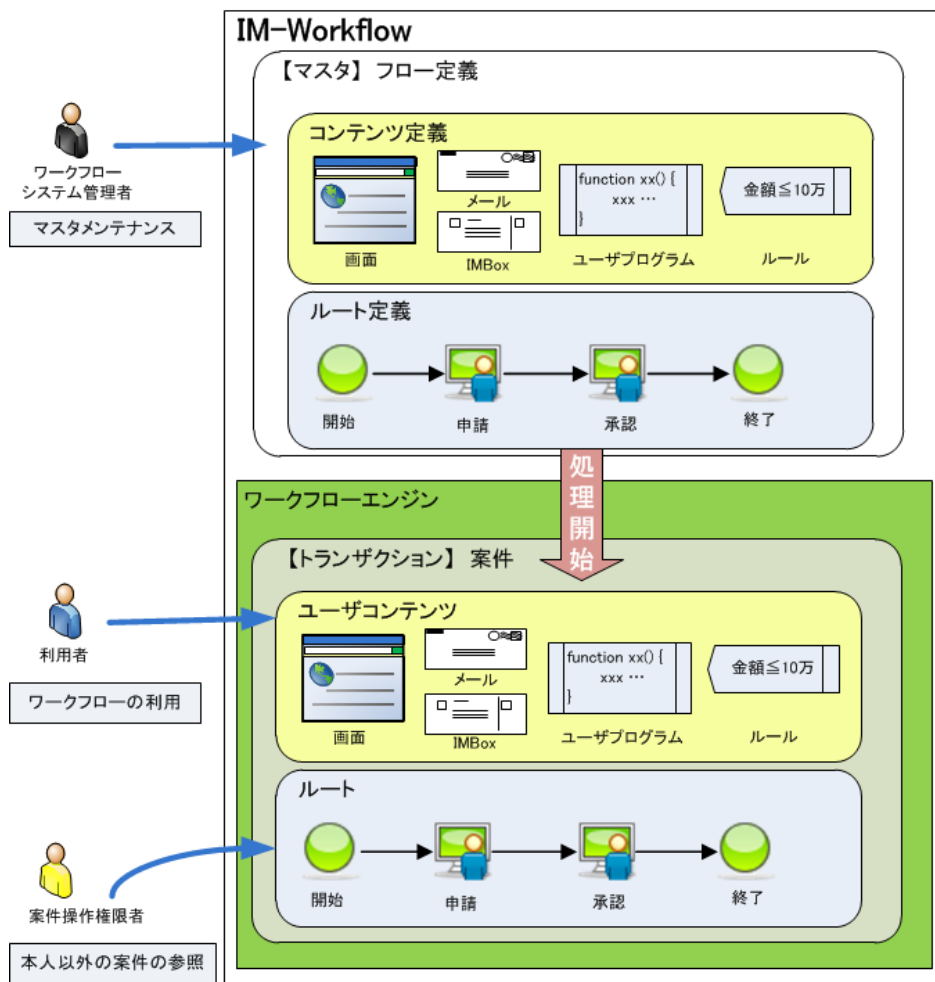
IM-Workflow はワークフローの処理内容および処理順序を示す「フロー定義」に従います。

実際のワークフロー処理である「案件」を進捗させます。

物品購入のワークフローを例にすると、フロー定義は物品購入の申請画面や承認の順番を示します。

案件は物品の購入申請から最終的な承認までの処理を示します。

全体像



特徴

IM-Workflow には以下の特徴があります。

- 「コンテンツ定義」と「ルート定義」を「フロー定義」にて疎結合で結ぶことにより、処理順序の変更による処理内容への影響、およびその逆の影響を最小限に留めることができます。
また、処理内容と処理順序をN対Nで組み合わせることにより、マスタ定義の再利用性を上げることができます。
- フローを動的に変更する処理要素「動的承認ノード」、「縦配置ノード」、「横配置ノード」をルートに定義した範囲内で、ワークフローの処理中に利用者が次の処理者の決定や、処理順の変更ができます。
- 「確認」機能を使用することで、案件の処理に影響を与えずに案件を確認してコメントの追加や確認履歴を残すことができます。
- ワークフローの処理中に案件の任意の場所に移動できる「案件操作・参照」機能があります。
これにより処理者不在によるワークフローの停止などに対応できます。
- 本人以外の案件を「案件操作・参照」機能で参照できます。
- 完了した案件を別テーブルに移すことにより、データ量増加による処理速度の低下を防ぎます。

詳細仕様

認可

IM-Workflow の機能を利用するにあたり、intra-mart Accel Platform が提供する認可の設定が必要です。
認可とは、条件（誰が）、リソース（何を）、アクション（どうする） から、許可・不許可を解決する機能です。
リソースには、会社、メニュー項目、画面・処理といった種類があります。

例えば、あるユーザが会社Aに属する組織を検索する場合、そのユーザに対して会社Aへの参照権限が許可されている必要があります。

以降の記述は、サンプルデータセットアップを行った際の認可設定を前提とします。

ユーザ

IM-Workflow では利用目的に応じてユーザを定義しており、各ユーザが利用できる機能が異なります。

IM-Workflow のユーザ

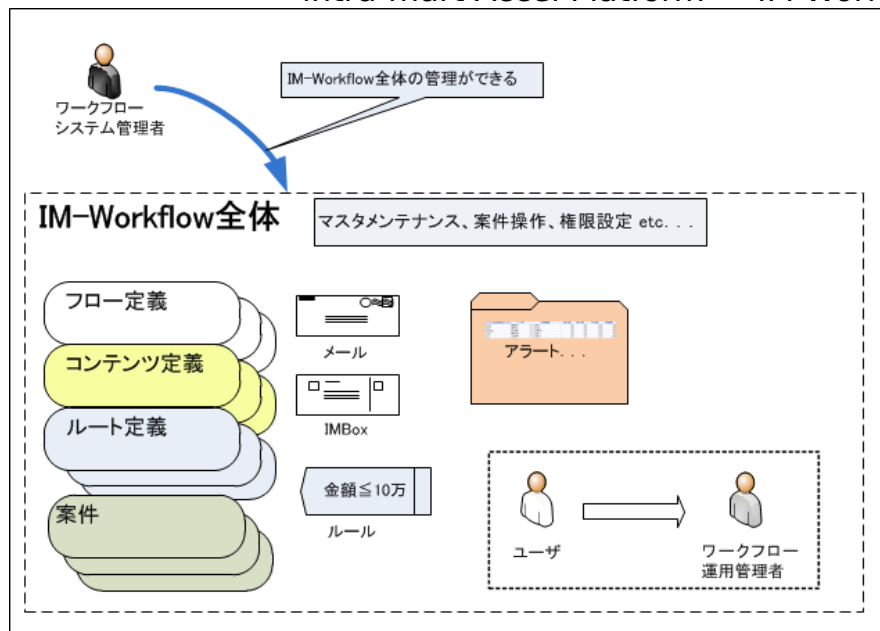
大分類	中分類	小分類	説明
管理者			ワークフローを管理目的で利用するユーザ
		ワークフローシステム管理者	ワークフロー全体の管理を行う管理者
		ワークフロー運用管理者	ワークフローシステム管理者からワークフローの管理権限を付与された管理者 管理権限の範囲でワークフローの管理ができます。
		ワークフロー監査者	ワークフロー運用管理者のうち、ワークフローの参照権限のみを付与されたユーザ 参照権限の範囲でワークフローの参照ができます。
利用者	-		ワークフローを管理目的ではなくアプリケーションとして利用するユーザ
		処理対象者	申請や承認ができる利用者
		確認対象者	確認ができる利用者
	権限者		ワークフローシステム管理者から権限を委譲された利用者
		案件操作権限者	ワークフローシステム管理者から案件の参照や操作を行う権限を付与された利用者
		代理設定権限者	ワークフローシステム管理者から代理設定の権限を付与された利用者 代理元本人の代わりに代理設定ができます。

詳細については下記を参照してください。

ワークフローシステム管理者

ワークフロー全体の管理を行う管理者で、マスタメンテナンスや他ユーザへの権限設定ができます。

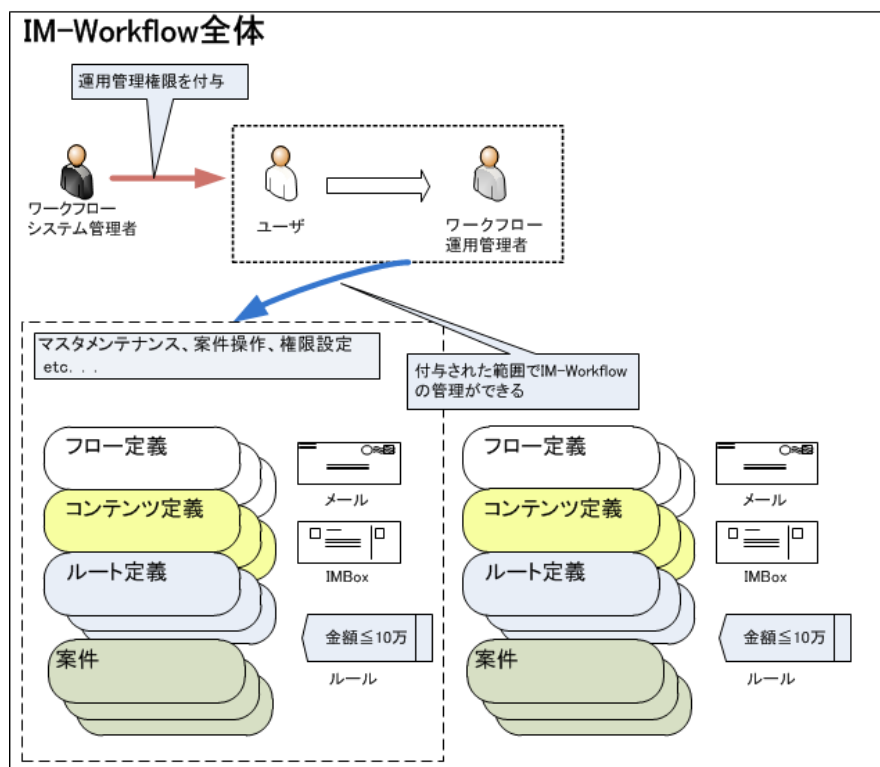
ワークフローシステム管理者



ワークフロー運用管理者

ワークフローシステム管理者から付与された権限の範囲でワークフローの管理を行える管理者です。

ワークフロー運用管理者



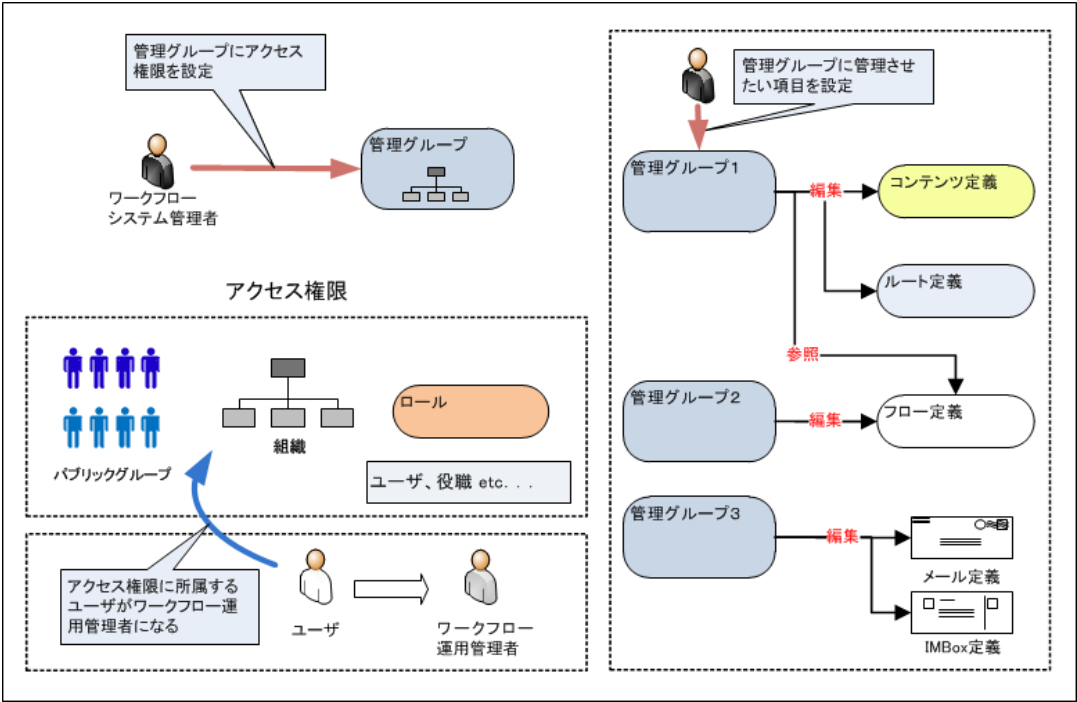
権限の範囲は下記「管理グループ」で制御します。

管理グループによる権限制御

「管理グループ」とはワークフローシステム管理者がワークフロー運用管理者に付与する権限の範囲のことです。

- ワークフロー運用管理者にしたいユーザーのアクセス権限を管理グループに設定すると、そのアクセス権限に所属するユーザーはワークフロー運用管理者が設定されます。
- ワークフロー運用管理者に管理させたい項目は、ワークフロー運用管理者が属する管理グループに設定します。
- テナント単位設定「管理グループ機能の使用可否」で管理グループの機能の使用可否を制御できます。

管理グループとワークフロー運用管理者



- 同じ管理グループに属する別のワークフロー運用管理者は、同じ項目を参照／編集することができます。
- 管理グループに会社を設定した場合、ワークフロー運用管理者は設定した会社以外を参照できません。
- 管理グループは下表の内容を管理します。

管理グループが管理する項目

説明		
管理する項目	メール定義	
	IMBox定義	
	コンテンツ定義	
	フロー定義	
	ルート定義	
	ルートテンプレート定義	
権限	マスタ編集権限	管理する項目に対するマスタ編集権限 ■ 参照可 ■ 編集可
	案件操作権限	案件に対する案件操作権限 ■ 参照可 ■ 操作可
* 案件操作権限はフロー定義にのみ設定できます。		
その他	どの管理グループにも属さない項目はワークフローシステム管理者のみが管理できます。 ワークフロー運用管理者が新規作成した項目は、ワークフローシステム管理者が参照、編集することができます。	

ワークフロー監査者

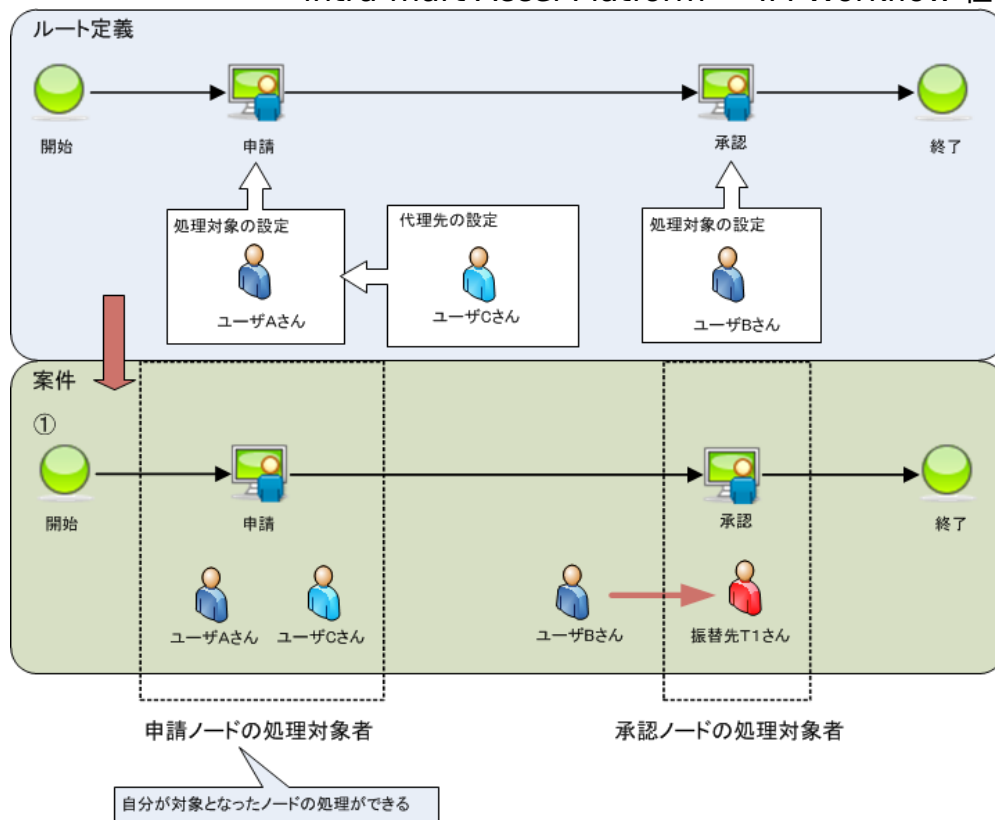
ワークフロー運用管理者のうち、ワークフローの参照権限のみを付与されたユーザを指します。
参照権限の範囲でワークフローの参照ができます。

- ワークフロー監査者にしたいユーザのアクセス権限をフロー定義に対する案件操作権限、マスタ編集権限とも参照に設定されている管理グループに設定すると、そのアクセス権限に所属するユーザはワークフロー監査者が設定されます。

処理対象者

申請や承認ができる利用者のことです。
処理対象者の設定については「[3.9 処理対象](#)」を参照してください。

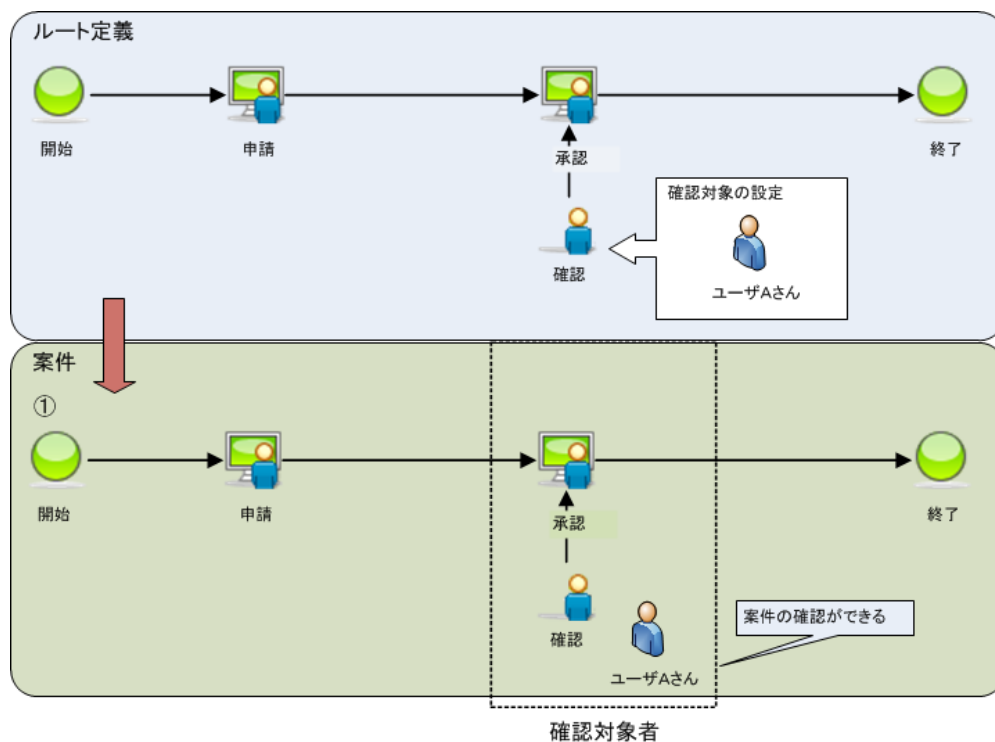
処理対象者



確認対象者

案件の確認ができる利用者のことです。

確認対象者



案件操作権限者

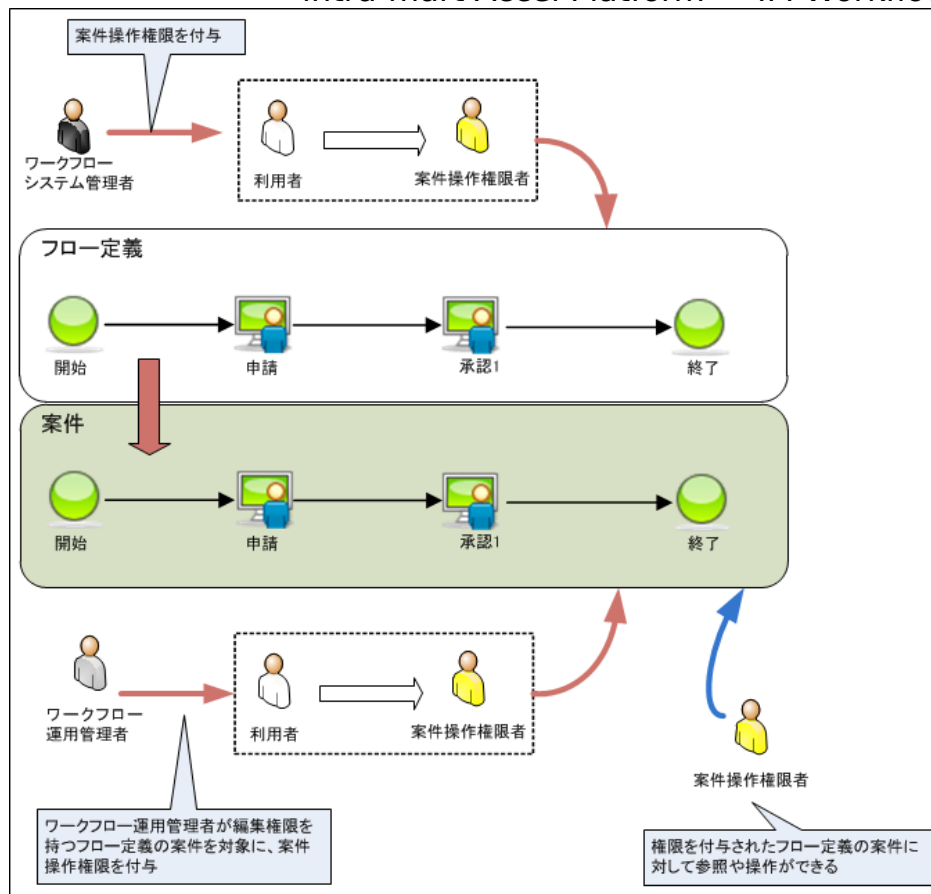
案件操作権限者はワークフローシステム管理者から案件操作・参照の権限を付与された利用者のことです。

権限付与はフロー定義単位で行われます。

したがって、案件操作権限者は権限を与えられたフロー定義の案件に対して案件操作ができます。

また、権限として案件操作で行える処理は複数あり、ワークフローシステム管理者は複数の処理権限を個別に付与できます。

案件操作権限者

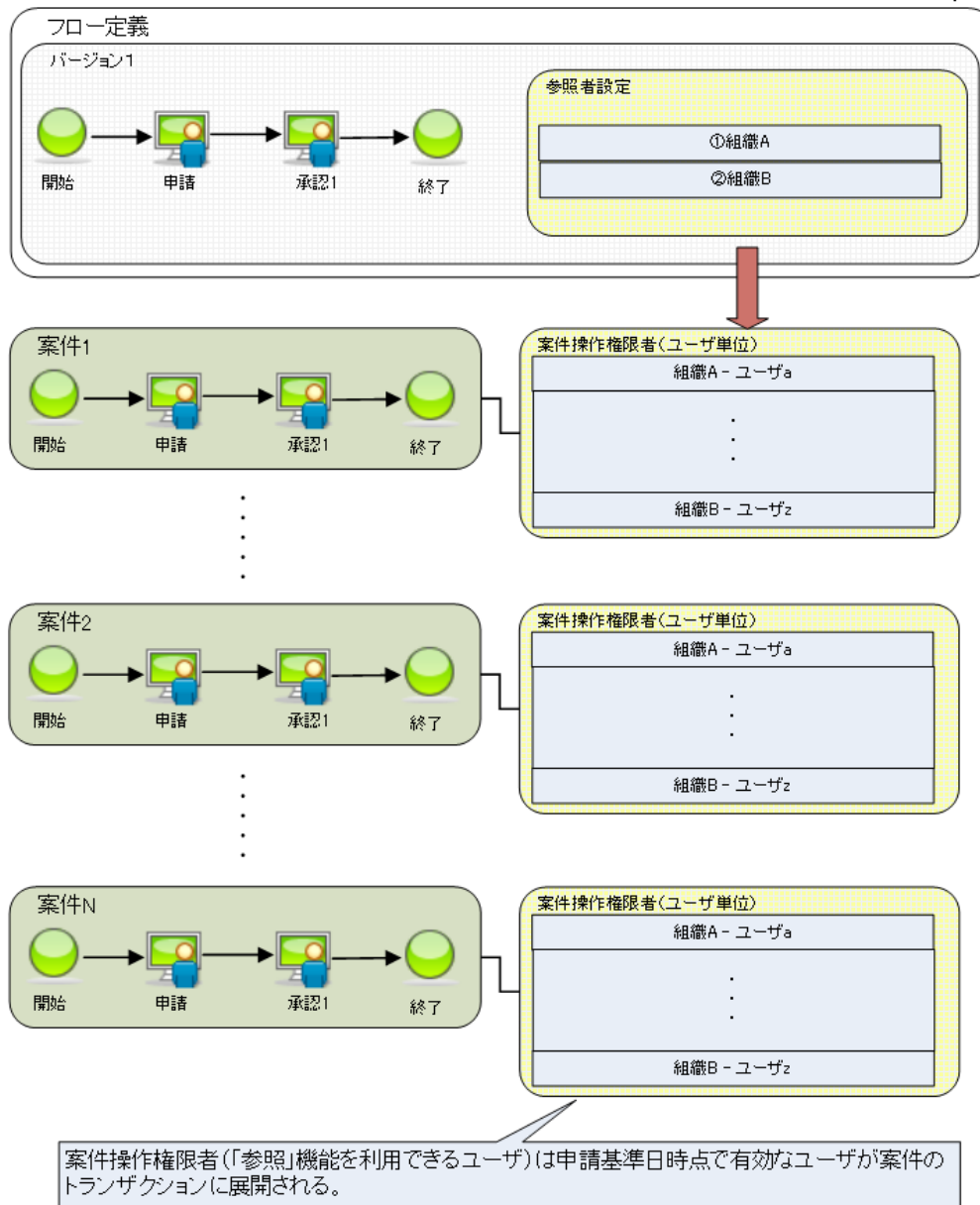


案件操作・参照の権限データ構造については下記を参照してください。

案件操作権限者のデータ構造

案件操作権限者は、フロー定義の「参照者」設定から、申請基準日時点で有効なユーザを案件のトランザクションに展開します。案件のトランザクションに展開されたユーザが案件操作権限者となり、案件に対して案件操作・参照権限を持ちます。

案件操作権限者のデータ構造



注意

サイジング

案件操作権限者のユーザ数は「案件数 × 案件のトランザクションに展開された案件操作権限者のユーザ数」です。

したがって、フロー定義に「参照者」を大量に設定した場合、または「参照者」が組織等でその配下に大量のユーザが存在する場合、案件操作権限者のユーザ数が膨大になる可能性があります。

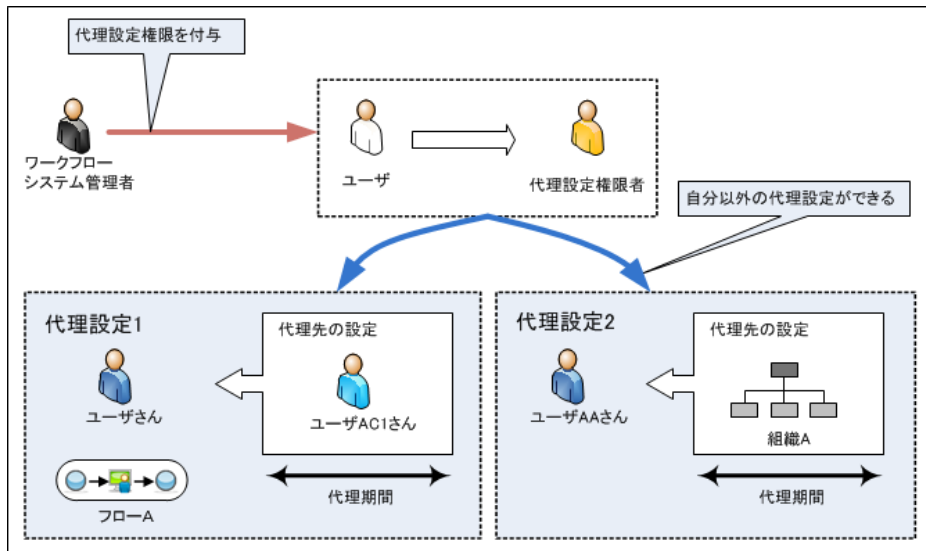
データ構造の特性を踏まえ、業務運用前に適切なサイジング設計をしてください。

代理設定権限者

代理設定権限者はワークフローシステム管理者から代理設定の権限を付与された利用者のことです。

代理元本人の代わりに、代理設定ができます。

代理設定権限者



各ユーザが利用できる機能

IM-Workflow の機能を利用するためには、ユーザに対するメニューの公開と下表の条件を満たす必要があります。

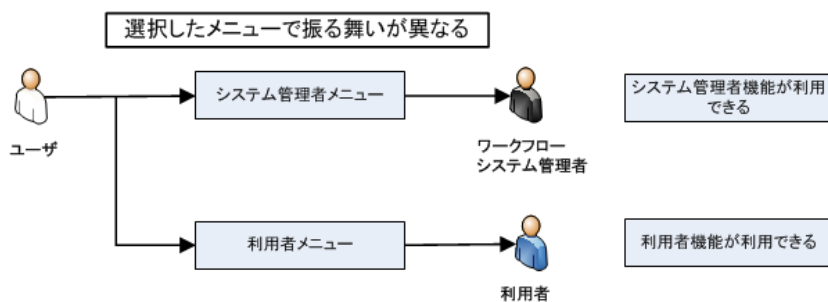
機能を利用するための条件

ユーザの種類	メニューの公開	条件
ワークフロー システム管理者	ワークフロー システム管理者メニュー	左記メニューの公開のみ
ワークフロー運用管理者	ワークフロー運用管理者メニュー	管理グループ（後述）に設定したアクセス権限をもつユーザであること
ワークフロー監査者	ワークフロー監査者メニュー	監査者ロールを付与されており、管理グループ（後述）に設定したアクセス権限をもつユーザであること
処理対象者	利用者メニュー	ノードの処理対象者であること
確認対象者		確認ノードの確認対象者であること
案件操作権限者		ワークフローシステム管理者が 案件操作を許可する目的でフロー定義に設定したユーザであること
代理設定権限者		ワークフローシステム管理者が代理設定権限を与えたユーザであること

尚、ワークフローは遷移元のメニューでユーザの種類を特定し、特定したユーザで利用できる機能を制御します。

仮に1 ユーザに対してワークフローシステム管理者メニューと利用者メニューの両方が公開されている状態で、ユーザが利用者メニューから遷移した場合は利用者として扱います。

ユーザの制御



ユーザの種類によって使用できる機能を下表に示します。

使用できる機能 < ✔ : 利用できる / ⚠ : 権限委譲された範囲で利用できる / ✖ : 利用できない >

機能	ワークフロー システム管理者	ワークフロー 運用管理者	ワークフロー 監査者	案件操作 権限者	代理設定 権限者	処理 対象者	確認 対象者
マスタメンテナンス機能							
コンテンツ定義	✔	⚠	✖	✖	✖	✖	✖
ルート定義	✔	⚠	✖	✖	✖	✖	✖

機能	ワークフロー システム管理者	ワークフロー 運用管理者	ワークフロー 監査者	案件操作 権限者	代理設定 権限者	処理 対象者	確認 対象者
フロー定義	✓	⚠	✗	✗	✗	✗	✗
参照（案件操作権限設定）	✓	⚠	✗	✗	✗	✗	✗
メール定義	✓	⚠	✗	✗	✗	✗	✗
IMBox定義	✓	⚠	✗	✗	✗	✗	✗
案件プロパティ定義	✓	✗	✗	✗	✗	✗	✗
フローグループ定義	✓	✗	✗	✗	✗	✗	✗
ルール定義	✓	✗	✗	✗	✗	✗	✗
権限設定機能							
管理グループ設定	✓	✗	✗	✗	✗	✗	✗
代理管理権限設定	✓	✗	✗	✗	✗	✗	✗
案件操作機能							
参照	✓	⚠	⚠	⚠	✗	✗	✗
システムメンテナンス機能							
モニタリング	✓	✗	✗	✗	✗	✗	✗
アラート	✓	✗	✗	✗	✗	✗	✗
利用者機能							
申請	✗	✗	✗	✗	✗	✓	✗
未処理	✗	✗	✗	✗	✗	✓	✗
処理済	✗	✗	✗	✗	✗	✓	✗
確認	✗	✗	✗	✗	✗	✗	✓
過去案件	✓	⚠	⚠	✗	✗	✓	✗
代理設定	✓	✗	✗	✗	⚠	✓	✗

ユーザの登録先

IM-Workflow の標準設定ではユーザ情報の登録先として IM-共通マスタ を使用します。

IM-Workflow を利用する場合は、有効なプロファイルとアカウントライセンスを持つユーザ情報が IM-共通マスタ 上に登録されている必要があります。

マスタ定義

ワークフローの処理内容、および処理順の定義するマスタについて解説します。

フロー定義

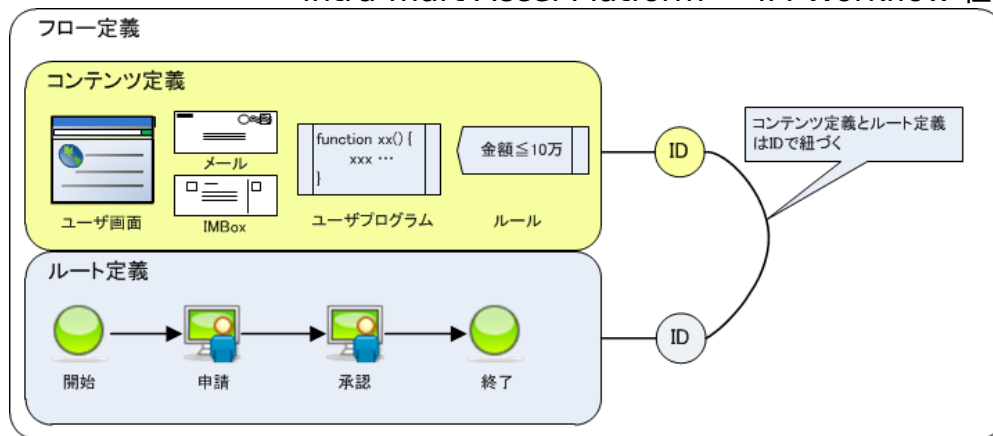
「フロー定義」とはワークフローの処理内容と処理順序を定義したマスタ情報のことです。

処理内容を「コンテンツ定義」、処理順序を「ルート定義」と呼びます。

フロー定義はコンテンツ定義をルート定義のどこで実行するかを決めます。

例として、ある組織内の物品購入をワークフローで実現する場合、処理内容は物品購入の申請画面などに該当し、処理順序は組織内の承認の順序に該当します。

フロー定義



フロー定義の要素

構成要素	説明
コンテンツ定義	処理内容に関する情報（ユーザ画面、ユーザプログラム、メール定義、IMBox定義、ルール定義）を保持します。
ルート定義	処理の1単位であるノードが複数連結されたもので、ワークフローを処理する順序と処理を行う利用者を保持します。

フローが主に持つ機能は以下の通りです。

- コンテンツ定義とルート定義の関連付けを行い、コンテンツ定義の処理内容（ユーザプログラムなど）をルート上のどのノードで実行するかを、処理内容やノードの属性を用いて自動で決定します。
- ユーザプログラムやユーザ画面をフロー定義や配下のノード単位に個別に手動設定でき、自動での関連付けより優先させることができます。
- フロー定義が持つ機能設定でフロー定義から開始した案件を制御できます。

フロー定義の機能設定

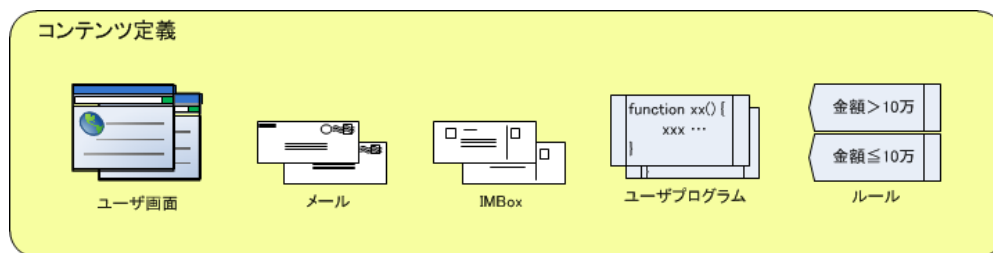
機能設定	説明
カレンダー	処理期限自動処理ジョブ、催促メール送信ジョブ、催促IMBox送信ジョブで営業日を計算する際に使用するカレンダーです。
添付ファイルの使用可否 [1]	有効にすると案件処理時にファイルを添付できます。
一括処理機能の使用可否	有効にすると案件の一括処理ができます。
一括確認機能の使用可否	有効にすると案件の一括確認ができます。
完了済み案件の確認	有効にすると完了案件の確認ができます。
自動処理	有効にすると処理期限自動処理の対象に設定できます。
処理期限 (日)	処理期限自動処理の期限日数です。
期限経過後の処理	処理期限を経過した場合に実行する処理です。
承認	処理期限を経過した場合に承認して次に進みます。
否認	処理期限を経過した場合に否認して案件を完了します。
自動催促	有効にすると自動催促の対象に設定できます。
催促期限 (日)	自動催促の期限日数です。
非同期処理	有効にすると標準処理画面の処理が非同期で行われます。
案件操作権限者	利用者に案件操作の権限を付与する設定です。
標準組織	指定した組織配下で案件を処理する設定です。
対象者を展開する日	対象者を展開する基準日を設定します。

[1] 添付ファイルの最大サイズは、「リクエストクエリの長さ制限」に基づいて設定されます。

設定方法については、「[設定ファイルリファレンス](#)」の「[Webモジュール-リクエスト制御設定](#)」を参照してください。

「コンテンツ定義」とは処理内容に関する情報を保持するマスタ情報のことです。

コンテンツ定義



コンテンツ定義に設定できる処理内容は以下の5種類です。

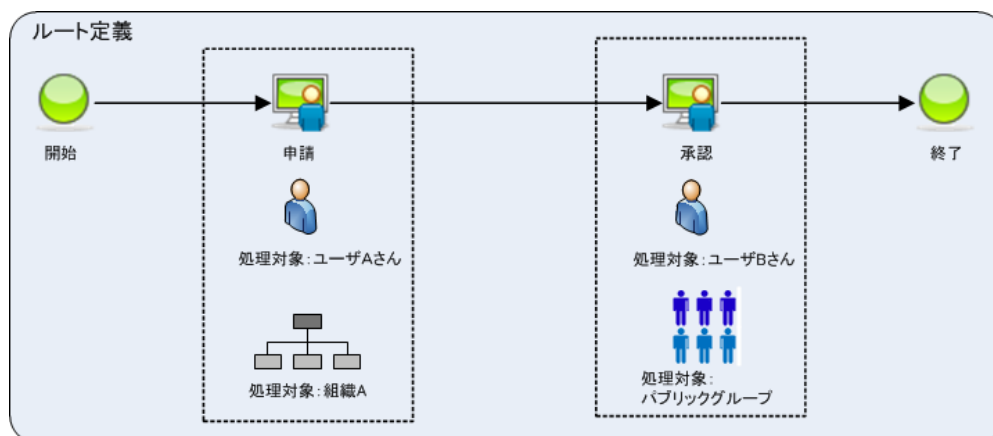
- ユーザ画面
ワークフロー上に構築するユーザアプリケーションの業務画面です。
詳細は「[3.4 ユーザ画面](#)」を参照してください。
- ユーザプログラム
ワークフローの処理時に実行するユーザアプリケーションプログラムです。
詳細は「[3.5 ユーザプログラム](#)」を参照してください。
- メール定義
ワークフローの処理時に送るメールの設定です。
詳細は「[3.6 通知](#)」を参照してください。
- IMBox 定義
ワークフローの処理時に送る IMBox の設定です。
詳細は「[3.6 通知](#)」を参照してください。
- ルール定義
分岐／結合処理で使用するルールの設定です。
詳細は「[3.7 ルール](#)」を参照してください。

ルート定義

「ルート定義」とは処理の順序と処理を行う利用者を保持するマスタ情報のことです。

- ルート上の1つの処理を表すノードの情報を持ちます。
- ルート定義は「開始ノード」-「申請ノード」-「終了ノード」を必ず1つずつ持ちます。
- 案件処理の候補者である「処理対象」の情報をノード毎に持ちます。

ルート定義



ルートテンプレート定義については下記を参照してください。

ルートテンプレート定義

「ルートテンプレート定義」とはルートの1部分を部品として定義したマスタ情報のことです。

あらかじめ作成した「ルートテンプレート定義」を組み込みたい「ルート定義」上の「テンプレート置換ノード」に設定することで、共通のルートを部品化して再利用できます。

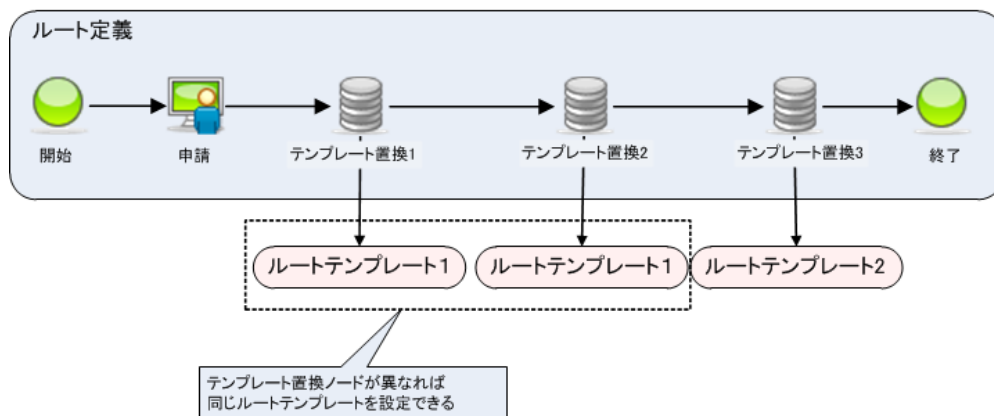
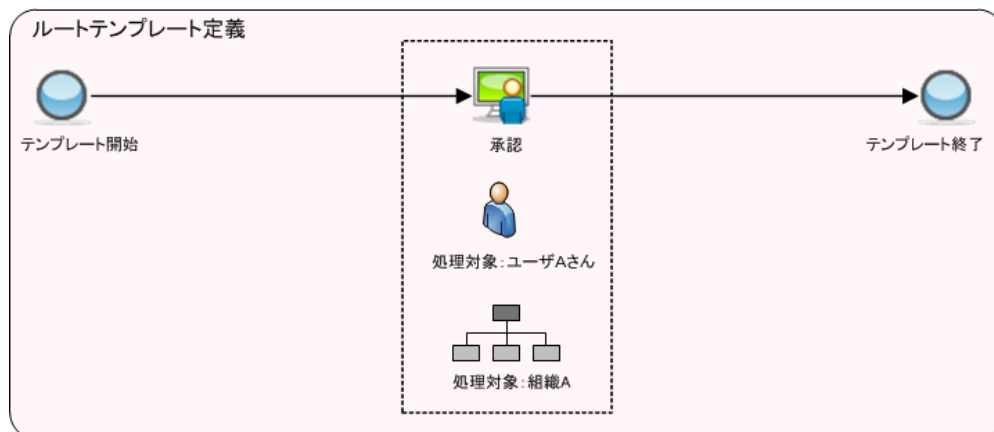
- ルートテンプレート定義は「テンプレート開始ノード」-「ノード（[\[1\]](#)）」-「テンプレート終了ノード」を必ず1つずつ持ちます。

[\[1\]](#) 承認ノード、動的承認ノード、システムノード、同期開始ノード、分岐開始ノード、横配置ノード、縦配置ノードの何れか1つを必ず設定します。

- 案件処理の候補者である「処理対象」の情報をノード毎に持ちます。

- ワークフローは案件を開始するタイミングでルートテンプレート定義を実際のルートに展開します。
- ルート定義はテンプレート置換ノードの設定値としてルートテンプレート定義を持ちます。

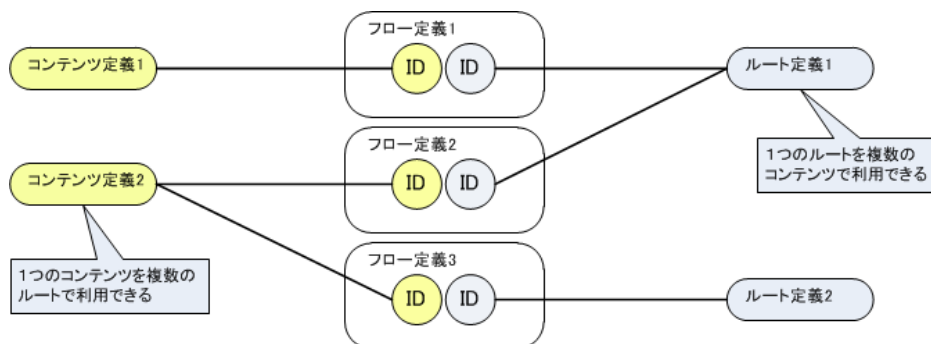
ルートテンプレート定義



フロー定義とコンテンツ定義、ルート定義の関係

フロー定義は、コンテンツ定義とルート定義をIDで結びつける構造です。
 処理内容の変更や処理順の変更による影響を互いに最小限に収めることができます。
 また、1つのコンテンツ定義を複数のルート定義で、1つのルート定義を複数のコンテンツ定義で利用できます。

フロー定義



詳細については下記を参照してください。

バージョン

「バージョン」とはコンテンツ定義、ルート定義、フロー定義がそれぞれ持つ期間情報のことです。
 IM-Workflow では申請時に指定する基準日からコンテンツ定義、ルート定義、フロー定義の期間情報を検索して申請に使用できるフロー定義を特定します。

- バージョン期間情報はコンテンツ定義、ルート定義、フロー定義の属性としてそれぞれ複数持つことができます。
 また、ルートテンプレート定義にはバージョンがありません。
- バージョン間での期間の重複、および空白期間は許可しません。
- 各バージョンは 有効 / ユーザ無効 / システム無効 の属性を持ちます。
 - ユーザ有効: ワークフローの処理に使用できるバージョンにするための属性です。
 ユーザが明示的に設定できます。
 - ユーザ無効: 一時的に当該バージョンを無効にしたい場合など、

ワークフローの処理に使用できないバージョンにするための属性です。

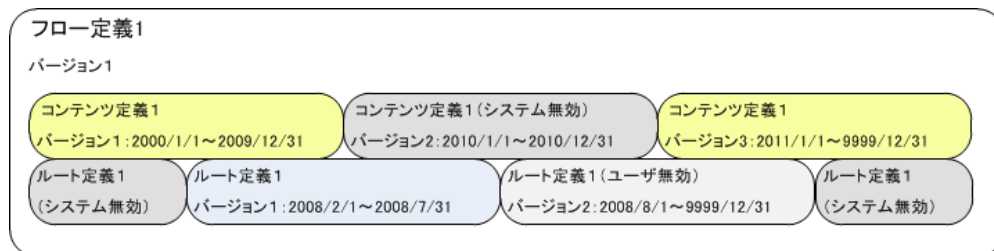
ユーザが明示的に設定できます。

- システム無効：バージョン間で期間の空白が存在する場合に、ワークフロー側が空白を埋める際に使用する属性です。

画面では非表示で、ユーザは明示的に設定できません。

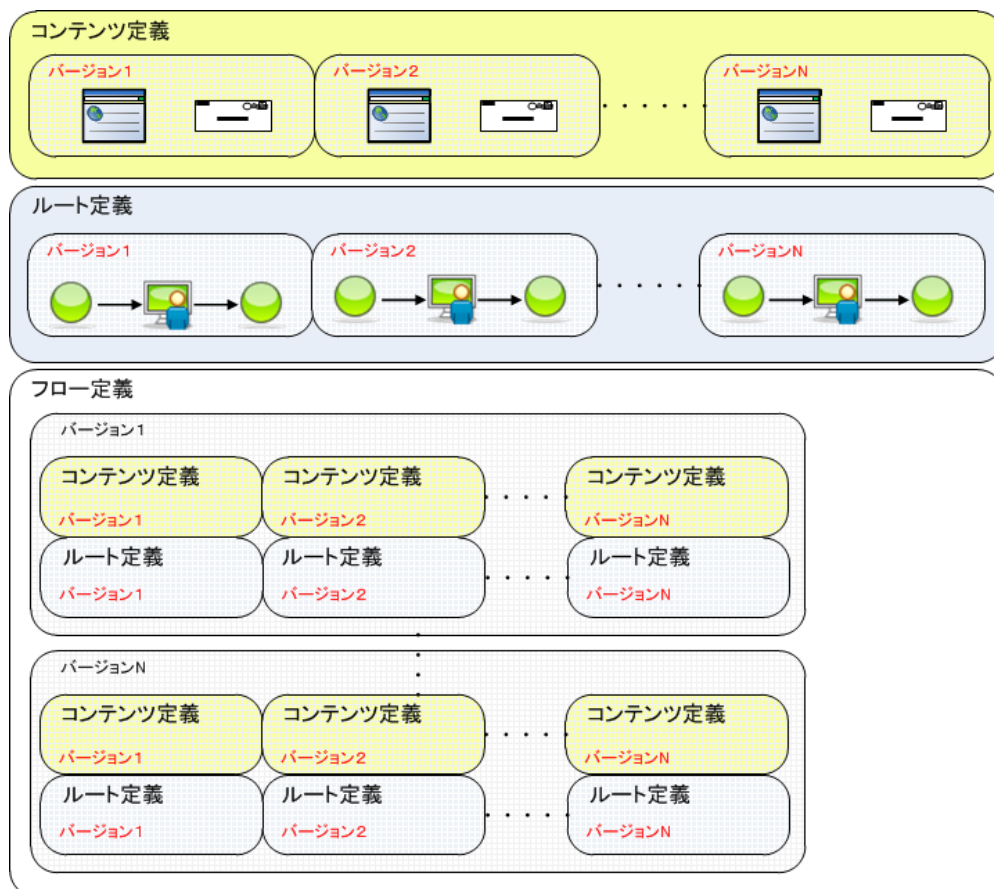
- バージョンはテナント単位設定「バージョンの設定」の範囲内で期間の登録ができます。

バージョン



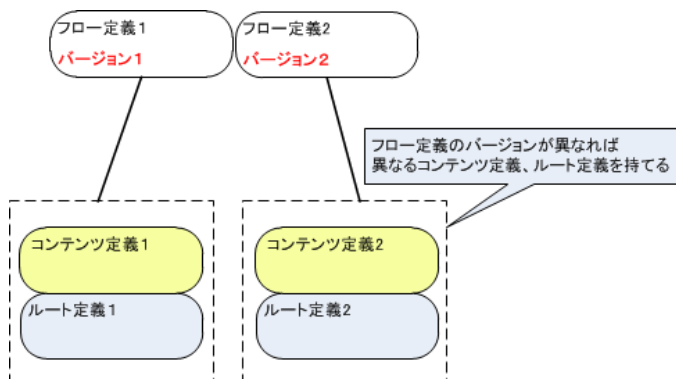
- コンテンツ定義の処理内容やルート定義の処理順序はバージョン毎に保持します。
- フロー定義はコンテンツ定義やルート定義をバージョン毎に保持します。

バージョン毎に保持する



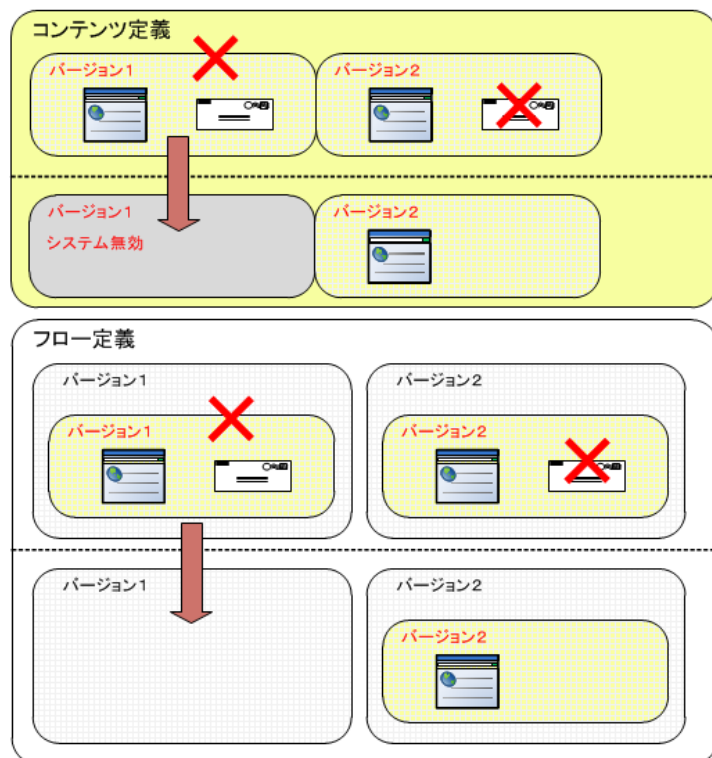
- フロー定義のバージョンが異なれば、フロー定義は異なるコンテンツ定義、ルート定義を保持できます。

フロー定義のバージョンが異なる場合



- コンテンツ定義、ルート定義、ルートテンプレート定義はフロー定義に設定した状態で編集ができますが、削除はできません。
- コンテンツバージョン、ルートバージョンはフローバージョン、コンテンツ定義の処理内容やルート定義上の処理順序をフロー定義に設定した状態で編集、削除ができます。

コンテンツ定義の処理内容、ルート定義の処理内容は編集、削除できる



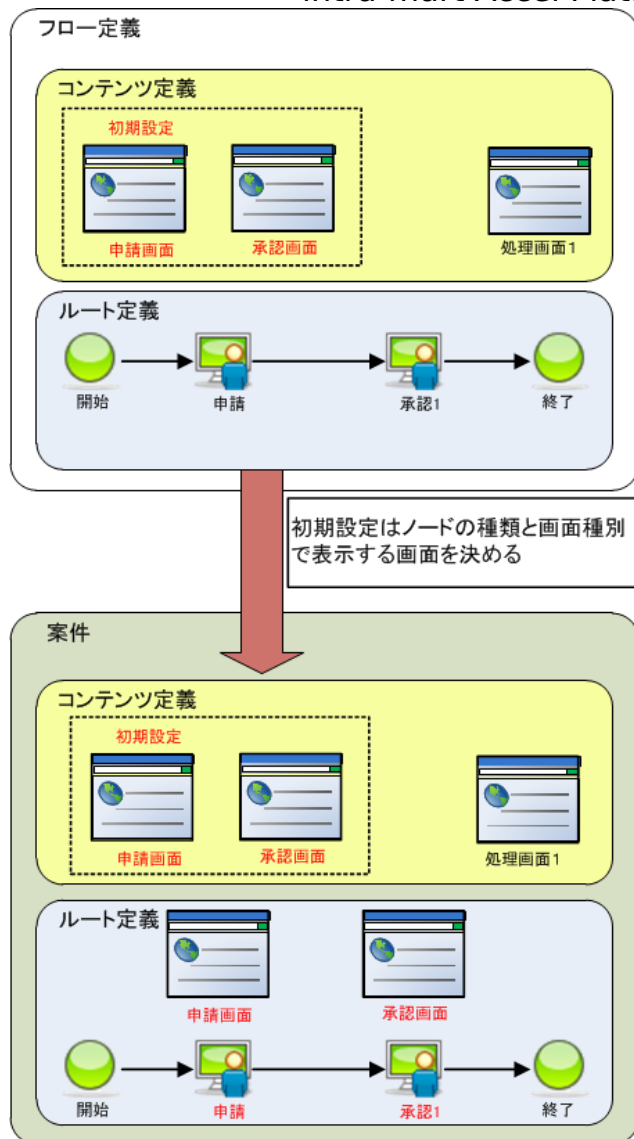
フローの初期設定と個別設定

フロー定義に対してコンテンツ定義とルート定義を設定しただけの状態を「初期設定」と呼びます。

- フロー定義を作成して初期設定を行えばワークフローの処理に使用できます。（ただし、後述する動的承認ノード、横配置ノード、縦配置ノードの設定は除く）
- ワークフローは初期設定においてルート定義上のノードに対してコンテンツの処理内容のうちどれを使用するかを、処理内容の種類を元に決定します。

申請ノードの処理を例にすると、ワークフローは画面種別「申請画面」の画面を申請ノードの処理時に表示する画面として扱います。

フロー定義の初期設定例

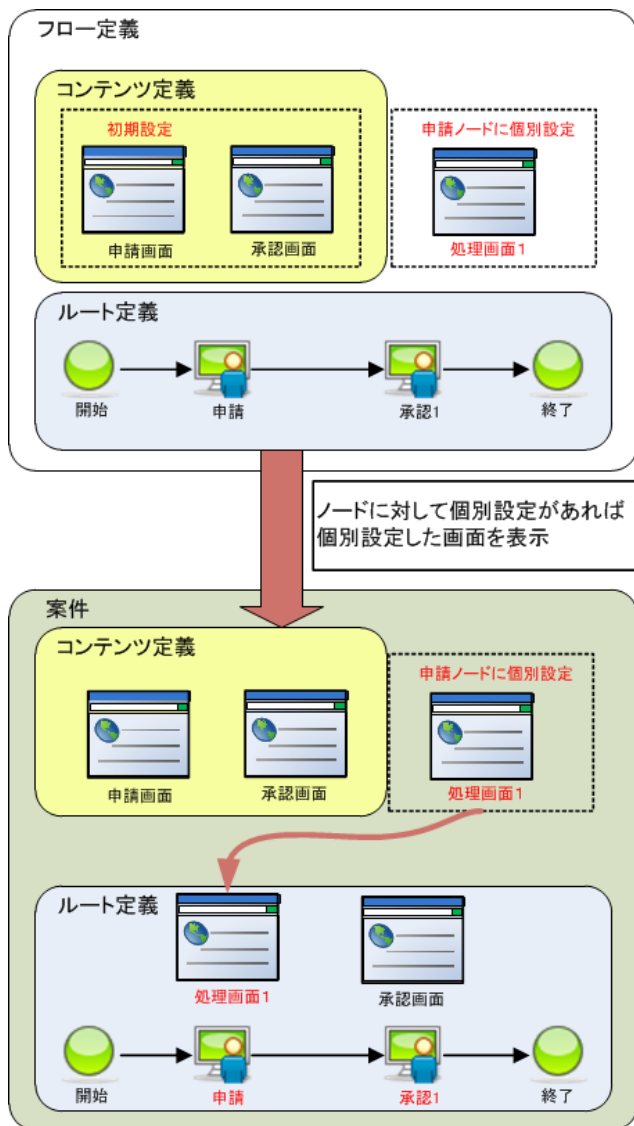


また、一部のノードのみユーザ画面やユーザプログラムを変えたい場合を想定し、コンテンツ定義上に別途定義したユーザ画面やユーザプログラムをルート定義上のノードに「個別設定」することもできます。

この場合、ワークフローは初期設定より個別設定を優先して処理します。

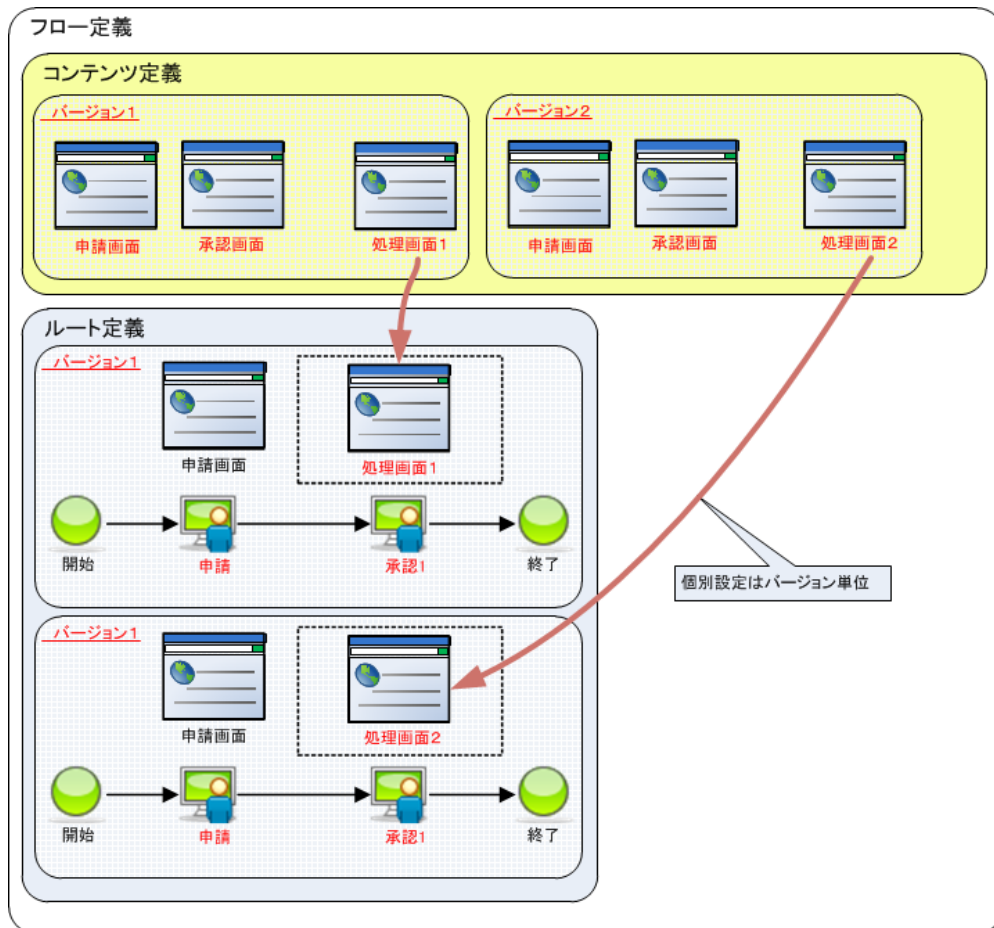
フロー定義の個別設定例

- フロー定義に個別設定がある場合、ワークフローは個別設定を優先して処理します。



個別設定はバージョン単位

- フロー定義の個別設定はコンテンツバージョン、ルートバージョン単位に設定します。



機能設定のうちノードに個別設定できるもの

- ノードが持つ機能設定を変更することでフロー定義から開始した案件をノード単位で制御できます。
また、ノード単位の機能設定はフロー単位の機能設定より優先します。

機能設定	説明
ファイルの添付 [1]	追加禁止 有効にするとノードで添付ファイルの追加ができません。
	削除禁止 有効にするとノードで添付ファイルの削除ができません。
一括処理機能の使用可否	有効にするとノードで案件の一括処理ができます。
自動処理	有効にすると該当のノードを処理期限自動処理の対象に設定できます。
	処理期限（日） 処理期限自動処理の期限日数です。
	期限経過後の処理 処理期限を経過した場合に実行する処理です。
	承認 処理期限を経過した場合に承認して次に進みます。
	否認 処理期限を経過した場合に否認して案件を完了します。
	指定ノードへ差戻し 処理期限を経過した場合に指定したノードに差戻します。
自動催促	有効にすると該当のノードを自動催促の対象に設定できます。
	催促期限（日） 自動催促の期限日数です。

[1] 添付ファイルの最大サイズは、「リクエストクエリの長さ制限」に基づいて設定されます。

設定方法については、「設定ファイルリファレンス」の「Webモジュール-リクエスト制御設定」を参照してください。

ノード別の機能設定＜✓：設定できる＞

- ノード上で許可する処理の設定や、ノード上で行う処理の名前の設定ができます。

機能設定	ノード					確認
	申請	承認	動的承認	横配置	縦配置	
ファイルの添付	✓	✓	✓	✓	✓	
一括処理機能の使用可否		✓	✓	✓	✓	

機能設定	ノード					
	申請	承認	動的承認	横配置	縦配置	確認
自動処理		✓	✓	✓	✓	
自動催促	✓	✓	✓	✓	✓	

ノード別の処理許可設定< ✓ : 処理許可の可否設定ができる / ⚠ : 常に処理許可に設定されているため、可否設定ができない>

- ノード上で許可する処理の設定や、ノード上で行う処理の名前の設定ができます。

処理	ノード					
	申請	承認	動的承認	横配置	縦配置	確認
起票	⚠					
申請	⚠					
再申請	✓					
取止め	✓					
承認		✓	✓	✓	✓	
承認終了		✓	✓	✓	✓	
否認		✓	✓	✓	✓	
保留		✓	✓	✓	✓	
保留解除		✓	✓	✓	✓	
差戻し		✓	✓	✓	✓	
引戻し	✓	✓	✓	✓	✓	
確認						⚠
振替		✓	✓	✓	✓	

ノード別の処理名設定< ✓ : 処理名の設定ができる / ⚠ : 常に初期値の値で設定の変更ができない>

処理名（初期値）	ノード					
	申請	承認	動的承認	横配置	縦配置	確認
起票	✓					
申請	✓					
再申請	✓					
取止め	✓					
承認		✓	✓	✓	✓	
承認終了		✓	✓	✓	✓	
否認		✓	✓	✓	✓	
保留		✓	✓	✓	✓	
保留解除		✓	✓	✓	✓	
差戻し		✓	✓	✓	✓	
引戻し		⚠	⚠	⚠	⚠	
確認						✓
振替		⚠	⚠	⚠	⚠	

ノード

「ノード」とはルート上の1つの処理を表す情報です。

- ルート定義上に配置することにより、処理の順番を表すことができます。
- ルート定義上で処理対象者を持ちます。

以下、各ノードについて説明します。

- ルートの開始を示すノード



開始ノード

ルートの開始を意味するノードです。

- ルートの終了を示すノード



終了ノード

ルートの終了を意味するノードです。

- 利用者による処理を表すノード



申請ノード

ノードの処理対象者が案件の申請を行うことを示します。



承認ノード

ノードの処理対象者が案件の承認を行うことを示します。



動的承認ノード

ノードの処理対象者が案件の承認を行うことを示します。
前ノードによって、このノードに対する編集が可能であることを示します。
前ノードは以下の編集ができます。

- 処理対象者の変更
- ノードの削除と復活
- 別プログラムの処理を表すノード



システムノード

IM-Workflow 外の別のプログラムで案件の処理を行うことを示します。
このノードに処理が進んだ場合、以後、ワークフローとしてこの案件の処理は行いません。
Webサービスなどの外部プログラムと連携する際に使用します。

- 利用者による確認処理を表すノード



確認ノード

確認対象者が案件の確認を行うことを示します。
接続したノードが処理済みとなった時点で、確認対象者が案件の確認ができることを示します。
確認対象者は何回でも確認を行うことができます。
また、確認行為は必須ではありません。

- 同期を表すノード



同期開始ノード

同期の開始を表すノード

このノードに処理が進んだ後は、後方にある複数のノードすべてに同時に処理が進むことを示します。



同期終了ノード

同期の終了を示すノード。

前方にある複数の処理がすべて終了した時点で処理を次のノードに進めることを示します。

- 分岐を表すノード



分岐開始ノード

分岐の開始を表すノード



分岐終了ノード

分岐の終了を表すノード

- 案件処理時に利用者が別のノードを配置するノード



横配置ノード

前ノードによって、このノードに対する編集が可能であることを示します。

前ノードは以下の編集ができます。

- 処理対象者の変更
- 連続する複数の承認ノードへ置き換え



縦配置ノード

前ノードによって、このノードに対する編集が可能であることを示します。

前ノードは以下の編集ができます。

- 処理対象者の変更
- 同期開始ノードと同期終了ノードに囲まれた複数の承認ノードに置き換え
- 案件処理時にルートテンプレートの内容が展開されるノード



テンプレート置換ノード

案件開始時に、このノードで指定したルートテンプレート定義の内容が展開されることを示します。

- ルートテンプレート内でのみ使用可能なノード



テンプレート開始ノード

ルートテンプレート定義の開始を示すノード



テンプレート終了ノード

ルートテンプレート定義の終了を示すノード

- ルートの表示を補足するノード



コメント

コメントを表すノード

このノード自体は案件の処理に影響を与えません。

（ルートを表示する際にコメントを挿入するために存在します）

実際には吹き出しで表現されます。



スイムレーン

スイムレーン（プール）を表すノード

このノード自体は他のノードと接続せず、案件の処理に影響を与えません。

各ノードの詳細については下記を参照してください。

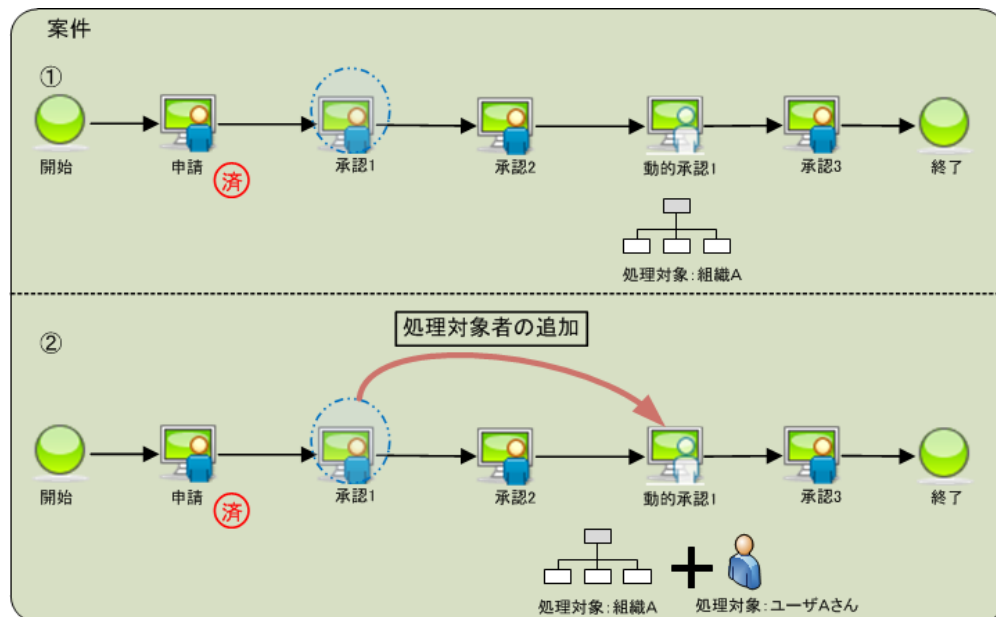
動的承認ノードの補足

- 動的ノードの編集（削除、復活）、処理対象者の設定を行うノードを設定する必要があります。

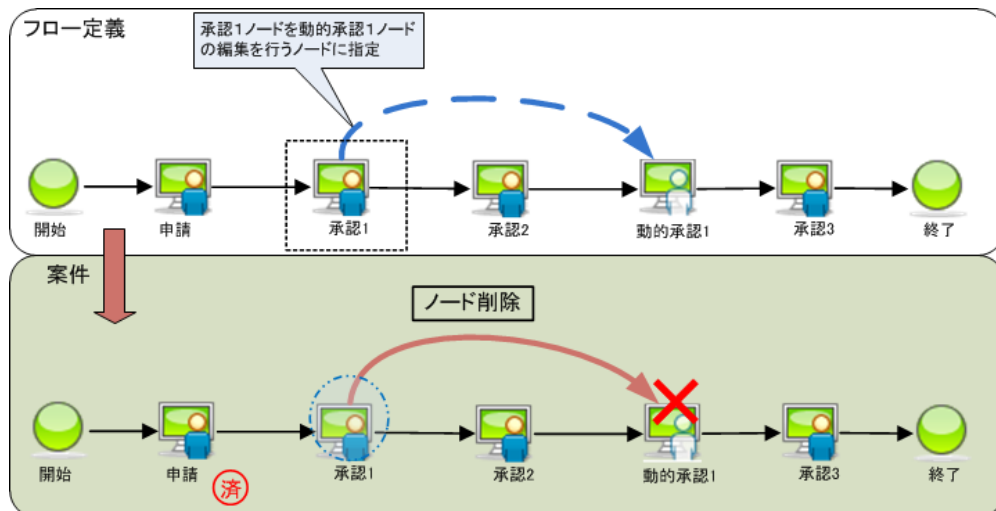
設定はフロー定義の個別設定で行います。

また、設定しない状態で動的承認ノードに処理が進んだ場合、動的承認ノードで処理が止まります。

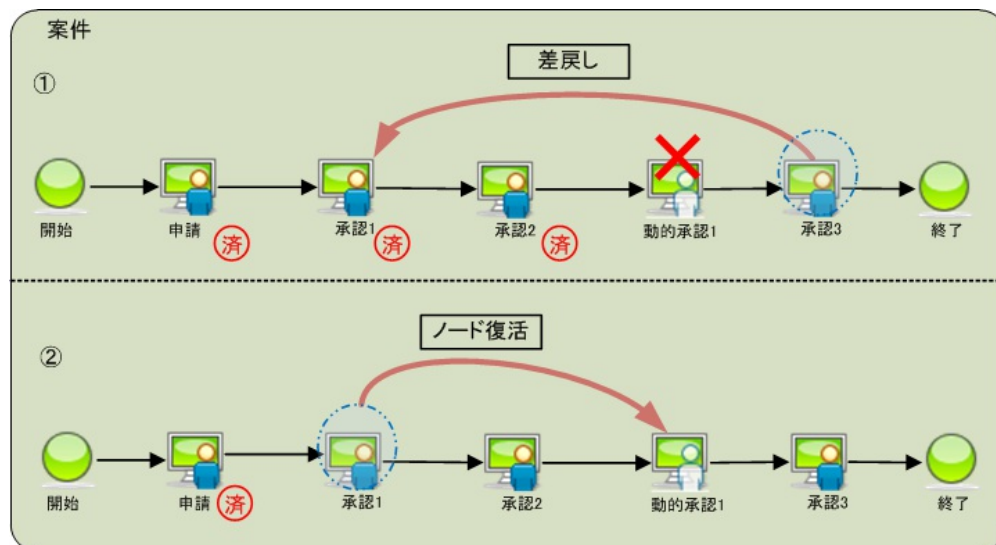
動的承認ノード1（処理対象の追加）



動的承認ノード2（ノード削除）

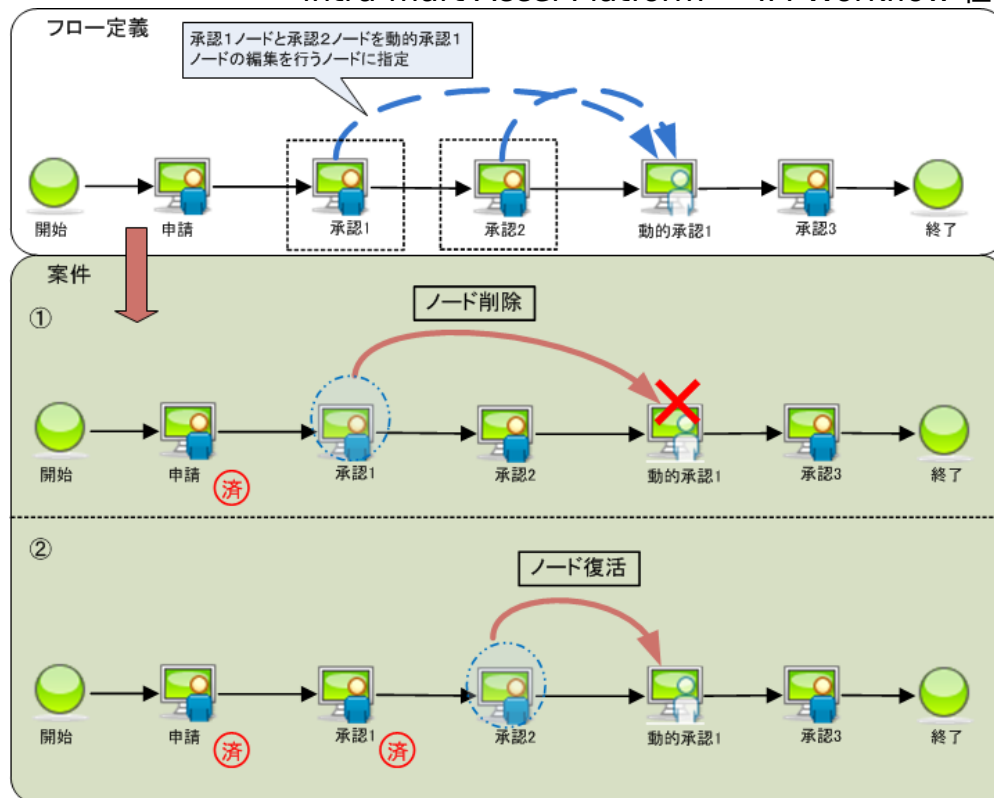


動的承認ノード3（ノード復活）



- 動的承認ノードを編集するノードが複数存在する場合、ある前ノードが編集したものを、次の前ノードが再編集できます。

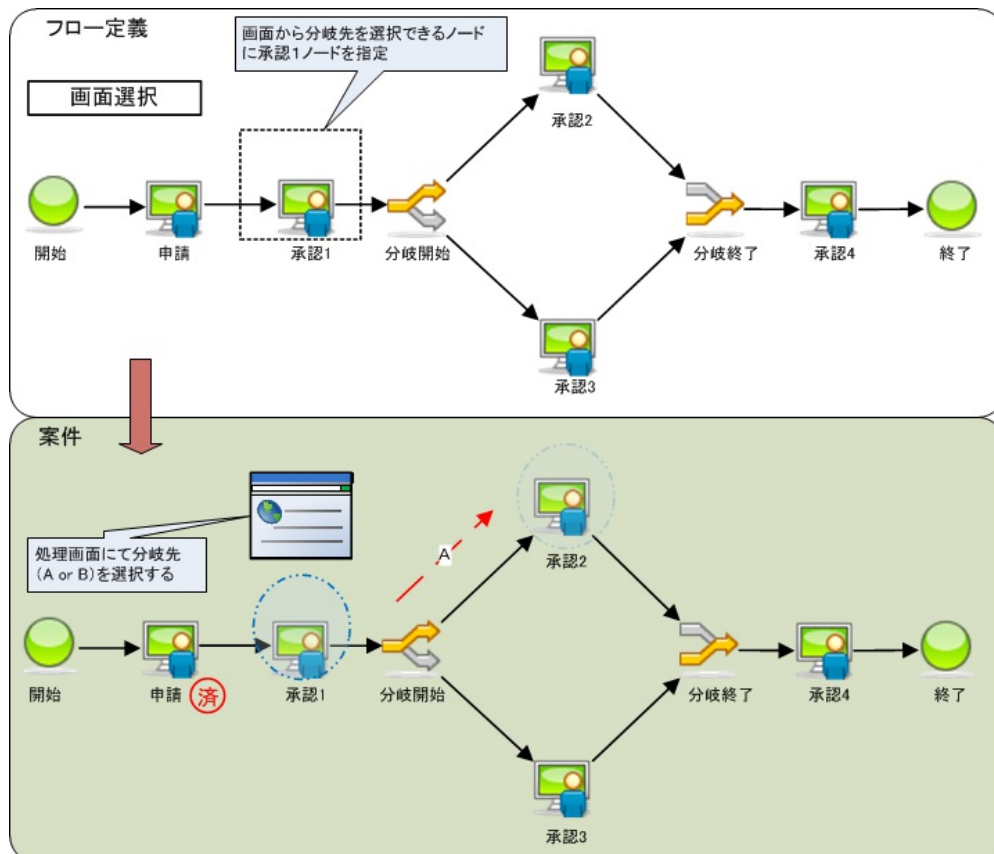
動的承認ノード4



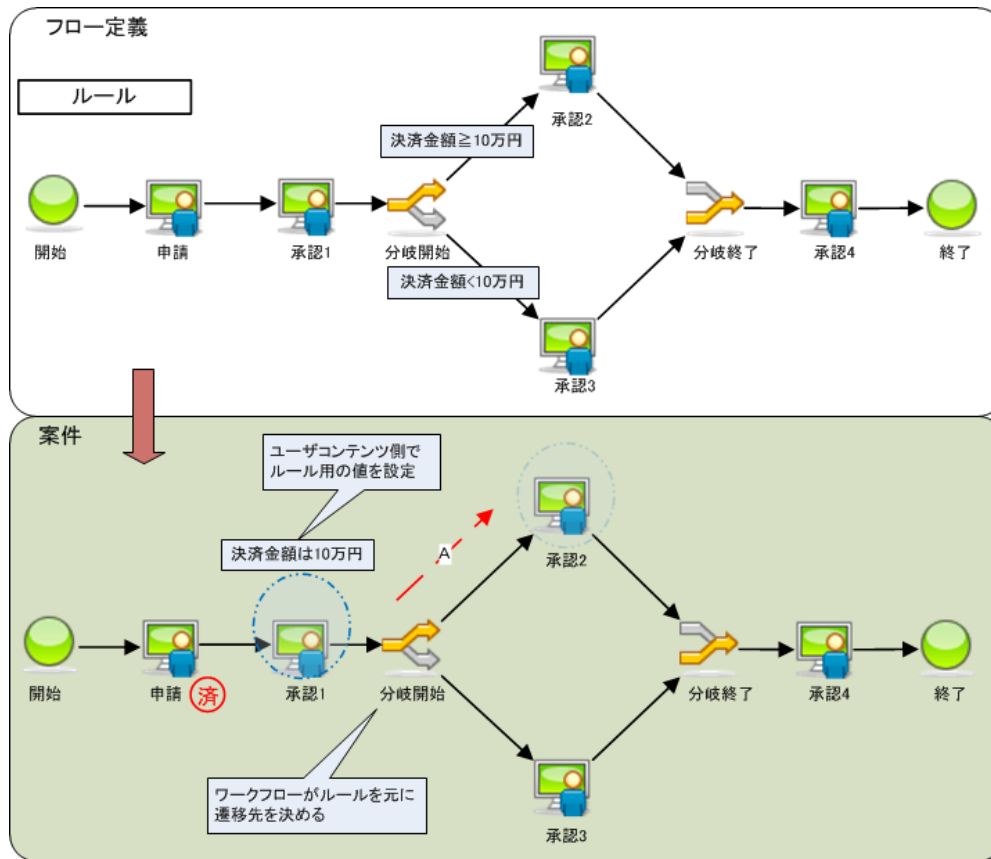
分岐開始ノードの補足

- 分岐開始方法の判定結果で後方にある複数のノードのどれに処理を進めるかを決定します。判定結果によっては複数の処理ノードに同時に進めることもあります。
- 分岐開始方法はフロー定義で個別設定できます。
 - 画面による分岐先の選択
 - ルール判定による分岐先の選択
 - 分岐処理プログラムによる分岐先の選択
- 分岐開始方法を指定しない場合は、分岐内の全てのノードに処理を進めます。

分岐開始ノード1（画面による分岐先の選択）



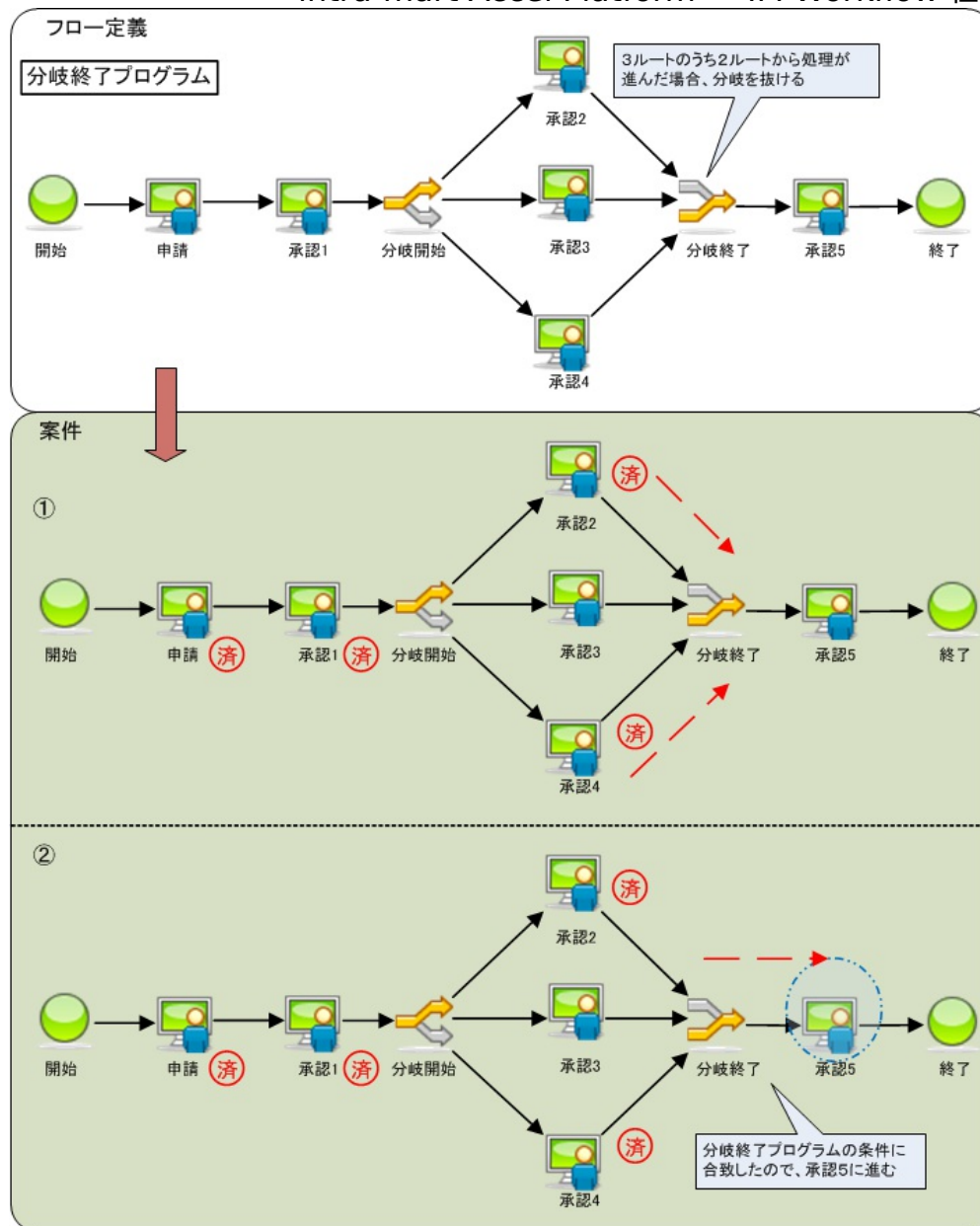
分岐開始ノード2（ルール判定による分岐先の選択）



分岐終了ノードの補足

- 分岐終了方法の判定結果で後方にあるノードに処理を進めるかを決定します。
- 分岐終了方法はフロー定義で個別設定できます。
 - ルールによる判定
 - 結合処理プログラムによる判定
- 分岐終了方法を指定しない場合は、分岐内で到達している全ノードが処理済になると、分岐の外に処理が進みます。

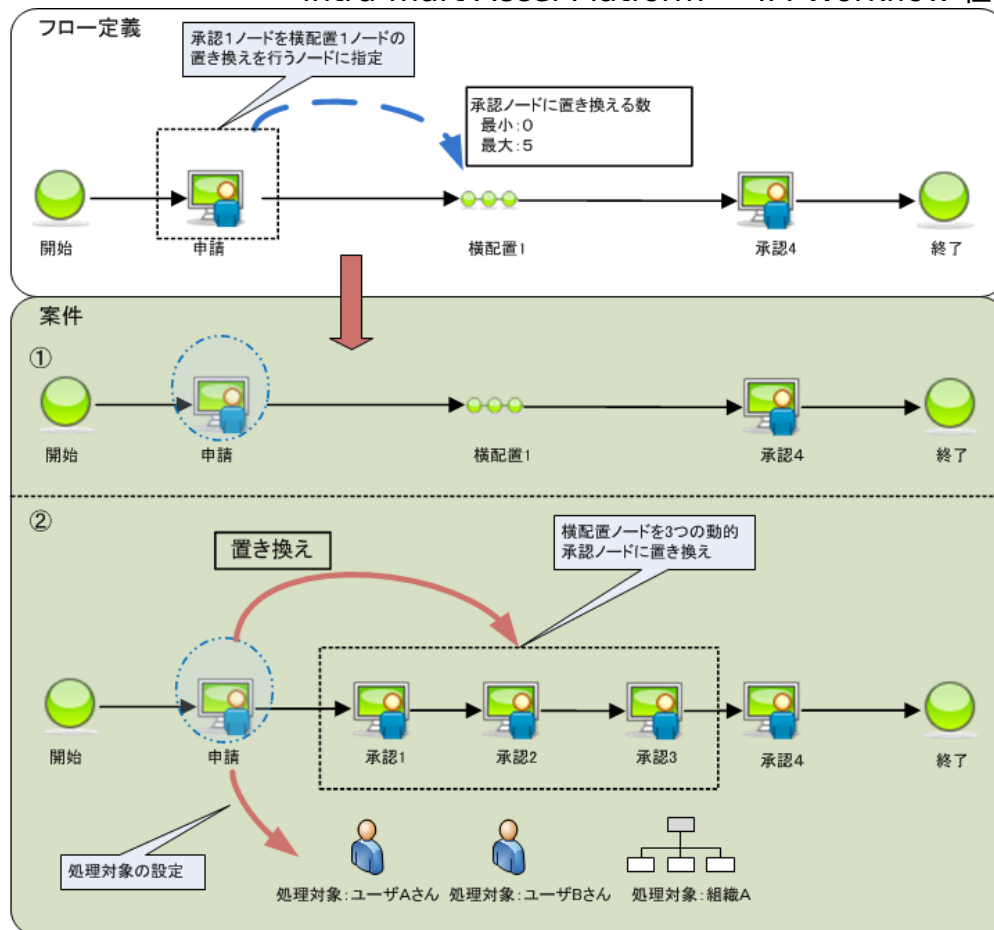
分岐終了ノード



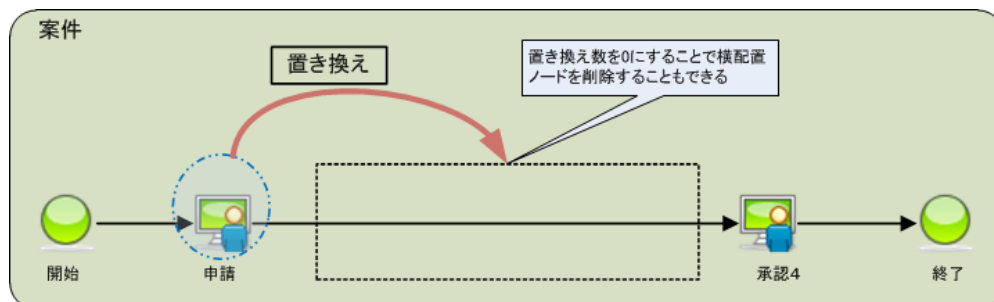
横配置ノードの補足

- 横配置ノードを編集するノード、および承認ノードに置き換えるノード数の範囲はフロー定義で個別設定できます。
- 横配置ノードを編集するノードが無い場合、ノードの置き換えができず、ワークフローの処理でエラーが発生します。
 - 発生する条件
フロー定義で横配置ノードの展開設定ができるノードを指定していない場合です。
 - エラー内容
[ERROR] j.c.i.s.w.e.WorkflowExceptionHandler - [0] 横配置ノード、縦配置ノード、テンプレートノードは開始処理できません。
- 承認ノードへの置き換え数はフロー定義で設定した範囲で指定できます。
また、置き換え数に0を指定してノード配置を行わないこともできます。
- 横配置ノードを編集するノードが複数存在する場合、ある前ノードが編集したものを、次の前ノードが再編集できます。

横配置ノード1



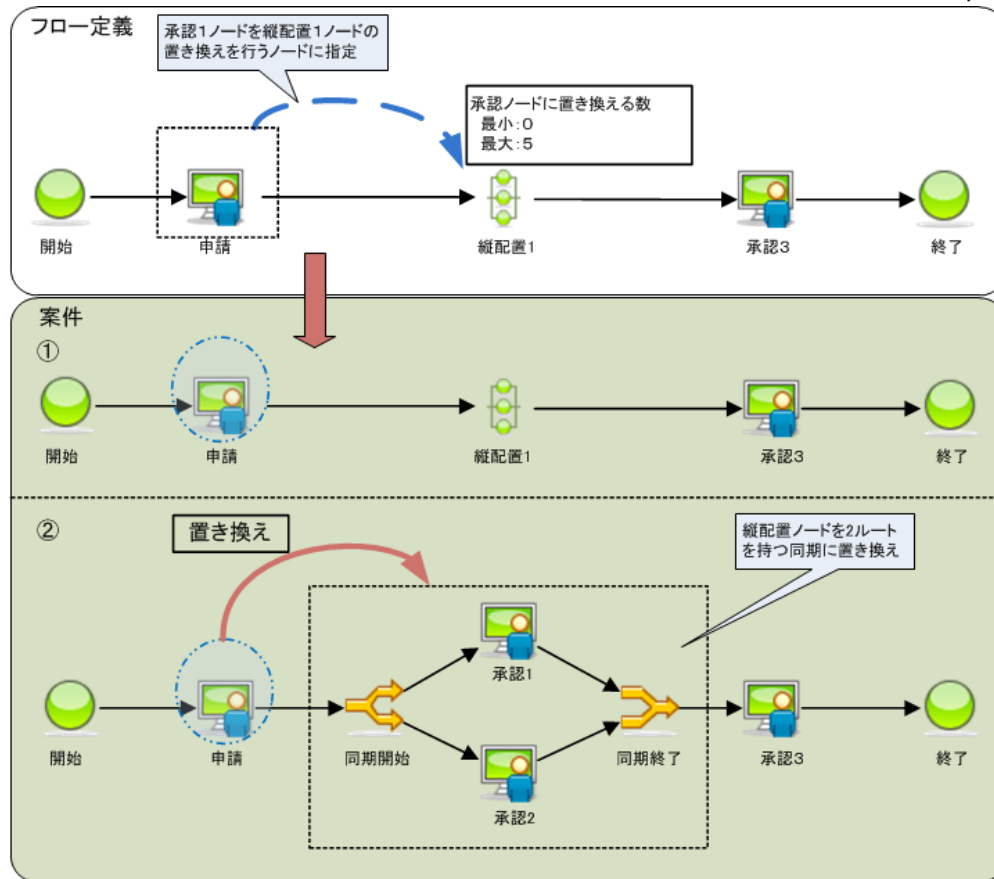
横配置ノード2



縦配置ノードの補足

- 縦配置ノードを編集するノード、および承認ノードに置き換えるノード数の範囲はフロー定義で個別設定できます。
- 縦配置ノードを編集するノードが無い場合、ノードの置き換えができず、ワークフローの処理でエラーが発生します。
 - 発生する条件
フロー定義で縦配置ノードの展開設定ができるノードを指定していない場合です。
 - エラー内容
[ERROR] j.c.i.s.w.e.WorkflowExceptionDispatcher - [0] 横配置ノード、縦配置ノード、テンプレートノードは開始処理ができません。
- 承認ノードへの置き換え数はフロー定義で設定した範囲で指定できます。
また、置き換え数に0を指定してノード配置を行わないこともできます。
- 縦配置ノードを編集するノードが複数存在する場合、ある前ノードが編集したものを、次の前ノードが再編集できます。

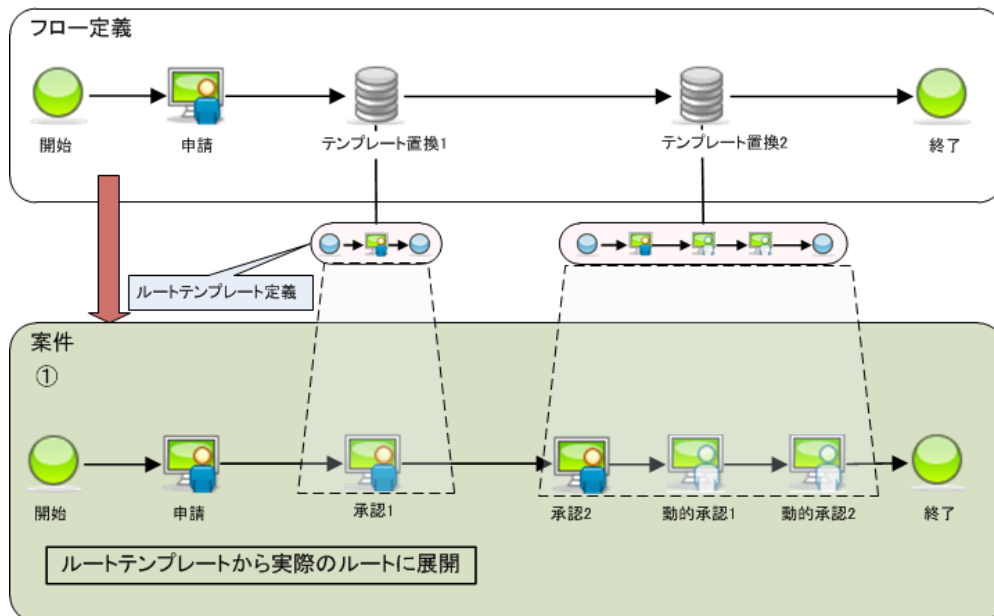
縦配置ノード



テンプレート置換ノードの補足

- 案件が開始されたタイミングでテンプレート置換ノードに設定したルートテンプレート定義をルートに展開します。

テンプレート置換ノード

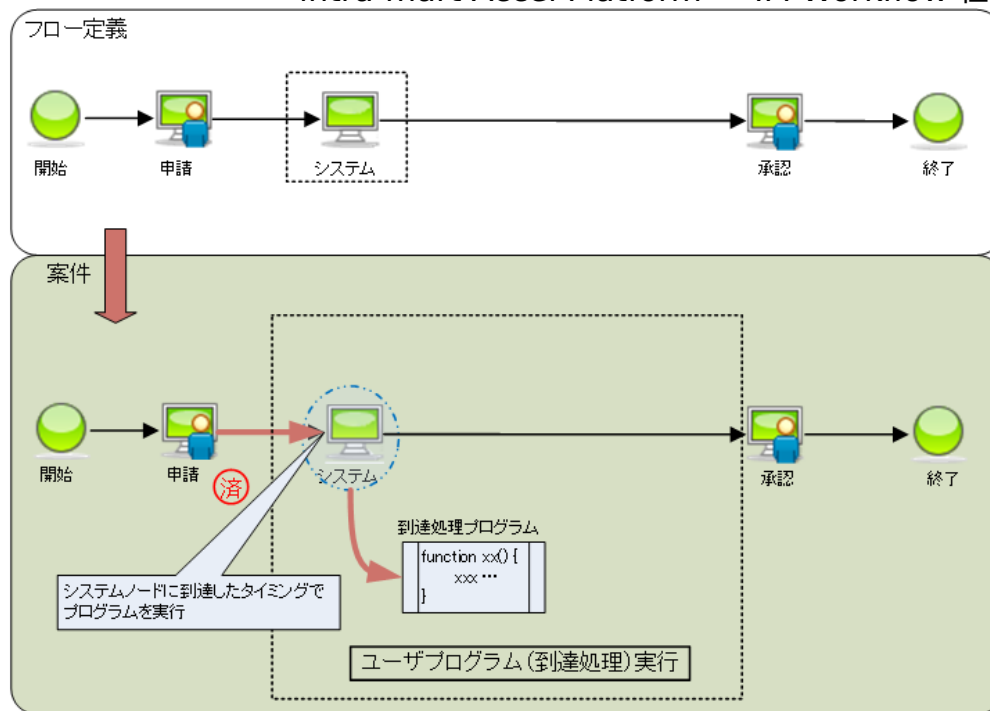


- ルートテンプレート定義の前からルートテンプレート定義内の動的承認ノード、横配置ノード、縦配置ノードに対する編集、およびルートテンプレート定義内からルートテンプレート定義後の動的承認ノード、横配置ノード、縦配置ノードの編集ができます。

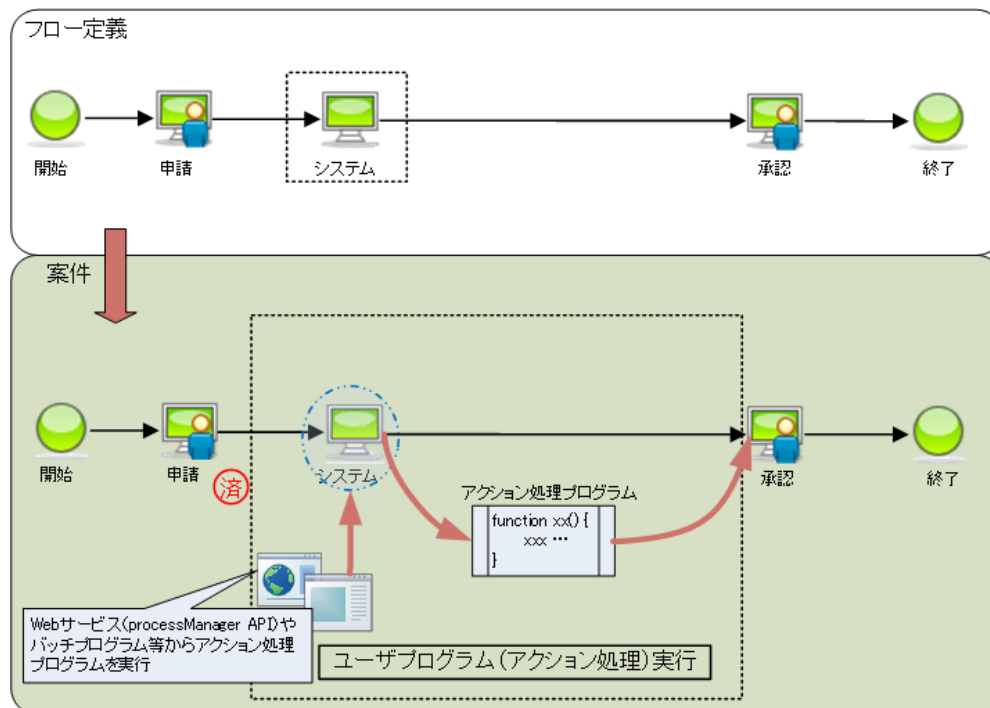
システムノードの補足

- システムノードは、ワークフローの案件処理中に外部システムやWebサービスからプログラムを実行する等の目的で利用します。
- システムノードでは、一旦案件の処理を中断し、ノードに設定されたアクション処理プログラム、到達処理プログラムを実行します。
- システムノードの処理後に後続のノードに処理を進めるためには、処理マネージャAPI (processManager) や IM-Workflow Webサービスの処理系サービス等を利用して、プログラムから処理を進める必要があります。
このため、案件操作を除いて画面から処理を進めることはできません。

システムノード (到達処理プログラム)



システムノード（アクション処理プログラム）



ノードの配置ルールと接続ルール

「ルート定義」にノードを配置する際、配置できるケースと配置できないケースが存在します。
また、ノードの種類によって接続できるノードの種類、接続できる数が異なります。
ノードの配置ルールと接続ルールを下表に示します。

ノード種類ごとのルール

- 開始ノード
- 終了ノード
- 申請ノード
- 承認ノード
- 動的承認ノード
- システムノード
- 確認ノード
- 同期開始ノード
- 同期終了ノード
- 分岐開始ノード
- 分岐終了ノード
- 横配置ノード
- 縦配置ノード
- テンプレート置換ノード
- テンプレート開始ノード
- テンプレート終了ノード
- 分岐ノード、同期ノードに関する補足

開始ノード

- 接続先に指定できるノードのルール

ノードの種類	接続可否	ノードの種類	接続可否
開始	×	同期開始	×
終了	×	同期終了	×
申請	✓	分岐開始	×
承認	×	分岐終了	×
動的承認	×	横配置	×
システム	×	縦配置	×
確認	×	テンプレート置換	×
		テンプレート開始	×
		テンプレート終了	×

- 接続・配置可能数のルール

前に接続できるノード数	後に接続できるノード数	ルート上の配置可能数	ルートテンプレート定義上の配置可能数
0	1	1	-

終了ノード

- 接続先に指定できるノードのルール

ノードの種類	接続可否	ノードの種類	接続可否
開始	×	同期開始	×
終了	×	同期終了	×
申請	×	分岐開始	×
承認	×	分岐終了	×
動的承認	×	横配置	×
システム	×	縦配置	×
確認	×	テンプレート置換	×

テンプレート開始	✗
----------	---

テンプレート終了	✗
----------	---

■ 接続・配置可能数のルール

前に接続できるノード数	後に接続できるノード数	ルート上の配置可能数	ルートテンプレート定義上の配置可能数
1	0	1	-

申請ノード

■ 接続先に指定できるノードのルール

ノードの種類	接続可否	ノードの種類	接続可否
開始	✗	同期開始	✓
終了	✓	同期終了	✗
申請	✗	分岐開始	✓
承認	✓	分岐終了	✗
動的承認	✓	横配置	✓
システム	✓	縦配置	✓
確認	✓	テンプレート置換	✓
		テンプレート開始	✗
		テンプレート終了	✗

■ 接続・配置可能数のルール

前に接続できるノード数	後に接続できるノード数	ルート上の配置可能数	ルートテンプレート定義上の配置可能数
1	1	1	-

承認ノード

■ 接続先に指定できるノードのルール

ノードの種類	接続可否	ノードの種類	接続可否
開始	✗	同期開始	✓
終了	✓	同期終了	✓
申請	✗	分岐開始	✓
承認	✓	分岐終了	✓
動的承認	✓	横配置	✓
システム	✓	縦配置	✓
確認	✓	テンプレート置換	✓
		テンプレート開始	✗
		テンプレート終了	✓

■ 接続・配置可能数のルール

前に接続できるノード数	後に接続できるノード数	ルート上の配置可能数	ルートテンプレート定義上の配置可能数
-------------	-------------	------------	--------------------

前に接続できるノード数	後に接続できるノード数	ルート上の配置可能数	ルートテンプレート定義上の配置可能数
1	1	n	n

動的承認ノード

- 接続先に指定できるノードのルール

ノードの種類	接続可否	ノードの種類	接続可否
開始	×	同期開始	✓
終了	✓	同期終了	✓
申請	×	分岐開始	✓
承認	✓	分岐終了	✓
動的承認	✓	横配置	✓
システム	✓	縦配置	✓
確認	×	テンプレート置換	✓
		テンプレート開始	×
		テンプレート終了	✓

- 接続・配置可能数のルール

前に接続できるノード数	後に接続できるノード数	ルート上の配置可能数	ルートテンプレート定義上の配置可能数
1	1	n	n

システムノード

- 接続先に指定できるノードのルール

ノードの種類	接続可否	ノードの種類	接続可否
開始	×	同期開始	✓
終了	✓	同期終了	✓
申請	×	分岐開始	✓
承認	✓	分岐終了	✓
動的承認	✓	横配置	✓
システム	✓	縦配置	✓
確認	✓	テンプレート置換	✓
		テンプレート開始	×
		テンプレート終了	✓

- 接続・配置可能数のルール

前に接続できるノード数	後に接続できるノード数	ルート上の配置可能数	ルートテンプレート定義上の配置可能数
1	1	n	n

確認ノード

- 接続先に指定できるノードのルール

ノードの種類	接続可否	ノードの種類	接続可否
開始	×	同期開始	×

終了	×	同期終了	×
申請	×	分岐開始	×
承認	×	分岐終了	×
動的承認	×	横配置	×
システム	×	縦配置	×
確認	×	テンプレート置換	×
		テンプレート開始	×
		テンプレート終了	×

- 接続・配置可能数のルール

前に接続できるノード数	後に接続できるノード数	ルート上の配置可能数	ルートテンプレート定義上の配置可能数
1	0	n	n

同期開始ノード

- 接続先に指定できるノードのルール

ノードの種類	接続可否	ノードの種類	接続可否
開始	×	同期開始	✓
終了	×	同期終了	×
申請	×	分岐開始	✓
承認	✓	分岐終了	×
動的承認	✓	横配置	✓
システム	✓	縦配置	✓
確認	×	テンプレート置換	✓
		テンプレート開始	×
		テンプレート終了	×

- 接続・配置可能数のルール

前に接続できるノード数	後に接続できるノード数	ルート上の配置可能数	ルートテンプレート定義上の配置可能数
1	n	n	n

同期開始ノードについては、以下の情報も参照してください。

- [分岐ノード、同期ノードに関する補足](#)

同期終了ノード

- 接続先に指定できるノードのルール

ノードの種類	接続可否	ノードの種類	接続可否
開始	×	同期開始	✓
終了	✓	同期終了	✓
申請	×	分岐開始	✓
承認	✓	分岐終了	✓
動的承認	✓	横配置	✓

システム	✓	縦配置	✓
確認	✗	テンプレート置換	✓
		テンプレート開始	✗
		テンプレート終了	✓

■ 接続・配置可能数のルール

前に接続できるノード数	後に接続できるノード数	ルート上の配置可能数	ルートテンプレート定義上の配置可能数
n	1	n	n

同期終了ノードについては、以下の情報も参照してください。

■ [分岐ノード、同期ノードに関する補足](#)

分岐開始ノード

■ 接続先に指定できるノードのルール

ノードの種類	接続可否	ノードの種類	接続可否
開始	✗	同期開始	✓
終了	✗	同期終了	✗
申請	✗	分岐開始	✓
承認	✓	分岐終了	✓
動的承認	✓	横配置	✓
システム	✓	縦配置	✓
確認	✗	テンプレート置換	✓
		テンプレート開始	✗
		テンプレート終了	✗

■ 接続・配置可能数のルール

前に接続できるノード数	後に接続できるノード数	ルート上の配置可能数	ルートテンプレート定義上の配置可能数
1	n	n	n

分岐開始ノードについては、以下の情報も参照してください。

■ [分岐ノード、同期ノードに関する補足](#)

分岐終了ノード

■ 接続先に指定できるノードのルール

ノードの種類	接続可否	ノードの種類	接続可否
開始	✗	同期開始	✓
終了	✓	同期終了	✗
申請	✗	分岐開始	✓
承認	✓	分岐終了	✓
動的承認	✓	横配置	✓
システム	✓	縦配置	✓
確認	✗	テンプレート置換	✓

テンプレート開始	✗
----------	---

テンプレート終了	✓
----------	---

- 接続・配置可能数のルール

前に接続できるノード数	後に接続できるノード数	ルート上の配置可能数	ルートテンプレート定義上の配置可能数
n	1	n	n

分岐終了ノードについては、以下の情報も参照してください。

- 分岐ノード、同期ノードに関する補足

横配置ノード

- 接続先に指定できるノードのルール

ノードの種類	接続可否	ノードの種類	接続可否
開始	✗	同期開始	✓
終了	✓	同期終了	✓
申請	✗	分岐開始	✓
承認	✓	分岐終了	✓
動的承認	✓	横配置	✓
システム	✓	縦配置	✓
確認	✗	テンプレート置換	✓
		テンプレート開始	✗
		テンプレート終了	✓

- 接続・配置可能数のルール

前に接続できるノード数	後に接続できるノード数	ルート上の配置可能数	ルートテンプレート定義上の配置可能数
1	1	n	n

縦配置ノード

- 接続先に指定できるノードのルール

ノードの種類	接続可否	ノードの種類	接続可否
開始	✗	同期開始	✓
終了	✓	同期終了	✓
申請	✗	分岐開始	✓
承認	✓	分岐終了	✓
動的承認	✓	横配置	✓
システム	✓	縦配置	✓
確認	✗	テンプレート置換	✓
		テンプレート開始	✗
		テンプレート終了	✓

- 接続・配置可能数のルール

前に接続できるノード数	後に接続できるノード数	ルート上の配置可能数	ルートテンプレート定義上の配置可能数
1	1	n	n

テンプレート置換ノード

- 接続先に指定できるノードのルール

ノードの種類	接続可否	ノードの種類	接続可否
開始	×	同期開始	✓
終了	✓	同期終了	✓
申請	×	分岐開始	✓
承認	✓	分岐終了	✓
動的承認	✓	横配置	✓
システム	✓	縦配置	✓
確認	×	テンプレート置換	✓
		テンプレート開始	×
		テンプレート終了	×

- 接続・配置可能数のルール

前に接続できるノード数	後に接続できるノード数	ルート上の配置可能数	ルートテンプレート定義上の配置可能数
1	1	n	-

テンプレート開始ノード

- 接続先に指定できるノードのルール

ノードの種類	接続可否	ノードの種類	接続可否
開始	×	同期開始	✓
終了	×	同期終了	×
申請	×	分岐開始	✓
承認	✓	分岐終了	×
動的承認	✓	横配置	✓
システム	✓	縦配置	✓
確認	×	テンプレート置換	×
		テンプレート開始	×
		テンプレート終了	×

- 接続・配置可能数のルール

前に接続できるノード数	後に接続できるノード数	ルート上の配置可能数	ルートテンプレート定義上の配置可能数
0	1	-	1

テンプレート終了ノード

- 接続先に指定できるノードのルール

ノードの種類	接続可否	ノードの種類	接続可否
開始	×	同期開始	×

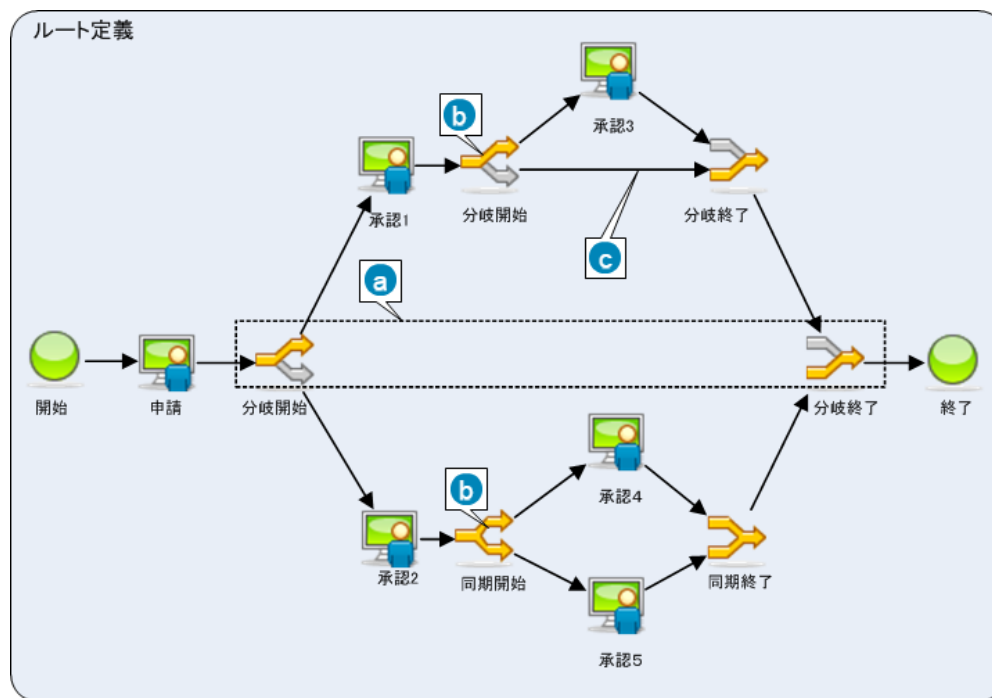
終了	×	同期終了	×
申請	×	分岐開始	×
承認	×	分岐終了	×
動的承認	×	横配置	×
システム	×	縦配置	×
確認	×	テンプレート置換	×
		テンプレート開始	×
		テンプレート終了	×

■ 接続・配置可能数のルール

前に接続できるノード数	後に接続できるノード数	ルート上の配置可能数	ルートテンプレート定義上の配置可能数
1	0	-	1

分岐ノード、同期ノードに関する補足

分岐ノード、同期ノードに関する補足 1

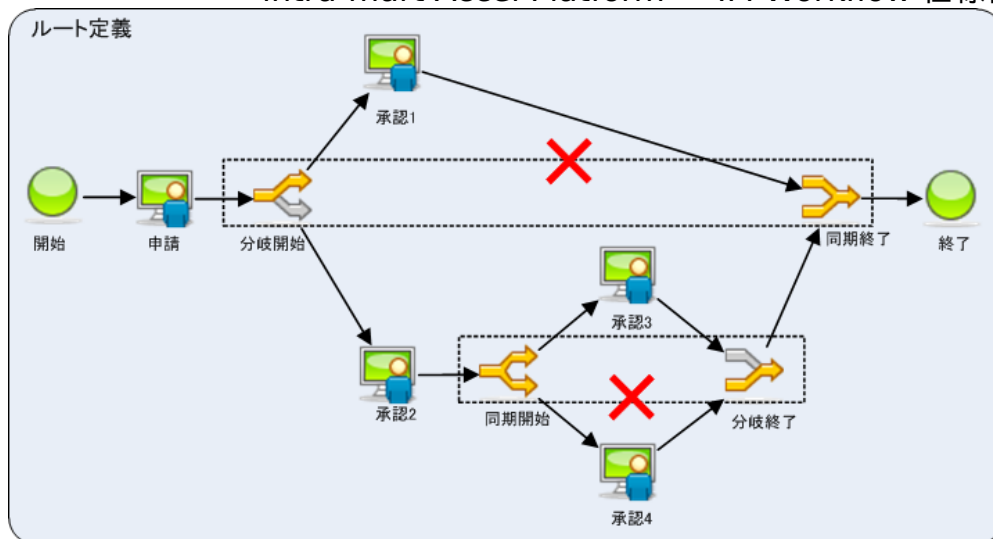


- a. 分岐開始ノードと分岐終了ノードは常に対で配置する必要があります。
- b. 分岐内には分岐、同期を入れ子で複数配置できます。
- c. 分岐開始ノードから、ノードを介さずに分岐終了ノードに処理を進める経路も作成できます。

- 同期開始ノードと同期終了ノードは常に対で配置する必要があります。
- 同期内には同期、分岐を入れ子で複数配置できます。

分岐ノード、同期ノードに関する補足 2

- 分岐開始ノード、分岐終了ノード、同期開始ノード、同期終了ノードは互い違いになるような配置はできません。



分岐終了ノードと同期終了ノードの比較

分岐終了ノードと同期終了ノードを比較して解説します。

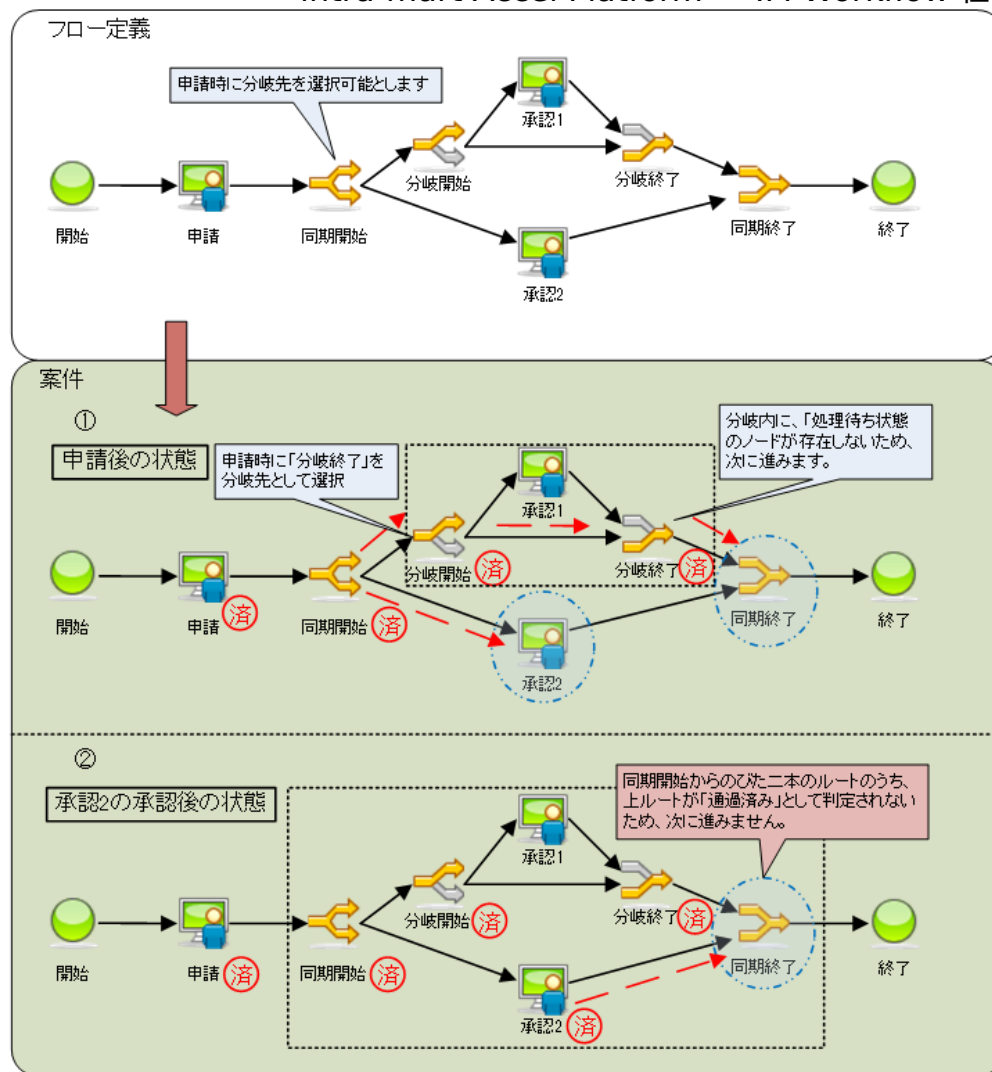
分岐終了ノードと同期終了ノードの処理詳細

ノード名	処理詳細	備考
分岐終了ノード	分岐終了ノードに到達した時点で、分岐内に処理待ち状態のノードが存在しなければ次に進みます。	フロー定義において、分岐終了ノードのノード設定：分岐終了方法を「設定しない」とした場合の説明です。 分岐終了方法を「ルール定義で分岐終了する」、または「ユーザプログラムで分岐終了する」とした場合は、設定された処理が到達時に実行されます。
同期終了ノード	同期終了ノードに到達した時点で、同期終了ノードにつながっている各ルートを同期開始ノード方向に辿って行きます。 ルート上に、承認待ち状態から承認されたノードが存在し、かつ処理待ち状態のノードがひとつも存在しない場合、そのルートは通過済みと判断します。 同期終了ノードにつながっている各ルートすべてが通過済みとなれば、次に進みます。	同期終了ノードの場合は、分岐終了ノードとは異なり、ノード設定として同期終了方法の設定を行うことはできません。 そのため、常に左記の通りに動作します。

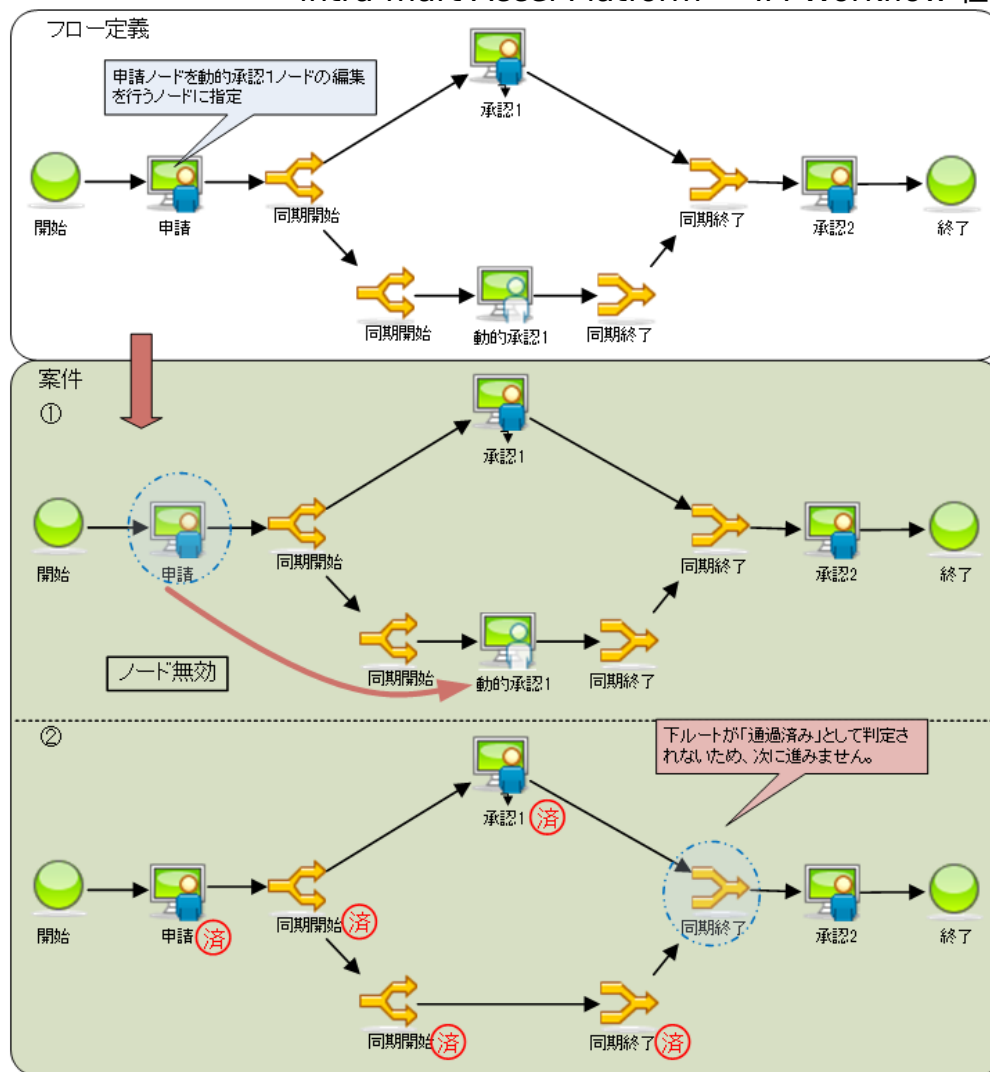
■ 同期終了ノードにおける注意事項

たとえば、同期終了ノードの同期内に分岐ノードが存在するルートを利用した案件の場合、分岐内に処理されたノードがなくそのまま終了された状態（例：分岐開始と終了が直接つながっている状態）では、同期が終了されません。

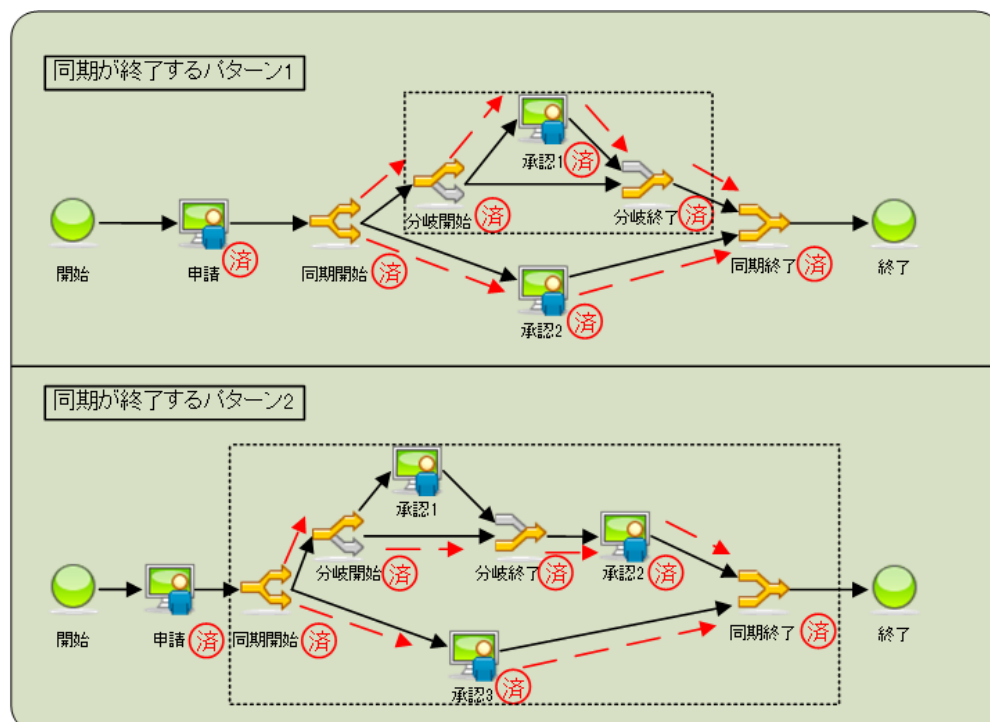
分岐終了ノードと同期終了ノードの比較（同期が終了しないパターン1）



分岐終了ノードと同期終了ノードの比較（同期が終了しないパターン2）



分岐終了ノードと同期終了ノードの比較（同期が終了するパターン）



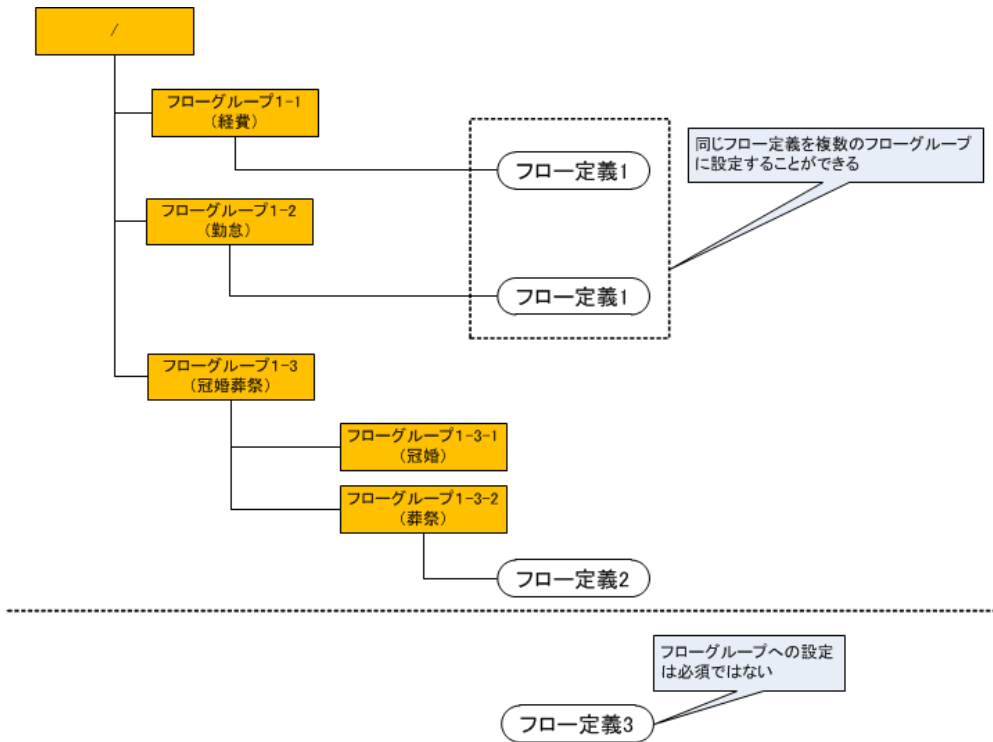
フローグループ

「フローグループ」とはフロー定義を検索目的で分類するための情報です。
フローグループの動作仕様は以下の通りです。

- 1つのフロー定義は複数のフローグループに属することができます。

- フローグループはツリー状の親子関係を持ちます。
- 特定のフローグループに属さないフロー定義も許容します。
- フローグループの階層数はテナント単位設定「フローグループの階層数」から取得します。

フローグループ

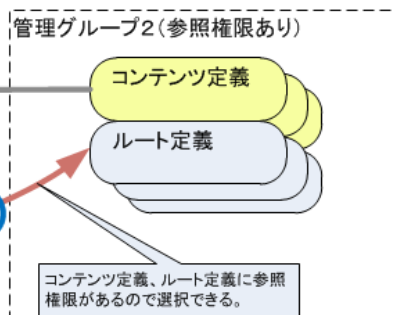
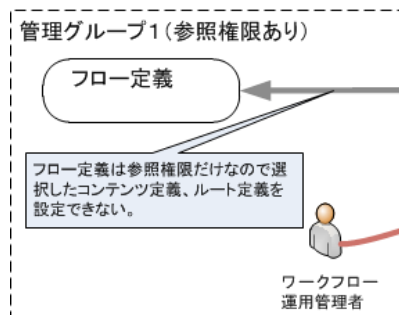
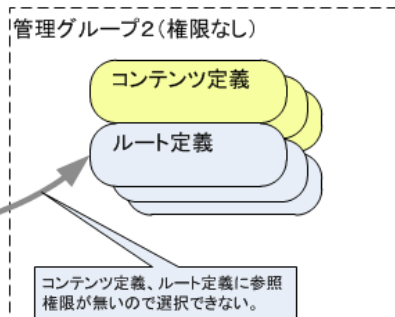
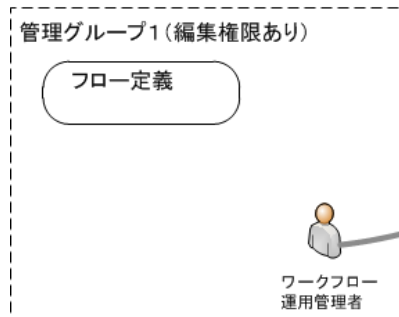
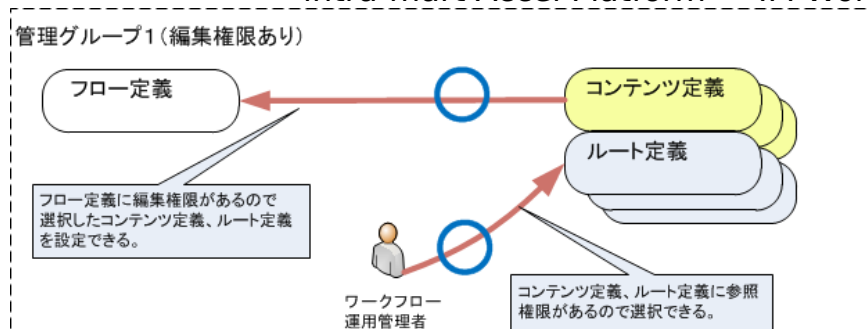


ワークフロー運用管理者の管理権限

ワークフロー運用管理者がもつ管理権限によって参照／編集できるメール定義、IMBox 定義、コンテンツ定義、ルート定義、フロー定義が異なります。

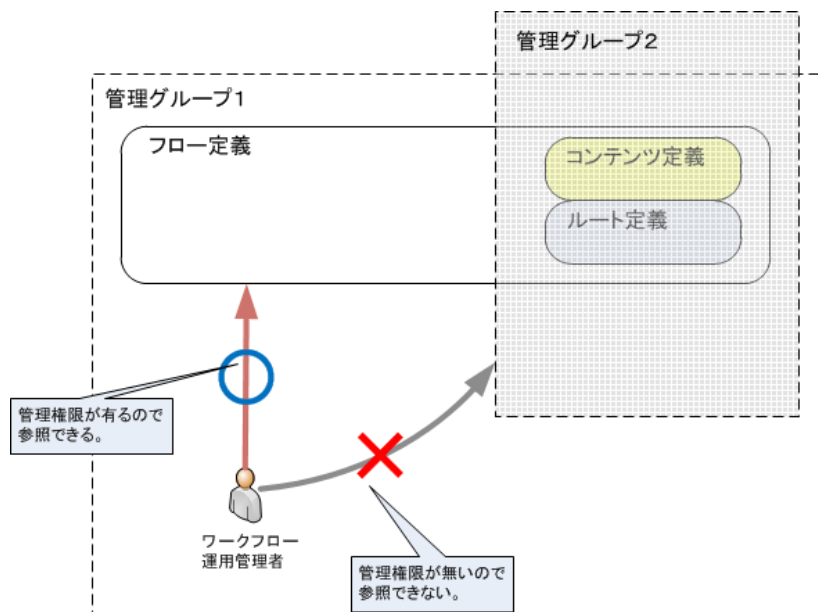
- 本人が属する管理グループの権限に従い、参照、更新、削除ができます。
- フロー定義に対してコンテンツ定義、ルート定義が設定できるか否かは、各定義の管理権限の組み合わせで判断します。
例えば、フロー定義にコンテンツ定義を設定できるのは、フロー定義が編集権限以上で、かつコンテンツ定義が参照以上の権限を持つ場合のみです。

ワークフロー運用管理者の管理権限 1



- 管理権限を持つフロー定義に設定済みの、コンテンツ定義、ルート定義に管理権限が無い場合、フロー定義は参照できますが、コンテンツ定義、ルート定義の個別設定情報は表示されず、参照することができません。

ワークフロー運用管理者の管理権限 2



以上の通り、ワークフロー運用管理者がマスタメンテナンスを行うために必要な管理権限はシステムにより決められています。詳細は下表を参照してください。

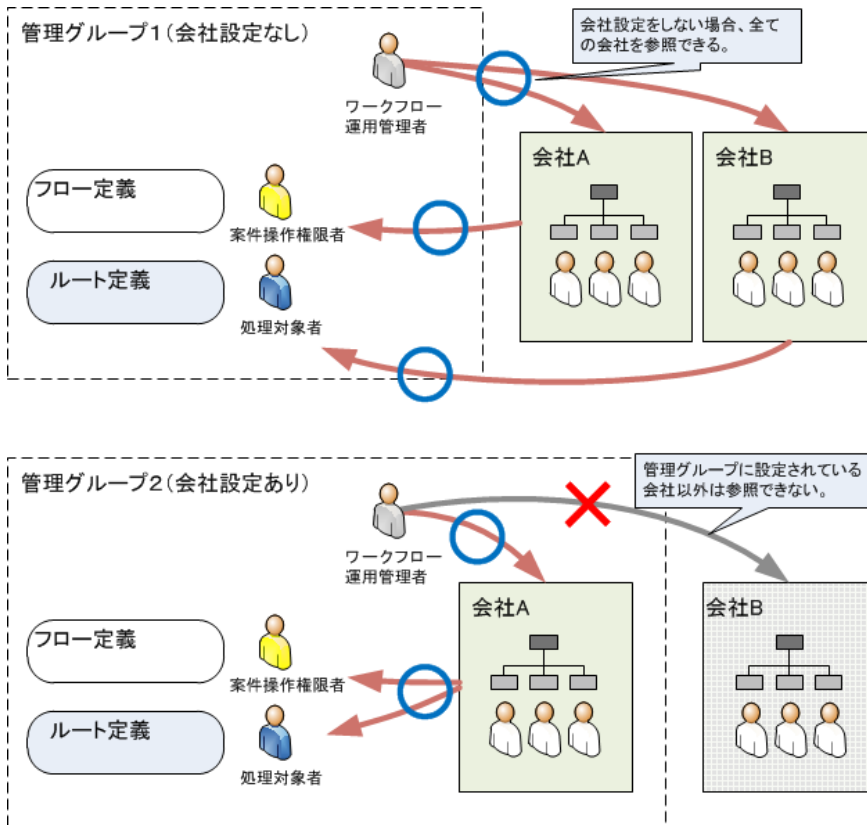
必要な管理権限<○：参照権限、◎：編集権限>

マスタメンテナンス	必要な管理権限				
	フロー定義	コンテンツ定義	ルート定義	メール定義	IMBox定義
コンテンツ定義へのメール定義の設定	-	◎	-	○ or ◎	-
コンテンツ定義へのIMBox定義の設定	-	◎	-	-	○ or ◎

マスタメンテナンス	必要な管理権限				
	フロー定義	コンテンツ定義	ルート定義	メール定義	IMBox定義
フロー定義の初期設定	◎	○ or ◎	○ or ◎	○ or ◎	
フロー定義の個別設定（メール／IMBox定義以外）	◎	○ or ◎	○ or ◎	-	-
フロー定義の個別設定（メール定義）	◎	○ or ◎	○ or ◎	○ or ◎	-
フロー定義の個別設定（IMBox定義）	◎	○ or ◎	○ or ◎	-	○ or ◎

- ワークフロー運用管理者が属する管理グループに会社を設定しない場合、ワークフロー運用管理者は全ての会社を参照できます。
管理グループに会社を設定すると、ワークフロー運用管理者は設定された会社のみを参照できます。

ワークフロー運用管理者の管理権限 3



会社で絞り込まれる検索結果

マスタメンテナンス	設定対象
フロー定義	案件操作権限者 標準組織
ルート定義	承認ノード、動的承認ノード、横配置ノードおよび縦配置ノードの処理対象者 承認ノードの確認対象者

ユーザ画面

IM-Workflow ではワークフロー上に構築するアプリケーションの業務画面を「ユーザ画面」と呼びます。物品購入のワークフローを例にすると、ユーザ画面は物品の購入画面などの業務画面にあたります。

詳細については下記を参照してください。

ユーザ画面の種類

IM-Workflow で定義しているユーザ画面は以下の通りです。

ユーザ画面の種類

画面種別	説明
申請	利用者が案件を申請する際に使用する画面
一時保存	利用者が案件を一時保存する際に使用する画面
申請（起票案件）	利用者が未申請状態から案件を申請する際に使用する画面
再申請	利用者が案件を再申請する際に使用する画面
処理	利用者が案件を処理する際に使用する画面
確認	利用者が案件を確認する際に使用する画面
処理詳細	案件の処理対象者が案件の詳細を参照する画面
参照詳細	案件の参照者が案件の詳細を参照する画面
確認詳細	案件の確認対象者が案件の詳細を参照する画面
過去案件詳細	利用者が過去案件（アーカイブされた案件）の詳細を参照する画面
申請画面（スマートフォン用）	利用者が案件を申請する際に使用するスマートフォン画面
一時保存画面（スマートフォン用）	利用者が案件を一時保存する際に使用するスマートフォン画面
申請（起票案件）画面（スマートフォン用）	利用者が未申請状態から案件を申請する際に使用するスマートフォン画面
再申請画面（スマートフォン用）	利用者が案件を再申請する際に使用するスマートフォン画面
処理画面（スマートフォン用）	利用者が案件を処理する際に使用するスマートフォン画面
確認画面（スマートフォン用）	利用者が案件を確認する際に使用するスマートフォン画面

画面定義

IM-Workflow ではユーザ画面の種類や画面ソースの保存場所を「画面定義」と呼ぶマスタ情報で管理しています。

画面定義の要素

項目	説明
画面種別	画面の種類を示します
パス種別	画面がどの開発手法で作成されたか示します。
スクリプト開発モデル	スクリプト開発モデルで作成した画面
JavaEE開発モデル	JavaEE開発モデルで作成した画面
JSP or Servlet	TERASOLUNA Server Framework for Java (5.x) で作成した画面
スクリプトパス	スクリプト開発モデルで作成した画面へのパス
アプリケーションID	JavaEE開発モデルで作成した画面のアプリケーションID
サービスID	JavaEE開発モデルで作成した画面のサービスID
ページパス	TERASOLUNA Server Framework for Java (5.x) で作成した画面のURL
初期使用	有効にするとフロー定義の初期設定で画面を使用します。

画面定義の設定

ワークフローでユーザ画面を利用するためには、ユーザ画面をコンテンツ定義、およびフロー定義に設定する必要があります。以下が画面定義の設定の流れです。

1. ユーザ画面をコンテンツ定義へ設定する。
2. コンテンツ定義をフロー定義へ設定する。
3. 一部のノードのみ初期設定と異なる画面を使用したい場合、コンテンツ定義のユーザ画面をフロー定義に個別設定する。（必須ではない）

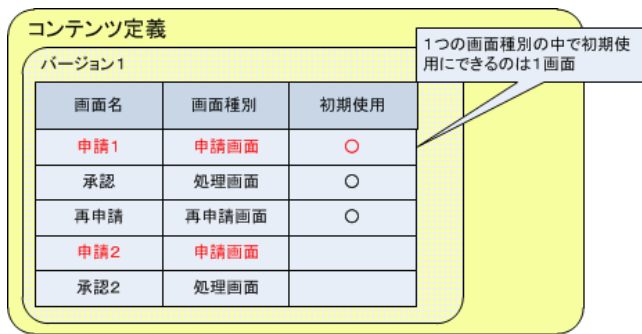
詳細については下記を参照してください。

ユーザ画面とコンテンツ定義

画面定義をフロー定義の初期設定として使用したい場合、まず画面定義をコンテンツ定義に設定する必要があります。

- コンテンツ定義には同じ画面種別のメール定義、IMBox 定義を複数件登録できます。
- コンテンツ定義上のユーザ画面は「初期使用」と呼ぶ設定を持ちます。
コンテンツ定義に初期使用としたユーザ画面がある場合、ワークフローはフロー定義の初期設定として画面定義を使用します。

ユーザ画面とコンテンツ定義

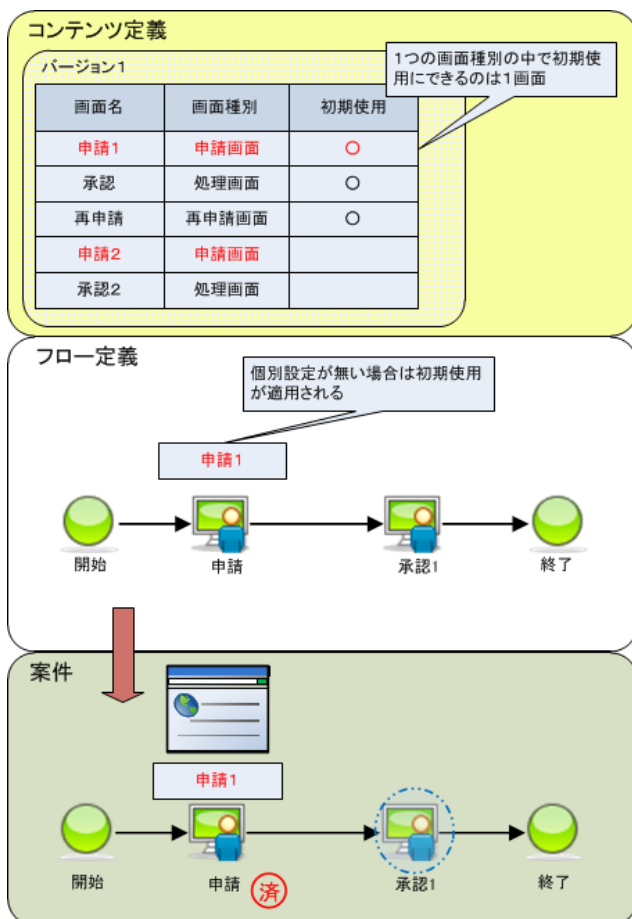


ユーザ画面とフロー定義の初期設定

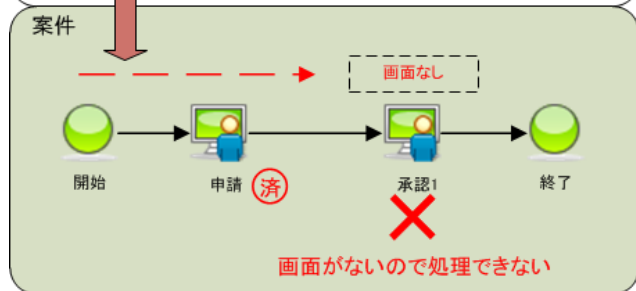
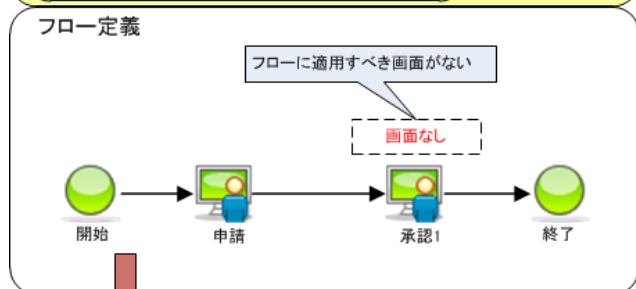
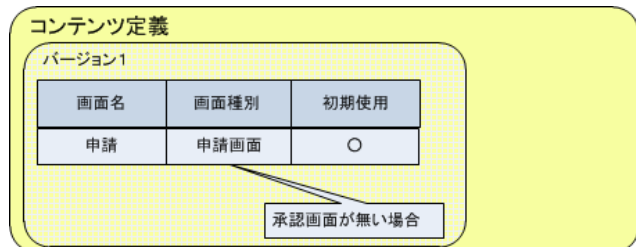
ユーザ画面を持つコンテンツ定義をフロー定義に設定することで、フロー定義の案件でユーザ画面を表示できます。

- コンテンツ定義には同じ画面種別のメール定義、IMBox 定義を複数件登録できます。
- 「初期使用」の画面定義が存在する場合、ワークフローは「画面種別」に従って、ユーザ画面とフロー定義と関連付けします。
- フロー定義に設定したユーザ画面は解除することができます。
解除すると解除した画面を使用する処理（申請など）ができません。

ユーザ画面とフロー定義の初期設定



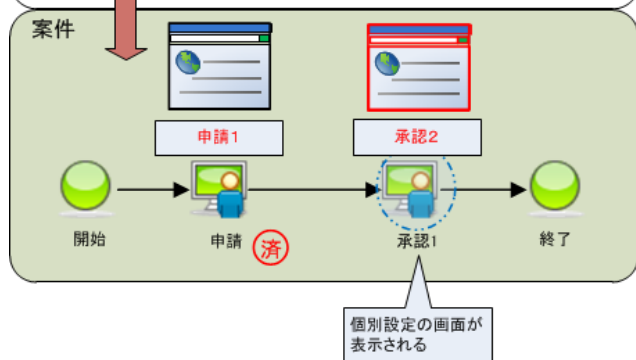
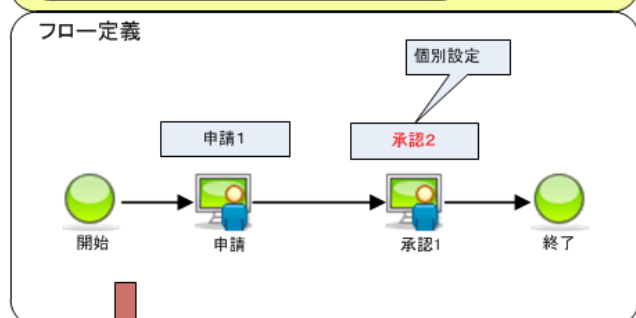
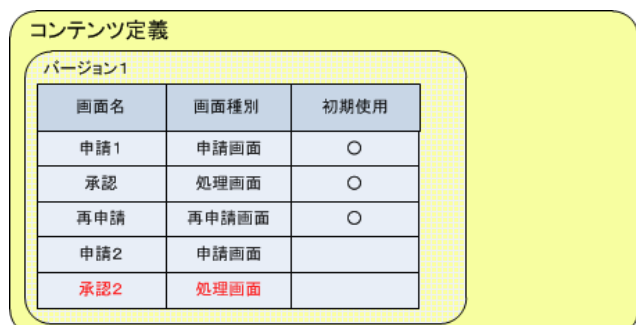
ユーザ画面とフロー定義の初期設定-2（画面が無い場合）



ユーザ画面とフロー定義の個別設定

フロー定義上にユーザ画面を個別設定することで、指定したフロー定義やノードのみ他と別の画面を表示することができます。

ユーザ画面とフロー定義の個別設定



- 個別設定は画面種別によって設定先が異なります。

個別設定の設定先

個別設定の設定先	画面種別
ノード	申請
	一時保存
	申請（起票案件）
	再申請
	処理
	確認
フロー定義	処理詳細
	参照詳細
	確認詳細
	過去案件詳細

- ユーザ画面を設定できるノードはノードの種類と画面種別で異なります。

ユーザ画面を個別設定できるノード＜○：設定できる＞

画面種別	ノードの種類					
	申請	承認	動的承認	横配置	縦配置	確認
申請	○					
一時保存	○					
申請（起票案件）	○					
再申請	○					
処理		○	○	○	○	
確認						○

ユーザプログラム

IM-Workflow ではワークフローの処理時に実行するアプリケーションプログラムを「ユーザプログラム」と呼びます。
詳細については下記を参照してください。

ユーザプログラムの種類

IM-Workflow で定義しているユーザプログラムは以下の通りです。

ユーザプログラムの種類

プラグイン種別	説明
案件開始処理	案件が開始する際に呼び出されるプログラム
案件終了処理	案件が完了する際に呼び出されるプログラム
案件終了処理 （トランザクションなし）	案件が完了する際に呼び出されるプログラム
アクション処理	申請などの処理が実行された際に呼び出されるプログラム
到達処理	ある処理によりノードに処理が進んだ際に呼び出されるプログラム
既処理者自動承認	自動処理プログラム
既処理者（代理先） 自動承認	申請ノードから自動処理対象のノードまでの間に処理を行った処理者が 当該ノードの処理対象である場合、自動でノードの処理を行います。
再処理者自動承認	自動処理プログラム
再処理者（代理先） 自動承認	当該ノードを一度でも承認した処理者が 当該ノードの処理対象である場合に自動でノードの処理を行います。
連続自動承認	自動処理プログラム
連続（代理先） 自動承認	直前のノードの申請者、または承認者が当該ノードの処理対象者となる場合、自動でノードの処理を行います。

プラグイン種別	説明
分岐処理	分岐条件に従い、分岐先を判定するプログラム。分岐開始ノードに設定すると分岐開始時に呼び出されます。
結合処理	結合条件に従い、分岐終了ノードの次へ遷移してよいかを判定するプログラム。分岐終了ノードに設定すると分岐終了時に呼び出されます。

ユーザプログラム定義

IM-Workflow ではプログラムの種類や保存場所を「ユーザプログラム定義」と呼ぶマスタ情報で管理しています。

ユーザプログラム定義で設定できる内容については「[IM-Workflow 管理者操作ガイド](#)」の「[コンテンツ定義を登録・設定する](#)」を参照してください。

ユーザプログラム定義の設定

ワークフローでユーザプログラムを利用するためには、ユーザプログラム定義をコンテンツ定義、およびフロー定義に設定する必要があります。以下がユーザプログラムの設定の流れです。

1. ユーザプログラム定義をコンテンツ定義へ設定する。
2. コンテンツ定義をフロー定義へ設定する。
3. 一部のノードのみ初期設定と異なるユーザプログラムを実行したい場合、コンテンツ定義のユーザプログラムをフロー定義に個別設定する。（必須ではない）

詳細については下記を参照してください。

ユーザプログラムとコンテンツ定義

ユーザプログラム定義をフロー定義の初期設定として使用したい場合、ユーザプログラム定義をコンテンツ定義に設定する必要があります。設定に関する機能仕様は以下の通りです。

- コンテンツ定義には同じプラグイン種別のユーザプログラムを複数登録できます。
- コンテンツ定義上で「初期使用」としたユーザプログラムがある場合、ワークフローはフロー定義の初期設定としてユーザプログラムを使用します。初期使用のユーザプログラムは同じプラグイン種別内で複数登録できます。
- ワークフローはコンテンツ定義上で定義した「実行順番」の順にユーザプログラムを実行します。実行順番が未設定の場合、および実行順番が同じ場合は、ユーザプログラムをデータベースから取得した時点の順序に依存します。

ユーザプログラムとコンテンツ定義

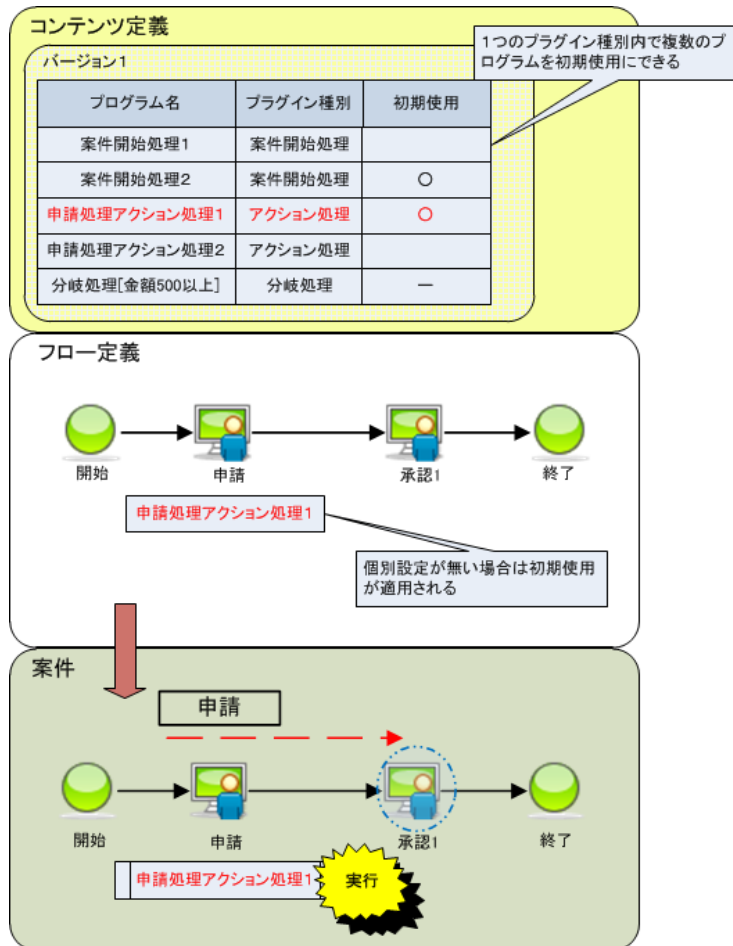
コンテンツ定義			
バージョン1			
プログラム名	プラグイン種別	初期使用	1つのプラグイン種別内で複数のプログラムを初期使用にできる
案件開始処理1	案件開始処理		
案件開始処理2	案件開始処理	○	
申請処理アクション処理1	アクション処理	○	
申請処理アクション処理2	アクション処理	○	
分岐処理[金額500以上]	分岐処理	—	

ユーザプログラムとフローの初期設定

ユーザプログラムを持つコンテンツ定義をフロー定義に設定することで、フロー定義の案件でユーザプログラムを実行できます。

- フロー定義で扱うことのできるユーザプログラムはコンテンツ定義に設定したユーザプログラム定義のみです。
- 「初期使用」のユーザプログラムが存在する場合、ワークフローは「プラグイン種別」に従って、ユーザプログラムとフロー定義を関連付けします。
- フロー定義に初期設定したユーザプログラムは解除することができます。

ユーザプログラムとフロー定義の初期設定

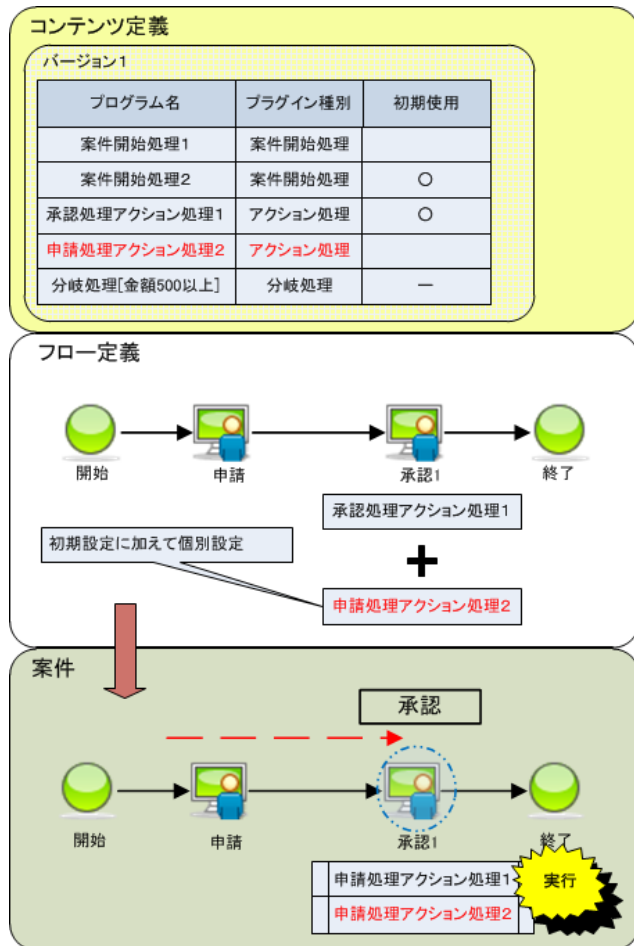


ユーザプログラムとフロー定義の個別設定

フロー定義上にユーザプログラムを個別設定することで、指定したフロー定義やノードのみ、初期設定とは別のユーザプログラムを実行することができます。

また、個別設定では、初期設定のユーザプログラムに個別のユーザプログラムを加えることができます。

ユーザプログラムとフロー定義の個別設定の例



- 個別設定はプラグイン種別によって設定の単位が異なります。
 - フロー単位
 - 案件開始処理、案件終了処理
 - ノード単位
 - アクション処理、到達処理
 - 分岐先のルート単位
 - 分岐処理
 - 1つの分岐終了ノードに1つ
 - 結合処理

通知

IM-Workflow ではあらかじめ定義した送信箇所と雛型を元に、ワークフローの処理時にユーザに対して様々な情報を通知する機能を用意しています。通知には、以下の2種類があります。

- メール
- IMBox

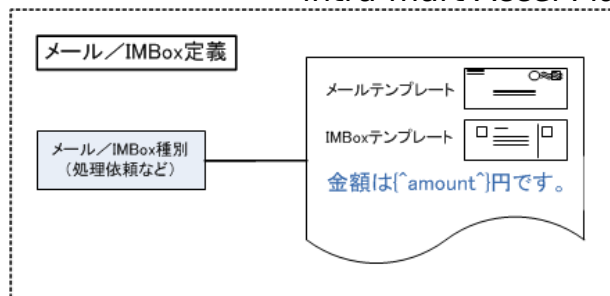
IMBox とは、リアルタイムに必要な情報を取り出せる全体最適のWebフロントです。IMBox の詳細については「[IMBox ユーザ操作ガイド](#)」を参照してください。

メール／IMBox 定義

IM-Workflow では通知の送信箇所や通知内容の雛型を「メール定義」または「IMBox 定義」と呼ぶマスタ情報で管理しています。管理者がメール定義や IMBox 定義を作成してフロー定義に設定することで、ワークフローの処理で通知処理を行います。

- メール／IMBox 定義は「メール／IMBox 種別」、および「メール／IMBox テンプレート」を持ちます。
- メール／IMBox 種別はメール／IMBox の送信箇所と後述する「メール／IMBox 置換文字列」の置換内容を規定します。
- メール／IMBox テンプレートはメール／IMBox 送信内容の雛型です。
メール／IMBox テンプレート内に「メール／IMBox 置換文字列」を埋め込むことで、処理時の情報をメール／IMBox に設定することができます。

メール／IMBox 定義



- 標準でシステム提供のメール／IMBox 定義を用意しており、このメール／IMBox 定義での通知や、この定義を複製したメール／IMBox 定義での通知もできます。
- 初期状態ではワークフロー運用管理者はシステム標準メール／IMBox 定義に対する参照、編集はできません。参照、編集を許可するにはシステム管理者が管理グループにシステム標準メール／IMBox 定義を設定する必要があります。

メール／IMBox の種類

IM-Workflow では以下のメール／IMBox を用意しています。

メール／IMBox の種類

メール／IMBox種別	項目	説明
処理依頼	申請ノード到達時	次ノードの処理対象者に対して送る処理依頼
	承認ノード到達時	
	差戻し時	
	引戻し時	
	案件操作時	
	保留解除時	
処理結果通知	終了ノード到達時	案件が完了した場合に申請者に送る処理結果通知
参照依頼	参照設定したフロー定義で案件が申請された時	案件が申請された場合に案件操作権限者に送る参照依頼
確認依頼	確認ノード到達	確認ノードに到達した場合に確認対象者に送る確認依頼
代理通知	代理設定した時	代理設定をした場合に代理先に送る代理依頼
振替通知	振替設定した時	振替した場合に振替先に送る振替依頼
自動催促	自動催促時	催促期限に達した場合に送る処理の催促依頼
根回し	根回し時	案件処理時に送る根回し通知

メール／IMBox の送信先

ワークフローはメール／IMBox 定義に設定した通知の送信先に通知を送信します。

管理者はこの送信先を変更することによって、送信先を制御できます。

メールの送信先にはメールアドレスを、IMBox の送信先にはユーザコードを設定します。

メール／IMBox の送信先

説明	メール	IMBox
メール／IMBox定義に設定できる送信先	メールアドレス	ユーザコード
	メールアドレスを表す置換文字列	ユーザコードを表す置換文字列
送信先の保存先	メールテンプレート	IMBoxテンプレート
IM-Workflowで用意されている送信情報の置換文字列	To、Cc、Bcc	To

- 「メールアドレスを表す置換文字列」や「ユーザコードを表す置換文字列」は、メール／IMBox 種別、および直近の案件処理の内容により置換内容が変わります。
- 「メールアドレスを表す置換文字列」の利用にあたっては、設定したユーザのプロファイルにメールアドレスが登録されていることを確認してから設定するようにしてください。
- IMBoxで通知した内容は、宛先ユーザの「ApplicationBox」で確認できます。

<送信先に「メールアドレスを表す置換文字列」を設定>

- 対象のユーザのプロファイルにメールアドレスが設定されていない場合、メール送信時にエラーが発生します。
- 対象のユーザのうち、1人でもメールアドレスが設定されている場合、設定されているユーザにメールが送信されるため、エラーは発生しません。

<送信元に「メールアドレスを表す置換文字列」を設定>

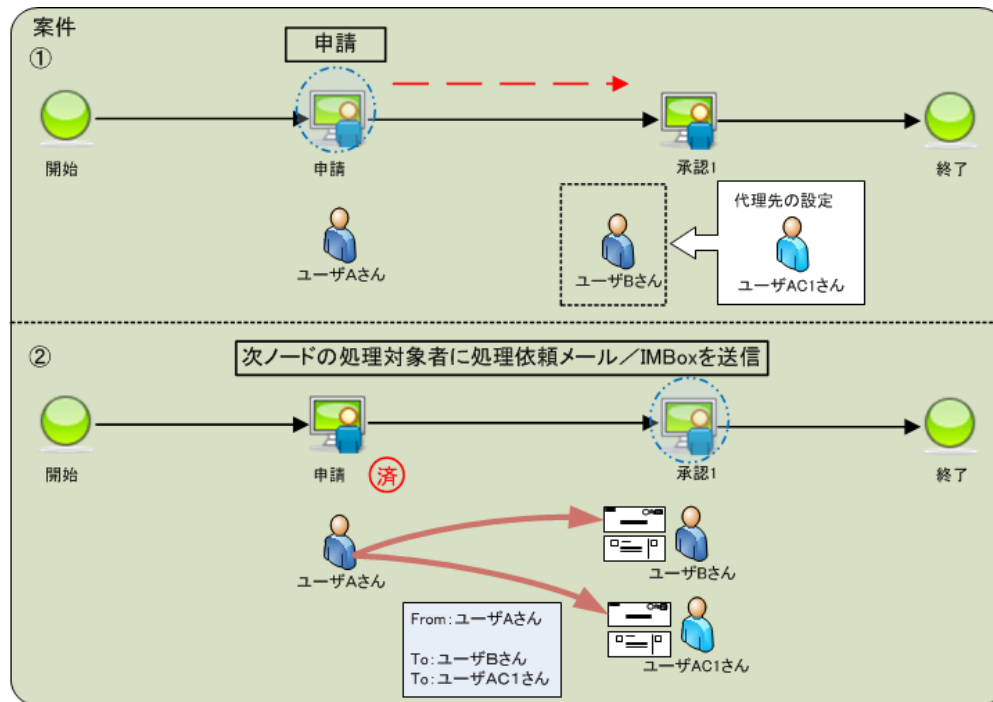
- 対象のユーザのプロファイルにメールアドレスが設定されていない場合、送信元のアドレスは空の状態メールを送信します。

以下ではインストール時点のシステム標準メールで定義しているメールの送信先について解説します。

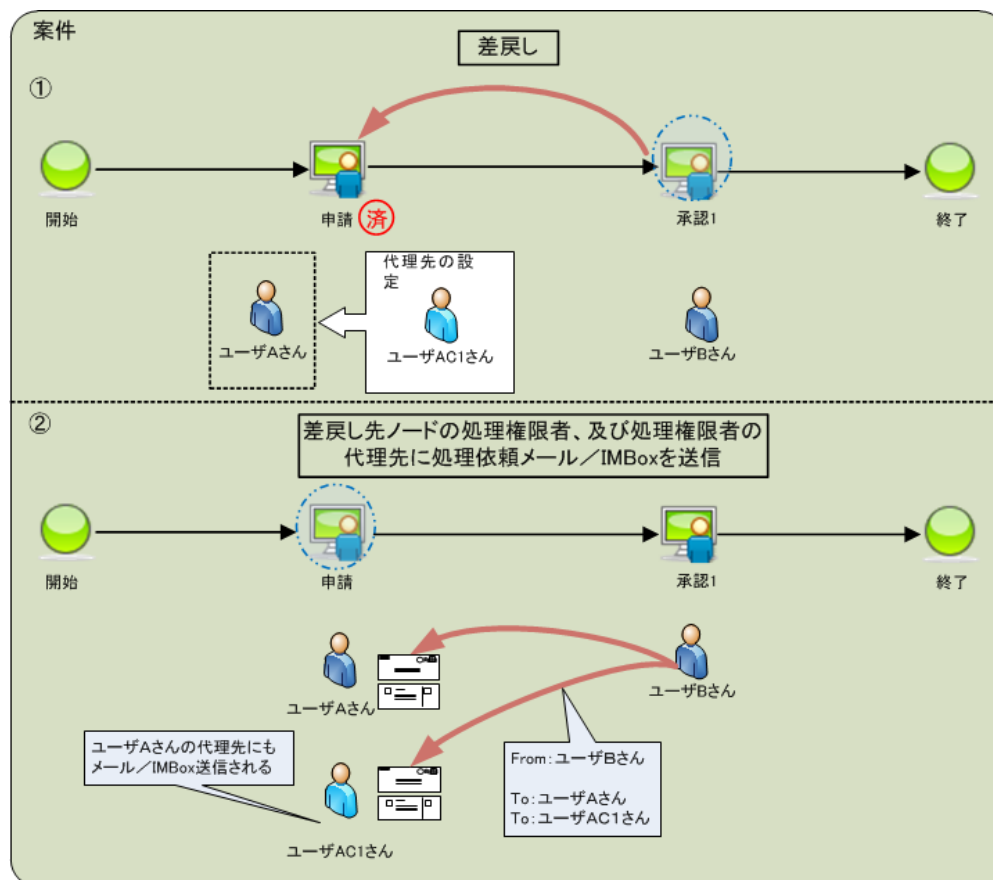
処理依頼

次ノードの処理対象者に対する処理依頼の通知です。差戻し後や引戻し後にノードに再到達した場合もメール／IMBoxを送信します。

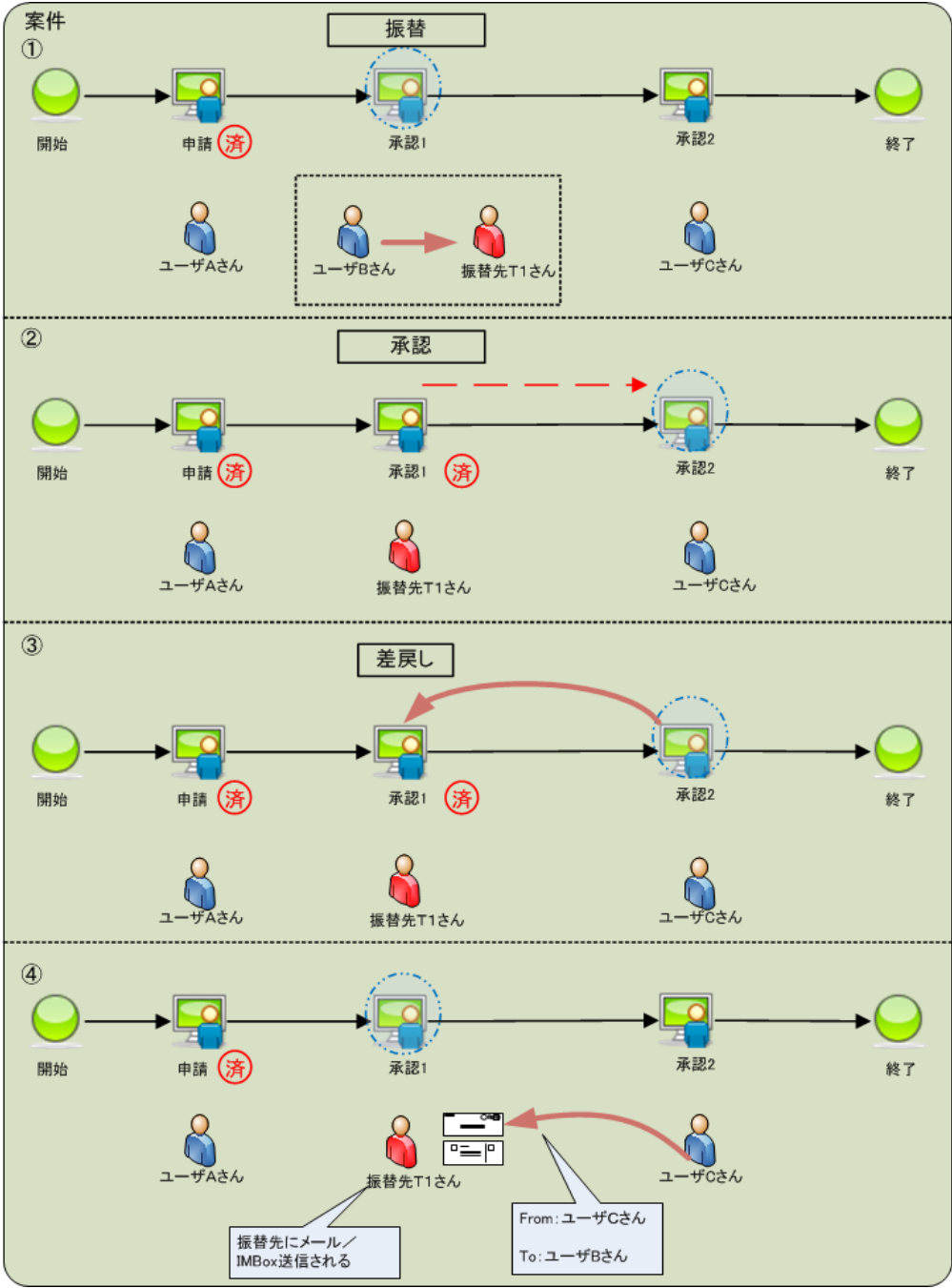
処理依頼-承認の例



処理依頼-差戻しの例



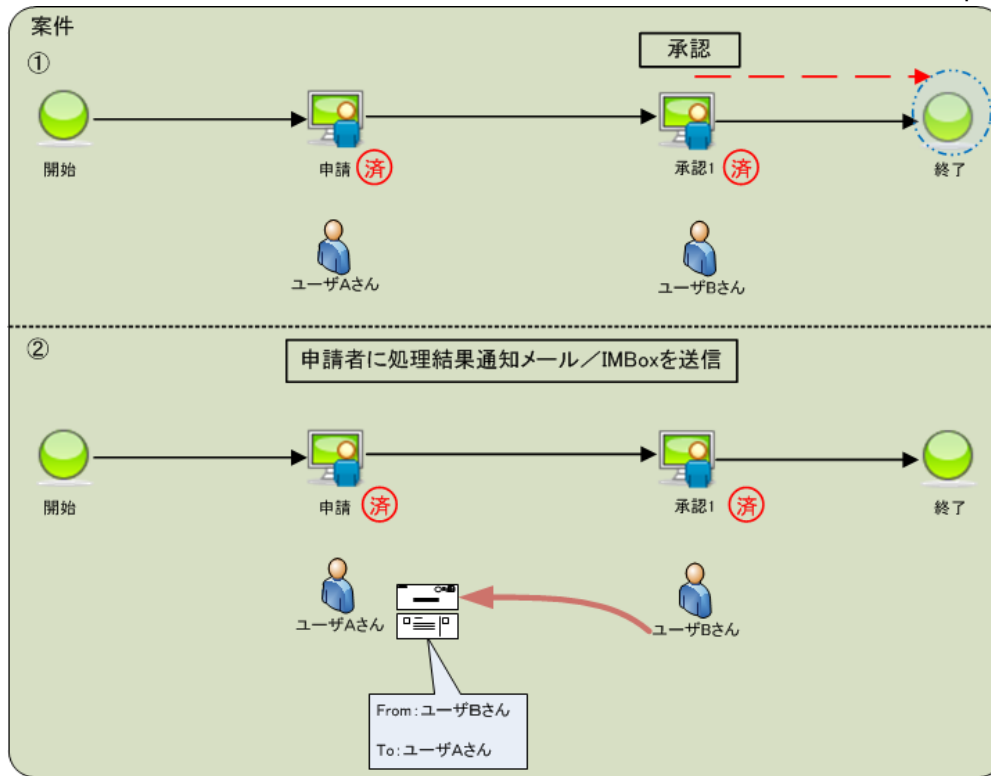
処理依頼-振替-差戻しの例



処理結果通知

申請者に対する案件の終了結果の通知です。

処理結果通知

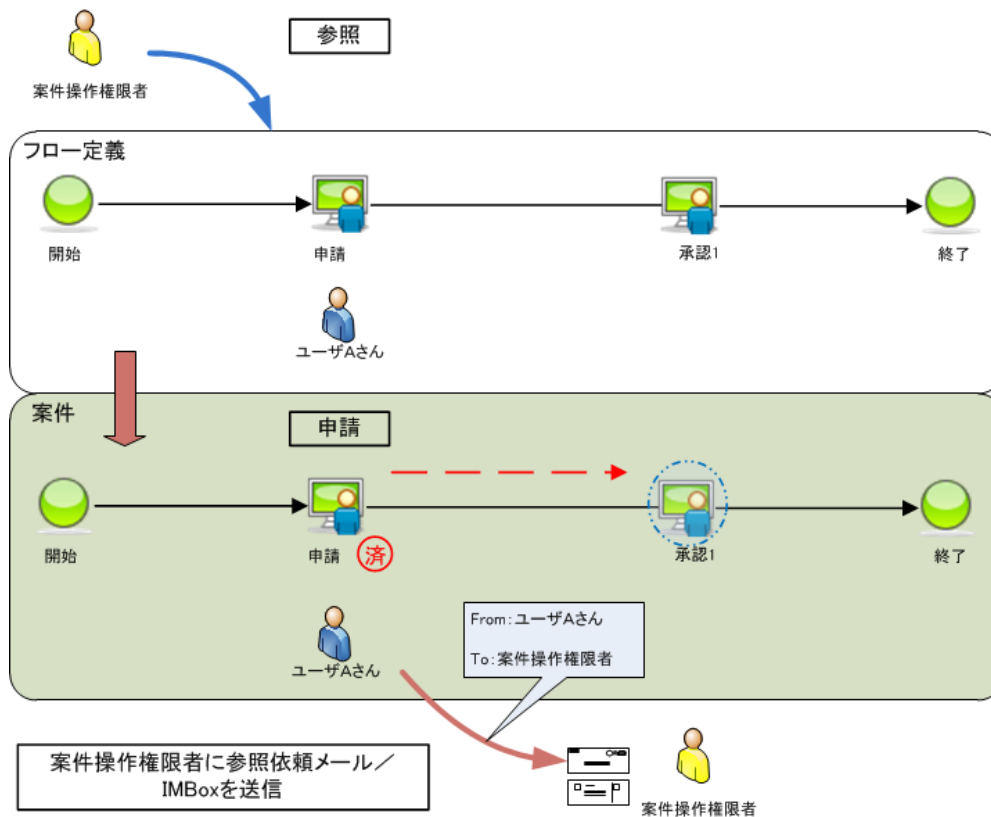


参照依頼

案件操作権限者に対する参照依頼の通知です。

案件操作権限者が参照権限を持つフロー定義が申請された場合にメール／IMBoxを送信します。

参照依頼

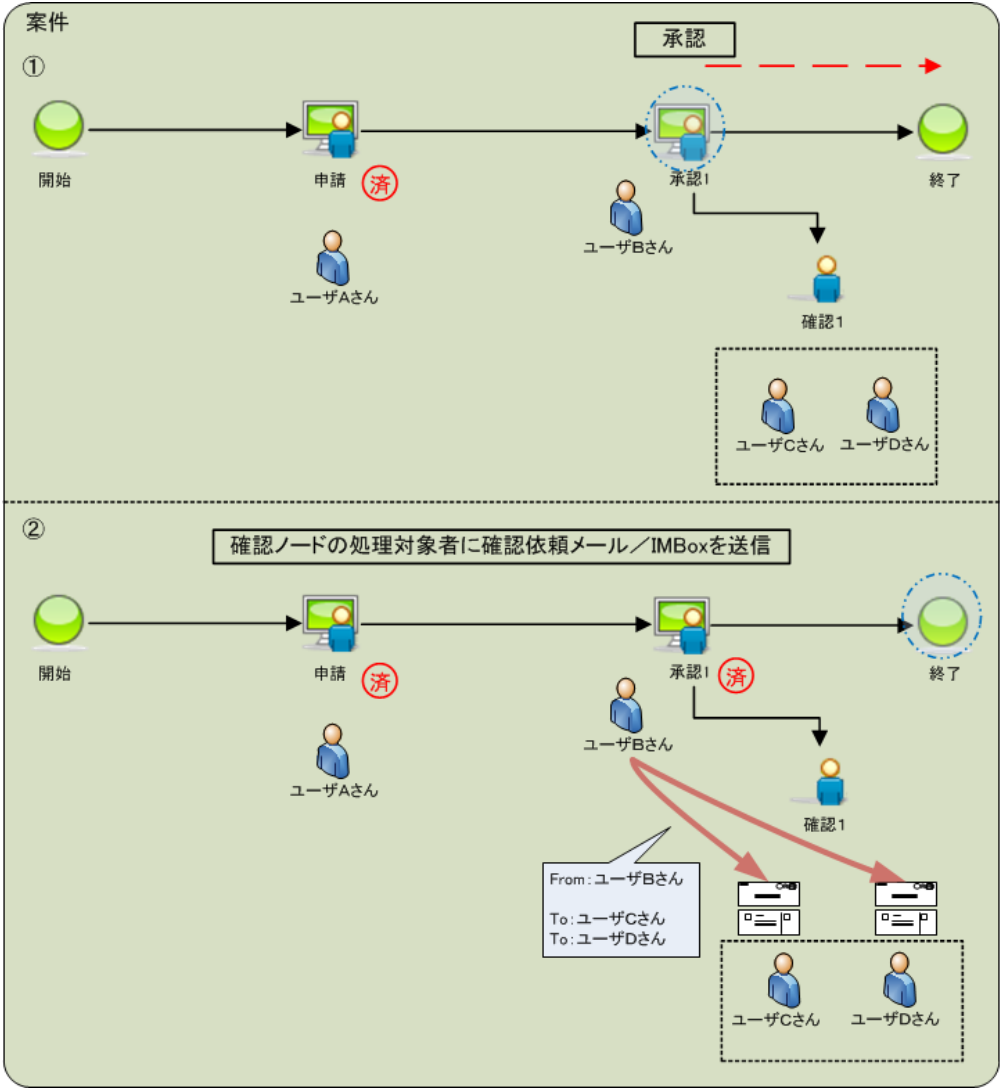


確認依頼

確認対象者に対する確認依頼の通知です。

差戻し後や引戻し後にノードに再到達した場合もメール／IMBoxを送信します。

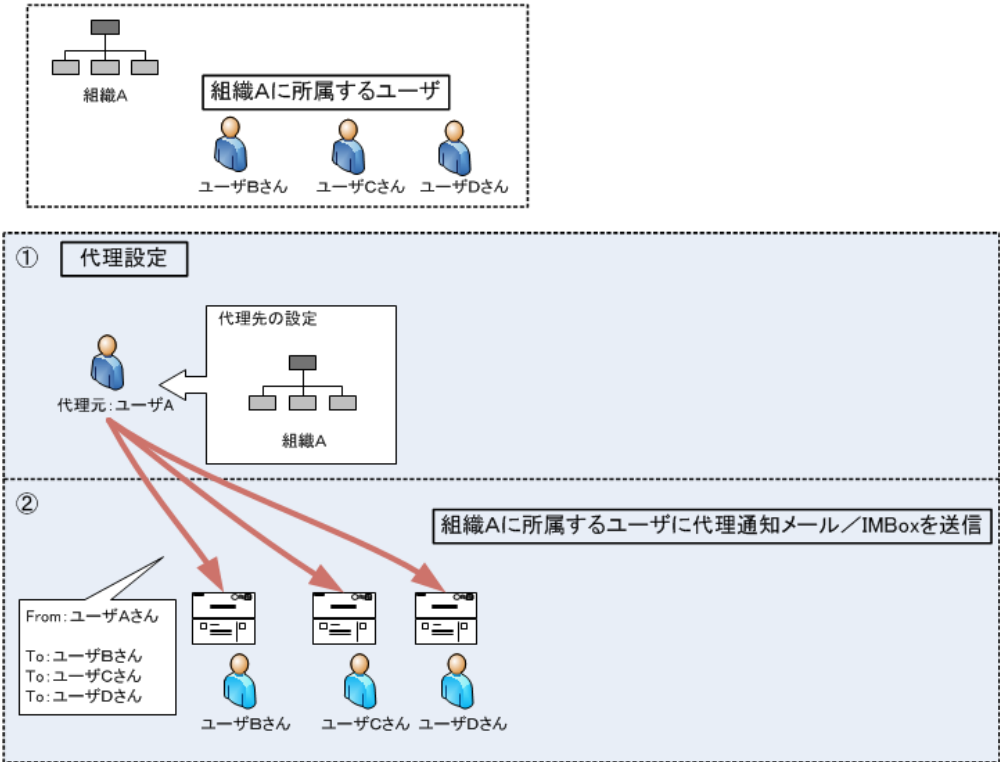
確認依頼



代理通知

代理先に対する代理依頼の通知です。

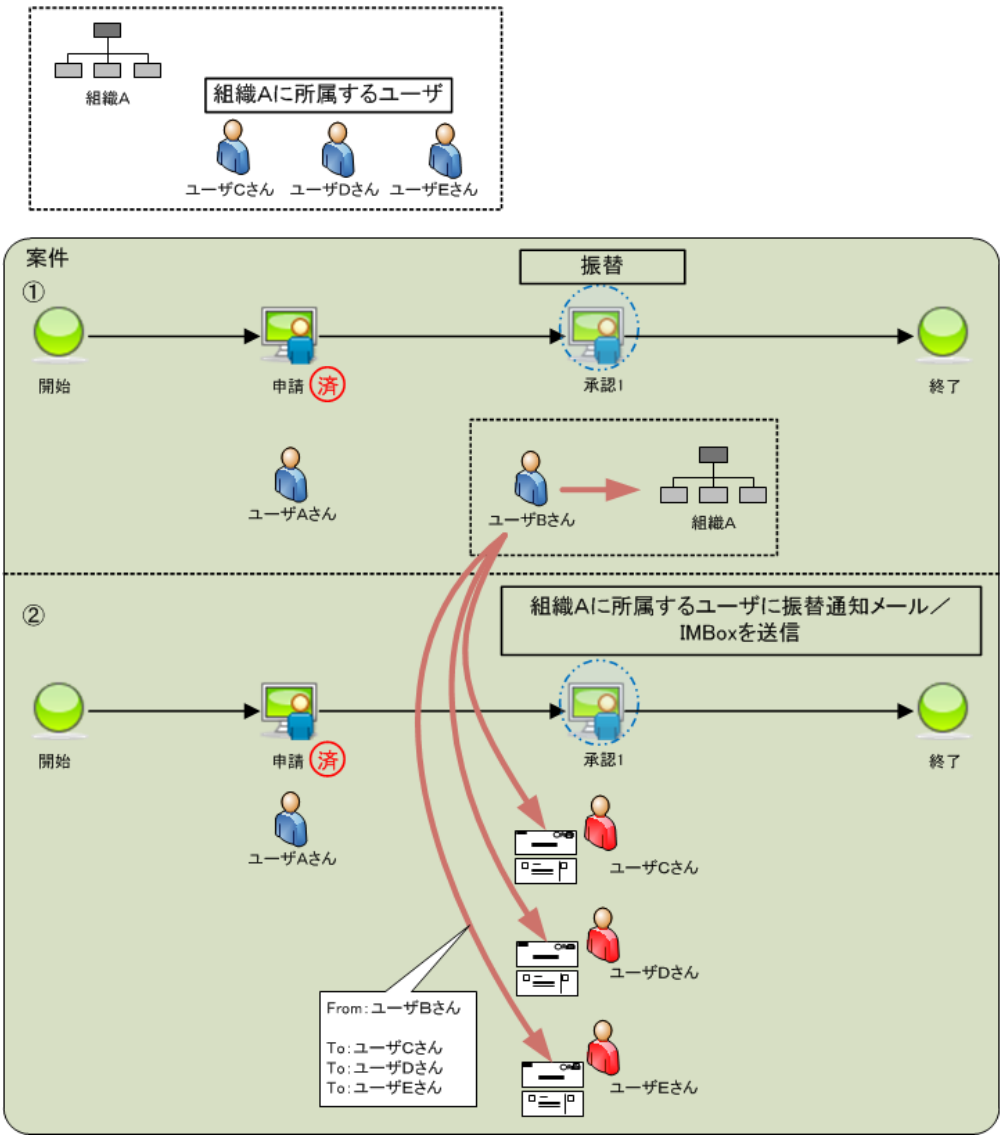
代理通知



振替通知

振替先に対する処理依頼の通知です。

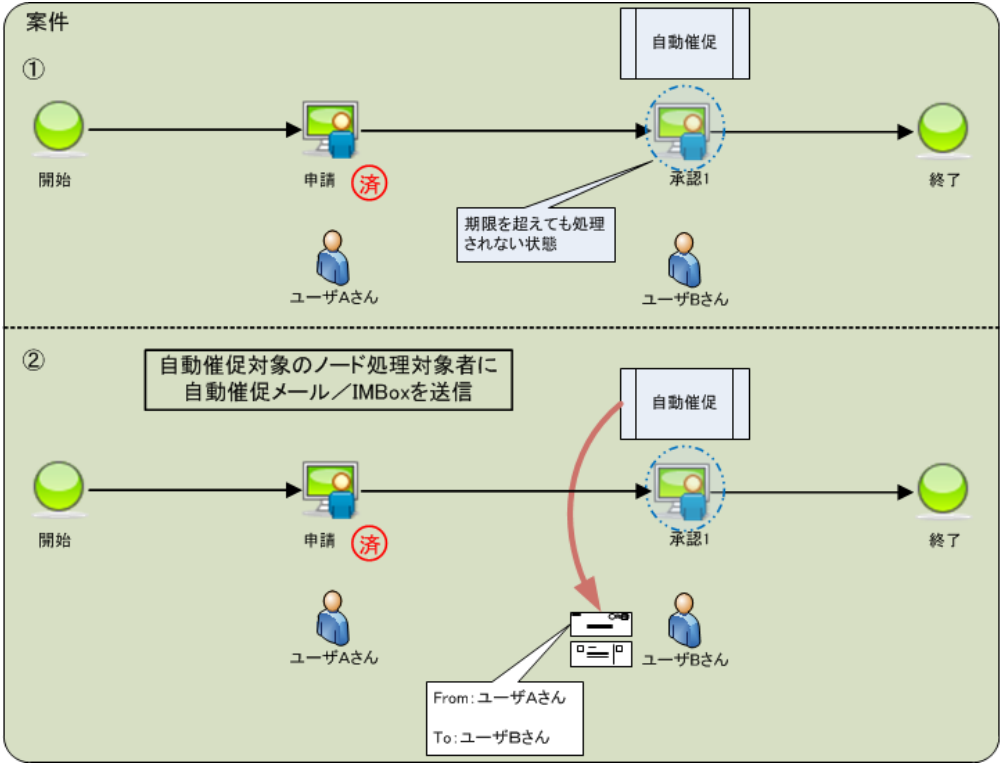
振替通知



自動催促

自動催促の対象となっているノードの処理対象者に対する処理催促の通知です。

自動催促



根回し

根回し先に対する根回し依頼の通知です。

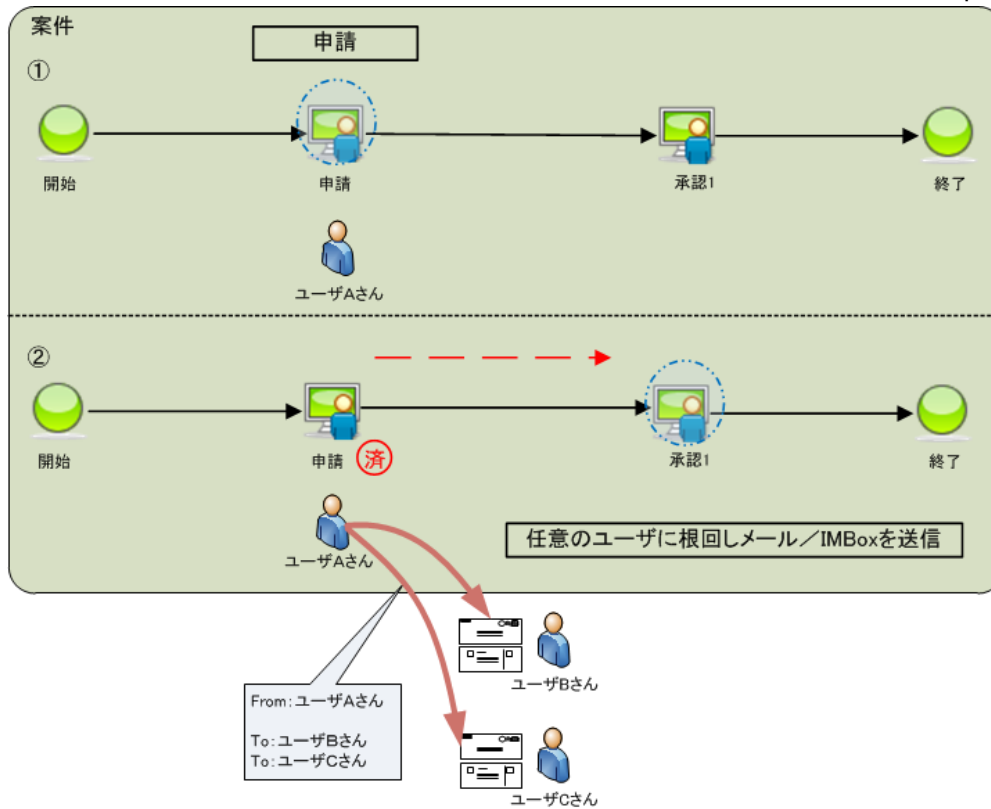
- テナント 単位設定「根回し機能の使用可否」で機能の使用可否の制御ができます。
- テナント 単位設定「通知種別」で、通知の種類の制御ができます。
- 上記の組み合わせによって、根回しの画面表示項目が変わります。

根回しの画面表示項目

		根回し機能の使用可否	
		true : 通知する	false : 通知しない
通知種別	0 : 通知しない	全非表示	全非表示
	1 : 通知に全て使用する	To、Cc、Bcc、件名、コメント	全非表示
	2 : 通知にメールのみを使用する	To、Cc、Bcc、件名、コメント	全非表示
	3 : 通知にIMBoxのみを使用する	To、コメント	全非表示

- 画面にCc、Bccが表示されている状態で通知先に IMBox を含む場合、IMBox の宛先にはCc、Bccで設定した宛先がマージされます。

根回し



メール／IMBox 置換文字列

IM-Workflow ではメール／IMBox 定義に「置換文字列」を記述することで、通知時にワークフローが持つ情報を埋め込むことができます。

- メール／IMBox 置換文字列として用意されているものは以下の通りです。
 - 処理対象者、処理権限者、処理者
 - 代理先、振替先
 - 根回し先
 - 申請基準日などの案件情報
 - 管理者が定義した案件プロパティ

個々の置換文字列と置換内容の詳細は、「IM-Workflow 仕様書 別紙」を参照してください。

- 置換文字列の形式は以下とします。
 - 開始文字列 + 置換文字列ID + 終了文字列

メール／IMBox 置換文字列の設定

置換文字列ID	開始文字列	終了
ASCII文字列	{^	^}

- 置換文字列内に開始文字列、終了文字列が存在する場合、開始文字列、終了文字列のエスケープは行いません。
置換文字列の例として「処理権権限者の名前」は以下の置換文字で表現します。
{^ Auth_User_Nm^}
- メール／IMBox 種別によって設定できる置換文字列が異なります。
メール／IMBox 種別で使用できない置換文字列がメールテンプレートにある場合、ワークフローは置換文字列をそのままメール／IMBox に出力します。
- ワークフローはメール／IMBox 種別とメール／IMBox 送信の元となった処理内容に従い置換文字列を置換します。
また、置換元の内容がNULLの場合は空文字で置換します。

その他置換に関する詳細は下記を参照してください。

案件プロパティの置換

「案件プロパティ定義」機能にて、置換文字列用として案件プロパティKeyを定義すると、メール／IMBox の置換文字列として案件プロパティが使用できます。

- 置換文字列の形式は以下とします。
 - 開始文字列 + “案件プロパティKey” + 終了文字列

intra-mart URLの置換

intra-martのURL

メール／IMBox 定義では、「intra-martのURL」 {^IM_URL^} を置換文字列として指定することができます。

「intra-martのURL」は、ショートカットアクセスURLに置換されてメール／IMBox 送信されます。

送信されたショートカットアクセスURLの遷移先は、「メール／IMBox 種別」と「クライアントタイプ」の組み合わせによって決定されます。

ショートカットアクセスURLの遷移先

メール／IMBox種別	クライアントタイプ	ショートカットアクセスURLの遷移先	備考
処理依頼	PC	[ユーザコンテンツ]処理画面	処理対象の案件の処理画面を表示します。
	スマートフォン	[ユーザコンテンツ]処理画面 (スマートフォン用)	
処理結果通知	PC	処理済一覧画面 (完了案件タブ)	-
	スマートフォン	申請済 (完了案件) 一覧画面	
参照依頼	PC	参照一覧画面 (未完了案件タブ)	-
	スマートフォン	参照 (未完了案件) 一覧画面	
確認依頼	PC	[ユーザコンテンツ]確認画面	確認対象の案件の確認画面を表示します。
	スマートフォン	[ユーザコンテンツ]確認画面 (スマートフォン用)	
代理通知	PC	代理元確認一覧画面 (代理タブ)	-
	スマートフォン	警告画面	
振替通知	PC	[ユーザコンテンツ]処理画面	処理対象の案件の処理画面を表示します。
	スマートフォン	[ユーザコンテンツ]処理画面 (スマートフォン用)	
自動催促	PC	[ユーザコンテンツ]処理画面	処理対象の案件の処理画面を表示します。
	スマートフォン	[ユーザコンテンツ]処理画面 (スマートフォン用)	
根回し	-	※ショートカットアクセスURLに 置換されません。 利用不可です。	置換文字列はそのまま出力されます。 根回しの場合、 「intra-mart のURL」と同様に、 「intra-mart のURLの有効期限」 {^IM_URL_Limit^}も置換されません。

intra-mart URL の置換を行う場合は、設定ファイル「conf/server-context-config.xml」のベースURL (base-url) を設定する必要があります。

設定方法については、「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」を参照してください。

ベースURLが設定されていない場合、メール／IMBox 種別に関わらず、「intra-martのURL」 および「intra-martのURLの有効期限」 が置換されない状態で出力されます。

案件詳細のURL

IM-Workflow 8.0.10(2015 Spring) より、案件の詳細画面へ遷移するショートカットアクセスURLの置換文字列が追加されました。

- 「案件詳細のURL」 {^Matter_Detail_URL^}

置換文字列 {^Matter_Detail_URL^} は、以下のメール／IMBox 種別のみ利用可能です。

他のメール／IMBox 種別で利用した場合は、置換されない状態で出力されます。

- 参照依頼
- 処理結果通知

置換されたショートカットアクセスURLの遷移先は、「intra-martのURL」の遷移先から表示する詳細画面です。

ベースURLを含まないintra-mart URL

IM-Workflow 8.0.10(2015 Spring) より、ベースURLを含まないショートカットアクセスURLの置換文字列が追加されました。

- 「ベースURLを含まないintra-martのURL」 {^IM_URL_No_BaseURL^}
- 「ベースURLを含まない案件詳細のURL」 {^Matter_Detail_URL_No_BaseURL^}

置換文字列 {^IM_URL_No_BaseURL^} {^Matter_Detail_URL_No_BaseURL^} は、ベースURLを含まないショートカットアクセスURLに置換されます。

- /user/shortcut/ <ショートカットID>

置換文字列 {^IM_URL_No_BaseURL^} で置換されたショートカットアクセスURLの遷移先は、「intra-martのURL」と同じです。

- <記述例> http://example.org/imart{^IM_URL_No_BaseURL^}

置換文字列 {^Matter_Detail_URL_No_BaseURL^} で置換されたショートカットアクセスURLの遷移先は、「案件詳細のURL」と同じです。

※参照依頼、処理結果通知のみ利用可能です。

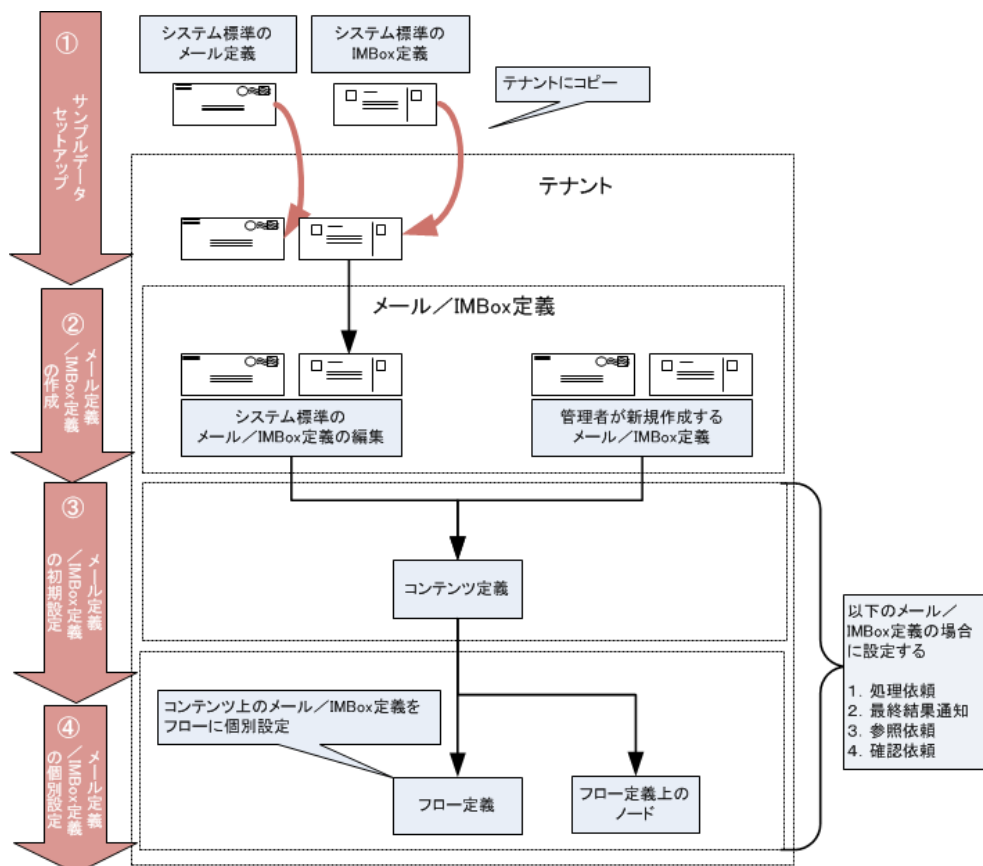
- <記述例> http://example.org/imart{^Matter_Detail_URL_No_BaseURL^}

メール／IMBox 定義の作成

IM-Workflow のメール／IMBox 機能からメール／IMBox 送信を行うためにはメール定義を作成する必要があります。

- システム標準のメール／IMBox は テナント環境 セットアップ時に テナント に対してインストールされます。
- システム標準のメール／IMBox は編集ができますが、削除できません。
- メール種別によって作成できるメール／IMBox 定義の数異なります。
 - 「処理依頼」、「処理結果通知」、「参照依頼」、「確認依頼」は新規で複数作成できます。
 - 「代理通知」、「振替通知」、「自動催促」、「根回し」は新規作成、および複製できません。テナント 内で1つです。

メール／IMBox 定義の作成の全体像



メール／IMBox 定義の設定

案件の処理で「処理依頼」、「処理結果通知」、「参照依頼」、「確認依頼」を利用するためには、メール／IMBox 定義の作成後、メール／IMBox 定義をコンテンツ定義、フロー定義にする必要があります。

以下がメール／IMBox 定義の設定の流れです。

- メール／IMBox 定義をコンテンツ定義へ設定する。
- コンテンツ定義をフロー定義へ設定する。

3. 一部のフロー定義やノードのみ初期設定と異なるメール／IMBox を送信したい場合、コンテンツ定義のメール／IMBox をフロー定義に個別設定する。（必須ではない）

詳細については下記を参照してください。

メール／IMBox 定義とコンテンツ定義

メール／IMBox 定義をフロー定義の初期設定として使用したい場合、メール／IMBox 定義をコンテンツ定義に紐づける必要があります。動作仕様は以下の通りです。

- コンテンツ定義には同一種別のメール／IMBox 定義を複数件登録できます。
- コンテンツ定義上のメール／IMBox 定義は「初期設定」と呼ぶ設定を持ちます。
コンテンツ定義に初期設定としたメール／IMBox 定義が設定されている場合、ワークフローはフロー定義の初期設定としてメール／IMBox 定義を使用します。
- 管理者がコンテンツ定義バージョンを新規作成した場合、ワークフローはシステム標準メール／IMBox を自動的にコンテンツに設定します。

メール／IMBox 定義とコンテンツ定義

コンテンツ定義			
メール／IMBox 定義	メール／IMBox 種別	システム標準	初期設定
システム定義1	処理依頼	○	○
システム定義2	処理結果通知	○	○
システム定義3	参照依頼	○	○
システム定義4	確認依頼	○	○
ユーザ定義1	処理依頼		
ユーザ定義2	処理結果通知		
ユーザ定義3	参照依頼		
ユーザ定義4	確認依頼		○

コンテンツを新規作成するとシステム標準メール／IMBox が自動で設定される

管理者が作成したメール／IMBox 定義も設定できる

メール／IMBox 定義とフロー定義の初期設定

コンテンツ定義をフロー定義に設定することで、コンテンツ定義上のメール／IMBox 定義がフロー定義に関連付けされます。ワークフローは案件処理中、フロー定義に設定したメール／IMBox 定義を元にメール／IMBox の送信を行います。

- フロー定義で扱うことのできるメール／IMBox はコンテンツ定義に設定したメール／IMBox 定義のみです。
- フロー定義には同一種別のメール／IMBox 定義を複数件登録できます。
複数件登録した場合、案件処理時に登録件数分のメール／IMBox が送信されます。
- 「初期設定」のメール／IMBox 定義の場合、ワークフローは「メール／IMBox 種別」に従って、メール／IMBox 定義とフロー定義と関連付けします。
- フロー定義に初期設定したメール／IMBox 定義は解除することができます。
解除したメール／IMBox は案件処理時に送信されません。

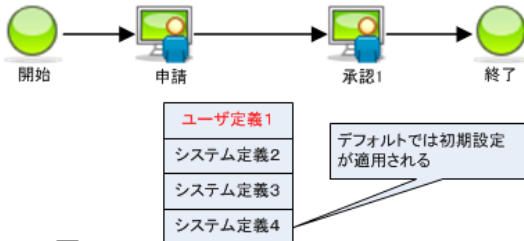
コンテンツ定義とフロー定義

コンテンツ定義

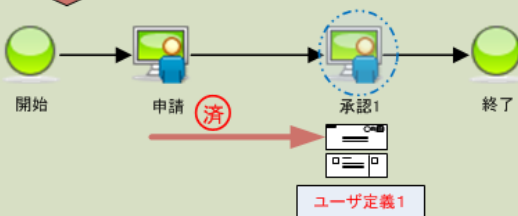
メール／IMBox 定義	メール／IMBox 種別	システム標準	初期設定
システム定義1	処理依頼	○	
システム定義2	処理結果通知	○	○
システム定義3	参照依頼	○	○
システム定義4	確認依頼	○	○

ユーザ定義1	処理依頼		○
--------	------	--	---

フロー定義



案件



メール／IMBox 定義とフロー定義の個別設定

フロー定義上にメール／IMBox 定義を個別設定することで、指定したノードのみ他のノードと別のメール／IMBox を送ることができます。

メール／IMBoxの個別設定

コンテンツ定義

メール/IMBox 定義	メール/IMBox 種別	システム標準	初期設定
システム定義1	処理依頼	○	
システム定義2	処理結果通知	○	○
システム定義3	参照依頼	○	○
システム定義4	確認依頼	○	○

ユーザ定義1	処理依頼		○
個別設定1	処理依頼		

フロー定義



ユーザ定義1
システム定義2
システム定義3
システム定義4

個別設定1

承認2ノードだけ処理依頼メール／IMBoxを個別設定する

案件



ユーザ定義1

個別設定1

初期設定のメール／IMBoxが送信される

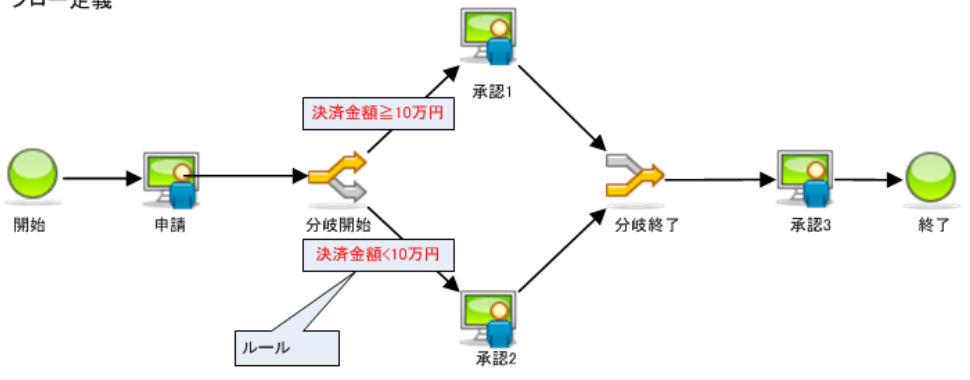
個別設定のメール／IMBoxが送信される

ルール

IM-Workflow では、「ルール定義」を使用して分岐開始ノードでの分岐の判断、および分岐終了ノードでの分岐終了の判断を行うことができます。

ルールの例

フロー定義



分岐開始ノード、分岐終了ノードに到達した場合、ワークフローは分岐開始ノード、分岐終了ノードに設定されたルールを評価します。評価結果が真の場合は次のノードに遷移します。

ルール定義については下記を参照してください。

ルール定義

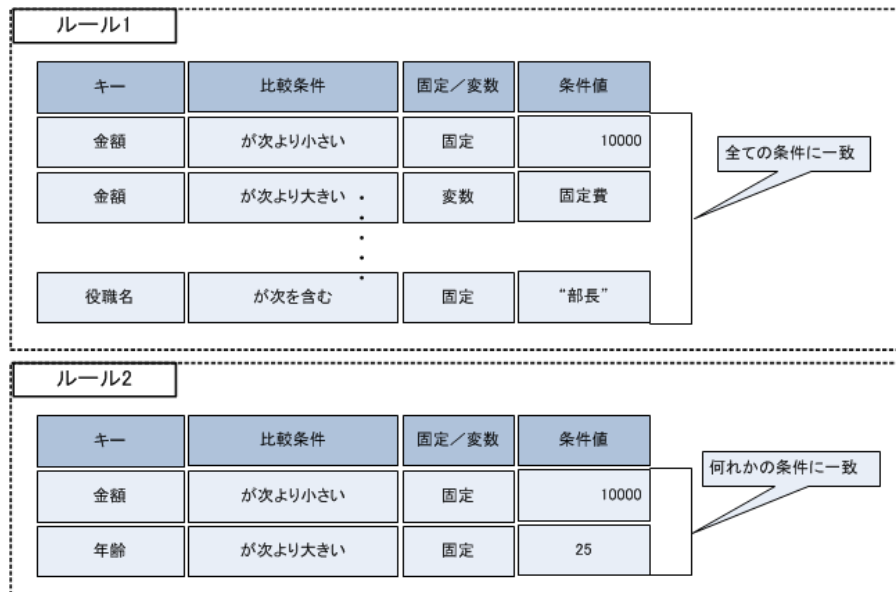
ルール定義は「ルール定義」機能で作成します。

- ルール定義は1から10個の「条件」を指定できます。
- 「条件」は以下の要素から成り立ちます。

「キー」-「比較条件」-「条件値」⇒キーと条件値を比較条件で比較します。

- 「キー」にはルール用に定義した案件プロパティKeyを指定できます。
- 「比較条件」は「～と一致する」などの比較条件を選択できます。
- 「条件値」はルール用に定義した固定値、または変数（案件プロパティKey）を指定できます。
- 複数の条件を「全ての条件に一致」または「何れかの条件に一致」で結ぶことができます。
- 条件では以下の比較ができます。
 - 案件プロパティと固定値との比較
 - 案件プロパティと変数（案件プロパティ）の比較

ルール定義と条件



- 比較条件として以下を使用できます。

ルール定義で使用できる比較条件

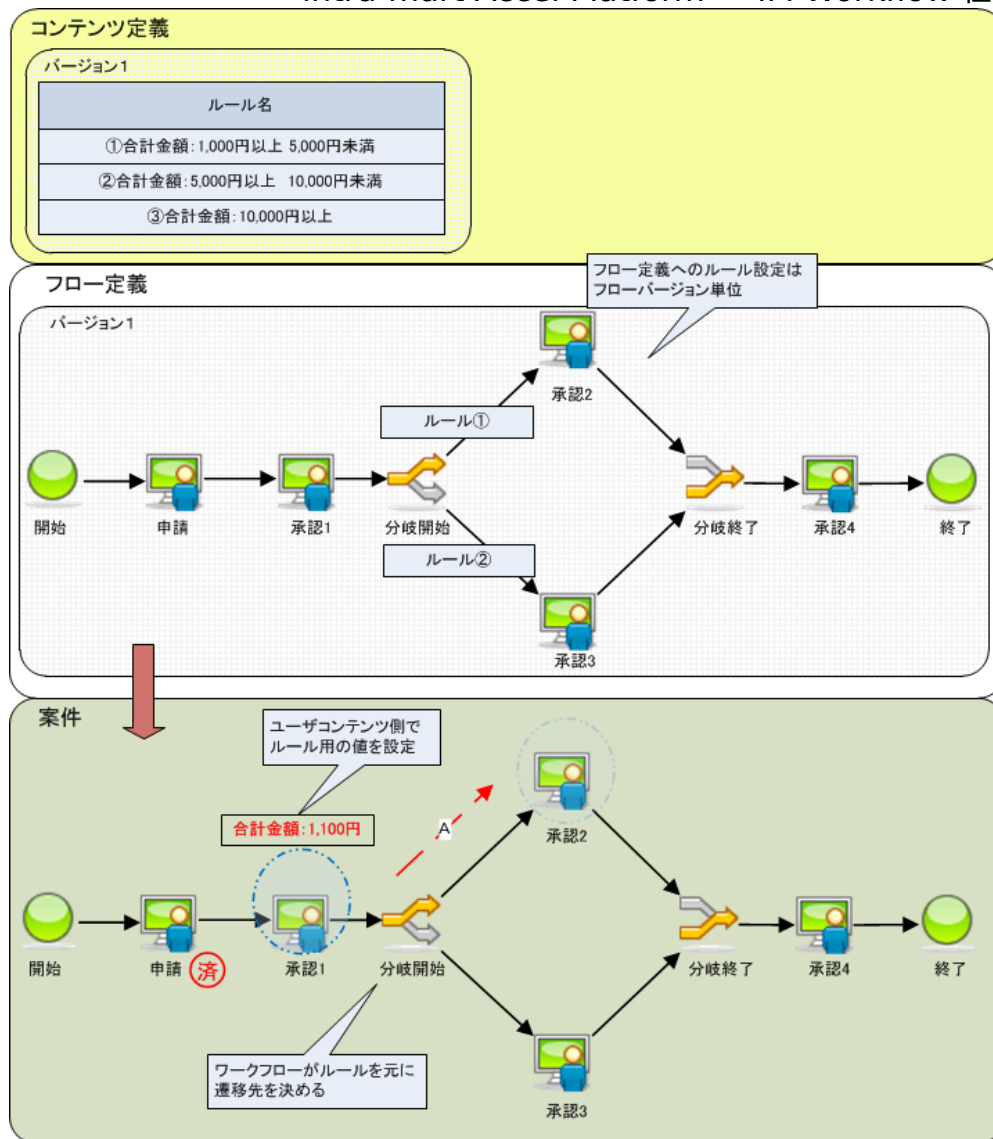
使用可能な型	条件	説明
数値文字列	が次と一致する	キー = 比較値
	が次と異なる	キー != 比較値
	が次の何れかと一致する	キー IN (比較値1, 比較値2...)
数値	が次より大きい	キー > 比較値
	が次以上	キー ≥ 比較値
	が次より小さい	キー < 比較値
	が次以下	キー ≤ 比較値
	に次を含む	キー like % 比較値 %
文字列	に次を含まない	!(キー like % 比較値 %)
	が次で始まる	キー like 比較値 %
	が次で終わる	キー like % 比較値

ルール定義の設定

ワークフローでルールを利用するためには、ルール定義をフロー定義に個別設定する必要があります。

- ルール定義はフロー定義に個別設定しますので、コンテンツバージョンやルートバージョンが複数ある場合、ルールはバージョン毎に設定できます。
- 分岐開始ノードの遷移するルート毎にルールを1つずつ設定できます。
- 分岐終了ノードに対してルールを1つ設定できます。

ルール定義の設定



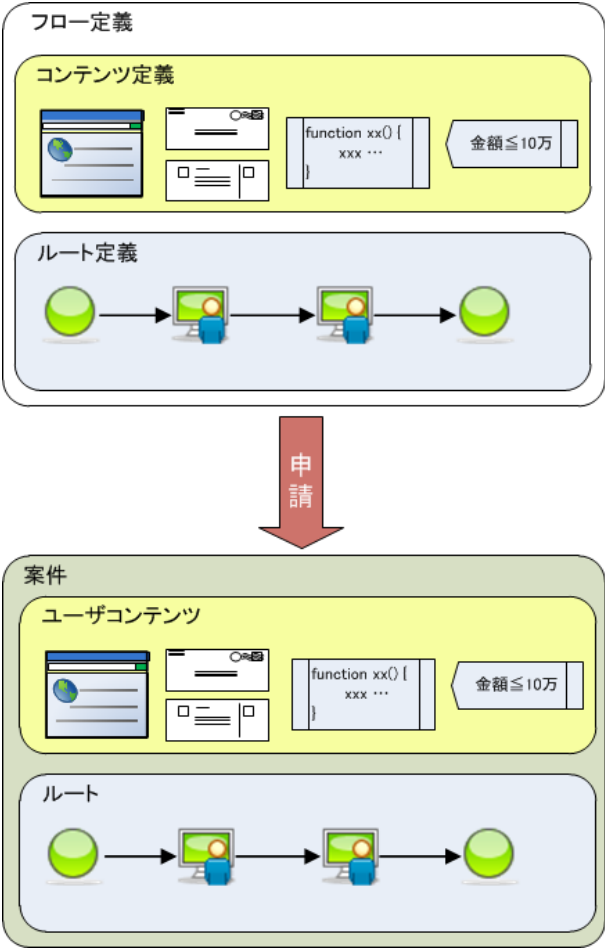
案件

利用者がフロー定義を選択して申請を行うと、ワークフローは処理を開始します。
IM-Workflow ではワークフローの処理を「案件」と呼びます。

案件の動作仕様

- 案件はワークフローの処理を表す情報です。
案件は申請を行う度にフロー定義から作成されます。
- 案件は案件開始時点のフロー定義、コンテンツ定義、ルート定義を保持します。
ワークフローは案件が持つコンテンツ定義とルート定義に従って処理を進めます。
- 承認によって「終了ノード」へ進んだ場合、および「承認終了」、「否認」、「取止め」を行うことにより案件は終了します。

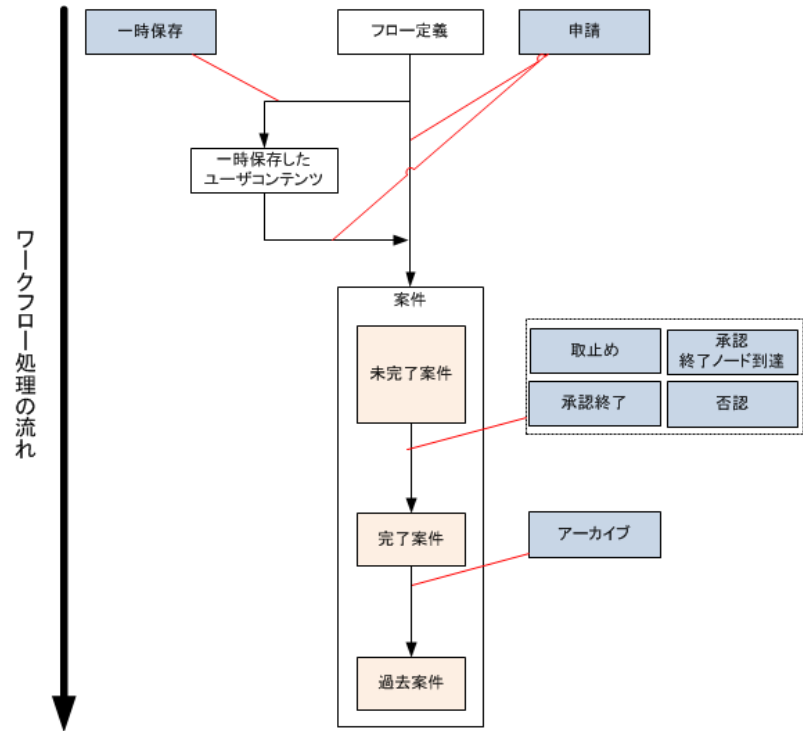
案件



ワークフロー処理の流れ

案件の開始後、利用者の処理内容に応じてワークフローの処理状態が変わります。
処理の流れと処理状態は以下の通りです。

ワークフロー処理の流れ



ワークフロー処理の状態

状態	説明
一時保存	申請前のユーザコンテンツを一時的に保存した状態

状態	説明
未完了案件	申請により案件が開始した後、まだ案件が完了していない状態
完了案件	案件が完了した状態 この状態から案件を処理することはできません
過去案件	完了案件が「アーカイブ機能」によりアーカイブ領域に退避された状態 この状態から案件を処理することはできません

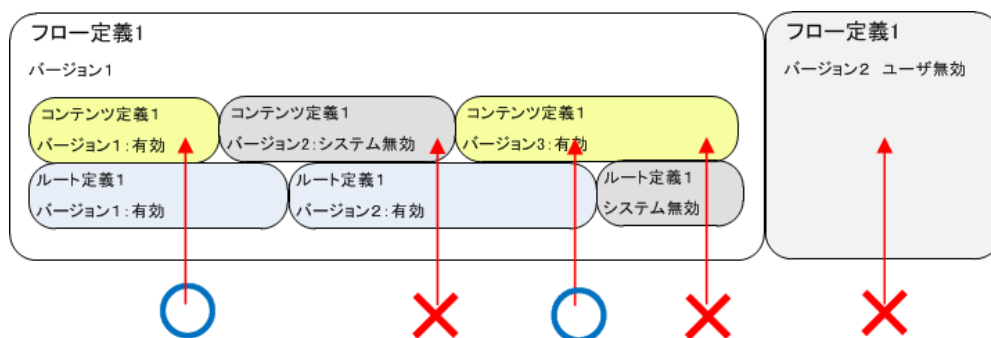
案件と申請基準日

申請者は案件を開始する際に「申請基準日」を指定することができます。

申請基準日はワークフローが処理を行う際の基準日で、ワークフローは指定された「申請基準日」で特定したフロー定義、コンテンツ定義、ルート定義のバージョンから案件を作成します。

- 申請時に指定する基準日時点でのコンテンツ定義、ルート定義、フロー定義の組み合わせにユーザ無効バージョンやシステム無効バージョンを含む場合は、その基準日での申請はできません。

無効バージョンを含む場合は申請できない



- 「申請基準日」は日付によって下表の3つに分類されます。

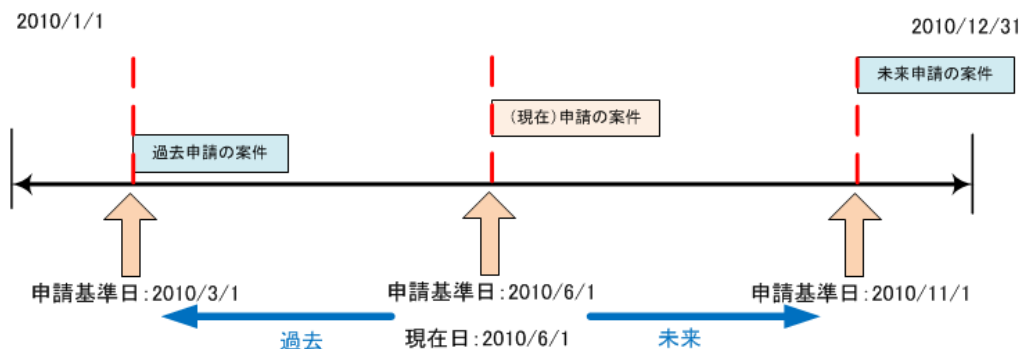
申請基準日の分類

申請基準日の分類	定義	申請の名称
過去日付	申請基準日が現在日付より前（過去）の日付	過去申請
現在日付	申請基準日が現在日付	（現在）申請
未来日付	申請基準日が現在日付より後（未来）の日付	未来申請

上表の右側の「申請の名称」とは各申請基準日の分類で申請した場合の名称です。

- 案件を過去日付で申請することを「過去申請」と呼びます。
- 案件を未来日付で申請することを「未来申請」と呼びます。

過去申請、現在申請、未来申請

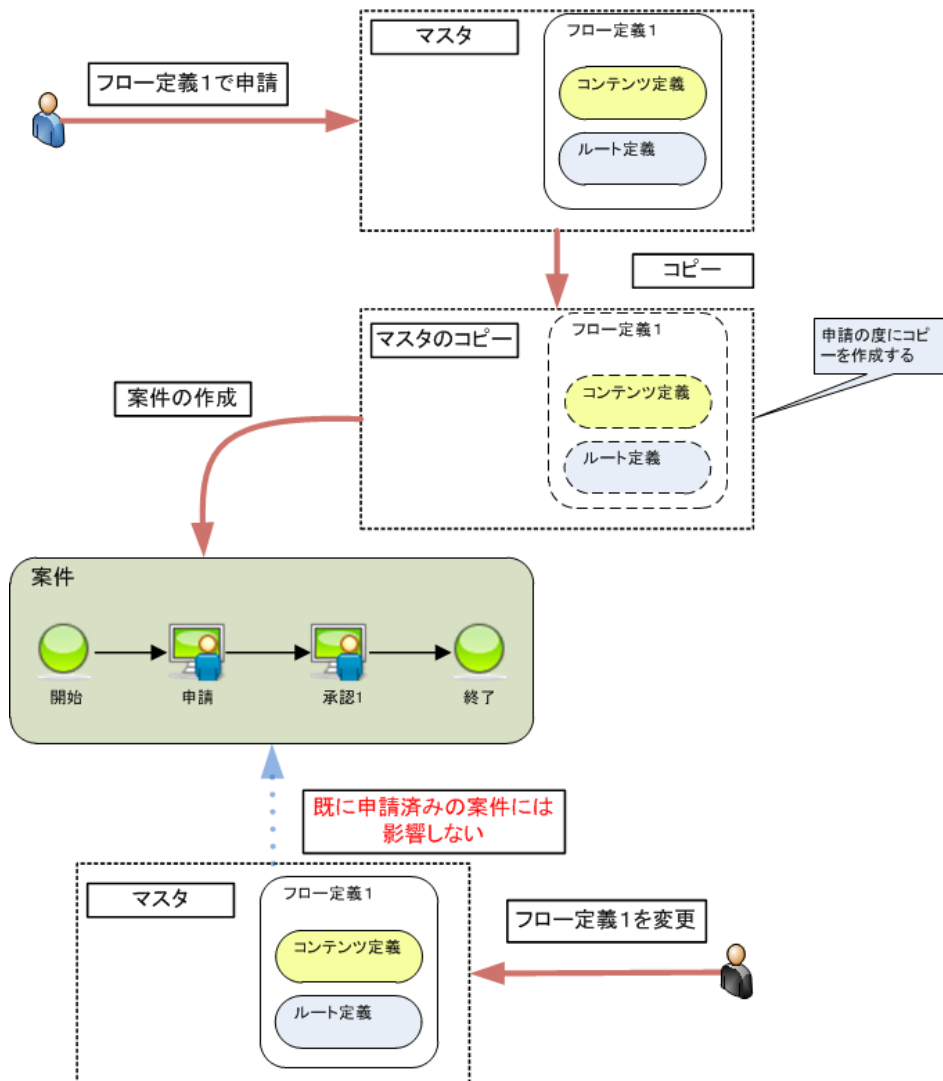


案件とフロー定義の関係

案件を開始すると、ワークフローは申請基準日時点で有効なフロー定義、コンテンツ定義、ルート定義のコピーを作成します。

以降、ワークフローはこのコピーをマスタとして案件を処理します。

従って案件の開始後にフロー定義、コンテンツ定義、ルート定義を変更しても、既に開始している案件には影響を与えません。



案件とユーザコンテンツの関係

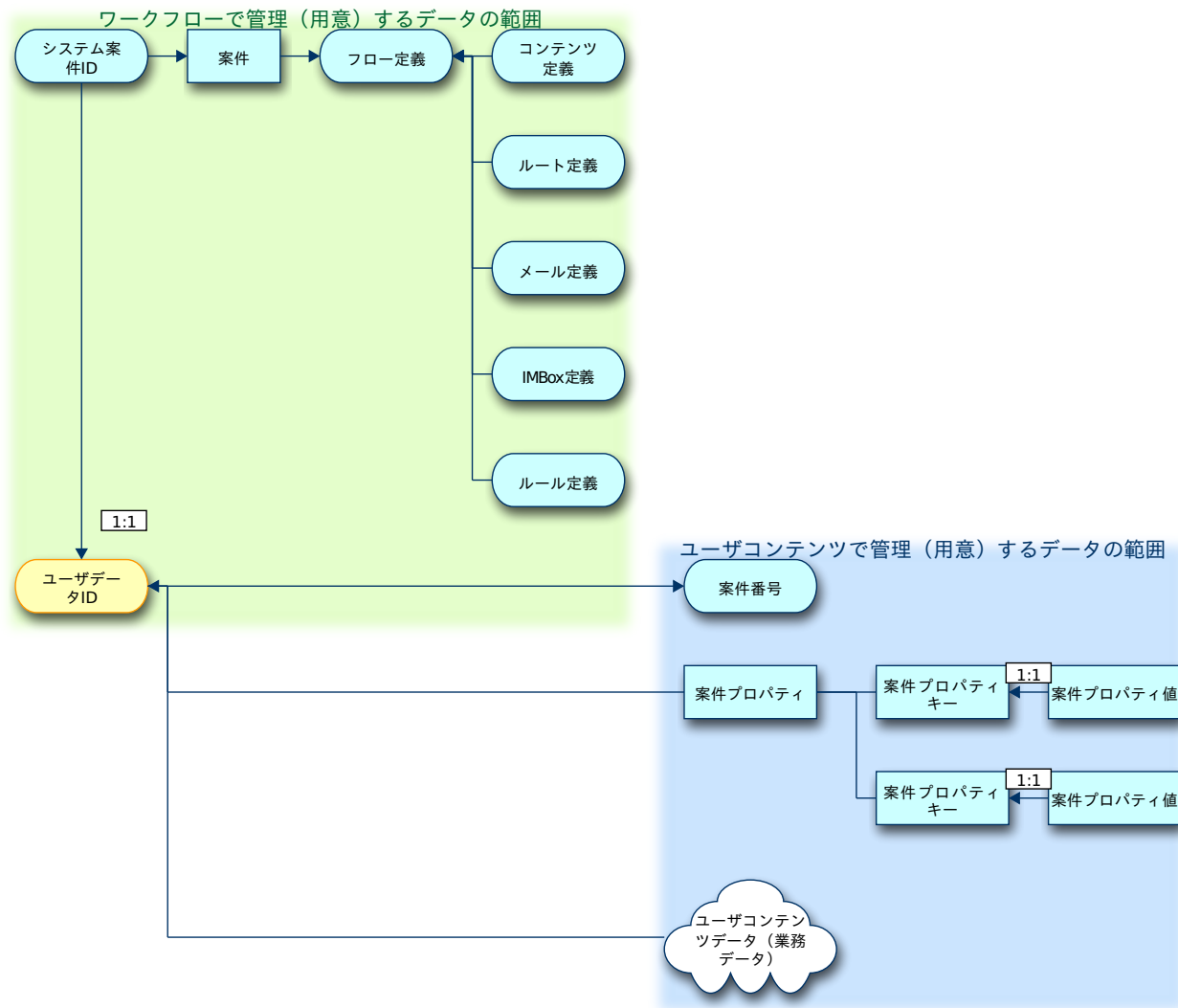
IM-Workflow ではワークフローが案件からユーザコンテンツ（画面やユーザプログラムなど）を特定するために、案件とユーザコンテンツを一意に示すIDを用意しています。
この一意のIDを「システム案件ID」、「ユーザデータID」と呼びます。

連携用のID

識別	説明
ユーザデータID	ユーザコンテンツ側が案件を一意に特定するためのIDです。 ユーザコンテンツ側で採番します。 採番のタイミングは任意です。案件の開始前に採番してもかまいません。 申請時にユーザコンテンツ側がワークフロー側に引き渡す必要があります。
システム案件ID	ワークフロー側が案件を一意に特定するためのIDです。 ワークフロー側で採番します。 システム内部で使用するIDであり、外部からの指定はできません。
案件番号	画面、帳票でユーザが案件を識別するためのIDです。 ユーザが独自に採番して、申請時にユーザコンテンツ側がワークフロー側に引き渡す必要があります。 ※標準では連番を採番するサンプルを提供しています。

ユーザコンテンツはシステム案件IDを使用してワークフローに問い合わせることにより、案件の状態を取得することができます。
下図が案件とユーザコンテンツの連携イメージです。

案件とユーザコンテンツの連携イメージ



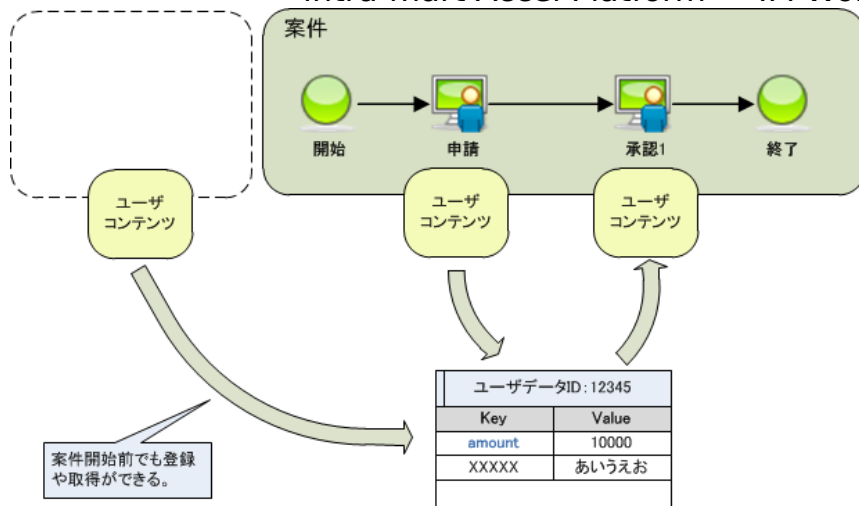
案件プロパティについては下記を参照してください。

案件プロパティ

案件処理中にユーザコンテンツ固有の業務データを保持したい場合、「案件プロパティ」を使用して業務データを保持できます。

- 案件プロパティはKey & Value形式とします。
- Keyは案件内（ユーザデータID）で一意とします。
- 案件プロパティはワークフロー側の処理の影響を受けません。
- 案件プロパティの登録・取得は任意のタイミングで行えます。
 - 案件が開始する前の状態でも登録・取得ができます。
- ユーザコンテンツがKey指定でプロパティ値の登録・取得を行うことができます。
- 同一案件上の複数の画面の間、複数のユーザプログラムの間などでプロパティ値の共有ができます。

ユーザコンテンツと案件プロパティ

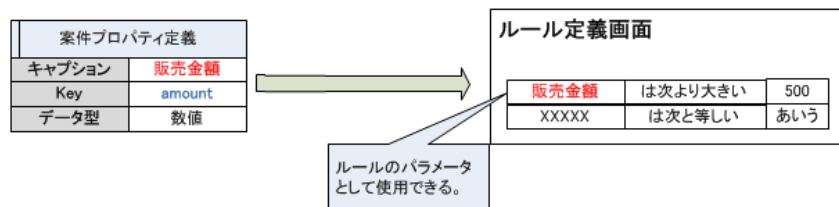


案件プロパティのKeyを「案件プロパティ定義」機能でシステム一意に設定することで、下記機能で案件プロパティを使うことができます。

- ルールが判定するパラメータとして案件プロパティキーの選択ができます。

案件プロパティ定義の動作

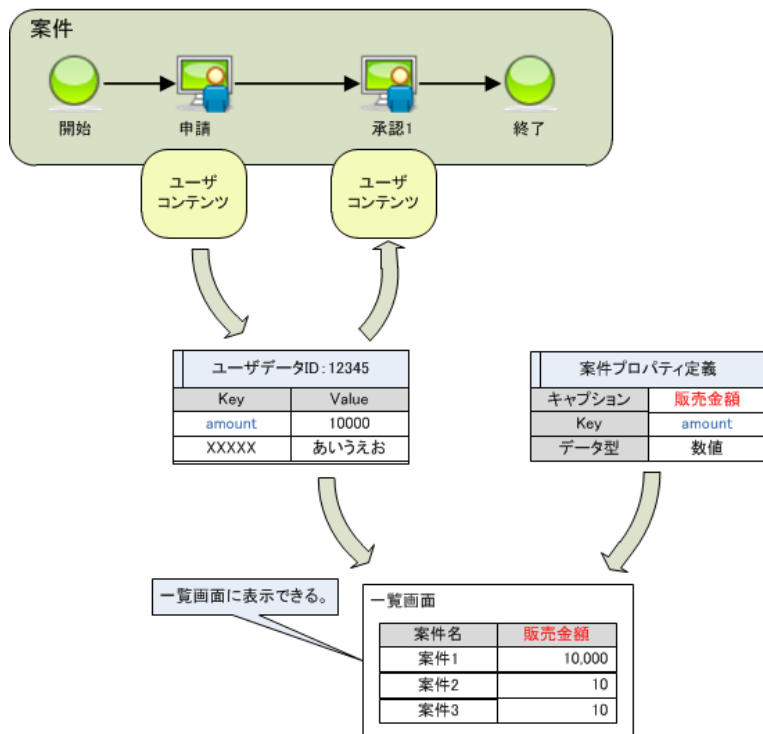
ルール定義画面での使用



- 案件を一覧表示する画面で案件プロパティキーに対応するプロパティ値の表示ができます。

案件プロパティ定義の動作

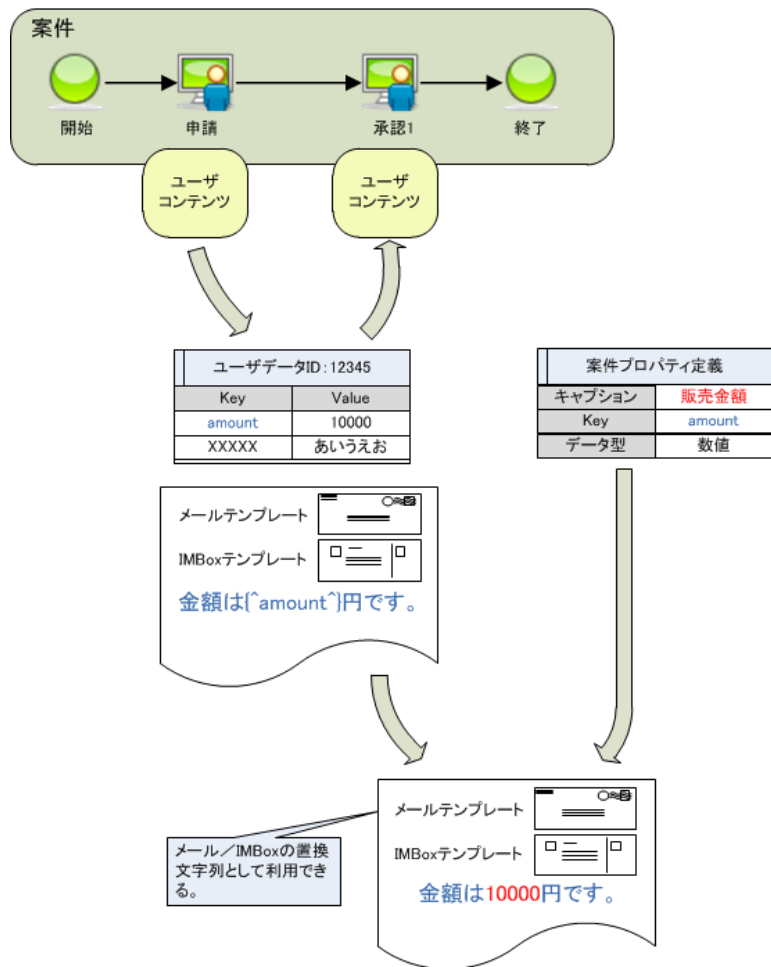
一覧画面での使用



- メール／IMBox テンプレートの置換文字列として案件プロパティキーを使用できます。

案件プロパティ定義の動作

メール/IMBoxテンプレートでの使用

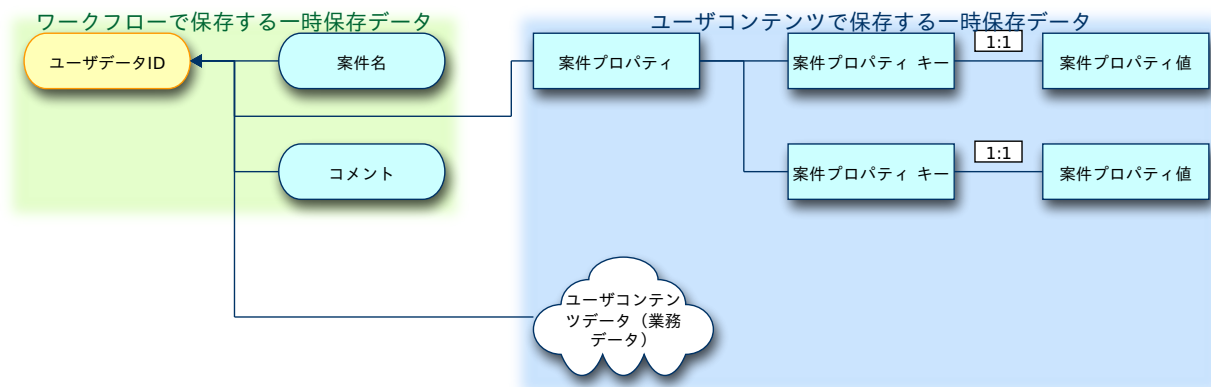


一時保存

「一時保存」機能を使用すると、申請を行う前の入力状態を保存することができます。

- 1つのフロー定義に対して何回でも一時保存ができます。
- 1度一時保存したデータに対して何回でも更新ができます。
- ユーザーデータIDは一時保存情報のキーとして扱われますので、ユーザーコンテンツ側で必ず採番してください。
- ワークフロー側で一時保存するデータは、ユーザーデータID、案件名、コメントが対象です。
ユーザーコンテンツ側の業務データは保存しませんので、ユーザーコンテンツ側で保存してください。
- 一時保存から申請を行うと、一時保存データは削除されます。
- 一時保存機能はテナント単位設定「一時保存機能の使用可否」で使用可否の制御ができます。

一時保存



案件と一覧の関係

案件を処理・参照するには、各種一覧画面を利用します。

各種一覧画面には、案件の状態や案件に対する役割に基づいて表示できる案件が異なります。

目次

- 申請一覧
- 案件一覧
- 一時保存一覧
- 未処理一覧
- 処理済一覧（未完了/完了）
- 確認一覧（未完了/完了）
- 参照一覧（未完了/完了）
 - 利用者
 - ワークフロー運用管理者
 - ワークフローシステム管理者
- 過去案件一覧
 - 利用者
 - ワークフロー運用管理者
 - ワークフローシステム管理者

申請一覧

- 当該画面は 2019 Spring(Violette) より追加されました。
- 申請一覧にはフロー機能とブックマーク機能があります。
- フロー機能はログインユーザ自身が申請可能なフローを一覧表示する機能です。フローグループを選択してフローを絞り込み表示する機能があります。
 - 申請一覧でフローを選択するとは
 - 申請一覧にはフローグループをツリー構造で表示する項目があります。ツリー構造内のフローグループを 1 つ選択できます。
- ブックマーク機能はログインユーザ自身がブックマークしたフローだけを表示する機能です。

案件一覧

- 当該画面は 2019 Spring(Violette) より追加されました。
- 案件一覧には案件表示機能とMy検索機能があります。
- 案件表示機能はログインユーザが案件を処理・参照するための情報をタスクステータスに分類して表示する機能です。
 - タスクステータスの設定および説明は「[案件一覧の設定](#)」を参照ください。
 - タスクステータスに分類された各種一覧には、フローグループまたはフローを選択して案件を絞り込み表示できます。
 - タスクステータスに分類された各種一覧でフローグループまたはフローを選択するとは
 - タスクステータスに分類された各種一覧にはフローグループ/フローをツリー構造で表示する項目があります。ツリー構造内のフローグループまたはフローを 1 つ選択できます。
- My検索機能はログインユーザ自身で案件を絞り込んだ検索条件を再利用できる機能です。
 - タスクステータスに分類された各種一覧でフローグループまたはフローを選択して表示された案件に対して、検索条件を指定して更に絞り込み表示した情報を登録できます。
- 確認一覧（未完了/完了）との相違点
 - 未確認（完了案件）で、確認不可の案件は表示しません。
 - 確認済（未完了/完了案件）で、「連続確認」「一括確認」「確認」はできません。

一時保存一覧

- 一時保存一覧には、申請ノードで一時保存を行った案件が表示されます。
- 対象はログインユーザ自身が一時保存を行った案件に限定されます。
代理先として一時保存を行った場合には、一時保存を行った代理先の一時保存一覧には表示されますが、代理元の一時保存一覧には表示されません。

未処理一覧

- 未処理一覧には、起票や申請、承認後の処理待ちの案件が表示されます。
- 対象の案件の処理待ちノードに対する「案件の処理権限者（代理元）」または「案件の処理実行者（代理先）」に合致する場合、未処理一覧に該当の案件が表示されます。
代理先の場合、案件の処理権限者（代理元）に対する代理設定期間がシステム日時点で有効であれば案件が表示されます。
- 処理待ちノードに設定されている処理対象者が複数のユーザの場合、該当するユーザ全ての未処理一覧に案件が表示できます。
- 処理対象者に該当するユーザが存在する場合、以下に該当する処理が行われると未処理一覧には該当の案件が表示されなくなります。
 - 申請・再申請
 - 承認
 - 否認
 - 差戻し
 - 取止め

未処理一覧に案件が表示できる処理対象者は、処理中のノードに到達する前の処理によって以下のとおり異なります。

- 前のノードからの遷移（申請・承認等で進める場合）
 - 申請基準日時点で処理対象者に設定されたプラグインの展開結果に含まれているユーザすべて
 - 上の条件に加えて、システム日時点で対象の処理権限者（代理元）に対する代理期間が有効な代理先ユーザ
- 後のノードからの遷移（引戻し・差戻しを行う場合）
 - 差戻しの場合は、差戻し前に差戻し先ノードの処理を実行した処理対象者（代理元・代理先）
 - 引戻しの場合は、引戻しを実行した処理対象者（代理元・代理先）

引戻し・差戻しでは、実際に処理を行ったユーザ以外には展開されません。

そのため、処理を行ったユーザを削除、または無効にした場合には、処理対象者なしの案件として扱われます。

この場合、すべてのユーザの未処理一覧には該当の案件が表示されません。

処理対象者なしの案件は「[処理対象者無し検出ジョブ](#)」によって検知できます。

処理済一覧（未完了/完了）

- 処理済一覧には、処理権限者・処理実行者（代理先）・一部の案件操作権限者（※1）によって処理が行われた案件を表示します。
- 特定の案件に対し、以下の操作を行った案件が表示されます。
 - 申請・再申請
 - 承認
 - 否認
 - 差戻し
 - 取止め

※1

案件操作権限者（参照者）の場合、以下の案件操作を実行すると処理済一覧に案件が表示されます。

- ノード移動（進む）
- ノード移動（終了）
- 保留解除



コラム

- [組織フィルタリング設定](#) を有効に設定している場合には、一覧を表示したシステム日時点のログインユーザの所属組織が案件処理時の担当組織と一致しない案件は一覧に表示されません。

確認一覧（未完了/完了）

確認については、[確認](#) も併せて参照してください。

- 確認一覧には、確認対象者によって確認可能状態の案件を表示します。
「確認可能状態」の詳細は [確認対象者の展開](#) を参照してください。
案件完了後の案件については、フロー定義で「案件完了後の確認可否設定」が無効の場合、一覧に案件が表示されますが、確認処理は実行できません。

参照一覧（未完了/完了）

- 参照一覧は、利用者・ワークフロー運用管理者・ワークフローシステム管理者によって表示が異なります。

利用者

ここでは、利用者向けメニューに表示される「参照一覧」について説明します。

- 利用者向けの参照一覧の場合、ユーザがフロー定義・案件の「案件操作権限者（参照者）」である案件を表示します。
- フロー定義に対して案件操作権限者（参照者）を設定している場合、起票・申請前に設定されたユーザが対象です。
申請・起票後に設定した場合、案件操作またはジョブによる「参照者の再展開」が必要です。

ワークフロー運用管理者

ここでは、ワークフロー運用管理者向けメニューに表示される「参照一覧」について説明します。

- ワークフロー運用管理者向けの参照一覧の場合、「管理グループ」に設定されたフロー定義に基づく案件を表示します。
管理グループの詳細については、[管理グループによる権限制御](#) を参照してください。
- ワークフロー運用管理者に設定されたタイミングが起票・申請より後の案件に対しても、一覧に表示できます。
この際、「参照者の再展開」の実行は不要です。

ワークフローシステム管理者

ここでは、ワークフローシステム管理者向けメニューに表示される「参照一覧」について説明します。

- ワークフローシステム管理者向けの参照一覧の場合、すべての案件を表示します。
- ワークフローシステム管理者に設定されたタイミングが起票・申請より後の案件に対しても、一覧に表示できます。この際、「参照者の再展開」の実行は不要です。

過去案件一覧

- 過去案件一覧は、利用者・ワークフロー運用管理者・ワークフローシステム管理者によって表示が異なります。

利用者

ここでは、利用者向けメニューに表示される「過去案件一覧」について説明します。

利用者向けの「参照一覧」の対象の案件に対する権限については「[参照権限](#)」も併せて参照してください。

- 利用者向けの過去案件一覧の場合、「処理権限者として処理が行われた」案件が表示対象です。
- 代理先・案件操作権限者（参照者）・確認対象者は、アーカイブ時に案件退避リスナー等による設定が行われなかった場合には表示されません。
- 案件操作権限者（参照者）が特定の案件操作（ノード移動（進む・終了）、保留解除）を行った場合には、処理権限者として扱われるため、該当の案件が過去案件一覧に表示されます。



コラム

- [組織フィルタリング設定](#) を有効に設定している場合には、一覧を表示したシステム日時点のログインユーザの所属組織が案件処理時の担当組織と一致しない案件は一覧に表示されません。

ワークフロー運用管理者

ここでは、ワークフロー運用管理者向けメニューに表示される「過去案件一覧」について説明します。

- ワークフロー運用管理者向けの過去案件一覧の場合、「管理グループ」に設定されたフロー定義に基づく案件を表示します。管理グループの詳細については、[管理グループによる権限制御](#)を参照してください。
- ワークフロー運用管理者に設定されたタイミングがアーカイブの実行より後の案件に対しても、一覧に表示できます。

ワークフローシステム管理者

ここでは、ワークフローシステム管理者向けメニューに表示される「過去案件一覧」について説明します。

- ワークフローシステム管理者向けの過去案件一覧の場合、すべての案件を表示します。
- ワークフローシステム管理者に設定されたタイミングがアーカイブの実行より後の案件に対しても、一覧に表示できます。

処理対象

利用者が特定のフロー定義で申請や承認をするためには、「処理対象」の設定が必要です。

処理対象として案件を処理できるユーザは「処理権限者」「代理先」「振替先」です。

利用者はこれらのユーザとして案件の処理を行います。

詳細については下記を参照してください。

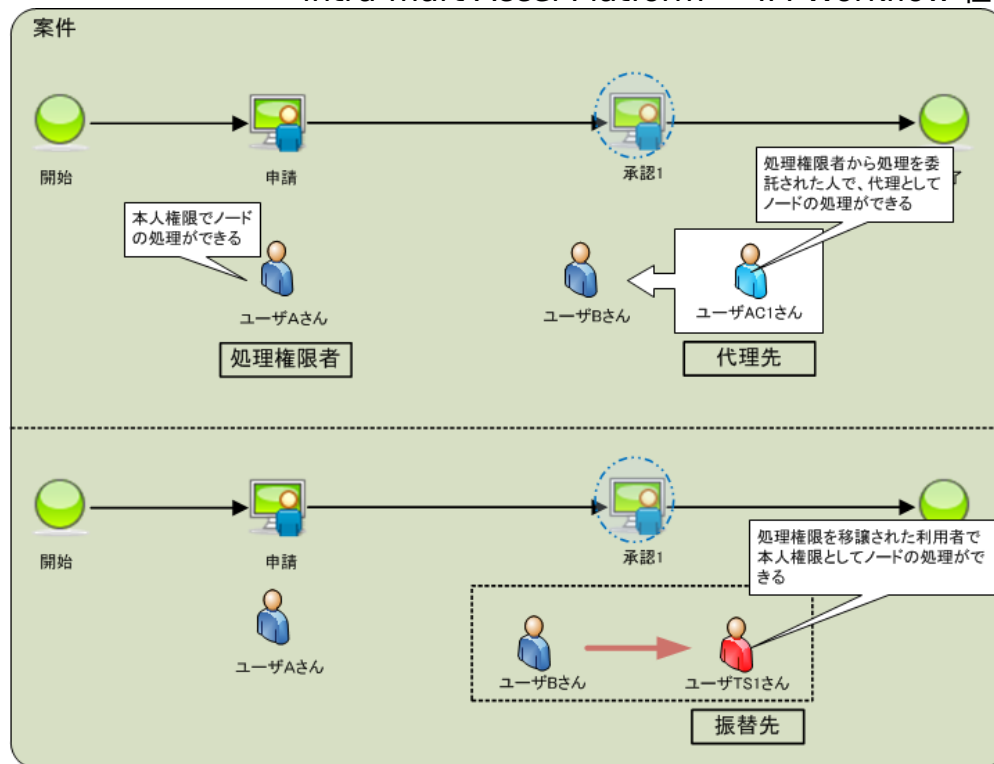
処理対象者

処理対象として設定され、案件上でノードの処理ができる利用者の候補を「処理対象者」と呼び、以下の3つに分類されます。

処理対象者

処理対象者	説明
処理権限者	ノードに対して本人として処理権限を持つ利用者
代理先	処理権限者、管理者、代理設定権限者から代理先として処理を委託された利用者
振替先	処理権限者から振替先として権限を移譲された利用者

処理対象者



処理権限者

ルート定義上のノードに対して、本人として処理できる利用者を「処理権限者」と呼びます。
詳細については下記を参照してください。

処理権限者の設定

IM-Workflow の標準機能では、処理権限者に IM-共通マスタ のユーザや組織などを設定できます。

- 設定タイミングや指定内容により、処理権限者の設定方法は4種類に分類されます。
- 単一のノードに対し、複数の処理権限者を設定できます。複数設定した場合、それぞれの処理権限者は「OR」条件で適用されます。
- 処理権限者として「指定なし」を明示的に設定できます。

処理権限者の設定方法

種類	説明
ルート定義時固定指定	ルート定義時に、ノードの処理権限者として、特定のユーザや組織を指定する方式です。
ルート定義時動的指定	ルート定義時に、ノードの処理権限者として、「前処理者の上位組織」などの動的な条件を指定する方式です。
案件処理時固定指定	案件の承認時に、案件の承認者が、承認対象ノード以降のノードの処理権限者として、特定のユーザや組織を指定する方式です。
案件処理時動的指定	案件の承認時に、案件の承認者が、承認対象ノード以降のノードの処理権限者として、「前処理者の上位組織」などの動的な条件を指定する方式です。

処理権限者は、設定対象のノードにより設定できる処理対象者プラグインが異なります。

設定できる処理権限者の内容

設定範囲	説明
A	申請ノード に設定可

設定範囲 説明

B-1 以下のノードの次に配置した 承認ノード に設定可

- システムノード
- 同期開始ノード
- 同期終了ノード
- 分岐開始ノード
- 分岐終了ノード
- 動的承認ノード
- 横配置ノード
- 縦配置ノード

B-2 B-1以外に配置した 承認ノード に設定可

C 動的承認ノード、横配置ノード、縦配置ノード に設定可

ルート定義時固定指定で利用できる処理対象者プラグイン

■ 単体

	A	B-1	B-2	C
ユーザ	✓	✓	✓	✓
組織	✓	✓	✓	✓
組織とその上位組織全て	✓ [1]	✓ [2]	✓ [2]	✓ [2]
組織とその下位組織全て	✓ [1]	✓ [2]	✓ [2]	✓ [2]
役職	✓	✓	✓	✓
パブリックグループ	✓	✓	✓	✓
役割	✓	✓	✓	✓
ロール	✓	✓	✓	✓
ロジックフロー（ユーザ）	-	✓ [4]	✓ [4]	✓ [4]

■ 複合

	A	B-1	B-2	C
組織 + 役職	✓	✓	✓	✓
組織とその上位組織全て + 役職	✓ [1]	✓ [2]	✓ [2]	✓ [2]
組織とその下位組織全て + 役職	✓ [1]	✓ [2]	✓ [2]	✓ [2]
パブリックグループ + 役割	✓	✓	✓	✓
組織 + ロール	✓	✓	✓	✓
組織とその上位組織全て + ロール	✓ [1]	✓ [2]	✓ [2]	✓ [2]
組織とその下位組織全て + ロール	✓ [1]	✓ [2]	✓ [2]	✓ [2]
パブリックグループ + ロール	✓	✓	✓	✓

ルート定義時動的指定で利用できる処理対象者プラグイン

■ 単体

	A	B-1	B-2	C
申請者	-	✓	✓	⚠ [3]
申請者の組織	-	✓	✓	⚠ [3]
申請者の上位組織	-	✓	✓	⚠ [3]
申請者の上位組織全て	-	✓	✓	⚠ [3]
申請者の下位組織	-	✓	✓	⚠ [3]
申請者の下位組織全て	-	✓	✓	⚠ [3]
前処理者の組織	-	⚠ [3]	✓	⚠ [3]
前処理者の上位組織	-	⚠ [3]	✓	⚠ [3]
前処理者の上位組織全て	-	⚠ [3]	✓	⚠ [3]
前処理者の下位組織	-	⚠ [3]	✓	⚠ [3]
前処理者の下位組織全て	-	⚠ [3]	✓	⚠ [3]

■ 複合

	A	B-1	B-2	C
申請者の組織 + 役職	-	✓	✓	⚠ [3]
申請者の上位組織 + 役職	-	✓	✓	⚠ [3]
申請者の上位組織全て + 役職	-	✓	✓	⚠ [3]
申請者の下位組織 + 役職	-	✓	✓	⚠ [3]
申請者の下位組織全て + 役職	-	✓	✓	⚠ [3]
前処理者の所属組織 + 役職	-	⚠ [3]	✓	⚠ [3]
前処理者の上位組織 + 役職	-	⚠ [3]	✓	⚠ [3]
前処理者の上位組織全て + 役職	-	⚠ [3]	✓	⚠ [3]
前処理者の下位組織 + 役職	-	⚠ [3]	✓	⚠ [3]
前処理者の下位組織全て + 役職	-	⚠ [3]	✓	⚠ [3]
申請者の組織 + ロール	-	✓	✓	⚠ [3]
申請者の上位組織 + ロール	-	✓	✓	⚠ [3]

	A	B-1	B-2	C
申請者の上位組織全て + ロール	-	✓	✓	⚠ [3]
申請者の下位組織 + ロール	-	✓	✓	⚠ [3]
申請者の下位組織全て + ロール	-	✓	✓	⚠ [3]
前処理者の組織 + ロール	-	⚠ [3]	✓	⚠ [3]
前処理者の上位組織 + ロール	-	⚠ [3]	✓	⚠ [3]
前処理者の上位組織全て + ロール	-	⚠ [3]	✓	⚠ [3]
前処理者の下位組織 + ロール	-	⚠ [3]	✓	⚠ [3]
前処理者の下位組織全て + ロール	-	⚠ [3]	✓	⚠ [3]

案件処理時固定指定で利用できる処理対象者プラグイン

■ 単体

	A	B-1	B-2	C
ユーザ	-	-	-	✓
組織	-	-	-	✓
役職	-	-	-	✓
パブリックグループ	-	-	-	✓
役割	-	-	-	✓
組織とその上位組織全て	-	-	-	✓ [2]
組織とその下位組織全て	-	-	-	✓ [2]

■ 複合

	A	B-1	B-2	C
組織 + 役職	-	-	-	⚠ [3]
パブリックグループ + 役割	-	-	-	⚠ [3]
組織とその上位組織全て + 役職	-	-	-	✓ [2]
組織とその下位組織全て + 役職	-	-	-	✓ [2]

案件処理時動的指定で利用できる処理対象者プラグイン

■ 単体

	A	B-1	B-2	C
申請者	-	-	-	⚠ [3]

	A	B-1	B-2	C
申請者の組織	-	-	-	 [3]
申請者の上位組織	-	-	-	 [3]
申請者の上位組織全て	-	-	-	 [3]
申請者の下位組織	-	-	-	 [3]
申請者の下位組織全て	-	-	-	 [3]
前処理者の組織	-	-	-	 [3]
前処理者の上位組織	-	-	-	 [3]
前処理者の上位組織全て	-	-	-	 [3]
前処理者の下位組織	-	-	-	 [3]
前処理者の下位組織全て	-	-	-	 [3]

■ 複合

	A	B-1	B-2	C
申請者の組織 + 役職	-	-	-	 [3]
申請者の上位組織 + 役職	-	-	-	 [3]
申請者の上位組織全て + 役職	-	-	-	 [3]
申請者の下位組織 + 役職	-	-	-	 [3]
申請者の下位組織全て + 役職	-	-	-	 [3]
前処理者の所属組織 + 役職	-	-	-	 [3]
前処理者の上位組織 + 役職	-	-	-	 [3]
前処理者の上位組織全て + 役職	-	-	-	 [3]
前処理者の下位組織 + 役職	-	-	-	 [3]
前処理者の下位組織全て + 役職	-	-	-	 [3]

[1] ([1](#), [2](#), [3](#), [4](#), [5](#), [6](#)) IM-Workflow 8.0.9 (2014 Winter) から設定できます。

[2] ([1](#), [2](#), [3](#), [4](#), [5](#), [6](#), [7](#), [8](#), [9](#), [10](#), [11](#), [12](#), [13](#), [14](#), [15](#), [16](#), [17](#), [18](#), [19](#), [20](#), [21](#), [22](#)) IM-Workflow 8.0.8 (2014 Summer) から設定できます。

[3] ([1](#), [2](#), [3](#), [4](#), [5](#), [6](#), [7](#), [8](#), [9](#), [10](#), [11](#), [12](#), [13](#), [14](#), [15](#), [16](#), [17](#), [18](#), [19](#), [20](#), [21](#), [22](#), [23](#), [24](#), [25](#), [26](#), [27](#), [28](#), [29](#), [30](#), [31](#), [32](#), [33](#), [34](#), [35](#), [36](#), [37](#), [38](#), [39](#), [40](#), [41](#), [42](#), [43](#), [44](#), [45](#), [46](#), [47](#), [48](#), [49](#), [50](#), [51](#), [52](#), [53](#), [54](#), [55](#), [56](#), [57](#), [58](#), [59](#), [60](#), [61](#), [62](#), [63](#), [64](#), [65](#), [66](#), [67](#), [68](#), [69](#))

初期値は無効（false）に設定されていますので、利用する場合には有効（true）に変更してください。

設定を変更する手順については、以下のリンクを参照してください。

「[IM-Workflow 管理者操作ガイド](#)」 - 「[処理対象者プラグインを設定する](#)」

[4] ([1](#), [2](#), [3](#)) IM-Workflow 8.0.19（2018 Spring）から設定できます。

処理権限者プラグイン一覧

処理権限者として設定できる製品標準で提供している処理対象者プラグインは、以下の通りです。

- 申請ノード（「表. 設定できる処理権限者の内容」のA）
 - 拡張ポイント
jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.apply

プラグイン名	プラグインID
ユーザ	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.apply.user
組織	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.apply.department
ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.apply.role
パブリックグループ	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.apply.public_group
役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.apply.post
役割	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.apply.public_group_role
組織＋役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.apply.department_and_post
パブリックグループ＋役割	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.apply.public_group_and_public_group_role
組織＋ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.apply.department_and_role
パブリックグループ＋ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.apply.public_group_and_role
組織とその上位組織全て	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.apply.department_all_step_upper_department
組織とその上位組織全て＋役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.apply.department_all_step_upper_department_and_post
組織とその上位組織全て＋ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.apply.department_all_step_upper_department_and_role
組織とその下位組織全て	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.apply.department_all_step_lower_department
組織とその下位組織全て＋役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.apply.department_all_step_lower_department_and_post
組織とその下位組織全て＋ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.apply.department_all_step_lower_department_and_role

- 承認ノード（「表. 設定できる処理権限者の内容」のB-1）
 - 拡張ポイント
jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.approve.static

プラグイン名	プラグインID
ユーザ	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.approve.static.user

プラグイン名	プラグインID
組織	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.department
ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.role
パブリックグループ	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.public_group
役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.post
役割	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.public_group_role
組織＋役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.department_and_post
パブリックグループ＋役割	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.public_group_and_public_group_role
組織＋ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.department_and_role
パブリックグループ＋ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.public_group_and_role
申請者	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.apply_user
申請者の所属組織	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.apply_user_department
申請者の所属組織＋役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.apply_user_department_and_post
申請者の所属組織＋ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.apply_user_one_step_upper_department
申請者の上位組織	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.apply_user_one_step_upper_department
申請者の上位組織＋役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.apply_user_one_step_upper_department_and_post
申請者の上位組織＋ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.apply_user_one_step_upper_department_and_role
申請者の上位組織全て	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.apply_user_all_step_upper_department
申請者の上位組織全て＋役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.apply_user_all_step_upper_department_and_post
申請者の上位組織全て＋ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.apply_user_all_step_upper_department_and_role
申請者の下位組織	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.apply_user_one_step_lower_department
申請者の下位組織＋役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.apply_user_one_step_lower_department_and_post
申請者の下位組織＋ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.apply_user_one_step_lower_department_and_role
申請者の下位組織全て	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.apply_user_all_step_lower_department
申請者の下位組織全て＋役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.apply_user_all_step_lower_department_and_post
申請者の下位組織全て＋ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.apply_user_all_step_lower_department_and_role
前処理者の所属組織	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.before_user_department

プラグイン名	プラグインID
前処理者の所属組織+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.before_user_department_and_post
前処理者の所属組織+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.before_user_department_and_role
前処理者の上位組織	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.before_user_one_step_upper_department
前処理者の上位組織+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.before_user_one_step_upper_department_and_post
前処理者の上位組織+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.before_user_one_step_upper_department_and_role
前処理者の上位組織全て	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.before_user_all_step_upper_department
前処理者の上位組織全て+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.before_user_all_step_upper_department_and_post
前処理者の上位組織全て+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.before_user_all_step_upper_department_and_role
前処理者の下位組織	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.before_user_one_step_lower_department
前処理者の下位組織+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.before_user_one_step_lower_department_and_post
前処理者の下位組織+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.before_user_one_step_lower_department_and_role
前処理者の下位組織全て	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.before_user_all_step_lower_department
前処理者の下位組織全て+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.before_user_all_step_lower_department_and_post
前処理者の下位組織全て+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.before_user_all_step_lower_department_and_role
組織とその上位組織全て	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.department_all_step_upper_department
組織とその上位組織全て+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.department_all_step_upper_department_and_post
組織とその上位組織全て+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.department_all_step_upper_department_and_role
組織とその下位組織全て	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.department_all_step_lower_department
組織とその下位組織全て+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.department_all_step_lower_department_and_post
組織とその下位組織全て+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.department_all_step_lower_department_and_role
ロジックフロー（ユーザ）	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.static.logic_flow_user

- 承認ノード（「表、設定できる処理権限者の内容」のB-2）
 - 拡張ポイント
jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.approve

プラグイン名	プラグインID
ユーザ	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.user
組織	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.department
ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.role

プラグイン名	プラグインID
パブリックグループ	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.public_group
役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.post
役割	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.public_group_role
組織+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.department_and_post
パブリックグループ+役割	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.public_group_and_public_group_role
組織+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.department_and_role
パブリックグループ+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.public_group_and_role
申請者	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.apply_user
申請者の所属組織	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.apply_user_department
申請者の所属組織+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.apply_user_department_and_post
申請者の所属組織+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.apply_user_one_step_upper_department
申請者の上位組織	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.apply_user_one_step_upper_department
申請者の上位組織+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.apply_user_one_step_upper_department_and_post
申請者の上位組織+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.apply_user_one_step_upper_department_and_role
申請者の上位組織全て	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.apply_user_all_step_upper_department
申請者の上位組織全て+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.apply_user_all_step_upper_department_and_post
申請者の上位組織全て+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.apply_user_all_step_upper_department_and_role
申請者の下位組織	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.apply_user_one_step_lower_department
申請者の下位組織+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.apply_user_one_step_lower_department_and_post
申請者の下位組織+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.apply_user_one_step_lower_department_and_role
申請者の下位組織全て	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.apply_user_all_step_lower_department
申請者の下位組織全て+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.apply_user_all_step_lower_department_and_post
申請者の下位組織全て+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.apply_user_all_step_lower_department_and_role
前処理者の所属組織	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.before_user_department
前処理者の所属組織+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.before_user_department_and_post
前処理者の所属組織+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.before_user_department_and_role

プラグイン名	プラグインID
前処理者の上位組織	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.before_user_one_step_upper_department
前処理者の上位組織+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.before_user_one_step_upper_department_and_post
前処理者の上位組織+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.before_user_one_step_upper_department_and_role
前処理者の上位組織全て	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.before_user_all_step_upper_department
前処理者の上位組織全て+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.before_user_all_step_upper_department_and_post
前処理者の上位組織全て+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.before_user_all_step_upper_department_and_role
前処理者の下位組織	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.before_user_one_step_lower_department
前処理者の下位組織+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.before_user_one_step_lower_department_and_post
前処理者の下位組織+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.before_user_one_step_lower_department_and_role
前処理者の下位組織全て	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.before_user_all_step_lower_department
前処理者の下位組織全て+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.before_user_all_step_lower_department_and_post
前処理者の下位組織全て+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.before_user_all_step_lower_department_and_role
組織とその上位組織全て	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.department_all_step_upper_department
組織とその上位組織全て+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.department_all_step_upper_department_and_post
組織とその上位組織全て+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.department_all_step_upper_department_and_role
組織とその下位組織全て	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.department_all_step_lower_department
組織とその下位組織全て+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.department_all_step_lower_department_and_post
組織とその下位組織全て+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.department_all_step_lower_department_and_role
ロジックフロー（ユーザ）	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority. node.approve.logic_flow_user

- 動的承認ノード、縦配置ノード、横配置ノード（「表. 設定できる処理権限者の内容」のC）
 - 拡張ポイント
jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.dynamic

プラグイン名	プラグインID
ユーザ	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.user
組織	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.department
ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.role
パブリックグループ	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.public_group
役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.post

プラグイン名	プラグインID
役割	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.public_group_role
組織+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.department_and_post
パブリックグループ+役割	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.public_group_and_public_group_role
組織+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.department_and_role
パブリックグループ+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.public_group_and_role
申請者	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.apply_user
申請者の所属組織	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.apply_user_department
申請者の所属組織+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.apply_user_department_and_post
申請者の所属組織+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.apply_user_department_and_role
申請者の上位組織	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.apply_user_one_step_upper_department
申請者の上位組織+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.apply_user_one_step_upper_department_and_post
申請者の上位組織+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.apply_user_one_step_upper_department_and_role
申請者の上位組織全て	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.apply_user_all_step_upper_department
申請者の上位組織全て+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.apply_user_all_step_upper_department_and_post
申請者の上位組織全て+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.apply_user_all_step_upper_department_and_role
申請者の下位組織	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.apply_user_one_step_lower_department
申請者の下位組織+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.apply_user_one_step_lower_department_and_post
申請者の下位組織+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.apply_user_one_step_lower_department_and_role
申請者の下位組織全て	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.apply_user_all_step_lower_department
申請者の下位組織全て+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.apply_user_all_step_lower_department_and_post
申請者の下位組織全て+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.apply_user_all_step_lower_department_and_role
前処理者の所属組織	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.before_user_department
前処理者の所属組織+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.before_user_department_and_post
前処理者の所属組織+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.before_user_department_and_role
前処理者の上位組織	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.before_user_one_step_upper_department
前処理者の上位組織+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.before_user_one_step_upper_department_and_post

プラグイン名	プラグインID
前処理者の上位組織+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.before_user_one_step_upper_department_and_role
前処理者の上位組織全て	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.before_user_all_step_upper_department
前処理者の上位組織全て+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.before_user_all_step_upper_department_and_post
前処理者の上位組織全て+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.before_user_all_step_upper_department_and_role
前処理者の下位組織	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.before_user_one_step_lower_department
前処理者の下位組織+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic. before_user_one_step_lower_department_and_post
前処理者の下位組織+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.before_user_one_step_lower_department_and_role
前処理者の下位組織全て	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.before_user_all_step_lower_department
前処理者の下位組織全て+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.before_user_all_step_lower_department_and_post
前処理者の下位組織全て+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.before_user_all_step_lower_department_and_role
組織とその上位組織全て	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.department_all_step_upper_department
組織とその上位組織全て+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.department_all_step_upper_department_and_post
組織とその上位組織全て+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.department_all_step_upper_department_and_role
組織とその下位組織全て	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.department_all_step_lower_department
組織とその下位組織全て+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.department_all_step_lower_department_and_post
組織とその下位組織全て+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.department_all_step_lower_department_and_role
ロジックフロー（ユーザ）	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node. dynamic.logic_flow_user

処理権限者プラグインの指定方法

プログラムにより特定のノードに対して処理権限者プラグインを指定するには、以下の3つの引数を指定します。

- 拡張ポイントID
- プラグインID
- パラメータ

拡張ポイントID / プラグインID

拡張ポイントIDとプラグインIDは、以下のページで対象のノードとプラグインの種類に基づいて確認してください。

- [処理権限者プラグイン一覧](#)

パラメータ

上記の拡張ポイントIDとプラグインIDに対して、設定対象の組織コード等をパラメータで設定します。

パラメータは、対象のプラグイン種類に合わせた形式で記述します。

以下の表の形式は、すべての拡張ポイントIDとプラグインIDで共通の形式です。

- 「組織」や「パブリックグループ」のように、複数のキー情報により一意に特定可能な情報の場合、キー情報の値を "へ" で結合します。
- 「組織+役職」や「パブリックグループ+役割」のように、複数の種類を組み合わせたプラグインの場合は、それぞれのプラグインのパラメータを "|" で結合します。

- 「申請者の所属組織+役職」のように、動的指定プラグインと固定指定プラグインを組み合わせたプラグインの場合は、動的指定プラグインのパラメータを "" (ブランク) として扱います。

■ ユーザ

形式

%ユーザコード%

設定例

aoyagi

■ 組織

形式

%会社コード%^%組織セットコード%^%組織コード%

設定例

comp_sample_01^comp_sample_01^dept_sample_10

■ ロール

形式

%ロールID%

設定例

im_workflow_user

■ パブリックグループ

形式

%パブリックグループセットコード%^%パブリックグループコード%

設定例

sample_public^sample_public

■ 役職

形式

%会社コード%^%組織セットコード%^%役職コード%

設定例

comp_sample_01^comp_sample_01^ps002

■ 役割

形式

%パブリックグループセットコード%^%役割コード%

設定例

sample_public^pub_role_001

■ 組織+役職

形式

%会社コード%^%組織セットコード%^%組織コード%|%会社コード%^%組織セットコード%^%役職コード%

設定例

comp_sample_01^comp_sample_01^dept_sample_10|comp_sample_01^comp_sample_01^ps002

■ 組織+ロール

形式
%会社コード%^%組織セットコード%^%組織コード% %ロールID%
設定例
comp_sample_01^comp_sample_01^dept_sample_10 im_workflow_user

■ パブリックグループ+役割

形式
%パブリックグループセットコード%^%パブリックグループコード% %パブリックグループセットコード%^%役割コード%
設定例
sample_public^sample_public sample_public^pub_role_001

■ パブリックグループ+ロール

形式
%パブリックグループセットコード%^%パブリックグループコード% %ロールID%
設定例
sample_public^sample_public im_workflow_user

■ ロジックフロー（ユーザ）

形式
{ "flowId" : "%ロジックフロー フロー定義ID%", "version" : %バージョン番号%, "versionDecide" : %バージョン指定有無% } [1]
設定例
{ "flowId" : "logic_flow_1", "version" : 5, "versionDecide" : true }
{ "flowId" : "logic_flow_1", "version" : null, "versionDecide" : false }

処理権限者プラグインとパラメータ

製品標準で提供している処理権限者プラグインと対応するパラメータの形式は、以下の表のとおりです。

設定対象	必須	対応するパラメータの形式
ユーザ	○	%ユーザコード%
組織	○	%会社コード%^%組織セットコード%^%組織コード%
ロール	○	%ロールID%
パブリックグループ	○	%パブリックグループセットコード%^%パブリックグループコード%
役職	○	%会社コード%^%組織セットコード%^%役職コード%
役割	○	%パブリックグループセットコード%^%役割コード%
組織+役職	○	%会社コード%^%組織セットコード%^%組織コード% %会社コード%^%組織セットコード%^%役職コード%
パブリックグループ+役割	○	%パブリックグループセットコード%^%パブリックグループコード% %パブリックグループセットコード%^%役割コード%
組織+ロール	○	%会社コード%^%組織セットコード%^%組織コード% %ロールID%
パブリックグループ+ロール	○	%パブリックグループセットコード%^%パブリックグループコード% %ロールID%
申請者		
申請者の所属組織		
申請者の所属組織+役職	○	%会社コード%^%組織セットコード%^%役職コード%
申請者の所属組織+ロール	○	%ロールID%
申請者の上位組織		

設定対象	必須	対応するパラメータの形式
申請者の上位組織+役職	○	%会社コード%^%組織セットコード%^%役職コード%
申請者の上位組織+ロール	○	%ロールID%
申請者の上位組織全て		
申請者の上位組織全て+役職	○	%会社コード%^%組織セットコード%^%役職コード%
申請者の上位組織全て+ロール	○	%ロールID%
申請者の下位組織	○	
申請者の下位組織+役職	○	%会社コード%^%組織セットコード%^%役職コード%
申請者の下位組織+ロール	○	%ロールID%
申請者の下位組織全て		
申請者の下位組織全て+役職	○	%会社コード%^%組織セットコード%^%役職コード%
申請者の下位組織全て+ロール	○	%ロールID%
前処理者の所属組織		
前処理者の所属組織+役職	○	%会社コード%^%組織セットコード%^%役職コード%
前処理者の所属組織+ロール	○	%ロールID%
前処理者の上位組織		
前処理者の上位組織+役職	○	%会社コード%^%組織セットコード%^%役職コード%
前処理者の上位組織+ロール	○	%ロールID%
前処理者の下位組織		
前処理者の下位組織+役職	○	%会社コード%^%組織セットコード%^%役職コード%
前処理者の下位組織+ロール	○	%ロールID%
前処理者の下位組織全て		
前処理者の下位組織全て+役職	○	%会社コード%^%組織セットコード%^%役職コード%
前処理者の下位組織全て+ロール	○	%ロールID%
組織とその上位組織全て	○	%会社コード%^%組織セットコード%^%組織コード%
組織とその上位組織全て+役職	○	%会社コード%^%組織セットコード%^%組織コード% %会社コード%^%組織セットコード%^%役職コード%
組織とその上位組織全て+ロール	○	%会社コード%^%組織セットコード%^%組織コード% %ロールID%
組織とその下位組織全て	○	%会社コード%^%組織セットコード%^%組織コード%
組織とその下位組織全て+役職	○	%会社コード%^%組織セットコード%^%組織コード% %会社コード%^%組織セットコード%^%役職コード%
組織とその下位組織全て+ロール	○	%会社コード%^%組織セットコード%^%組織コード% %ロールID%
ロジックフロー（ユーザ）	○	{"flowId": "%ロジックフロー フロー定義ID%", "version": "%バージョン番号%", "versionDecide": "%バージョン指定有無%} [1]

[1] (1, 2)

各設定値の説明

- ロジックフロー フロー定義ID：処理権限者プラグインとして動作させるロジックフローのフロー定義ID
- バージョン番号：処理権限者プラグインとして動作させるロジックフローのバージョン番号
- バージョン指定有無：
 - true を指定した場合、指定したバージョン番号のロジックフローが動作します。
 - false を指定した場合、常に最新のバージョンが動作します。この際、バージョン番号には null を指定してください。

前処理者に基づく処理対象者プラグインに関する注意事項

前処理者の所属組織など前処理者に基づく処理対象者プラグイン（名称が「前処理者の～」で始まるプラグイン）には以下の制約があり、処理対象者が展開できない場合があります。

以下の制約によって展開されない場合を考慮してご利用ください。

- 制約1 承認ノードの直前ノードが分岐結合ノード、同期結合ノードの場合

分岐結合ノードや同期結合ノードの場合は複数のルートが存在し、直前のノードが一意に特定できず、前処理者も特定できないため処理者が展開できません。

※前処理者を特定する処理がルートをたどる際に前ノードのノードIDが複数取れる場合は、処理を終了するという仕様のためのです。

※分岐、同期が1つのルートしかない場合は、処理者を展開することができます。

■ **制約2 承認ノードの直前ノードが縦配置ノードの場合**

縦配置ノードが展開されると同期結合が承認ノードの直前ノードとなり、制約1に該当するため、処理者が展開できません。

■ **制約3 承認ノードの直前ノードが動的承認ノード、横配置ノードの場合**

動的承認ノードが無効で、横配置ノードの設定が0の場合、承認ノードの直前のノードは、動的承認ノード/横配置ノードのさらに直前のノードが対象です。

この場合に、制約1や制約2に該当した場合に処理者が展開できない可能性があります。

■ **制約4 承認ノードの直前ノードがテンプレート置換ノードの場合**

テンプレート置換ノードが展開され、承認ノードの直前のノードが制約1、制約2、制約3に該当する場合に処理者が展開できない可能性があります。

■ **制約5 承認ノードの直前ノードが分岐開始ノード、同期開始ノードの場合**

分岐開始ノード、同期開始ノードの直前のノードが制約1、制約2、制約3、制約4に該当する場合に処理者が展開できない可能性があります。

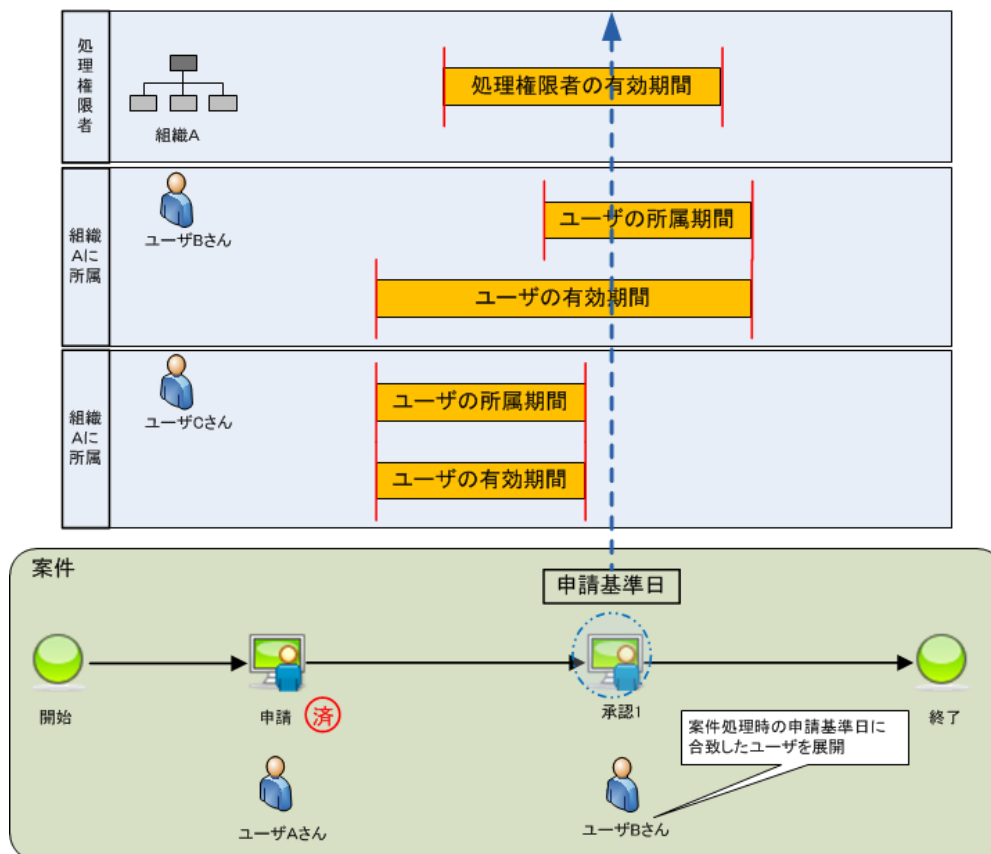
処理権限者の展開

案件処理中にノードに処理が進むと、ワークフローはノードに設定している処理対象に従いユーザをノードに展開します。

展開されたユーザは本人としての処理権限を持ち、ノードの処理を行うことができます。

- 処理権限者として申請基準日時点で有効なユーザをノードに展開します。

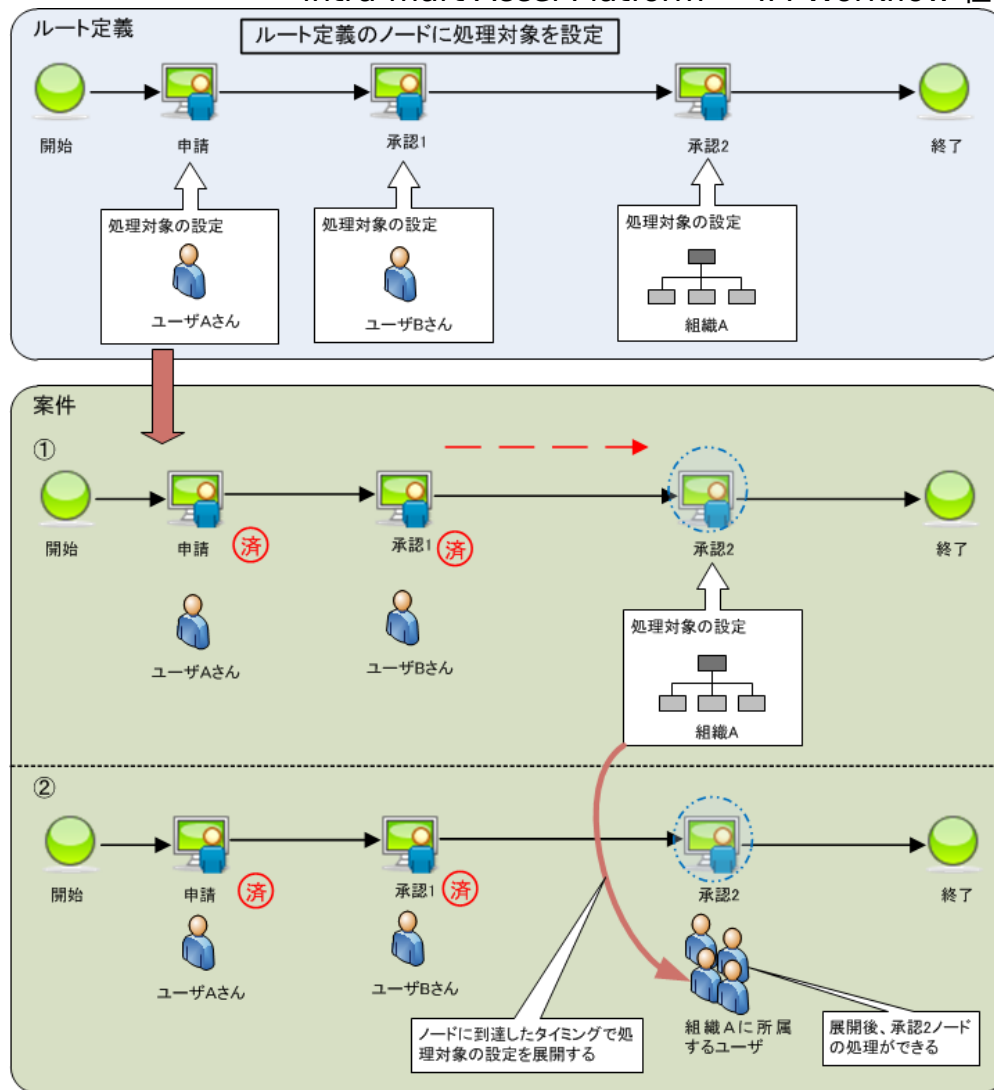
処理対象者の展開（IM-共通マスタ）



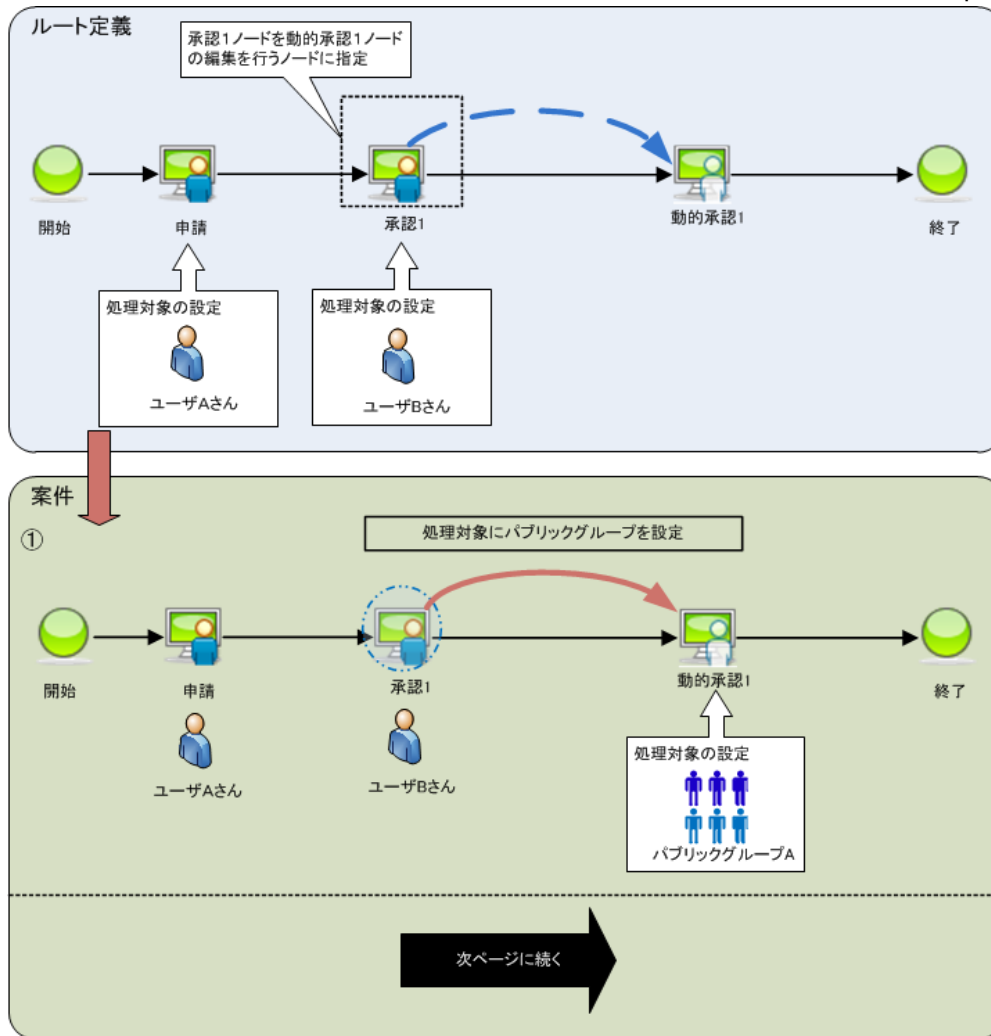
処理対象の設定方法によってノード到達から処理対象の展開までの流れが異なります。

設定から展開までの流れを下図に示します。

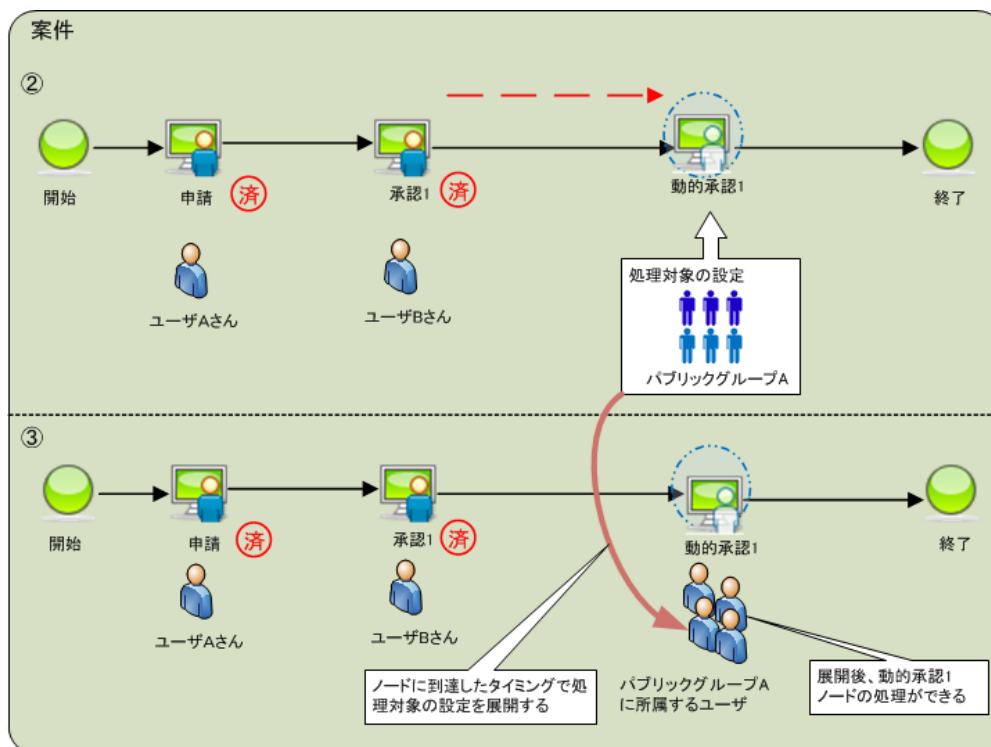
処理対象者の展開（ルート定義時固定指定）



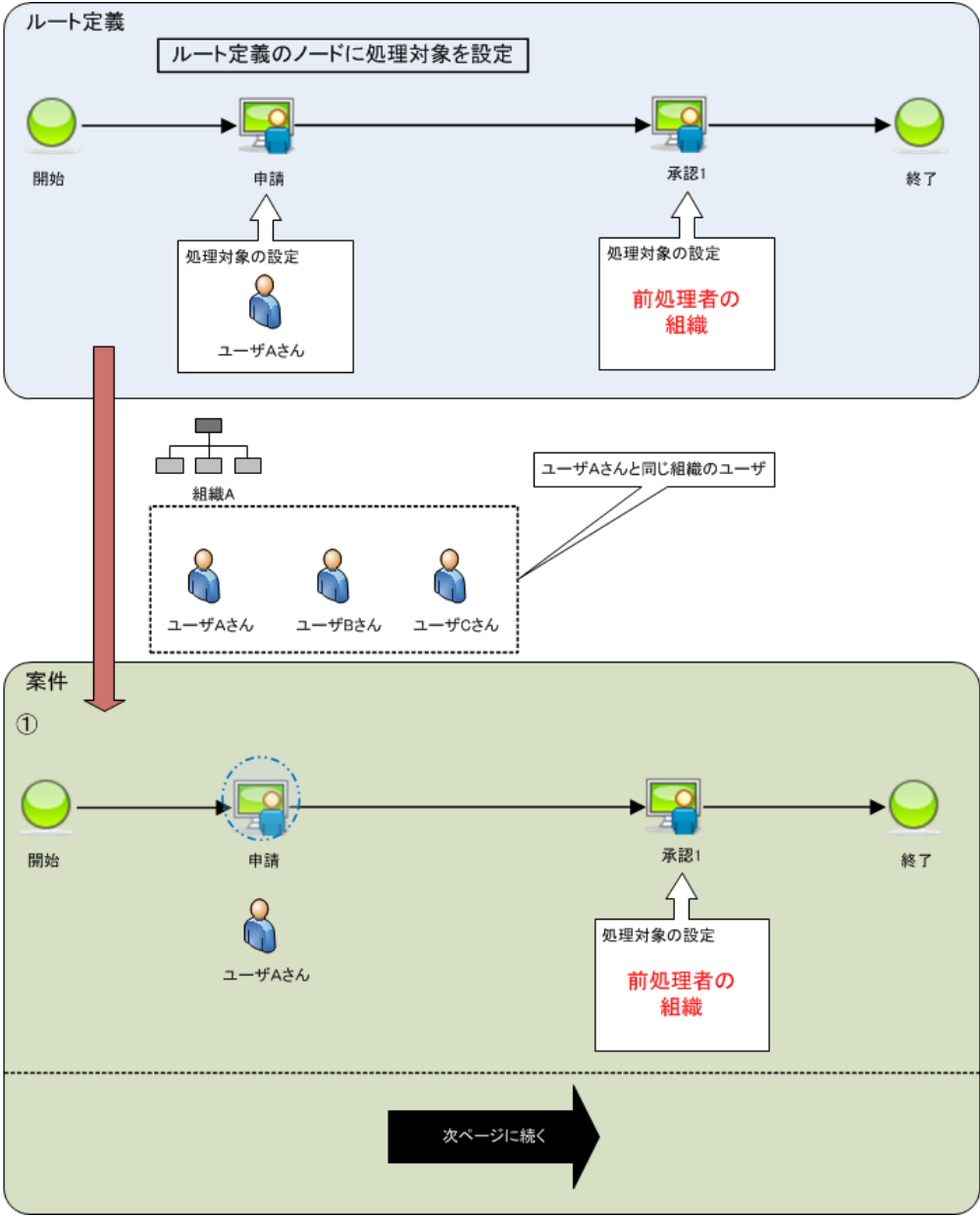
処理対象者の展開（案件処理時固定指定） 1



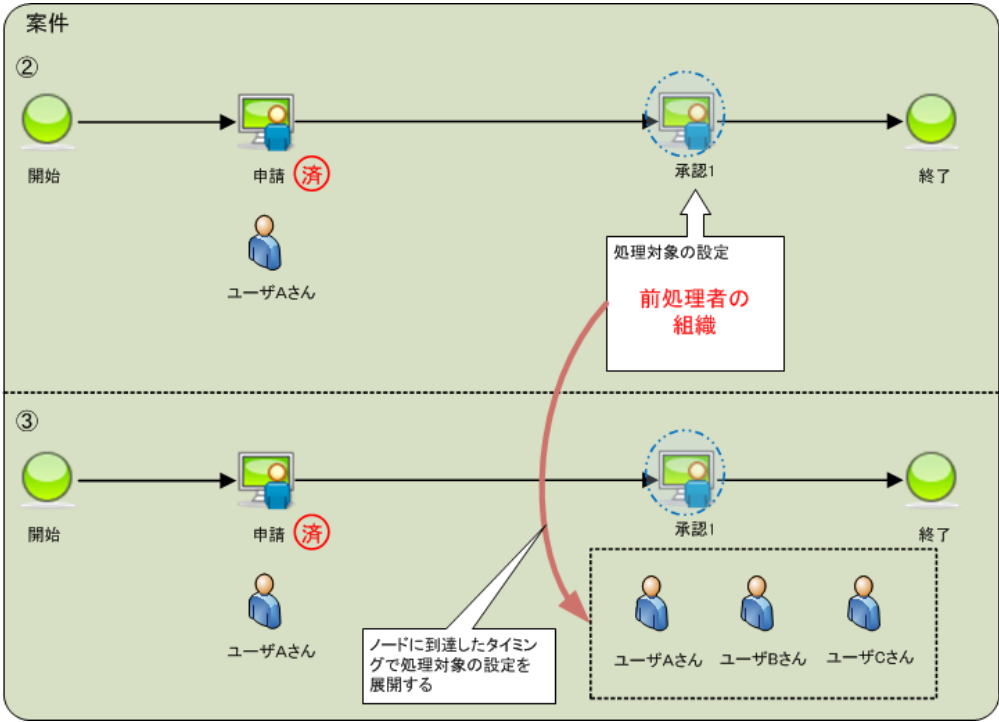
処理対象者の展開（案件処理時固定指定） 2



処理対象者の展開（ルート定義時動的指定） 1



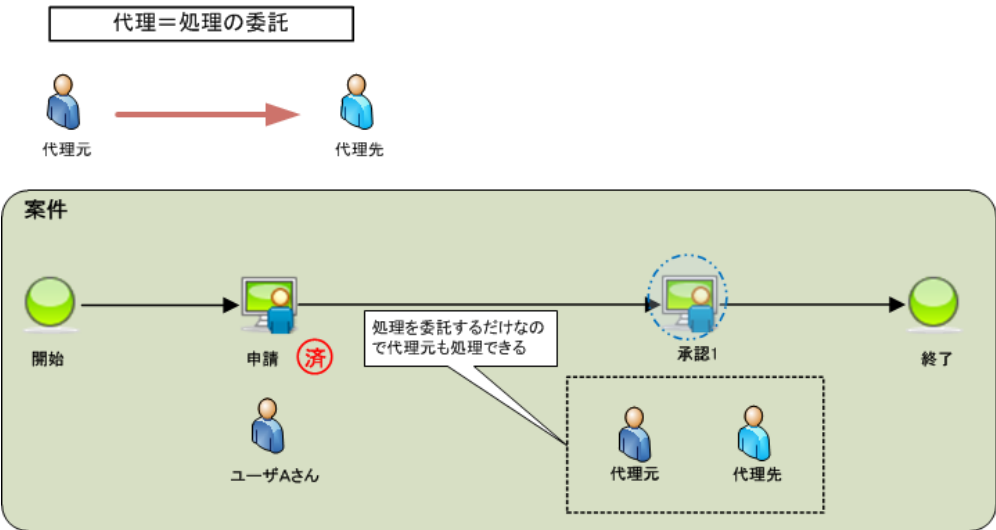
処理対象者の展開（ルート定義時動的指定） 2



本人不在の場合、不在者に代わって別の利用者が申請や承認を行う必要があります。
IM-Workflow ではこのような場合に備えて「代理機能」を用意しています。
「代理機能」では、処理権限を持つ利用者本人が別の利用者に処理を委託することができます。
委託された利用者は委託元と同様に申請や承認を行えます。

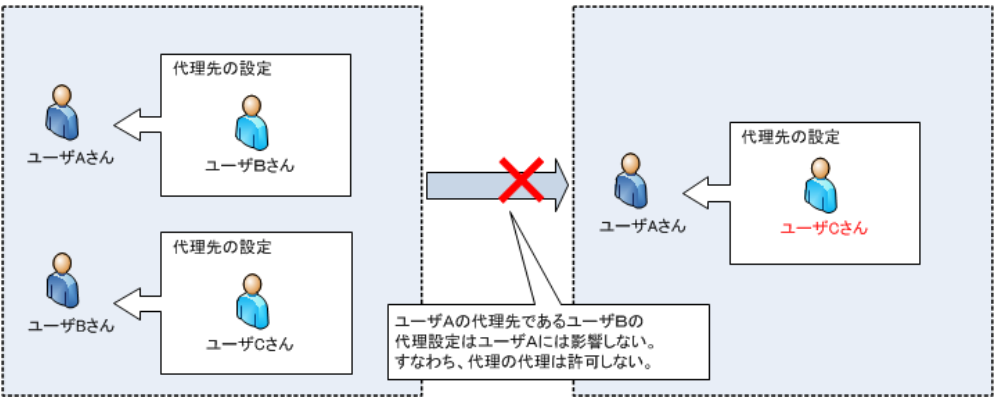
- 代理を委託する利用者を「代理元」、代理を委託される利用者を「代理先」と呼びます。
- 代理は「代理設定」機能で設定します。
- 代理元は代理先に処理の代わりに委託するのみです。代理先に処理権限はありません。
- 代理設定を行った後でも代理元に処理権限があるので、代理元も処理ができます。
- 代理先は、代理有効期間より前に処理された代理元の処理済み情報を参照できます。

代理元と代理先



- 代理の代理は許可しません。

代理の代理は許可しない



詳細については下記を参照してください。

代理設定

- 代理設定は代理元本人、ワークフローシステム管理者、代理設定権限者が利用できます。
ワークフローシステム管理者、代理設定権限者は代理元に第3者を設定できます。
- 代理設定には指定したフロー定義に対して代理を許可する「特定業務代理」、全てのフロー定義に対して代理を許可する「代理」、代理元が所属する組織/パブリックグループ/役職/役割に対して、全てのフロー定義の代理を許可する「権限代理」の3種類があります。
代理設定の種類、および種類による設定内容の違いは以下の通りです。

代理設定の種類

代理設定の種類 利用シーン	
特定業務代理	利用者の作業を別の利用者に代行してもらう。 部下や秘書などに案件の申請や承認を代わりに行ってもらうことを想定しています。
代理	利用者が不在のときに代理として案件の処理を依頼する。 代理元が不在の場合に特定の人に処理を委託することを想定しています。
権限代理	代理元が複数の組織や役職を兼務していた場合、 特定の所属の処理を別の代理対象に委託することを想定しています。

代理設定の種類による設定内容の違い

代理設定の種類	代理元として設定できる内容	代理先として設定できる内容	代理対象のフロー
特定業務代理	代理元のユーザ（固定）	ユーザ、組織、パブリックグループ、 役職、役割の指定が可能（複数可）	特定のフロー （複数可）
代理	代理元のユーザ（固定）	ユーザのみの指定が可能（複数可）	代理先が使用するフ ロー全て
権限代理	代理元が所属する組織、パブリックグループ、 役職、役割	ユーザ、組織、パブリックグループ、 役職、役割の指定が可能（複数可）	代理先が使用するフ ロー全て

i コラム

権限代理における代理元と処理対象者について

「権限代理」では、代理元として以下の情報を設定することができます。

- 組織
- パブリックグループ
- 役職
- 役割
- 組織＋役職
- パブリックグループ＋役割

権限代理における代理先ユーザによる案件処理は、次の条件を満たす場合に実行できます。

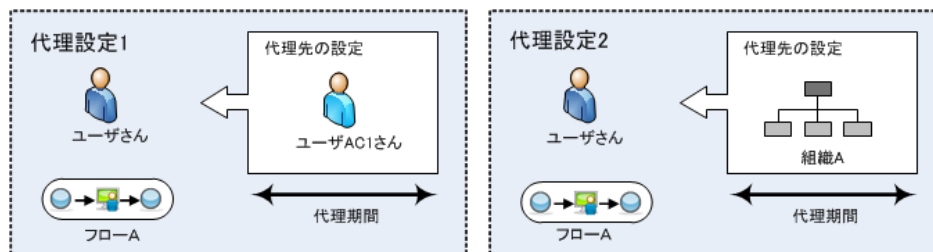
- 権限代理の代理元プラグイン情報と、ノードに設定された処理対象者のプラグイン情報が一致する場合

例えば、権限代理の代理元として「組織（サンプル課 11）」を設定している場合、未完了案件の処理待ちノードの処理対象者に「組織（サンプル課 11）」が設定されている案件に対して、権限代理による代理処理が行えます。

ノードの処理対象者として、「組織とその上位組織全て」や、「申請者の所属組織」などのプラグインが設定されている場合は、権限代理による代理処理は行えません。

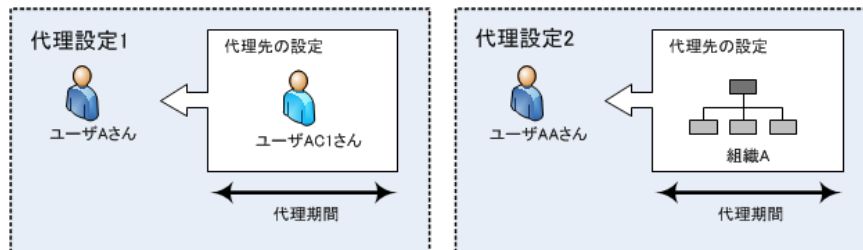
特定業務代理

- 「特定業務代理」の代理設定は代理元、代理先、代理期間、フロー定義をそれぞれ1つずつ持ちます。



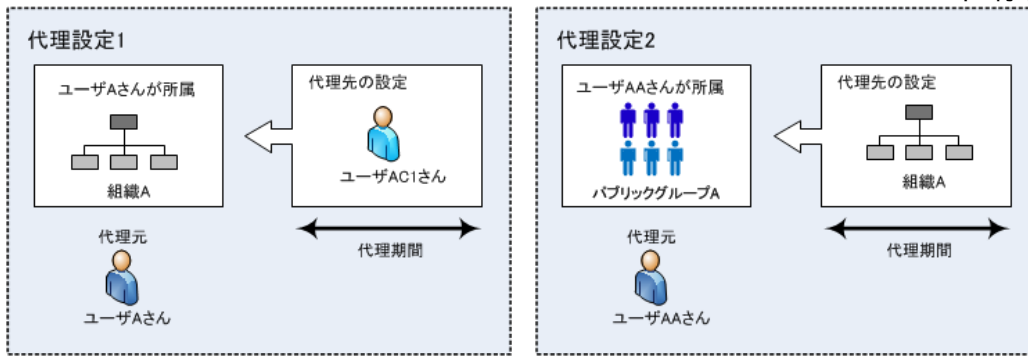
代理

- 「代理」の代理設定は代理元、代理先、代理期間をそれぞれ1つずつ持ちます。



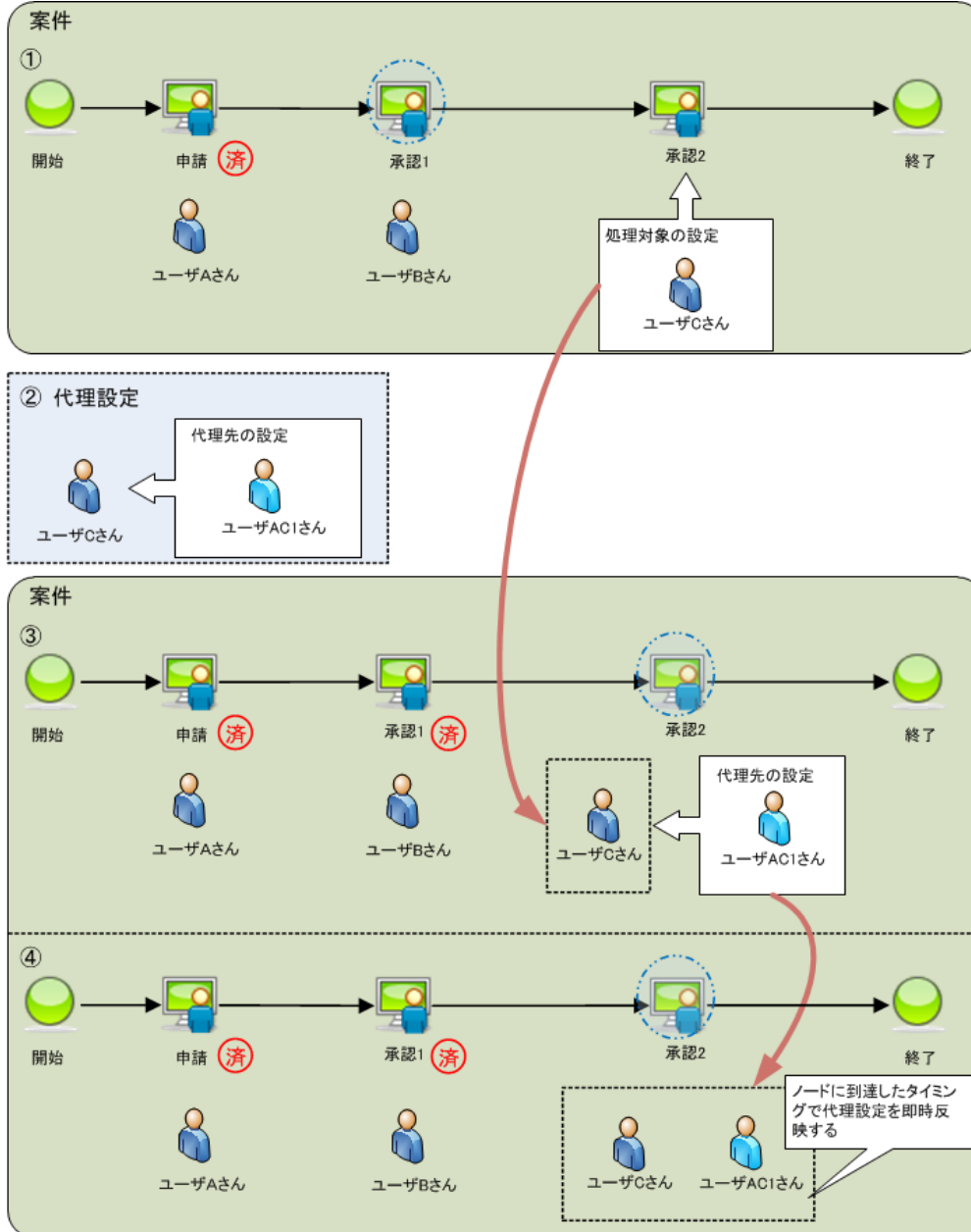
権限代理

- 「権限代理」の代理設定は代理元の所属、代理先、代理期間をそれぞれ1つずつ持ちます。



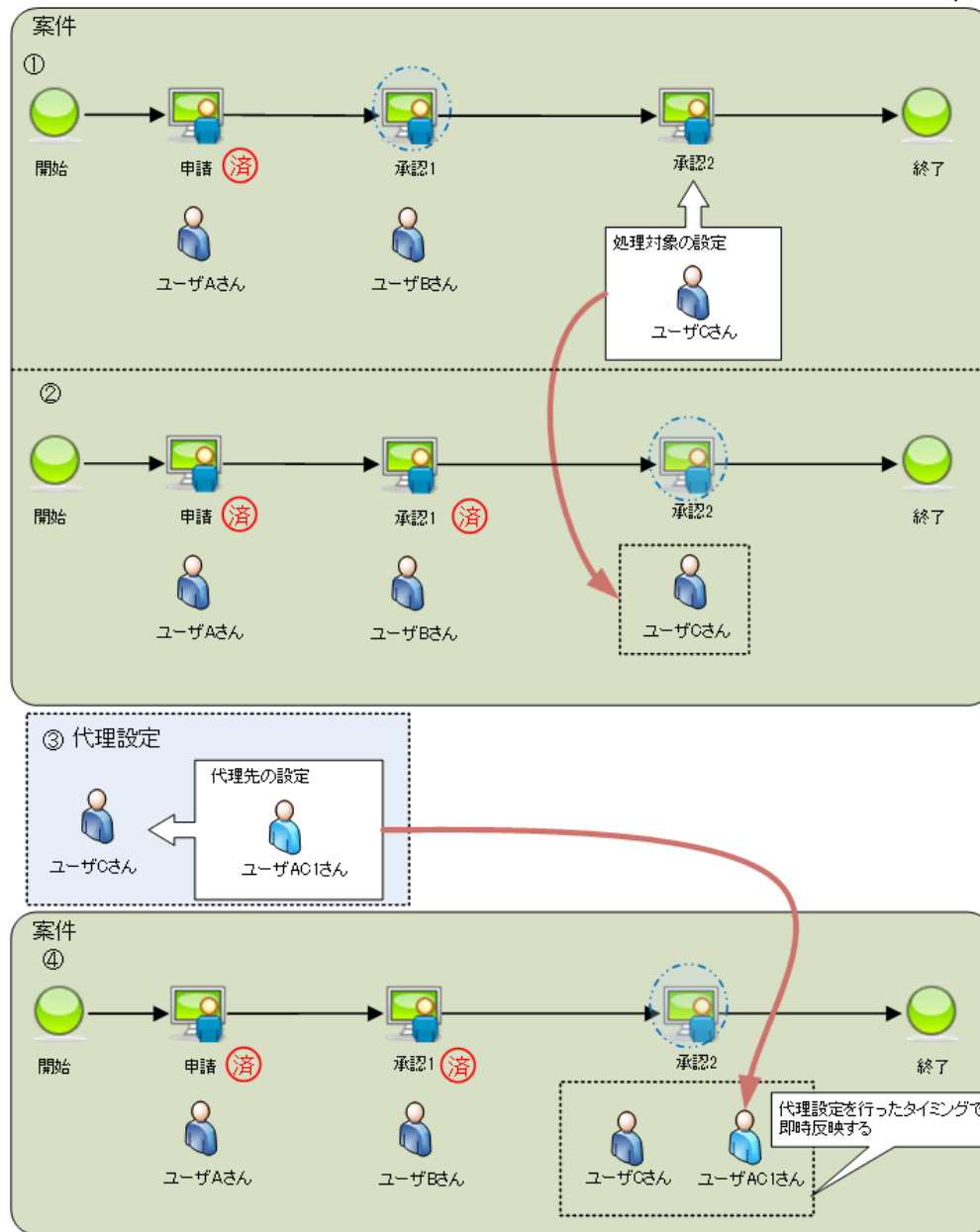
代理設定の反映（到達したノードの場合）

- 任意の状態から代理設定の解除ができます。
- 代理設定は、設定および設定の解除後に到達したノードと既に到達しているノード両方に対して即時反映されます。



代理設定の反映（既に到達しているノードの場合）

- 代理設定には申請時の代理先を設定する「申請の代理」、承認時の代理先を設定する「承認の代理」があります。「申請の代理」先と「承認の代理」先ではできる処理内容が以下に示す通り異なります。



代理先ができる処理

< ✔ : 処理できる / ✖ : 処理できない >

処理種別	申請の代理	承認の代理
起票	✖	✖
未申請状態からの申請	✔	✖
申請	✔	✖
再申請	✔	✖
取止め	✔	✖
承認	✖	✔
承認終了	✖	✔
否認	✖	✔
保留	✖	✔
保留解除	✖	✔

処理種別	申請の代理	承認の代理
差戻し	✖	✔
引戻し	✔	✔
確認	✖	✖

処理の詳細は「[処理](#)」を参照してください。

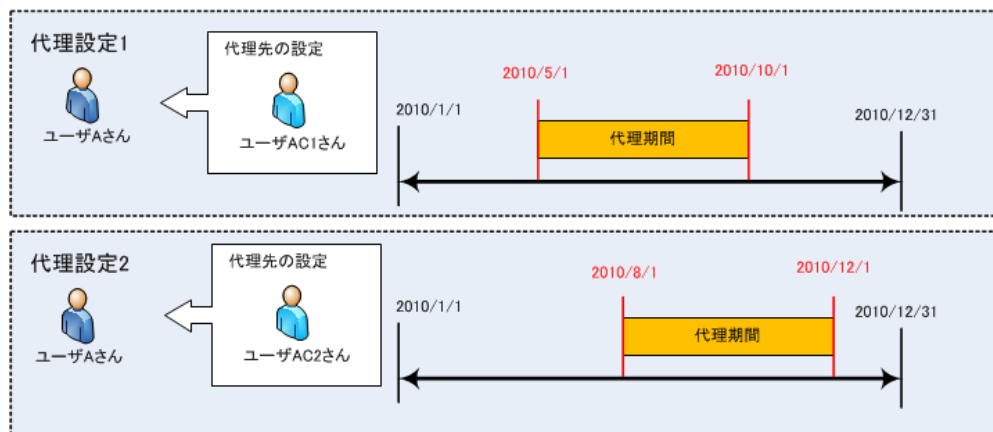
- 代理設定は テナント 単位設定で設定機能の使用可否を制御できます。
「代理」は「代理（人）機能の使用可否」、「特定業務代理」は「特定業務代理機能の使用可否」、「権限代理」は「権限代理機能の使用可否」で制御します。

代理期間

代理設定では、代理先として振る舞える有効期間を設定できます。
これを「代理期間」と呼びます。

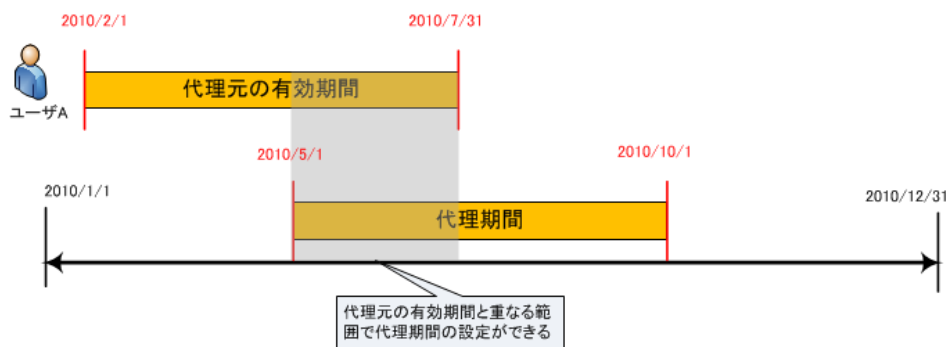
- 代理元、代理先が同じ場合でも代理期間が異なれば、各々別に代理設定が必要です。
また、それぞれの設定の代理期間の重複は許可します。

代理期間



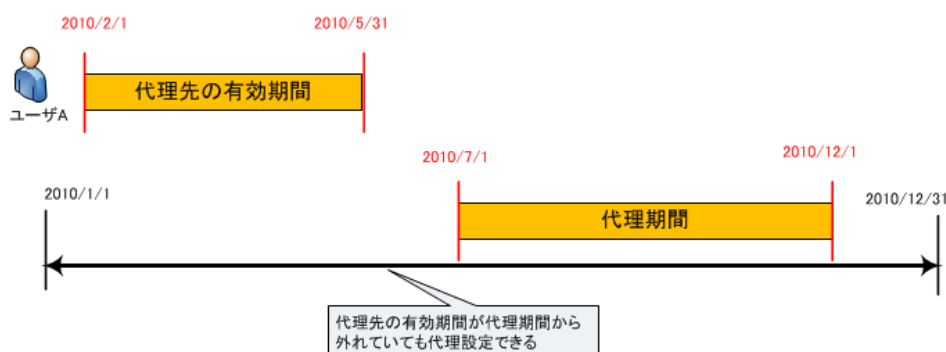
- 代理期間は代理元の有効期間と重なっている必要があります。

代理元の有効期間と代理期間



- 代理先の有効期間が代理期間から外れていても代理先として設定できます。
- 代理期間の経過後は、代理先のユーザが一度処理した場合であっても、完了案件の一覧には表示されない状態に変わります。

代理先の有効期間と代理期間



代理先の設定内容

IM-Workflow 標準機能では代理先に IM-共通マスタ のユーザや組織などを設定できます。

- 1つの代理先には複数の設定を「OR」で連結できます。

前述した利用シーン別に用意している「代理設定の種類」によって代理先として設定できる内容が異なります。

特定業務代理で代理先として設定できる内容

- 代理設定「特定業務代理」は特定の業務をユーザや組織に委託することを想定した機能ですので、以下を代理先として設定できます。

NO	条件		
1	ユーザ		
2	組織		
3	役職		
4	パブリックグループ		
5	役割		
6	組織	+	役職
7	パブリックグループ	+	役割

代理で代理先として設定できる内容

- 代理設定「代理」は代理元不在の場合に特定の利用者に処理を委託することを想定した機能ですので、代理先として「ユーザ」のみを設定できます。

権限代理で代理先として設定できる内容

- 代理設定「権限代理」は代理元の所属の業務をユーザや組織に委託することを想定した機能ですので、以下を代理先として設定できます。

NO	条件		
1	ユーザ		
2	組織		
3	役職		
4	パブリックグループ		
5	役割		
6	組織	+	役職
7	パブリックグループ	+	役割

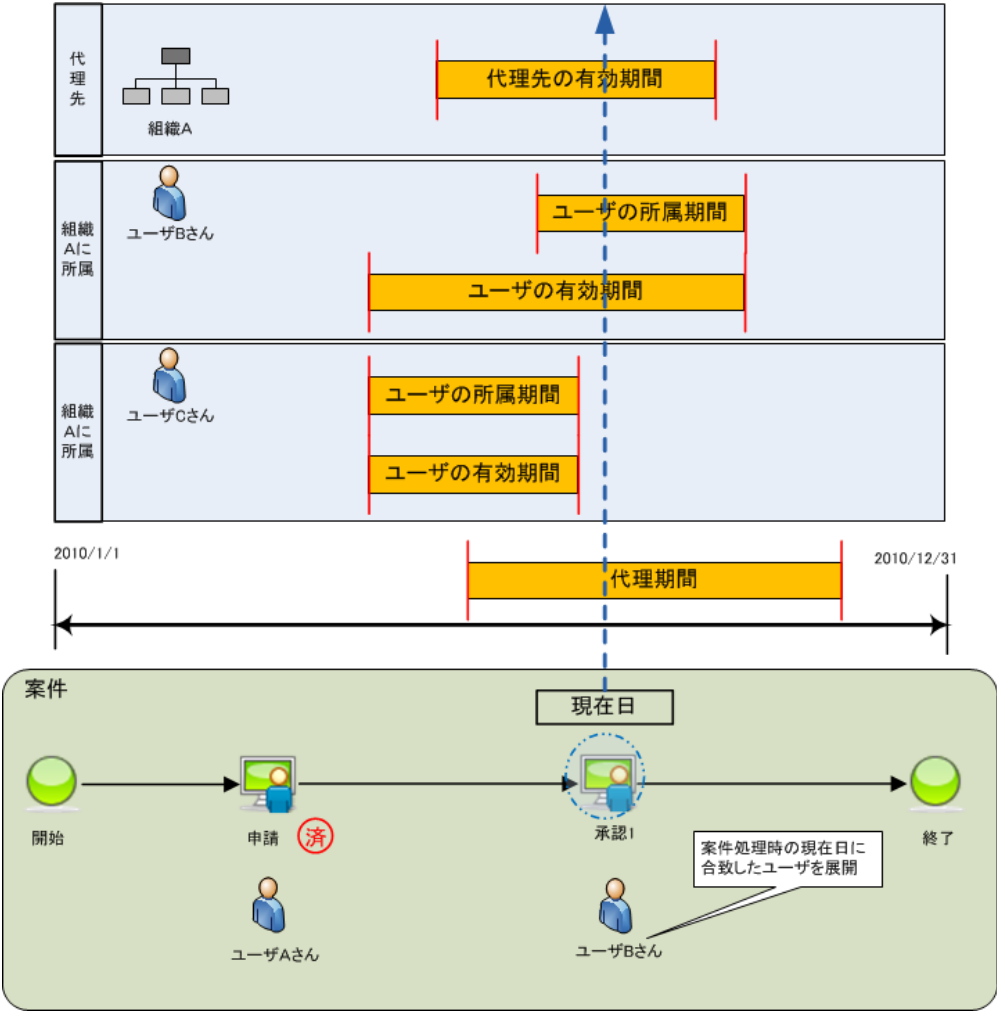
代理先の展開

処理権限者が展開された後、および振替先が展開された後、処理権限者や振替先に代理設定がされていた場合、ワークフローは代理設定に従いユーザをノードに展開します。

展開されたユーザは代理元である処理権限者から処理を委託され、代理での処理を行うことができます。

- 代理先としてノードに展開するユーザは案件処理時の現在日時点で有効なユーザです。

代理先の展開（IM-共通マスタ）

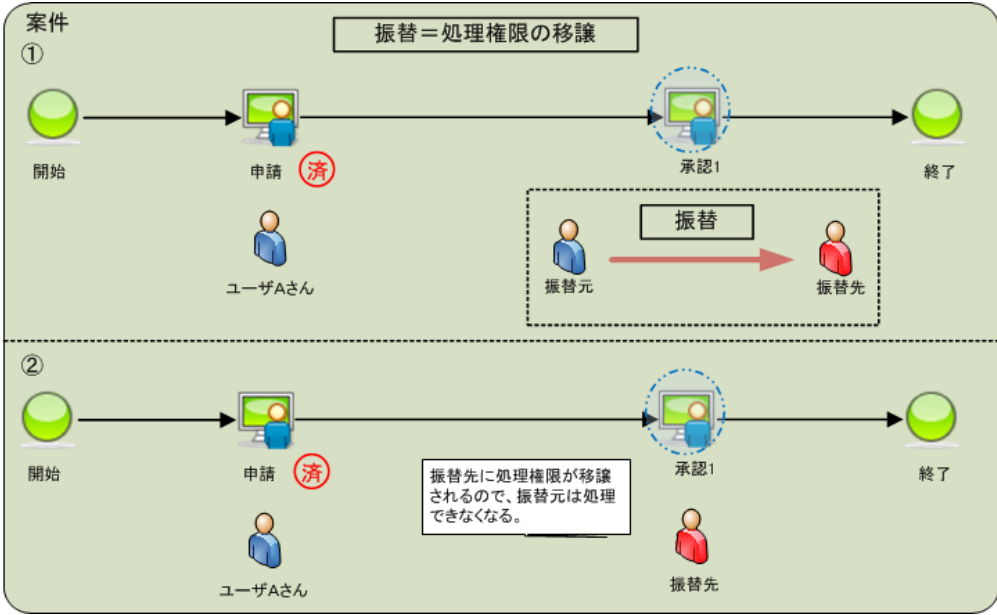


振替

処理権限を持つ利用者が、他の利用者に処理権限を移譲することを「振替」と呼びます。

- 処理権限を委譲する利用者を「振替元」、処理権限を委譲される利用者を「振替先」と呼びます。

振替元と振替先



振替元と振替先

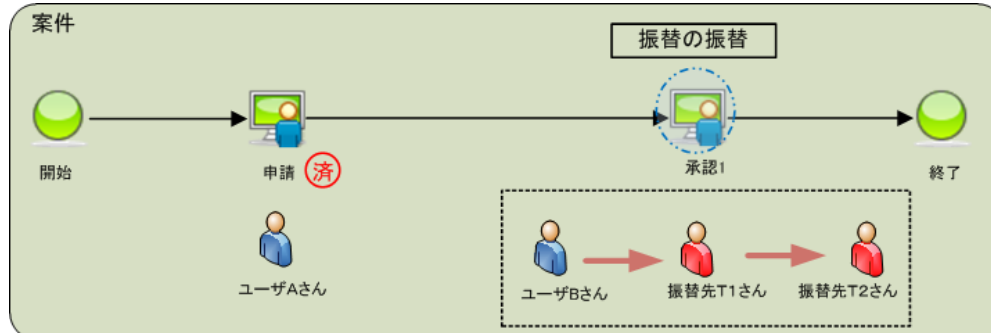
振替元	振替先
本人の処理権限を持つ処理対象者	ユーザ、組織、パブリックグループ、役職、役割

- 振替ができるのは案件処理中に処理が到達しているノードです。

また「振替元」は振替を行うノードの処理対象者である必要があります。

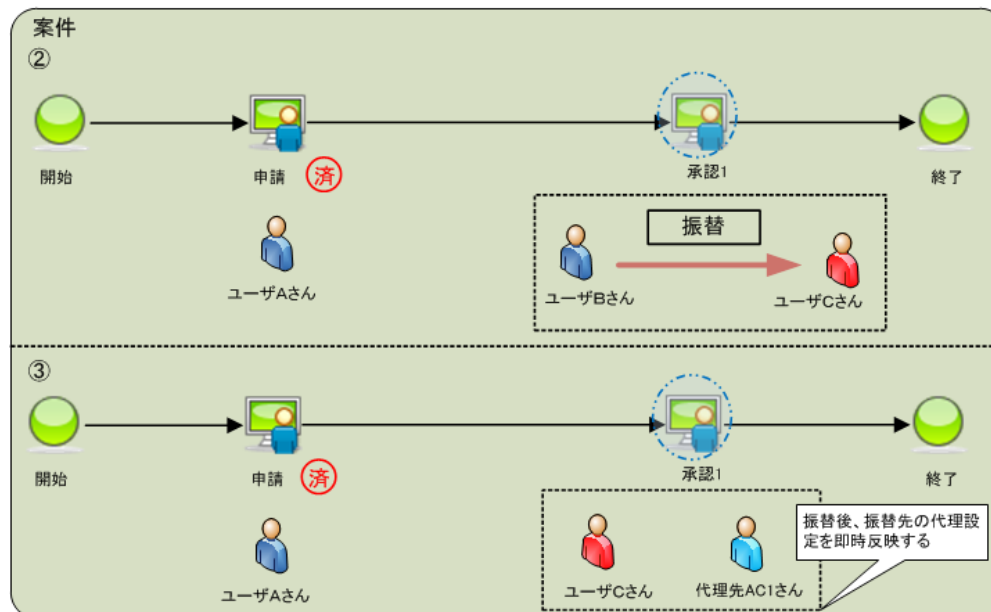
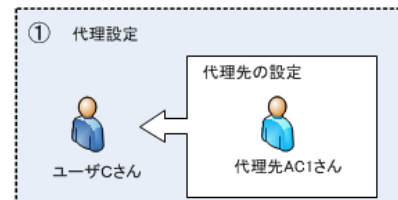
- 振替元は振替先に完全に権限を委譲します。
したがって、振替後は対象ノードの処理はできません。
- 振替先に移譲した処理権限は振替処理を行ったノードのみで有効です。
- 振替の取り消しはできません。
- 振替先として既にノードの処理対象者になっているユーザも指定できます。
- 代理先が振替を行うと、代理元の振替が行われます。
- 振替の振替ができます。振替回数に制限はありません。

振替回数に制限はない



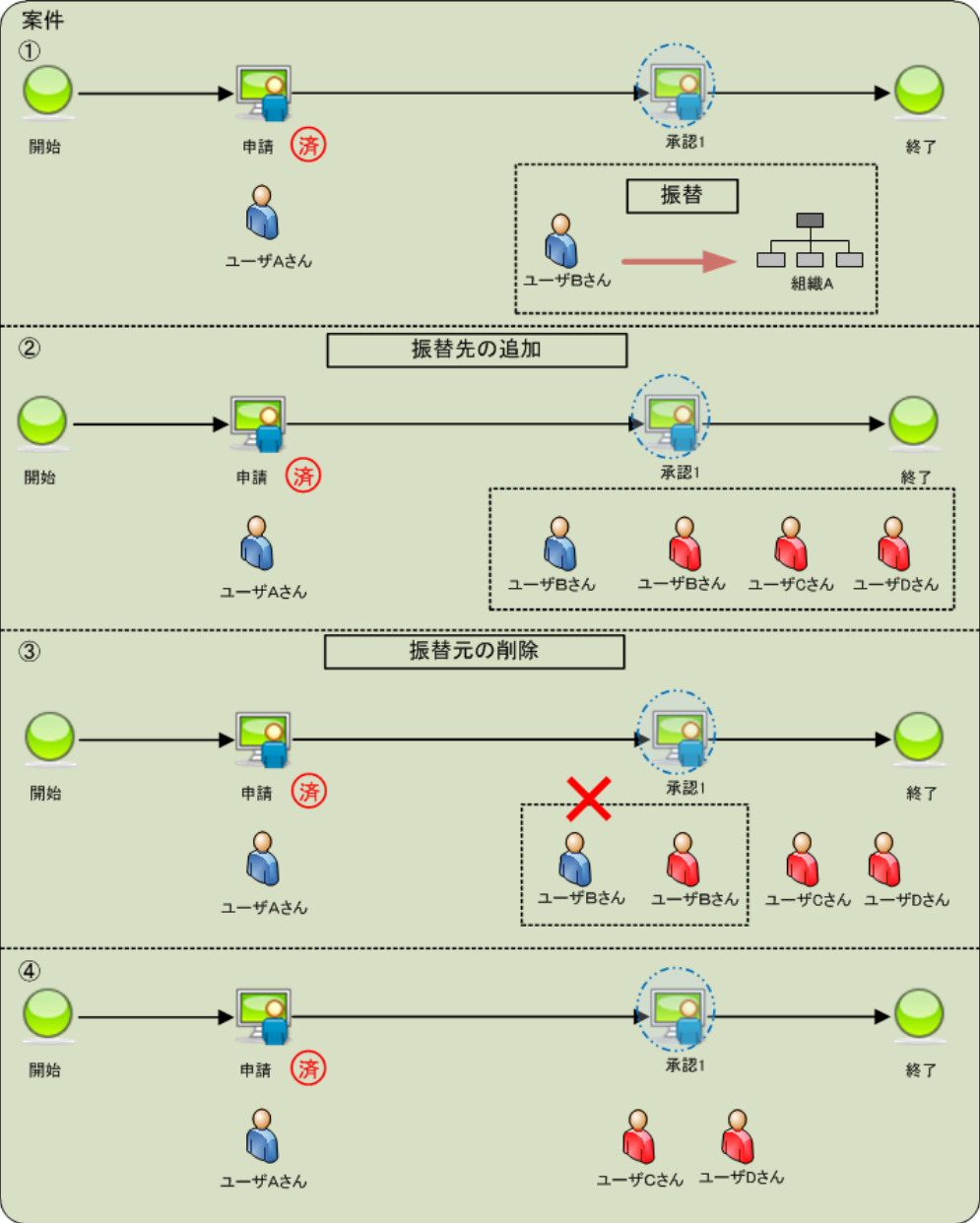
- 振替先が代理設定を持つ場合、振替時に振替先の代理先をノードに反映します。

振替先の代理設定



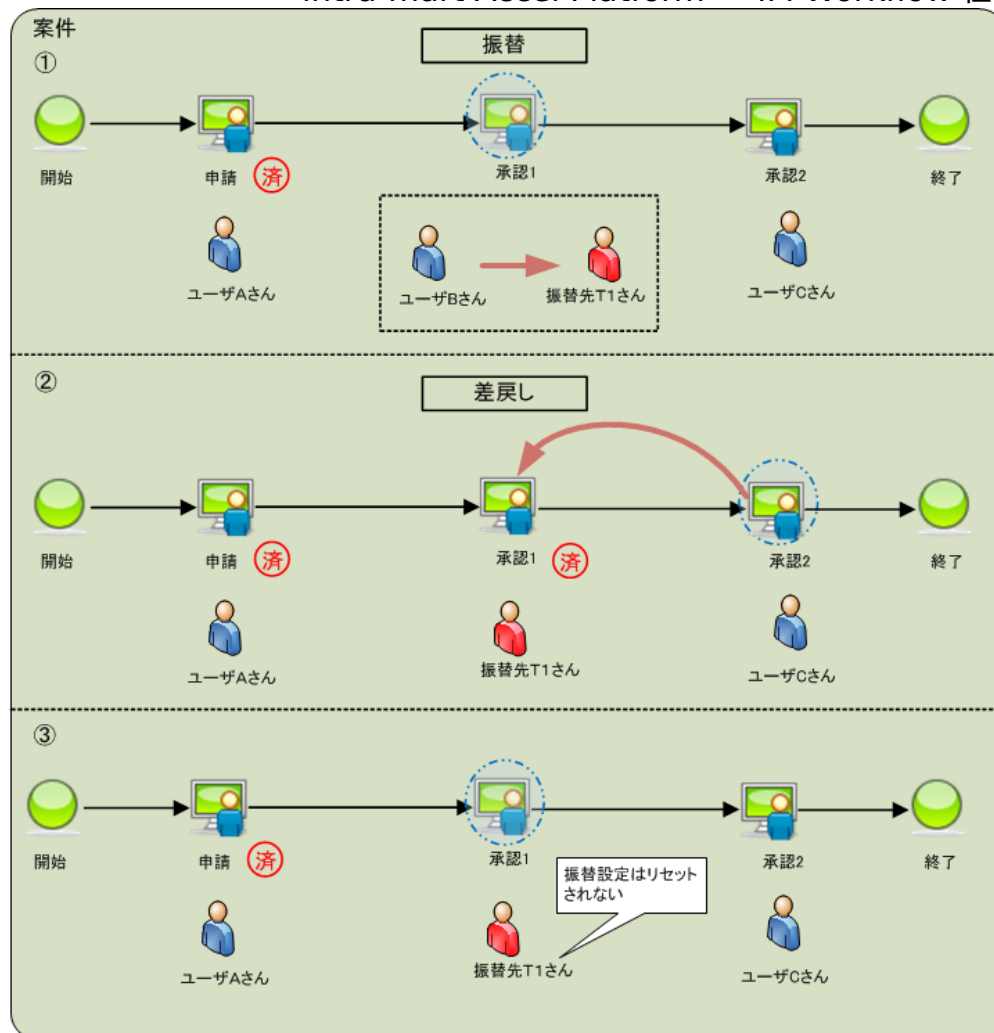
- 振替処理は「振替先の追加」⇒「振替元の削除」の順で実行します。
そのため仮に振替元が振替先に含まれる場合は、処理後に振替元は処理対象者から外れます。

振替の実行順



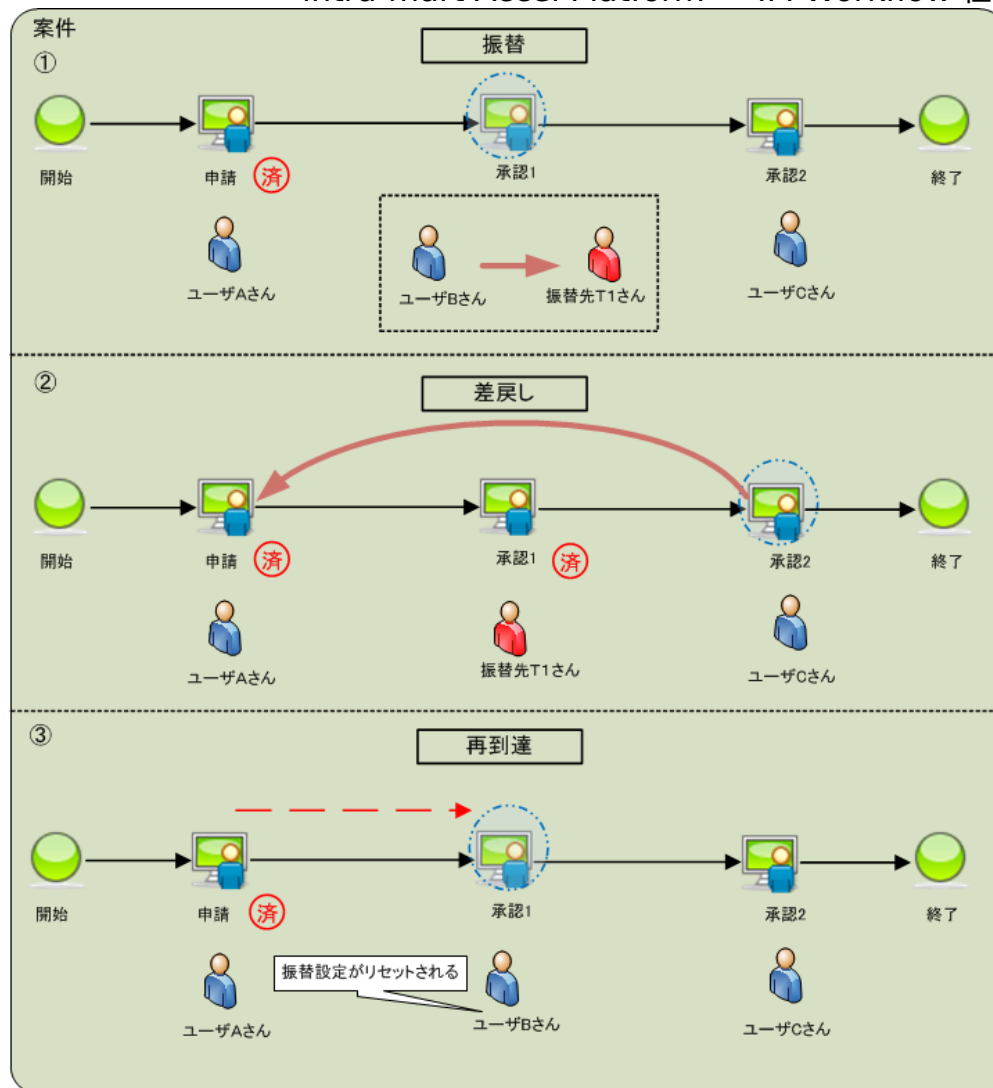
■ 振替処理を行ったノードに差戻しを行った場合、振替先はリセットされません。

振替と差戻し 1



- 振替処理を行ったノードより前のノードまで差戻しが行われ、その後の処理で以前振替したノードに到達した場合は、前回の振替の設定はリセットされます。

振替と差戻し 2



- ノードとノード上の処理状態によって振替ができない場合があります。振替の可否を下表に示します。

振替できるノード

ノード	状態	振替
申請ノード	未申請	×
	再申請待ち	×
承認ノード	承認待ち	✓
	保留	✓
システムノード	承認待ち	×
動的承認ノード	承認待ち	✓
	保留	✓
確認ノード	確認可	×

その他振替に関する設定は下記を参照してください。

振替先の設定内容

IM-Workflow の標準機能では、振替先に IM-共通マスタ のユーザや組織などを設定できます。

- 1つの振替元に対して1つの振替先を設定できます。
- 振替先として以下を設定できます。

振替先の設定

NO	条件
1	ユーザ
2	組織
3	役職
4	パブリックグループ
5	役割
6	組織 + 役職
7	パブリックグループ + 役割

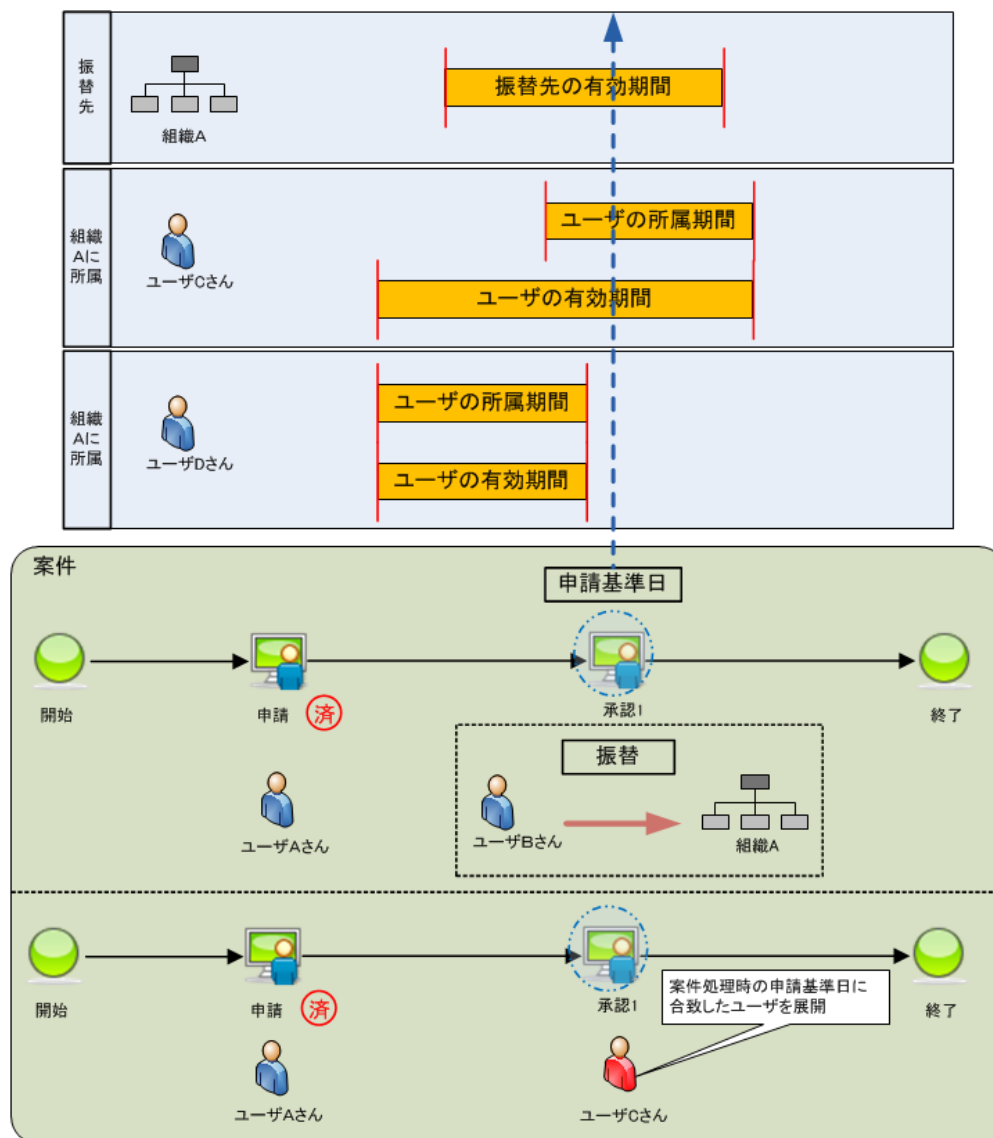
振替先の展開

振替元が振替を行うと、ワークフローは振替設定に従いユーザをノードに展開します。

展開されたユーザは振替元である処理権限者から処理権限を委譲され、本人としてノードの処理を行うことができます。

- 振替先として申請基準日時点で有効なユーザをノードに展開します。

振替先の展開（IM-共通マスタ）



担当組織の指定

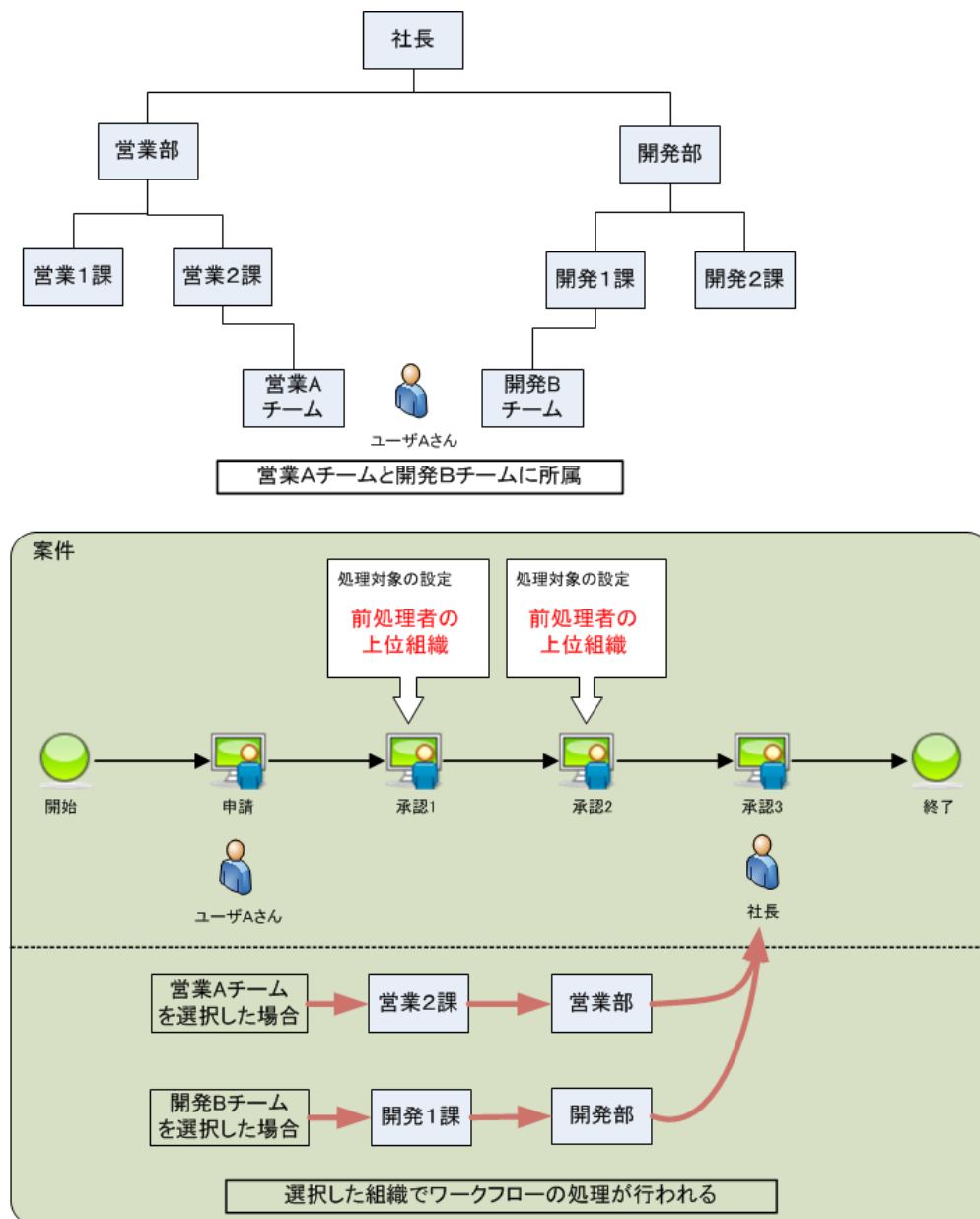
IM-Workflow では、案件の処理結果を履歴として記録します。

履歴として「誰がどの組織（立場）で行ったか」という形式で記録し、処理時に次ノードの処理対象者を決める場合などに使用します。そのため、処理対象者は申請や承認の際に「どの組織（立場）で処理をしたのか」という情報をワークフローに通知する必要があります。この際、指定する組織は処理権限を持つ本人（代理の場合は代理元）の組織が対象です。

- 処理対象者に所属組織が複数ある場合は、複数の所属組織から1つ選択する必要があります。

- 処理対象者に所属組織が無い場合は、「所属なし」を指定する必要があります。

指定した組織で案件が処理される例



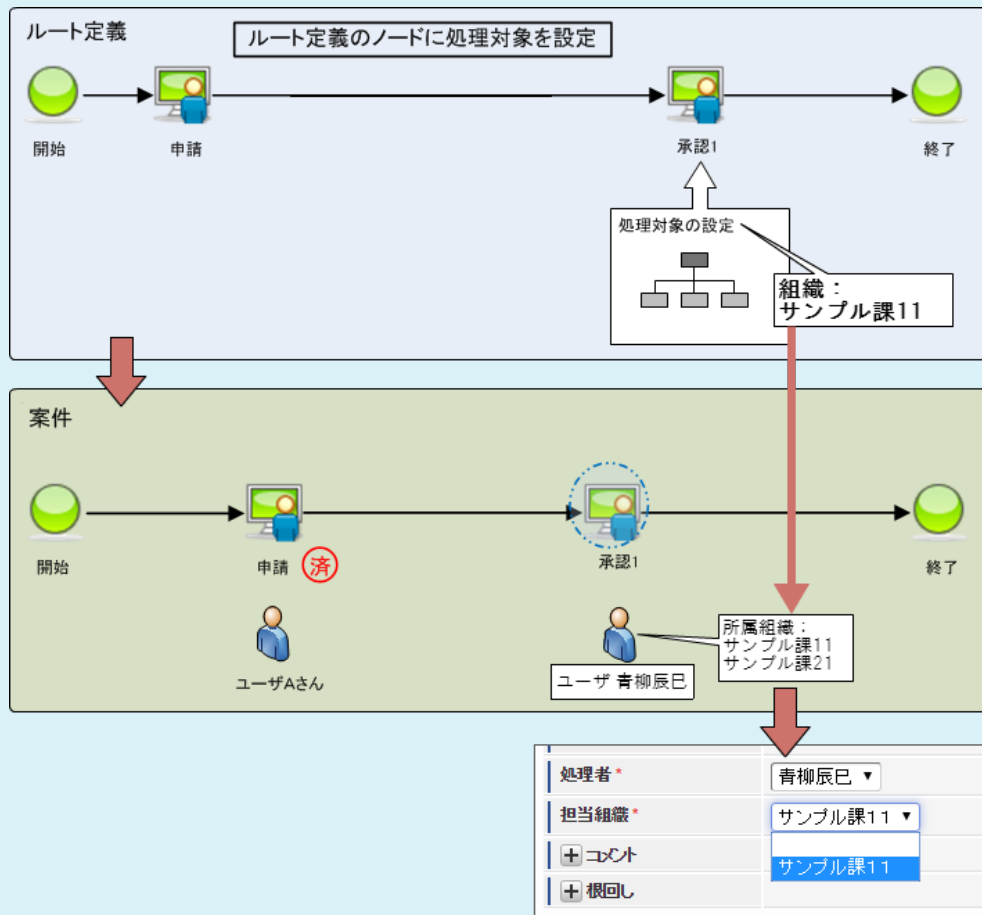
i コラム

標準処理画面の「担当組織」について

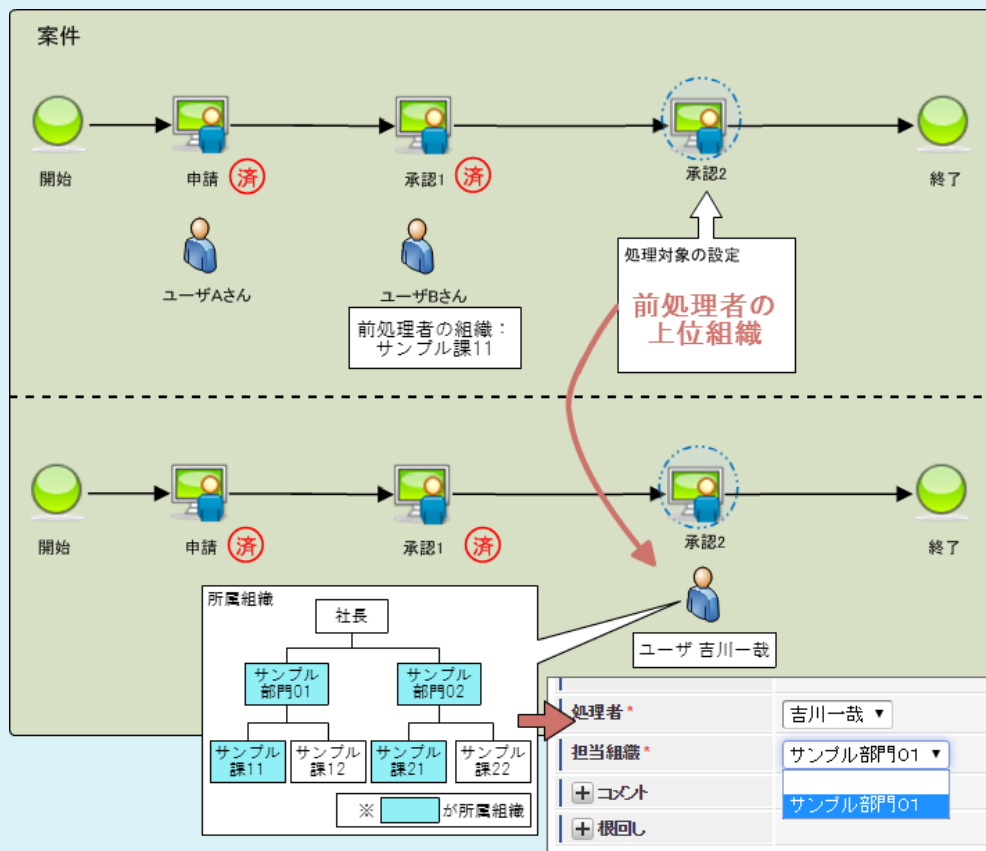
- 処理対象者が以下のプラグインによって展開されている場合、標準処理画面の「担当組織」には対象ユーザのすべての所属組織が表示されます。
 - ユーザ
 - ロール
 - パブリックグループ
 - 役職
 - 役割
 - パブリックグループ+役割
 - パブリックグループ+ロール
 - ロジックフロー（ユーザ）
- 処理対象者が上記以外のプラグイン（※「組織」「組織+役職」「申請者の所属組織」「組織とその上位組織全て+役職」など）によってのみ展開されている場合、標準処理画面の「担当組織」には、当該ユーザの所属組織のうち、展開元となったプラグインに関連する組織のみが表示されます。
 なお、処理対象者として複数の組織情報が指定されており、かつ、指定されている組織を兼務している場合、「担当組織」には該当する所属組織がすべて表示されます。

以下は例です。

- 「組織」プラグインで特定の組織が指定されている場合、「担当組織」には指定された組織のみが表示されます。



- 「前処理者の上位組織」プラグインが指定されている場合、「担当組織」には前処理者の担当組織の上位組織のみが表示されます。



i コラム

複数の組織が「担当組織」に表示される場合、担当組織は以下のコードの昇順で表示されます。

1. 会社コード
2. 組織セットコード
3. 組織コード

標準組織

IM-Workflow では「IM-共通マスタ」の組織セットを利用する場合に、利用者が組織セットを意識せずに利用できる「標準組織」機能を用意しています。

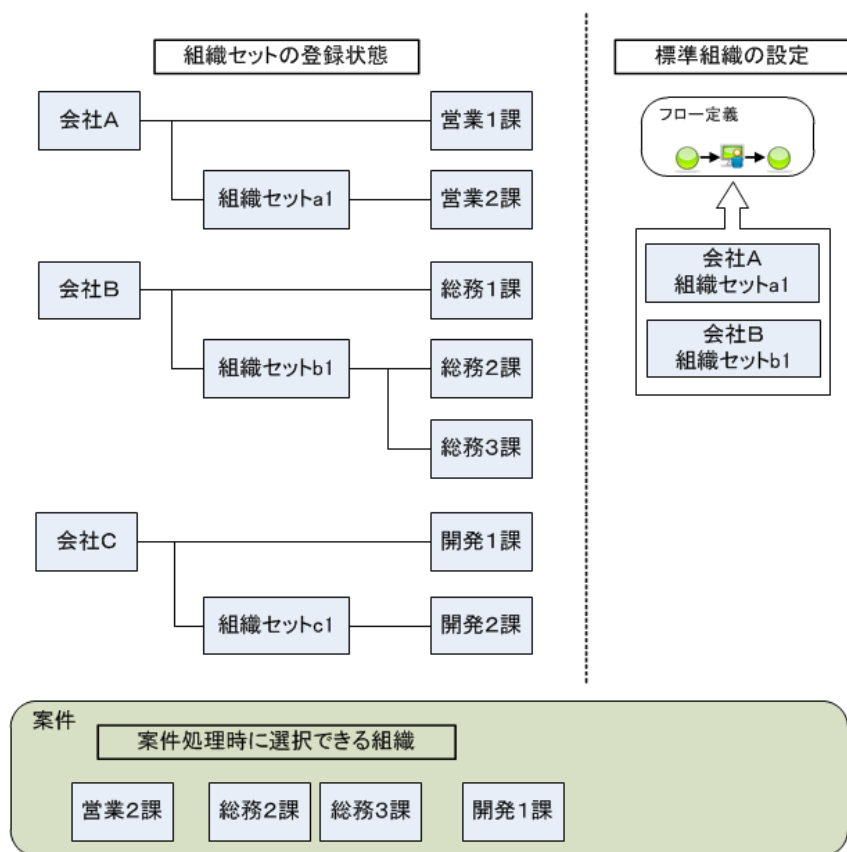
- 標準組織はフロー定義に対して会社ごとに1つ設定できます。
- フロー定義に標準組織を設定すると、設定したフロー定義の案件で使用できる組織に制限を掛けることができます。
- テナント単位設定「標準組織の使用可否」で標準組織機能の使用可否の制御ができます。

組織セットとは複数の組織をグループ化する概念です。

組織セットの詳細については「[IM-共通マスタ 仕様書](#)」を参照してください。

- 標準組織に組織セットを1つも設定していない場合は、デフォルトの組織セット「会社」配下の組織が使用されます。
- ただし、使用できる会社は認可で許可されたものに限定されます。
- 標準組織に組織セットを設定すると、案件で使用できる組織が組織セット配下の組織に限定されます。
 - 処理対象の設定「案件処理時固定指定」で指定できる組織が組織セット配下に限定されます。
 - 案件処理時に選択できる組織が組織セット配下に限定されます。

複数の会社、一部組織セットを指定、一部デフォルト



処理対象者の展開に関する補足

実際の展開処理ではノードの種類や処理種別によって処理内容が異なります。

処理種別については後述の「[処理](#)」を参照してください。

展開処理 < ✔ : 展開する / ✖ : 展開しない / - : 遷移不可 >

遷移先ノード	処理対象	処理種別				案件操作	
		申請再申請	承認	差戻し	引戻し	ノード移動（戻る）	ノード移動（進む）
申請	ノード処理対象者	-	-	×	×	×	-
承認	ノード処理対象者	✓	✓	×	× [1]	×	✓
動的承認							
システム	ノード処理対象者	×	×	×	× [1]	×	×
確認	確認対象者	✓	✓	-	-	-	-

[1] (1, 2) 差戻しの引戻しを行った場合も展開しない。

- 振替先はいずれの場合も展開しない。
- 画面上で操作した場合の仕様です。

処理

案件の開始後、処理対象者は各ノード上で「処理」を行うことで案件を進めていきます。
実行できる処理は下表となっており、案件上の処理の前進や後進、自分以外の処理の禁止などができます。

処理の種類		
処理種別	説明	処理内容
起票	案件を開始して、未申請状態にします。	フロー定義から案件を開始した後、申請ノードに移動して未申請状態にします。
未申請状態からの申請	未申請状態から申請し、案件を開始します。	申請ノードの処理を実行後、次のノードに移動して承認待ち状態に変わります。
申請	案件を開始します。	フロー定義から案件が開始した後、申請ノードの処理を実行して、その次のノードに移動して承認待ち状態に変わります。
再申請	申請ノードへの差戻し、引戻しの後に案件を再び申請します。	申請ノードの処理を実行後、次のノードに移動して承認待ち状態に変わります。
取止め	申請者が案件の申請を取止めます。	案件を完了させます。
承認	案件を承認する。	ノードに対して承認処理を実行後、次のノードに処理を移動します。
承認終了	案件の承認と同時に案件を完了させます。	案件を完了させます。 案件として可決した状態に変わります。
否認	案件の否決と同時に案件を完了させます。	案件を完了させます。 案件として否決された状態に変わります。
保留	ノードを保留状態にします。	ノードを保留状態にします。 本人、および本人の代理先以外のノードの処理対象者は保留解除が行われるまで、そのノードに対して処理が行えません。
保留解除	ノードの保留状態を解除します。	保留状態のノードを保留解除します。 保留が解除されると全てのノードの処理対象者はノードに対して処理が行えます。
差戻し	処理を任意の処理済みノードへ戻します。	差戻し先のノードへ処理を移動します。 差戻し元ノードより後方のノードで処理済状態であるものは未処理に戻します。
引戻し	次のノードの処理対象者が処理を行う前に、自ノードに処理を戻します。	再申請待ち状態、承認待ち状態のノードから直前に処理を行ったノードに移動します。

詳細については下記を参照してください。

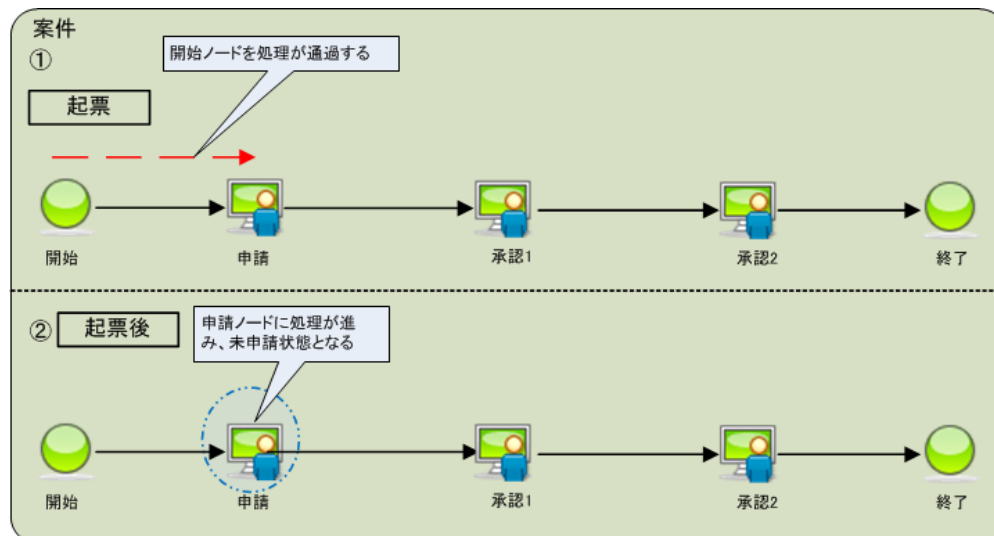
起票

フロー定義から案件を開始する処理です。

開始された後、申請ノードで止まり、未申請状態になります。

IM-Workflow が標準で提供する起票APIを実行することで起票処理を行えます。

起票

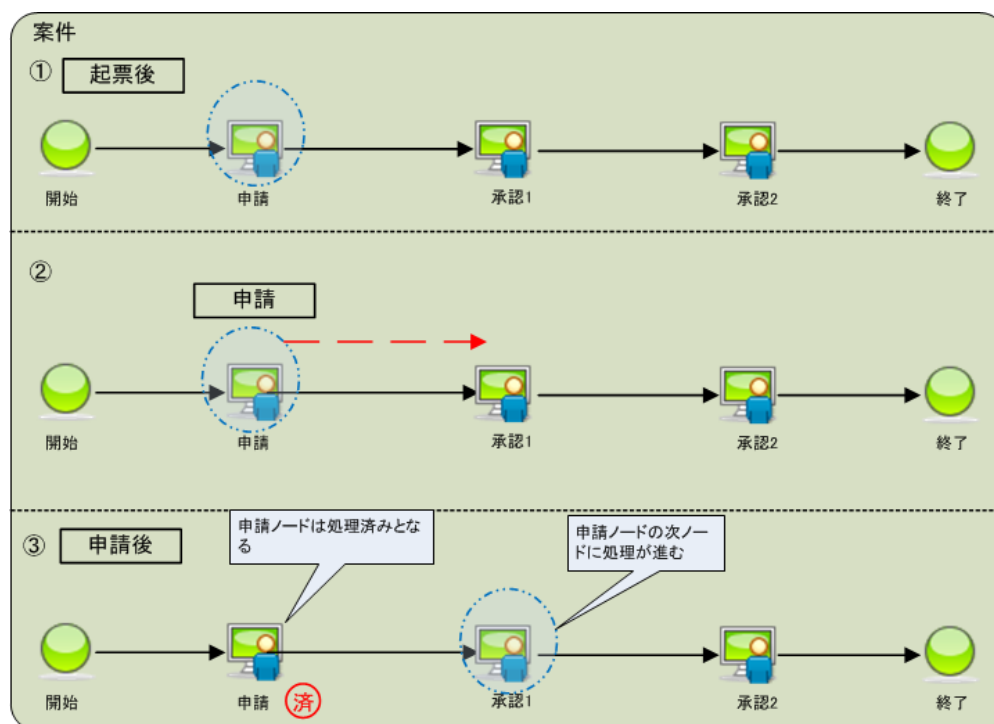


未申請状態からの申請

申請者が未申請状態から申請を行う処理です。

処理した後、申請ノードの次ノードで止まり、承認待ち状態になります。

未申請状態からの申請

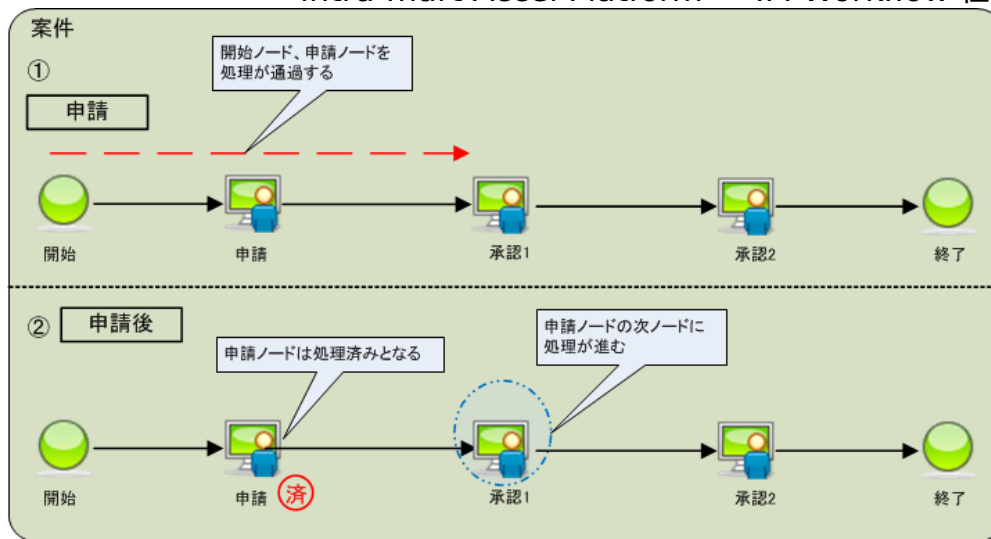


申請

申請者がフロー定義から案件を開始する処理です。

開始された後、申請ノードの次ノードで止まり、承認待ち状態になります。

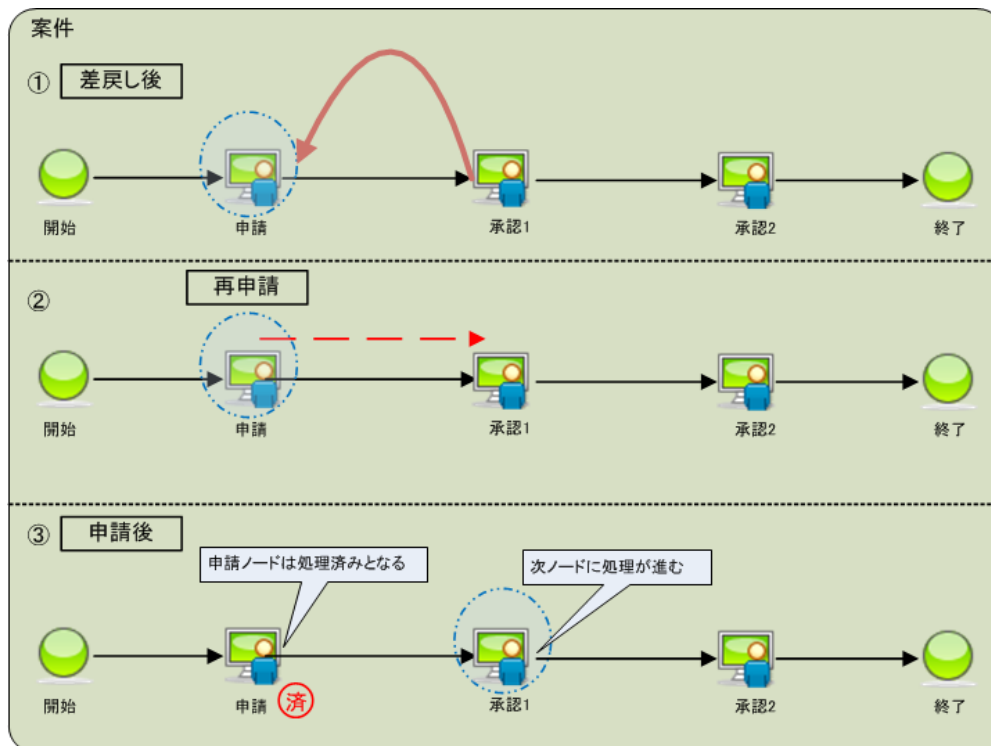
申請



再申請

申請ノードへの差戻し、引戻しの後に申請者が再び申請を行う処理です。
開始された後、申請ノードの次ノードで止まり、承認待ち状態に変わります。

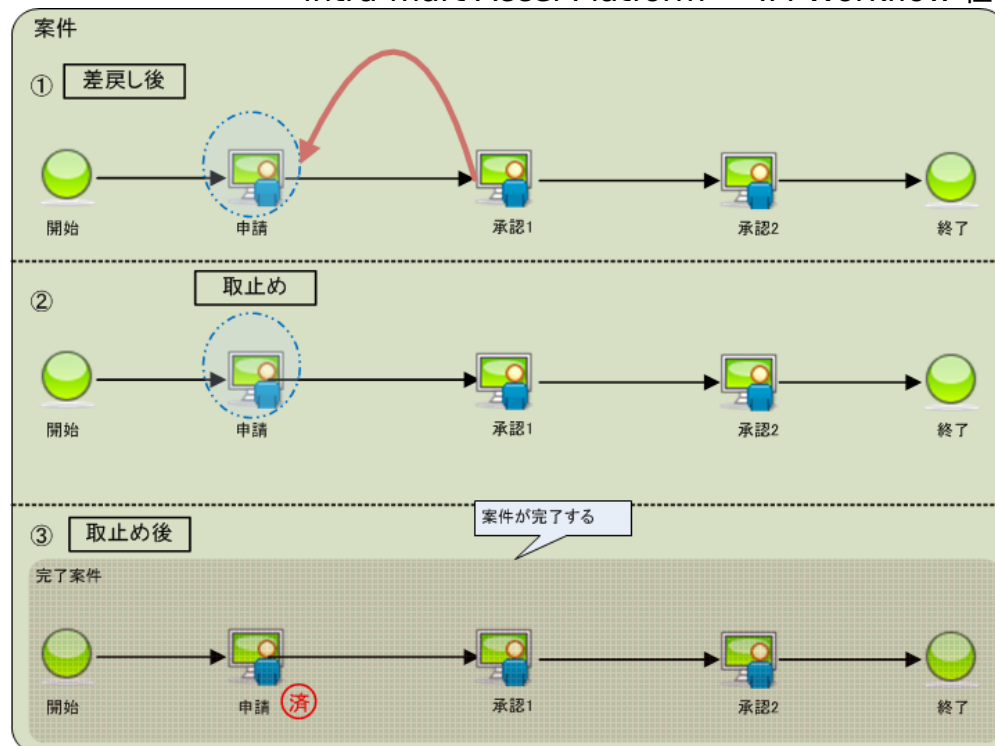
再申請



取止め

申請ノードへの差戻し、引戻しの後に申請者が案件を止める処理です。
処理の後、案件は完了します。

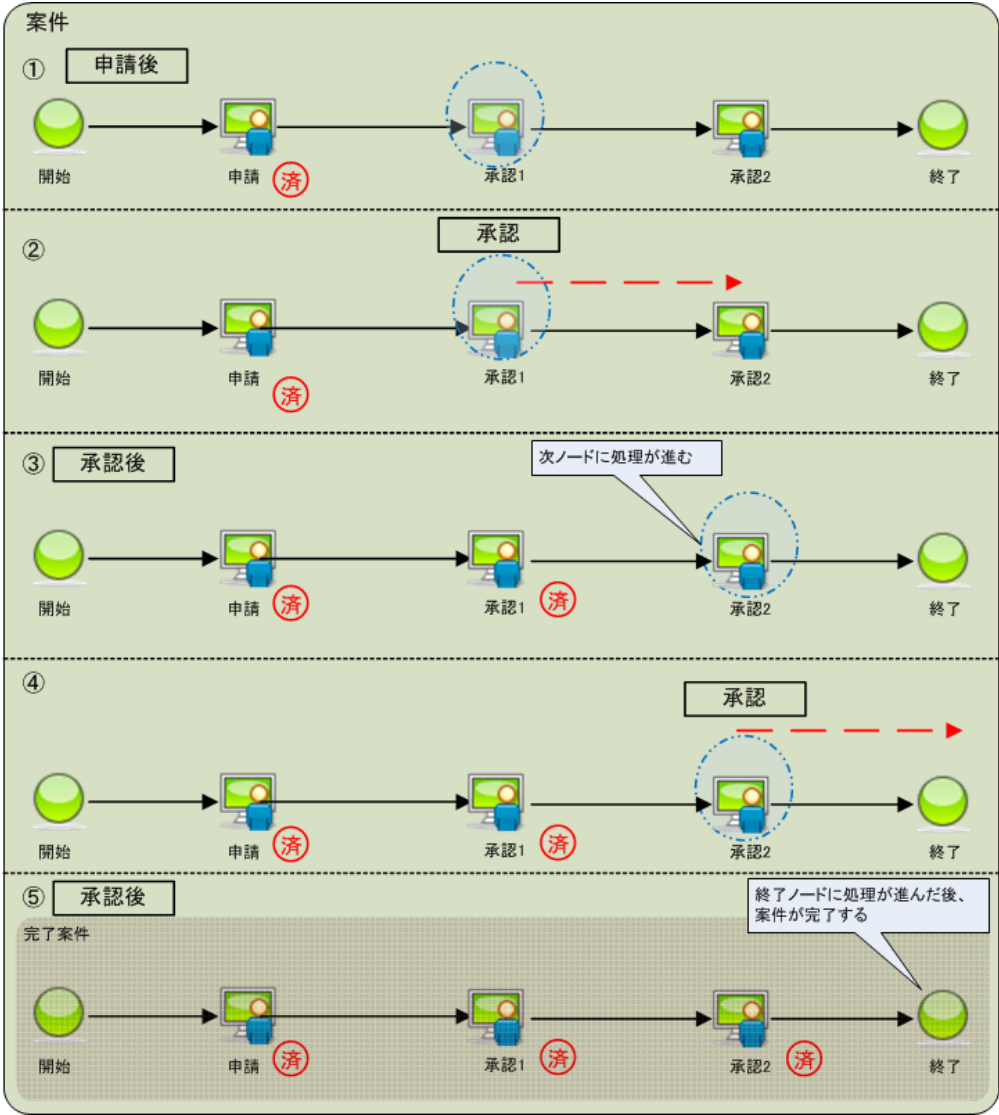
取止め



承認

承認待ち状態のノードにて、案件を許可して次のノードに案件を進める処理です。
 処理の後、処理したノードの次のノードは承認待ち状態に変わります。
 また、処理したノードの次のノードが終了ノードの場合、案件は可決として完了します。

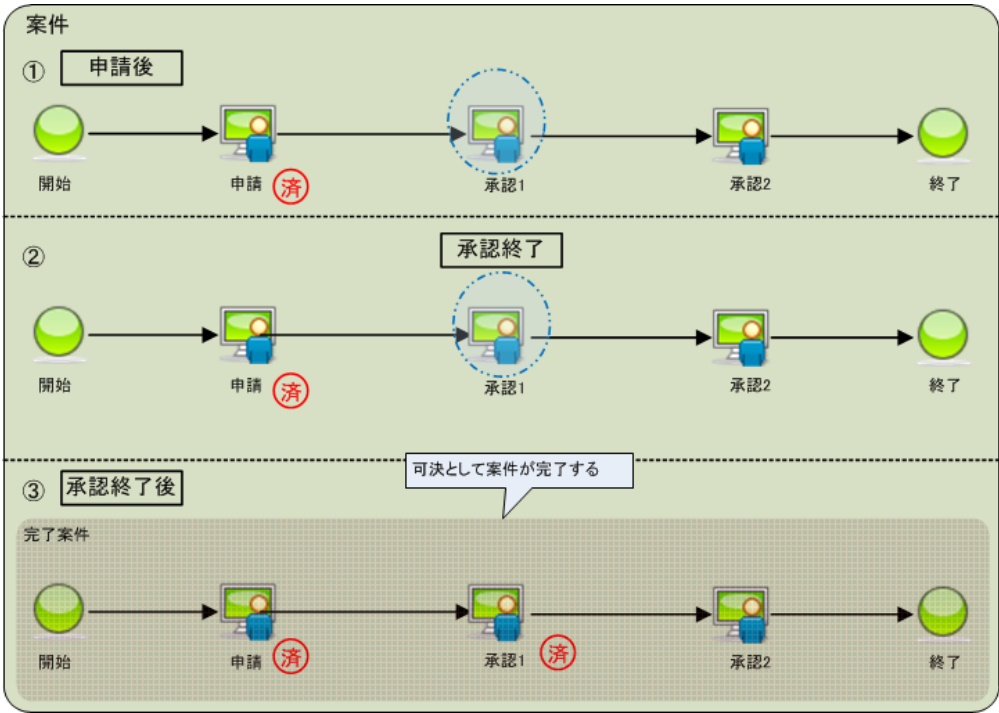
承認



承認終了

承認待ち状態のノードにて、可決して案件を完了させる処理です。

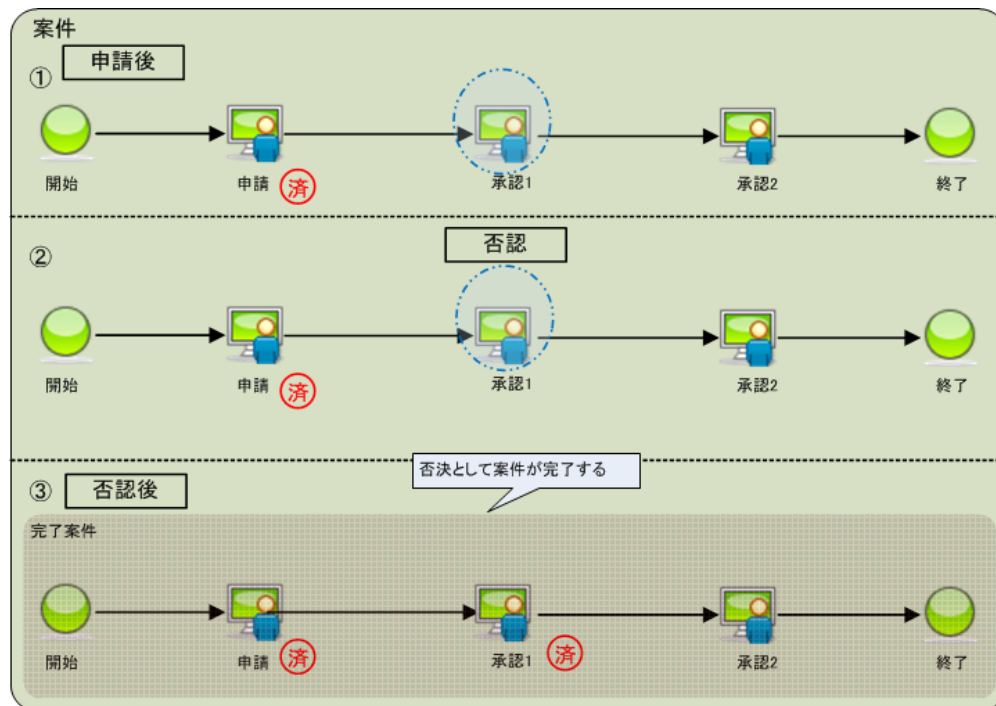
承認終了



否認

承認待ち状態のノードにて、案件を否認として完了する処理です。

否認

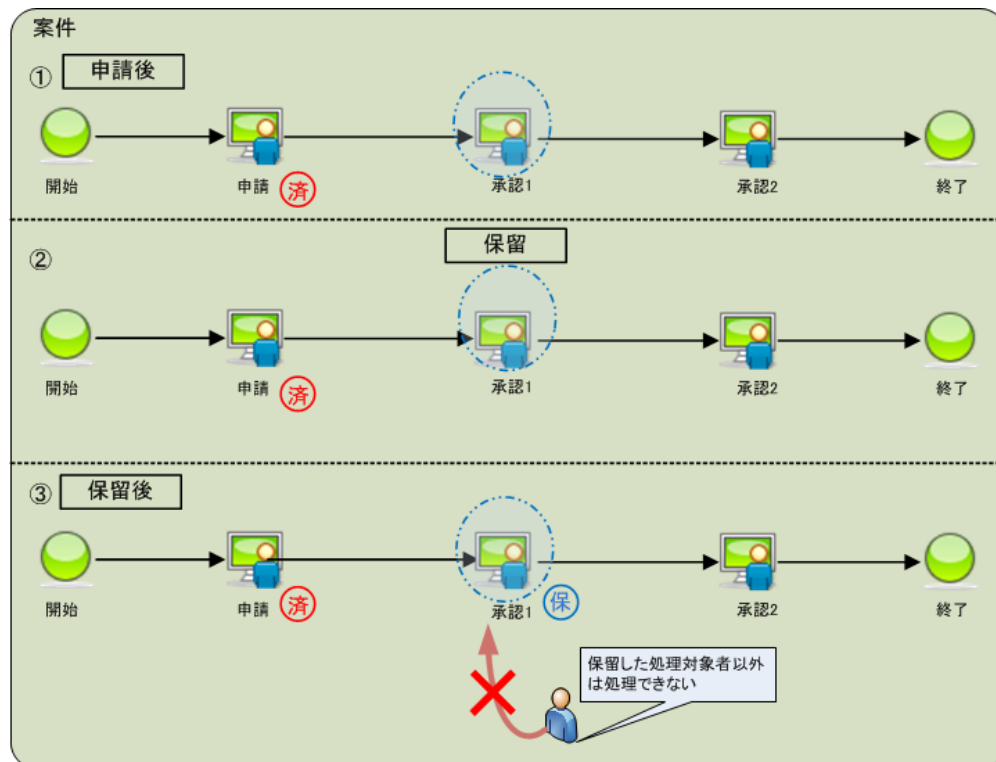


保留

保留した本人とその代理元以外の処理を禁止します。

- 保留中に振替を行うと保留は解除されます。
- 代理元の保留は代理先が解除できます。逆も同様です。

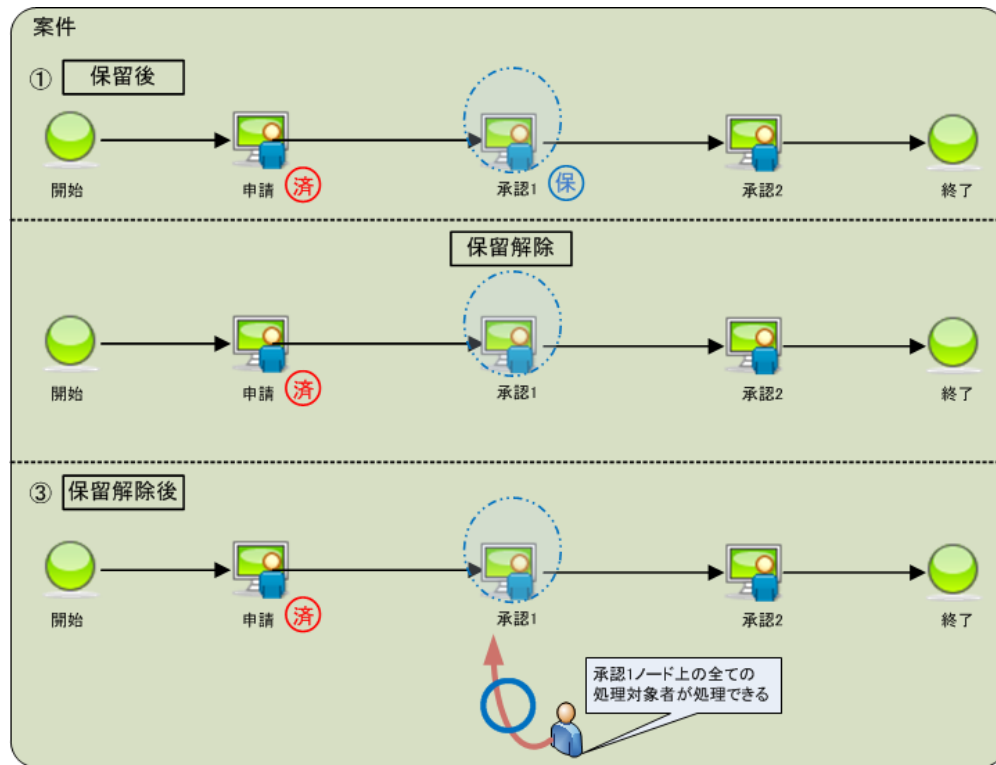
保留



保留解除

保留状態が解除され、保留した本人以外の処理対象者が処理できる承認待ち状態に変わります。

保留解除



差戻し

現在のノードから処理を任意の処理済みのノードに戻します。

この場合、処理前のノードを差戻し元、処理後のノードを差戻し先と呼びます。

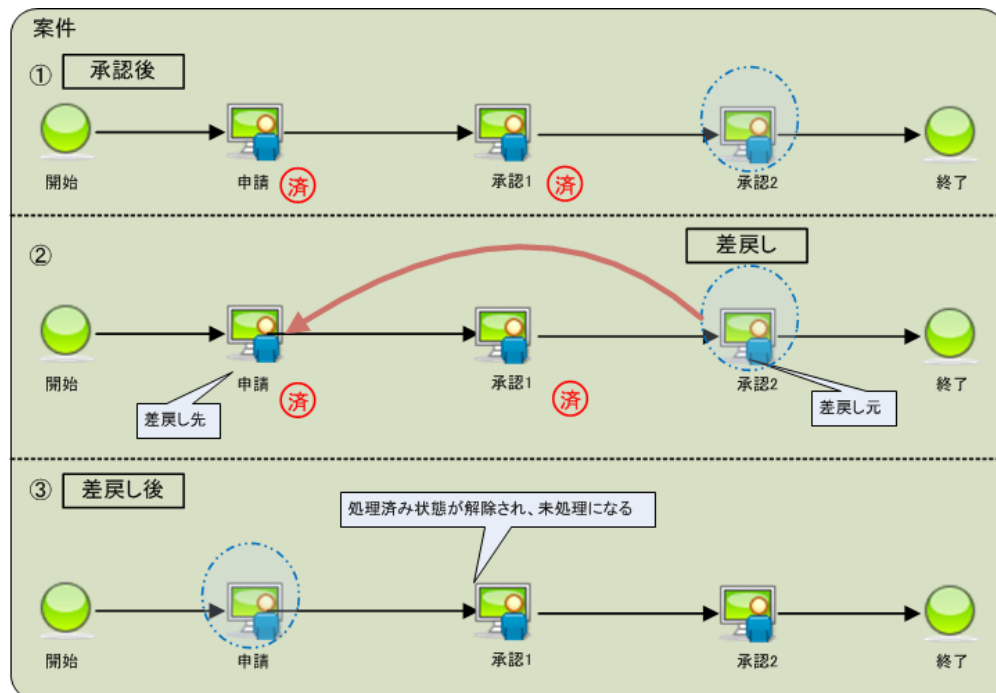
差戻し先を含む処理済み状態のノードは全て処理前の状態に変わります。

また、保留中のノードも保留解除されます。

差戻し先ノードでは、そのノードを以前に処理した人が再処理できます。

ただし、以前に処理した人がマスタ情報から削除され、ユーザ情報が取得できなくなった場合、処理できる人がいない状態に変わります。

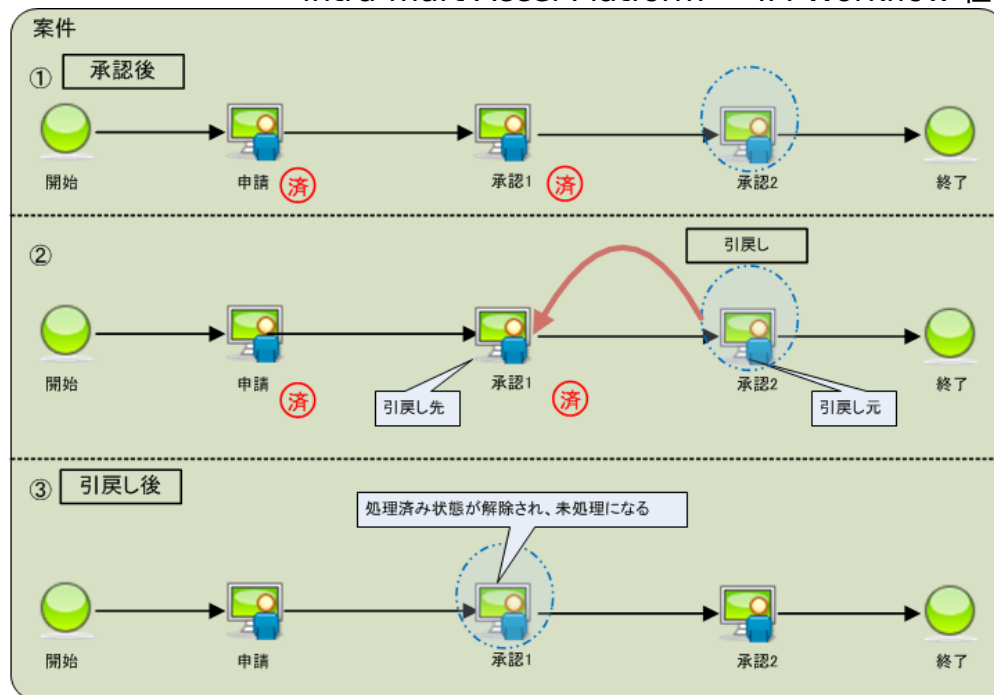
差戻し



引戻し

次のノードの処理対象者が処理を行う前に自ノードに処理を戻します。

引戻し



各ノードで実行できる処理

ノードの種類によって実行できる処理が異なります。
ノードの種類とそのノードで実行できる処理を下表に示します。

各ノード上で行うことができる処理

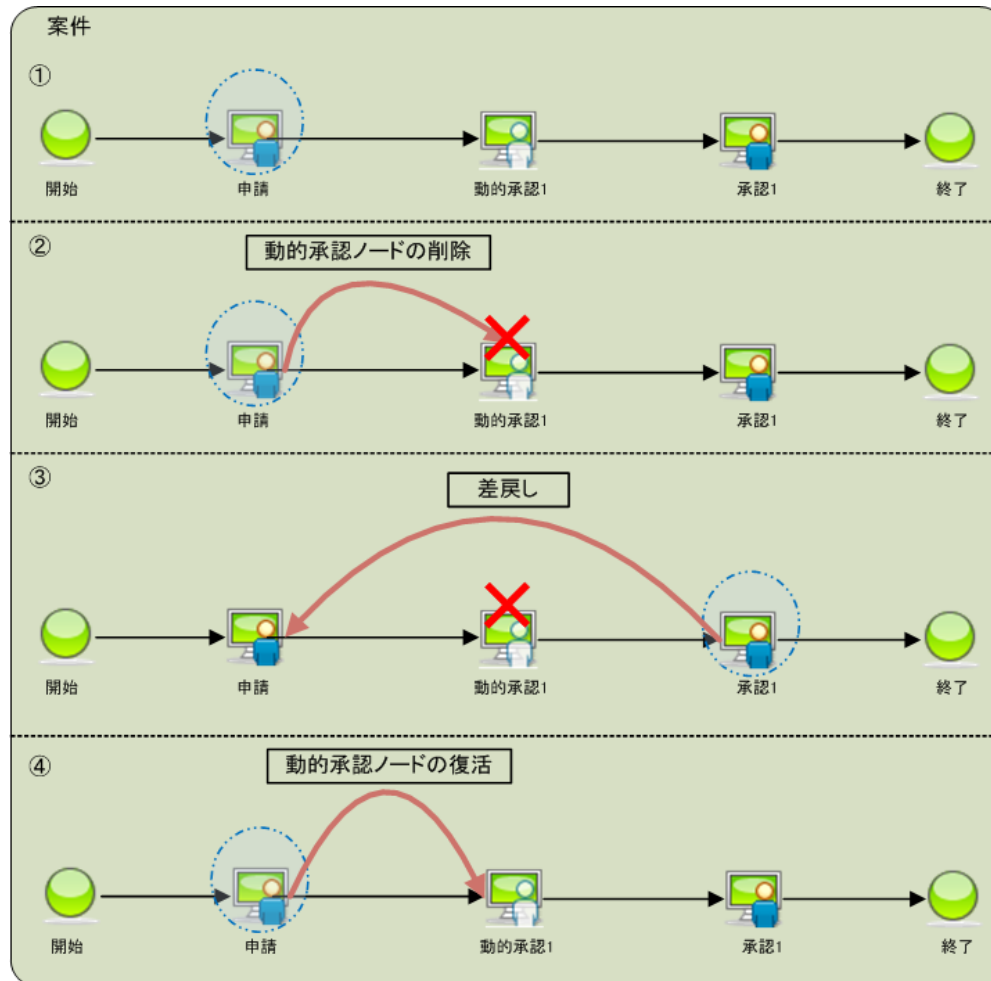
ノード	起票	申請	未申請状態からの申請	再申請	取止め	承認	承認終了	否認	保留	保留解除	差戻し	引戻し
開始	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
終了	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
申請	-	✓	✓	✓	✓	-	-	-	-	-	-	✓
承認	-	-	-	-	-	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
動的承認	-	-	-	-	-	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
システム	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
同期開始	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
同期終了	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
分岐開始	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
分岐終了	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
横配置	-	-	-	-	-	✓ [1]	✓ [1]	✓ [1]	✓ [1]	✓ [1]	✓ [1]	✓ [1]
縦配置	-	-	-	-	-	✓ [1]	✓ [1]	✓ [1]	✓ [1]	✓ [1]	✓ [1]	✓ [1]
テンプレート置換	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
テンプレート開始	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
テンプレート終了	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

[1] (1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14) 展開した後の動的承認ノードでは処理が可能

差戻しの処理ルール

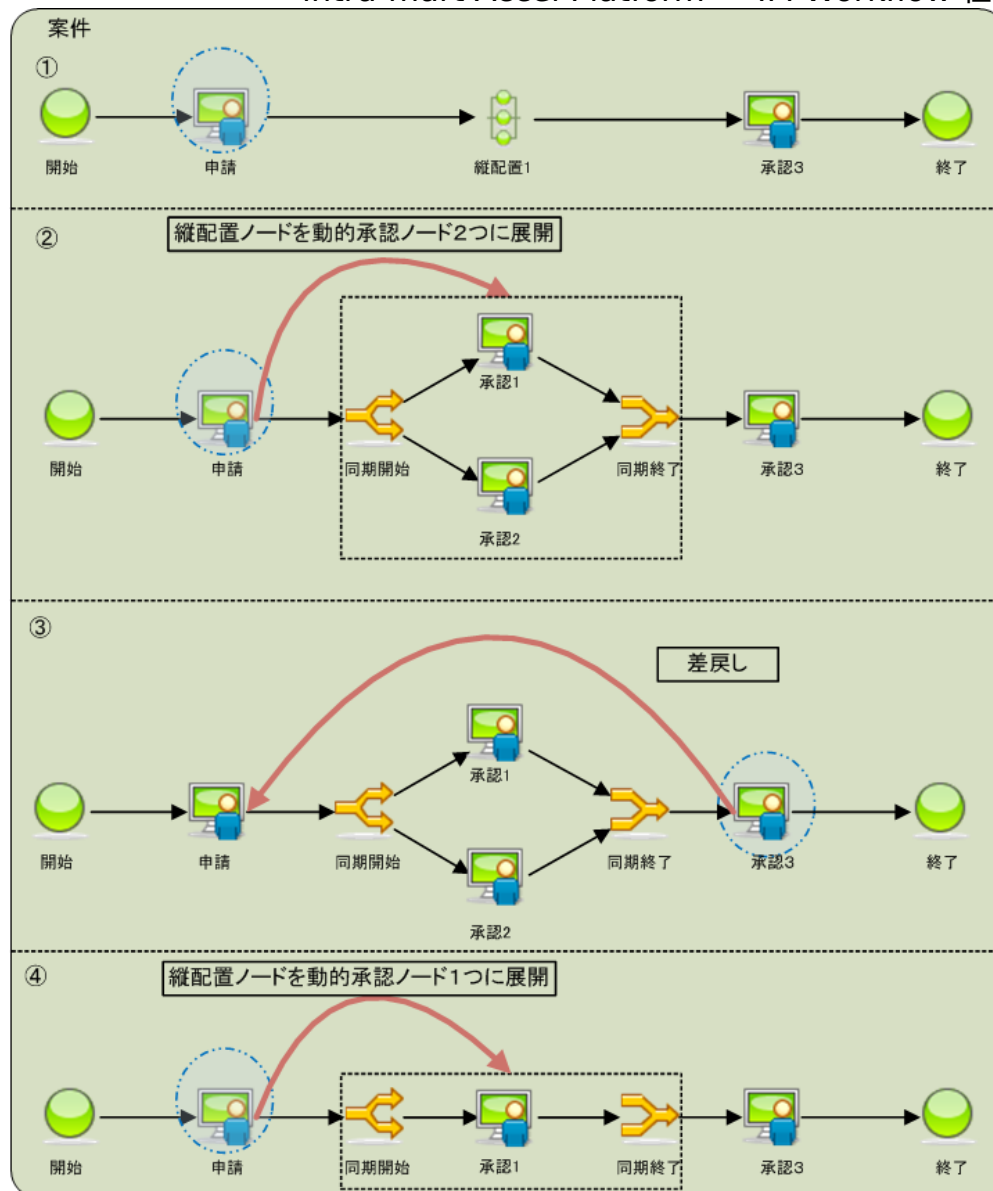
- 差戻し前の処理で削除された動的承認ノードがある場合、差戻し後の再処理の際にあらためて復活／削除を行うことができます。

動的承認ノードは再度の復活／削除ができる



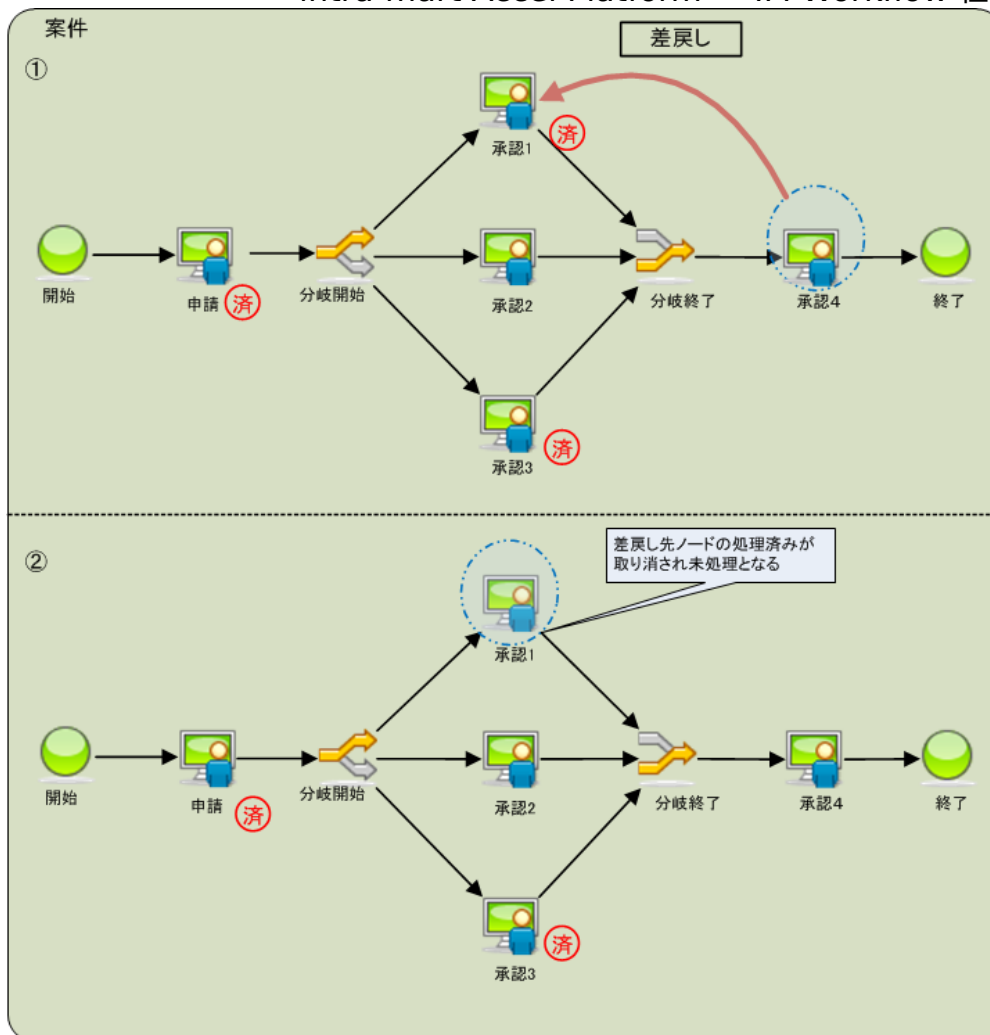
- 差戻し前の処理で削除された横配置ノード、縦配置ノードがある場合、差戻し後の再処理の際にあらためてノードの展開ができます。

横配置ノード、縦配置ノードは再度の展開ができる



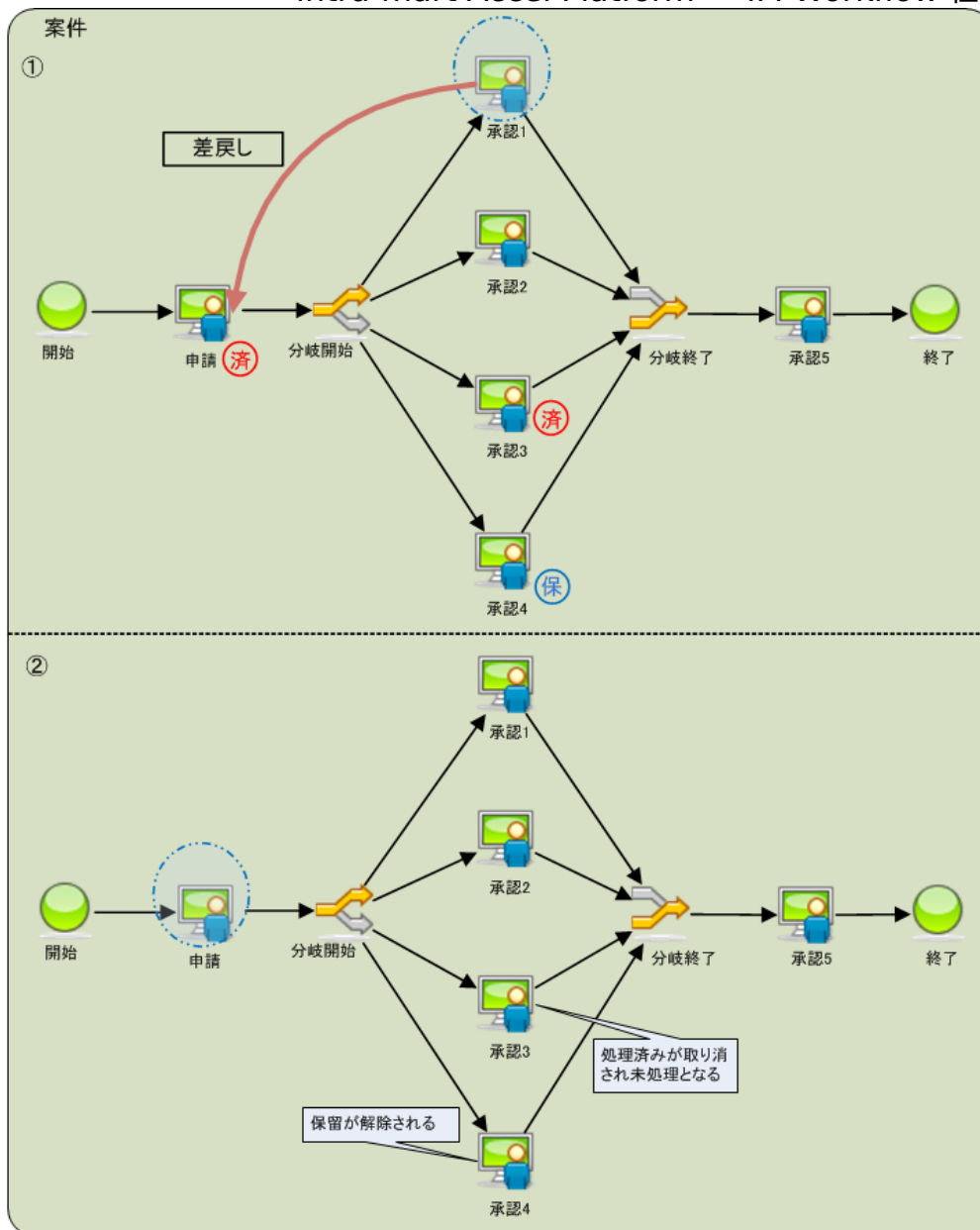
- 差戻しでは分岐後から分岐内、分岐内から分岐前、分岐後から分岐前に処理の移動ができます。
分岐内から分岐前に差戻した場合、または分岐後から分岐前に差戻した場合、分岐内の処理済みノードの処理は取り消されます。

分岐で差戻しできる差戻し先 1

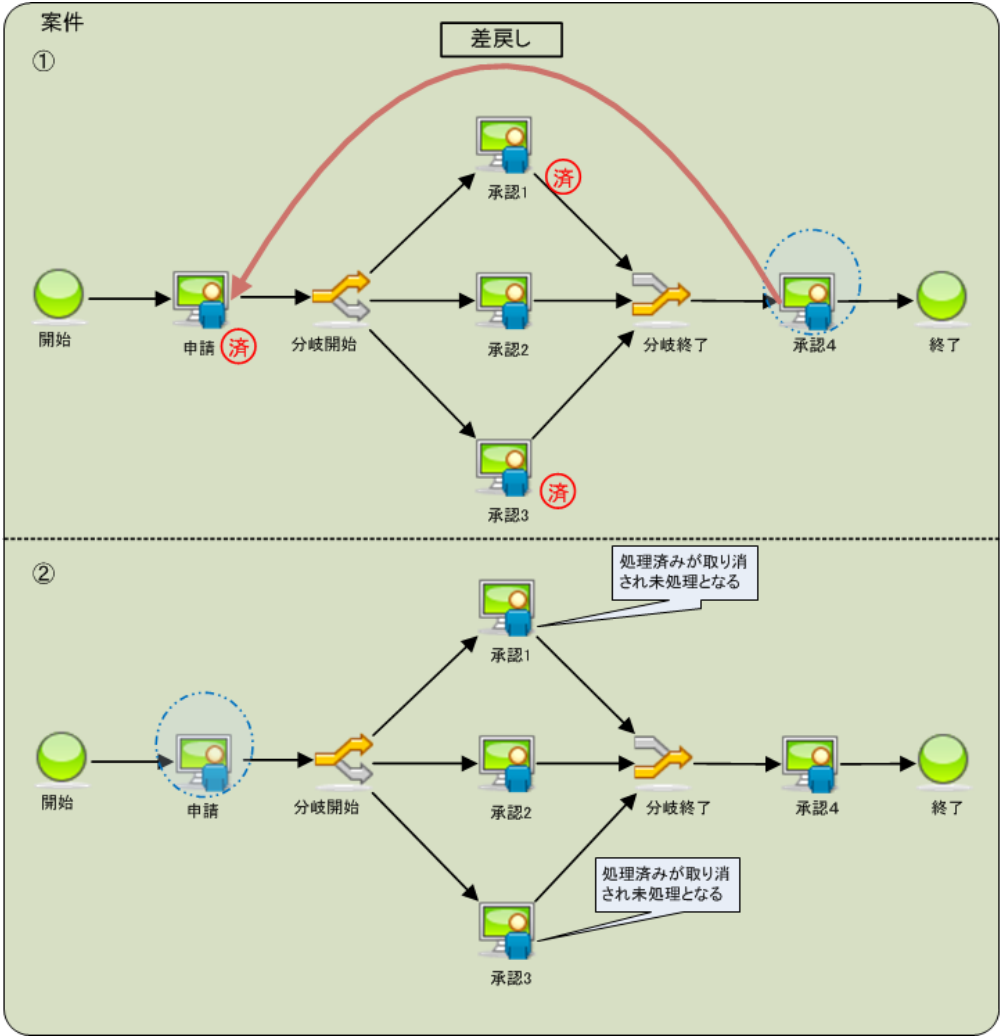


- 分岐内から分岐前に差戻した場合、保留中のノードは保留解除されます。

分岐で差戻しできる差戻し先2

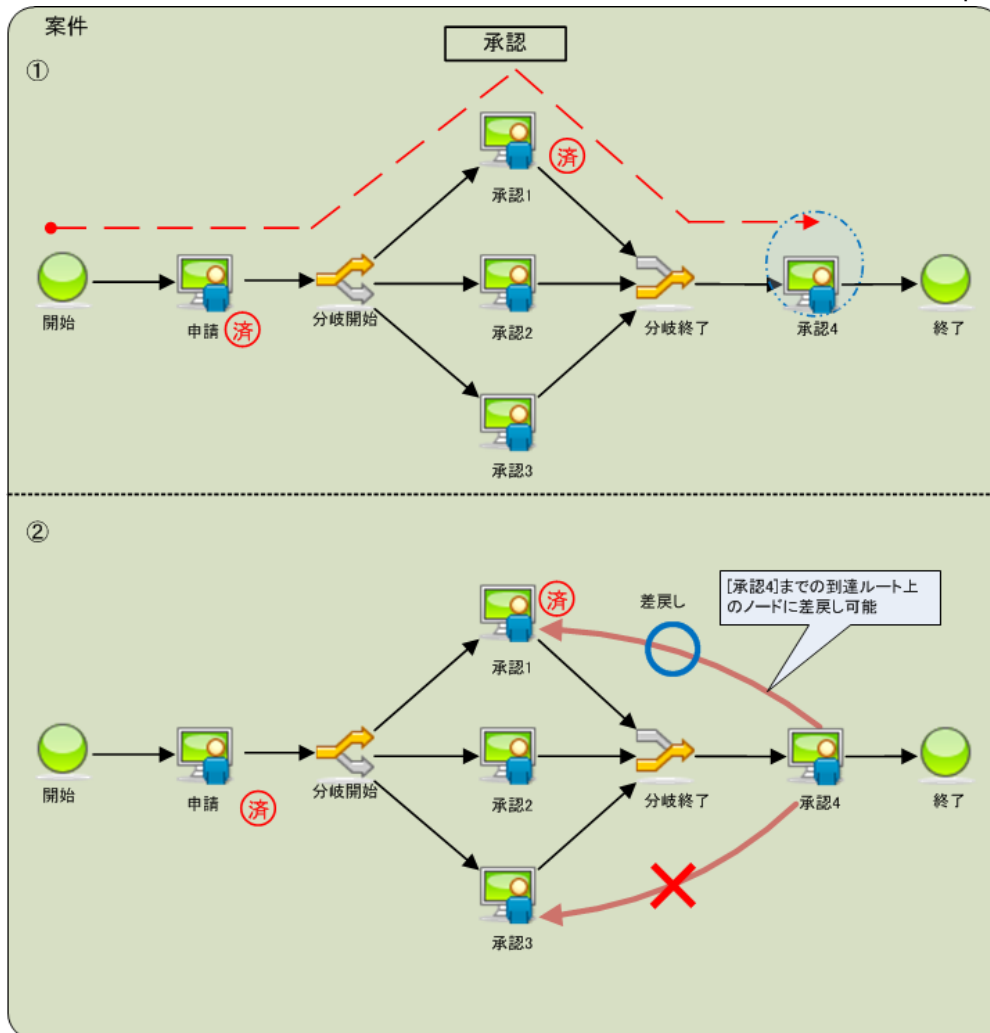


分岐で差戻しできる差戻し先3



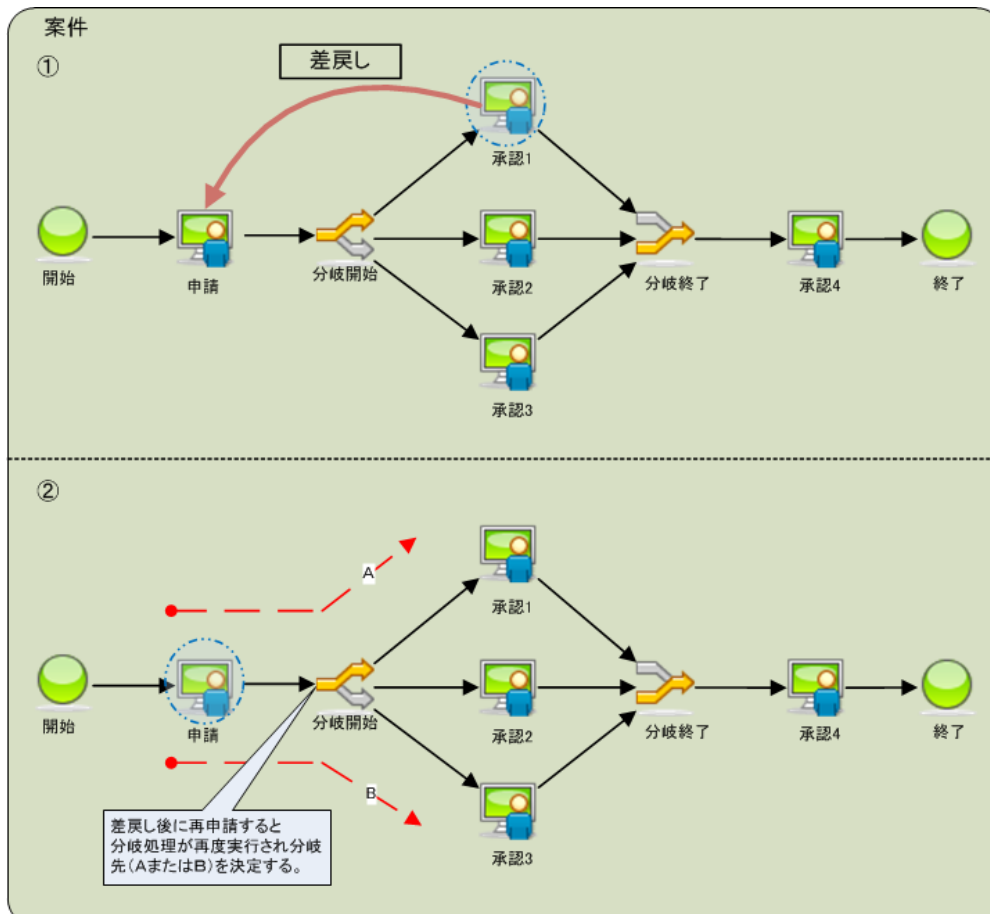
- 分岐内に差戻しする場合、差戻し元までの到達ルート上のノードにのみ処理の移動ができます。

分岐で差戻しできる差戻し先



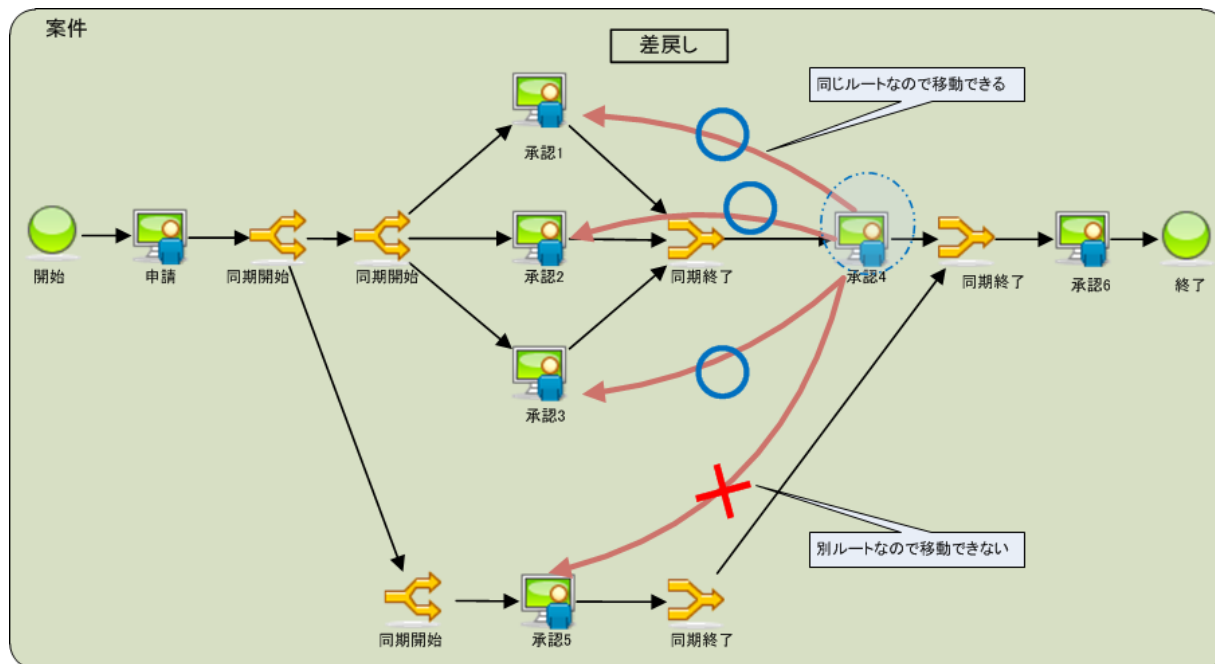
- 分岐前に差戻した後、再度処理をして分岐開始ノードに到達した場合、分岐開始ノードで分岐開始処理が再度行われ、分岐先が決定されます。したがって初回と異なる分岐をする場合もあります。

分岐先は再度決定される



- 差戻しでは同期後から同期内、同期内から同期前、同期後から同期前に処理の移動ができます。
- 同期内から同期前に差戻した場合、または同期後から同期前に差戻した場合、同期内の処理済みノードの処理は取り消されます。また保留中のノードは保留解除されます。
- 同期後から同期内に差戻しする場合、同一ルート上であれば何れのノードにも処理の移動が可能です。

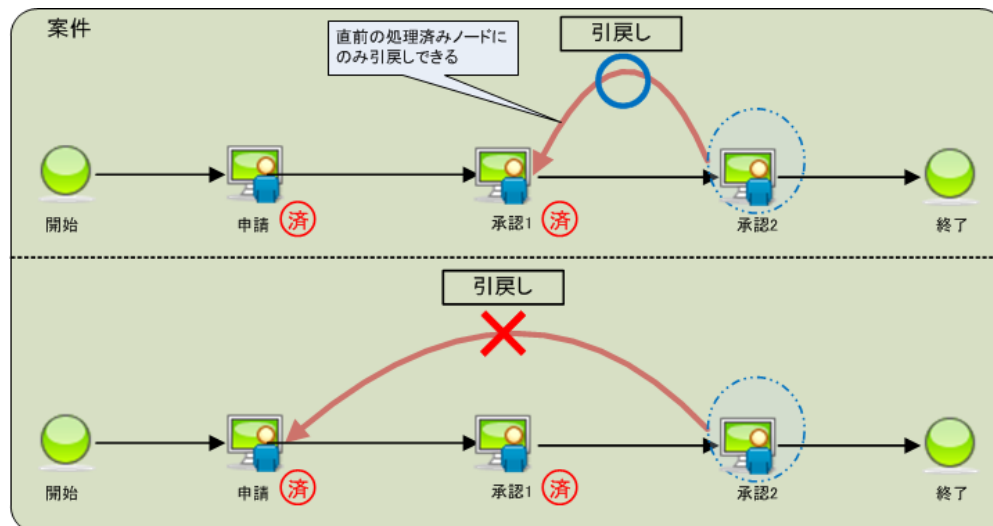
同一ルートには差戻しできる



引戻しの処理ルール

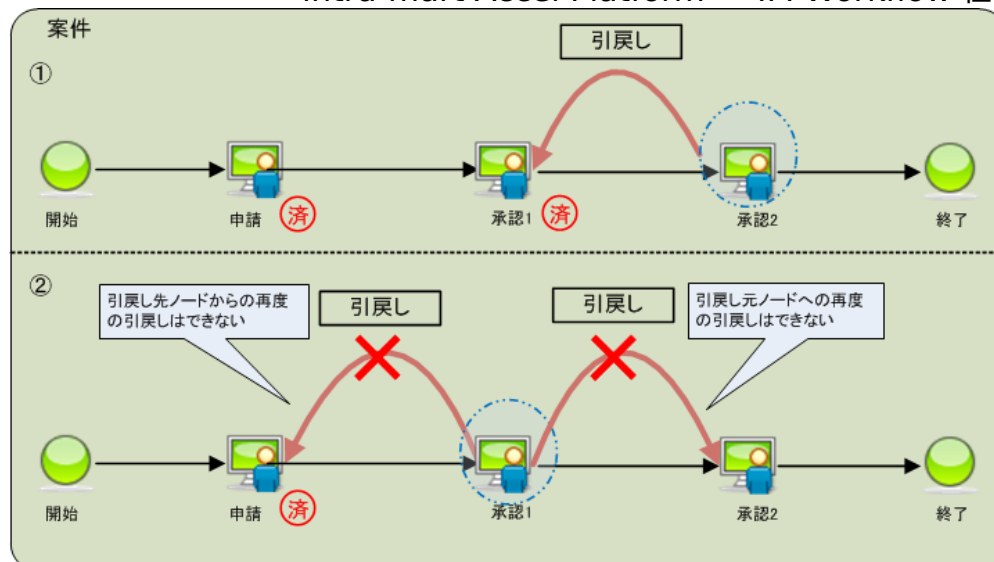
- 引戻しでは引戻し元ノードの直前の処理済みノードにのみ処理の移動ができます。

引戻しできる引戻し先



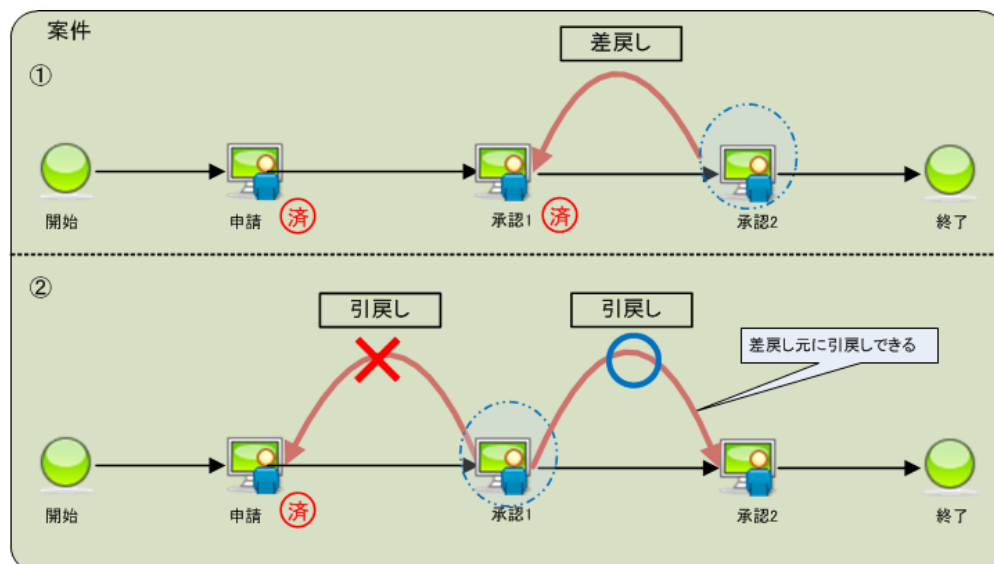
- 引戻し後、引戻し先からさらに引戻すことはできません。

引戻しの引戻しはできない



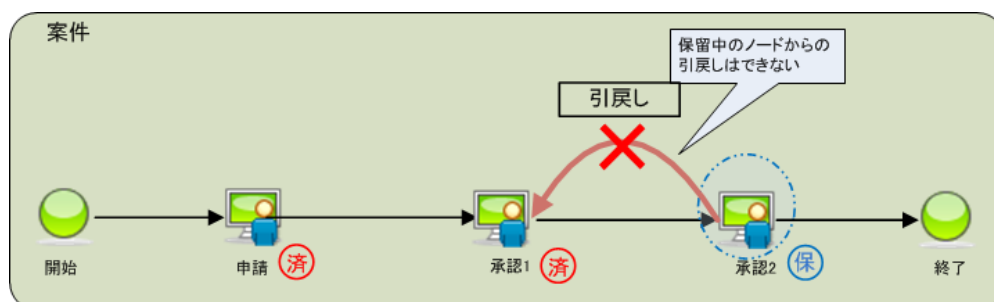
- 差戻し後、差戻し元に引き戻すことができます。
ただし、差戻しの方向に引戻すことはできません。

差戻し後の引戻しの方向



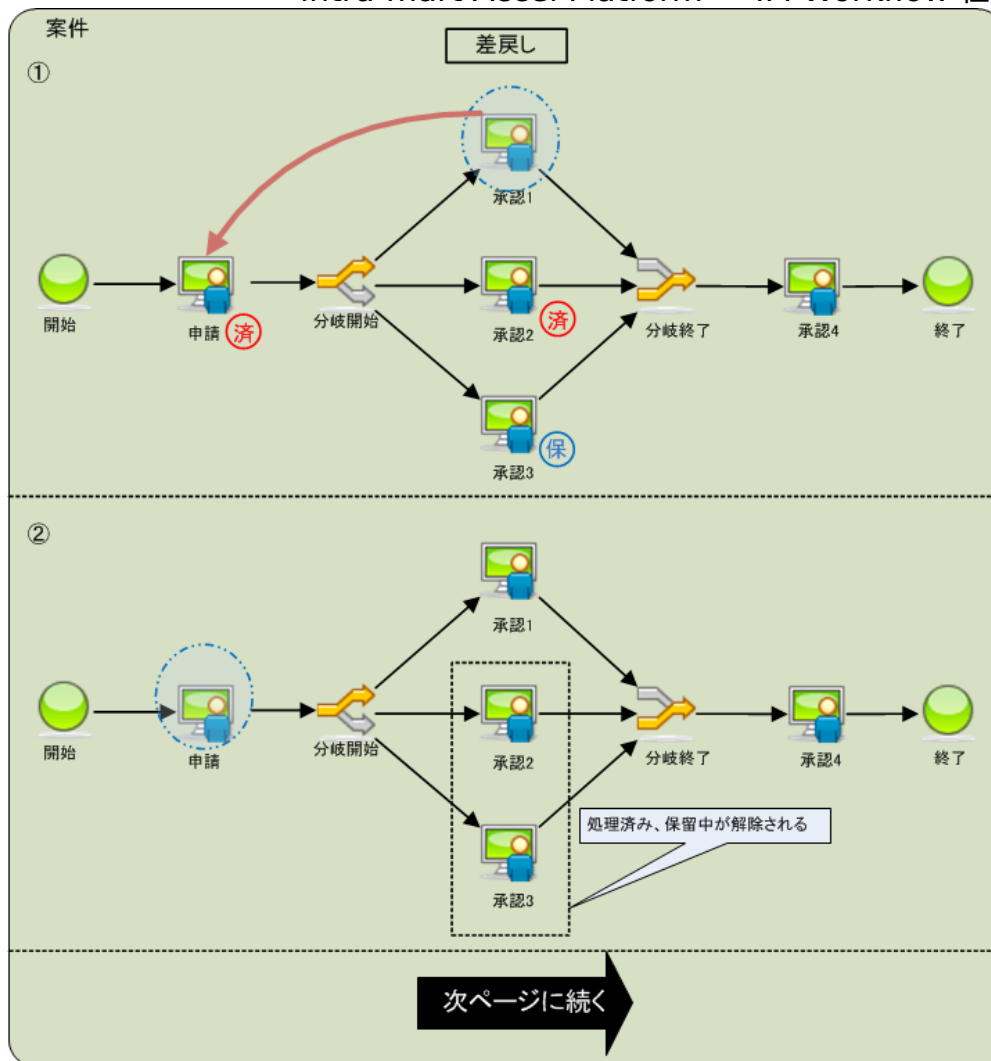
- 保留中のノードから引戻しすることはできません。
保留の解除後は引戻しできます。

保留中のノードからの引戻しはできない

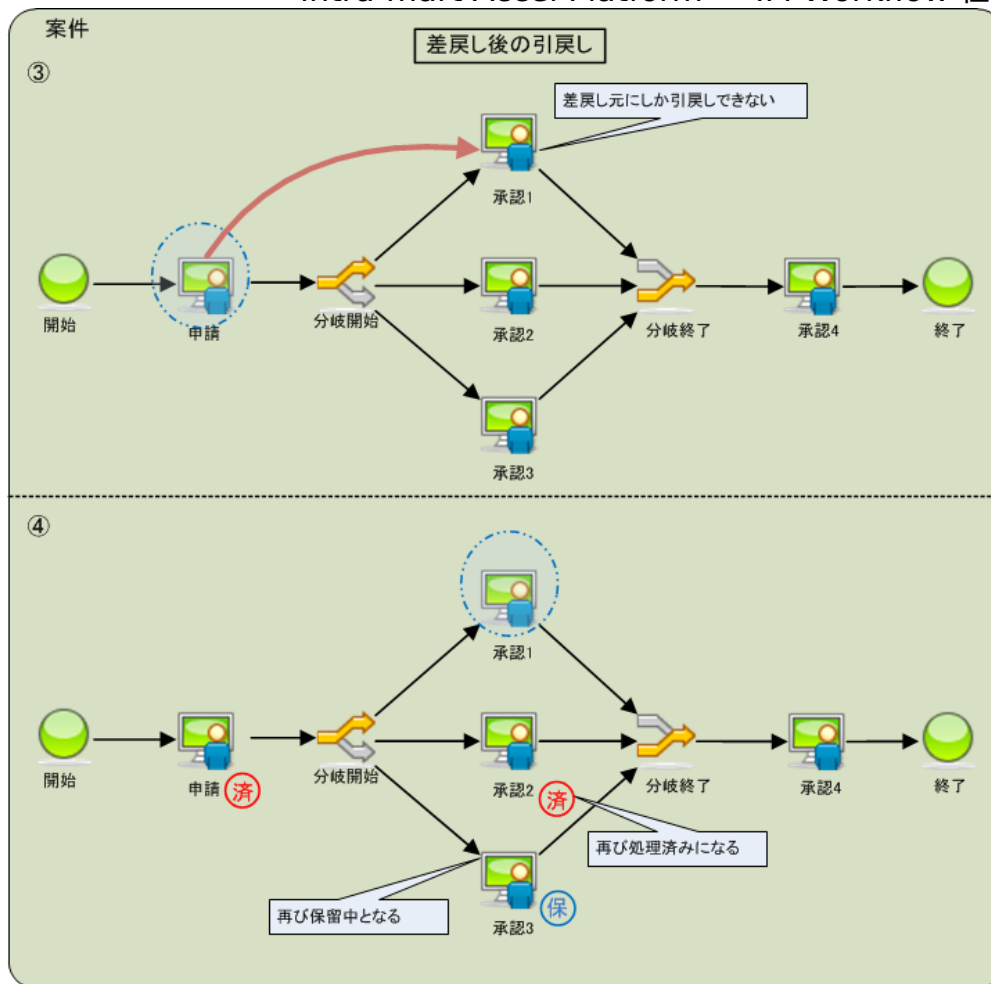


- 引戻し前の処理で削除された動的承認ノードがある場合、差戻し後の再処理の際にあらためて復活／削除を行うことができます。
- 引戻し前の処理で削除された横配置ノード、縦配置ノードがある場合、差戻し後の再処理の際にあらためてノードの展開を行うことができます。
- 差戻し後、差戻し元に引戻した場合、差戻し先から差戻しノードの直前までのノードは再び処理済みに変わります。
- 分岐内に処理済みノードまたは保留中のノードがある状態で、分岐前に差戻した後、差戻し元に引き戻した場合、分岐内で処理済だったノードは再び処理済みに、保留中だったノードは再び保留中になります。
- 但し、再び保留中にする為に、以前処理した人で保留の履歴が追加されます。
- 保留以外で、引戻しや差戻し後引戻しで処理待ちになったノードが復元される場合も同様にそれぞれの履歴が追加されます。
- また、差戻しにより処理待ちになったノードが復元される場合は、処理対象者が再展開されます。

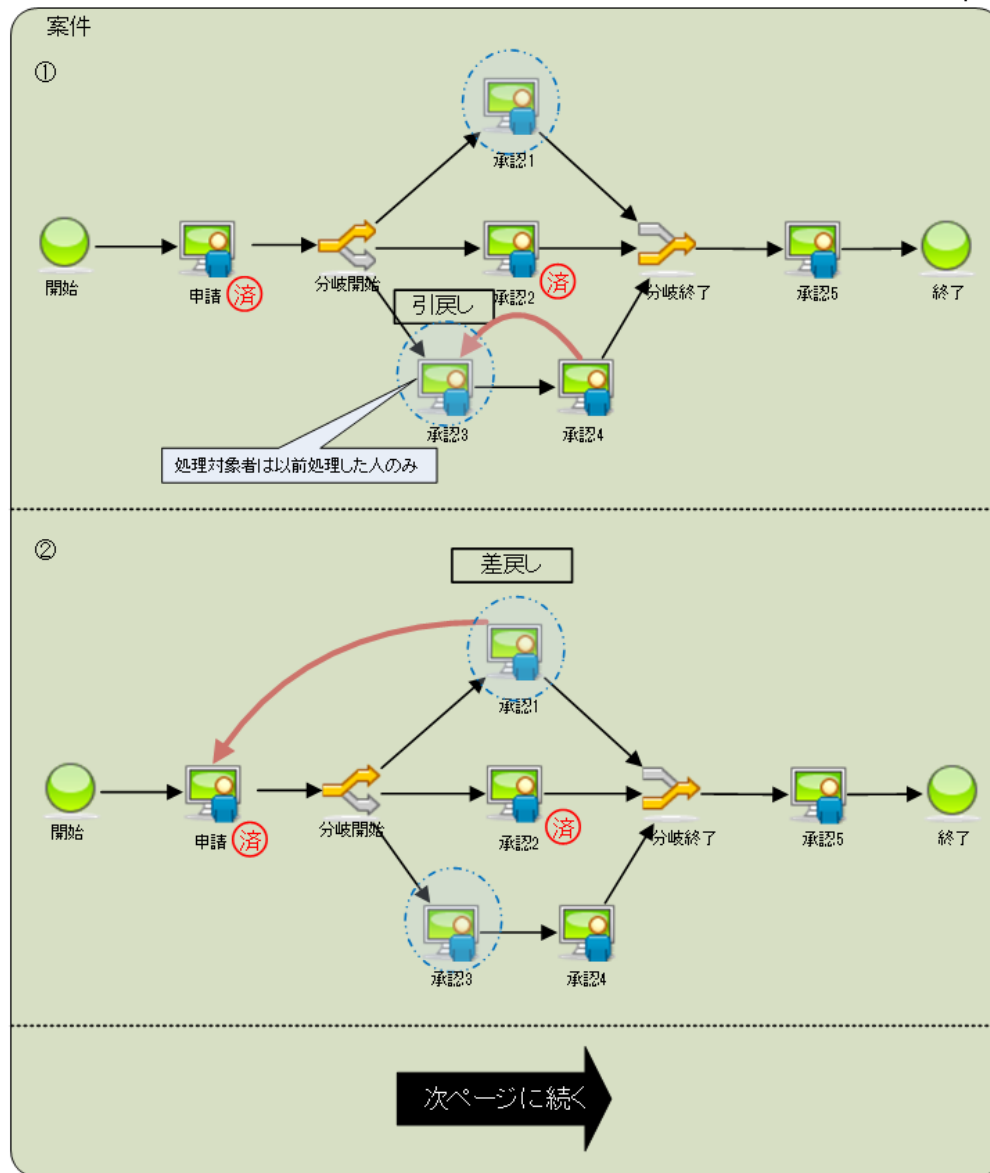
差戻し後の引戻し 1



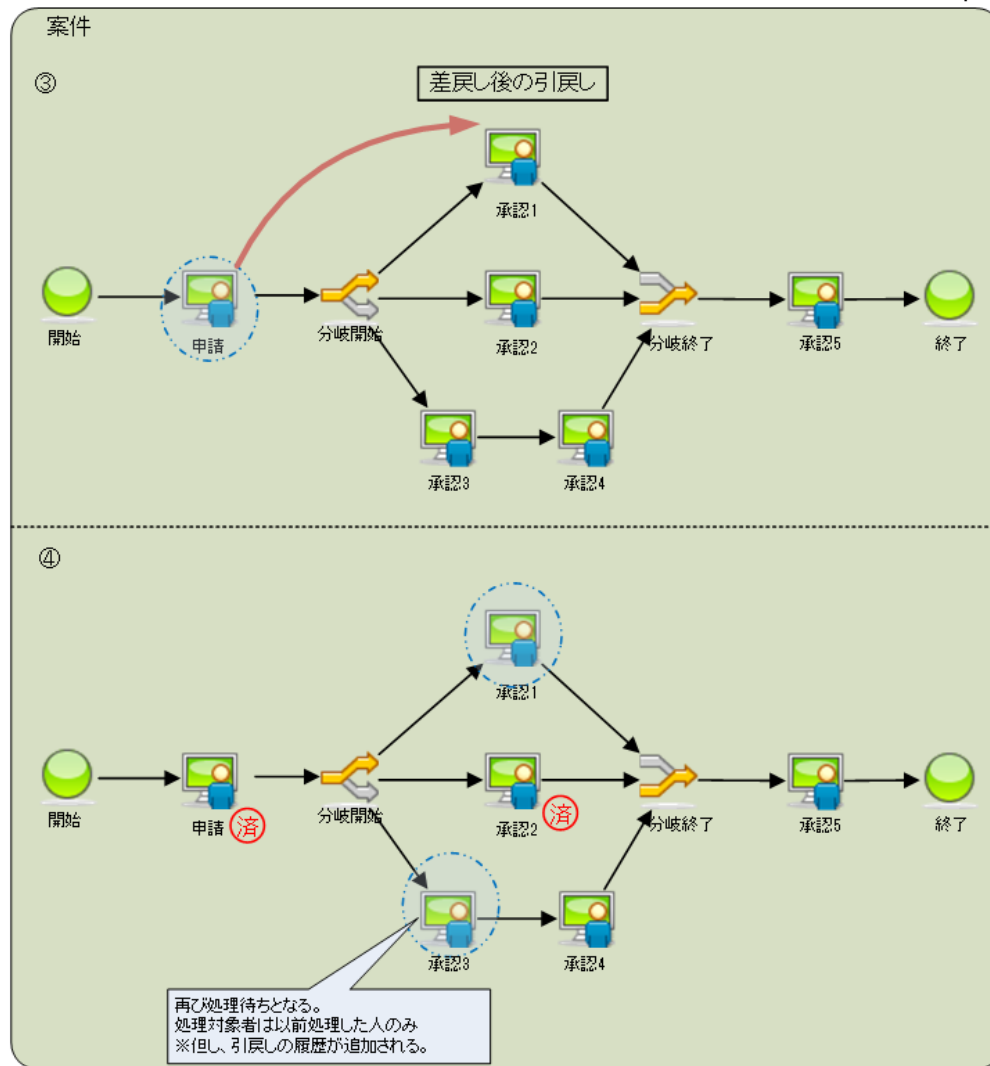
差戻し後の引戻し 2



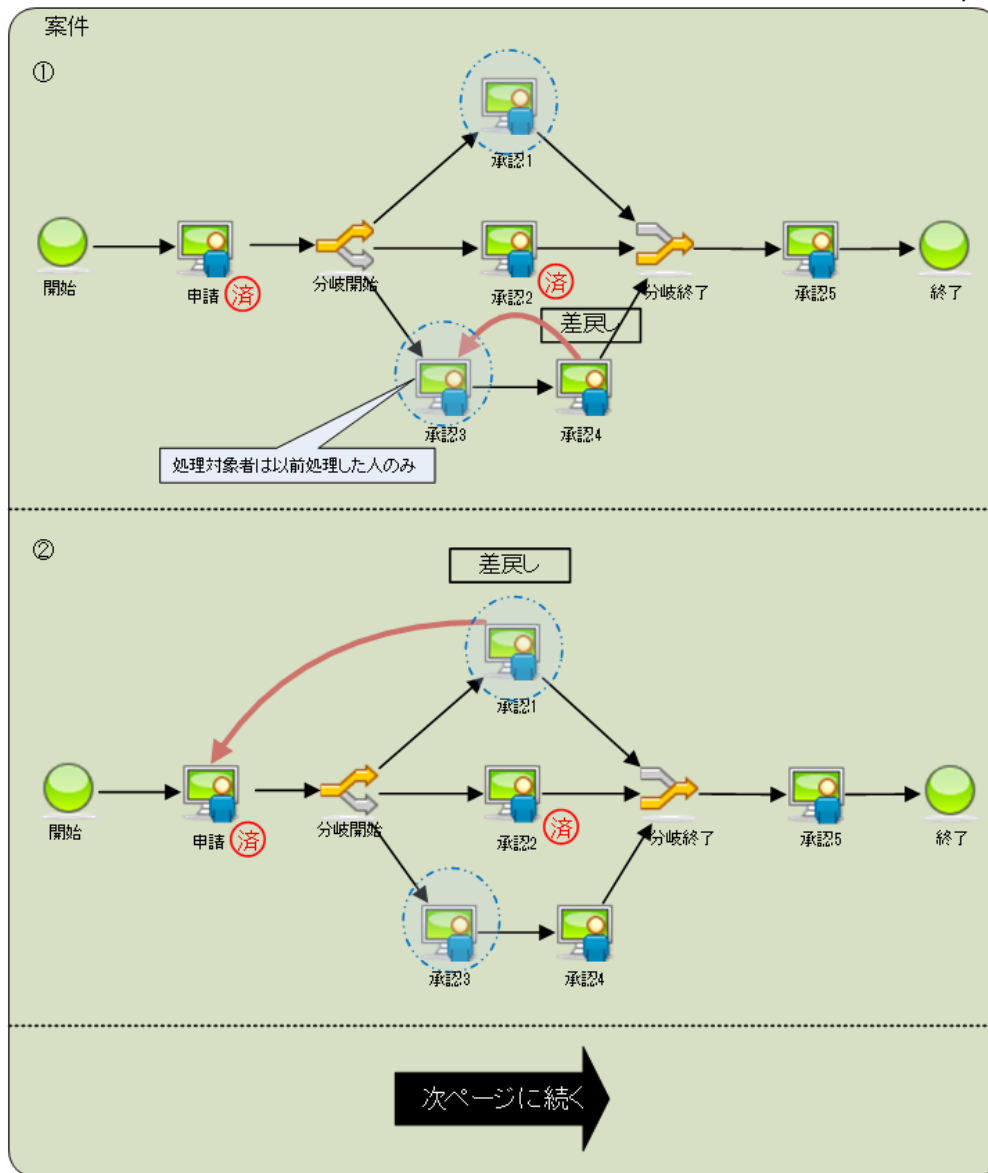
差戻し後の引戻し 3



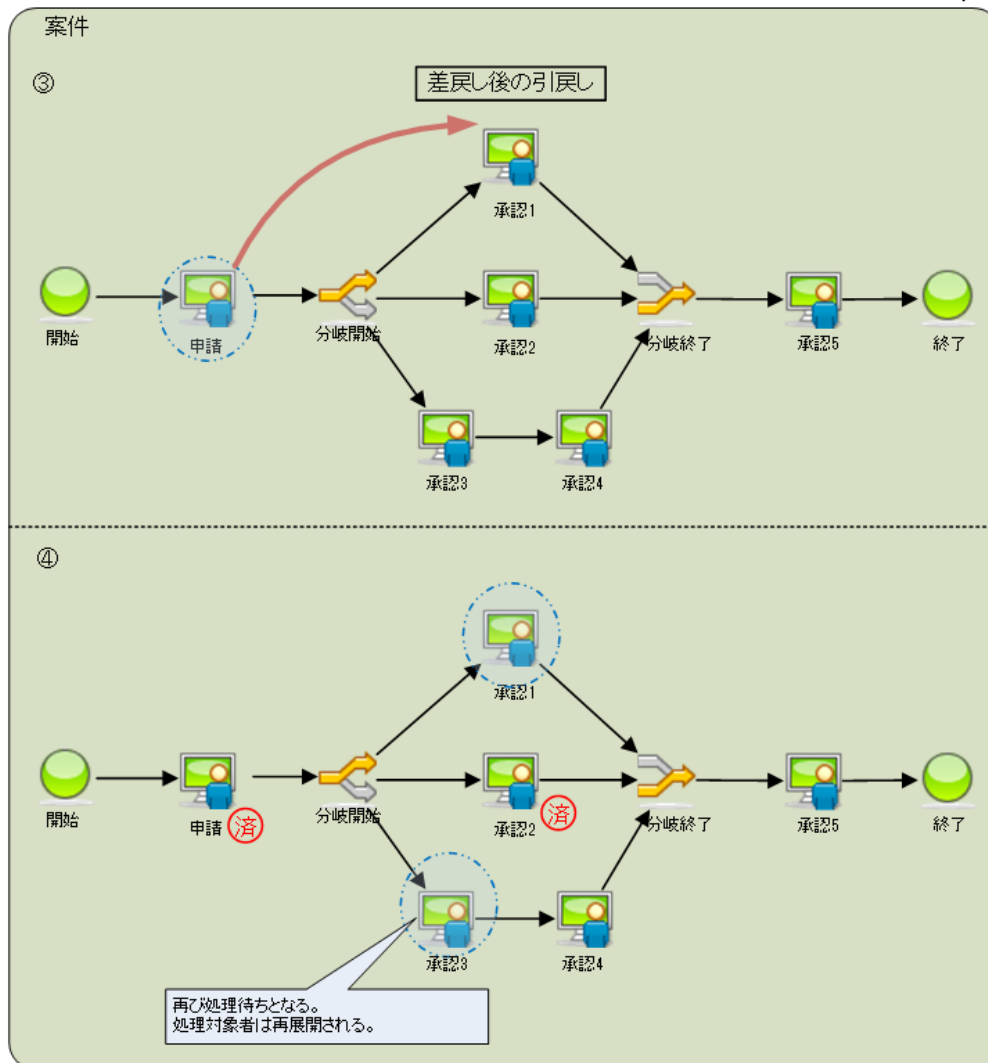
差戻し後の引戻し 4



差戻し後の引戻し 5

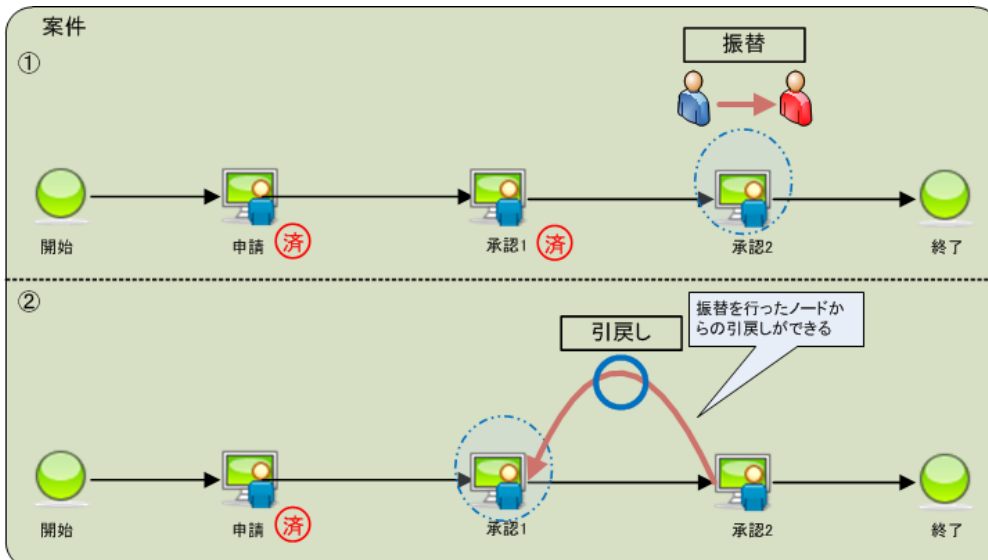


差戻し後の引戻し 6



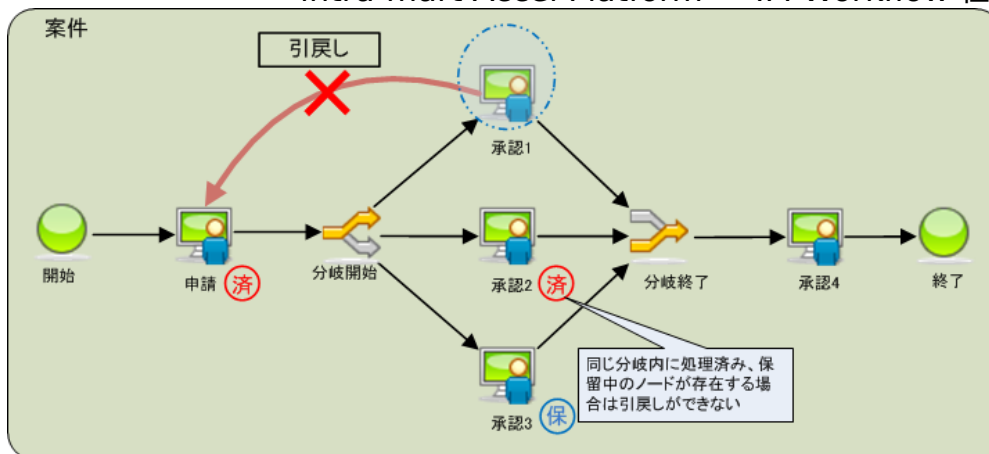
- 引戻し元の処理対象者が振替を行った後も、引戻しができます。

振替したノードからの引戻しができる



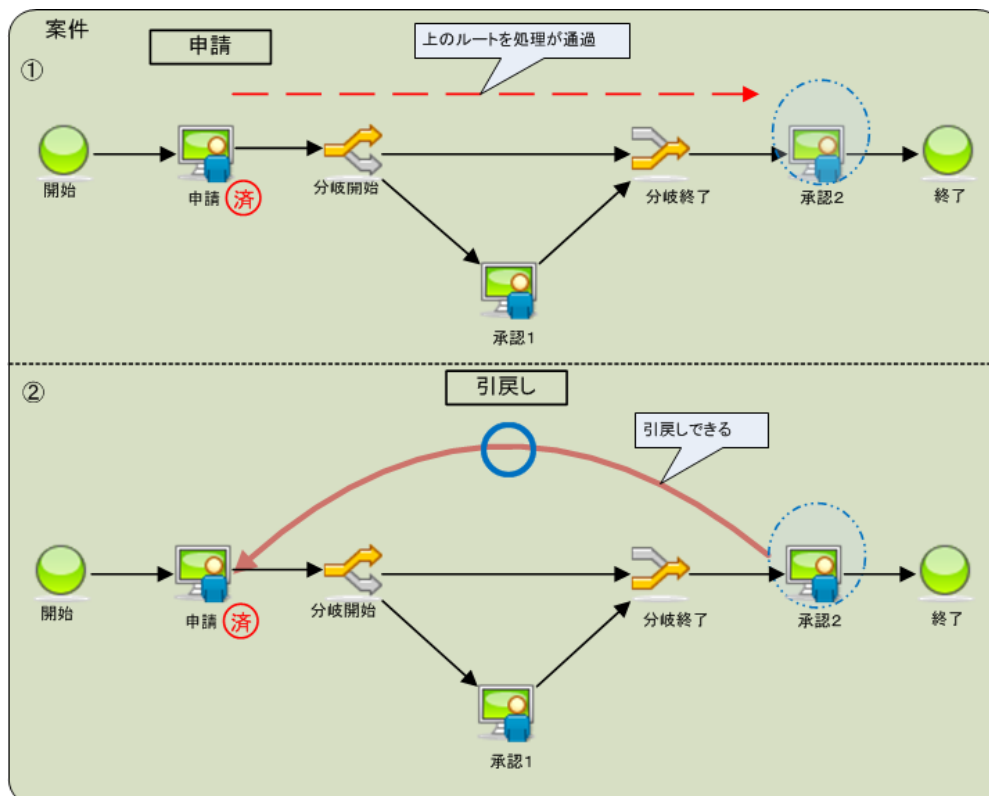
- 引戻しでは分岐後から分岐内、分岐内から分岐前に処理の移動ができます。
- 引戻し元と同じ分岐内に処理済みのノード、または保留中のノードが存在する場合、分岐内から分岐前に引戻しできません。同期も同様です。

処理済みノード、保留中ノードがある分岐内からは引戻しできない



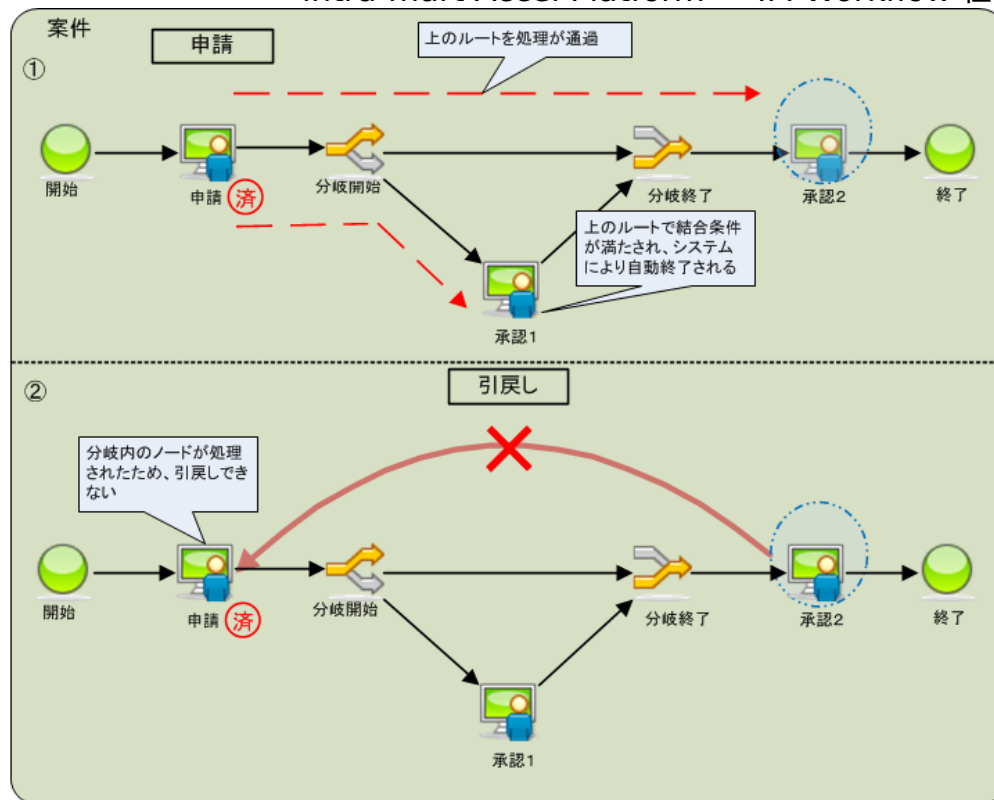
- 分岐内でノードがないルートのみを通過して分岐を出た場合、分岐後のノードから引戻しできます。

ノードが無いルートを通じた場合の引戻し



- 分岐内で、承認ノードなどの処理可能なノードに到達すると同時に、ノードがないルートを通り、その結果として分岐終了ノードの結合条件を満たして分岐を出た場合、分岐後のノードから引戻しを行うことはできません。

分岐内にシステムで終了されたノードがある場合、引戻しできない



確認

IM-Workflow では処理ノードの処理者以外が案件の処理状況を確認する「確認」機能を用意しています。

確認機能

- 確認は確認ノードが接続しているノードの処理に影響を与えません。
- 確認状態（確認済み、未確認）を参照できるのは、確認ノードがある案件を処理した既処理者、ワークフローシステム管理者、ワークフロー運用管理者、ワークフロー監査者、案件操作権限者、確認対象者です。
- 確認を行うと確認履歴が残ります。
確認履歴は確認ノードが接続しているノードの処理対象者から参照できます。
- 案件完了後の確認可否設定をフロー定義に設定できます。
確認可とした場合、案件完了後も確認ができます。

確認対象者

案件の確認ができる利用者のことを「確認対象者」と呼びます。

ルート定義に配置した確認ノードに利用者や利用者の属する組織を設定することで、利用者は「確認対象者」になることができます。

詳細については下記を参照してください。

確認対象者の設定

IM-Workflow の標準機能では、確認対象者に IM-共通マスタ のユーザや組織などを設定できます。

- 設定タイミングや指定内容により、確認対象者の設定方法は4種類に分類されます。
- 単一のノードに対し、複数の確認対象者を設定できます。複数設定した場合、それぞれの確認対象者は「OR」条件で適用されます。
- 確認対象者として「指定なし」を明示的に設定できます。

確認対象者の設定方法

種類	説明
ルート定義時固定指定	ルート定義時に、確認ノードの確認対象者として、特定のユーザや組織を指定する方式です。
ルート定義時動的指定	ルート定義時に、確認ノードの確認対象者として、「前処理者の上位組織」などの動的な条件を指定する方式です。
案件処理時固定指定	案件の承認時に、案件の承認者が、確認ノードの確認対象者として、特定のユーザや組織を指定する方式です。
案件処理時動的指定	案件の承認時に、案件の承認者が、確認ノードの確認対象者として、「前処理者の上位組織」などの動的な条件を指定する方式です。

ルート定義時固定指定で利用できる確認対象者プラグイン

■ 単体

	備考
ユーザ	
組織	
組織とその上位組織全て	[1]
組織とその下位組織全て	[1]
役職	
パブリックグループ	
役割	
ロール	
ロジックフロー（ユーザ）	[3]

■ 複合

	備考
組織 + 役職	
組織とその上位組織全て + 役職	[1]
組織とその下位組織全て + 役職	[1]
パブリックグループ + 役割	
組織 + ロール	
組織とその上位組織全て + ロール	[1]
組織とその下位組織全て + ロール	[1]
パブリックグループ + ロール	

ルート定義時動的指定で利用できる処理対象者プラグイン

■ 単体

	備考
申請者	[2]
申請者の組織	[2]
申請者の上位組織のみ	[2]
申請者の上位組織全て	[2]
申請者の下位組織のみ	[2]
申請者の下位組織全て	[2]
前処理者の組織	[2]
前処理者の上位組織のみ	[2]
前処理者の上位組織全て	[2]
前処理者の下位組織のみ	[2]
前処理者の下位組織全て	[2]

■ 複合

	備考
申請者の組織 + 役職	[2]
申請者の上位組織のみ + 役職	[2]
申請者の上位組織全て + 役職	[2]
申請者の下位組織のみ + 役職	[2]
申請者の下位組織全て + 役職	[2]

	備考
前処理者の所属組織 + 役職	[2]
前処理者の上位組織のみ + 役職	[2]
前処理者の上位組織全て + 役職	[2]
前処理者の下位組織のみ + 役職	[2]
前処理者の下位組織全て + 役職	[2]
申請者の組織 + ロール	[2]
申請者の上位組織のみ + ロール	[2]
申請者の上位組織全て + ロール	[2]
申請者の下位組織のみ + ロール	[2]
申請者の下位組織全て + ロール	[2]
前処理者の組織 + ロール	[2]
前処理者の上位組織のみ + ロール	[2]
前処理者の上位組織全て + ロール	[2]
前処理者の下位組織のみ + ロール	[2]
前処理者の下位組織全て + ロール	[2]

案件処理時固定指定で利用できる処理対象者プラグイン

■ 単体

	備考
ユーザ	
組織	
役職	
パブリックグループ	
役割	
組織とその上位組織全て	
組織とその下位組織全て	

■ 複合

	備考
組織 + 役職	
パブリックグループ + 役割	
組織とその上位組織全て + 役職	[1]
組織とその下位組織全て + 役職	[1]

案件処理時動的指定で利用できる処理対象者プラグイン

■ 単体

	備考
申請者	[2]
申請者の組織	[2]
申請者の上位組織のみ	[2]
申請者の上位組織全て	[2]
申請者の下位組織のみ	[2]
申請者の下位組織全て	[2]
前処理者の組織	[2]
前処理者の上位組織のみ	[2]
前処理者の上位組織全て	[2]

備考

前処理者の下位組織のみ [\[2\]](#)前処理者の下位組織全て [\[2\]](#)

■ 複合

備考

申請者の組織 + 役職 [\[2\]](#)申請者の上位組織のみ + 役職 [\[2\]](#)申請者の上位組織全て + 役職 [\[2\]](#)申請者の下位組織のみ + 役職 [\[2\]](#)申請者の下位組織全て + 役職 [\[2\]](#)前処理者の所属組織 + 役職 [\[2\]](#)前処理者の上位組織のみ + 役職 [\[2\]](#)前処理者の上位組織全て + 役職 [\[2\]](#)前処理者の下位組織のみ + 役職 [\[2\]](#)前処理者の下位組織全て + 役職 [\[2\]](#)[1] [\(1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8\)](#)

- IM-Workflow 8.0.8(2014 Summer)から設定できます。

[2] [\(1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 50, 51, 52\)](#)

- 初期値は無効 (false) に設定されていますので、利用する場合には有効 (true) に変更してください。
- 設定を変更する手順については、以下のリンクを参照してください。
「[IM-Workflow 管理者操作ガイド](#)」 - 「[処理対象者プラグインを設定する](#)」

[3] ■ IM-Workflow 8.0.19(2018 Spring)から設定できます。

確認対象者プラグイン一覧

- 確認ノード
 - 拡張ポイント
jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm

プラグイン名	プラグインID
ユーザ	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.user
組織	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.department
ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.role
パブリックグループ	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.public_group
役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.post
役割	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.public_group_role
組織+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.department_and_post
パブリックグループ+役割	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.public_group_and_public_group_role
組織+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.department_and_role

プラグイン名	プラグインID
パブリックグループ+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.public_group_and_role
申請者	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.apply_user
申請者の所属組織	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.apply_user_department
申請者の所属組織+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.apply_user_department_and_post
申請者の所属組織+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.apply_user_one_step_upper_department
申請者の上位組織	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.apply_user_one_step_upper_department
申請者の上位組織+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.apply_user_one_step_upper_department_and_post
申請者の上位組織+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.apply_user_one_step_upper_department_and_role
申請者の上位組織全て	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.apply_user_all_step_upper_department
申請者の上位組織全て+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.apply_user_all_step_upper_department_and_post
申請者の上位組織全て+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.apply_user_all_step_upper_department_and_role
申請者の下位組織	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.apply_user_one_step_lower_department
申請者の下位組織+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.apply_user_one_step_lower_department_and_post
申請者の下位組織+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.apply_user_one_step_lower_department_and_role
申請者の下位組織全て	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.apply_user_all_step_lower_department
申請者の下位組織全て+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.apply_user_all_step_lower_department_and_post
申請者の下位組織全て+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.apply_user_all_step_lower_department_and_role
前処理者の所属組織	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.before_user_department
前処理者の所属組織+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.before_user_department_and_post
前処理者の所属組織+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.before_user_department_and_role
前処理者の上位組織	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.before_user_one_step_upper_department
前処理者の上位組織+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.before_user_one_step_upper_department_and_post
前処理者の上位組織+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.before_user_one_step_upper_department_and_role
前処理者の上位組織全て	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.before_user_all_step_upper_department
前処理者の上位組織全て+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.before_user_all_step_upper_department_and_post
前処理者の上位組織全て+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.before_user_all_step_upper_department_and_role

プラグイン名	プラグインID
前処理者の下位組織	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.before_user_one_step_lower_department
前処理者の下位組織+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.before_user_one_step_lower_department_and_post
前処理者の下位組織+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.before_user_one_step_lower_department_and_role
前処理者の下位組織全て	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.before_user_all_step_lower_department
前処理者の下位組織全て+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.before_user_all_step_lower_department_and_post
前処理者の下位組織全て+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.before_user_all_step_lower_department_and_role
組織とその上位組織全て	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.department_all_step_upper_department
組織とその上位組織全て+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.department_all_step_upper_department_and_post
組織とその上位組織全て+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.department_all_step_upper_department_and_role
組織とその下位組織全て	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.department_all_step_lower_department
組織とその下位組織全て+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.department_all_step_lower_department_and_post
組織とその下位組織全て+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.department_all_step_lower_department_and_role
ロジックフロー（ユーザ）	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.node.confirm.logic_flow_user

確認対象者プラグインの指定方法

プログラムにより確認ノードに対して確認対象者プラグインを指定するには、特定のノードへの処理権限者プラグインを設定する方法と同じ方法で指定できます。

プログラムでの処理権限者プラグインの指定方法は以下のページを参照してください。

- [処理権限者プラグインの指定方法](#)

確認対象者プラグインの場合には、上記リンク先の拡張ポイントID、およびプラグインIDが異なりますので、以下のリンク先で確認してください。

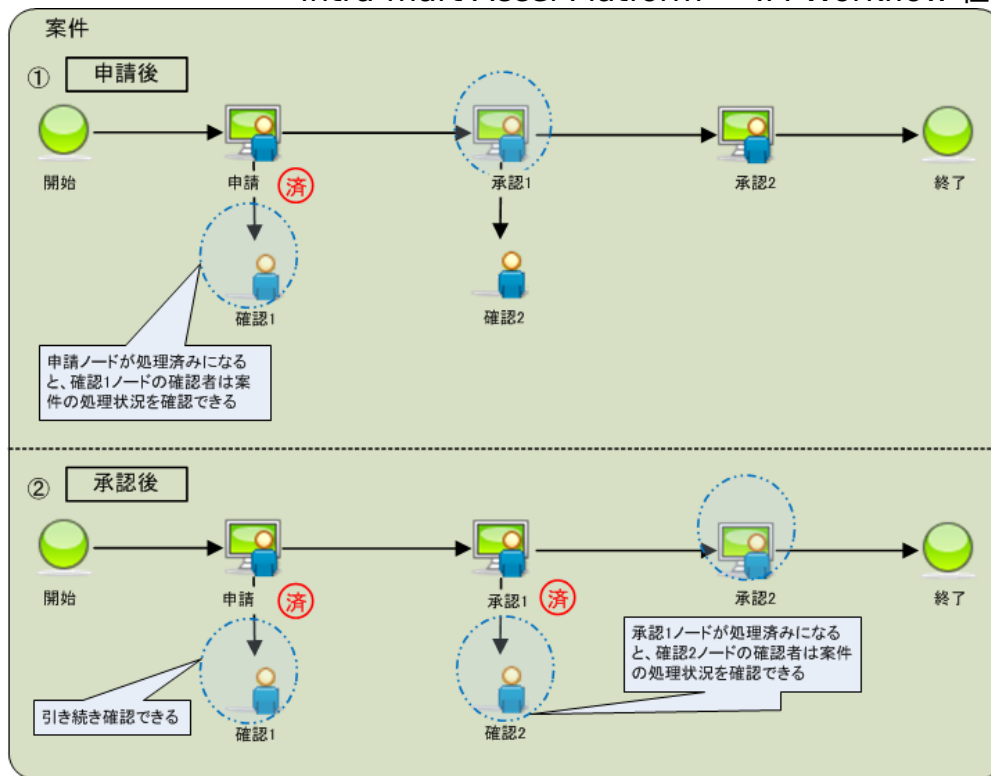
- [確認対象者プラグイン一覧](#)

確認対象者の展開

確認ノードが接続しているノード上で申請、再申請、承認されると、ワークフローは確認対象者の設定に従いユーザを確認ノードに展開します。

確認対象者が案件の確認ができる状態を確認可能状態と呼び、確認ノードが接続しているノード上で申請、再申請、承認されると、確認可能状態に変わります。

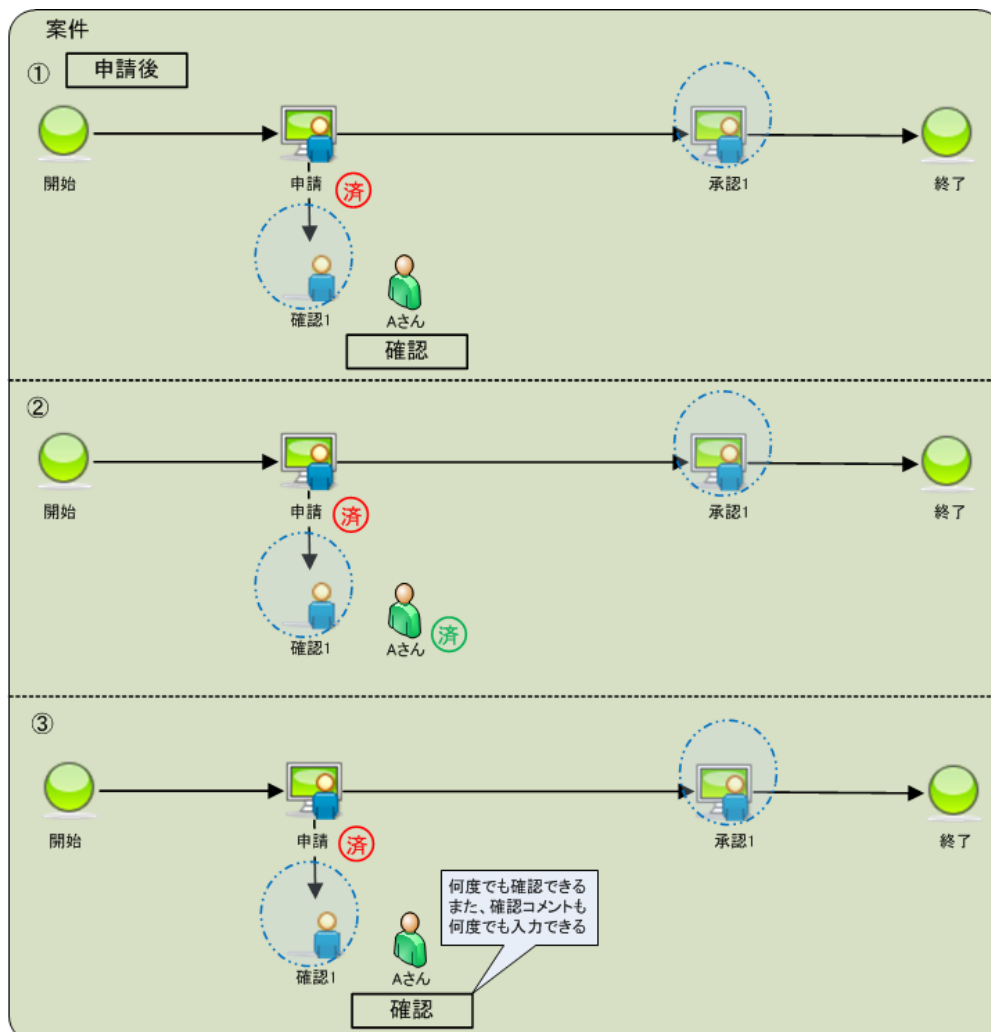
確認可能状態



確認の処理ルール

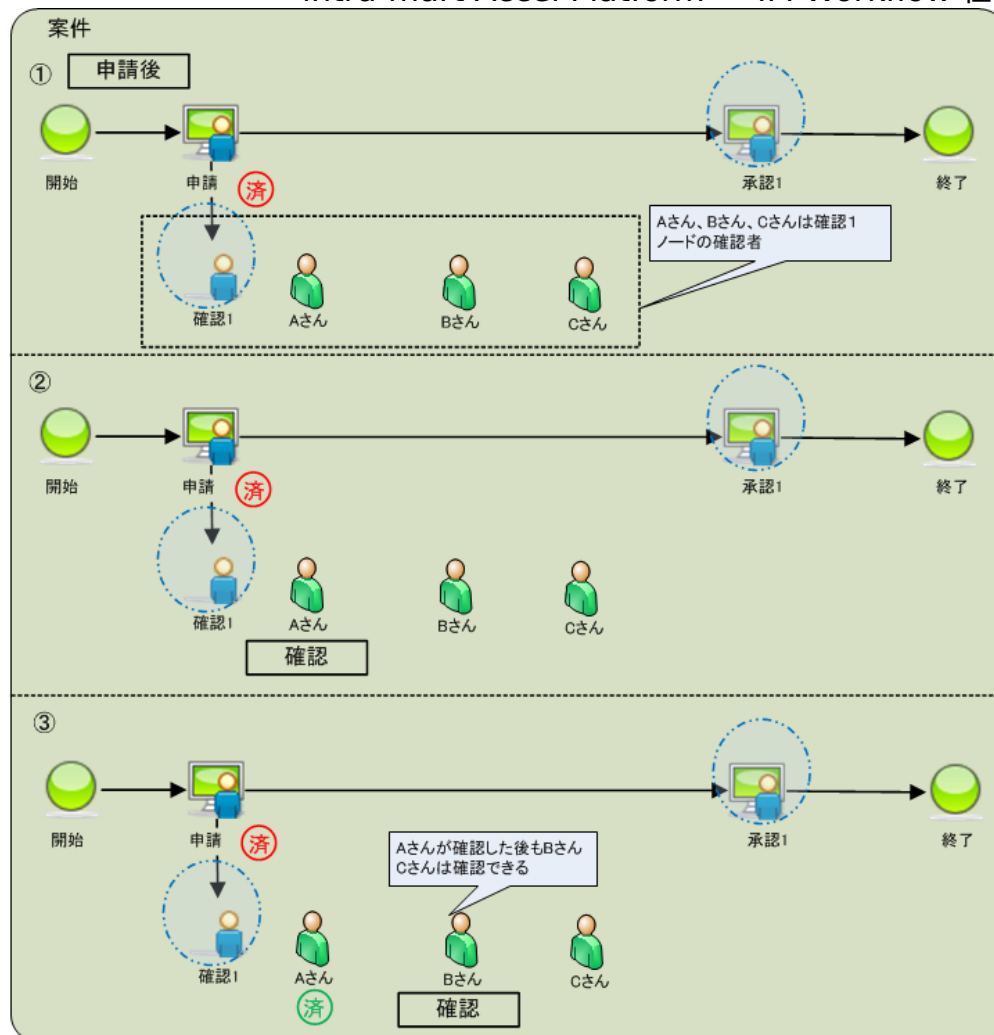
- 確認は何度でもできます。

確認は何度でもできる



- 確認ノードに確認対象者が複数存在する場合、他の確認対象者の確認後でも確認できます。

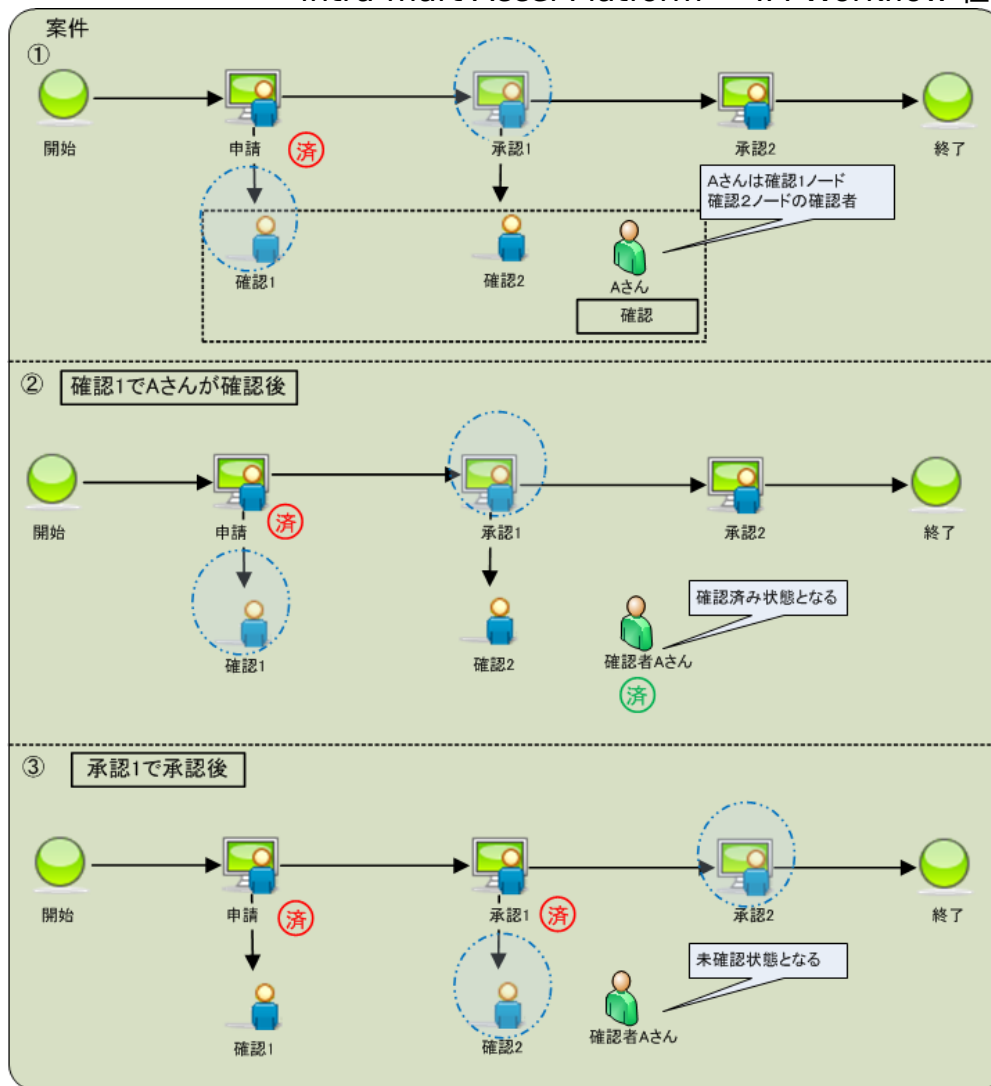
複数の確認対象者が確認できる



- 確認は案件単位です。

1 人の利用者が複数の確認ノードの確認対象者に設定されている場合、あるノードで確認を行っても、次の確認ノードにて未確認状態にリセットされます。

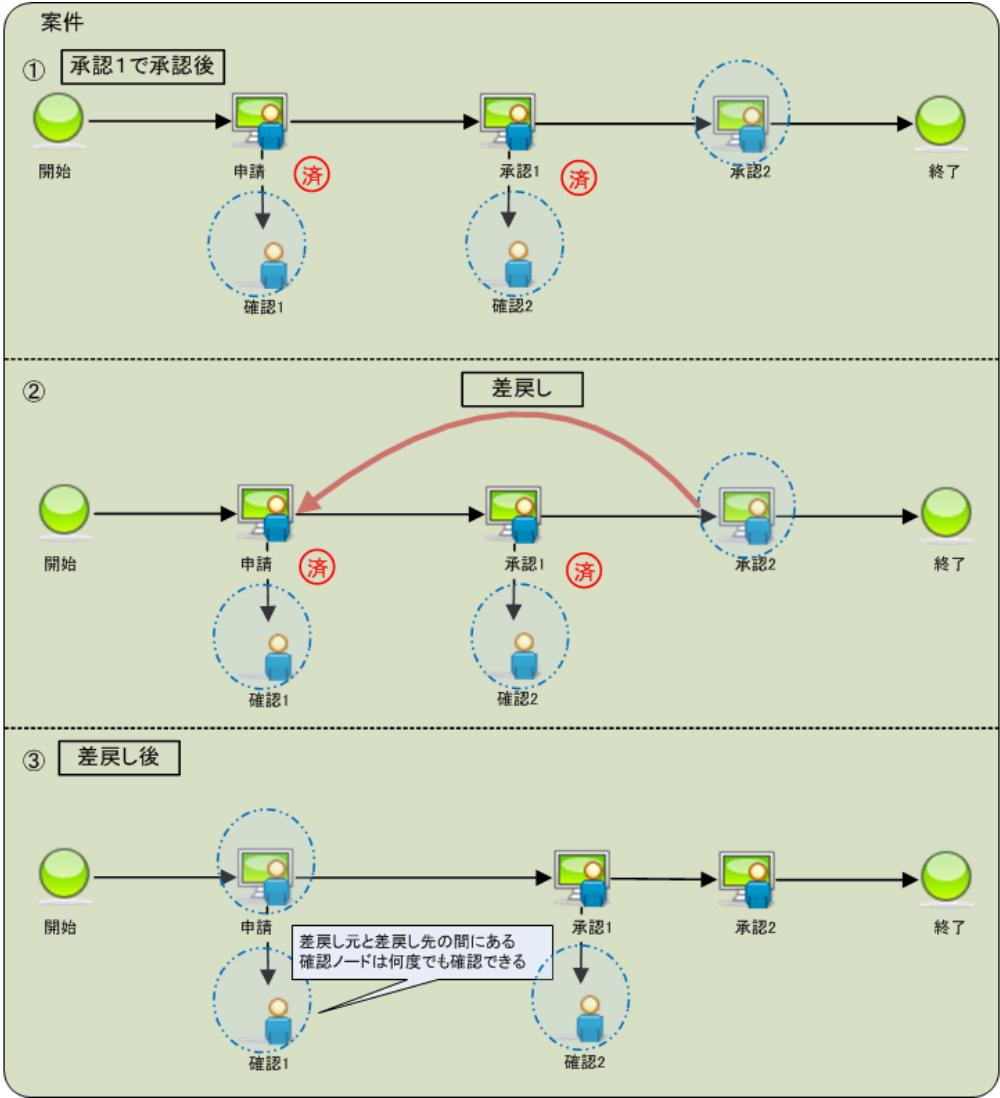
確認ノードは未確認状態にリセット



差戻しの処理ルール

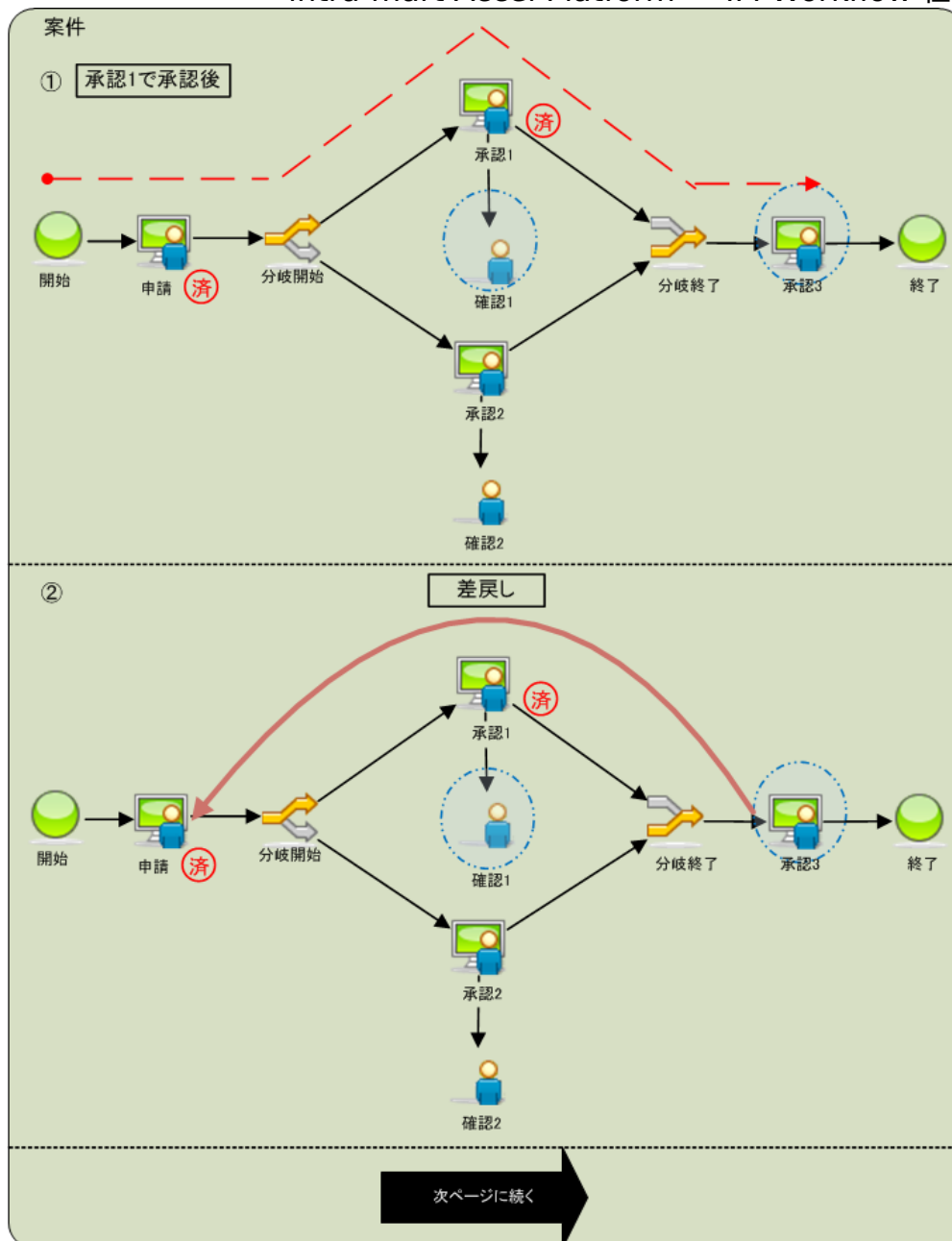
- 一旦確認可能状態となった確認ノードより前にされた後でも、確認対象者は確認できます。

差戻し後も確認できる

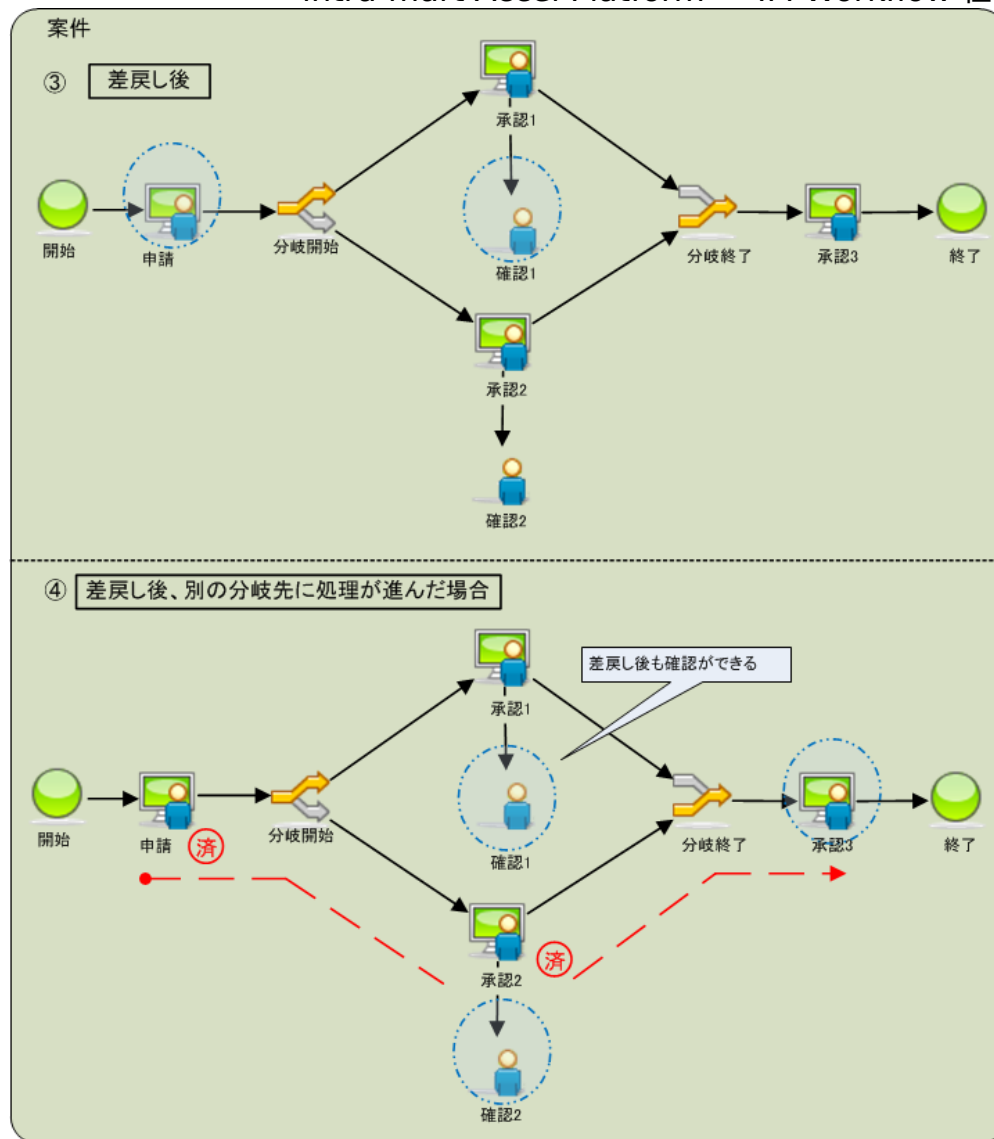


- 差戻し後に別の分岐に遷移した場合でも、前回遷移した分岐の確認ノードの確認対象者は確認ができます。

差戻し後の履歴参照 1



差異し後の履歴参照 2



案件操作・参照

ノードに処理対象者が無いなどの理由でノードにて処理が中断している場合、第3者が案件を操作して処理を再開させる必要があります。IM-Workflow では管理目的で案件を操作する機能として「案件操作・参照」を用意しております。ワークフローシステム管理者、案件操作権限者が利用できます。

詳細については下記を参照してください。

案件操作でできる処理

案件操作でできる処理は以下の通りです。

図. 案件操作でできる処理 < : 処理できる / : 権限委譲された範囲で処理できる >

	ワークフローシステム管理者	ワークフロー運用管理者	ワークフロー監査者	案件操作権限者
参照				
保留解除				
ノード処理対象者変更				
ノード処理対象者再展開				
動的承認ノードの削除				
動的承認ノードの復活				
横配置ノードの再設定・再展開				

	ワークフロー システム管理者	ワークフロー 運用管理者	ワークフロー 監査者	案件操作権限者
縦配置ノードの再設定・再展開	✓	⚠	✗	⚠
ノード移動	戻る ✓	⚠	✗	⚠
	進む ✓	⚠	✗	⚠
	終了 ✓	⚠	✗	⚠
案件操作権限者の変更 (案件操作時)	✓	⚠	✗	✗
案件削除	✓	⚠	✗	✗

案件操作権限者

案件操作・参照ができる利用者のことを「案件操作権限者」と呼びます。

フロー定義の参照者設定に利用者や利用者の属する組織を設定することで、利用者は「案件操作権限者」になることができます。

詳細については下記を参照してください。

案件操作権限者の設定内容

IM-Workflow の標準機能では、案件操作権限者に IM-共通マスタ のユーザや組織などを設定できます。

中分類	小分類	備考
単体	ユーザ	
	組織	
	組織とその上位組織全て	[1]
	組織とその下位組織全て	[1]
	役職	
	パブリックグループ	
	役割	
	ロール	
	申請者	[2]
	申請者の組織	[2]
	申請者の上位組織のみ	[2]
	申請者の上位組織全て	[2]
	申請者の下位組織のみ	[2]
	申請者の下位組織全て	[2]
	ロジックフロー（ユーザ）	[3]
複合	組織	+ 役職
	組織とその上位組織全て	+ 役職 [1]
	組織とその下位組織全て	+ 役職 [1]
	パブリックグループ	+ 役割
	組織	+ ロール
	組織とその上位組織全て	+ ロール [1]
	組織とその下位組織全て	+ ロール [1]
	パブリックグループ	+ ロール
	申請者の組織	+ 役職 [2]
	申請者の上位組織のみ	+ 役職 [2]
	申請者の上位組織全て	+ 役職 [2]
	申請者の下位組織のみ	+ 役職 [2]

中分類	小分類	備考
	申請者の下位組織全て	+ 役職 [2]
	申請者の組織	+ ロール [2]
	申請者の上位組織のみ	+ ロール [2]
	申請者の上位組織全て	+ ロール [2]
	申請者の下位組織のみ	+ ロール [2]
	申請者の下位組織全て	+ ロール [2]

[1] ([1](#), [2](#), [3](#), [4](#), [5](#), [6](#)) IM-Workflow 8.0.8(2014 Summer)から設定できます。

[2] ([1](#), [2](#), [3](#), [4](#), [5](#), [6](#), [7](#), [8](#), [9](#), [10](#), [11](#), [12](#), [13](#), [14](#), [15](#), [16](#))

初期値は無効 (false) に設定されていますので、利用する場合には有効 (true) に変更してください。
設定を変更する手順については、以下のリンクを参照してください。

「[IM-Workflow 管理者操作ガイド](#)」 - 「[処理対象者プラグインを設定する](#)」

[3] IM-Workflow 8.0.19(2018 Spring)から設定できます。

案件操作権限者プラグイン一覧

- 参照
 - 拡張ポイント
jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.administrator.flow.handle

プラグイン名	プラグインID
ユーザ	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.administrator.flow.handle.user
組織	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.administrator.flow.handle.department
ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.administrator.flow.handle.role
パブリックグループ	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.administrator.flow.handle.public_group
役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.administrator.flow.handle.post
役割	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.administrator.flow.handle.public_group_role
組織+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.administrator.flow.handle.department_and_post
パブリックグループ+役割	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.administrator.flow.handle.public_group_and_public_group_role
組織+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.administrator.flow.handle.department_and_role
パブリックグループ+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.administrator.flow.handle.public_group_and_role
申請者	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.administrator.flow.handle.apply_user
申請者の所属組織	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.administrator.flow.handle.apply_user_department
申請者の所属組織+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.administrator.flow.handle.apply_user_department_and_post
申請者の所属組織+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.administrator.flow.handle.apply_user_department_and_role
申請者の上位組織	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.administrator.flow.handle.apply_user_one_step_upper_department

プラグイン名	プラグインID
申請者の上位組織+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.administrator. flow.handle.apply_user_one_step_upper_department_and_post
申請者の上位組織+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.administrator. flow.handle.apply_user_one_step_upper_department_and_role
申請者の上位組織全て	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.administrator. flow.handle.apply_user_all_step_upper_department
申請者の上位組織全て+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.administrator. flow.handle.apply_user_all_step_upper_department_and_post
申請者の上位組織全て+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.administrator. flow.handle.apply_user_all_step_upper_department_and_role
申請者の下位組織	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.administrator. flow.handle.apply_user_one_step_lower_department
申請者の下位組織+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.administrator. flow.handle.apply_user_one_step_lower_department_and_post
申請者の下位組織+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.administrator. flow.handle.apply_user_one_step_lower_department_and_role
申請者の下位組織全て	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.administrator. flow.handle.apply_user_all_step_lower_department
申請者の下位組織全て+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.administrator. flow.handle.apply_user_all_step_lower_department_and_post
申請者の下位組織全て+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.administrator. flow.handle.apply_user_all_step_lower_department_and_role
組織とその上位組織全て	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.administrator. flow.handle.department_all_step_upper_department
組織とその上位組織全て+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.administrator. flow.handle.department_all_step_upper_department_and_post
組織とその上位組織全て+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.administrator. flow.handle.department_all_step_upper_department_and_role
組織とその下位組織全て	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.administrator. flow.handle.department_all_step_lower_department
組織とその下位組織全て+役職	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.administrator. flow.handle.department_all_step_lower_department_and_post
組織とその下位組織全て+ロール	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.administrator. flow.handle.department_all_step_lower_department_and_role
ロジックフロー（ユーザ）	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.authority.administrator. flow.handle.logic_flow_user

案件操作権限者プラグインの指定方法

プログラムにより特定の案件に対して案件操作権限者プラグインを指定するには、特定のノードへの処理権限者プラグインを設定する方法と同じ方法で指定できます。

プログラムでの処理権限者プラグインの指定方法は以下のページを参照してください。

- [処理権限者プラグインの指定方法](#)

案件操作権限者プラグインの場合には、上記リンク先の拡張ポイントID、およびプラグインIDが異なりますので、以下のリンク先で確認してください。

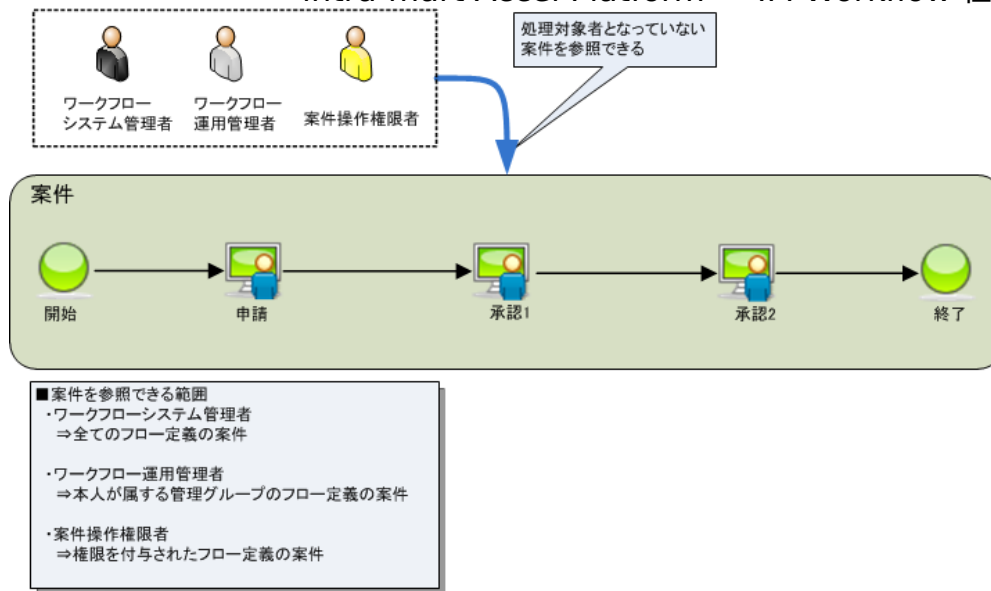
- [案件操作権限者プラグイン一覧](#)

案件操作の処理内容

参照

案件を参照できる機能です。
処理対象者に設定されていない案件を見たい場合に使用します。

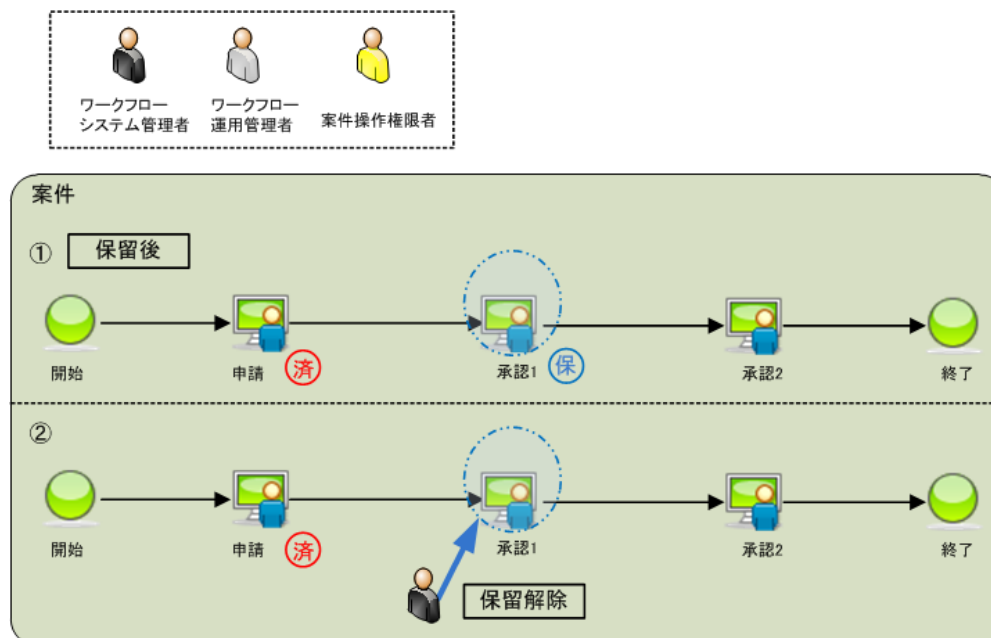
参照



保留解除

保留中のノードの保留解除ができる機能です。

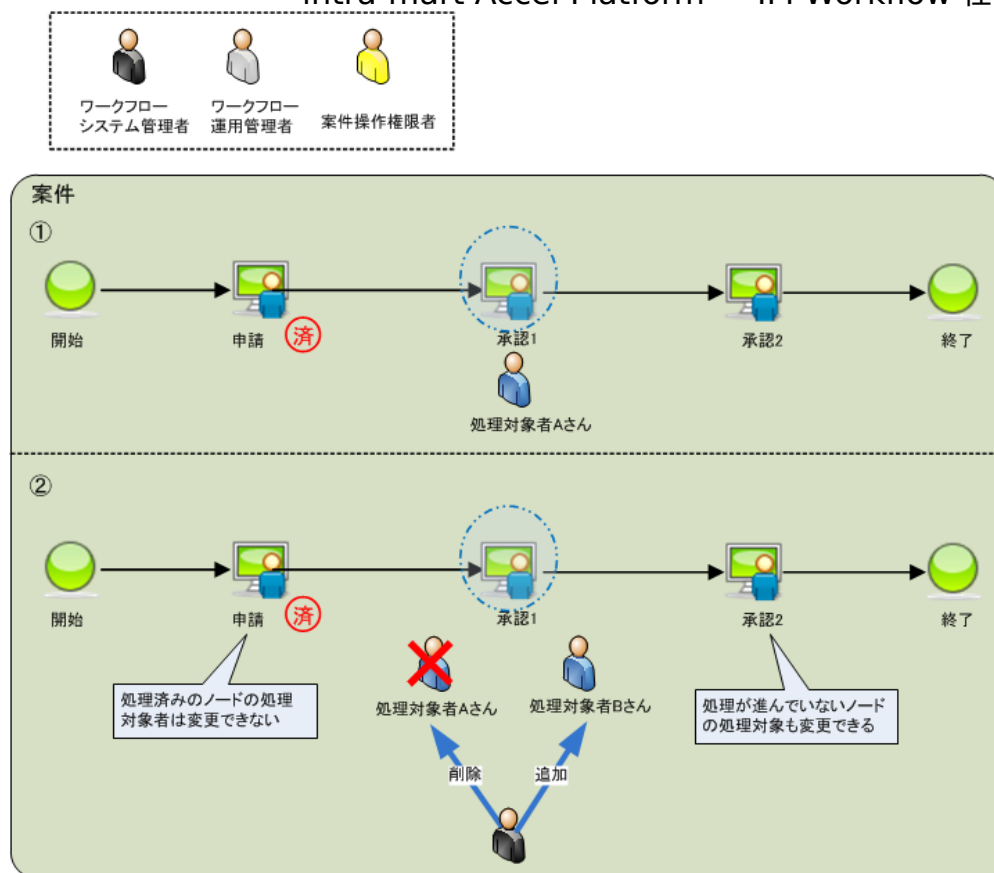
保留解除



ノード処理対象者変更

ノードに対して処理対象者の設定を追加・削除できる機能です。
ただし処理済みのノードの処理対象者は変更できません。

ノード処理対象者変更



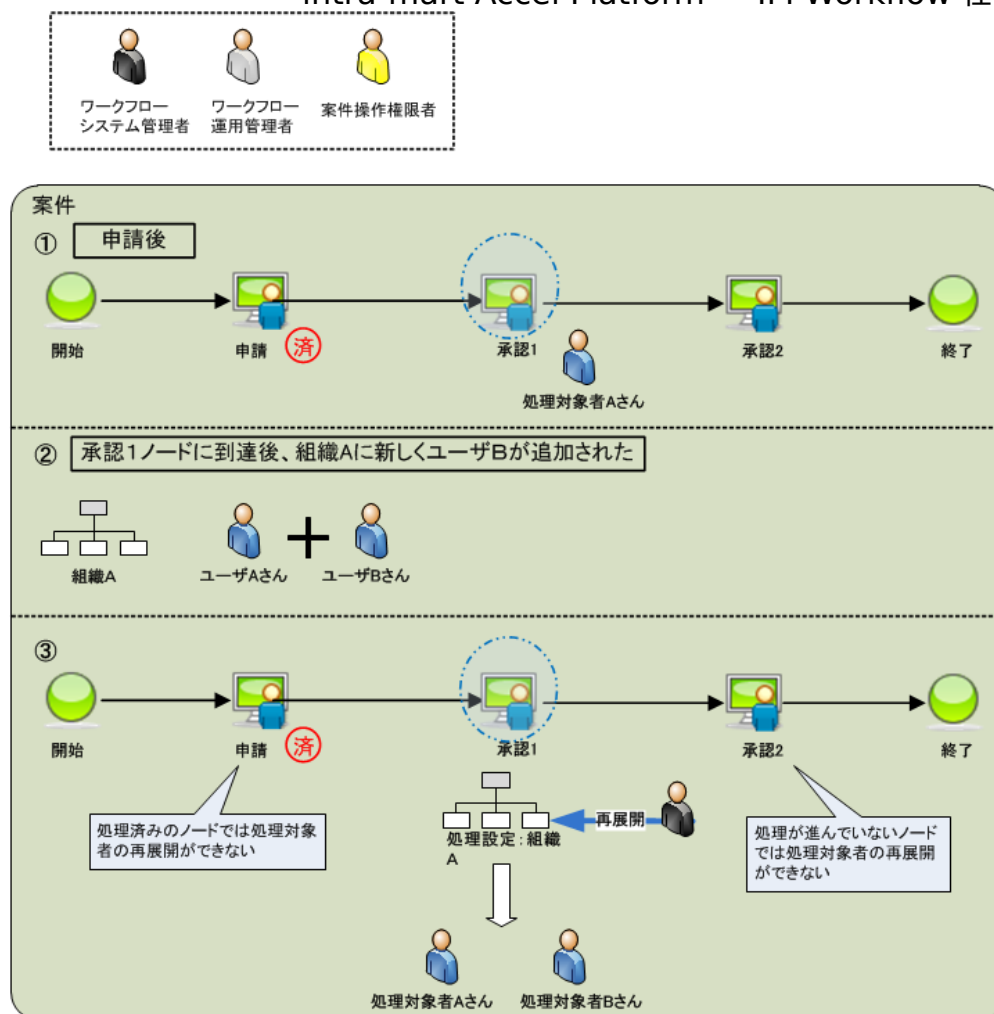
処理対象者の追加・削除は案件開始時のマスタのコピーに反映されます。

したがって処理対象者の設定を変更した後、差戻しなどでノードに再到達した場合はノードには変更後の処理対象者が展開されます。

ノード処理対象者再展開

ノードの処理対象者の設定から処理対象者を再度展開できる機能です。

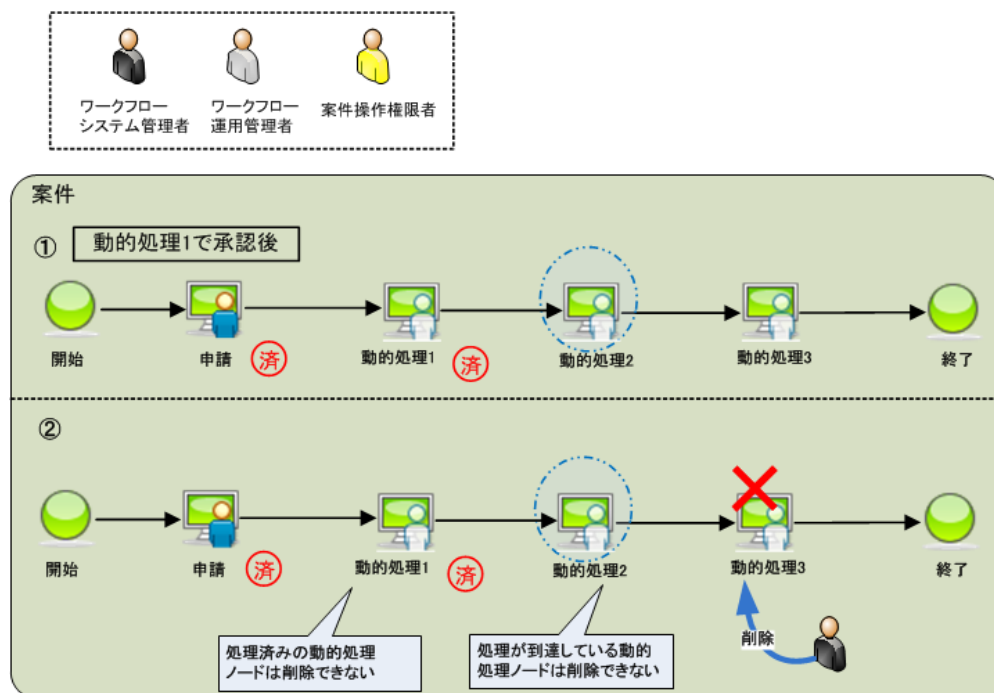
ノード処理対象者の再展開



動的承認ノードの削除

案件上の動的承認ノードを削除できる機能です。

動的承認ノードの削除



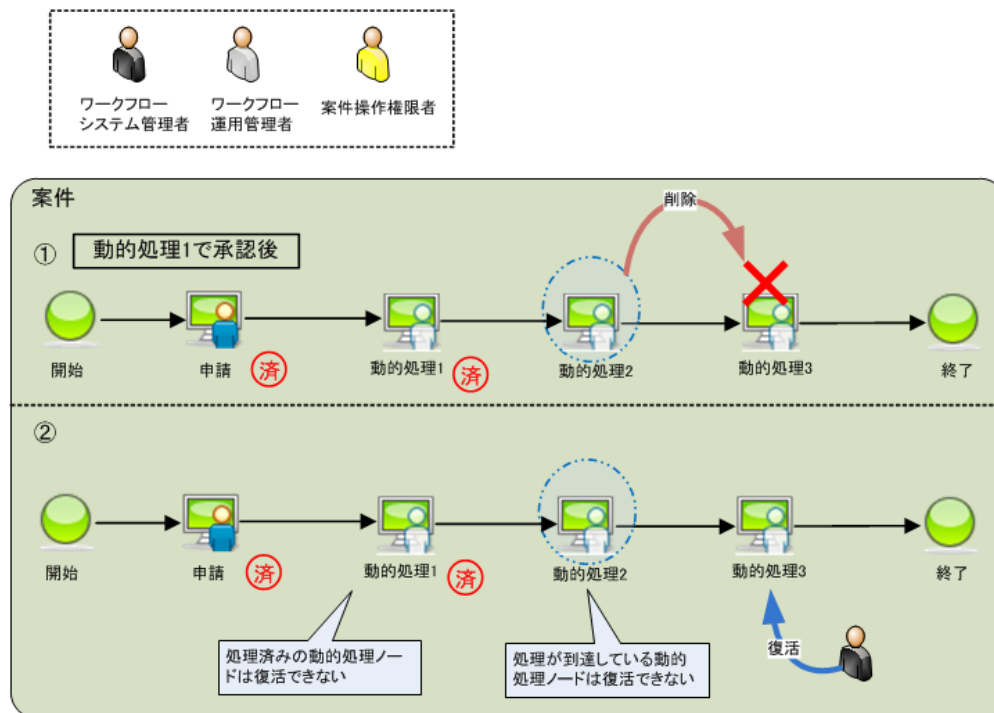
動的承認ノード上に処理がある場合は削除できません。

この場合、後述する「ノード移動」で動的承認ノードから他のノードに処理を移動してから削除してください。

動的承認ノードの復活

削除した動的承認ノードを復活できる機能です。

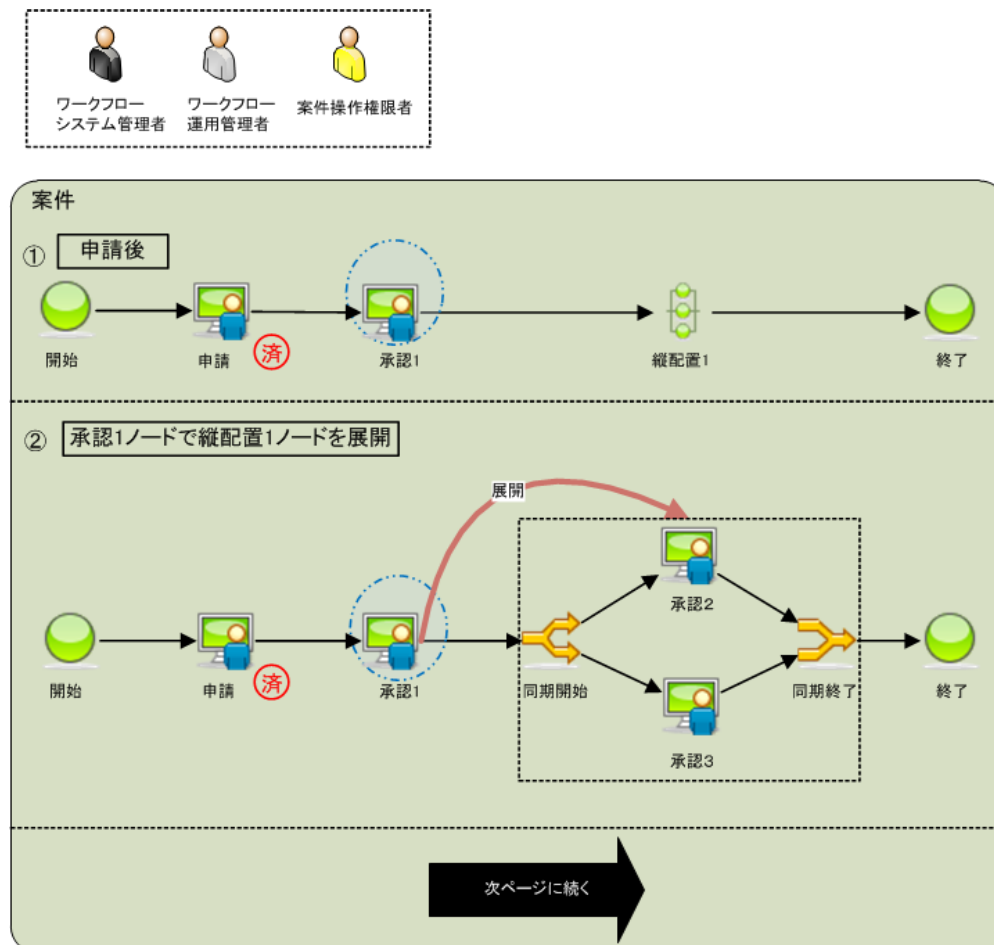
動的承認ノードの復活



横配置ノード、縦配置ノードの再設定・再展開

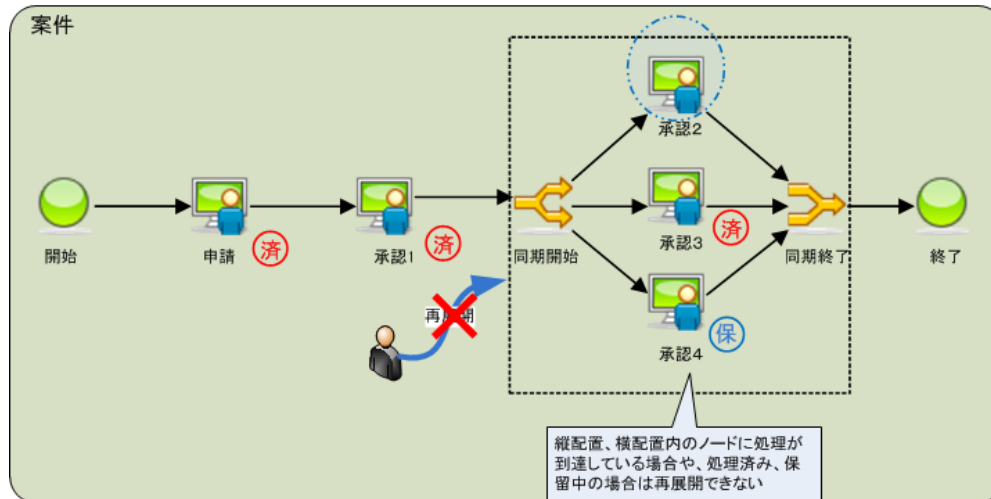
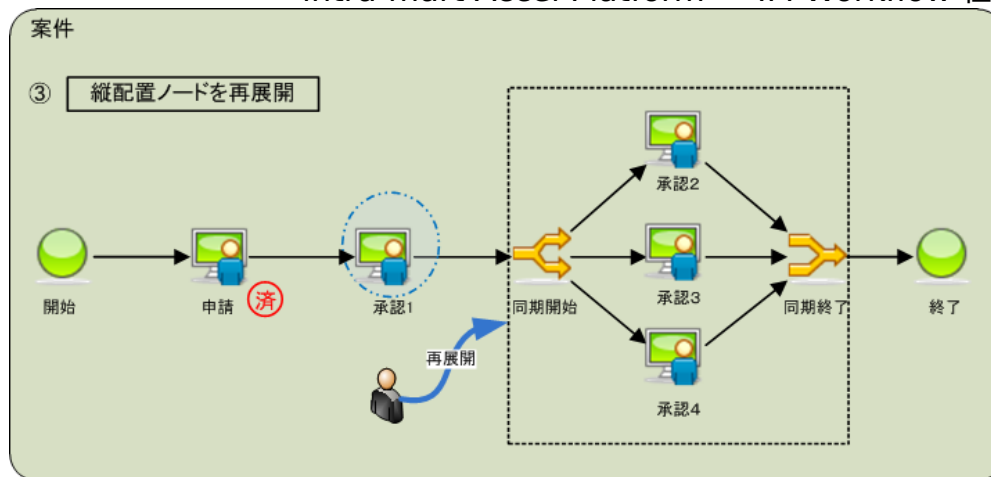
横配置ノード、縦配置ノードの展開数の再設定、および再展開ができる機能です。

横配置ノード、縦配置ノードの再設定・再展開 1



横配置ノード、縦配置ノードから展開された承認ノードに処理がある場合は再設定、再展開できません。
この場合、後述する「ノード移動」で動的承認ノードから他のノードに処理を移動してから再設定、再展開してください。

横配置ノード、縦配置ノードの再設定・再展開 2



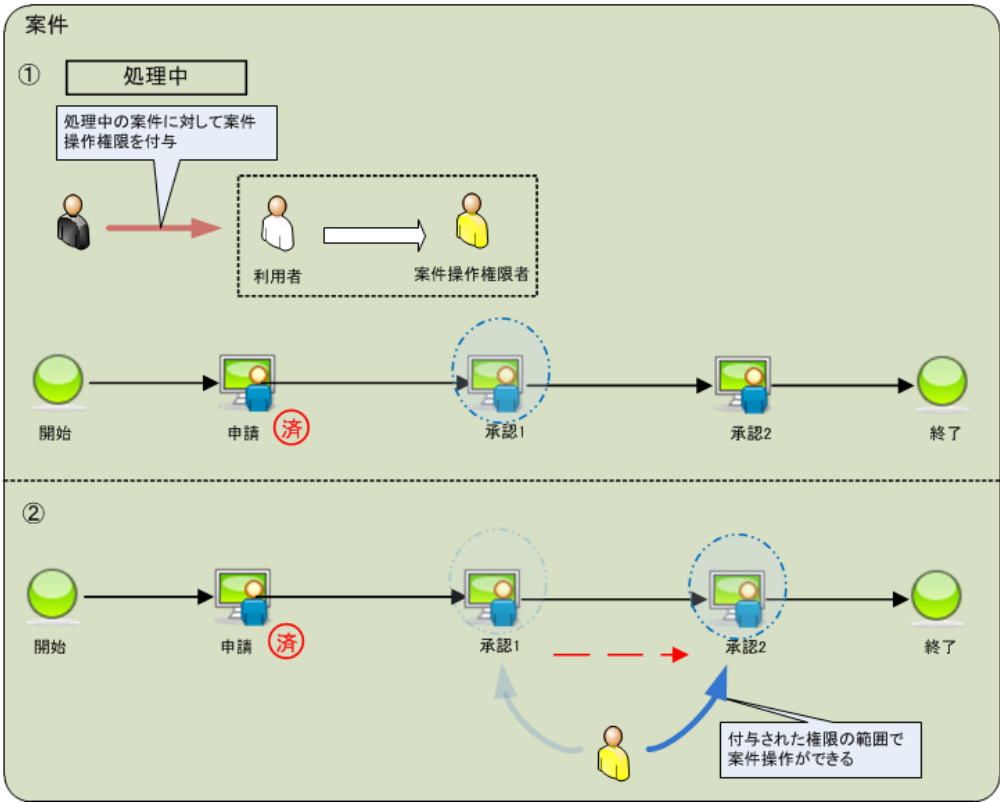
ノード移動

任意のノードに処理を移動できる機能です。
権限付与の際に移動方向の制限、および終了ノードへの移動可否を制御できます。
詳細は後述の「[3.12.4 案件操作・ノード移動の処理ルール](#)」を参照してください。

案件操作権限者の追加

処理中案件に対して案件操作権限を追加する機能です。
ワークフローシステム管理者、ワークフロー運用管理者が行えます。

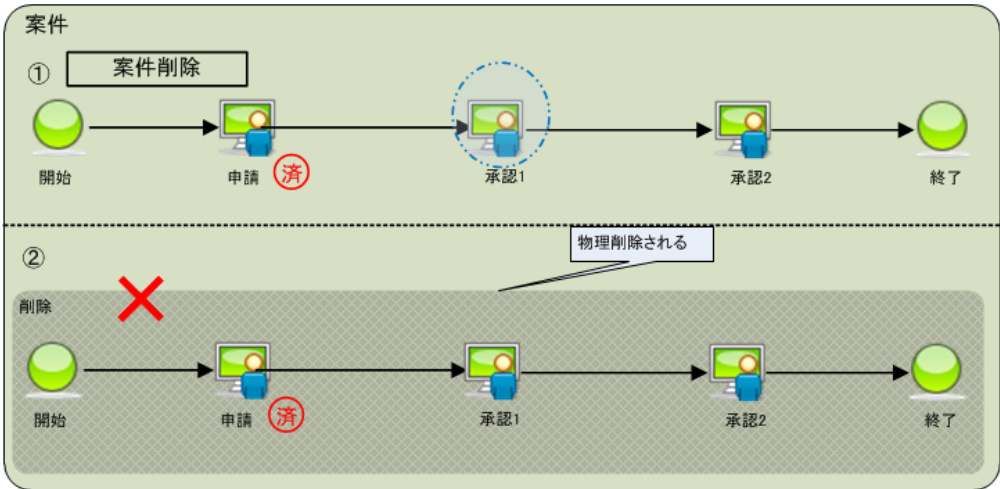
案件操作権限者の追加



案件削除

指定した案件の物理削除ができる機能です。
処理履歴、確認履歴などの案件に関連するデータは全て削除されます。
ワークフローシステム管理者、ワークフロー運用管理者が行えます。

案件削除



案件削除時には、以下のリスナーを呼び出すことができます。

機能	リスナー名	説明
案件削除	未完了案件削除リスナー	未完了案件を削除した場合に呼び出されるリスナーです
	完了案件削除リスナー	完了案件を削除した場合に呼び出されるリスナーです

機能	リスナー名	説明
	過去案件削除リスナー	過去案件を削除した場合に呼び出されるリスナーです

通常、これらのリスナーはコンテンツ毎に設定を行います。

テナントで共通のリスナーを設定したい場合は、「[5.1.2.15 リスナーの設定](#)」を参照ください。

案件操作・ノード移動の処理ルール

案件操作・ノード移動では下表「移動先」で示すノードに処理を移動できます。

案件操作・ノード移動「進む」 <  : 移動できる >		
ノード名	移動先	備考
開始ノード		
終了ノード		移動後に案件が完了します
申請ノード		
承認ノード		
システムノード		
動的承認ノード		
横配置ノード		展開後の承認ノードには移動ができます
縦配置ノード		展開後の承認ノードには移動ができます
同期開始ノード		
同期終了ノード		
分岐開始ノード		
分岐終了ノード		
確認ノード		

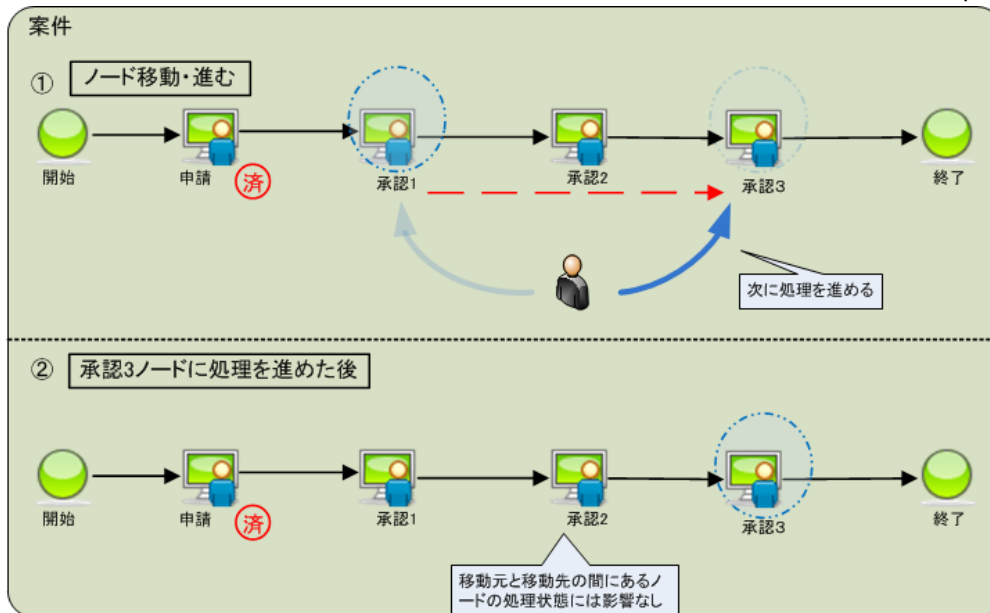


コラム

以降では、「分岐開始ノード」「分岐終了ノード」による分岐ルートに関する詳細説明が登場します。
分岐ルートにおける動作仕様は、「同期開始ノード」「同期終了ノード」による同期ルートにおいても同様に適用されます。

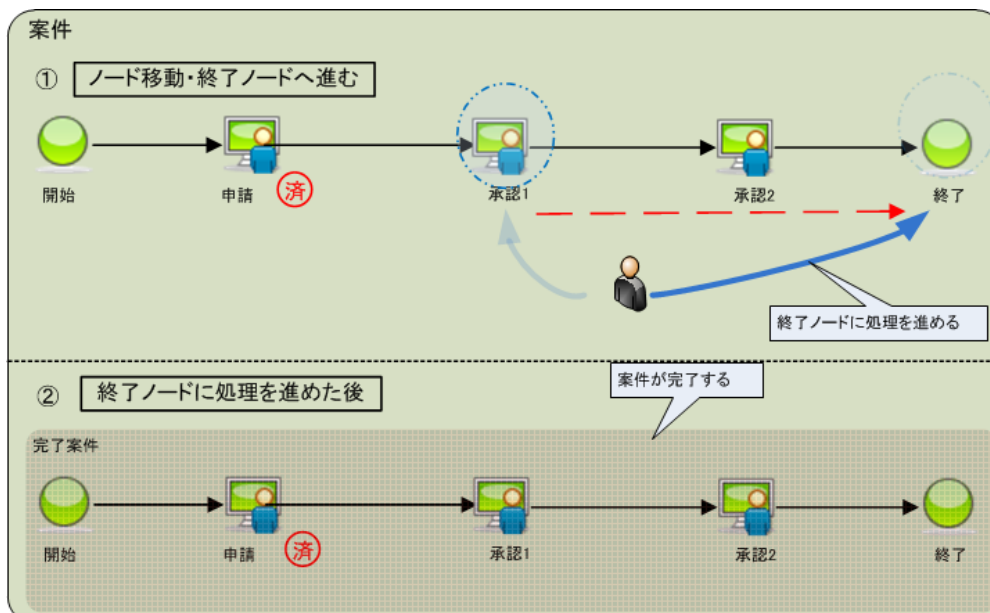
ノード移動・進む

- 終了ノードの方向にノード上の処理を移動できます。
この場合、移動元と移動先の間にあるノードの処理状態には影響を与えません。



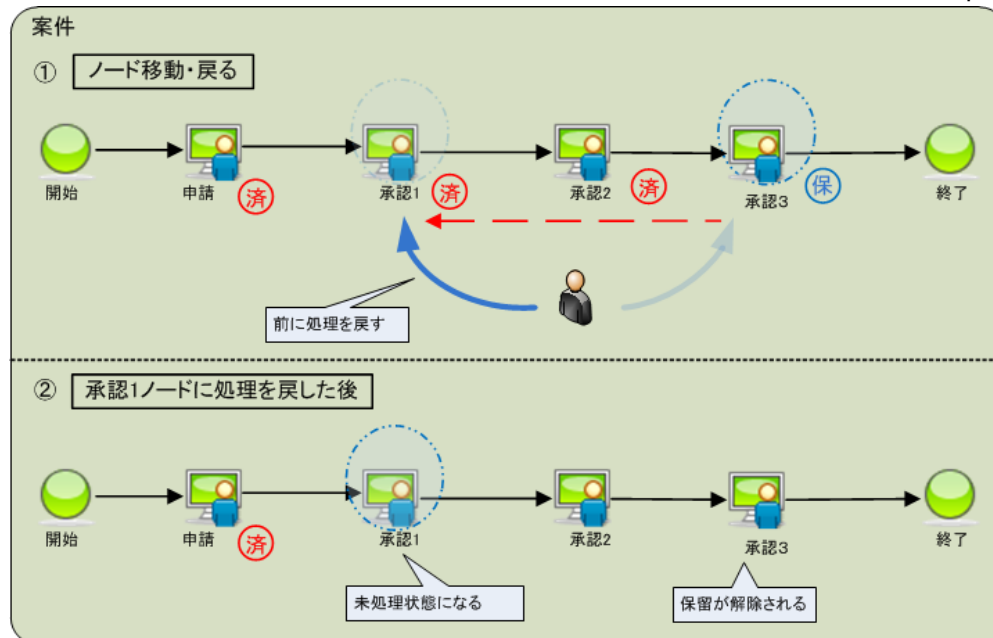
終了ノードへのノード移動

- 終了ノードに処理を移動できます。この場合、案件が完了します。



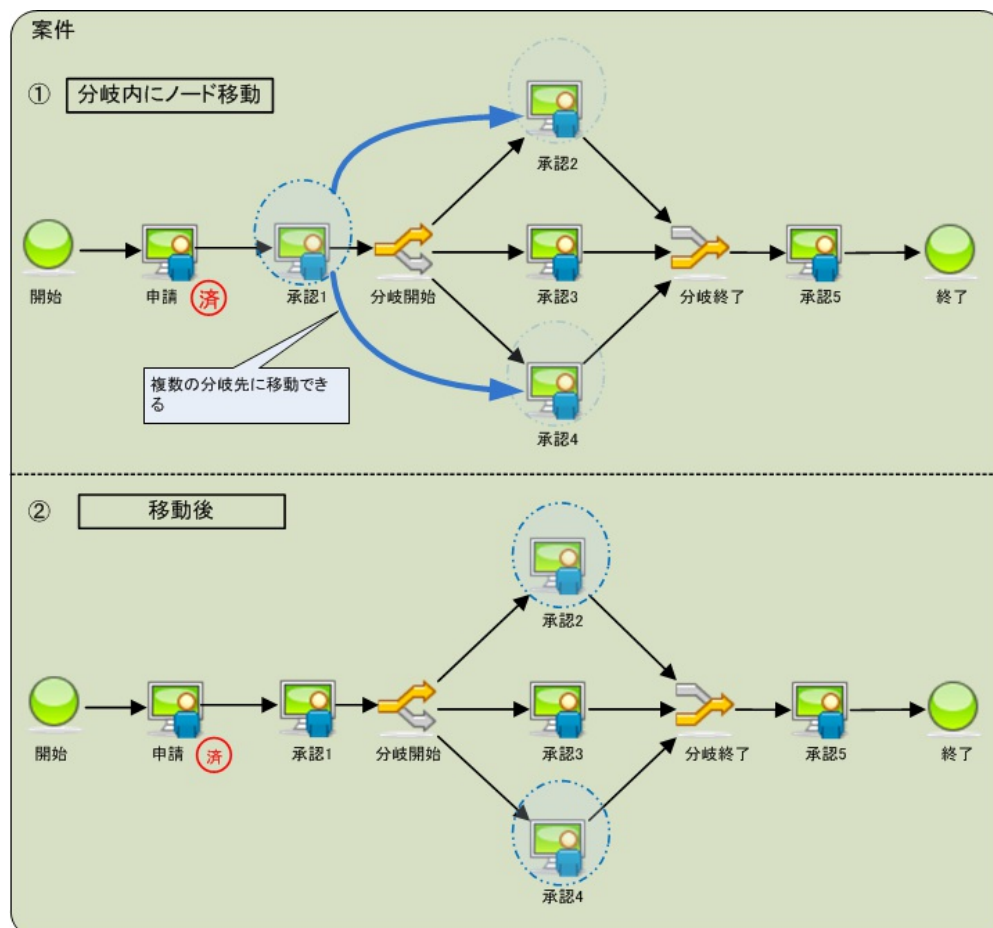
ノード移動・戻る

- 開始ノードの方向にノード上の処理を移動できます。
この場合、移動元と移動先の間にあるノードに対して、処理の取り消しと保留解除が行われます。



分岐前から分岐内へ移動

- 分岐前から分岐内にノード上の処理を移動できます。
分岐内の複数ノードに処理を移動できます。
この場合、移動元と移動先の間にあるノードの処理状態には影響を与えません。

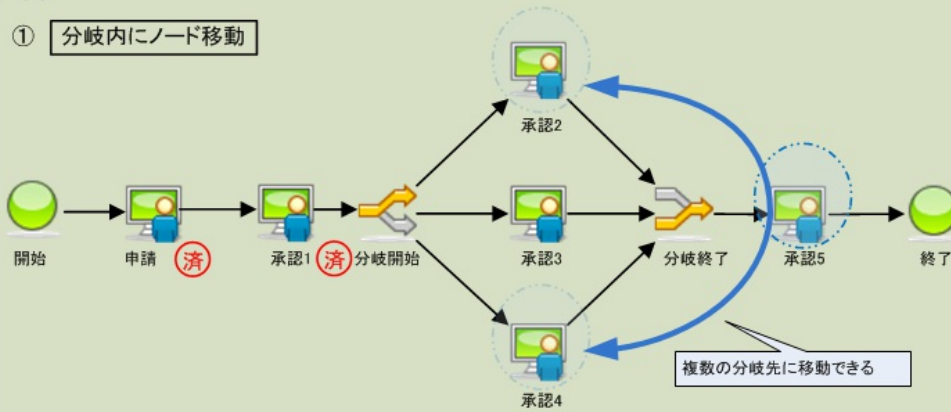


分岐後から分岐内へ移動

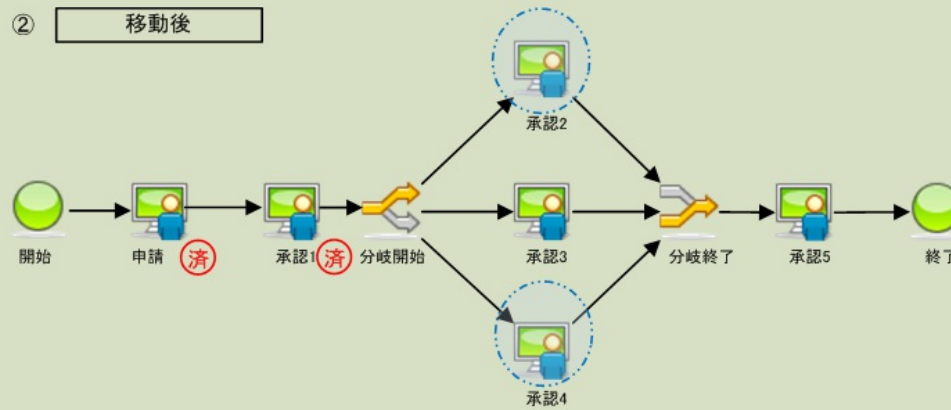
- 分岐後から分岐内にノード上の処理を移動できます。
分岐内の複数ノードに処理を移動できます。

案件

① 分岐内にノード移動



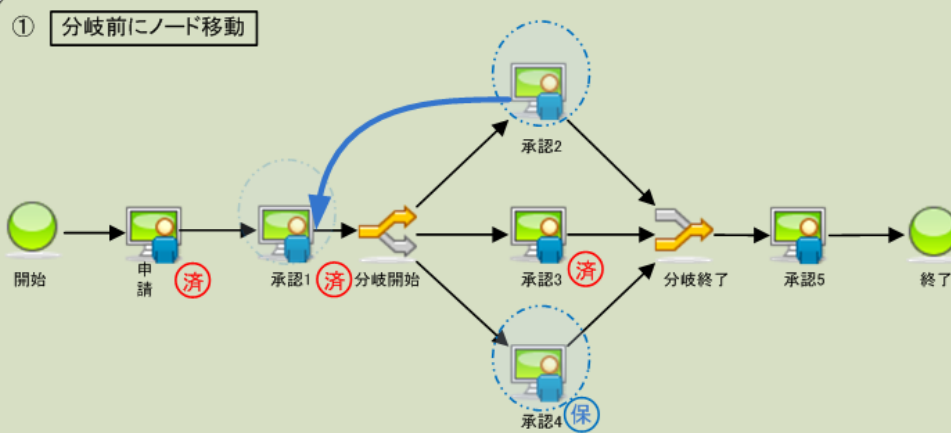
② 移動後



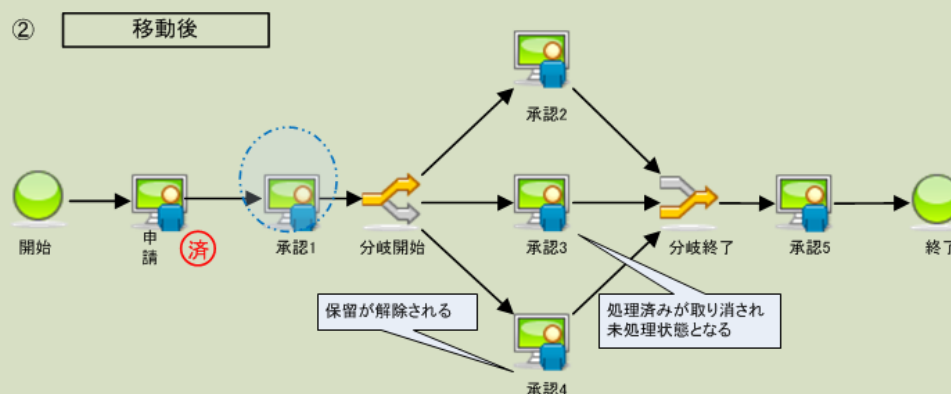
分岐内から分岐前へ移動

- 分岐内から分岐前にノード上の処理を移動できます。
この場合、分岐内のノードに対して、処理の取り消しと保留解除が行われます。

① 分岐前にノード移動

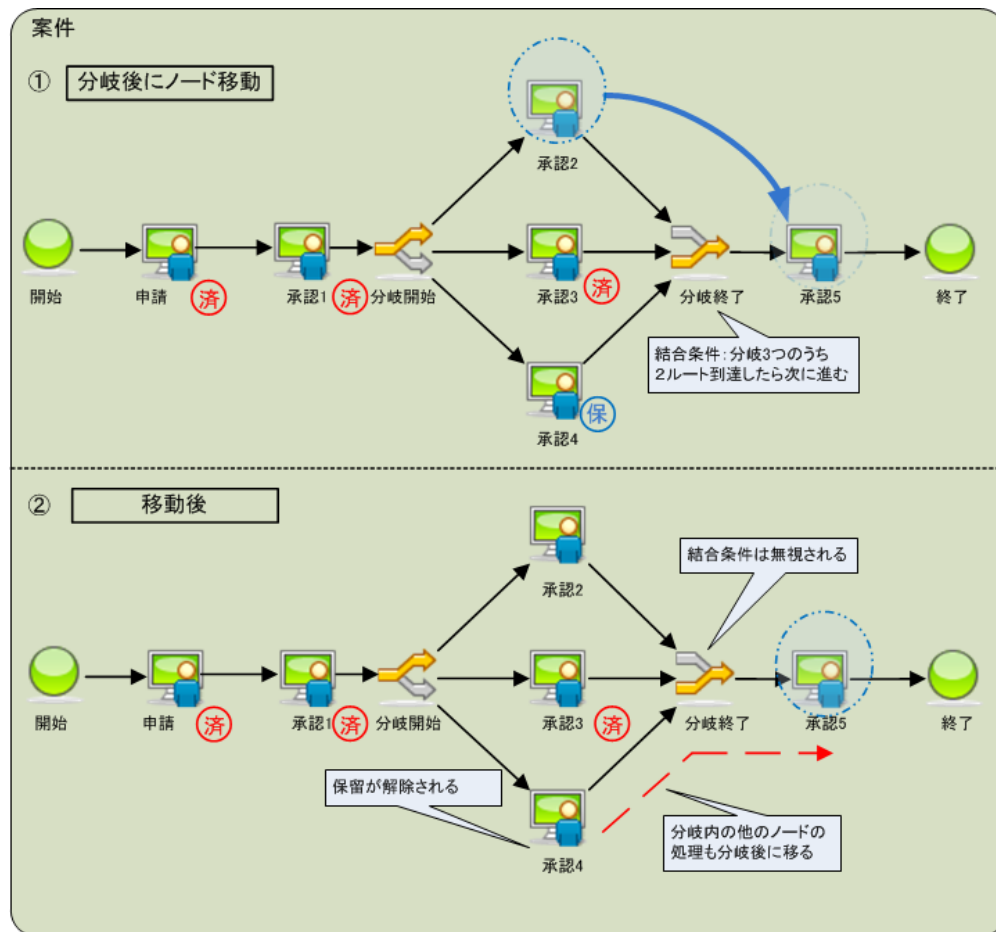


② 移動後



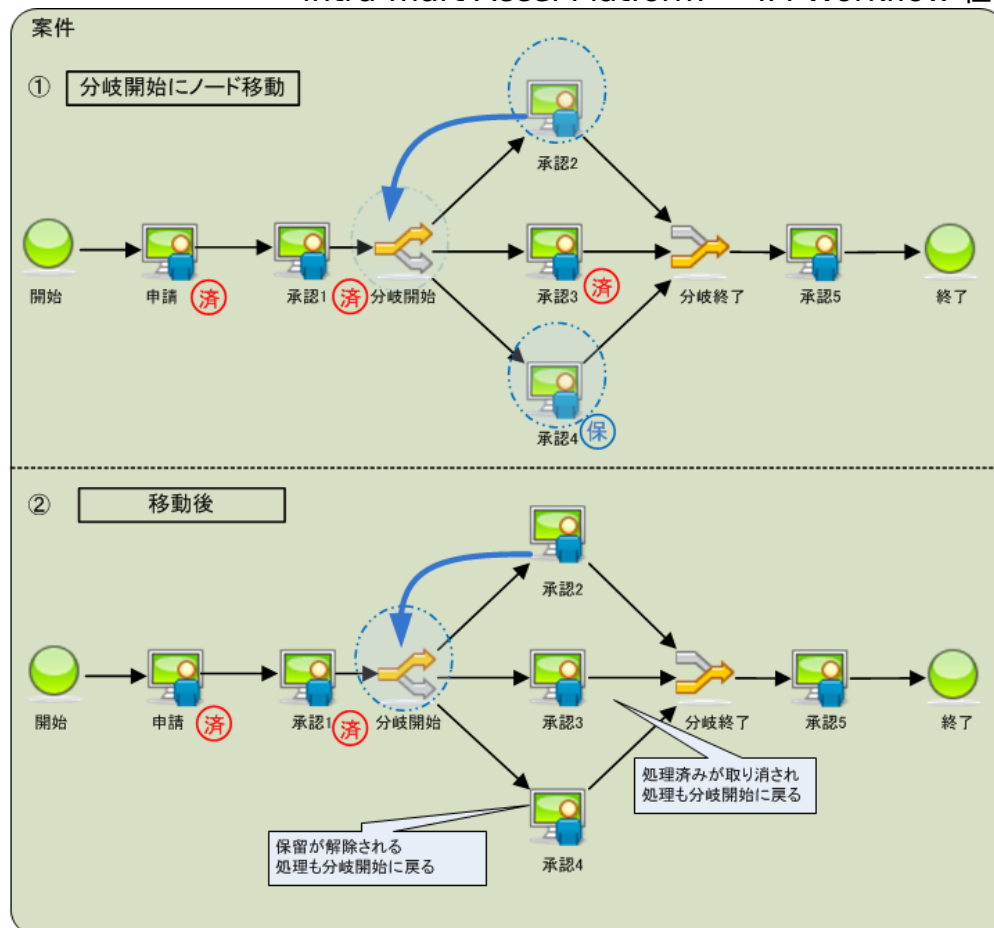
分岐内から分岐後へ移動

- 分岐内から分岐後にノード上の処理を移動できます。
この場合、分岐中の他ノードも分岐後に処理が移動します。
通常の分岐処理では分岐の結合条件に従い分岐後に移動しますが、案件操作ではこの結合条件を無視して移動できます。



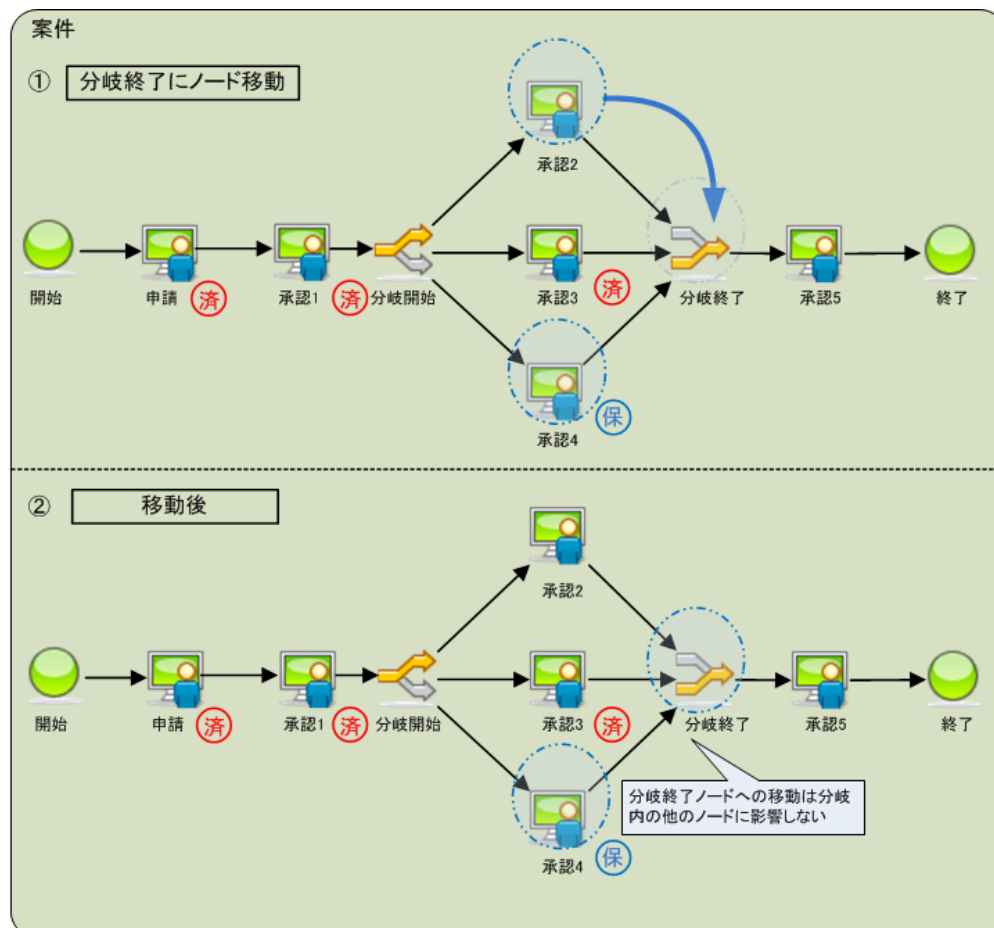
分岐内から分岐開始ノードに移動

- 分岐開始ノードに移動した場合は、分岐内の他ノードの処理状態には影響を与えません。
この場合、分岐内のノードに対して、処理の取り消しと保留解除が行われます。
- 案件操作で分岐開始ノードに移動した場合、該当のノードに設定されている分岐条件は実行されません。
そのため、処理が分岐開始ノードで停滞します。



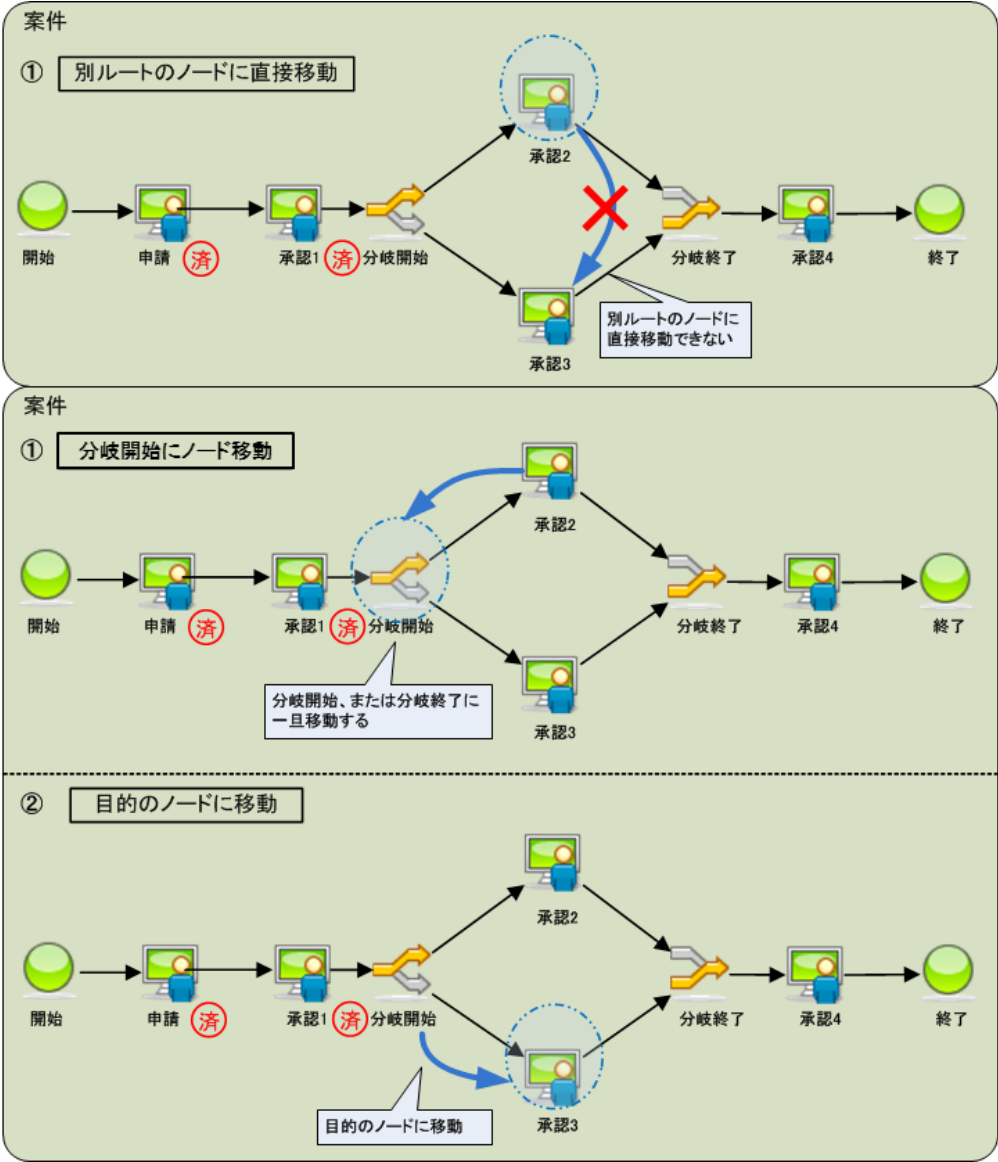
分岐内から分岐終了ノードに移動

- 分岐終了ノードに移動した場合は、分岐内の他ノードの処理状態には影響を与えません。
- 案件操作で分岐終了ノードに移動した場合、該当のノードに設定されている分岐結合条件は実行されません。そのため、処理が分岐終了ノードで停滞します。



分岐内の別ルートへ移動

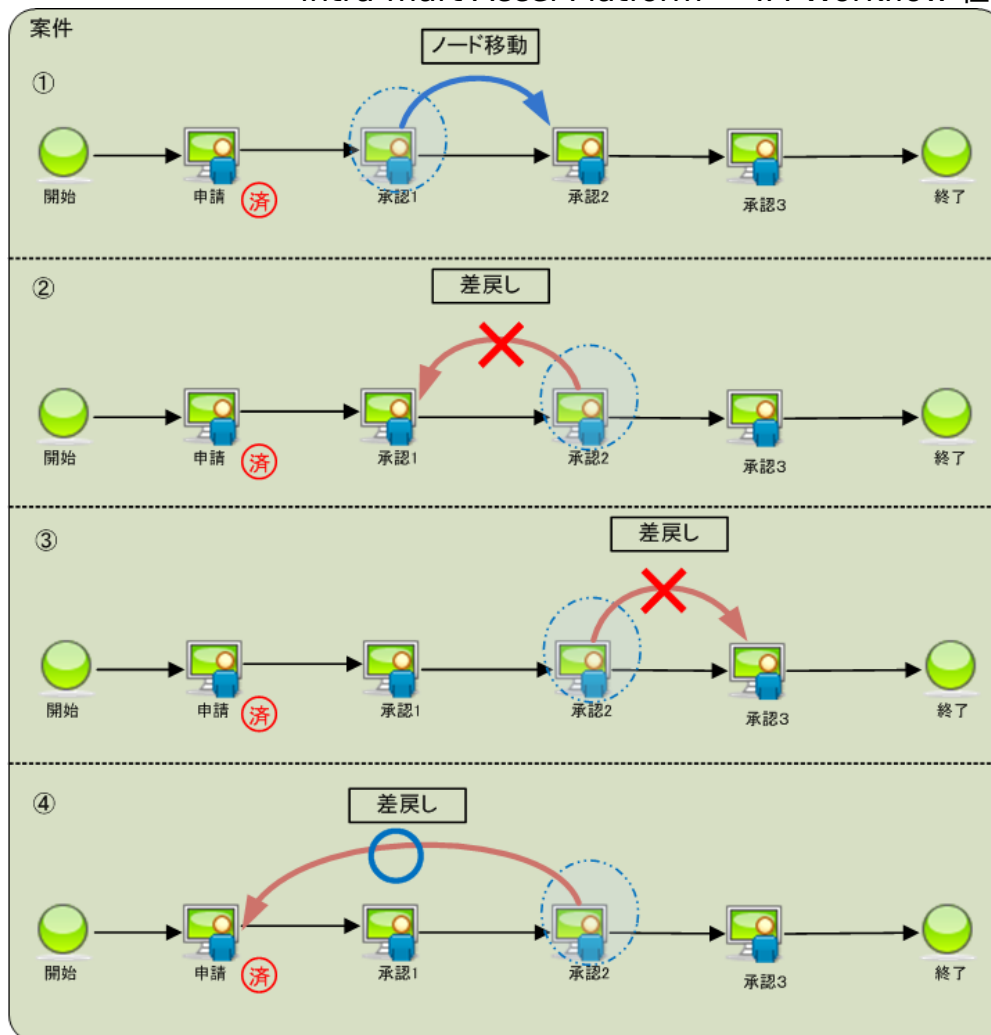
- 分岐内の別ルートへは直接移動できません。
移動する場合は一旦、分岐開始または分岐終了ノードに移動してから、分岐内の別ノードに移動してください。



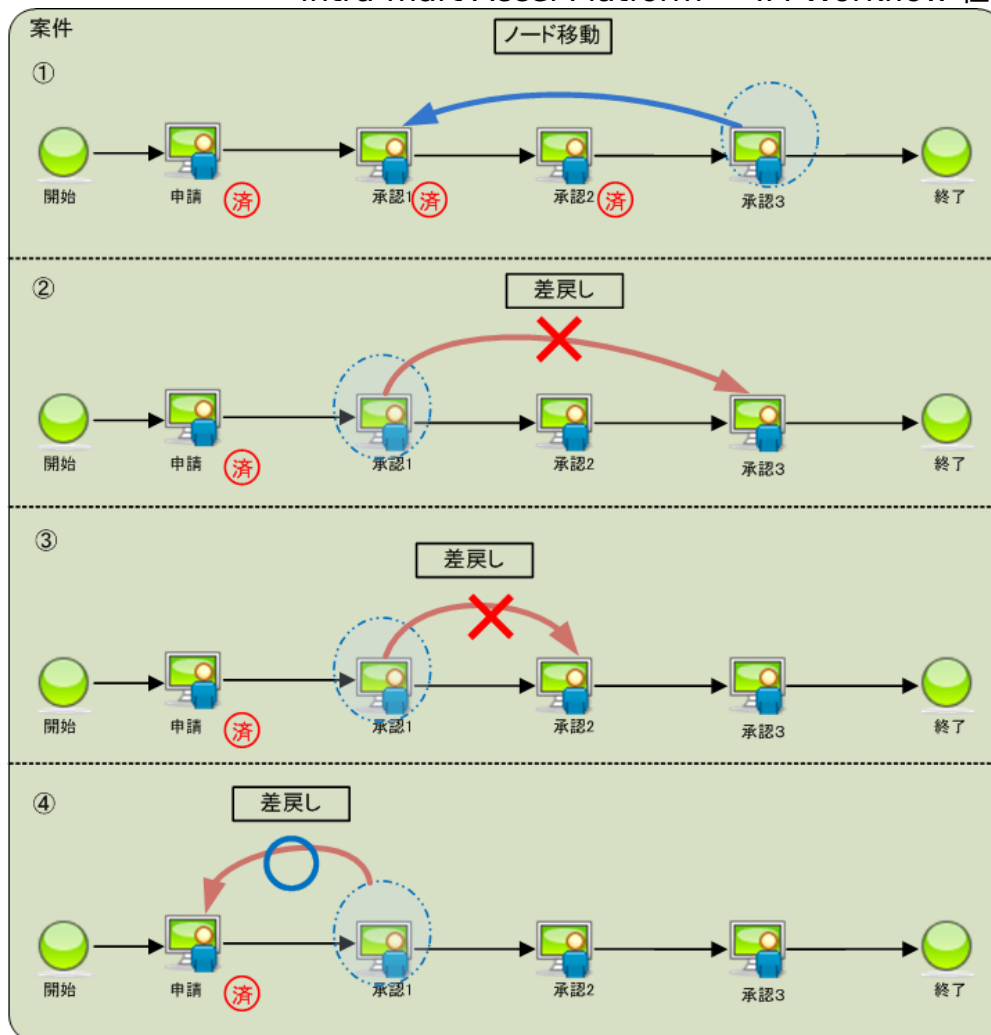
案件操作後の差戻しの処理ルール

- 案件操作後に差戻しする場合、移動元より前であつ処理済みのノードにのみ差戻しできます。

案件操作で前にノード移動した場合



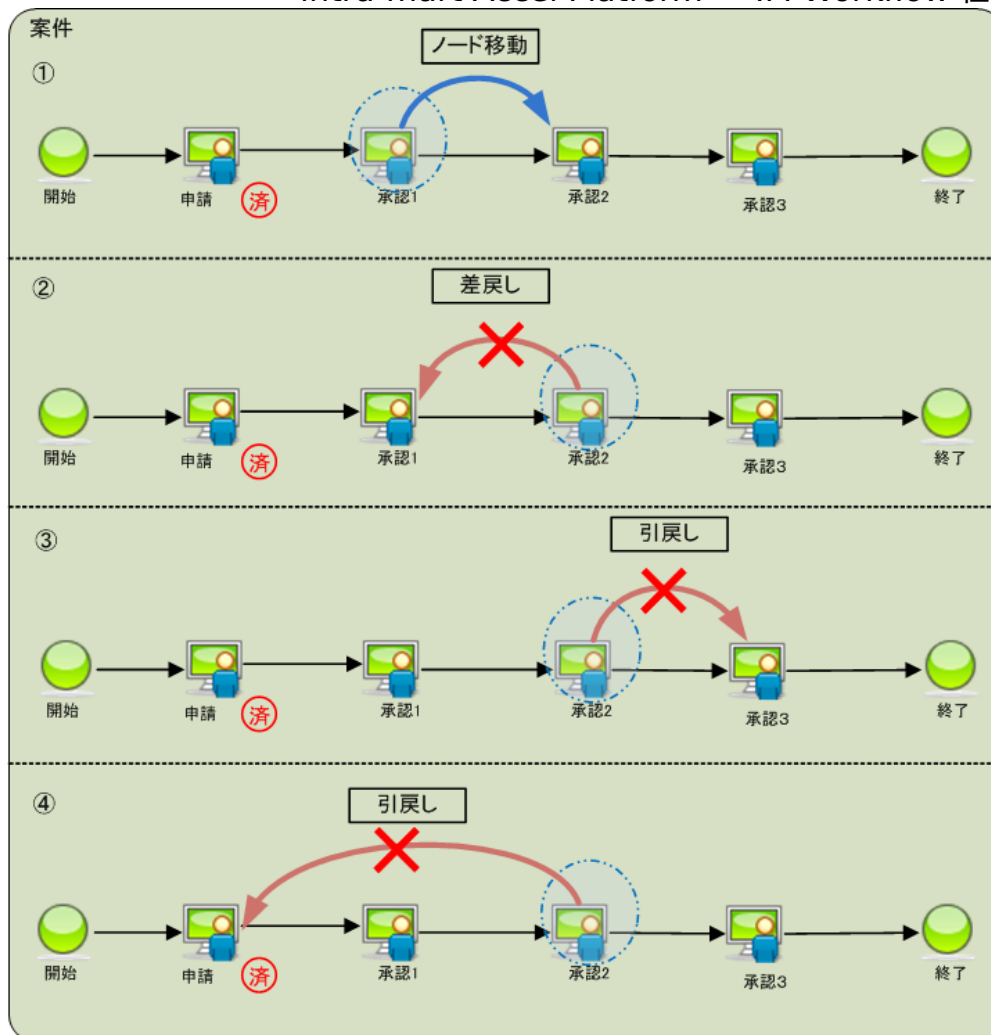
案件操作で後にノード移動した場合



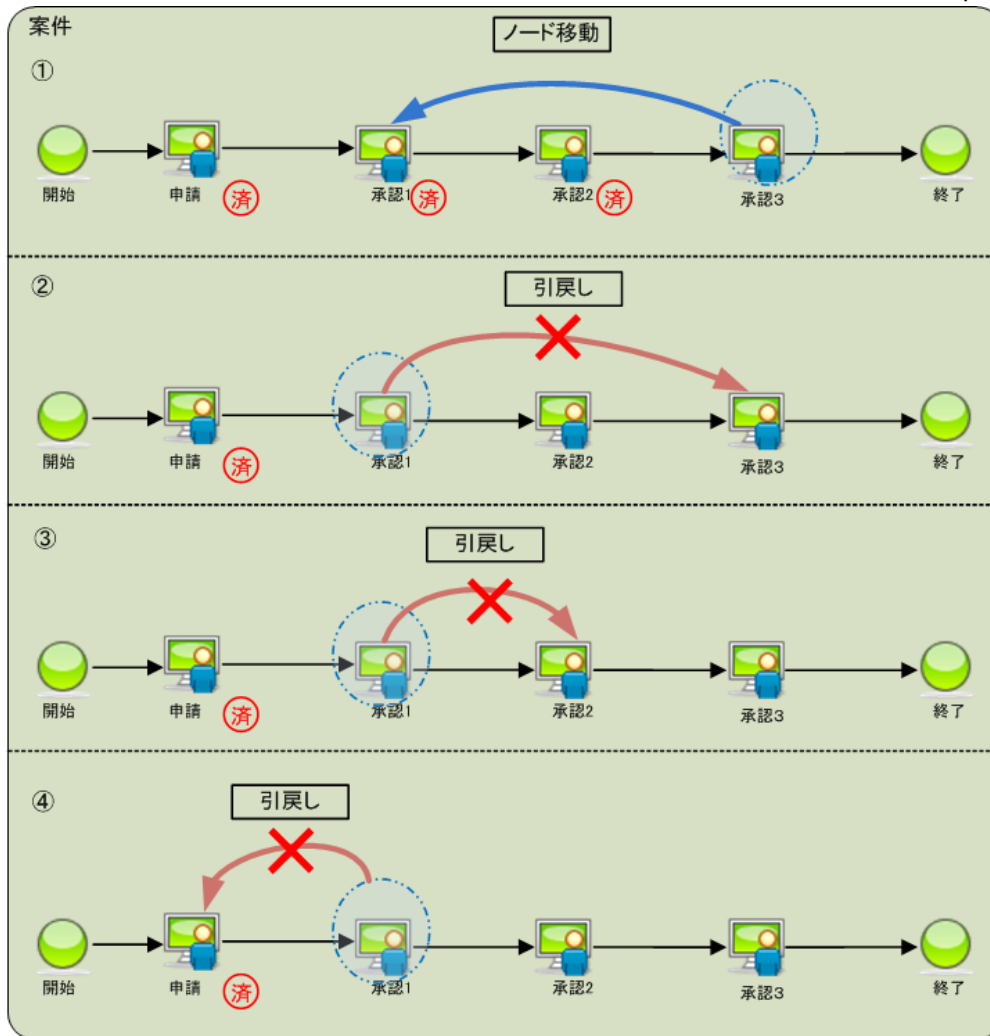
案件操作後の引戻しの処理ルール

- 案件操作後の引戻しはできません。

案件操作で前にノード移動した場合



案件操作で後にノード移動した場合



一括処理・一括確認

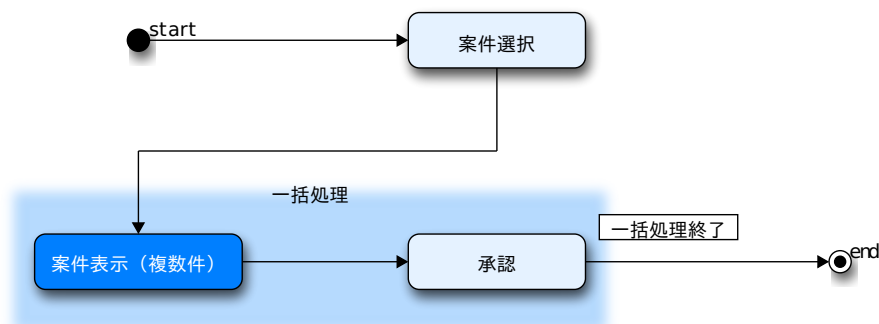
IM-Workflow では案件を一括で処理する「一括処理」、一括で確認を行う「一括確認」機能を用意しています。詳細については下記を参照してください。

一括処理

「一括処理」では処理対象者となっているノードに対して一括で処理ができます。処理したい案件を選択して1つの画面にて一括で処理を行います。

一括処理

- 選択した案件を一括で処理



- 一括処理のできる処理は承認のみです。
- テナント単位設定「一括処理機能・一括確認機能の設定」で機能の使用可否の制御ができます。
また、フロー定義の機能設定「一括処理機能の使用可否」でフロー定義単位、およびノード単位での使用可否の制御ができます。
テナント単位設定は機能設定より優先します。
- 一括処理ができるノードとその状態は以下の通りです。

一括処理ができるノード

ノード	状態
承認ノード	承認待ちであること
動的承認ノード	本人、および代理先による保留中であること

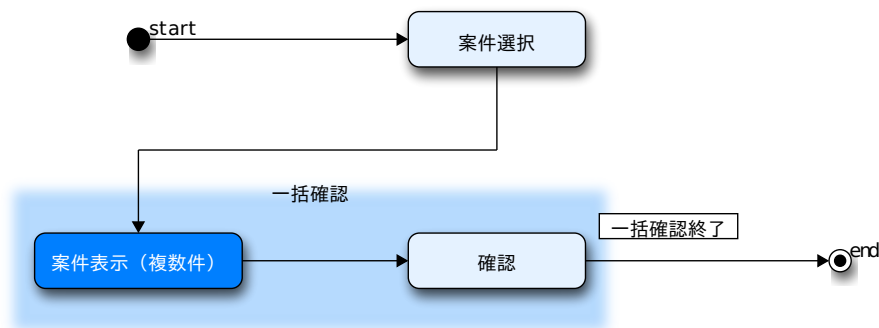
- 一括処理を行う場合、処理対象者を指定する画面は表示されません。
その為、動的承認ノード、縦配置ノード、横配置ノード、確認ノードに処理対象者を設定する事はできません。
- 処理するノードの直後に、縦配置ノード/横配置ノードがあり、展開されていない場合にはエラーが発生します。
- 一括処理の途中でエラーが発生した場合、エラーが発生した案件はロールバックされ、その後の案件は処理されません。
(例えば、一括処理対象の案件が5件あり、3件目でエラーが発生した場合には1～2件目をコミットし、3件目をロールバック、4～5件目は処理しません。)
- 一括処理中に発生したエラーが到達処理内となる場合には、トランザクションの範囲が異なるため、上記の通りの動作とならない可能性があります。

一括確認

「一括確認」では処理対象者となっている確認ノードに対して一括で確認ができます。
処理したい案件を選択して1つの画面にて一括で確認を行います。

一括処理

- 選択した案件を一括で確認



- テナント単位設定「一括処理機能・一括確認機能の設定」で機能の使用可否の制御ができます。
また、フロー定義の機能設定「一括確認機能の使用可否」でフロー定義単位での使用可否の制御ができます。
テナント単位設定は機能設定より優先します。

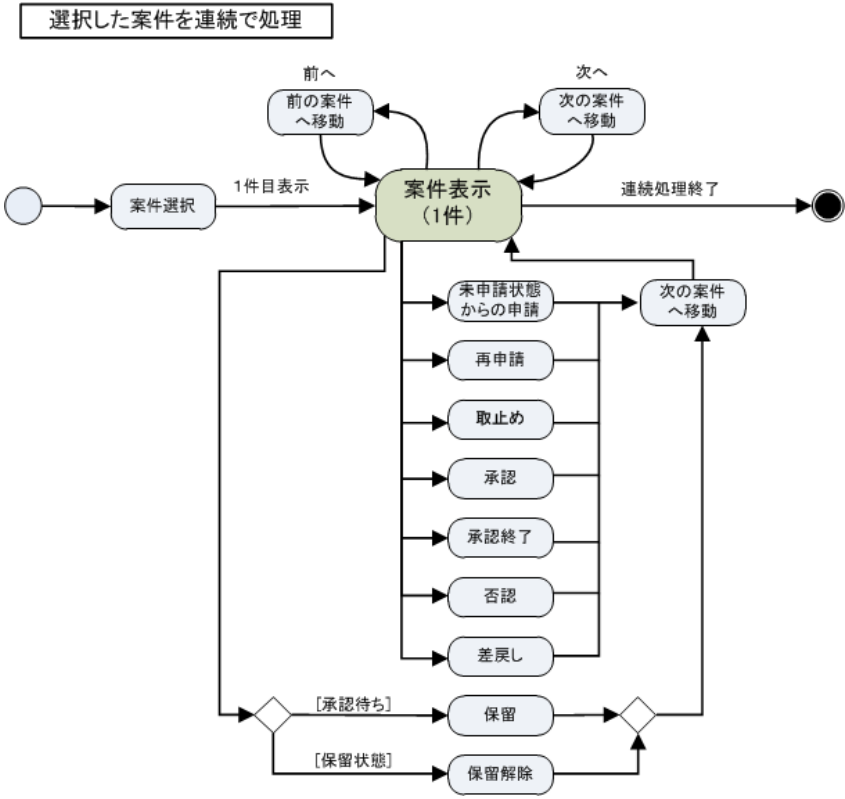
連続処理

IM-Workflow では案件を連続で処理する「連続処理」、連続で確認を行う「連続確認」機能を用意しています。
詳細については下記を参照してください。

連続処理

「連続処理」では処理対象者となっているノードに対して連続で処理ができます。
連続で処理したい案件を選択して、1画面1処理で連続的に処理を行います。

連続処理



- 連続処理のできる処理は以下の通りです。

連続処理のできる処理

処理種別
未申請状態からの申請
再申請
取止め
承認
承認終了
否認
差戻し
保留
保留解除

- 連続処理のできるノードとその状態は以下の通りです。

一括処理のできるノード

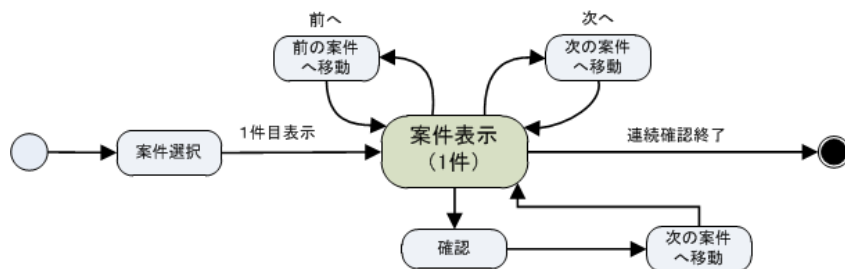
ノード	状態
承認ノード	処理待ちであること
動的承認ノード	

連続確認

「連続確認」では処理対象者となっているノードに対して連続で確認ができます。
連続で確認したい案件を選択して、1画面につき1処理で連続的に確認を行います。

連続確認

選択した案件を連続で確認



- 連続確認では「確認」機能と同様に確認可能状態となっている確認ノードに対して確認ができます。

自動処理

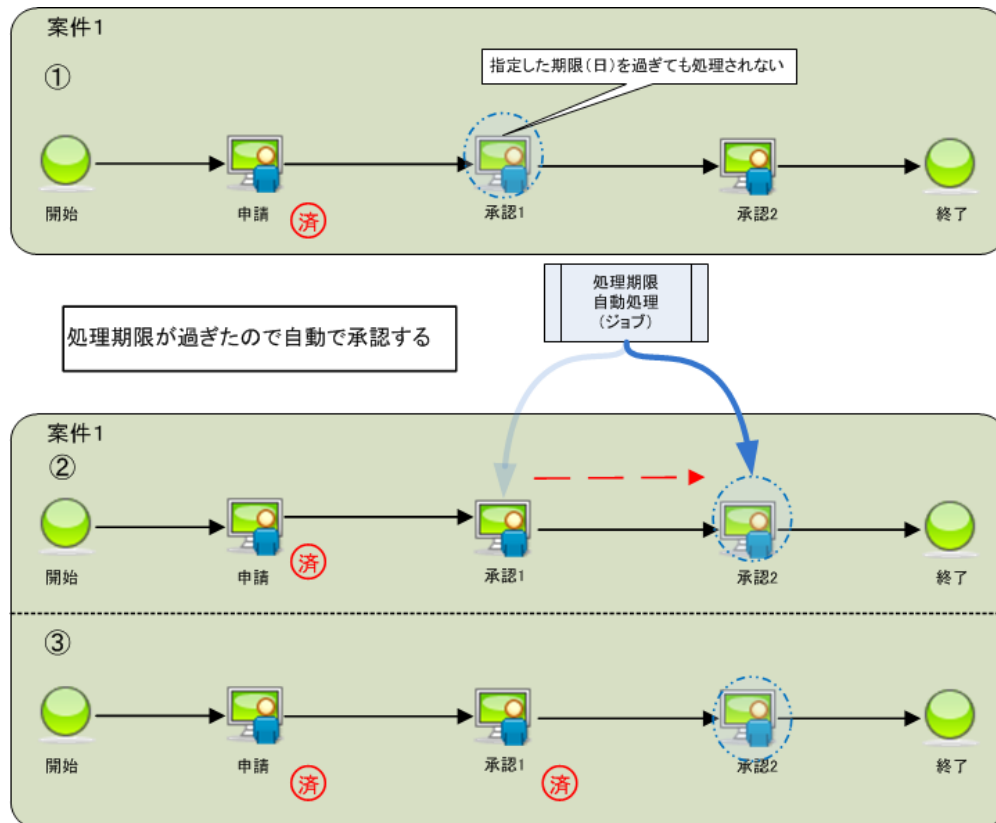
IM-Workflow ではノードの状態がある条件に合致した場合にノードを自動で処理する「自動処理」機能を用意しています。詳細については下記を参照してください。

自動処理機能

処理期限自動処理

案件がノード到達後に指定期間を経過している場合、自動でノードの処理を行います。

処理期限自動処理



- 対象のノードは「承認ノード」、「動的承認ノード」とします。
- ノードの状態が「処理待ち」を対象とし、「保留状態」の場合は対象外とします。

処理期限自動処理では、管理者が自動処理対象のフロー定義に設定した処理情報を元に、ジョブが処理期限の判定と自動処理を行います。処理情報はフロー定義、およびフロー定義上のノードに設定できます。フロー定義とノードの両方に設定がある場合、ノードの設定を優先します。

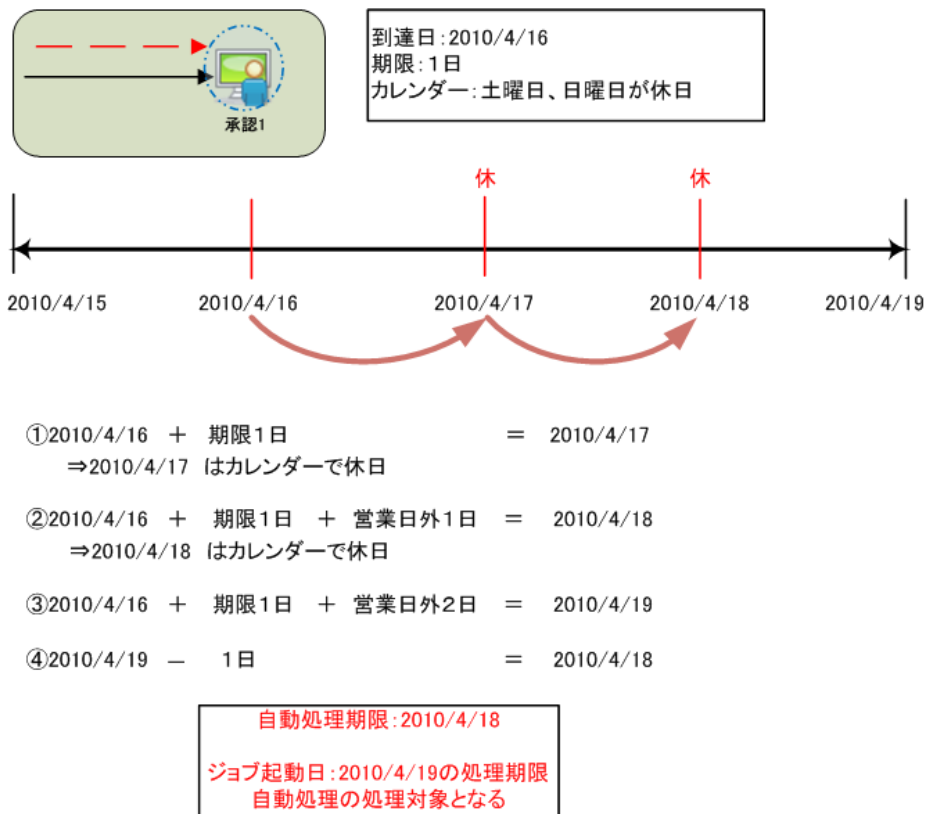
- 期限 (n日)
 - 0 から 99
 - 0 を指定した場合はジョブ起動後で即時に自動処理を行います。
- 営業日計算用のカレンダー
 - intra-mart Accel Platform 上の「テナント管理」の「カレンダーメンテナンス」で作成したカレンダー
 - カレンダーが設定されている場合、カレンダーの「休日」「公休日」を休日として扱い、経過日数のカウント対象外とします。
- 期限経過後の自動処理の内容

- 承認
- 否認
- 指定ノードへの差戻し（フロー定義上のノードにのみ設定できる）

ワークフローは自動処理対象のノードに到達したタイミングで到達日とフロー定義の処理情報を元に「自動処理期限日」の計算を行います。

- 動処理期限日 = ノード到達日 + 期限（n日） + ノード到達日から期限（n日）までの休日の数（カレンダー） - 1

処理期限



処理期限自動処理ジョブは「自動処理期限日」とジョブ処理日の比較を行い以下の場合に自動処理を実行します。

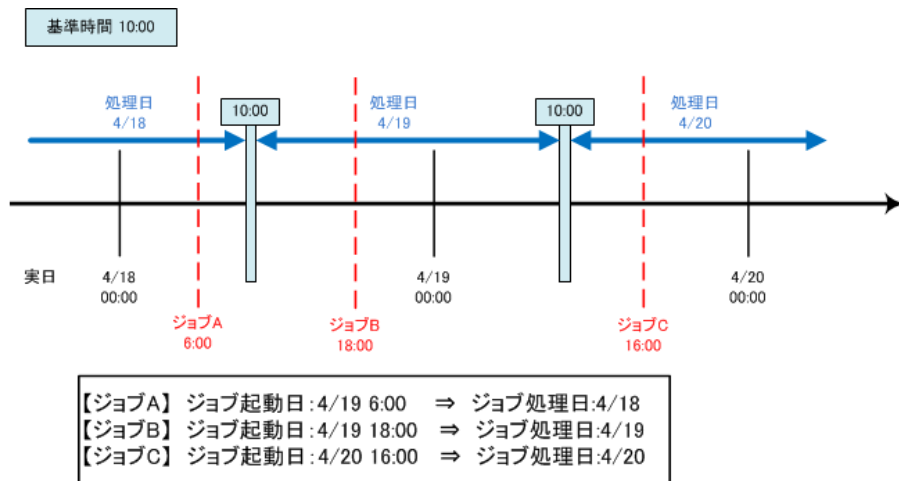
- 「自動処理期限日」 < 「ジョブ処理日」

「ジョブ処理日」はジョブ起動時点で算出します。

- ジョブの起動時間 < 処理期限自動処理ジョブ基準時間 の場合
 - ジョブ処理日 = ジョブ起動日 - 1
- ジョブの起動時間 ≥ 処理期限自動処理ジョブ基準時間 の場合
 - ジョブ処理日 = ジョブ起動日

※「処理期限自動処理ジョブ基準時間」は一日を何時から何時までとするかを判定する時間でテナント単位設定「自動処理・自動催促の設定」から取得します。

ジョブ起動日の判定



到達処理としての自動処理

IM-Workflow では、到達処理として設定が可能な以下の自動承認ユーザプログラムを提供しています。

- 既処理者自動承認
- 既処理者（代理先）自動承認
- 再処理者自動承認
- 再処理者（代理先）自動承認
- 連続自動承認
- 連続（代理先）自動承認

以降、上記のユーザプログラムが設定されているノードを「自動承認対象ノード」と表記します。

自動承認ユーザプログラムは、以下の処理によって自動承認対象ノードに到達した場合のみ実行されます。

- 申請
- 再申請
- 承認

既処理ユーザによる自動承認

申請ノードから自動承認対象ノードの手前までのノードを「既処理ノード」と表記します。

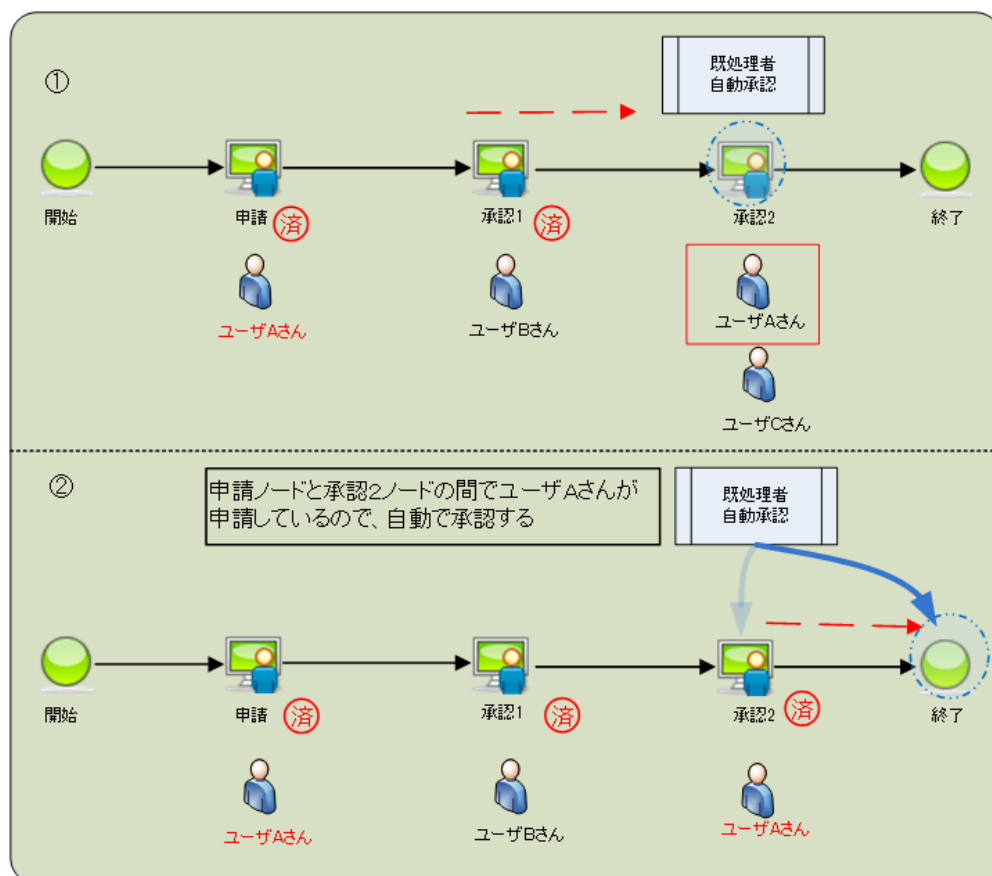
既処理ノードを処理した処理者が自動承認対象ノードの処理対象者として存在する場合に自動で承認します。

同一の既処理ノードが差戻しなどにより複数回処理された場合は、最後に処理した処理者で判定します。

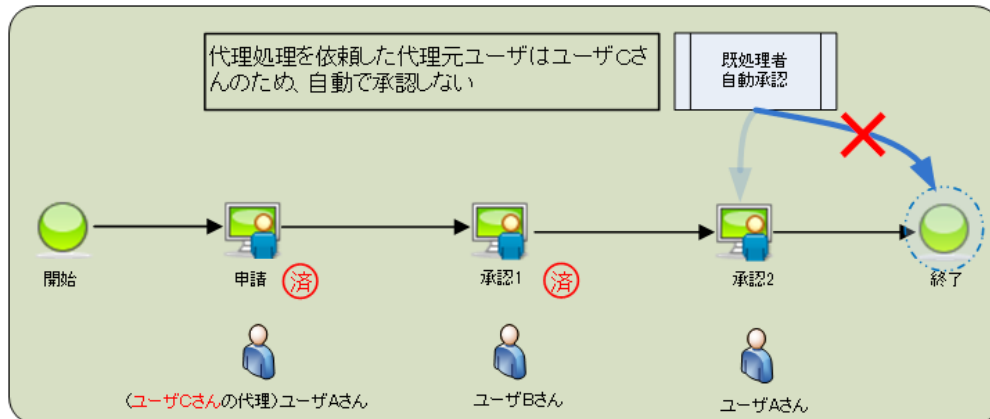
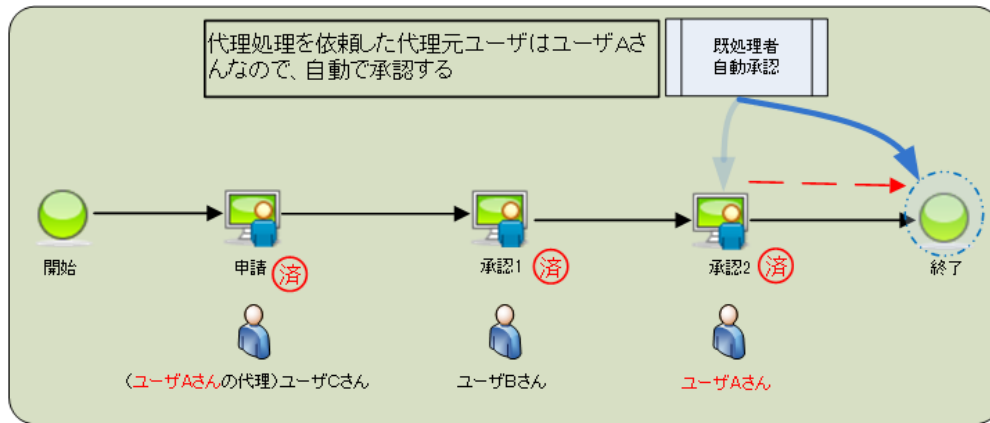
既処理ユーザによる自動承認は2種類あり、次の点で異なります。

- 既処理者自動承認
 - 既処理ノードが代理権限で処理されている場合、「代理処理を依頼した代理元ユーザ」で判定する
- 既処理者（代理先）自動承認
 - 既処理ノードが代理権限で処理されている場合、「実際に処理を実行した代理先ユーザ」で判定する

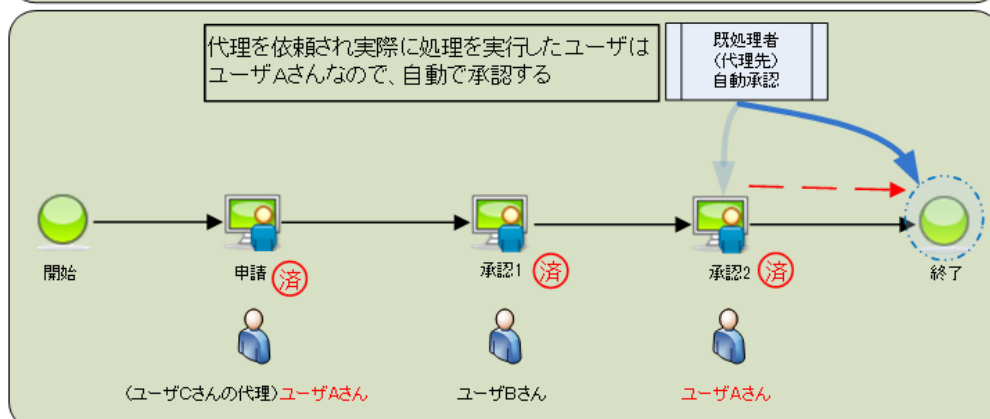
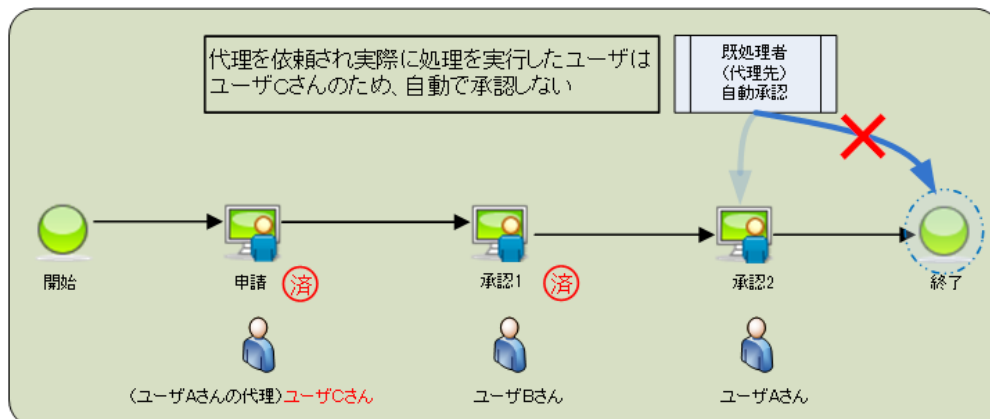
本人権限（共通）



代理権限（既処理者自動承認）



代理権限（既処理者（代理先）自動承認）



再処理ユーザによる自動承認

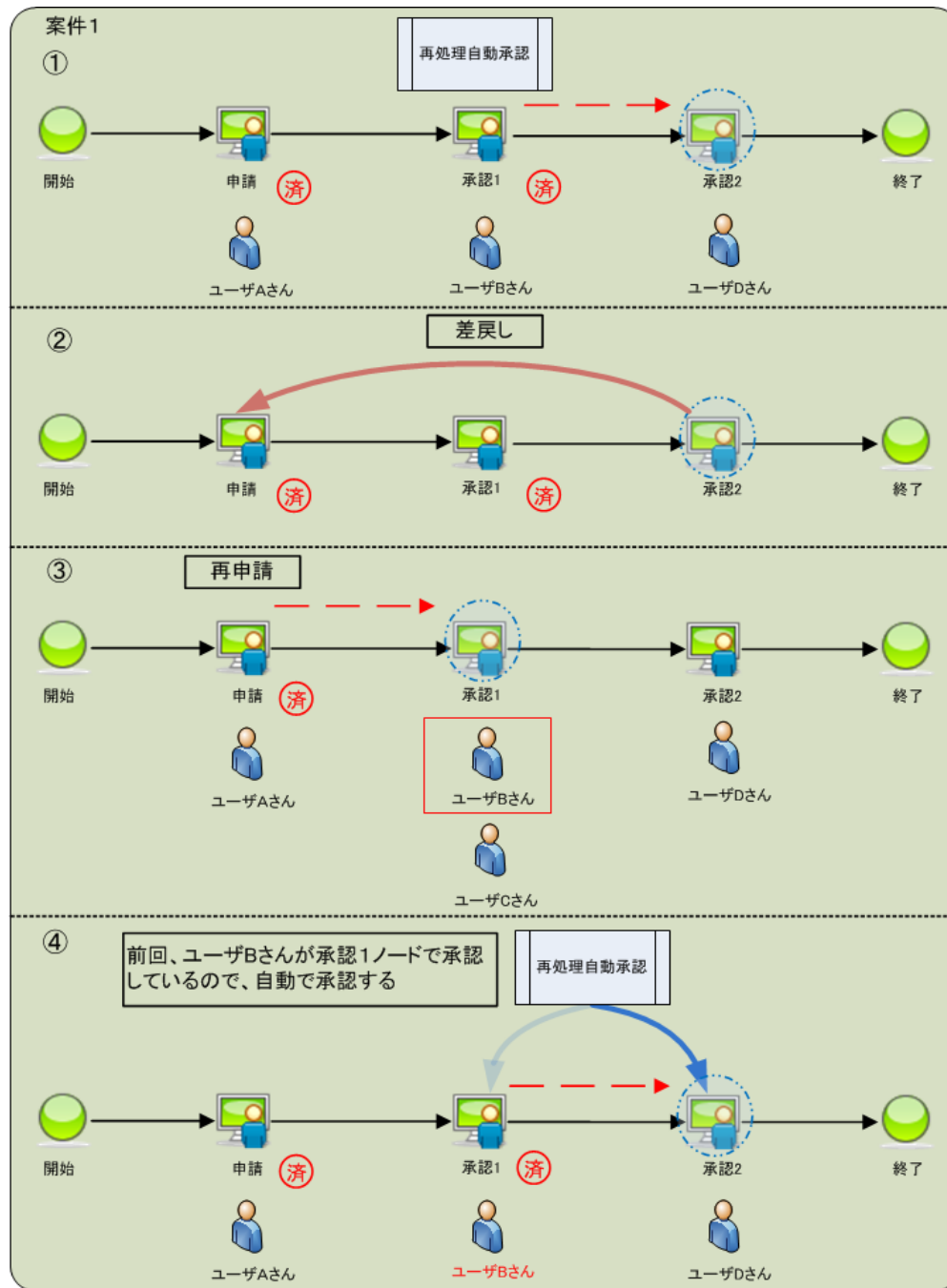
自動承認対象ノードを一度でも承認した処理者が、自動承認対象ノードの処理対象者として存在する場合に自動で承認します。自動承認対象ノードが差戻しなどにより複数回処理された場合は、最後に処理した処理者で判定します。

再処理ユーザによる自動承認は2種類あり、次の点で異なります。

- 再処理者自動承認
 - 自動承認対象ノードが代理権限で承認されている場合、「代理処理を依頼した代理元ユーザ」で判定する
- 再処理者（代理先）自動承認

- 自動承認対象ノードが代理権限で承認されている場合、「実際に処理を実行した代理先ユーザ」で判定する

本人権限（共通）



連続したユーザによる自動承認

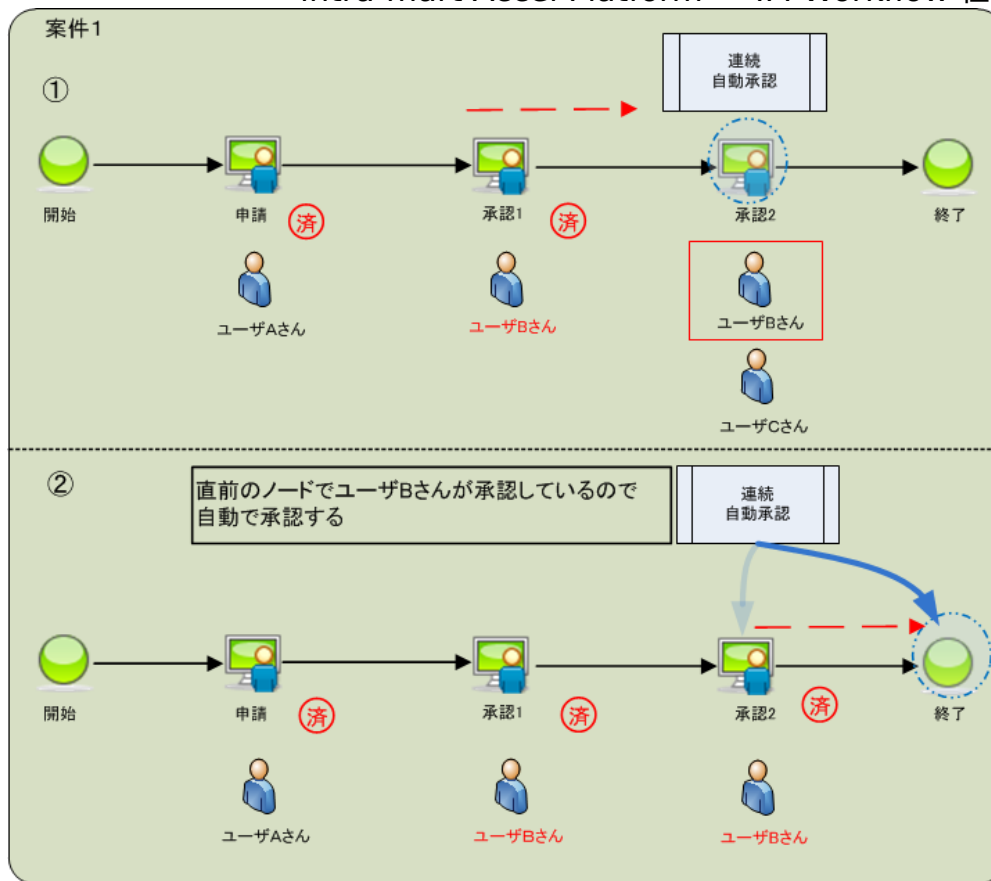
自動承認対象ノードの直前のノードを「既処理ノード」と表記します。

既処理ノードを処理した処理者が、自動承認対象ノードの処理対象者として存在する場合に自動で承認します。

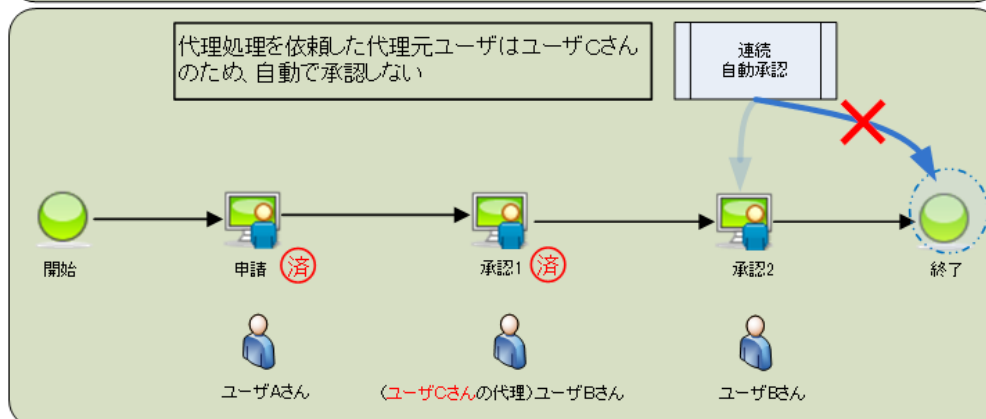
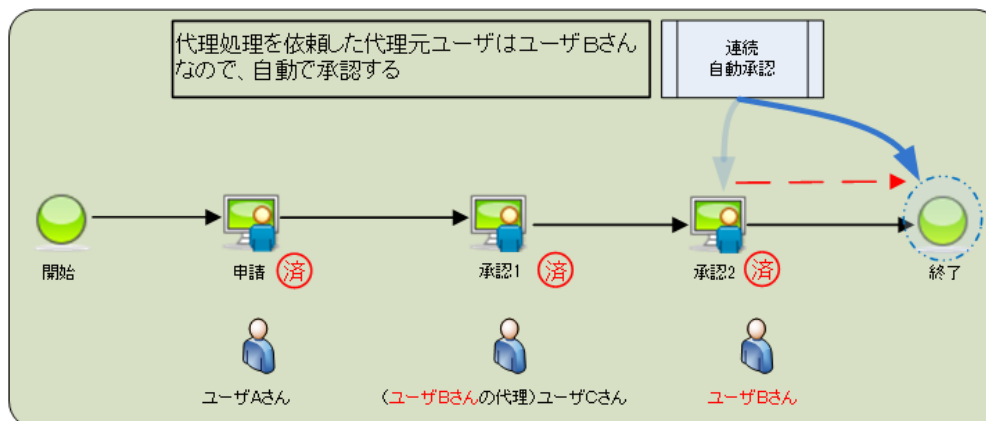
既処理ユーザによる自動承認は2種類あり、次の点で異なります。

- 連続自動承認
 - 既処理ノードが代理権限で処理されている場合、「代理処理を依頼した代理元ユーザ」で判定する
- 連続（代理先）自動承認
 - 既処理ノードが代理権限で処理されている場合、「実際に処理を実行した代理先ユーザ」で判定する

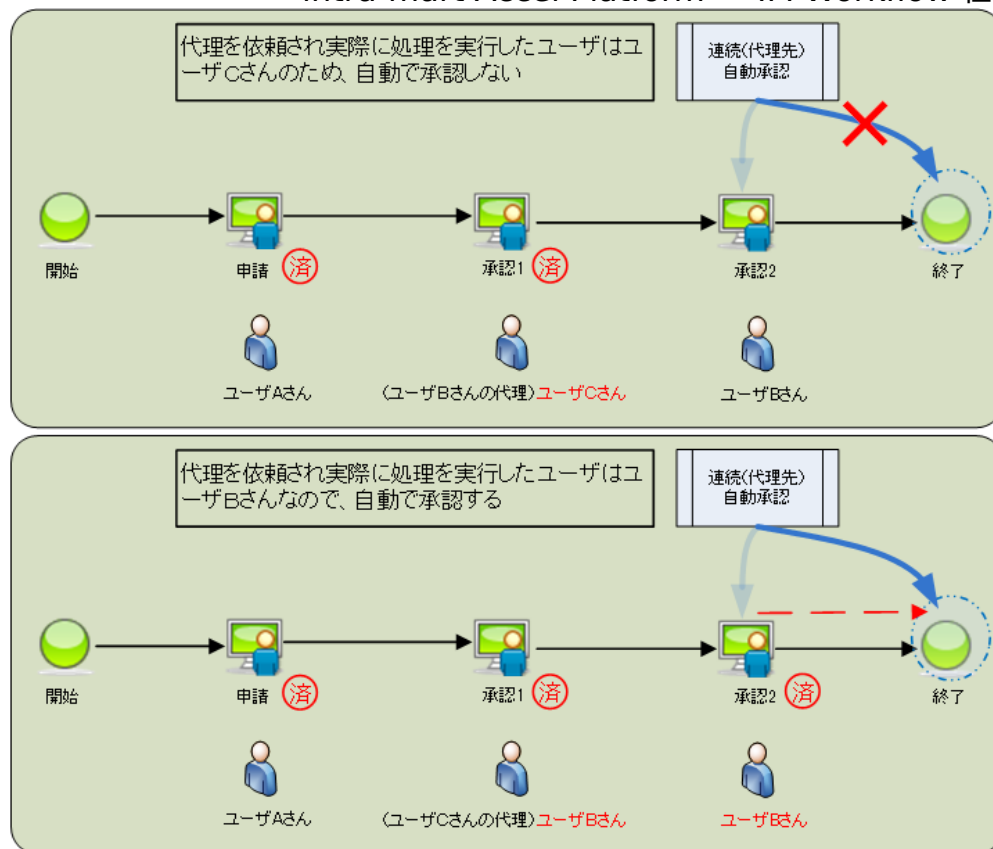
本人権限（共通）



代理権限（連続自動承認）



代理権限（連続（代理先）自動承認）



自動処理を設定できるノード

自動処理を設定できるノード

ノード	備考
承認ノード	
動的承認ノード	
横配置ノード	展開後の承認ノードに設定されます (※)
縦配置ノード	展開後の承認ノードに設定されます (※)

※横配置・縦配置ノードの到達処理に「再処理者自動承認」を設定しても、機能しない場合があります。
再処理者自動承認は、到達処理に設定されたノードのノードIDによる処理履歴により自動承認の判定をします。
しかし横配置・縦配置ノードにより展開された処理ノードは、ノードIDが再展開の毎に新規に付与される為、処理履歴が存在せずに自動承認が実行できません。
縦配置ノードと横配置ノードの再展開を実行しなければ、ノードIDが変わらないため、自動承認されます。

自動処理時にワークフローが設定する担当組織について

自動処理時にワークフローが設定する担当組織について、以下に示します。 ([1]) ([3])

- 処理者の所属組織が1つの場合
 - 所属している組織を担当組織として設定します。 ([2])
- 処理者の所属組織が複数ある場合
 - 所属している組織を「会社コード」、「組織セットコード」、「組織コード」の各項目の昇順でソートし、一番上の組織を担当組織として設定します。 ([2])
- 処理者の所属組織が存在しない場合
 - 担当組織は所属なし(空白)と設定します。 ([2])

[1] 自動処理とは「処理期限自動処理」以外の「既処理者自動承認」、「連続自動承認」、「再処理者自動承認」が対象です。

[2] (1, 2, 3) 設定される担当組織は、申請基準日を基準日として取得します。

[3] 担当組織とは処理対象者が申請や承認の際に「どの組織(立場)で処理をしたのか」を示すための組織です。

自動催促

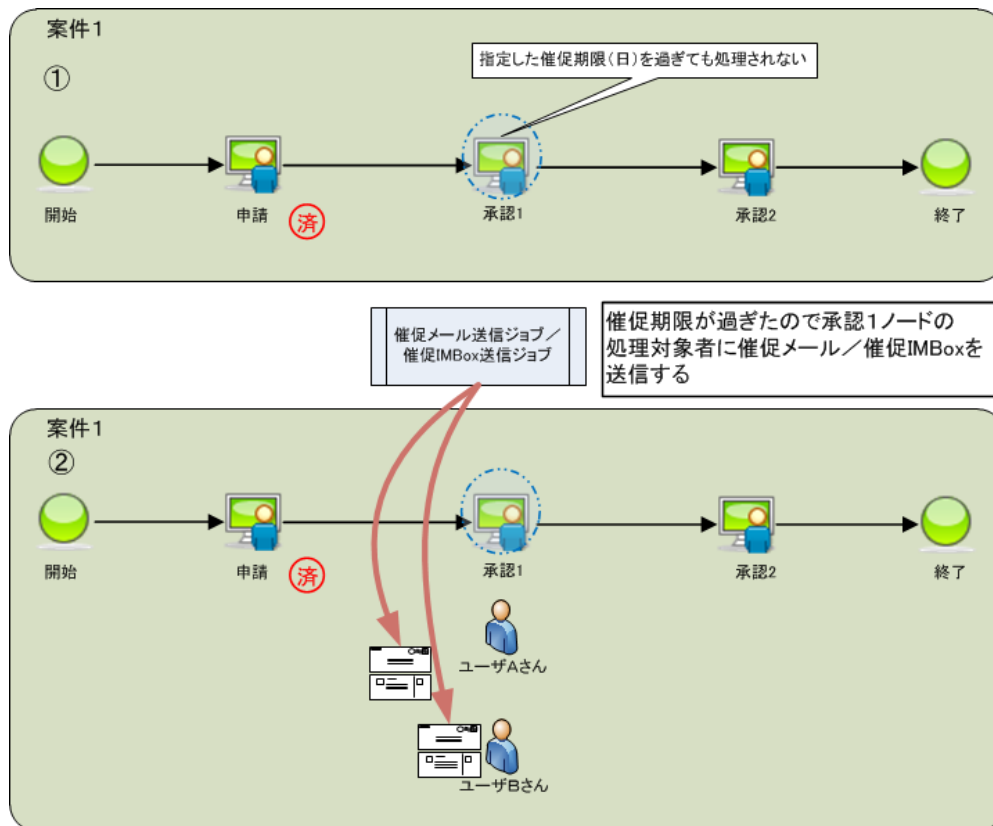
IM-Workflow では催促期限を過ぎてもノードが処理されない場合、ノードの処理対象者に催促メールや催促 IMBox を送信する「自動処理」機能を用意しています。

詳細については下記を参照してください。

催促メール送信ジョブ／催促 IMBox 送信ジョブ

- 自動催促では催促メール送信ジョブまたは催促 IMBox 送信ジョブにより、ノード到達後に催促期限を経過しているノードを検出し、検出したノードの処理対象者に催促メールまたは催促 IMBox を送信します。

催促メール送信ジョブ／催促 IMBox 送信ジョブ



- 対象のノードは「申請ノード」、「承認ノード」、「動的承認ノード」です。
- ノードの状態が「保留状態」の場合も催促メールまたは催促 IMBox の送信対象とします。

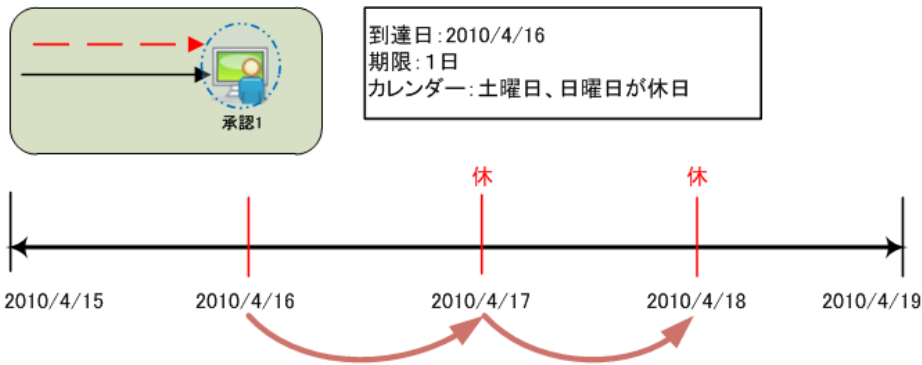
自動催促では管理者が自動処理対象のフロー定義に設定した処理情報を元に、ジョブが催促期限の判定とメールまたは IMBox の送信を行います。処理情報はフロー定義、およびフロー定義上のノードに個別設定できます。フロー定義とノードの両方に設定がある場合、ノードの個別設定を優先します。

- 期限 (n日)
 - 0 から 99
 - 0 を指定した場合はジョブ起動後で即時にメールまたは IMBox を送信します。
- 営業日計算用のカレンダー
 - intra-mart Accel Platform 上の「テナント管理」の「カレンダーメンテナンス」で作成したカレンダー
 - カレンダーが設定されている場合、カレンダーの「休日」「公休日」を休日として扱い、経過日数のカウント対象外とします。

ワークフローは自動処理対象のノードに到達したタイミングで到達日とフロー定義の処理情報を元に「期限日」の計算を行います。

- 催促期限日 = ノード到達日 + 期限 (n日) + ノード到達日 (*) から期限 (n日) までの休日の数 (カレンダー) - 1
* 「保留」、または「保留解除」をした場合はノード到達日が「保留」、「保留解除」した日にリセットされます。

期限日の計算



- ① 2010/4/16 + 期限1日 = 2010/4/17
 ⇒ 2010/4/17 はカレンダーで休日
- ② 2010/4/16 + 期限1日 + 営業日外1日 = 2010/4/18
 ⇒ 2010/4/18 はカレンダーで休日
- ③ 2010/4/16 + 期限1日 + 営業日外2日 = 2010/4/19
- ④ 2010/4/19 - 1日 = 2010/4/18

催促期限: 2010/4/18

ジョブ起動日: 2010/4/19の
 催促メール送信処理／催促IMBox送信処理の処理対象となる

催促メール送信ジョブおよび催促 IMBox 送信ジョブは「催促期限日」とジョブ処理日の比較を行い以下の場合に自動処理を実行します。

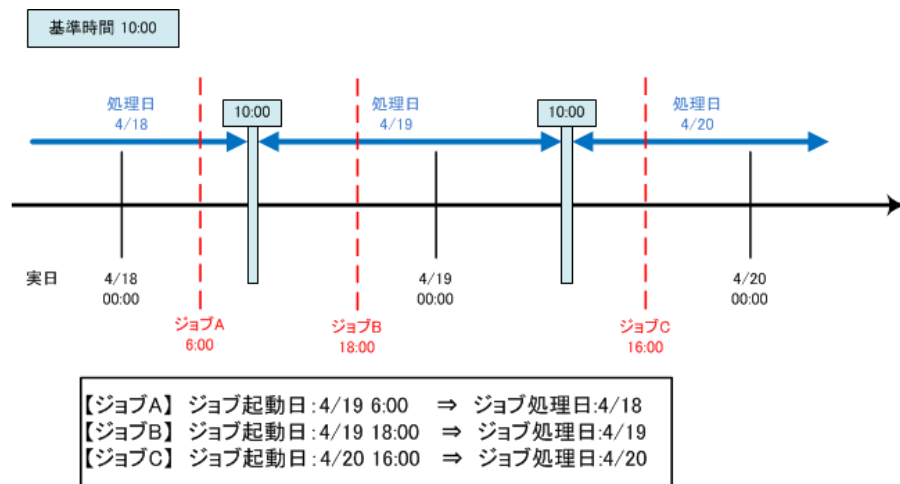
- 「催促期限日」 < 「ジョブ処理日」

「ジョブ処理日」はジョブ起動時点で算出します。

- ジョブの起動時間 < 催促メール/IMBox 送信ジョブ基準時間 の場合
 - ジョブ処理日 = ジョブ起動日 - 1
- ジョブの起動時間 ≥ 催促メール/IMBox 送信ジョブ基準時間 の場合
 - ジョブ処理日 = ジョブ起動日

※「催促メール/IMBox 送信ジョブ基準時間」は一日を何時から何時までとするかを判定する時間で テナント 単位設定「自動処理・自動催促の設定」から取得します。

ジョブ起動日の算出



アーカイブ

IM-Workflow ではワークフローの処理で発生した案件データを定期的に退避する機能を用意しており、これを「アーカイブ」機能と呼びます。詳細については下記を参照してください。

アーカイブ機能

- アーカイブの対象は完了案件です。
- アーカイブ用のテーブル、およびディレクトリにデータを退避します。

詳細は「[アーカイブデータの保存先](#)」を参照してください。

- アーカイブはアーカイブジョブによって実行されます。
- アーカイブを行うと、**処理を行った処理権限者以外** に対して案件を参照（閲覧）できる権限が削除されます。
詳細は「[参照権限](#)」を参照してください。

アーカイブ対象期間の決定ルール

アーカイブ機能ではアーカイブの対象期間をジョブ起動日とアーカイブ期間で制御します。

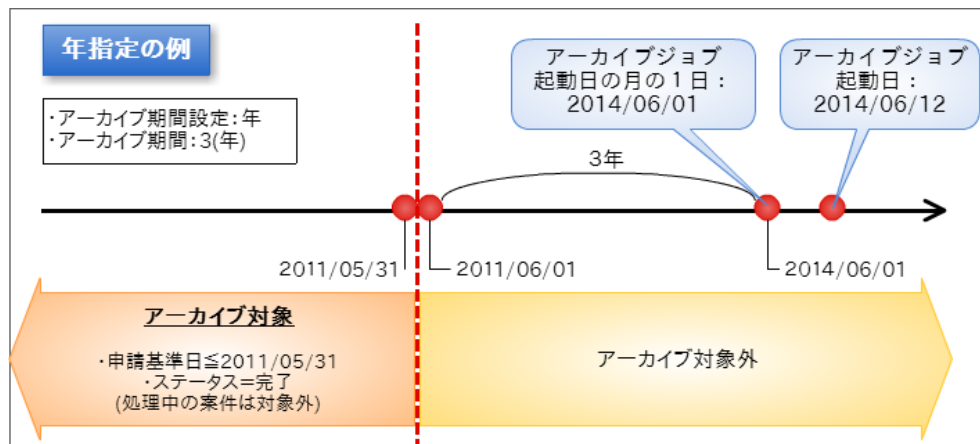
- アーカイブ期間は年、月、年月日のいずれかで、アーカイブの対象期間を指定できます。
 - 年指定、または月指定の場合
 - アーカイブジョブの起動日の月の1日からアーカイブ期間設定で指定した期間（過去に遡って算出した期間）を申請基準日とする完了案件をアーカイブの対象外とします。
（アーカイブ対象の案件は日付まではチェックしません。）
 - 完了案件から「申請基準日 < アーカイブジョブの起動日の月の1日－アーカイブ期間」となる案件を退避します。
 - アーカイブ期間に"0"を指定した場合には、アーカイブジョブの起動日の前月末日以前を申請基準日とするすべての完了案件をアーカイブ対象とします。
 - 年月日指定の場合
 - 完了案件から「申請基準日 < アーカイブ期間で指定した日付」となる案件を退避します。
 - アーカイブ期間で指定した日付がアーカイブジョブの起動日より未来日付となる場合であっても、申請基準日 < アーカイブ期間で指定した日付となる完了案件を対象にアーカイブを行います。
- アーカイブ期間設定の種類、およびアーカイブ期間はテナント単位設定「アーカイブの設定」から取得します。

<アーカイブ例>

1. アーカイブジョブの起動日が「2014年6月12日」となる場合、アーカイブ期間設定によって次の通り動作します。

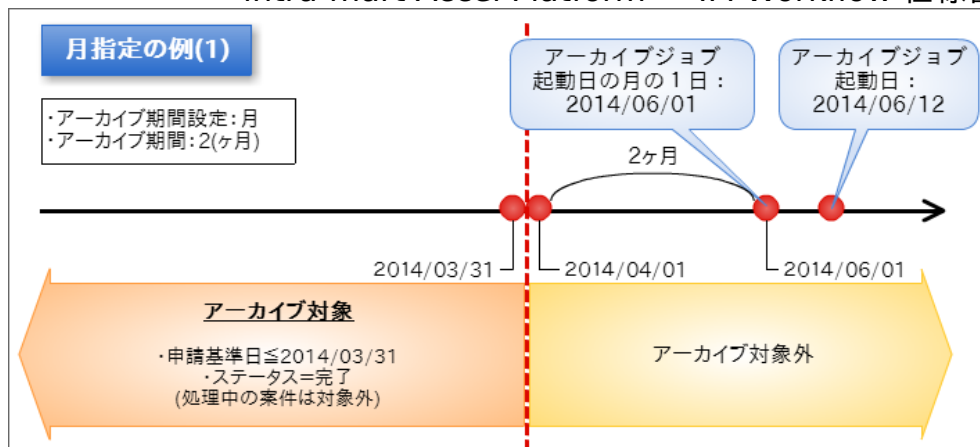
【年指定の場合】

- アーカイブ対象外期間は「2014年6月1日」から遡って算出します。
- アーカイブを「年指定」、「アーカイブ期間：3年」とした場合
 - 申請基準日が2011年6月1日以降となる完了案件はアーカイブ対象外です。
 - 申請基準日が2011年5月31日以前のすべての完了案件は、アーカイブ対象です。



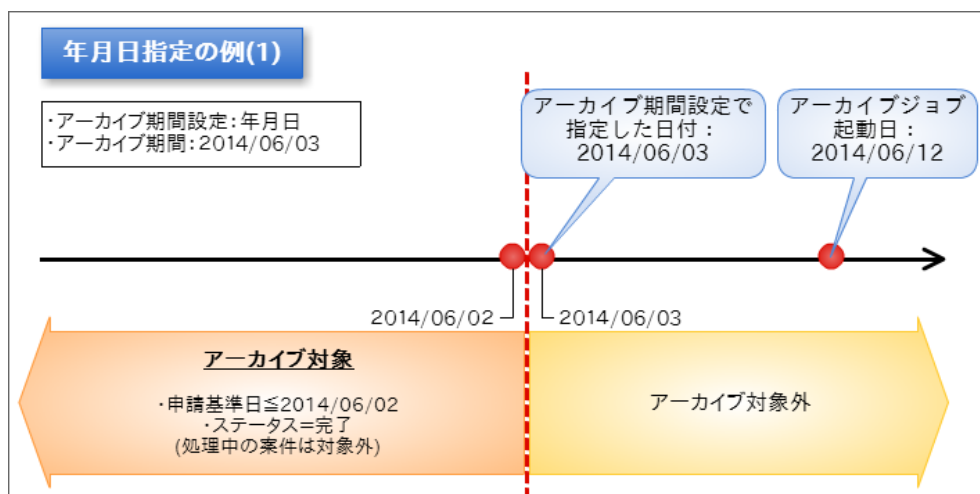
【月指定の場合】

- アーカイブ対象外期間は「2014年6月1日」から遡って算出します。
- アーカイブを「月指定」、「アーカイブ期間：2ヶ月」とした場合
 - 申請基準日が2014年4月1日以降となる完了案件はアーカイブ対象外です。
 - 申請基準日が2014年3月31日以前のすべての完了案件は、アーカイブ対象です。



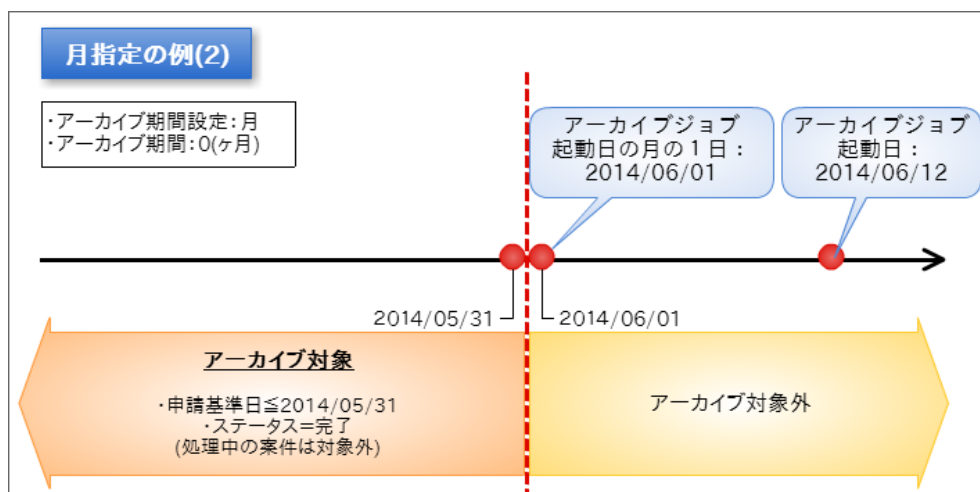
【年月日指定の場合】

- アーカイブ対象外期間は、アーカイブ期間に指定した日付以降の期間です。
- アーカイブを「年月日指定」、「アーカイブ期間: 2014/06/03」とした場合、
 - 申請基準日が2014年6月3日以降となる完了案件はアーカイブ対象外です。
 - 申請基準日が2014年6月2日以前のすべての完了案件は、アーカイブ対象です。



1. アーカイブの月指定で"0"を指定した場合、以下のように動作します。

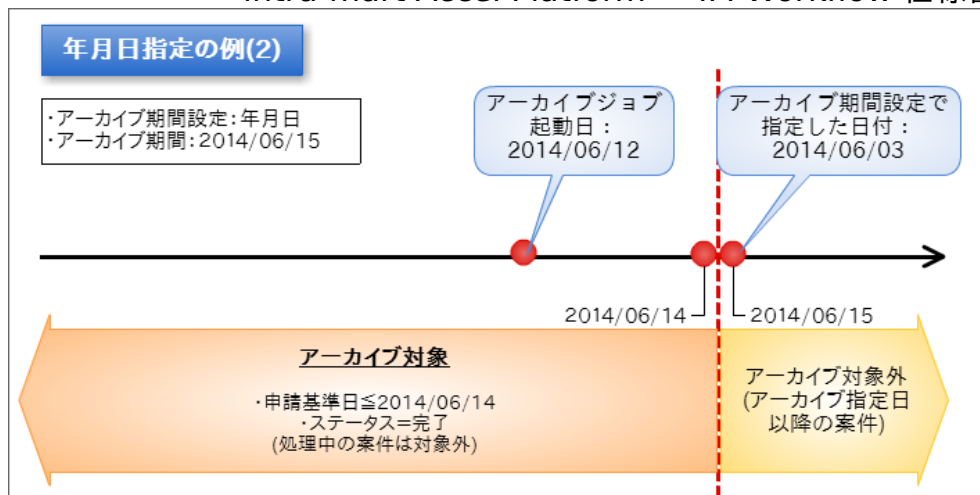
- アーカイブ対象外期間は「2014年6月1日」から遡って算出します。
 - 申請基準日が2014年6月1日以降となる完了案件はアーカイブ対象外です。
 - 申請基準日が2014年5月31日以前のすべての完了案件は、アーカイブ対象です。



- ※年指定で"0"を指定した場合も、年月指定と同様に、アーカイブ指定日 > 申請基準日となる完了案件はすべてアーカイブ対象です。

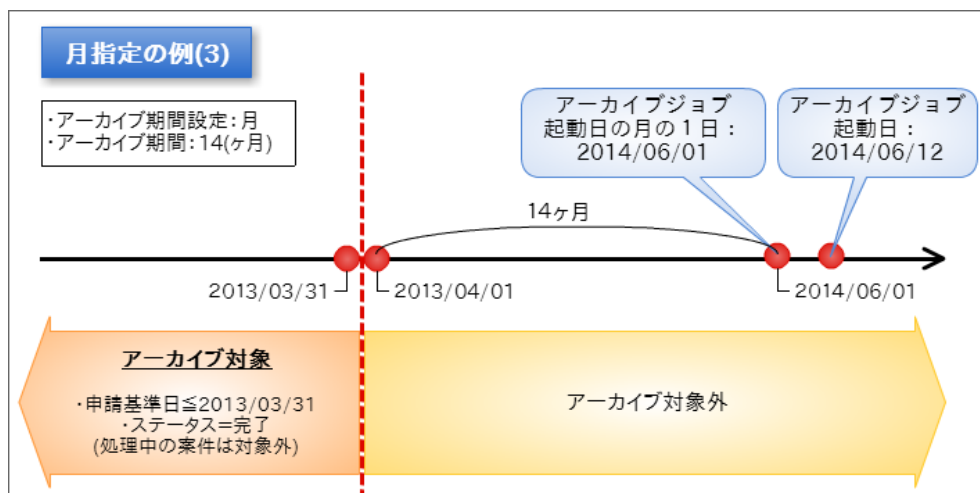
1. アーカイブの年月日指定でアーカイブジョブの起動日よりアーカイブ期間設定で指定した日付が未来日付(2014/06/15)となる場合、次の通り動作します。

- アーカイブ対象外期間は「2014年6月15日」以降の期間です。



1. アーカイブの月指定で、アーカイブ期間に1年（12ヵ月）を超える月数を指定した場合、次の通り動作します。

- アーカイブ対象外期間は「2014年6月1日」から遡って算出します。



アーカイブデータの保存先

アーカイブする案件のファイルはアーカイブディレクトリ、テーブルデータはアーカイブテーブルに保存します。

- アーカイブ対象の案件のファイルは「アーカイブディレクトリ」に保存します。
保存先は「[データ保存の設定](#)」の設定に基づいて決定します。
- アーカイブ対象の案件のテーブルデータは「アーカイブデータ」に保存します。
- アーカイブ対象の案件は申請基準日単位にまとめて保存します。
アーカイブディレクトリに保存するデータは、下記の「ファイルディレクトリ」の通り、申請基準日の単位で同じディレクトリに保存されます。
アーカイブデータとしてテーブルに保存するデータは、下記の「アーカイブテーブル」の通り、申請基準日の年月単位で同じテーブルに保存されます。

アーカイブディレクトリの作成

- 条件
 - 元のテーブル名が【TABLE1】の場合
 - 2015年1月1日に実行、申請基準日【2013年3月15日】の場合
- アーカイブテーブル
 - IMW_A（固定） + 申請基準日の年月（yyyyMM） + テーブル名
 - ⇒ IMW_A201303_TABLE1
- ファイルディレクトリ
 - %PUBLIC_STORAGE_PATH% / im_workflow / data / %テナントID% / アーカイブルートディレクトリ（環境設定） / 申請基準月 / 申請基準日
 - ⇒ %PUBLIC_STORAGE_PATH% / im_workflow / data / %テナントID% / %archive-file-dir% / 201303 / 15 / {トランザクションファイルデータ}

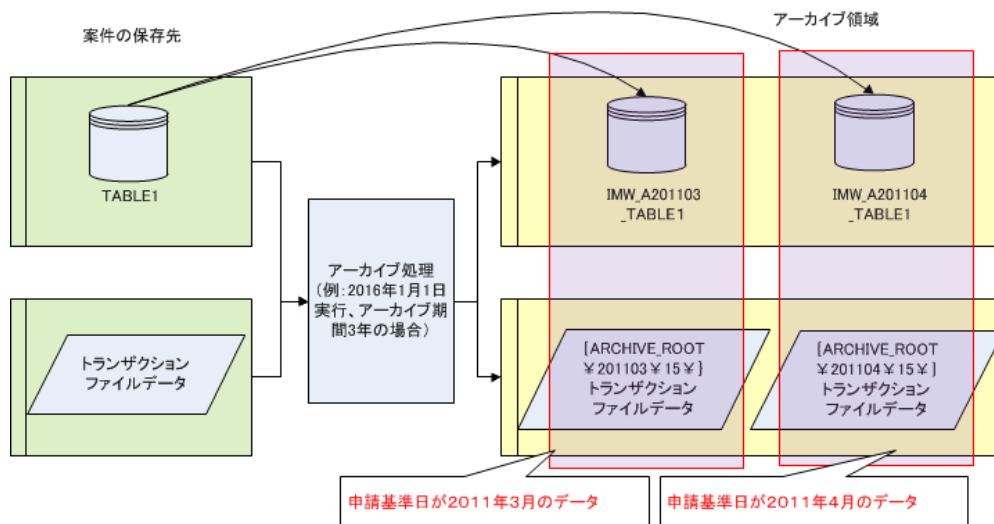


コラム

パス中の %archive-file-dir% は、ワークフローパラメータの設定値です。
詳細は「[データ保存の設定](#)」を参照してください。

アーカイブデータの保存先

申請基準日単位にまとめてアーカイブ



リスナー

アーカイブジョブは案件の退避中に以下のリスナーを呼び出します。
ワークフローを利用するユーザはリスナーを拡張して、アーカイブ処理に独自の処理を追加できます。

リスナー一覧

機能	リスナー名	説明
案件退避	案件退避リスナー	案件がアーカイブされた場合に呼び出されるリスナーです

- リスナーは1案件毎に呼び出されます。
- リスナーのトランザクションはアーカイブジョブと同じです。

通常、これらのリスナーはコンテンツ毎に設定を行います。
テナントで共通のリスナーを設定したい場合は、「[5.1.2.15 リスナーの設定](#)」を参照ください。

標準案件退避リスナー

初期状態では、テナントで共通の設定として、以下のリスナーが設定されています。

リスナー	param-name	param-value
案件退避リスナーの種類	archive-proc-listener-type	Java
案件退避リスナーのパス	archive-proc-listener-path	jp.co.intra_mart.system.workflow.listener.impl. WorkflowMatterArchiveStandardListener

標準案件退避リスナーでは、案件の処理権限者に参照可能な権限を付与しています。

参照権限

過去案件（アーカイブされた案件）の参照権限は、完了案件までの参照権限はすべて無効となるため、以下の2種類の方法で設定する必要があります。

- アーカイブの際に、案件退避リスナーによって設定する
- アーカイブ後の過去案件に対して、MatterArchiveManager API を利用して設定する

案件退避リスナーについては、製品標準として、該当の案件の処理権限者を参照者として設定するリスナー（前出の「[3.17.5 標準案件退避リスナー](#)」）を提供しています。

製品標準の案件退避リスナーのみを利用した場合には、参照権限は以下の表の通りに変更されます。
確認対象者に設定されていた場合、確認権限はすべて削除されるため、改めて過去案件に対する参照権限を付与しないと過去案件を参照できません。

リスナー一覧

接続元	接続先	
	完了案件	終了
処理を行った処理権限者	✓ [1]	✓ [4]

接続元	接続先	
	完了案件	終了
上記の処理権限者の代理先	✓ [1]	✗
案件操作権限者	✓ [2]	✗
確認対象者	✓ [3]	✗

[1] (1, 2) . . . 処理済一覧（完了案件）で案件を表示できる

[2] . . . 参照一覧（完了案件）で案件を表示できる

[3] . . . 確認一覧で案件を表示できる

[4] . . . 過去案件一覧で案件を表示できる

案件操作権限者や確認対象者に過去案件の参照権限を付与するなど、参照権限を製品標準状態から変更したい場合には、上記のリスナーかAPIの何れか、または両方を利用して設定してください。

アラート

IM-Workflow にはワークフローの状態を確認して条件に合致した場合にメッセージを通知する機能があり、これを「アラート」機能と呼びます。詳細については下記を参照してください。

アラート機能

IM-Workflow ではアラート機能として以下に示す動作仕様を定めています。
後述する標準提供のアラート検出プログラムも以下に従って実装されています。
また、動作仕様に従う形でアラート機能を追加実装することもできます。

- 「アラート検出プログラム」はワークフローの状態を確認できます。
確認の結果、検出プログラムが定めた条件に合致する場合はアラート情報を通知します。
- アラート検出プログラムが通知したアラート情報は「アラート一覧画面」にて参照できます。
ただし、アラート一覧画面を使用できるのはワークフローシステム管理者のみです。
- アラート情報には以下の要素があります。

アラート情報

項目名	キー	必須	
アラート情報ID	キー	TRUE	システムにて採番 アラート情報を一意に指し示します
アラート種類	—	TRUE	アラートの検出対象を識別するID 通常は1つのアラート検出プログラムを指示します
検出日時	—	TRUE	アラートを検出した日時
アラートレベル	—	TRUE	アラートレベルを表す
アラートメッセージ	—	FALSE	アラート画面に表示するメッセージ
リンク使用可否	—	FALSE	アラートメッセージをリンク表示するかどうかのフラグ
URL	—	FALSE	アラートメッセージをリンク表示した際の遷移先URL

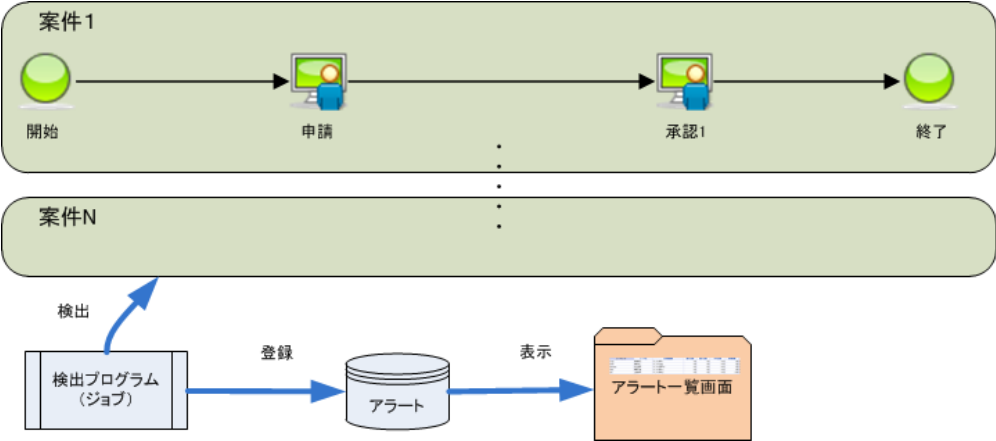
- アラートの検出対象を一意に示すIDを「アラート種類」と呼びます。
通常は1つの検出プログラムは1つの検出対象のチェックを行いますので、アラート種類はアラート検出プログラムを一意に示すIDとしても使用します。
- アラート機能で通知するメッセージを「アラートメッセージ」と呼びます。
アラートメッセージは任意のページへのリンクとすることもできます。
また、メッセージの表示言語はワークフローシステム管理者に設定されているロケールで切り替わります。
- アラート情報にはエラーレベルを設定できます。
これを「アラートレベル」と呼びます。
アラート検出プログラム側で以下の値のうち何れかを設定します。

アラートレベル

条件	説明
INFO	情報レベル
WARN	警告レベル
ERROR	エラーレベル

- アラート検出プログラムとアラート画面一覧は「アラートテーブル」を介してアラート情報を共有します。

アラート検出プログラムとアラート画面



標準提供のアラート検出プログラム

IM-Workflow の標準機能として以下のアラート検出プログラムをジョブ形式で提供します。

標準提供のアラート検出プログラム		
ジョブ名（アラート種類）	アラートレベル	アラートメッセージ（日本語）
処理対象者無し検出ジョブ	ERROR	処理対象者が存在しません。
処理停止検出（分岐開始）ジョブ	ERROR	分岐開始ノードで停止しています。
処理停止検出（分岐終了）ジョブ	ERROR	分岐終了ノードで停止しています。
処理中案件検出（経過日時指定）ジョブ	WARN	申請後N日とM時間が経過しています。
処理中ノード検出（経過日時指定）ジョブ	WARN	ノード到達後N日とM時間が経過しています。

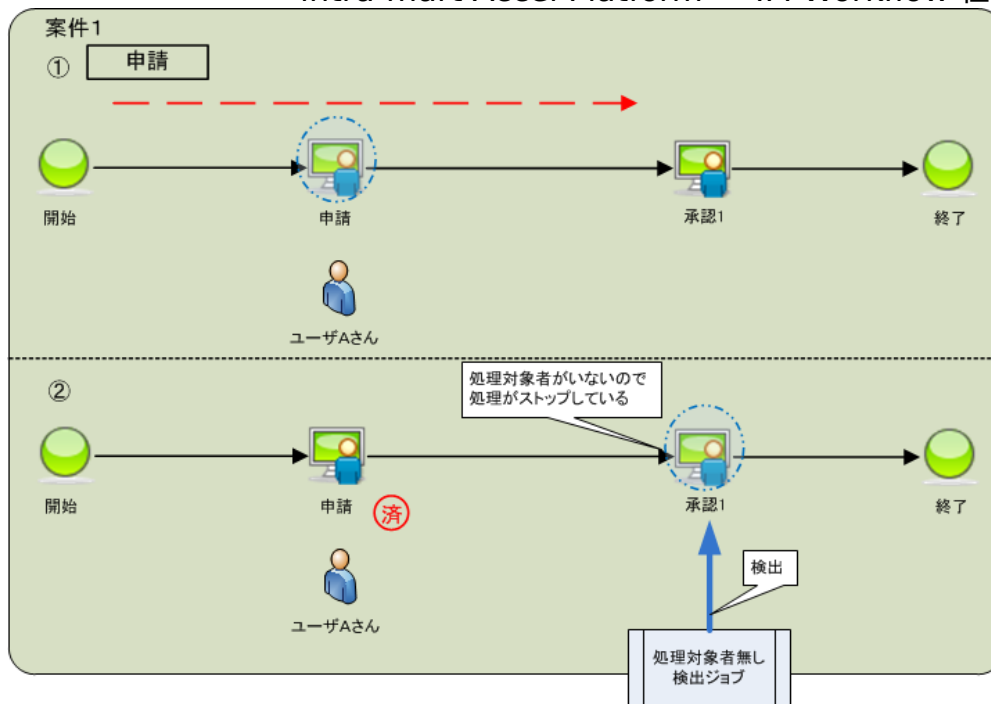
- ジョブが検出対象とするアラート種類のレコードがアラートテーブルに存在する場合、レコードを削除してアラートの登録を行います。

各ジョブの詳細については下記を参照してください。

処理対象者無し検出ジョブ

処理対象者が存在しないノードを検出してアラートを通知します。

検出処理

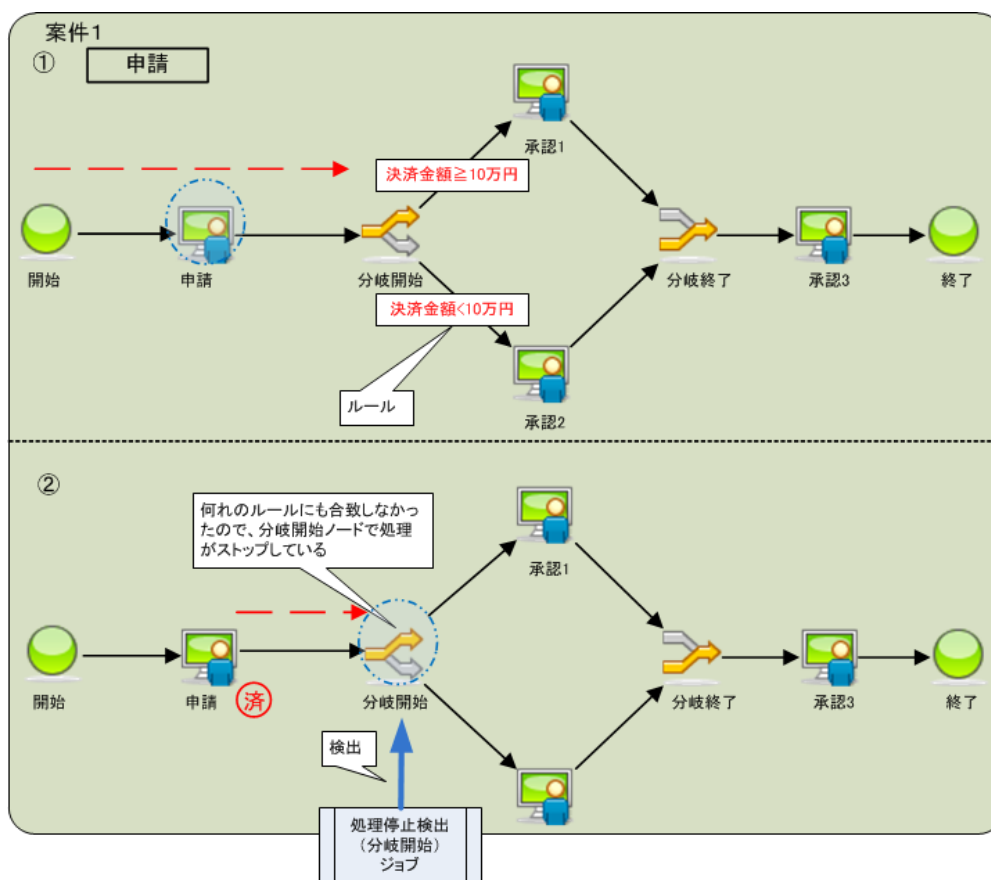


- 検出対象のノードは「申請ノード」、「承認ノード」、「動的承認ノード」です。
- 案件に検出対象のノードが複数あった場合は、それぞれのノード毎にアラートメッセージを通知する。

処理停止検出（分岐開始）ジョブ

分岐開始ノードで処理が停止しているノードを検出してアラートを通知します。

検出処理

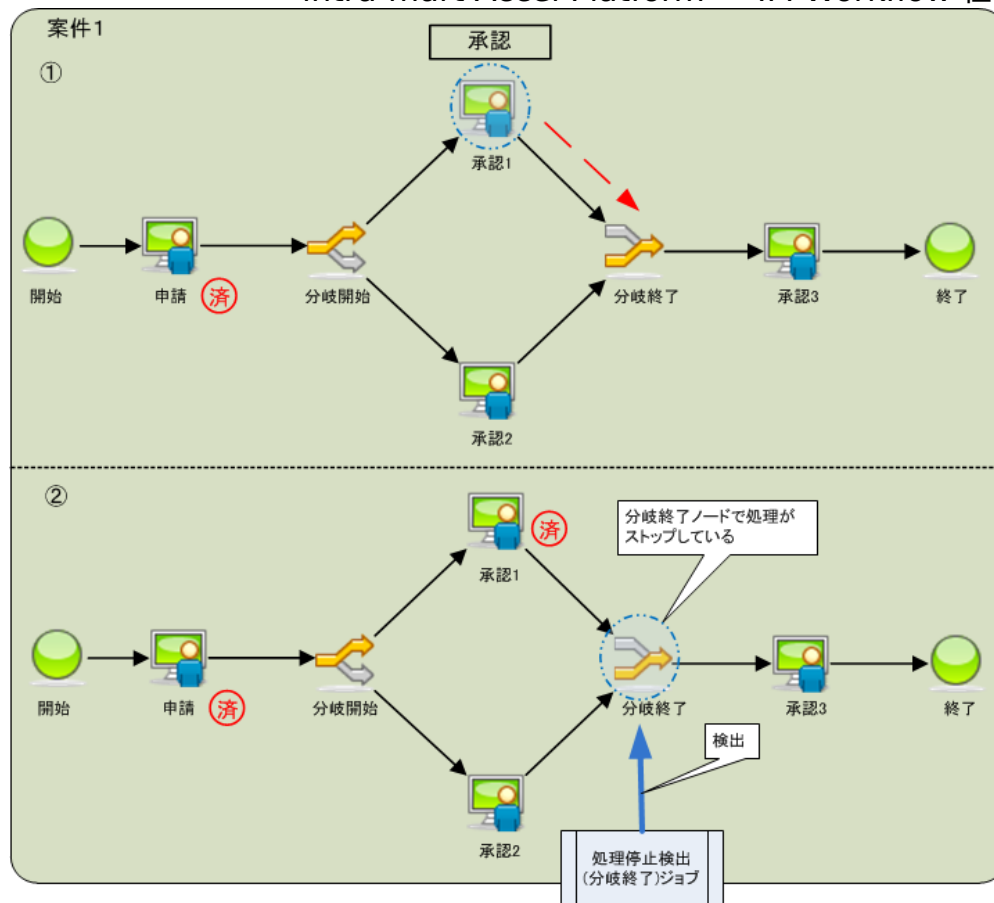


- 検出対象のノードは「分岐開始ノード」です。
- 案件に検出対象のノードが複数あった場合は、それぞれのノード毎にアラートメッセージを通知します。

処理停止検出（分岐終了）ジョブ

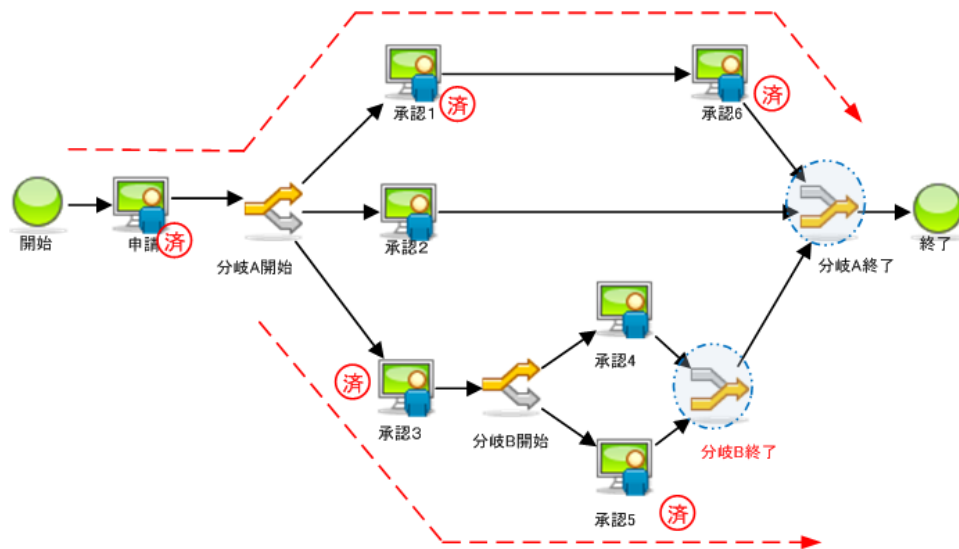
分岐終了ノードで処理が停止しているノードを検出してアラートを通知します。

検出処理



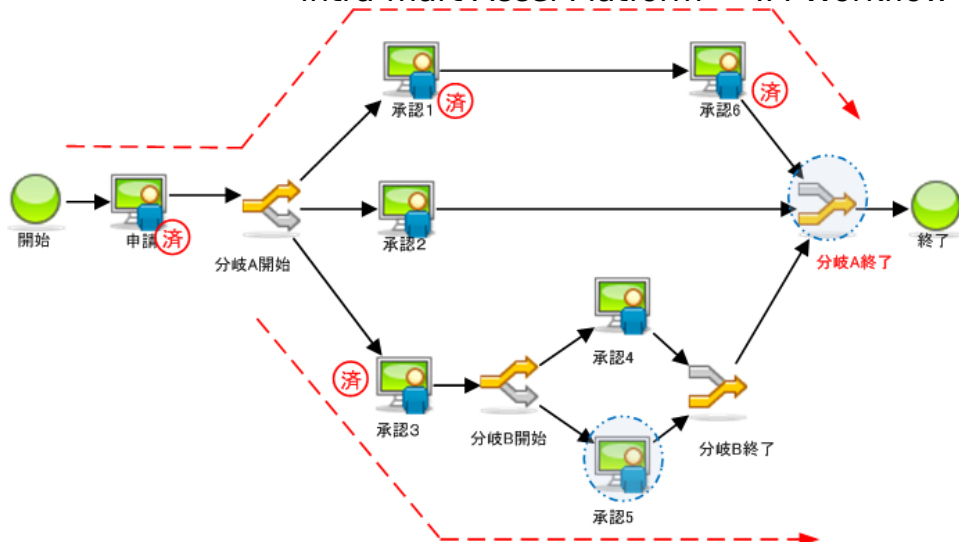
- 検出対象のノードは「分岐終了ノード」です。
- 案件に検出対象のノードが複数あった場合は、それぞれのノード毎にアラートメッセージを通知します。
- ある分岐終了ノードが属する分岐内のルートのうち、処理が通過したルート上の全ノードが処理済みで、かつ分岐終了ノードに処理がある場合、その分岐終了ノードは処理停止であると判断します。

停止ノードの判定例 1



1. 分岐A終了
⇒分岐内に処理済みノードがあり、かつ自ノードに処理があるが分岐B終了で処理が停止しているので、分岐A終了自体は処理が停止していないと判断
2. 分岐B終了
⇒分岐内に処理済みノードがあり、かつ自ノードに処理があるので処理が停止していると判断

停止ノードの判定例 2

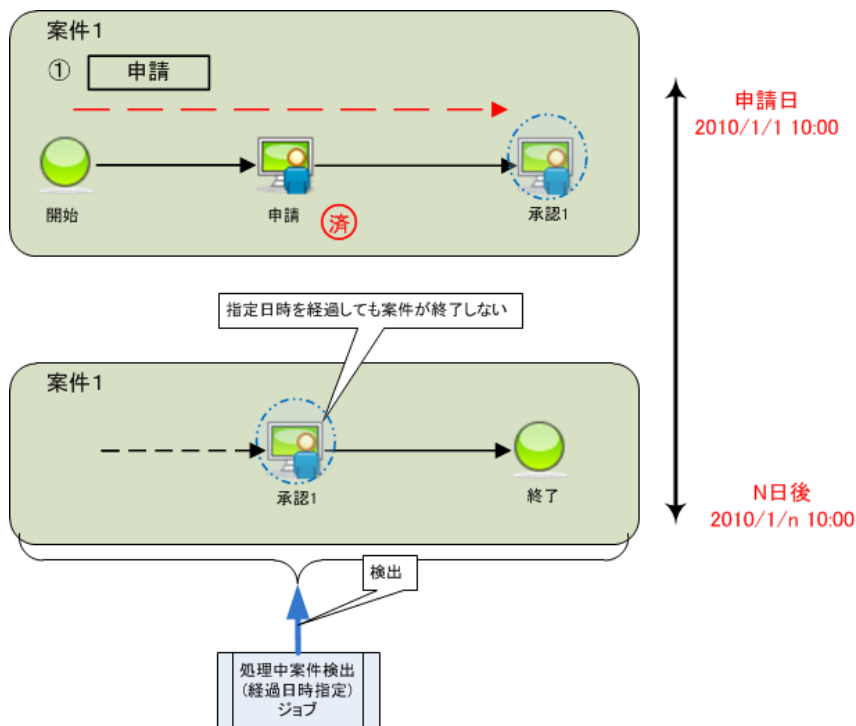


1. 分岐A終了
⇒分岐内に未処理のノード(承認5)があるので、処理が停止
していないと判断

処理中案件検出（経過日時指定）ジョブ

案件が開始されてから指定日時を経過しても完了していない案件を検出してアラートを通知します。

検出処理



- 経過判定は以下の手順で行います。

経過日時 = システム日付 - (処理中案件経過日 × 24 + 処理中案件経過時間)

案件の申請日時 > 経過日時 = 期限内

案件の申請日時 ≤ 経過日時 = 指定日時を経過している

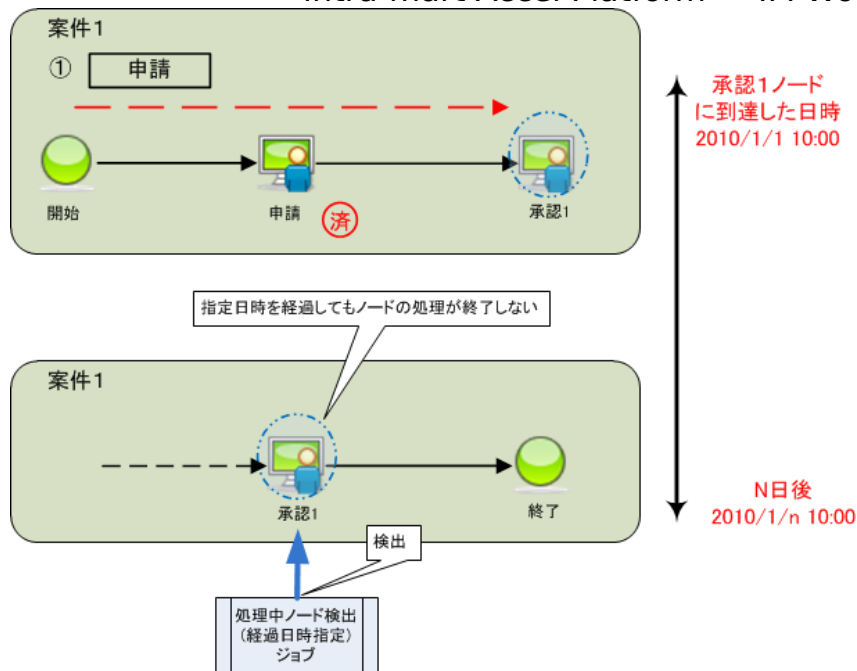
※経過日時の計算は営業日を考慮しません。

※案件処理中経過日、案件処理中経過時間はテナント単位設定「アラートの設定-処理中案件検出（経過日時指定）ジョブ設定」から取得します。

処理中ノード検出（経過日時指定）ジョブ

ノードに到達してから指定日時を経過しても処理されないノードを検出してアラートを通知します。

検出処理



- 経過判定は以下の手順で行います。

超過日時 = システム日付 - (処理中ノード経過日 × 24 + 処理中ノード経過時間)

案件の申請日時 > 超過日時 = 期限内

案件の申請日時 ≤ 超過日時 = 指定日時を超過している

※経過日時の計算は営業日を考慮しません。

※処理中ノード経過日、処理中ノード経過時間はテナント単位設定「アラートの設定-処理中ノード検出（経過日時指定）ジョブ設定」から取得します。

モニタリング

IM-Workflow には完了した案件を集計して、案件の処理時間や処理結果を表示する「モニタリング」機能があります。詳細については下記を参照してください。

モニタリング機能

- モニタリング機能には「案件処理概要」と「フロー別利用状況」があります。
- 「案件処理概要」ではワークフロー上の全案件の完了状態と処理時間を参照できます。

案件処理概要モニタリング情報

項目	属性名
完了状態	案件を完了した際の処理種別 承認 承認終了 取止め 否認
完了案件件数	現時点で完了している案件の件数
平均処理時間	案件が完了するまでの平均処理時間

- 「フロー別利用状況」ではフロー別の案件の完了状態と処理時間を参照できます。

フロー別利用状況モニタリング情報

カラム名	備考
フロー名	
完了案件件数（終了ノード到達）	承認、案件操作で終了ノードに到達して完了した案件の件数
完了案件件数（承認終了）	承認終了により完了した案件の件数

カラム名	備考
完了案件件数（取止め）	取止めにより完了した案件の件数
完了案件件数（否認）	否認により完了した案件の件数
最小処理時間	案件が完了するまでに掛った処理時間のうち最小のもの
最大処理時間	案件が完了するまでに掛った処理時間のうち最大のもの
平均処理時間	案件が完了するまでの平均処理時間

- 「モニタリング更新ジョブ」は完了案件を集計し、モニタリング情報を作成します。
- モニタリング情報は「モニタリング画面」で参照できます。

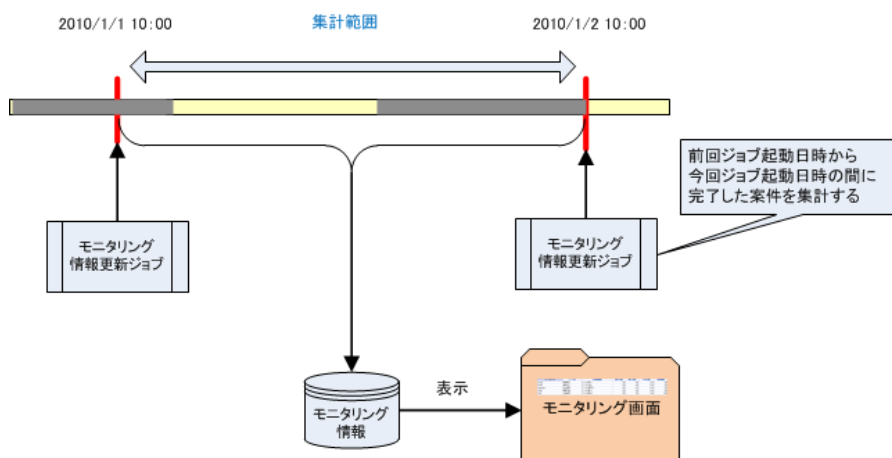
モニタリング更新ジョブについては下記を参照してください。

モニタリング更新ジョブ

IM-Workflow ではモニタリング情報を作成する機能をジョブ形式で提供しています。

- 前回のジョブ起動日から今回のジョブ起動日の間に完了した完了案件を集計対象とします。

モニタリング更新ジョブ



■ モニタリング対象の完了案件

「アーカイブジョブ」が有効となっている場合、アーカイブ指定日とジョブ起動タイミングによってはモニタリング対象データが先にアーカイブされてしまい、モニタリングの集計が正しく行われなかったことがあります。

このため以下の点に注意してジョブの設定を行ってください。

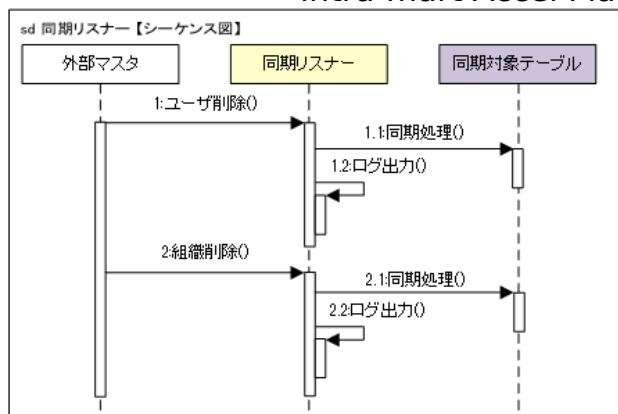
- モニタリング更新ジョブは日時起動とし、アーカイブジョブより前に起動することを推奨します。
- アーカイブ指定日は年指定、月指定を推奨します。
年月日指定がモニタリング更新ジョブの起動日より新しい場合、モニタリング対象がアーカイブされますので注意してください。
- アーカイブ指定日より古い過去申請を行った場合、ジョブの起動タイミングによっては即日アーカイブされる可能性がありますので注意してください。

外部マスタ連携

IM-Workflow には IM-共通マスタ 側の操作でマスタに変更が発生した場合にワークフロー側データの同期を行う「同期リスナー」機能と「同期ジョブ」機能があります。

同期リスナー機能

- 同期リスナー機能は、外部マスタ側の変更によるワークフロー側データの不整合を検知し、不整合を生じさせているワークフロー側データを更新または削除して、その旨をログ出力します。
- テナント、および IM-共通マスタ が提供するリスナーを使用して同期処理を行います。



- IM-Workflow の標準機能として以下の9つの同期リスナーを提供しています。

- ノード処理対象者（固定指定）同期リスナー
- 代理先同期リスナー
- 案件操作権限者同期リスナー
- 代理設定権限者同期リスナー
- 管理グループ同期リスナー
- 標準組織同期リスナー
- 一時保存案件同期リスナー
- ユーザ選択一覧パターン同期リスナー
- 利用者ノード設定同期リスナー

各リスナーの処理内容は「表、同期リスナー名と同期対象の一覧」の通りです。

また各外部マスタイベントに対して、上記同期リスナーでの実装有無は「図、各リスナーが同期処理を実装している外部マスタ変更イベント」の通りです。

- 代理先同期リスナーについては、ワークフロー側で保持する代理設定データの件数が増えると予想され、リスナーで同期処理を行うとレスポンス上、問題が発生する可能性があります。
そのため、外部マスタデータ変更時は更新する際に必要となるキー情報のみを同期ジョブ用ワークテーブルに登録して、実際のデータ同期処理は「代理先同期ジョブ」で行います。
- 同期リスナーの設定方法については、「IM-Workflow 管理者操作ガイド」ワークフロー同期リスナーを参照してください。

< 同期リスナー名と同期対象の一覧 >

- 同期リスナー名：ノード処理対象者（固定指定）同期リスナー
ワークフロー側の同期対象：ノード処理対象者（固定指定）
ワークフロー側の同期対象テーブル：ルートユーザ設定テーブル(IMW_M_ROUTE_PLUGIN)

外部マスタ変更イベント	動作詳細
ユーザ削除	ルート定義から、削除されたユーザに紐付く下記の処理対象者設定を削除します。 ・ ユーザ
会社削除	ルート定義から、削除された会社に紐付く下記の処理対象者設定を削除します。 ・ 組織 ・ 組織＋役職 ・ 組織＋ロール ・ 役職
組織セット削除	ルート定義から、削除された組織セットに紐付く下記の処理対象者設定を削除します。 ・ 組織 ・ 組織＋役職 ・ 組織＋ロール ・ 役職
組織削除	ルート定義から、削除された組織に紐付く下記の処理対象者設定を削除します。 ・ 組織 ・ 組織＋役職 ・ 組織＋ロール
役職削除	ルート定義から、削除された役職に紐付く下記の処理対象者設定を削除します。 ・ 役職 ・ 組織＋役職
パブリックグループ セット削除	ルート定義から、削除されたパブリックグループセットに紐付く下記の処理対象者設定を削除します。 ・ パブリックグループ ・ パブリックグループ＋役割 ・ パブリックグループ＋ロール ・ 役割

外部マスタ変更イベント	動作詳細
パブリックグループ削除	ルート定義から、削除されたパブリックグループに紐付く下記の処理対象者設定を削除します。 ・パブリックグループ ・パブリックグループ+役割 ・パブリックグループ+ロール
役割削除	ルート定義から、削除された役割に紐付く下記の処理対象者設定を削除します。 ・役割・パブリックグループ+役割
ロール削除	ルート定義から、削除されたロールに紐付く下記の処理対象者設定を削除します。 ・ロール ・組織+ロール ・パブリックグループ+ロール
ユーザ期間化情報の変更	ユーザ期間化情報が変更された結果、ルートバージョン期間と重なるユーザ期間が全て無効化された場合、ルート定義から無効化されたユーザに紐付く下記の処理対象者設定を削除します。 ・ユーザ
組織期間化情報の変更	組織期間化情報が変更された結果、ルートバージョン期間と重なる組織期間が全て無効化された場合、ルート定義から無効化された組織に紐付く下記の処理対象者設定を削除します。 ・組織 ・組織+役職 ・組織+ロール
役職期間化情報の変更	役職期間化情報が変更された結果、ルートバージョン期間と重なる役職期間が全て無効化された場合、ルート定義から無効化された役職に紐付く下記の処理対象者設定を削除します。 ・役職・組織+役職
パブリックグループ期間化情報の変更	パブリックグループ期間化情報が変更された結果、ルートバージョン期間と重なるパブリックグループ期間が全て無効化された場合、ルート定義から無効化されたパブリックグループに紐付く下記の処理対象者設定を削除します。 ・パブリックグループ ・パブリックグループ+役割 ・パブリックグループ+ロール
役割期間化情報の変更	役割期間化情報が変更された結果、ルートバージョン期間と重なる役割期間が全て無効化された場合、ルート定義から無効化された役割に紐付く下記の処理対象者設定を削除します。 ・役割・パブリックグループ+役割

- 同期リスナー名：代理先同期リスナー
ワークフロー側の同期対象：代理先
ワークフロー側の同期対象テーブル：同期ジョブ用ワークテーブル(IMW_W_SYNC_BATCH)、代理設定(IMW_T_ACT)、代理設定一時展開(IMW_T_ACT_TEMPORARY_EXPAND)

外部マスタ変更イベント	動作詳細
ユーザ削除	同期ジョブ用ワークテーブルに、削除されたユーザを表すパラメータ情報を登録します。 代理先同期ジョブを実行すると、削除されたユーザが代理先または代理元として設定されている代理設定を削除します。 対象となる代理機能は以下の通りです。 ・代理 ・特定業務代理 ・権限代理 対象となる代理先対象種別は以下の通りです。 ・ユーザ
会社削除	同期ジョブ用ワークテーブルに、削除された会社を表すパラメータ情報を登録します。 代理先同期ジョブを実行すると、削除された会社に紐付く情報が代理先として設定されている代理設定を削除します。 対象となる代理機能は以下の通りです。 ・特定業務代理 ・権限代理 対象となる代理先対象種別は以下の通りです。 ・組織 ・組織+役職 ・役職

外部マスタ変更イベント	動作詳細
組織セット削除	同期ジョブ用ワークテーブルに、削除された組織セットを表すパラメータ情報を登録します。 代理先同期ジョブを実行すると、削除された組織セットに紐付く情報が代理先として設定されている代理設定を削除します。 対象となる代理機能は以下の通りです。 ・ 特定業務代理 ・ 権限代理 対象となる代理先対象種別は以下の通りです。 ・ 組織 ・ 組織＋役職 ・ 役職
組織削除	同期ジョブ用ワークテーブルに、削除された組織を表すパラメータ情報を登録します。 代理先同期ジョブを実行すると、削除された組織に紐付く情報が代理先として設定されている代理設定を削除します。 対象となる代理機能は以下の通りです。 ・ 特定業務代理 ・ 権限代理 対象となる代理先対象種別は以下の通りです。 ・ 組織 ・ 組織＋役職
役職削除	同期ジョブ用ワークテーブルに、削除された役職を表すパラメータ情報を登録します。 代理先同期ジョブを実行すると、削除された役職に紐付く情報が代理先として設定されている代理設定を削除します。 対象となる代理機能は以下の通りです。 ・ 特定業務代理 ・ 権限代理 対象となる代理先対象種別は以下の通りです。 ・ 役職 ・ 組織＋役職
パブリックグループセット削除	同期ジョブ用ワークテーブルに、削除されたパブリックグループセットを表すパラメータ情報を登録します。 代理先同期ジョブを実行すると、削除されたパブリックグループセットに紐付く情報が代理先として設定されている代理設定を削除します。 対象となる代理機能は以下の通りです。 ・ 特定業務代理 ・ 権限代理 対象となる代理先対象種別は以下の通りです。 ・ パブリックグループ ・ パブリックグループ＋役割 ・ 役割
パブリックグループ削除	同期ジョブ用ワークテーブルに、削除されたパブリックグループを表すパラメータ情報を登録します。 代理先同期ジョブを実行すると、削除されたパブリックグループに紐付く情報が代理先として設定されている代理設定を削除します。 対象となる代理機能は以下の通りです。 ・ 特定業務代理 ・ 権限代理 対象となる代理先対象種別は以下の通りです。 ・ パブリックグループ ・ パブリックグループ＋役割
役割削除	同期ジョブ用ワークテーブルに、削除された役割を表すパラメータ情報を登録します。 代理先同期ジョブを実行すると、削除された役割に紐付く情報が代理先として設定されている代理設定を削除します。 対象となる代理機能は以下の通りです。 ・ 特定業務代理 ・ 権限代理 対象となる代理先対象種別は以下の通りです。 ・ 役割 ・ パブリックグループ＋役割

外部マスタ変更イベント	動作詳細
ユーザ期間化情報の変更	同期ジョブ用ワークテーブルに、期間情報を変更されたユーザを表すパラメータ情報を登録します。 代理先同期ジョブを実行すると、期間化情報が変更されたユーザが代理先または代理元として設定されている代理設定の代理設定一時展開情報を再作成します。 対象となる代理機能は以下の通りです。 ・代理 ・特定業務代理 ・権限代理 対象となる代理先対象種別は以下の通りです。 ・ユーザ
組織期間化情報の変更	同期ジョブ用ワークテーブルに、期間情報を変更された組織を表すパラメータ情報を登録します。 代理先同期ジョブを実行すると、期間化情報が変更された組織に紐付く情報が代理先として設定されている代理設定の代理設定一時展開情報を再作成します。 対象となる代理機能は以下の通りです。 ・特定業務代理 ・権限代理 対象となる代理先対象種別は以下の通りです。 ・組織 ・組織＋役職
役職期間化情報の変更	同期ジョブ用ワークテーブルに、期間情報を変更された役職を表すパラメータ情報を登録します。 代理先同期ジョブを実行すると、期間化情報が変更された役職に紐付く情報が代理先として設定されている代理設定の代理設定一時展開情報を再作成します。 対象となる代理機能は以下の通りです。 ・特定業務代理 ・権限代理 対象となる代理先対象種別は以下の通りです。 ・役職 ・組織＋役職
パブリックグループ期間化情報の変更	同期ジョブ用ワークテーブルに、期間情報を変更されたパブリックグループを表すパラメータ情報を登録します。 代理先同期ジョブを実行すると、期間化情報が変更されたパブリックグループに紐付く情報が代理先として設定されている代理設定の代理設定一時展開情報を再作成します。 対象となる代理機能は以下の通りです。 ・特定業務代理 ・権限代理 対象となる代理先対象種別は以下の通りです。 ・パブリックグループ ・パブリックグループ＋役割
役割期間化情報の変更	同期ジョブ用ワークテーブルに、期間情報を変更された役割を表すパラメータ情報を登録します。 代理先同期ジョブを実行すると、期間化情報が変更された役割に紐付く情報が代理先として設定されている代理設定の代理設定一時展開情報を再作成します。 対象となる代理機能は以下の通りです。 ・特定業務代理 ・権限代理 対象となる代理先対象種別は以下の通りです。 ・役割 ・パブリックグループ＋役割
ユーザの所属組織情報の削除	同期ジョブ用ワークテーブルに、削除されたユーザの所属組織情報を表すパラメータ情報を登録します。 代理先同期ジョブを実行すると、削除されたユーザの所属組織に紐付く情報が代理先として設定されている代理設定の代理設定一時展開情報を再作成します。 対象となる代理機能は以下の通りです。 ・特定業務代理 ・権限代理 対象となる代理先対象種別は以下の通りです。 ・組織 ・組織＋役職
ユーザの所属組織役職情報の削除	同期ジョブ用ワークテーブルに、削除されたユーザの所属組織役職情報を表すパラメータ情報を登録します。 代理先同期ジョブを実行すると、削除されたユーザの所属組織役職に紐付く情報が代理先として設定されている代理設定の代理設定一時展開情報を再作成します。 対象となる代理機能は以下の通りです。 ・特定業務代理 ・権限代理 対象となる代理先対象種別は以下の通りです。 ・役職 ・組織＋役職

外部マスタ変更イベント	動作詳細
ユーザのパブリックグループ所属情報の削除	同期ジョブ用ワークテーブルに、削除されたユーザの所属パブリックグループ情報を表すパラメータ情報を登録します。 代理先同期ジョブを実行すると、削除されたユーザの所属パブリックグループに紐付く情報が代理先として設定されている代理設定の代理設定一時展開情報を再作成します。 対象となる代理機能は以下の通りです。 ・特定業務代理 ・権限代理 対象となる代理先対象種別は以下の通りです。 ・パブリックグループ ・パブリックグループ＋役割
ユーザのパブリックグループ所属役割情報の削除	同期ジョブ用ワークテーブルに、削除されたユーザのパブリックグループの所属役割情報を表すパラメータ情報を登録します。 代理先同期ジョブを実行すると、削除されたユーザのパブリックグループの所属役割に紐付く情報が代理先として設定されている代理設定の代理設定一時展開情報を再作成します。 対象となる代理機能は以下の通りです。 ・特定業務代理 ・権限代理 対象となる代理先対象種別は以下の通りです。 ・パブリックグループ ・パブリックグループ＋役割・役割
ユーザの所属組織情報の追加	同期ジョブ用ワークテーブルに、追加されたユーザの所属組織情報を表すパラメータ情報を登録します。 代理先同期ジョブを実行すると、追加されたユーザの所属組織に紐付く情報が代理先として設定されている代理設定の代理設定一時展開情報を再作成します。 対象となる代理機能は以下の通りです。 ・特定業務代理 ・権限代理 対象となる代理先対象種別は以下の通りです。 ・組織
ユーザの所属組織役割情報の追加	同期ジョブ用ワークテーブルに、追加されたユーザの所属組織役職情報を表すパラメータ情報を登録します。 代理先同期ジョブを実行すると、追加されたユーザの所属組織役職に紐付く情報が代理先として設定されている代理設定の代理設定一時展開情報を再作成します。 対象となる代理機能は以下の通りです。 ・特定業務代理 ・権限代理 対象となる代理先対象種別は以下の通りです。 ・役職 ・組織＋役職
ユーザのパブリックグループ所属情報の追加	同期ジョブ用ワークテーブルに、追加されたユーザの所属パブリックグループ情報を表すパラメータ情報を登録します。 代理先同期ジョブを実行すると、追加されたユーザの所属パブリックグループに紐付く情報が代理先として設定されている代理設定の代理設定一時展開情報を再作成します。 対象となる代理機能は以下の通りです。 ・特定業務代理 ・権限代理 対象となる代理先対象種別は以下の通りです。 ・パブリックグループ
ユーザのパブリックグループ所属役割情報の追加	同期ジョブ用ワークテーブルに、追加されたユーザのパブリックグループの所属役割情報を表すパラメータ情報を登録します。 代理先同期ジョブを実行すると、追加されたユーザのパブリックグループの所属役割に紐付く情報が代理先として設定されている代理設定の代理設定一時展開情報を再作成します。 対象となる代理機能は以下の通りです。 ・特定業務代理 ・権限代理 対象となる代理先対象種別は以下の通りです。 ・役割 ・パブリックグループ＋役割

- 同期リスナー名：案件操作権限者同期リスナー
ワークフロー側の同期対象：案件操作権限者
ワークフロー側の同期対象テーブル：フロー操作権限者(IMW_M_FLOW_HANDLE_USER)

外部マスタ変更イベント	動作詳細
ユーザ削除	フロー定義の参照者設定から、削除されたユーザに紐付く下記の対象種別を削除します。 ・ユーザ
会社削除	フロー定義の参照者設定から、削除された会社に紐付く下記の対象種別を削除します。 ・組織 ・組織＋役職 ・組織＋ロール ・役職
組織セット削除	フロー定義の参照者設定から、削除された組織セットに紐付く下記の対象種別を削除します。 ・組織 ・組織＋役職 ・組織＋ロール ・役職
組織削除	フロー定義の参照者設定から、削除された組織に紐付く下記の対象種別を削除します。 ・組織 ・組織＋役職 ・組織＋ロール
役職削除	フロー定義の参照者設定から、削除された役職に紐付く下記の対象種別を削除します。 ・役職 ・組織＋役職
パブリックグループセット削除	フロー定義の参照者設定から、削除されたパブリックグループセットに紐付く下記の対象種別を削除します。 ・パブリックグループ ・パブリックグループ＋役割 ・パブリックグループ＋ロール ・役割
パブリックグループ削除	フロー定義の参照者設定から、パブリックグループに紐付く下記の対象種別を削除します。 ・パブリックグループ ・パブリックグループ＋役割 ・パブリックグループ＋ロール
役割削除	フロー定義の参照者設定から、削除された役割に紐付く下記の対象種別を削除します。 ・役割 ・パブリックグループ＋役割
ロール削除	フロー定義の参照者設定から、削除されたロールに紐付く下記の対象種別を削除します。 ・ロール ・組織＋ロール ・パブリックグループ＋ロール
ユーザ期間化情報の変更	ユーザ期間化情報に変更された結果、フローバージョン期間と重なるユーザ期間が全て無効化された場合、フロー定義の参照者設定から、無効化されたユーザに紐付く下記の対象種別を削除します。 ・ユーザ
組織期間化情報の変更	組織期間化情報に変更された結果、フローバージョン期間と重なる組織期間が全て無効化された場合、フロー定義の参照者設定から、無効化された組織に紐付く下記の対象種別を削除します。 ・組織 ・組織＋役職 ・組織＋ロール
役職期間化情報の変更	役職期間化情報に変更された結果、フローバージョン期間と重なる役職期間が全て無効化された場合、フロー定義の参照者設定から、無効化された役職に紐付く下記の対象種別を削除します。 ・役職 ・組織＋役職
パブリックグループ期間化情報の変更	パブリックグループ期間化情報に変更された結果、フローバージョン期間と重なるパブリックグループ期間が全て無効化された場合、フロー定義の参照者設定から、無効化されたパブリックグループに紐付く下記の対象種別を削除します。 ・パブリックグループ ・パブリックグループ＋役割 ・パブリックグループ＋ロール
役割期間化情報の変更	役割期間化情報に変更された結果、フローバージョン期間と重なる役割期間が全て無効化された場合、フロー定義の参照者設定から、無効化された役割に紐付く下記の対象種別を削除します。 ・役割 ・パブリックグループ＋役割

ワークフロー側の同期対象：代理設定権限者

ワークフロー側の同期対象テーブル：代理管理者設定(IMW_M_ACT_ADMINISTRATION)

外部マスタ変更イベント	動作詳細
ユーザ削除	代理管理者設定から、削除されたユーザに紐付く下記の対象者種別を削除します。 ・ ユーザ
会社削除	代理管理者設定から、削除された会社に紐付く下記の対象者種別を削除します。 ・ 組織 ・ 組織＋役職 ・ 組織＋ロール ・ 役職
組織セット削除	代理管理者設定から、削除された組織セットに紐付く下記の対象者種別を削除します。 ・ 組織 ・ 組織＋役職 ・ 組織＋ロール ・ 役職
組織削除	代理管理者設定から、削除された組織に紐付く下記の対象者種別を削除します。 ・ 組織 ・ 組織＋役職 ・ 組織＋ロール
役職削除	代理管理者設定から、削除された役職に紐付く下記の対象者種別を削除します。 ・ 役職 ・ 組織＋役職
パブリックグループセット削除	代理管理者設定から、削除されたパブリックグループセットに紐付く下記の対象者種別を削除します。 ・ パブリックグループ ・ パブリックグループ＋役割 ・ パブリックグループ＋ロール ・ 役割
パブリックグループ削除	代理管理者設定から、削除されたパブリックグループに紐付く下記の対象者種別を削除します。 ・ パブリックグループ ・ パブリックグループ＋役割 ・ パブリックグループ＋ロール
役割削除	代理管理者設定から、削除された役割に紐付く下記の対象者種別を削除します。 ・ 役割 ・ パブリックグループ＋役割
ロール削除	代理管理者設定から、削除されたロールに紐付く下記の対象者種別を削除します。 ・ ロール ・ 組織＋ロール ・ パブリックグループ＋ロール
ユーザ期間化情報の変更	ユーザ期間化情報が変更された結果、ユーザ期間が全て無効化された場合、代理管理者設定から、無効化されたユーザに紐付く下記の対象者種別を削除します。 ・ ユーザ
組織期間化情報の変更	組織期間化情報が変更された結果、組織期間が全て無効化された場合、代理管理者設定から、無効化された組織に紐付く下記の対象者種別を削除します。 ・ 組織 ・ 組織＋役職 ・ 組織＋ロール
役職期間化情報の変更	役職期間化情報が変更された結果、役職期間が全て無効化された場合、代理管理者設定から、無効化された役職に紐付く下記の対象者種別を削除します。 ・ 役職 ・ 組織＋役職
パブリックグループ期間化情報の変更	パブリックグループ期間化情報が変更された結果、パブリックグループ期間が全て無効化された場合、代理管理者設定から、無効化されたパブリックグループに紐付く下記の対象者種別を削除します。 ・ パブリックグループ ・ パブリックグループ＋役割 ・ パブリックグループ＋ロール
役割期間化情報の変更	役割期間化情報が変更された結果、役割期間が全て無効化された場合、代理管理者設定から、無効化された役割に紐付く下記の対象者種別を削除します。 ・ 役割・パブリックグループ＋役割

- 同期リスナー名：管理グループ同期リスナー
ワークフロー側の同期対象：管理グループ
ワークフロー側の同期対象テーブル：管理グループ権限セット(IMW_M_ADMINISTRATION_AUTH_SET)、管理グループ標準組織(IMW_M_ADMINISTRATION_ORGZ)

外部マスタ変更イベント	動作詳細
ユーザ削除	管理グループ設定から、削除されたユーザに紐付く下記のアクセス権限を削除します。 ・ユーザ
会社削除	管理グループ設定から、削除された会社に紐付く下記のアクセス権限を削除します。 ・組織 ・組織＋役職 ・組織＋ロール ・役職 管理グループ設定から、削除された会社に紐付く会社名を削除します。
組織セット削除	管理グループ設定から、削除された組織セットに紐付く下記のアクセス権限を削除します。 ・組織 ・組織＋役職 ・組織＋ロール ・役職
組織削除	管理グループ設定から、削除された組織に紐付く下記のアクセス権限を削除します。 ・組織 ・組織＋役職 ・組織＋ロール
役職削除	管理グループ設定から、削除された役職に紐付く下記のアクセス権限を削除します。 ・役職 ・組織＋役職
パブリックグループセット削除	管理グループ設定から、削除されたパブリックグループセットに紐付く下記のアクセス権限を削除します。 ・パブリックグループ ・パブリックグループ＋役割 ・パブリックグループ＋ロール ・役割
パブリックグループ削除	管理グループ設定から、削除されたパブリックグループに紐付く下記のアクセス権限を削除します。 ・パブリックグループ ・パブリックグループ＋役割 ・パブリックグループ＋ロール
役割削除	管理グループ設定から、削除された役割に紐付く下記のアクセス権限を削除します。 ・役割 ・パブリックグループ＋役割
ロール削除	管理グループ設定から、削除されたロールに紐付く下記のアクセス権限を削除します。 ・ロール ・組織＋ロール ・パブリックグループ＋ロール

- 同期リスナー名：標準組織同期リスナー
ワークフロー側の同期対象：標準組織（フロー定義の組織セット設定）
ワークフロー側の同期対象テーブル：フロー標準組織(IMW_M_FLOW_DEFAULT_ORGZ)

外部マスタ変更イベント	動作詳細
会社削除	フロー定義の標準組織設定から、削除された会社に紐付く会社名、組織セット名を削除します。
組織セット削除	フロー定義の標準組織設定から、削除された組織セットに紐付く会社名、組織セット名を削除します。

- 同期リスナー名：一時保存案件同期リスナー
ワークフロー側の同期対象：一時保存案件
ワークフロー側の同期対象テーブル：一時保存案件(IMW_T_TEMPORARY_SAVE)

外部マスタ変更イベント	動作詳細
-------------	------

外部マスタ変更イベント	動作詳細
ユーザ削除	削除されたユーザが保持していた一時保存案件情報を削除します。 ※アクション処理 【一時保存（削除）】 が実行され、一時保存案件に紐づく業務データも削除します。

- 同期リスナー名：ユーザ選択一覧パターン同期リスナー
ワークフロー側の同期対象：ユーザ選択一覧パターン
ワークフロー側の同期対象テーブル：ユーザ選択一覧パターン(IMW_T_USER_SELECT_COLUMN_LIST)

外部マスタ変更イベント	動作詳細
ユーザ削除	削除されたユーザが保持していた一覧表示パターン情報を削除します。

- 同期リスナー名：利用者ノード設定同期リスナー
ワークフロー側の同期対象：利用者ノード設定
ワークフロー側の同期対象テーブル：利用者ノード設定(IMW_T_USER_NODE_CONFIG)、利用者ノード設定ノード(IMW_T_USER_NODE_CONFIG_NODE)、利用者ノード設定詳細(IMW_T_USER_NODE_CONFIG_DETAIL)

外部マスタ変更イベント	動作詳細
ユーザ削除	削除されたユーザが保持していた利用者ノード設定情報を削除します。

各リスナーが同期処理を実装している外部マスタ変更イベント<○：同期処理を実装、△：ワークテーブルにキーを登録>

外部マスタ変更イベント	ノード 処理対象者 (固定指定) 同期リスナー	代理先 同期リスナー	案件操作 権限者 同期リスナー	代理設定 権限者 同期リスナー	管理 グループ 同期リスナー	標準組織 同期リスナー	一時保存 案件同期 リスナー	ユーザ 選択一覧 パターン 同期 リスナー	利用者 ノード 設定 同期 リスナー
ユーザ削除	○	△	○	○	○		○	○	○
会社削除	○	△	○	○	○	○			
組織セット削除	○	△	○	○	○	○			
組織削除	○	△	○	○	○				
役職削除	○	△	○	○	○				
パブリックグループセット 削除	○	△	○	○	○				
パブリックグループ削除	○	△	○	○	○				
役割削除	○	△	○	○	○				
ロール削除	○	△	○	○	○				
ユーザ期間化 情報の変更	○	△	○	○					
組織期間化情 報の変更	○	△	○	○					
役職期間化情 報の変更	○	△	○	○					
パブリックグループ期間化 情報の変更	○	△	○	○					
役割期間化情 報の変更	○	△	○	○					
ユーザの所属 組織情報の削 除		△							

外部 マスタ 変更 イベント	ノード 処理対象者 (固定指定) 同期 リスナー	代理先 同期 リスナー	案件操作 権限者 同期 リスナー	代理設定 権限者 同期 リスナー	管理 グループ 同期 リスナー	標準組織 同期 リスナー	一時保存 案件同期 リスナー	ユーザ 選択一覧 パターン 同期 リスナー	利用者 ノード 設定 同期 リスナー
ユーザの所属 組織役職情報 の削除		△							
ユーザのパブ リックグルー プ所属情報の 削除		△							
ユーザのパブ リックグルー プ所属役割情 報の削除		△							
ユーザの所属 組織情報の追 加		△							
ユーザの所属 組織役職情報 の追加		△							
ユーザのパブ リックグルー プ所属情報の 追加		△							
ユーザのパブ リックグルー プ所属役割情 報の追加		△							

同期ジョブ機能

IM-Workflow の標準機能として以下の同期ジョブを提供します。

標準提供の同期ジョブプログラム

ジョブ名	処理内容
代理先同期ジョブ	同期ジョブ用ワークテーブルに登録されているキー情報から、代理先の同期処理を行います。 ※ 起動する上で、代理先同期リスナーの設定が必須です。

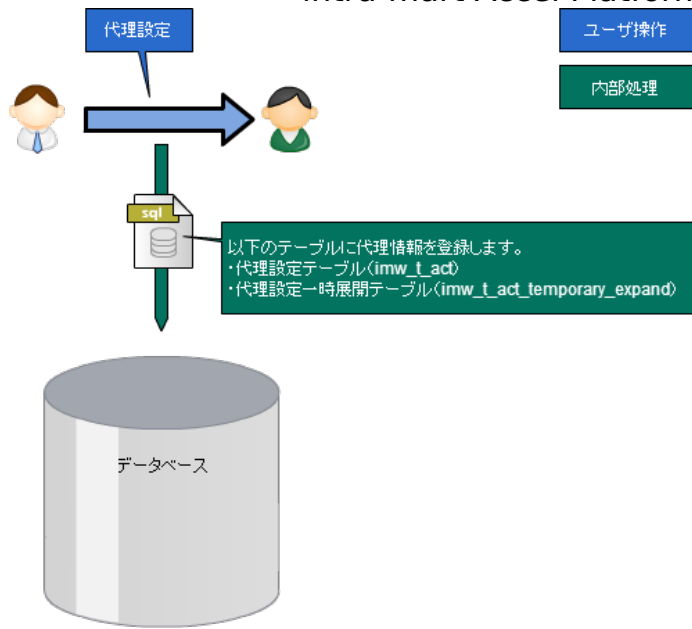
詳細については下記を参照してください。

代理先同期ジョブ

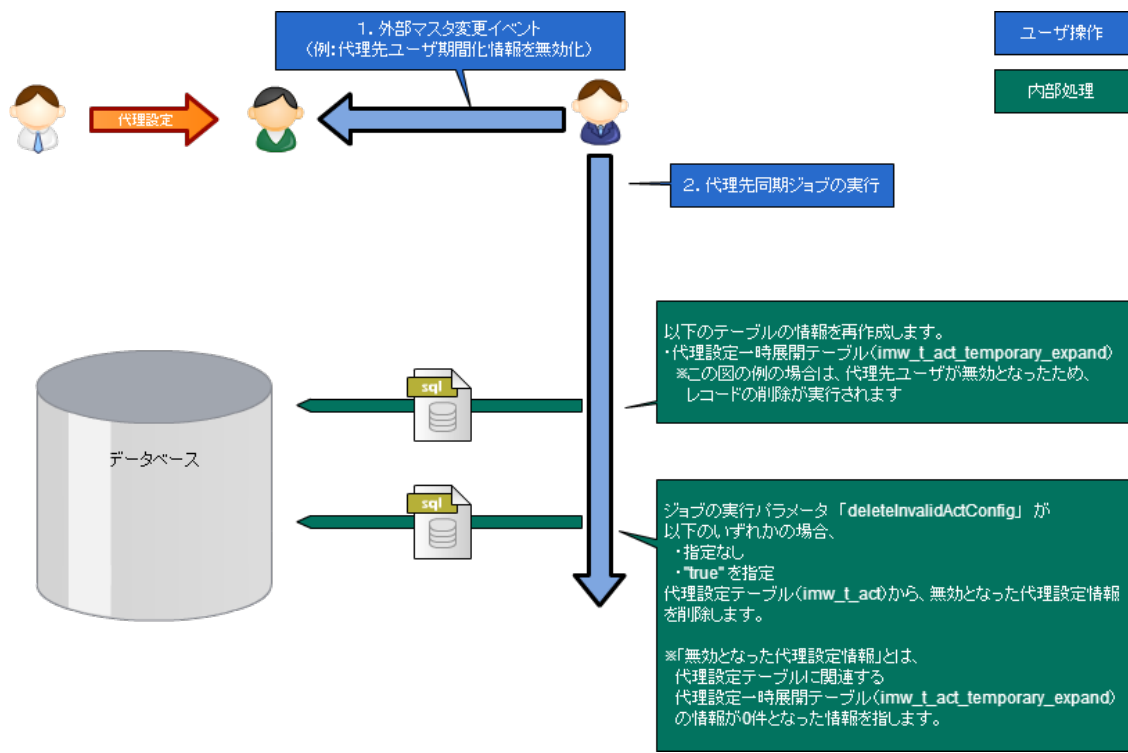
代理先に対して同期処理を行うジョブです。

- IM-共通マスタ 側の操作でマスタに変更が発生した場合、代理先同期リスナーは、マスタ更新（キー）情報を同期ジョブ用ワークテーブルに登録します。
- 代理先同期ジョブは、このワークテーブルの登録情報を基に、代理先データの同期処理を行います。同期処理を行った後は、その旨をログに出力してから、ワークテーブルの処理レコードを削除します。代理先の同期を行うことで、代理権限について IM-共通マスタ 側とデータの整合性を保つことができます。
- 代理先同期ジョブの実行パラメータ「deleteInvalidActConfig」が以下のいずれかの場合、代理設定テーブル（imw_t_act）から、無効となった代理設定情報を削除します。
 - 指定なし
 - "true"を指定（テナント環境 セットアップ直後の状態におけるデフォルト）
 ※「無効となった代理設定情報」とは、代理設定テーブルに関連する代理設定一時展開テーブル（imw_t_act_temporary_expand）の情報が0件となった情報を指します。

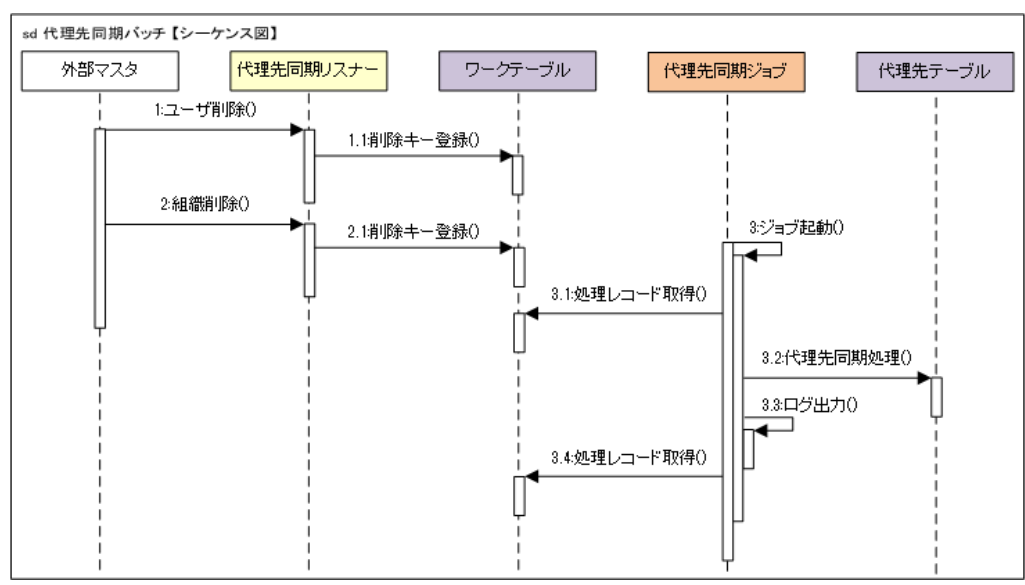
代理設定時の情報登録仕様



代理先同期ジョブの動作概要（代理先ユーザ期間化情報を無効化した場合）



代理先同期ジョブ シーケンス図



印影

コンテンツの画面に押印できる印影機能を用意しています。

印影設定

テナント単位設定

IM-Workflow の印影機能は標準では「使用しない」に設定されています。
 使用するにはテナント単位設定の印影の使用可否設定を変更する必要があります。
 詳細は「[印影設定](#)」を参照してください。

プラグイン設定

IM-Workflow の印影機能はプラグイン拡張により実現されています。
 申請、承認処理で押印し、案件の終了、退避処理で印影関連データを移す処理や案件データ削除時に関連する印影データを削除するには下記の印影関連プラグイン設定が必要です。

印影機能関連プラグイン一覧

処理名	プラグイン種別名	説明	プラグインID
アクション処理 (申請ノード、承認ノード)	【アクション処理】 印影処理	申請、承認処理時に押印した印影データを登録する処理を行います。 引き戻し、差戻し時に押印した印影の削除や差戻しの引き戻し時に削除した印影の復元処理を行います。	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.event.node.action.process.stamp
案件終了処理	【案件終了処理】 印影処理	案件終了時に、未完了案件テーブルから完了案件テーブルに印影データを移す処理を行います。	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.event.matter.end.process.stamp
案件退避処理	【案件退避処理】 印影処理	案件退避時に、完了案件テーブルから過去案件テーブルに印影データを移す処理を行います。	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.event.matter.archive.process.stamp
未完了案件削除処理	【未完了案件削除処理】 印影処理	未完了案件削除時に、未完了案件用の印影データを削除する処理を行います。	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.event.matter.active.delete.process.stamp
完了案件削除処理	【完了案件削除処理】 印影処理	完了案件削除時に、完了案件用の印影データを削除する処理を行います。	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.event.matter.completed.delete.process.stamp
過去案件削除処理	【過去案件削除処理】 印影処理	過去案件削除時に、過去案件用の印影データを削除する処理を行います。	jp.co.intra_mart.workflow.plugin.event.matter.archived.delete.process.stamp

コンテンツ画面の作成

コンテンツの詳細画面に押印した印影情報を表示する為、IM-Workflow では印影情報表示用タグライブラリを用意しています。
 詳細はAPIリスト「[workflowStampListタグ](#)」を参照してください。

印影設定ファイル

印影を作成する際に必要な詳細設定はXMLファイルで管理されています。
 テナント環境セットアップにより、「%PUBLIC_STORAGE_PATH%/im_workflow/conf/param/param_stamp_% テナントID %.xml」に標準の設定ファイルが作成されます。
 印影設定ファイルを変更することで、使用する印影の選択や印影枠イメージ、文字サイズ、文字表示位置などの変更ができます。
 設定ファイルの変更を反映するにはアプリケーションサーバの再起動が必要です。

印影設定ファイル詳細 — 印影設定

- ノード名 - workflow/imwStamp/stampType

属性名	説明	備考
-----	----	----

属性名	説明	備考
id	印影ID設定を設定します。 テナントで一意的値を設定する必要があります。	デフォルト値：「1」 70Pxサイズ3段表示 「2」 70Pxサイズ縦表示 「3」 50Pxサイズ縦表示
displayId	印影表示名のメッセージプロパティキーを設定します。	設定例) 3段表示、縦表示（大）、縦表示（小）
imagePath	印影枠画像のパスを指定します。 コンテキストパスからのURLを指定します。	設定例) workflow/img/stamp/stamp_frame_01.png — 縦表示用 workflow/img/stamp/stamp_frame_02.png — 2段表示用 workflow/img/stamp/stamp_frame_03.png — 3段表示用
width	印影枠画像の表示幅を指定します。	
height	印影枠画像の表示高さを指定します。	
verticalFlag	文字表示の方法を設定します。	true : 垂直 false : 水平
disableConfig	印影設定画面に表示するかしないかを設定します。	true : 表示しない false : 表示する

- ノード名 - workflow/imwStamp/stampType/stampStr[1～3]
「IMW_T_STAMP」の「STAMP_STR1～3」に設定される文字の属性を設定します。

属性名	説明	備考
position	画像のトップ部からの文字の表示位置を設定します。 表示する印影タイプを考慮して指定します。	
width	表示される文字表示幅を指定します。 印影枠画像の形と印影タイプを考慮して表示可能な幅を指定します。 表示幅より表示する文字全体のサイズが大きい場合は文字サイズが自動調整されます。	
displayId	印影の表示段の名前を指定します。 表示名のメッセージプロパティキーを指定します。	設定例) 上段、中段、下段、縦表示など

- ノード名 - workflow/imwStamp/stampType/stampStr[1～3]/fieldTypeConfig
印影の表示段毎の属性を設定します。

属性名	説明	備考
id	印影フィールドタイプのIDを設定します。	* 「印影設定ファイル詳細 — 印影フィールドタイプ設定」参照
styleAttr	文字をHTML形式で表示時に追加する属性文字を指定します。 指定した属性を反映した文字で印影画像上に表示されます。	例) text-align: center; color: red; font-family: sans-serif; font-weight: bold; font-style: italic;
maxFontSize	最大フォントサイズ。 フォントサイズは表示幅を考慮し自動計算されますが、表示する文字によっては表示幅を超える場合があります。 表示フォントを別途指定することで枠を超える表示を防ぐことができます。	

印影設定ファイル詳細 — 印影フィールドタイプ設定

- ノード名 - workflow/imwStamp/fieldType
印影で使用するフィールドタイプを指定します。

属性名	説明	備考
id	印影フィールドタイプのIDを設定します。 テナントで一意的値を設定する必要があります。	デフォルト値： 「0」 文字列、「1」 西暦、「2」 和暦

属性名	説明	備考
displayId	表示名のメッセージプロパティキーを指定します。	設定例) 文字列、和暦、西暦
classify	表示種類を指定します。	text : 文字列 select : リスト (option項目が必要)

- ノード名 - workflow/imwStamp/fieldType/option
「classify」属性が「select」の場合に必要な項目です。

属性名	説明	備考
code	日付のパターンを表すコードを指定します。 西暦、和暦の設定を考慮して指定します。	2011年1月2月の表示例) 1.西暦の場合 yy/M/d : 11/1/2 yyyy/M/d : 2011/1/2 yy/MM/dd : 11/01/02 MM/dd : 01/02 yyyy年M月dd日 : 2011年1月02日 yyyy年M月 : 2011年1月 yyyy年 : 2011年 MM月dd日 : 01月02日 2.和暦の場合 Gyy.M.d : H23.1.2 GGGGyy年MM月dd日 : 平成23年01月02日 Gyy年MM月dd日 : H23年01月02日 Gyy/MM/dd : H23/01/02 Gyy : H23 GGGGyy年 : 平成23年

印影設定ファイル詳細 — 空白印影枠設定

- ノード名 - workflow/imwStamp/blankFrameSize
押印した結果を表示する時に、押印されてない箇所の枠表示サイズを指定します。

属性名	説明	備考
width	幅を指定します。	
height	高さを指定します。	

印影処理

アクション処理—印影登録機能

申請や承認時に押印した印影を登録する処理は IM-Workflow のアクション処理を拡張して行っています。
申請や承認画面で選択した印影はそのIDをユーザパラメータに設定し、アクション処理に渡します。
アクション処理でユーザパラメータから印影情報を取得するキーは「imwStampId」です。
ユーザパラメータに同じキーで別の値を設定した場合には印影登録処理ができない状態に変わります。
押印が必要な案件は申請や承認処理時に印影選択が必須です。
押印が必要な案件の申請や承認処理時に印影を選択しなかった場合（ユーザパラメータに印影ID「imwStampId」が設定されてない場合）は処理できません。

アクション処理—印影削除・復活機能

引戻し、差戻し時に押印した印影を削除する処理は IM-Workflow のアクション処理を拡張して行っています。
引戻し、または差戻し時に処理元ノードから処理先ノードの間にあるノードは押印した印影が削除されます。
差戻しの引戻しの場合は前回に押印した印影が復活されます。

代理処理時の印影

押印処理は処理者の印影を用いて行います。
代理権限で押印する時に押印できる印影は代理元である権限者ではなく代理先である処理者の印影が使用できます。

APIを利用したワークフロー処理時の印影

- APIを利用してワークフローの処理を行う場合、「imwStampId（印影ID）」の指定により、任意の印影を押印できます。

「印影ID」については [印影設定ファイル](#) を参照してください。

- 印影IDを指定せずに、APIを利用したワークフローの処理を行う場合には、処理権限者（申請権限者）の常用印が採用されます。
- 以下の条件をすべて満たす場合、処理に失敗します。
 - 処理権限者（申請権限者）に常用印が設定されていない
 - 印影IDを指定していない

自動承認、一括処理時の印影

自動処理、一括処理時には押印する印影の選択ができません。

押印が必要な案件を自動承認または一括処理する場合には処理する人の常用印が押印されます。

処理する人の常用印が作成されてない場合で押印する必要がある案件を自動承認、または一括処理すると処理に失敗します。

IM-Workflow では全てのユーザの常用印を作成するジョブを用意しています。「[4.1 ジョブ一覧](#)」を参照してください。

スマートフォンの印影

スマートフォンで承認処理を行う時には押印する印影の選択ができません。

押印が必要な案件を承認する場合には処理する人の常用印が押印されます。

処理する人の常用印が作成されてない場合で押印する必要がある案件は処理画面表示時にエラーが表示され処理できなくなります。

IM-Workflow では全てのユーザの常用印を作成するジョブを用意しています。「[ジョブ一覧](#)」を参照してください。

印影利用時の注意事項

- 運用を開始した印影タイプは、印影設定ファイルから削除しないでください。
その印影タイプに紐付く印影（押印済み印影を含む）が表示できない状態に変わります。
- 印影タイプの設定を変更した場合は、押印済み印影にも変更が反映されます。
- 印影を利用するフローでは全てのノードにアクション処理を設定してください。
設定してないノードから差し戻しを行った場合に、押印した印影が削除できない状態に変わります。

標準画面の処理の非同期

IM-Workflow の標準画面の処理を非同期的に処理させる機能があります。

対象の標準画面の処理

非同期的に処理させることができる標準画面の処理は以下の通りです。

非同期的に処理させることができる標準画面と処理

<  : 非同期的な処理が可能 /  : 非同期的な処理の対象外 >

標準画面	処理	PC	スマートフォン	補足説明
一時保存	一時保存			
申請	申請			
処理	承認			
	否認			
	承認終了			
	保留			
	保留解除			
	差戻し			
連続処理	承認			スマートフォンに画面が存在しません
	否認			スマートフォンに画面が存在しません
	承認終了			スマートフォンに画面が存在しません
	保留			スマートフォンに画面が存在しません
	保留解除			スマートフォンに画面が存在しません

標準画面	処理	PC	スマートフォン	補足説明
	差戻し	✓	✗	スマートフォンに画面が存在しません
申請（未申請）	申請	✓	✓	
	取止め	✓	✓	
再申請	再申請	✓	✓	
	取止め	✓	✓	
引戻し	引戻し	✓	✓	
一括処理	処理	✓	✗	スマートフォンに画面が存在しません
確認	確認	✓	✓	
連続確認	確認	✓	✗	スマートフォンに画面が存在しません
一括確認	確認	✓	✗	スマートフォンに画面が存在しません

設定

標準画面の処理を同期的に処理させるのか非同期的に処理させるのか、という設定を標準画面の処理の同期／非同期設定といいます。この設定は、テナント単位、フロー単位、案件単位に行うことができます。

テナント単位設定

テナント単位の標準画面の処理の同期／非同期設定の初期値は同期です。
標準画面の処理を非同期にするためには、設定を変更する必要があります。
詳細は「[5.1.2.24 標準画面の処理の同期／非同期設定](#)」を参照してください。

フロー単位設定

フロー単位の標準画面の処理の同期／非同期設定の初期値は同期です。
特定のフローに関する標準画面の処理を非同期にするためには、設定を変更する必要があります。
設定の変更は、フロー定義のバージョン情報の基本情報で「標準画面の処理の同期／非同期」項目で設定します。
また、フロー単位の標準画面の処理の同期／非同期設定を非同期と設定しても、テナント単位の標準画面の処理の同期／非同期設定を同期に変更した場合は、テナント単位の設定が優先され、標準画面の処理は同期の設定として行われます。
フロー単位の標準画面の処理の同期／非同期設定に関連する標準画面の処理は、案件が開始する前の画面の処理（申請画面の申請と一時保存画面の一時保存）が対象です。

案件単位設定

案件単位の標準画面の処理の同期／非同期設定は、案件の申請基準日に該当するフロー定義の設定です。
案件開始以降にフロー定義を変更しても、その情報は案件単位の標準画面の処理の同期／非同期設定に反映されません。
また、案件単位の標準画面の処理の同期／非同期設定が非同期であっても、テナント単位の標準画面の処理の同期／非同期設定を同期に変更した場合は、テナント単位の設定が優先され、標準画面の処理は同期の設定として行われます。
案件単位の標準画面の処理の同期／非同期設定に関する表画面の処理は、案件が開始した後の画面の処理が対象です。

同期処理の特性、非同期処理の特性

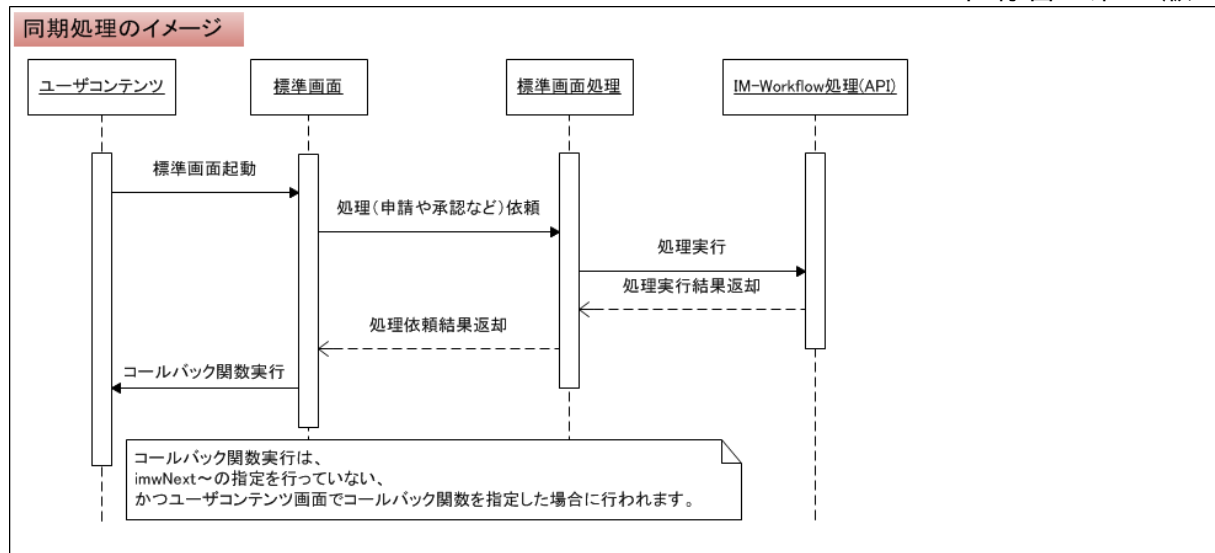
同期処理の特性

同期処理の特性は以下の通りです。

- 標準画面は、IM-Workflow 処理(API)を実行するサーバサイドの標準画面処理に処理依頼します。
IM-Workflow 処理(API)が完了するまで待機します。
- 標準画面は、IM-Workflow 処理(API)の実行結果を受け取ります。
正常の場合は各種設定に従って動作します。
エラーの場合はエラーメッセージを表示します。

同期処理のイメージ

同期処理のイメージは以下の通りです。



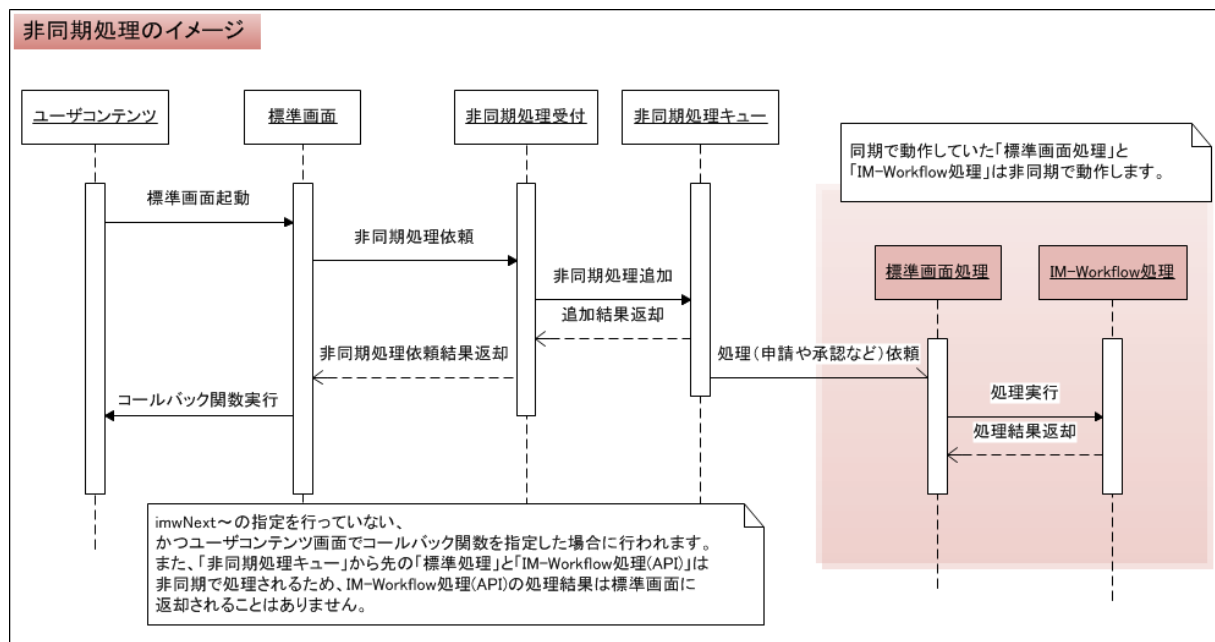
非同期処理の特性

非同期処理の特性は以下の通りです。

- 標準画面は、非同期処理をキューに蓄積する非同期処理受付に依頼します。
非同期処理キューに追加されるまで待機します。
- 標準画面は、非同期処理キューの追加結果を受け取ります。
正常の場合は各種設定に従って動作します。
エラーの場合はエラーメッセージを表示します。
- 非同期処理キューは追加されたとほぼ同時に、別スレッドでサーバサイドの標準画面処理を実行します。
- 標準画面処理は IM-Workflow 処理(API)を実行し、処理結果を受け取ります。
正常の場合は、何も行いません。
エラーの場合は内部情報として蓄積します。
標準画面には返却しません。
- 非同期で標準画面側のContext情報の取得を実現するために、Context情報をストレージに保存します。

非同期処理のイメージ

非同期処理のイメージは以下の通りです。



非同期処理の状況確認

非同期処理でエラーが発生した場合に画面に通知されないため、その場では IM-Workflow の処理が正しく行われたかどうかわかりません。

エラーが発生した旨をメールなどで通知する機能が存在しません。

また、非同期の場合は、IM-Workflow の処理が開始した時点で標準画面は完了したこととなるため、IM-Workflow の処理が実行中の可能性もあります。

上記のような状況を確認するための画面を用意します。

この画面を非同期処理ステータスと呼びます。
詳細については下記を参照してください。

非同期処理ステータス画面の場所

非同期処理ステータス画面は、メニュー「Workflow」－「処理済」を選択して、「非同期処理ステータス」タブをクリックすると表示されます。
この画面はPCのみに対応しています。
「非同期処理ステータス」タブは、テナント単位の標準画面の処理の同期／非同期設定の値が非同期のときだけ表示されます。

非同期処理ステータス画面の情報の説明

非同期処理ステータス画面は、非同期処理状況の情報を一覧表示する画面です。
当該画面に表示する情報は、処理権限者が処理したものを表示します。

一覧表示する項目について以下に示します。

非同期処理状況の一覧表示項目

項目	説明	詳細
非同期処理ステータス	非同期処理のステータスを表示します。	処理中の案件は、「非同期処理中」と表示されます。 処理がエラーとなった案件は、「非同期処理エラー」と表示されます。 処理が成功した案件は表示されません。
処理種別	非同期処理の処理種別を表示します。	処理種別は以下のものが存在します。 起票／申請／再申請／取止め／承認／承認終了／否認／保留／保留解除／差戻し／引戻し／確認／一時保存／一括処理／一括確認
メッセージ	非同期処理のエラーメッセージを表示します。	非同期処理ステータスが「非同期処理エラー」のときに表示します。 エラーメッセージの内容は、同期処理の場合に、標準画面で表示されるエラーメッセージと同じ内容です。
案件名	案件名を表示します。	標準画面で入力した案件名を表示します。 処理種別が一括確認／一括処理の場合は、案件名は表示されません。
案件番号	案件番号を表示します。	案件が開始されたとき採番された案件番号を表示します。 案件開始前の一時保存、申請の場合は、表示されません。 また、処理種別が一括確認／一括処理の場合は、案件名は表示されません。
コメント	コメントを表示します。	各標準画面に存在するコメントに入力された情報を表示します。
処理日時	処理日時を表示します。	IM-Workflowが処理を受付けた時点の日時を表示します。
システム案件ID	システム案件IDを表示します。	この情報はIM-Workflowが案件を一意にするためのキーです。 何らかの問題が発生した場合は、この情報をもとに管理者機能などを利用して問題を解決する手助けをします。
削除アイコン	非同期処理ステータスの情報を削除するアイコンです。	非同期処理状況の情報を削除するための機能です。 非同期処理状況の情報は、蓄積される一方ですので、不要となった非同期処理状況の情報は削除してください。

標準画面の非同期的な処理に関する注意事項

- 標準画面の処理の同期／非同期設定を非同期に設定する場合、標準画面にエラーの内容は表示されません。
非同期処理ステータス画面を開き、エラーが発生していないことを確認してください。
- 非同期処理中の案件は、未処理一覧、処理済一覧、参照一覧に表示されません。
- 非同期処理ステータス画面の情報は自動には削除されません。
不要な情報は非同期処理ステータス画面にて削除してください。
- 非同期処理状況の情報のうち、非同期処理ステータスが「非同期処理中」の情報を削除すると IM-Workflow の処理がエラーの場合、情報が出力されません。
非同期処理ステータスが「非同期処理中」の情報の削除は、IM-Workflow の処理で何らかの問題が発生して、処理が滞った場合にのみ削除の検討を行ってください。
- 標準画面の処理の同期／非同期設定を非同期に設定する場合、「[5.1.1.1.1 案件終了処理、到達処理、メール送信処理、IMBox送信処理の同期／非同期制御の設定](#)」は同期に設定してください。
非同期処理中にサーバが停止した場合、処理が正しく行われずに終了する可能性があります。
- 一括処理・一括確認画面では、標準処理画面の同期・非同期の設定は、テナント単位設定にて動作します。
フロー単位設定で、個別に設定をしていますが、テナント単位設定に従って処理を実施します。

インポート/エクスポート

IM-Workflow の各種マスタ定義を別の環境間で移行することができます。

エクスポートの仕様

マスタ定義をXML形式に出力する機能です。
エクスポート時点で設定されているマスタ定義が対象です。
XMLファイルはストレージ配下にエクスポートされます。

%PUBLIC_STORAGE_PATH%/im_workflow/data/<テナントID>/import_export/

※IM-Workflow 8.0.8(2014 Summer)以降では、画面上でエクスポートしたファイルをダウンロードできます。
利用方法は、「[IM-Workflow 管理者操作ガイド](#)」、設定方法は「[5.1.2.28 インポート/エクスポートファイルのアップロード/ダウンロード設定](#)」を参照してください。

インポートの仕様

エクスポートしたXMLファイルのマスタ定義を登録する機能です。
インポートはエクスポートしたXMLファイルを利用してください。
XMLファイルの形式が異なる場合、XMLファイルの読み込みに失敗し、マスタ定義のインポートを行うことができません。
また、XMLファイルの読み込みはストレージから行います。
他の環境でエクスポートしたXMLファイルをインポートする場合は、ストレージに配置する必要があります。

%PUBLIC_STORAGE_PATH%/im_workflow/data/<テナントID>/import_export/

※IM-Workflow 8.0.8(2014 Summer)以降では、XMLファイルを画面からアップロードすることができます。
利用方法は、「[IM-Workflow 管理者操作ガイド](#)」、設定方法は「[5.1.2.28 インポート/エクスポートファイルのアップロード/ダウンロード設定](#)」を参照してください。

IM-Workflow におけるマスタ定義のインポートの仕様は以下の通りです。

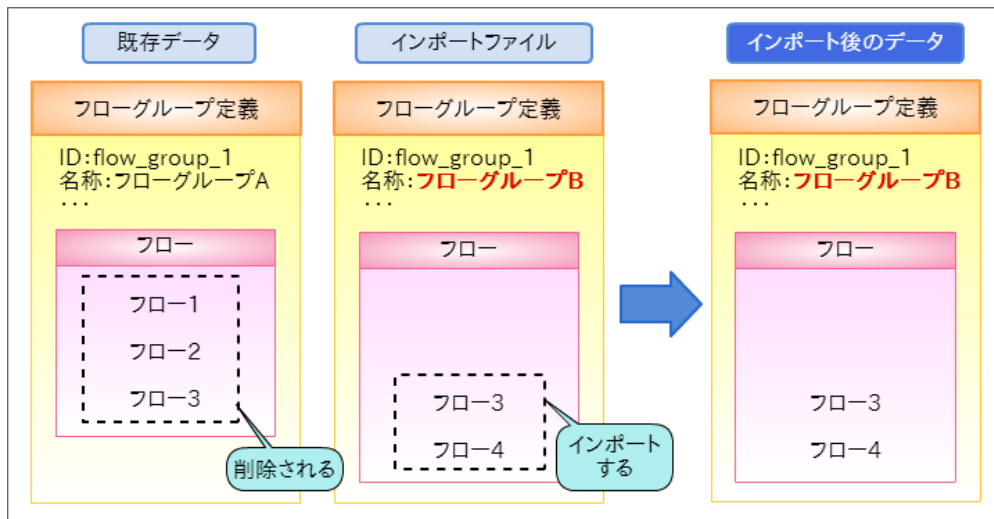
バージョンを持たないマスタ定義のインポート仕様

バージョンを持たないマスタ定義は、マスタ定義のID単位でインポートできます。

対象：代理管理者設定、案件プロパティ定義、一覧表示パターン定義、メール定義、IMBox 定義、ルール定義、フローグループ定義、管理グループ定義

- 同一IDが既存データに存在しないマスタ定義をインポートした場合、マスタ定義の新規登録として処理を行います。
- 同一IDが既存データに存在するマスタ定義をインポートする場合、以下の通り動作します。

バージョンを持たないマスタ定義のインポート



インポートを行うと、マスタ定義を更新し、配下のデータをすべて置き換えます。
上記の図の例では、既存データのフローグループ定義 flow_group_1 をインポートファイルのデータで更新します。
また、フローグループ flow_group_1 に設定されているフローはすべて削除し、インポートファイルのデータにすべて置き換えます。

一覧表示パターン定義インポートに関する注意事項

一覧表示パターン定義の「標準設定」は定義ごと（申請一覧、未処理一覧など）に設定されますので、インポートファイル内に、「標準設定」として設定されている定義が存在する場合、既存データの一覧表示パターン定義に対する「標準設定」は無効です。
インポートした一覧表示パターン定義の「標準設定」が有効なものとして扱われます。

代理管理者設定インポートに関する注意事項

代理管理者設定は、既存データの登録状況に関わらず、必ず既存データを削除した上で、インポートファイルの内容がインポートされます。

バージョンを持つマスタ定義のインポート仕様

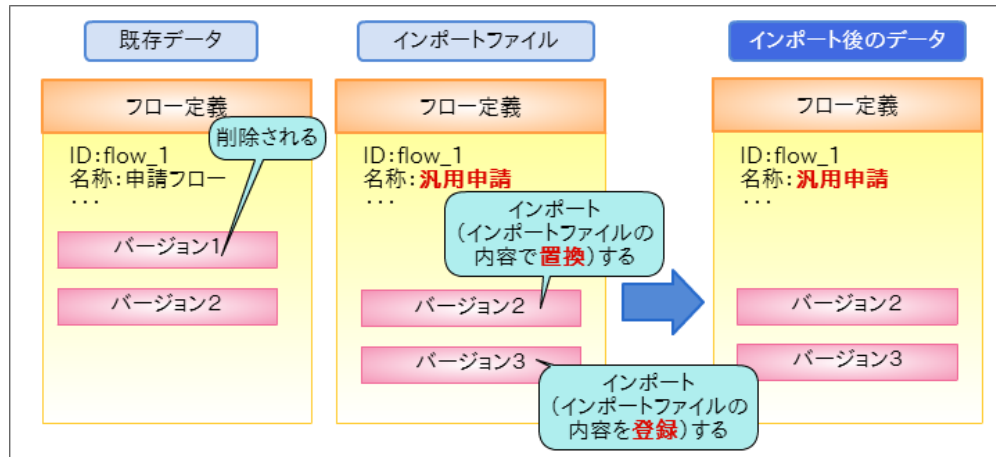
インポート・エクスポートに関して、「コンテンツ定義」「ルート定義」「フロー定義」は、バージョン情報を持っていますが、インポート・エクスポートの単位は定義内のバージョン情報を包括した1定義単位です。

バージョン単位でのインポート・エクスポートを行うことはできません。

対象：コンテンツ定義、ルート定義、フロー定義

- 同一IDが既存データに存在しないマスタ定義をインポートした場合、マスタ定義の新規登録として処理を行います。
- 同一IDが既存データに存在するマスタ定義をインポートする場合、以下の通り動作します。

バージョンを持つマスタ定義のインポート



インポートを行うと、マスタ定義を更新し、配下のデータをすべて置き換えます。

同一IDが既存データに存在する場合、インポート後のバージョンは以下の通りです。

- 図のバージョン1のように既存データのみが存在する場合、既存データの該当バージョンは削除されます。
- 図のバージョン2のように既存データとインポートファイルの両方に存在する場合には、インポートファイルの内容でバージョン情報を置き換えます。
- 図のバージョン3のようにインポートファイルにのみ存在する場合には、該当のバージョンはインポートされます。

インポート後にバージョンが保持する期間で空白・重複期間が発生するような場合には、空白・重複期間とならないように調整されます。

バージョンに含まれるコンテンツ定義の画面、ユーザプログラムやフロー定義のコンテンツ詳細（フロー連携情報）、ルート詳細（ノード連携情報）などについては、「[3.23.2.1 バージョンを持たないマスタ定義のインポート仕様](#)」と同じ方法でインポートを行います。

処理順序

インポート時は上記の整合性チェックが行われるため、既存の定義情報とインポートする定義情報との整合性が保たれるよう、以下の順序でインポートが行われます。

1. 代理管理者設定
2. 案件プロパティ定義
3. 一覧表示パターン定義
4. メール定義
5. IMBox定義
6. ルール定義
7. コンテンツ定義
8. ルート定義
9. フロー定義
10. フローグループ定義
11. 管理グループ定義

マスタ定義インポート時の整合性チェック

整合性チェック（エラー）

以下の整合性チェックでエラーと判断された場合、マスタ定義はインポートされません。

この場合、インポート結果画面ではエラー内容が赤字で表示されます。

マスタ定義	チェック内容
案件プロパティ定義	同一IDの存在チェックを行います。 ([1])
一覧表示パターン定義	同一IDの存在チェックを行います。 ([1])
メール定義	同一IDの存在チェックを行います。 ([1])
IMBox定義	同一IDの存在チェックを行います。 ([1])
ルール定義	定義内で使用されている「案件プロパティ定義」の存在チェックを行います。 定義内で使用されている「案件プロパティ定義」の使用種別に対して、ルールとしての使用可否チェックを行います。 同一IDの存在チェックを行います。 ([1])
フローグループ定義	「親フローグループ」の存在チェックを行います。 同一IDの存在チェックを行います。 ([1])
管理グループ定義	同一IDの存在チェックを行います。 ([1])
コンテンツ定義	同一IDの存在チェックを行います。 ([1])
ルート定義	定義内で使用されているルートXML情報の正当性チェックを行います。 ([2]) 同一IDの存在チェックを行います。 ([1])
フロー定義	定義内で使用されている「コンテンツ定義」と「ルート定義」の存在チェックを行います。 同一IDの存在チェックを行います。 ([1])

[1] ([1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10]) : IM-Workflow 8.0.8(2014 Summer)から整合性チェック対象外になりました。同一IDのマスタ定義が存在する場合は、当該マスタ定義をインポートデータで更新します。

[2] : ルートXML情報の構造チェックを行い、異常である場合はインポートされません。

整合性チェック（警告）

以下の整合性チェックについては、チェックの結果に関わらずマスタ定義をインポートします。

ただし、以下の整合性チェックでエラーと判断された場合には、対象のマスタ定義のインポートは行われますが、エラーの対象となる箇所の設定のみインポートされません。

この場合、インポート結果画面では警告内容が黒字で表示されますので、メッセージ内容に基づいて、対象の箇所を確認し、再設定を行ってください。

マスタ定義	チェック内容
代理管理者設定	定義内で設定されている対象（組織、ロールなど）の存在チェックを行います。
一覧表示パターン定義	一覧表示項目 定義内で使用されている「案件プロパティ定義」の存在チェックを行います。 ([3]) 定義内で使用されている「案件プロパティ定義」の使用種別に対して、一覧表示項目としての使用可否チェックを行います。 ([3])
フローグループ定義	フロー 定義内で設定されている「フロー定義」の存在チェックを行います。
管理グループ	アクセス権限 定義内で設定されている「アクセス権限」（組織、ロールなど）の存在チェックを行います。 会社名 定義内で設定されている「会社」の存在チェックを行います。 ([4]) 管理対象 定義内で設定されている以下の情報の存在チェックを行います。 「コンテンツ定義」 「ルート定義」 「フロー定義」 「メール定義」 「IMBox定義」
コンテンツ定義	メール定義 定義内で使用されている「メール定義」の存在チェックを行います。 ([3]) IMBox定義 定義内で使用されている「IMBox定義」の存在チェックを行います。 ([5]) ルール定義 定義内で使用されている「ルール定義」の存在チェックを行います。 ([3])
ルート定義	処理対象者 定義内で使用されている「処理対象者」の存在チェックを行います。
フロー定義	参照者 定義内で設定されている「参照者」の存在チェックを行います。 標準組織 定義内で設定されている「標準組織」の存在チェックを行います。

マスタ定義	チェック内容
コンテンツ詳細	コンテンツ詳細として設定されている以下の情報の存在チェックを行います。 「画面」 「ユーザプログラム」 「メール定義」 「IMBox定義」 ([5])
ルート詳細	ルート詳細として設定されている以下の情報の存在チェックを行います。 「画面」 「ユーザプログラム」 「メール定義」 「IMBox定義」 ([5]) 「ルール定義」

[3] ([1, 2, 3, 4]) : IM-Workflow 8.0.7(2014 Spring)以前の環境では、エラーとしてインポートされません。

[4] ([1, 2]) : IM-Workflow 8.0.7(2014 Spring)以前の環境では、会社名の設定内容をそのまま登録します。

[5] ([1, 2, 3, 4]) : IM-Workflow 8.0.7(2014 Spring)以前の環境では、IMBox 定義の設定内容をそのまま登録します。



注意

IM-Workflow 8.0.7(2014 Spring)以前の環境において、[4] または [5] に該当する状態でインポートが完了している場合、マスタ定義に不整合が発生しています。

そのため、当該マスタを利用した案件の申請や処理が正常に行えない場合があります。

処理を正常に行うためには、不足しているマスタデータやマスタ定義の登録を行ってください。

ロケール情報のインポート仕様

インポート元・インポート先のシステムで利用可能なロケールに差異がある場合、以下の通りにロケール情報の補完、または削除を行います。

- インポート先のシステムで利用可能なロケールの数 > インポートファイルのロケール数
 - インポートファイルのロケール数が1つの場合、インポートファイルのロケール情報を不足しているロケールにコピーして設定します。
 - インポートファイルのロケール数が2つ以上の場合、インポートを実行しているログインユーザのロケールに合致したインポートファイルのロケール情報を不足しているロケールにコピーして設定します。
(ログインユーザのロケールと合致しない場合、インポートファイルに含まれるロケールの1つを不足しているロケールに設定します。)
- インポート先のシステムで利用可能なロケールの数 < インポートファイルのロケール数
 - インポートファイル内のロケール情報のうち、インポート先にはないロケールの情報は削除されます。

処理対象者標準プラグイン結果キャッシュ

処理対象者標準プラグイン結果キャッシュについて解説します。

処理対象者標準プラグイン結果キャッシュとは

処理対象者標準プラグイン結果キャッシュとは、製品標準で提供している処理対象者プラグインの実行処理結果をキャッシュとして保存する機能です。

処理対象者プラグイン実行処理を減らすことで、システム全体の負荷を軽減することを目的とする機能です。

処理対象者標準プラグイン結果キャッシュの設定方法は「[処理対象者標準プラグイン結果キャッシュ設定](#)」を参照してください。

処理対象者標準プラグイン結果キャッシュの対象

処理対象者標準プラグイン結果キャッシュの対象は以下の通りです。

- 「[処理権限者](#)」
- 「[振替](#)」
- 「[確認対象者](#)」
- 「[案件操作権限者](#)」

処理対象者標準プラグイン結果キャッシュの単位

処理対象者標準プラグイン結果キャッシュは以下のキーで作成されます。

処理対象者標準プラグイン結果キャッシュのキー項目

キー項目	補足
ロケールID	-
テナントID	-
処理対象者プラグイン クラス名	-
処理対象者プラグイン メソッド名	-
基準日	申請基準日またはシステム日
パラメータ	処理対象者標準プラグイン毎に設定されるパラメータ

キーに対して有効期限と処理対象者プラグイン実行結果を保持します。

処理対象者標準プラグイン結果キャッシュのライフサイクル

処理対象者標準プラグイン結果キャッシュの作成、更新、削除されるタイミングについて解説します。

処理対象者標準プラグイン結果キャッシュが作成されるタイミング

処理対象者プラグイン利用時に、処理対象者標準プラグイン結果キャッシュに対象データが存在しない場合、実行結果をキャッシュとして保持します。
 処理対象者標準プラグイン結果キャッシュの有効期限は「システム日付+処理対象者標準プラグイン結果キャッシュ保存時間」の設定値です。
 ※処理対象者標準プラグイン結果キャッシュ保存時間の設定方法は「[処理対象者標準プラグイン結果キャッシュ設定](#)」を参照してください。

処理対象者標準プラグイン結果キャッシュが更新されるタイミング

処理対象者プラグイン利用時に、処理対象者標準プラグイン結果キャッシュに対象データが存在する場合、対象データが処理対象者標準プラグイン結果キャッシュの有効期限内であれば、有効期限を「システム日付+処理対象者標準プラグイン結果キャッシュ保存時間」で更新します。

処理対象者標準プラグイン結果キャッシュが削除されるタイミング

処理対象者標準プラグイン結果キャッシュが削除されるタイミングは以下の通りです。

- 処理対象者プラグイン利用時に、有効期限が超過している処理対象者標準プラグイン結果キャッシュは、削除されます。
削除対象は、有効期限が超過しているすべてのデータです。
- 処理対象者標準プラグイン結果キャッシュ作成時に、処理対象者標準プラグイン結果キャッシュ保存最大数（※）を超過していた場合、有効期限が最も近いデータが削除されます。
※処理対象者標準プラグイン結果キャッシュ保存最大数の設定方法は「[処理対象者標準プラグイン結果キャッシュ設定](#)」を参照してください。
処理対象者標準プラグイン結果キャッシュ保存最大数は、システム単位に設定できます。
パーチャルテナントが複数存在した場合も、システム単位に設定できます。

明示的に処理対象者標準プラグイン結果キャッシュを削除する場合は、以下の方法を実行してください。

- 「処理対象者標準プラグイン結果キャッシュ削除」ジョブを実行する。
詳細は、「[ジョブ一覧](#)」-「[処理対象者標準プラグイン結果キャッシュ削除](#)」を参照してください。
- アプリケーションサーバを再起動する。

対象者を展開する日付

処理対象者や確認対象者などの対象者を展開する日付は、基本として申請基準日です。
 また、ノード処理対象者も再展開する日付は、基本として申請基準日です。
 詳細については下記を参照してください。

申請基準日で各対象者を展開

申請基準日で各対象者を展開、再展開する仕様について以下に示します。

- 申請者
 - 詳細は「[3.9.2.4 処理権限者の展開](#)」を参照。
- 処理権限者
 - 詳細は「[3.9.2.4 処理権限者の展開](#)」を参照。
- 確認対象者
 - 詳細は「[3.11.2.3 確認対象者の展開](#)」を参照。
※展開する日付は“申請基準日”です。
- 案件操作権限者
 - 詳細は「[3.2.5.1 案件操作権限者のデータ構造](#)」を参照。

- ノード処理対象者の再展開
 - 詳細は「[3.12.3.4 ノード処理対象者再展開](#)」を参照。
- 振替先
 - 詳細は「[3.9.4.2 振替先の展開](#)」を参照。

申請基準日以外で各対象者を展開

IM-Workflow 8.0.9 の追加機能により、対象者を申請基準日以外で展開することができるようになりました。
追加した機能は以下の2つです。

- 追加機能1（フロー定義の機能に「対象者を展開する日」を追加）
 - フロー定義の機能に「対象者を展開する日」を追加しました。
 - 「対象者を展開する日」を“申請基準日”とすると対象者を展開する日付には申請基準日が設定されます。
 - 「対象者を展開する日」を“システム日”とすると対象者を展開する日付には現在日付が設定されます。
 - 「対象者を展開する日」の初期値は“申請基準日”です。
 - IM-Workflow 8.0.8以前のバージョンで作成したフロー定義の「対象者を展開する日」には“申請基準日”が設定されます。
- 追加機能2（対象者を一括で再展開することができるジョブ）
 - 対象者を一括で展開することができるジョブで機能を追加しました。
 - IM-Workflow 8.0.8では案件操作者を一括で再展開するジョブ「参照者再展開ジョブ」を追加しました。
 - IM-Workflow 8.0.9では処理権限者を一括で再展開するジョブ「処理対象者再展開ジョブ」、確認対象者を一括で再展開するジョブ「確認対象者ジョブ」を追加しました。
 - ジョブ単位に基準日のモードを設定することができます。

以下に各対象者における申請基準日以外で展開、再展開する仕様を記述します。

申請基準日以外での申請者

フロー定義の機能の「対象者を展開する日」を“システム日”としたフロー定義を申請することによって、現在日付で案件を申請することができます。
「対象者を展開する日」を“システム日”としたフロー定義を申請する場合、申請基準日に現在日付以外を指定することはできません。

申請基準日以外での処理権限者の展開／再展開

フロー定義の機能の「対象者を展開する日」を“システム日”としたフロー定義で申請された案件の場合、処理権限者は現在日付で展開します。
また、処理権限者の再展開は、ジョブ「処理対象者再展開」を使用することで一括に再展開することができます。
当該ジョブは3つのモードが存在します。

- 各案件が開始したときに、コピーしたフロー定義の「対象者を展開する日」の日付を基準日としてノードに設定されている対象者を再展開するモード（baseDateType=matter）
- 現在日付を基準日としてノードに設定されている対象者を再展開するモード（baseDateType=sys-date）
- 任意の日付を指定し、その日付を基準日として再展開するモード（baseDateType=specified-date）

※詳細は「[4.1 ジョブ一覧](#)」の「処理対象者再展開」を参照。

申請基準日以外での確認対象者の展開／再展開

フロー定義の機能の「対象者を展開する日」を“システム日”としたフロー定義で申請された案件の場合、確認対象者は現在日付で展開します。
また、確認対象者の再展開は、ジョブ「処理対象者再展開」を使用することで一括に再展開することができます。
当該ジョブは3つのモードが存在します。

- 各案件が開始したときに、コピーしたフロー定義の「対象者を展開する日」の日付を基準日としてノードに設定されている対象者を再展開するモード（baseDateType=matter）
- 現在日付を基準日としてノードに設定されている対象者を再展開するモード（baseDateType=sys-date）
- 任意の日付を指定し、その日付を基準日として再展開するモード（baseDateType=specified-date）

※詳細は「[4.1 ジョブ一覧](#)」の「確認対象者」を参照。

申請基準日以外での案件操作権限者の展開／再展開

フロー定義の機能の「対象者を展開する日」を“システム日”としたフロー定義で申請された案件の場合、案件操作権限者は現在日付で展開します。
また、案件操作権限者の再展開は、ジョブ「参照者再展開」を使用することで一括に再展開することができます。
当該ジョブは3つのモードが存在します。

各案件が開始したときに、コピーしたフロー定義の「対象者を展開する日」の日付を基準日としてノードに設定されている対象者を再展開するモード（baseDateType=matter）
現在日付を基準日としてノードに設定されている対象者を再展開するモード（baseDateType=sys-date）
任意の日付を指定し、その日付を基準日として再展開するモード（baseDateType=specified-date）

※詳細は「[4.1 ジョブ一覧](#)」の「確認対象者」を参照。

また、当該ジョブには注意事項「[4.2 参照者再展開ジョブ](#)」が存在します。

申請基準日以外での振替先の展開／再展開

フロー定義の機能の「対象者を展開する日」を“システム日”としたフロー定義で申請された案件の場合、振替先は現在日付で展開します。

また、振替先の再展開は存在しません。

また、ノード処理対象者再展開やジョブ「処理対象者再展開」は振替先を削除します。

一括処理対象者変更

IM-Workflow 8.0.12の機能追加により、処理対象者を一括で変更出来るようになりました。

詳細については下記を参照してください。

操作方法是「[IM-Workflow 管理者操作ガイド](#)」を参照してください。

当該機能の利用目的

離職や急な欠勤などで、欠勤者に処理依頼されている案件を別のユーザに変更したい場合に利用します。

当該機能について

- 指定された「変更元」ユーザが処理待ちの案件（ノード単位）を一覧に表示します。
- 一覧から選択された案件（ノード単位）に対して、指定された「変更先」の処理対象のユーザを展開します。
詳細は以下の通りに動作します。
 - 変更対象の案件（ノード）に指定された処理対象設定をすべて削除します。
 - 「変更先」の処理対象のユーザを展開します。
- 「変更先」処理対象者となるユーザに変更通知メール、および IMBox メッセージを通知します。

基準日について

- 変更元の検索
 - デフォルトはシステム日で検索します。
システム日時時点で有効でない変更元を検索する場合は、IM-共通マスタ 検索画面の基準日を変更してください。
- 処理対象者変更を行ったノードでは、以降の処理はシステム日が基準日に設定されます。
 - 以下がシステム日を基準日として動作します。
 - 処理対象者の展開
 - [処理対象者状況確認]の表示
 - [処理対象者]検索基準日
 - 履歴参照画面の表示（処理対象者変更を行ったノードの処理対象者名）
 - これにより差戻し等で前ノードに戻った後、処理対象者変更を行ったノードに再到達した場合は、システム日で処理対象者が展開されます。
 - 当該機能の利用目的上、処理時点で有効なユーザに処理を依頼するものであるため、このような仕様としています。
 - 横配置ノード、縦配置ノードが再展開された場合は、ノードIDが振り替わるため、各ノードの基準日はフロー定義の「対象者を展開する日」の設定に従います。

他の機能との関連について

- 保留について
 - 保留中のノードに対して、処理対象者変更を実行すると、保留解除の通知メール、および IMBox メッセージが変更前のユーザに送信されます。
- ノード編集画面について
 - 処理対象者変更処理の変更先に指定した処理対象者プラグインは、通常のノード編集画面で追加できるプラグインとは別のプラグインとして扱われます。
そのため、通常のノード編集画面において、重複チェックの対象外として扱われます。
 - 【例】処理対象者変更画面の変更先に「ユーザ：青柳辰巳」を設定した場合に、案件操作の対象ノードの編集画面で「ユーザ：青柳辰巳」を追加すると2重で登録されます。
- 処理対象者再展開ジョブについて
 - 処理対象者変更を行ったノードに対して、処理対象者再展開ジョブを実行した場合の基準日は以下の通りです。
 - 「baseDateType」が「matter」の場合：システム日を基準日として処理対象者を再展開します。
 - 「baseDateType」が「specified-date」の場合：「baseDate」で指定された日付を基準日として処理対象者を再展開します。

振替、および一括処理対象者変更の履歴表示

IM-Workflow 8.0.12の機能追加により、履歴表示画面にて振替、および一括処理対象者変更の履歴が表示出来るようになりました。

他の機能との関連について

- 「参照」 - 「案件操作」の処理対象者の編集、再展開は履歴に表示されません。

タイムゾーン

IM-Workflow の画面や履歴等で表示する日付とタイムゾーンの関係について、説明します。

IM-Workflow で利用する日付とタイムゾーン

IM-Workflow で利用する日付には、以下の種類があり、表示・登録する際のタイムゾーンが異なります。

日付・日付の種類	利用するタイムゾーン
申請基準日	タイムゾーンは考慮されません。 フロー定義のバージョンを指定するための表示のみを目的とした日付です。
申請日（画面）	ユーザタイムゾーンで表示されます。
申請日（workflowMatterDataタグ）	ユーザタイムゾーンで表示されます。
処理日時（処理履歴の表示内容）	ユーザタイムゾーンで表示されます。
印影の日付	テナントのタイムゾーンで表示されます。

申請者承認防止処理

案件の申請者が、当該案件に対して承認 / 承認終了 / 否認 / 保留を行うことを防止する機能を用意しています。
当処理は、承認ノードにおけるアクション処理として設定することのできるユーザプログラムとして提供します。

承認防止パターン

動作対象のノードは承認ノードです。

防止対象の処理種別は以下の通りです。

- 承認
- 承認終了
- 否認
- 保留

申請者と処理実行者の組み合わせごとの処理結果は以下の通りです。

申請者が青柳辰巳の場合

処理実行者	処理種別			
	承認	承認終了	否認	保留
青柳辰巳	✖	✖	✖	✖
上田辰男	✔	✔	✔	✔
関根千香（青柳辰巳の代理先）	✖	✖	✖	✖
青柳辰巳（上田辰男の代理先）	✖	✖	✖	✖

✔ : 正常処理 ✖ : エラー出力

申請者が関根千香（青柳辰巳の代理先）の場合

処理実行者	処理種別			
	承認	承認終了	否認	保留
青柳辰巳	✖	✖	✖	✖
上田辰男	✔	✔	✔	✔
関根千香（青柳辰巳の代理先）	✖	✖	✖	✖

処理実行者	処理種別			
	承認	承認終了	否認	保留
青柳辰巳（上田辰男の代理先）	✕	✕	✕	✕

✓ : 正常処理 ✕ : エラー出力



コラム

この機能は、intra-mart Accel Platform 2016 Summer(Nirvana) より追加されました。



コラム

承認ノードに複数のアクション処理を設定する場合は、当ユーザプログラムが最初に実行されるよう実行順番を設定することを推奨します。



注意

当ユーザプログラムと、到達処理のユーザプログラムである自動承認を同時に設定すると、申請者と自動承認実行者の組み合わせによっては自動承認が防止される場合があります。

遷移先プラグインに関する設定

IM-Workflow には戻り先を指定できる遷移先プラグイン機能があります。
「申請一覧」、「案件一覧」を利用する場合の設定については下記を参照してください。

「申請一覧」、「案件一覧」を利用する場合の遷移先プラグインに関する設定

2019 Spring(Violette) より「申請一覧」、「案件一覧」が追加されました。
基本的には、一覧からの遷移時の処理画面において「戻る」、「申請等の処理」を行った場合はそれぞれ遷移元の一覧へ遷移します。
ただし、遷移元の一覧を特定できないような以下のケースにおいては「申請一覧」、「案件一覧」へ遷移しません。

- 申請ポートレットの「申請／処理開始画面へ」リンクを押下した際の遷移先
- 参照依頼等のショートカットURLを押下した際の遷移先

この遷移先を「申請一覧」、「案件一覧」にするための設定ファイルの変更内容を説明します。

【IM-Workflowを利用している場合】

- 設定ファイル

```
plugin/jp.co.intra_mart.workflow.plugin.path.list_page.resolvers_8.0.22/plugin.xml
```

- 変更内容

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<plugin>
  <extension
    point="jp.co.intra_mart.workflow.plugin.path.list_page.resolvers" >
    <listpagepath
      id="jp.co.intra_mart.workflow.plugin.path.list_page.resolvers.workflow"
      version="8.0.22"
      rank="900"
      enable="true">
      <extend>
        <java class="jp.co.intra_mart.system.workflow.plugin.path.list_page.WorkflowListPagePathResolver" />
      </extend>
    </listpagepath>
    <listpagepath
      id="jp.co.intra_mart.workflow.plugin.path.list_page.resolvers.workflow.spa"
      version="8.0.22"
      rank="850"
      enable="false"> <!-- enable="true"にしてください -->
      <extend>
        <java class="jp.co.intra_mart.system.workflow.plugin.path.list_page.WorkflowSpaListPagePathResolver" />
      </extend>
    </listpagepath>
  </extension>
</plugin>
```

- 設定ファイル

```
plugin/jp.co.intra_mart.workflow.plugin.path.list_page.resolvers_8.0.22/plugin.xml
```

- 変更内容

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<plugin>
  <extension
    point="jp.co.intra_mart.workflow.plugin.path.list_page.resolvers" >
    <listpagepath
      id="jp.co.intra_mart.workflow.plugin.path.list_page.resolvers.workflow"
      version="8.0.22"
      rank="900"
      enable="true">
        <extend>
          <java class="jp.co.intra_mart.system.workflow.plugin.path.list_page.WorkflowListPagePathResolver" />
        </extend>
      </listpagepath>
      <listpagepath
        id="jp.co.intra_mart.workflow.plugin.path.list_page.resolvers.workflow.spa"
        version="8.0.22"
        rank="850"
        enable="false"> <!-- rank="750" enable="true" にしてください -->
          <extend>
            <java class="jp.co.intra_mart.system.workflow.plugin.path.list_page.WorkflowSpaListPagePathResolver" />
          </extend>
        </listpagepath>
      </extension>
    </plugin>
```

ジョブ

ジョブ一覧

機能	ジョブ名	説明
自動処理	処理期限自動処理	ノードに到達後、指定期間を過ぎた場合、案件を自動処理するためのジョブです。
自動催促	催促メール送信	ノードに到達後、指定期間を過ぎた場合、催促メールを送信するためのジョブです。
	催促IMBox送信	ノードに到達後、指定期間を過ぎた場合、催促IMBoxを送信するためのジョブです。
アーカイブ	アーカイブ	トランザクションデータをアーカイブするためのジョブです。
アラート	処理対象者無し検出	処理対象者の展開処理を行った際、処理対象者がいないノードを検出するためのジョブです。
	処理停止検出（分岐開始）	分岐開始ノードにて、後方のいずれのノードにも進めない状態を検出するためのジョブです。
	処理停止検出（分岐終了）	分岐終了ノードにて、後方のいずれのノードにも進めない状態を検出するためのジョブです。
	処理中案件検出（経過日時指定）	案件が申請されてから指定日数／指定時間を経過しても完了していない案件を検出するためのジョブです。
	処理中ノード検出（経過日時指定）	ノードに到達してから指定日数／指定時間を経過しても処理されていないノードを検出するためのジョブです。
モニタリング	モニタリング更新	モニタリングを行う為に必要なモニタリングを集計するためのジョブです。
同期ジョブ	代理先同期	代理先に対して同期処理を行うためのジョブです。 代理設定一時展開情報に対し、各種マスタ変更内容を反映します。
印影	常用印作成	印影が作成されていないユーザの常用印を作成するためのジョブです。
プラグイン結果 キャッシュ シュクリ ア	処理対象者標準プラグイン結果キャッシュ削除	処理対象者標準プラグインの結果キャッシュ情報を全て削除するためのジョブです。
データ移行	未完了案件XMLデータ移行(File ->Database LOB)	ストレージに保存されている未完了案件のトランザクションXMLファイルをデータベースに移行するためのジョブです。
	未完了案件XMLデータ移行(Database LOB->File)	データベースに保存されている未完了案件のXMLデータをトランザクションXMLファイルデータとして移行するためのジョブです。
	完了案件XMLデータ移行(File ->Database LOB)	ストレージに保存されている完了案件のトランザクションXMLファイルをデータベースに移行するためのジョブです。
	完了案件XMLデータ移行(Database LOB->File)	データベースに保存されている完了案件のXMLデータをトランザクションXMLファイルデータとして移行するためのジョブです。
	過去案件XMLデータ移行(File ->Database LOB)	ストレージに保存されている過去案件のトランザクションXMLファイルをデータベースに移行するためのジョブです。
	過去案件XMLデータ移行(Database LOB->File)	データベースに保存されている過去案件のXMLデータをトランザクションXMLファイルデータとして移行するためのジョブです。
	案件添付ファイル移行(File ->Database LOB)	ストレージに保存されている案件の添付ファイルをデータベースに移行するためのジョブです。
	案件添付ファイルデータ移行(Database LOB->File)	データベースに保存されている案件の添付ファイルをストレージに移行するためのジョブです。
再展開	参照者再展開	指定されたフローに関する案件の参照者を再展開するためのジョブです。
	確認対象者再展開	指定されたフローに関する案件の確認対象者を再展開するためのジョブです。
	処理対象者再展開	指定されたフローに関する案件の処理対象者を再展開するためのジョブです。
圧縮・解凍	未完了案件トランザクションXMLファイル圧縮	パブリックストレージに保存されている未完了案件のトランザクションXMLファイルをZIP形式で圧縮するためのジョブです。
	完了案件トランザクションXMLファイル圧縮	パブリックストレージに保存されている完了案件のトランザクションXMLファイルをZIP形式で圧縮するためのジョブです。

機能	ジョブ名	説明
	過去案件トランザクションXMLファイル圧縮	パブリックストレージに保存されている過去案件のトランザクションXMLファイルをZIP形式で圧縮するためのジョブです。
	未完了案件トランザクションXMLファイル解凍	パブリックストレージに保存されている未完了案件のトランザクションXMLファイル（ZIP圧縮済みのファイル）を解凍するためのジョブです。
	完了案件トランザクションXMLファイル解凍	パブリックストレージに保存されている完了案件のトランザクションXMLファイル（ZIP圧縮済みのファイル）を解凍するためのジョブです。
	過去案件トランザクションXMLファイル解凍	パブリックストレージに保存されている過去案件のトランザクションXMLファイル（ZIP圧縮済みのファイル）を解凍するためのジョブです。
データ削除	旧ノード連携情報削除	旧ノード連携情報を削除するためのジョブです。
データ補完	トランザクションテーブルデータ補完（フローID）	新規追加したフローIDカラムのデータを案件テーブルのフローIDカラムのデータで補完します。

処理期限自動処理

ジョブ概要

ノードに到達後、指定期間を過ぎた場合、案件を自動処理します。
動作仕様については「[処理期限自動処理](#)」をあわせて参照してください。

実行パラメータ

このジョブにはパラメータ指定はありません。

ジョブネット

- このジョブが使用するジョブネットです。
処理期限自動処理

催促メール送信

ジョブ概要

ノードに到達後、指定期間を過ぎた場合、催促メールを送信します。
動作仕様については「[自動催促](#)」をあわせて参照してください。

実行パラメータ

このジョブにはパラメータ指定はありません。

ジョブネット

- このジョブが使用するジョブネットです。
催促メール送信

催促IMBox送信

ジョブ概要

ノードに到達後、指定期間を過ぎた場合、催促IMBoxを送信します。
動作仕様については「[自動催促](#)」をあわせて参照してください。

実行パラメータ

このジョブにはパラメータ指定はありません。

ジョブネット

- このジョブが使用するジョブネットです。
催促IMBox送信

アーカイブ

ジョブ概要

トランザクションデータをアーカイブします。
動作仕様については「[アーカイブ](#)」をあわせて参照してください。

実行パラメータ

このジョブにはパラメータ指定はありません。

ジョブネット

- このジョブが使用するジョブネットです。
アーカイブ

処理対象者無し検出

ジョブ概要

処理対象者の展開処理を行った際、処理対象者がいないノードを検出します。
動作仕様については「[処理対象者無し検出ジョブ](#)」をあわせて参照してください。

実行パラメータ

このジョブにはパラメータ指定はありません。

ジョブネット

- このジョブが使用するジョブネットです。
処理対象者無し検出

処理停止検出（分岐開始）

ジョブ概要

分岐開始ノードにて、後方のいずれのノードにも進めない状態を検出します。
動作仕様については「[処理停止検出（分岐開始）ジョブ](#)」をあわせて参照してください。

実行パラメータ

このジョブにはパラメータ指定はありません。

ジョブネット

- このジョブが使用するジョブネットです。
処理停止検出（分岐開始）

処理停止検出（分岐終了）

ジョブ概要

分岐終了ノードにて、後方のいずれのノードにも進めない状態を検出します。
動作仕様については「[処理停止検出（分岐終了）ジョブ](#)」をあわせて参照してください。

実行パラメータ

このジョブにはパラメータ指定はありません。

ジョブネット

- このジョブが使用するジョブネットです。

処理中案件検出（経過日時指定）

ジョブ概要

案件が申請されてから指定日数／指定時間を経過しても完了していない案件を検出します。
動作仕様については「[処理中案件検出（経過日時指定）ジョブ](#)」をあわせて参照してください。

実行パラメータ

このジョブにはパラメータ指定はありません。

ジョブネット

- このジョブが使用するジョブネットです。

処理中案件検出（経過日時指定）

処理中ノード検出（経過日時指定）

ジョブ概要

ノードに到達してから指定日数／指定時間を経過しても処理されていないノードを検出します。
動作仕様については「[処理中ノード検出（経過日時指定）ジョブ](#)」をあわせて参照してください。

実行パラメータ

このジョブにはパラメータ指定はありません。

ジョブネット

- このジョブが使用するジョブネットです。

処理中ノード検出（経過日時指定）

モニタリング更新

ジョブ概要

モニタリングを行う為に必要な完了案件情報を集計します。
動作仕様については「[モニタリング](#)」をあわせて参照してください。

実行パラメータ

このジョブにはパラメータ指定はありません。

ジョブネット

- このジョブが使用するジョブネットです。

モニタリング更新

代理先同期

ジョブ概要

代理先に対して同期処理を行います。
代理設定一時展開情報に対し、各種マスタ変更内容を反映します。
動作仕様については「[代理先同期ジョブ](#)」をあわせて参照してください。

実行パラメータ

- ジョブに指定するパラメータリストです。

キー	値	名前	必須	デフォルト値
deleteInvalidActConfig	true	無効な代理設定の削除要否		true

- **deleteInvalidActConfig**（無効な代理設定の削除要否）

代理先同期ジョブの実行結果として、代理設定一時展開情報が0件となった無効な代理設定の削除要否を指定します。

設定値	説明
true	無効な代理設定を削除します。
false	無効な代理設定を削除しません。

ジョブネット

- このジョブが使用するジョブネットです。

代理先同期

常用印作成

ジョブ概要

印影が作成されていないユーザの常用印を作成します。

一人のユーザに対して、標準で提供している印影種別の [3 段表示] と [縦表示（大）] の印影を作成します。

[3 段表示] の印影が常用印に設定されます。

本処理は、常用印の有無に関わらず、作成済みの印影が 1 個以上あるユーザに対しては行いません。

実行パラメータ

このジョブにはパラメータ指定はありません。

ジョブネット

- このジョブが使用するジョブネットです。

常用印作成

処理対象者標準プラグイン結果キャッシュ削除

ジョブ概要

処理対象者標準プラグインの結果キャッシュ情報を全て削除します。

標準プラグイン結果キャッシュではIM共通マスタの情報がキャッシュされています。

IM共通マスタの情報を変更した等の理由でキャッシュ情報を任意のタイミングで削除したい場合に、本ジョブを実行します。

実行パラメータ

- ジョブに指定するパラメータリストです。

キー	値	名前	必須	デフォルト値
cacheClearScope	tenant	キャッシュ削除範囲		tenant

- **cacheClearScope**（キャッシュ削除範囲）

処理対象者標準プラグイン結果キャッシュを削除する範囲を指定します。

パラメータの指定がない場合は、ジョブ実行時のテナントのキャッシュ情報を削除します。

テナント環境セットアップ直後は "tenant" が指定されています。

設定値	説明
tenant	ジョブ実行時のテナントのキャッシュ情報を削除します。
system	すべてのテナントのキャッシュ情報を削除します。

ジョブネット

- このジョブが使用するジョブネットです。

処理対象者標準プラグイン結果キャッシュ削除

未完了案件XMLデータ移行(File ->Database LOB)

ジョブ概要

ストレージに保存されているトランザクションXMLファイルをデータベースに移行します。



注意

- IM-Workflowに関連するジョブと、当該ジョブが並列で実行されることが無いように注意してください。
- 非同期-タスクキュー一覧の並列タスクキューに、待機中または処理中のタスクがある場合は、当該ジョブを実行しないでください。
- 当該ジョブ実行中には、案件に対する処理を行わないでください。

いずれも、トランザクションデータおよび案件の添付ファイルに不整合が発生 する可能性があるため注意してください。

また、移行件数やファイルサイズに応じてジョブの実行時間が長くなる点に留意する必要があります。

なお、非同期-タスクキュー一覧の並列タスクキューを参照する方法については「[システム管理者操作ガイド](#)」-「[非同期-タスクキュー一覧](#)」を参照してください。

実行パラメータ

- ジョブに指定するパラメータリストです。

キー	値	名前	必須	デフォルト値
systemMatterId		システム案件ID		
deleteFlag	false	削除フラグ		false

- systemMatterId (システム案件ID)**

特定の案件のみを移行する場合に、移行対象のシステム案件IDを指定します。

複数の場合は「,」で区切ります。

設定しない場合はすべての未完了案件が対象です。

- deleteFlag (削除フラグ)**

移行した後にストレージのトランザクションXMLファイルを削除するかを設定します。

設定がない場合、または「false」を設定した場合は、トランザクションXMLファイルを残します。

設定値	説明
true	ストレージのトランザクションXMLファイルを削除します。
false	ストレージのトランザクションXMLファイルを削除しません。

ジョブネット

- このジョブが使用するジョブネットです。

未完了案件XMLデータ移行(File->Database LOB)

未完了案件XMLデータ移行(Database LOB->File)

ジョブ概要

データベースに保存されているXMLデータをトランザクションXMLファイルデータとして移行します。

**注意**

- IM-Workflowに関連するジョブと、当該ジョブが並列で実行されることが無いように注意してください。
- 非同期-タスクキュー一覧の並列タスクキューに、待機中または処理中のタスクがある場合は、当該ジョブを実行しないでください。
- 当該ジョブ実行中には、案件に対する処理を行わないでください。

いずれも、トランザクションデータおよび案件の添付ファイルに不整合が発生 する場合がありますため注意してください。

また、移行件数やファイルサイズに応じてジョブの実行時間が長くなる点に留意する必要があります。

なお、非同期-タスクキュー一覧の並列タスクキューを参照する方法については「[システム管理者操作ガイド](#)」-「[非同期-タスクキュー一覧](#)」を参照してください。

**コラム**

「[トランザクションファイル \(XMLファイル\) 圧縮可否](#)」の設定を「圧縮する」としている場合、トランザクションXMLファイルデータは ZIP 形式で圧縮された状態でストレージに移行されます。

実行パラメータ

- ジョブに指定するパラメータリストです。

キー	値	名前	必須	デフォルト値
systemMatterId		システム案件ID		
deleteFlag	false	削除フラグ		false

- systemMatterId (システム案件ID)**

特定の案件のみを移行する場合に、移行対象のシステム案件IDを指定します。

複数の場合は「,」で区切ります。

設定しない場合はすべての未完了案件が対象です。

- deleteFlag (削除フラグ)**

移行した後にデータベースのデータを削除するかを設定します。

設定がない場合、または「false」を設定した場合は、データベースのデータを残します。

設定値	説明
true	データベースのデータを削除します。
false	データベースのデータを削除しません。

ジョブネット

- このジョブが使用するジョブネットです。

未完了案件XMLデータ移行(Database LOB->File)

完了案件XMLデータ移行(File ->Database LOB)**ジョブ概要**

ストレージに保存されている完了案件のトランザクションXMLファイルをデータベースに移行します。

ジョブ実行後には、移行前の完了案件のトランザクションXMLファイルを削除します。

**注意**

- IM-Workflowに関連するジョブと、当該ジョブが並列で実行されることが無いように注意してください。
- 非同期-タスクキュー一覧の並列タスクキューに、待機中または処理中のタスクがある場合は、当該ジョブを実行しないでください。
- 当該ジョブ実行中には、案件に対する処理を行わないでください。

いずれも、トランザクションデータおよび案件の添付ファイルに不整合が発生 する場合がありますため注意してください。

なお、非同期-タスクキュー一覧の並列タスクキューを参照する方法については「[システム管理者操作ガイド](#)」-「[非同期-タスクキュー一覧](#)」を参照してください。

! 注意

当該ジョブでは、移行対象の案件数や案件のトランザクションデータのサイズに比例して処理時間が長くなります。
パラメータの「recordCounts」の値を初期値の1000から変更して多くの案件の移行を行う場合には、上記の点を考慮して実行するようにしてください。

実行パラメータ

- ジョブに指定するパラメータリストです。

キー	値	名前	必須	デフォルト値
systemMatterId		システム案件ID		
recordCounts	1000	移行対象件数		

- systemMatterId (システム案件ID)**

特定の案件のみを移行する場合に、移行対象のシステム案件IDを指定します。
複数の場合は「,」で区切ります。
設定しない場合はすべての完了案件が対象です。

- recordCounts (移行対象件数)**

移行対象とする案件数の上限値を指定します。
「systemMatterId」が指定されている場合、「systemMatterId」で指定した案件を対象とし、「recordCounts」の設定値は無視されます。
「recordCounts」が指定されている場合、申請日の降順（申請日が新しい順）で移行処理を行います。
「systemMatterId」、「recordCounts」の両方が指定されていない場合、すべての完了案件の移行処理を行います。

ジョブネット

- このジョブが使用するジョブネットです。
完了案件XMLデータ移行(File->Database LOB)

完了案件XMLデータ移行(Database LOB->File)

ジョブ概要

データベースに保存されている完了案件のXMLデータをトランザクションXMLファイルデータとして移行します。
ジョブ実行後には、移行前の完了案件のXMLデータを削除します。

! 注意

- IM-Workflowに関連するジョブと、当該ジョブが並列で実行されることが無いように注意してください。
- 非同期-タスクキュー一覧の並列タスクキューに、待機中または処理中のタスクがある場合は、当該ジョブを実行しないでください。
- 当該ジョブ実行中には、案件に対する処理を行わないでください。

いずれも、トランザクションデータおよび案件の添付ファイルに不整合が発生 する場合がありますため注意してください。
なお、非同期-タスクキュー一覧の並列タスクキューを参照する方法については「システム管理者操作ガイド」-「非同期-タスクキュー一覧」を参照してください。

! 注意

当該ジョブでは、移行対象の案件数や案件のトランザクションデータのサイズに比例して処理時間が長くなります。
パラメータの「recordCounts」の値を初期値の1000から変更して多くの案件の移行を行う場合には、上記の点を考慮して実行するようにしてください。

i コラム

「トランザクションファイル (XML ファイル) 圧縮可否」の設定を「圧縮する」としている場合、トランザクションXMLファイルデータは ZIP 形式で圧縮された状態でストレージに移行されます。

実行パラメータ

- ジョブに指定するパラメータリストです。

キー	値	名前	必須	デフォルト値
systemMatterId		システム案件ID		
recordCounts	1000	移行対象件数		

■ systemMatterId（システム案件ID）

特定の案件のみを移行する場合に、移行対象のシステム案件IDを指定します。
複数の場合は「,」で区切ります。
設定しない場合はすべての完了案件が対象です。

■ recordCounts（移行対象件数）

移行対象とする案件数の上限値を指定します。
「systemMatterId」が指定されている場合、「systemMatterId」で指定した案件を対象とし、「recordCounts」の設定値は無視されます。
「recordCounts」が指定されている場合、申請日の降順（申請日が新しい順）で移行処理を行います。
「systemMatterId」、「recordCounts」の両方が指定されていない場合、すべての完了案件の移行処理を行います。

ジョブネット

- このジョブが使用するジョブネットです。
- 完了案件XMLデータ移行(Database LOB->File)

過去案件XMLデータ移行(File ->Database LOB)

ジョブ概要

ストレージに保存されている過去案件のトランザクションXMLファイルをデータベースに移行します。
ジョブ実行後には、移行前の過去案件のトランザクションXMLファイルを削除します。



注意

- IM-Workflowに関連するジョブと、当該ジョブが並列で実行されることが無いように注意してください。
- 非同期-タスクキュー一覧の並列タスクキューに、待機中または処理中のタスクがある場合は、当該ジョブを実行しないでください。
- 当該ジョブ実行中には、案件に対する処理を行わないでください。

いずれも、トランザクションデータおよび案件の添付ファイルに不整合が発生 する可能性があるため注意してください。
なお、非同期-タスクキュー一覧の並列タスクキューを参照する方法については「システム管理者操作ガイド」-「非同期-タスクキュー一覧」を参照してください。



注意

当該ジョブでは、移行対象の案件数や案件のトランザクションデータのサイズに比例して処理時間が長くなります。
パラメータの「recordCounts」の値を初期値の1000から変更して多くの案件の移行を行う場合には、上記の点を考慮して実行するようにしてください。

実行パラメータ

- ジョブに指定するパラメータリストです。

キー	値	名前	必須	デフォルト値
systemMatterId		システム案件ID		
recordCounts	1000	移行対象件数		
archiveMonth		アーカイブ年月（yyyyMM）	必須	

■ systemMatterId（システム案件ID）

特定の案件のみを移行する場合に、移行対象のシステム案件IDを指定します。
複数の場合は「,」で区切ります。
設定しない場合はアーカイブ年月で指定されたすべての過去案件が対象です。

■ recordCounts（移行対象件数）

移行対象とする案件数の上限値を指定します。

「systemMatterId」が指定されている場合、「systemMatterId」で指定した案件を対象とし、「recordCounts」の設定値は無視されます。

「recordCounts」が指定されている場合、申請日の降順（申請日が新しい順）で移行処理を行います。

「systemMatterId」、「recordCounts」の両方が指定されていない場合、アーカイブ年月で指定されたすべての過去案件の移行処理を行います。

- **archiveMonth（アーカイブ年月）**
移行対象の過去案件のアーカイブ年月を"yyyyMM"形式の値で指定します。

ジョブネット

- このジョブが使用するジョブネットです。
過去案件XMLデータ移行(File ->Database LOB)

過去案件XMLデータ移行(Database LOB->File)

ジョブ概要

データベースに保存されている過去案件のXMLデータをトランザクションXMLファイルデータとして移行します。

ジョブ実行後には、移行前の過去案件のXMLデータを削除します。



注意

- IM-Workflowに関連するジョブと、当該ジョブが並列で実行されることが無いように注意してください。
- 非同期-タスクキュー一覧の並列タスクキューに、待機中または処理中のタスクがある場合は、当該ジョブを実行しないでください。
- 当該ジョブ実行中には、案件に対する処理を行わないでください。

いずれも、トランザクションデータおよび案件の添付ファイルに不整合が発生する可能性があるため注意してください。

なお、非同期-タスクキュー一覧の並列タスクキューを参照する方法については「システム管理者操作ガイド」-「非同期-タスクキュー一覧」を参照してください。



注意

当該ジョブでは、移行対象の案件数や案件のトランザクションデータのサイズに比例して処理時間が長くなります。

パラメータの「recordCounts」の値を初期値の1000から変更して多くの案件の移行を行う場合には、上記の点を考慮して実行するようにしてください。



コラム

「トランザクションファイル (XMLファイル) 圧縮可否」の設定を「圧縮する」としている場合、トランザクションXMLファイルデータは ZIP 形式で圧縮された状態でストレージに移行されます。

実行パラメータ

- ジョブに指定するパラメータリストです。

キー	値	名前	必須	デフォルト値
systemMatterId		システム案件ID		
recordCounts	1000	移行対象件数		
archiveMonth		アーカイブ年月 (yyyyMM)	必須	

- **systemMatterId（システム案件ID）**
特定の案件のみを移行する場合に、移行対象のシステム案件IDを指定します。
複数の場合は「,」で区切ります。
設定しない場合はアーカイブ年月で指定されたすべての過去案件が対象です。

- **recordCounts（移行対象件数）**
移行対象とする案件数の上限値を指定します。
「systemMatterId」が指定されている場合、「systemMatterId」で指定した案件を対象とし、「recordCounts」の設定値は無視されます。
「recordCounts」が指定されている場合、申請日の降順（申請日が新しい順）で移行処理を行います。
「systemMatterId」、「recordCounts」の両方が指定されていない場合、アーカイブ年月で指定されたすべての過去案件の移行処理を行います。

- **archiveMonth（アーカイブ年月）**
移行対象の過去案件のアーカイブ年月を"yyyyMM"形式の値で指定します。

ジョブネット

- このジョブが使用するジョブネットです。

過去案件XMLデータ移行(Database LOB->File)

案件添付ファイル移行(File ->Database LOB)

ジョブ概要

ストレージに保存されている案件の添付ファイルをデータベースに移行します。

ジョブ実行後には、移行前のストレージの案件の添付ファイルを削除します。



注意

- IM-Workflowに関連するジョブと、当該ジョブが並列で実行されることが無いように注意してください。
- 非同期-タスクキュー一覧の並列タスクキューに、待機中または処理中のタスクがある場合は、当該ジョブを実行しないでください。
- 当該ジョブ実行中には、案件に対する処理を行わないでください。

いずれも、トランザクションデータおよび案件の添付ファイルに不整合が発生 する場合がありますため注意してください。

また、移行件数やファイルサイズに応じてジョブの実行時間が長くなる点に留意する必要があります。

なお、非同期-タスクキュー一覧の並列タスクキューを参照する方法については「[システム管理者操作ガイド](#)」-「[非同期-タスクキュー一覧](#)」を参照してください。

実行パラメータ

- ジョブに指定するパラメータリストです。

キー	値	名前	必須	デフォルト値
matterStatus		案件状態	必須	
archiveMonth		アーカイブ年月		

- matterStatus (案件状態)**

移行対象の案件状態を指定します。

設定しない場合はエラーが発生します。

設定値	説明
0	未完了案件の添付ファイルを対象に移行します。
1	完了案件の添付ファイルを対象に移行します。
2	過去案件の添付ファイルを対象に移行します。 この場合、対象となるアーカイブ年月を指定してください。

- archiveMonth (アーカイブ年月)**

「matterStatus」が"2"（過去案件）の場合、移行対象のアーカイブ年月を"yyyyMM"形式の値で指定します。

「matterStatus」が"0"（未完了案件）、または"1"（完了案件）の場合、当パラメータの設定値は無視されます。

ジョブネット

- このジョブが使用するジョブネットです。

案件添付ファイルデータ移行(File->Database LOB)

案件添付ファイルデータ移行(Database LOB->File)

ジョブ概要

データベースに保存されている案件の添付ファイルをストレージに移行します。

ジョブ実行後には、移行前のデータベースの案件の添付ファイルを削除します。

**注意**

- IM-Workflowに関連するジョブと、当該ジョブが並列で実行されることが無いように注意してください。
- 非同期-タスクキュー一覧の並列タスクキューに、待機中または処理中のタスクがある場合は、当該ジョブを実行しないでください。
- 当該ジョブ実行中には、案件に対する処理を行わないでください。

いずれも、トランザクションデータおよび案件の添付ファイルに不整合が発生 する場合がありますため注意してください。

また、移行件数やファイルサイズに応じてジョブの実行時間が長くなる点に留意する必要があります。

なお、非同期-タスクキュー一覧の並列タスクキューを参照する方法については「[システム管理者操作ガイド](#)」-「[非同期-タスクキュー一覧](#)」を参照してください。

実行パラメータ

- ジョブに指定するパラメータリストです。

キー	値	名前	必須	デフォルト値
matterStatus		案件状態	必須	
archiveMonth		アーカイブ年月		

- matterStatus（案件状態）**

移行対象の案件状態を指定します。

設定しない場合はエラーが発生します。

設定値	説明
0	未完了案件の添付ファイルを対象に移行します。
1	完了案件の添付ファイルを対象に移行します。
2	過去案件の添付ファイルを対象に移行します。 この場合、対象となるアーカイブ年月を指定してください。

- archiveMonth（アーカイブ年月）**

「matterStatus」が"2"（過去案件）の場合、移行対象のアーカイブ年月を"yyyyMM" 形式の値で指定します。

「matterStatus」が"0"（未完了案件）、または"1"（完了案件）の場合、当パラメータの設定値は無視されます。

ジョブネット

- このジョブが使用するジョブネットです。

案件添付ファイル移行(Database LOB->File)

参照者再展開**ジョブ概要**

指定されたフローに関する案件の参照者を再展開します。

**コラム**

- ログ出力について

対象の案件が多数の場合を考慮して、100件単位でINFOログを出力します。

- トランザクションについて

参照者の再展開処理（データベースに対する削除+更新）のトランザクションは案件単位です。

そのため、特定の1つの案件の参照者の再展開処理が失敗しても、他の案件の参照者の再展開処理には影響がありません。

**注意**

- 処理対象者標準プラグイン結果キャッシュが有効な場合、古い情報で展開される可能性があります。
当ジョブを実行する前に、必要に応じて「[処理対象者標準プラグイン結果キャッシュ削除](#)」ジョブを実行してください。

実行パラメータ

- ジョブに指定するパラメータリストです。

キー	値	名前	必須	デフォルト値
flowId		フローID	必須	
baseDateType	sys-date	基準日種類	必須	sys-date
baseDate		基準日		
systemMatterId		システム案件ID		
isActvMatter	true	未完了案件の参照者の再展開有無	いずれか必須	false
isCplMatter	true	完了案件の参照者の再展開有無	いずれか必須	false

■ flowId（フローID）

対象のフローIDを指定します。

複数の場合は「,」で区切ります。

このフローIDで申請された案件が参照者の再展開の対象です。

対象のフローを複数指定した場合には、1つのみ指定した場合よりも処理時間が長くなりますので、注意してください。

■ baseDateType（再展開の基準日の種類）

参照者を再展開する際の基準日の種類を指定します。

設定値	説明
sys-date	システム日を基準日として参照者を再展開します。
specified-date	「baseDate」で指定された日付を基準日として参照者を再展開します。
matter	案件のフロー定義の「システム日で展開する」フラグに従い、申請基準日またはシステム日で参照者を再展開します。



注意

参照者の解決のためのフロー定義に関する注意事項です。

- "sys-date" または "specified-date" を指定した場合、フロー定義はマスタ定義の情報を使用します。これらを指定した場合の注意事項については「[参照者再展開ジョブ](#)」をあわせて参照してください。
- "matter" を指定した場合、各案件のフロー定義を使用します。案件単位に処理を行うため "sys-date" または "specified-date" より処理時間が長くなります。他のジョブと並行して実行すると更に処理時間が長くなる可能性が高いです。

■ baseDate（再展開の基準日）

参照者を再展開する際の基準日を指定します。

「baseDateType」で "specified-date" を指定された場合に有効な設定です。

"yyyy/MM/dd" 形式の値を指定してください。

■ systemMatterId（システム案件ID）

参照者を再展開する対象案件のシステム案件IDを指定します。

「flowId」によって対象となった案件に対して指定したシステム案件IDが存在する場合のみ参照者を再展開します。

複数の場合は「,」で区切ります。

設定しない場合はすべての未完了案件/完了案件が対象です。

■ isActvMatter（未完了案件の参照者の再展開有無）

未完了案件の参照者の再展開を行うかを指定します。

設定しない場合は未完了案件の参照者の再展開を行いません。

なお、「isActvMatter」と「isCplMatter」が、どちらも未設定または false の場合、エラーが発生します。

設定値	説明
true	未完了案件の参照者の再展開を行います。
false	未完了案件の参照者の再展開を行いません。

■ isCplMatter（完了案件の参照者の再展開有無）

完了案件の参照者の再展開を行うかを指定します。

設定しない場合は完了案件の参照者の再展開を行いません。

なお、「isActvMatter」と「isCplMatter」が、どちらも未設定または false の場合、エラーが発生します。

設定値	説明
true	完了案件の参照者の再展開を行います。
false	完了案件の参照者の再展開を行いません。

ジョブネット

- このジョブが使用するジョブネットです。

参照者再展開

確認対象者再展開

ジョブ概要

指定されたフローに関する案件の確認対象者を再展開します。



コラム

- ログ出力について

対象の案件が多数の場合を考慮して、100件単位でINFOログを出力します。

- トランザクション：

確認対象者の再展開処理（データベースに対する削除＋更新）のトランザクションは案件単位です。

そのため、特定の1つの案件の確認対象者の再展開処理が失敗しても、他の案件の確認対象者の再展開処理には影響がありません。

- 完了案件の確認対象者の再展開について

フロー定義の「完了した案件の確認」が無効に設定されている場合、当ジョブを実行しても対象のフローの完了案件に対して確認対象者の再展開は行われません。



注意

- 確認対象者の解決のため、各案件のフロー定義を参照します。
案件単位に処理を行うため、処理時間が長くなります。
当ジョブは履歴情報を参照することから、他の対象者展開ジョブより更に処理時間が長くなります。
他のジョブと並行して実行すると更に処理時間が長くなる可能性が高いです。
- 処理対象者標準プラグイン結果キャッシュが有効な場合、古い情報で展開される可能性があります。
当ジョブを実行する前に、必要に応じて「[処理対象者標準プラグイン結果キャッシュ削除](#)」ジョブを実行してください。

実行パラメータ

- ジョブに指定するパラメータリストです。

キー	値	名前	必須	デフォルト値
flowId		フローID	必須	
baseDateType	sys-date	基準日種類	必須	sys-date
baseDate		基準日		
systemMatterId		システム案件ID		
isActvMatter	true	未完了案件の確認対象者の再展開有無	いずれか必須	false
isCplMatter	true	完了案件の確認対象者の再展開有無	いずれか必須	false

- flowId（フローID）**

対象のフローIDを指定します。

複数の場合は「,」で区切ります。

このフローIDで申請された案件が参照者の再展開の対象です。

対象のフローを複数指定した場合には、1つのみ指定した場合よりも処理時間が長くなりますので、注意してください。

- **baseDateType**（再展開の基準日の種類）

確認対象者を再展開する際の基準日の種類を指定します。

設定値	説明
sys-date	システム日を基準日として確認対象者を再展開します。
specified-date	「baseDate」で指定された日付を基準日として確認対象者を再展開します。
matter	案件のフロー定義の「システム日で展開する」フラグに従い、申請基準日またはシステム日で確認対象者を再展開します。

- **baseDate**（再展開の基準日）

確認対象者を再展開する際の基準日を指定します。

「baseDateType」で "specified-date" を指定された場合に有効な設定です。

"yyyy/MM/dd" 形式の値を指定してください。

- **systemMatterId**（システム案件ID）

確認対象者を再展開する対象案件のシステム案件IDを指定します。

「flowId」によって対象となった案件に対して指定したシステム案件IDが存在する場合のみ確認対象者を再展開します。

複数の場合は「,」で区切ります。

設定しない場合はすべての未完了案件/完了案件が対象です。

- **isActvMatter**（未完了案件の確認対象者の再展開有無）

未完了案件の確認対象者の再展開を行うかを指定します。

設定しない場合は未完了案件の確認対象者の再展開を行いません。

なお、「isActvMatter」と「isCplMatter」が、どちらも未設定または false の場合、エラーが発生します。

設定値	説明
true	未完了案件の確認対象者の再展開を行います。
false	未完了案件の確認対象者の再展開を行いません。

- **isCplMatter**（完了案件の確認対象者の再展開有無）

完了案件の確認対象者の再展開を行うかを指定します。

設定しない場合は完了案件の確認対象者の再展開を行いません。

なお、「isActvMatter」と「isCplMatter」が、どちらも未設定または false の場合、エラーが発生します。

設定値	説明
true	完了案件の確認対象者の再展開を行います。
false	完了案件の確認対象者の再展開を行いません。

ジョブネット

- このジョブが使用するジョブネットです。

確認対象者再展開

処理対象者再展開

ジョブ概要

指定されたフローに関する案件の処理対象者を再展開します。



コラム

- ログ出力について

対象の案件が多数の場合を考慮して、100件単位でINFOログを出力します。

- トランザクション：

処理対象者の再展開処理（データベースに対する削除＋更新）のトランザクションは案件単位です。

そのため、特定の1つの案件の処理対象者の再展開処理が失敗しても、他の案件の処理対象者の再展開処理には影響がありません。

**注意**

- 処理対象者の解決のため、各案件のフロー定義を参照します。
案件単位に処理を行うため、処理時間が長くなります。
他のジョブと並行して実行すると更に処理時間が長くなる可能性が高いです。
- 処理対象者標準プラグイン結果キャッシュが有効な場合、古い情報で展開される可能性があります。
当ジョブを実行する前に、必要に応じて「[処理対象者標準プラグイン結果キャッシュ削除](#)」ジョブを実行してください。

実行パラメータ

- ジョブに指定するパラメータリストです。

キー	値	名前	必須	デフォルト値
flowId		フローID	必須	
baseDateType	sys-date	基準日種類	必須	sys-date
baseDate		基準日		
systemMatterId		システム案件ID		
excludeApplyNode		申請ノード除外		false
excludePullBackedNode		引戻し後ノード除外		false
excludeSendBackedNode		差戻し後ノード除外		false
excludeReservedNode		保留中ノード除外		false
excludeHandledNode		案件操作後ノード除外		false

- **flowId（フローID）**

対象のフローIDを指定します。

複数の場合は「,」で区切ります。

このフローIDで申請された案件が処理対象者の再展開の対象です。

対象のフローを複数指定した場合には、1つのみ指定した場合よりも処理時間が長くなりますので、注意してください。

- **baseDateType（再展開の基準日の種類）**

処理対象者を再展開する際の基準日の種類を指定します。

設定値	説明
sys-date	システム日を基準日として処理対象者を再展開します。
specified-date	「baseDate」で指定された日付を基準日として処理対象者を再展開します。
matter	案件のフロー定義の「システム日で展開する」フラグに従い、申請基準日またはシステム日で処理対象者を再展開します。

- **baseDate（再展開の基準日）**

処理対象者を再展開する際の基準日を指定します。

「baseDateType」で "specified-date" を指定された場合に有効な設定です。

"yyyy/MM/dd" 形式の値を指定してください。

- **systemMatterId（システム案件ID）**

処理対象者を再展開する対象案件のシステム案件IDを指定します。

「flowId」によって対象となった案件に対して指定したシステム案件IDが存在する場合のみ処理対象者を再展開します。

複数の場合は「,」で区切ります。

設定しない場合はすべての未完了案件が対象です。

- **excludeApplyNode（申請ノード除外）**

申請ノードに対する処理対象者を再展開の対象とするかを指定します。

true を指定した場合には申請ノードに対する処理対象者の再展開を実行しません。

false を指定した場合には申請ノードに対する処理対象者の再展開を実行します。

- **excludePullBackedNode（引戻し後ノード除外）**

直前の操作で引戻しが行われた、以下のいずれかのノードに対する処理対象者を再展開の対象とするかを指定します。

- 承認ノード

- 動的承認ノード

ただし、処理可能な状態で保留・保留解除が行われたノードは対象外です。

`true` を指定した場合には引戻し後の承認・動的承認ノードに対する処理対象者の再展開を実行しません。

`false` を指定した場合には引戻し後の承認・動的承認ノードに対する処理対象者の再展開を実行します。

- **excludeSendBackedNode**（差戻し後ノード除外）

直前の操作で差戻しが行われた、以下のいずれかのノードに対する処理対象者を再展開の対象とするかを指定します。

- 承認ノード
- 動的承認ノード

ただし、処理可能な状態で保留・保留解除が行われたノードは対象外です。

`true` を指定した場合には差戻し後の承認・動的承認ノードに対する処理対象者の再展開を実行しません。

`false` を指定した場合には差戻し後の承認・動的承認ノードに対する処理対象者の再展開を実行します。

- **excludeReservedNode**（保留中ノード除外）

保留中である、以下のいずれかのノードに対する処理対象者を再展開の対象とするかを指定します。

- 承認ノード
- 動的承認ノード

`true` を指定した場合には保留中の承認・動的承認ノードに対する処理対象者の再展開を実行しません。

`false` を指定した場合には保留中の承認・動的承認ノードに対する処理対象者の再展開を実行します。

- **excludeHandledNode**（案件操作後ノード除外）

直前の操作で案件操作が行われた、以下のいずれかのノードに対する処理対象者を再展開の対象とするかを指定します。

- 承認ノード
- 動的承認ノード

案件操作によって処理可能な状態に変わった際に、前回の処理者が処理対象者として設定されている承認・動的承認ノードが対象です。

ただし、処理可能な状態で保留・保留解除が行われたノードは対象外です。

`true` を指定した場合には案件操作後の承認・動的承認ノードに対する処理対象者の再展開を実行しません。

`false` を指定した場合には案件操作後の承認・動的承認ノードに対する処理対象者の再展開を実行します。



コラム

承認・動的承認ノードを除外するパラメータの補足

以下の承認・動的承認ノードに対して、処理対象者の再展開を制御するためのパラメータは、対象の案件で最後に行われた処理・操作に基づいて、再展開の対象を判定しています。

- `excludePullBackedNode`
- `excludeSendBackedNode`
- `excludeReservedNode`
- `excludeHandledNode`

引戻しや差戻し後に、保留等の操作を行った場合には、再展開を除外するパラメータが以下のように変わります。

- 引戻しを行った場合
対応する除外パラメータ：`excludePullBackedNode`
- 差戻しを行った場合
対応する除外パラメータ：`excludeSendBackedNode`
- 引戻し（または差戻し）後に保留を行った場合
対応する除外パラメータ：`excludeReservedNode`
- 引戻し（または差戻し）後に保留、保留解除を行った場合
対応する除外パラメータ：ありません。
- 引戻し（または差戻し）後に案件操作を行った場合
対応する除外パラメータ：`excludeHandledNode`

ジョブネット

- このジョブが使用するジョブネットです。

処理対象者再展開

未完了案件トランザクションXMLファイル圧縮

ジョブ概要

パブリックストレージに保存されている未完了案件のトランザクションXMLファイルをZIP形式で圧縮します。

**コラム**

当ジョブは 2016 Winter(Olga) より追加されました。

**コラム**

- ログ出力について
進捗状況を 1,000 件単位で INFO ログとして出力します。

**注意**

- IM-Workflow に関連するジョブと、当ジョブが並列で実行されることが無いように注意してください。
- 非同期-タスクキュー一覧の並列タスクキューに、待機中または処理中のタスクがある場合は、当ジョブを実行しないでください。
- 当ジョブ実行中は、案件に対する処理を行わないでください。

いずれも、トランザクションデータに不整合が発生 する場合がありますため注意してください。

なお、非同期-タスクキュー一覧の並列タスクキューを参照する方法については「[システム管理者操作ガイド](#)」-「[非同期-タスクキュー一覧](#)」を参照してください。

**注意**

当ジョブの処理時間は以下の要因に比例して長くなります。

- 圧縮対象案件の数
- 圧縮するトランザクションXMLファイルの数およびサイズ

当ジョブによって圧縮される案件は、実行パラメータ「applyDateFrom」および「applyDateTo」により制御が可能です。

以上の点を考慮して当ジョブを実行してください。

実行パラメータ

- ジョブに指定するパラメータリストです。

キー	値	名前	必須	デフォルト値
applyDateFrom		申請日 (From)		
applyDateTo		申請日 (To)		
systemMatterId		システム案件ID		

- **applyDateFrom (申請日 (From))**

圧縮対象となる案件を絞り込むためのパラメータです。

当パラメータで指定した日付以降に申請された案件を圧縮対象とします。

"yyyy/MM/dd" 形式の値を指定してください。

- **applyDateTo (申請日 (To))**

圧縮対象となる案件を絞り込むためのパラメータです。

当パラメータで指定した日付以前に申請された案件を圧縮対象とします。

"yyyy/MM/dd" 形式の値を指定してください。

- **systemMatterId (システム案件ID)**

圧縮対象となる案件を絞り込むためのパラメータです。

当パラメータで指定した案件のみを圧縮対象とします。

圧縮対象とする案件のシステム案件 ID を指定してください。

複数の案件を指定する場合は「,」区切りの値を指定してください。

当パラメータを設定した場合、以下の実行パラメータは無視されます。

- applyDateFrom
- applyDateTo

**コラム**

実行パラメータがすべて未指定の場合、すべての未完了案件が圧縮対象です。

ジョブネット

- このジョブが使用するジョブネットです。
- 未完了案件トランザクションXMLファイル圧縮

完了案件トランザクションXMLファイル圧縮

ジョブ概要

パブリックストレージに保存されている完了案件のトランザクションXMLファイルをZIP形式で圧縮します。



コラム

当ジョブは 2016 Winter(Olga) より追加されました。



コラム

- ログ出力について
進捗状況を 1,000 件単位で INFO ログとして出力します。



注意

- IM-Workflow に関連するジョブと、当ジョブが並列で実行されることが無いように注意してください。
- 非同期-タスクキュー一覧の並列タスクキューに、待機中または処理中のタスクがある場合は、当ジョブを実行しないでください。
- 当ジョブ実行中は、案件に対する処理を行わないでください。

いずれも、トランザクションデータに不整合が発生 する場合がありますため注意してください。

なお、非同期-タスクキュー一覧の並列タスクキューを参照する方法については「[システム管理者操作ガイド](#)」-「[非同期-タスクキュー一覧](#)」を参照してください。



注意

当ジョブの処理時間は以下の要因に比例して長くなります。

- 圧縮対象案件の数
- 圧縮するトランザクションXMLファイルの数およびサイズ

当ジョブによって圧縮される案件は、実行パラメータ「applyDateFrom」および「applyDateTo」により制御が可能です。

以上の点を考慮して当ジョブを実行してください。

実行パラメータ

- ジョブに指定するパラメータリストです。

キー	値	名前	必須	デフォルト値
applyDateFrom		申請日 (From)		
applyDateTo		申請日 (To)		
systemMatterId		システム案件ID		

- applyDateFrom (申請日 (From))**

圧縮対象となる案件を絞り込むためのパラメータです。
当パラメータで指定した日付以降に申請された案件を圧縮対象とします。

"yyyy/MM/dd" 形式の値を指定してください。

- applyDateTo (申請日 (To))**

圧縮対象となる案件を絞り込むためのパラメータです。
当パラメータで指定した日付以前に申請された案件を圧縮対象とします。

"yyyy/MM/dd" 形式の値を指定してください。

- systemMatterId (システム案件ID)**

圧縮対象となる案件を絞り込むためのパラメータです。
当パラメータで指定した案件のみを圧縮対象とします。

圧縮対象とする案件のシステム案件 ID を指定してください。
複数の案件を指定する場合は「,」区切りの値を指定してください。

当パラメータを設定した場合、以下の実行パラメータは無視されます。

- applyDateFrom
- applyDateTo



コラム

実行パラメータがすべて未指定の場合、すべての完了案件が圧縮対象です。

ジョブネット

- このジョブが使用するジョブネットです。
- 完了案件トランザクションXMLファイル圧縮

過去案件トランザクションXMLファイル圧縮

ジョブ概要

パブリックストレージに保存されている過去案件のトランザクションXMLファイルをZIP形式で圧縮します。



コラム

当ジョブは 2016 Winter(Olga) より追加されました。



コラム

- ログ出力について
進捗状況を 1,000 件単位で INFO ログとして出力します。



注意

- IM-Workflow に関連するジョブと、当ジョブが並列で実行されることが無いように注意してください。
- 当ジョブ実行中は、案件に対する処理を行わないでください。

いずれも、トランザクションデータに不整合が発生 する場合がありますため注意してください。



注意

当ジョブの処理時間は以下の要因に比例して長くなります。

- 圧縮対象案件の数
- 圧縮するトランザクションXMLファイルの数およびサイズ

実行パラメータ

- ジョブに指定するパラメータリストです。

キー	値	名前	必須	デフォルト値
archiveMonth		アーカイブ年月 (yyyyMM)	必須	
systemMatterId		システム案件ID		

- **archiveMonth (アーカイブ年月)**
圧縮対象の過去案件のアーカイブ年月を "yyyyMM" 形式の値で指定します。

- **systemMatterId (システム案件ID)**
圧縮対象となる案件を絞り込むためのパラメータです。
当パラメータで指定した案件のみを圧縮対象とします。

圧縮対象とする案件のシステム案件 ID を指定してください。
複数の案件を指定する場合は「,」区切りの値を指定してください。

ジョブネット

- このジョブが使用するジョブネットです。

過去案件トランザクションXMLファイル圧縮

未完了案件トランザクションXMLファイル解凍

ジョブ概要

パブリックストレージに保存されている未完了案件のトランザクションXMLファイル（ZIP圧縮済みのファイル）を解凍します。



コラム

当ジョブは 2016 Winter(Olga) より追加されました。



コラム

- ログ出力について
進捗状況を 1,000 件単位で INFO ログとして出力します。



注意

- IM-Workflow に関連するジョブと、当ジョブが並列で実行されることが無いように注意してください。
- 非同期-タスクキュー一覧の並列タスクキューに、待機中または処理中のタスクがある場合は、当ジョブを実行しないでください。
- 当ジョブ実行中は、案件に対する処理を行わないでください。

いずれも、トランザクションデータに不整合が発生 する場合がありますため注意してください。

なお、非同期-タスクキュー一覧の並列タスクキューを参照する方法については「[システム管理者操作ガイド](#)」-「[非同期-タスクキュー一覧](#)」を参照してください。



注意

当ジョブの処理時間は以下の要因に比例して長くなります。

- 解凍対象案件の数
- 解凍するトランザクションXMLファイルの数およびサイズ

当ジョブによって解凍される案件は、実行パラメータ「applyDateFrom」および「applyDateTo」により制御が可能です。

以上の点を考慮して当ジョブを実行してください。

実行パラメータ

- ジョブに指定するパラメータリストです。

キー	値	名前	必須	デフォルト値
applyDateFrom		申請日（From）		
applyDateTo		申請日（To）		
systemMatterId		システム案件ID		

- applyDateFrom（申請日（From））**

解凍対象となる案件を絞り込むためのパラメータです。

当パラメータで指定した日付以降に申請された案件を解凍対象とします。

"yyyy/MM/dd" 形式の値を指定してください。

- applyDateTo（申請日（To））**

解凍対象となる案件を絞り込むためのパラメータです。

当パラメータで指定した日付以前に申請された案件を解凍対象とします。

"yyyy/MM/dd" 形式の値を指定してください。

- systemMatterId（システム案件ID）**

解凍対象となる案件を絞り込むためのパラメータです。

当パラメータで指定した案件のみを解凍対象とします。

解冻対象とする案件のシステム案件 ID を指定してください。
複数の案件を指定する場合は「,」区切りの値を指定してください。

当パラメータを設定した場合、以下の実行パラメータは無視されます。

- applyDateFrom
- applyDateTo



コラム

実行パラメータがすべて未指定の場合、すべての未完了案件が解冻対象です。

ジョブネット

- このジョブが使用するジョブネットです。
- 未完了案件トランザクションXMLファイル解冻

完了案件トランザクションXMLファイル解冻

ジョブ概要

パブリックストレージに保存されている完了案件のトランザクションXMLファイル（ZIP圧縮済みのファイル）を解冻します。



コラム

当ジョブは 2016 Winter(Olga) より追加されました。



コラム

- ログ出力について
進捗状況を 1,000 件単位で INFO ログとして出力します。



注意

- IM-Workflow に関連するジョブと、当ジョブが並列で実行されることが無いように注意してください。
- 非同期-タスクキュー一覧の並列タスクキューに、待機中または処理中のタスクがある場合は、当ジョブを実行しないでください。
- 当ジョブ実行中は、案件に対する処理を行わないでください。

いずれも、トランザクションデータに不整合が発生 する場合がありますため注意してください。

なお、非同期-タスクキュー一覧の並列タスクキューを参照する方法については「[システム管理者操作ガイド](#)」-「[非同期-タスクキュー一覧](#)」を参照してください。



注意

当ジョブの処理時間は以下の要因に比例して長くなります。

- 解冻対象案件の数
- 解冻するトランザクションXMLファイルの数およびサイズ

当ジョブによって解冻される案件は、実行パラメータ「applyDateFrom」および「applyDateTo」により制御が可能です。

以上の点を考慮して当ジョブを実行してください。

実行パラメータ

- ジョブに指定するパラメータリストです。

キー	値	名前	必須	デフォルト値
applyDateFrom		申請日 (From)		
applyDateTo		申請日 (To)		
systemMatterId		システム案件ID		

- **applyDateFrom (申請日 (From))**

解冻対象となる案件を絞り込むためのパラメータです。

当パラメータで指定した日付以降に申請された案件を解冻対象とします。

"yyyy/MM/dd" 形式の値を指定してください。

■ applyDateTo（申請日（To））

解冻対象となる案件を絞り込むためのパラメータです。

当パラメータで指定した日付以前に申請された案件を解冻対象とします。

"yyyy/MM/dd" 形式の値を指定してください。

■ systemMatterId（システム案件ID）

解冻対象となる案件を絞り込むためのパラメータです。

当パラメータで指定した案件のみを解冻対象とします。

解冻対象とする案件のシステム案件 ID を指定してください。

複数の案件を指定する場合は「,」区切りの値を指定してください。

当パラメータを設定した場合、以下の実行パラメータは無視されます。

- applyDateFrom
- applyDateTo



コラム

実行パラメータがすべて未指定の場合、すべての完了案件が解冻対象です。

ジョブネット

- このジョブが使用するジョブネットです。

完了案件トランザクションXMLファイル解冻

過去案件トランザクションXMLファイル解冻

ジョブ概要

パブリックストレージに保存されている過去案件のトランザクションXMLファイル（ZIP圧縮済みのファイル）を解冻します。



コラム

当ジョブは 2016 Winter(Olga) より追加されました。



コラム

- ログ出力について
進捗状況を 1,000 件単位で INFO ログとして出力します。



注意

- IM-Workflow に関連するジョブと、当ジョブが並列で実行されることが無いように注意してください。
- 当ジョブ実行中は、案件に対する処理を行わないでください。

いずれも、トランザクションデータに不整合が発生 する場合がありますため注意してください。



注意

当ジョブの処理時間は以下の要因に比例して長くなります。

- 解冻対象案件の数
- 解冻するトランザクションXMLファイルの数およびサイズ

実行パラメータ

- ジョブに指定するパラメータリストです。

キー	値	名前	必須	デフォルト値
archiveMonth		アーカイブ年月（yyyyMM）	必須	
systemMatterId		システム案件ID		

- **archiveMonth**（アーカイブ年月）
解凍対象の過去案件のアーカイブ年月を "yyyyMM" 形式の値で指定します。

- **systemMatterId**（システム案件ID）
解凍対象となる案件を絞り込むためのパラメータです。
当パラメータで指定した案件のみを解凍対象とします。

解凍対象とする案件のシステム案件 ID を指定してください。
複数の案件を指定する場合は「,」区切りの値を指定してください。

ジョブネット

- このジョブが使用するジョブネットです。

過去案件トランザクションXMLファイル解凍

旧ノード連携情報削除

ジョブ概要

指定されたフロー定義の旧ノード連携情報を削除します。



コラム

当ジョブは 2018 Winter(Urara)より追加されました。



コラム

- ノード連携情報とは

ノード連携情報とは、フロー定義でノード毎に設定できる情報を指します。
ノード連携情報の設定方法については、「[IM-Workflow 管理者操作ガイド](#)」の「[ノードを編集する](#)」を参照してください。

また、ノード連携情報が大量になると以下の処理のパフォーマンスに影響を与える場合があります。

- 案件の申請
- フロー定義のインポート、エクスポート



コラム

- 旧ノード連携情報とは

旧ノード連携情報とは、過去に設定したノード連携情報を再度設定しなくても設定が引き継がれるように、DBで持っている古いノード連携情報です。

旧ノード連携情報が発生する操作と、その操作によって発生した旧ノード連携情報の再利用シーンは以下の通りです。

- フロー定義が参照しているルート定義の変更（ノードの削除、または、nodeIdの変更）

フロー定義が参照しているルート定義で、ノードの削除、または、nodeIdの変更を行った場合、削除、または、変更により使用されなくなったnodeIdに対してフロー定義で設定されていたノード連携情報を旧ノード連携情報として持ち続けます。
この旧ノード連携情報は、再度ルート定義の変更を行い、以前にノードの削除、または、nodeIdの変更をしたnodeIdを使用した場合に使われます。
過去に設定したnodeIdに対するノード連携情報が引き継がれるため、再度ノード連携情報を設定しなおす必要が無くなります。

- フロー定義のバージョン追加

フロー定義のバージョンを追加した場合、過去のバージョンが参照している定義（コンテンツ定義、ルート定義）のバージョンと新しく追加したフロー定義のバージョンとの組み合わせでノード連携情報を作成し、旧ノード連携情報として持ち続けます。
この旧ノード連携情報は、追加したフロー定義のバージョンの期間を過去に伸ばした際に使われます。
その期間に設定されていた過去のバージョンのノード連携情報が引き継がれるため、再度ノード連携情報を設定しなおす必要が無くなります。

- フロー定義が参照する定義（コンテンツ定義、ルート定義）の変更

フロー定義が参照する定義（コンテンツ定義、ルート定義）の変更をした場合、変更前の定義とのノード連携情報を旧ノード連携情報として持ち続けます。
この旧ノード連携情報は、フロー定義が参照する定義（コンテンツ定義、ルート定義）を変更前の定義に再度変えた場合に使われます。
以前に設定したノード連携情報が引き継がれるため、再度ノード連携情報を設定する必要が無くなります。

**コラム**

- トランザクションについて

旧ノード連携情報の削除（データベースに対する削除）のトランザクションはフロー定義単位です。
そのため、特定の1つのフロー定義の旧ノード連携所法の削除が失敗しても、他のフロー定義の旧ノード連携情報の削除処理には影響がありません。

**コラム**

- ジョブ実行中の案件の申請・処理

当ジョブ実行中の案件の申請・処理は可能です。
ただし、通常より処理時間が長くなる場合がありますので、注意してください。

**注意**

当ジョブ実行中のコンテンツ定義・ルート定義・フロー定義の変更はしないでください。
必要なノード連携情報が削除される場合があります。

**注意**

旧ノード連携情報を削除した後は、旧ノード連携情報を元に戻すことは出来ません。
バックアップを取った後、当ジョブを実行することを推奨します。

実行パラメータ

- ジョブに指定するパラメータリストです。

キー	値	名前	必須	デフォルト値
flowId	flowId	フローID		

- **flowId（フローID）**

旧ノード連携情報を削除するフロー定義のフローIDを指定します。
複数の場合は「,」で区切ります。
パラメータの指定がない場合は、すべてのフロー定義を対象に旧ノード連携情報を削除します。
対象のフロー定義にあるノード連携情報の数に応じて、処理時間が長くなりますので、注意してください。

ジョブネット

- このジョブが使用するジョブネットです。

旧ノード連携情報削除ジョブ

トランザクションテーブルデータ補完（フローID）**ジョブ概要**

新規追加したフローIDカラムのデータを案件テーブルのフローIDカラムのデータで補完します。

**コラム**

当ジョブは 2019 Spring(Violette) より追加されました。

**コラム**

当ジョブを実行しないと「案件一覧」に情報が表示されない場合がありますので、「案件一覧」をご利用する前に当ジョブを実行してください。

**コラム**

- フローIDカラムを新規追加したテーブル

「案件一覧」に情報を表示する内部処理を効率化するため、以下のテーブルにフローIDカラムを追加しました。

- 未完了案件タスク処理対象者テーブル

参照する案件テーブルは未完了案件テーブルです。

- 未完了案件タスク完了ユーザテーブル

参照する案件テーブルは未完了案件テーブルです。

- 完了案件タスク完了ユーザテーブル

参照する案件テーブルは完了案件テーブルです。

**注意**

当ジョブが行う補完はデータベースの UPDATE 文で行います。

レコード数の量に応じて処理時間が長くなる場合がありますので、ご注意ください。

**コラム**

- ジョブ再実行

当ジョブは再実行が可能です。

差分の補完ではなく、すべてのレコードに対して補完を行います。

**注意**

- ジョブ実行中の案件の申請・処理

当ジョブ実行中には、案件に対する処理を行わないでください。

レコード数の増減によってデータベースの UPDATE 処理に影響する場合があります。

実行パラメータ

- ジョブに指定するパラメータリストです。

キー	値	名前	必須	デフォルト値
imw_t_actv_executable_user	true	未完了案件タスク処理対象者テーブルの補完有無	いずれか必須	true
imw_t_cpl_user	true	未完了案件タスク完了ユーザテーブルの補完有無	いずれか必須	true
imw_t_cpl_matter_user	true	完了案件タスク完了ユーザテーブルの補完有無	いずれか必須	true

- **imw_t_actv_executable_user**（未完了案件タスク処理対象者テーブルの補完有無）

未完了案件タスク処理対象者テーブルに追加したフローIDカラムの補完を行うか指定します。

指定しない場合は未完了案件タスク処理対象者テーブルに追加したフローIDカラムの補完を行いません。

設定値	説明
true	未完了案件タスク処理対象者テーブルに追加したフローIDカラムの補完を行います。
false	未完了案件タスク処理対象者テーブルに追加したフローIDカラムの補完を行いません。

- **imw_t_cpl_user**（未完了案件タスク完了ユーザテーブルの補完有無）

未完了案件タスク完了ユーザテーブルに追加したフローIDカラムの補完を行うか指定します。

指定しない場合は未完了案件タスク完了ユーザテーブルに追加したフローIDカラムの補完を行いません。

設定値	説明
true	未完了案件タスク完了ユーザテーブルに追加したフローIDカラムの補完を行います。
false	未完了案件タスク完了ユーザテーブルに追加したフローIDカラムの補完を行いません。

- **imw_t_cpl_matter_user** (完了案件タスク完了ユーザテーブルの補完有無)

完了案件タスク完了ユーザテーブルに追加したフローIDカラムの補完を行うか指定します。

指定しない場合は完了案件タスク完了ユーザテーブルに追加したフローIDカラムの補完を行いません。

設定値	説明
true	完了案件タスク完了ユーザテーブルに追加したフローIDカラムの補完を行います。
false	完了案件タスク完了ユーザテーブルに追加したフローIDカラムの補完を行いません。

ジョブネット

- このジョブが使用するジョブネットです。

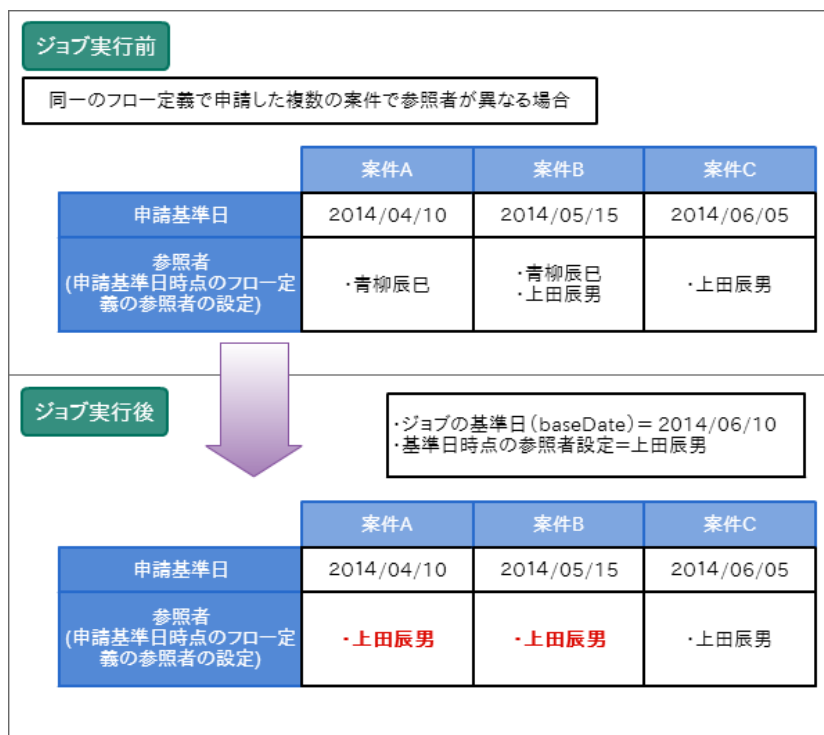
トランザクションテーブルデータ補完 (フローID) ジョブ

参照者再展開ジョブ

参照者再展開のジョブに関する注意事項は以下の通りです。

パラメータの「baseDateType」が「sys-date」または「specified-date」の場合の注意事項です。

- 参照者再展開の仕様
- 参照者再展開のジョブでは、各案件の申請基準日ではなく、ジョブのパラメータで設定した日付の情報に基づいて再展開を行います。



- 参照者再展開のジョブでは、参照者の情報（参照一覧に対する権限判定部分）のみを対象としており、各案件の参照者の定義情報は更新しません。
- 参照者再展開のジョブに関する注意事項
 - 参照者の再展開のジョブの実行に当たり、フロー定義のバージョン期間が異なる複数の案件や、申請後に参照者を変更している案件が存在している場合、参照者の再展開のジョブは案件の申請基準日や案件で設定した参照者の情報に関係なく、ジョブのパラメータで指定した日付に基づいて参照者を再展開します。
 - そのため、ジョブの実行後に本来参照させたくないユーザが参照者として設定される場合があります。
 - 本来意図しない参照者を設定した場合には、対象の案件をジョブのパラメータ（システム案件ID、基準日）で指定し、ジョブを実行すると、参照者が適切に設定されます。
 - 例えば、上の図で案件Aに関して、参照者再展開のジョブの実行後も参照者を上田辰男ではなく、青柳辰巳のままにしたい場合には、ジョブのパラメータで案件Bと案件Cを対象とするように設定すれば、案件Bと案件Cの参照者のみ上田辰男に設定できます。
 - 参照者再展開のジョブは各案件の参照者の定義情報を更新しないため、以下の画面で表示される内容に差異が発生する場合があります。
 - 参照一覧に対象の案件が表示される対象者
対象者は、参照者再展開ジョブが設定した内容（＝フロー定義の参照者設定の内容）です。
 - 案件操作-参照者タブに表示される参照者
参照者再展開ジョブの実行前に、案件で設定した参照者の設定内容です。

差異が発生している場合には、案件操作-参照者のタブを表示し、「更新」ボタンをクリックすると、参照者は参照一覧に案件が表示される参照者の内容に更新され、差異が解消します。

設定

設定一覧

IM-Workflow では下表に示す設定を変更することで、IM-Workflow の各種機能のON/OFFやファイルの保存場所を変更できます。
設定の単位は以下の2種類あります。

- システム単位
- テナント単位

それぞれの単位の詳細については下記を参照してください。

システム単位の設定

intra-mart Accel Platform 全体で共通な設定です。
システム単位の設定には以下の3種類があります。

- システム設定
- デザイン設定
- キャッシュ設定

それぞれのシステム単位の詳細については下記を参照してください。

システム設定

IM-Workflow のシステムに関する設定を行います。
システム設定は、IM-Juggling 上で編集が可能です。

設定ファイル：WEB-INF/conf/im-workflow-system-config.xml

案件終了処理、到達処理、メール送信処理、IMBox送信処理の同期／非同期制御の設定

案件終了処理、到達処理、メール送信処理、IMBox送信処理は非同期で実行しますが、アプリケーションサーバ製品によっては処理時のトランザクション制御でエラーが発生することがあります。
この場合、設定を変更して処理を同期で実行することにより、エラーを回避させます。



コラム

上記の事象が発生させる制限は、intra-mart Accel Platform 2013 Autumn(Eden) で解除されました。

非同期制御を行う場合、別スレッドで動作するため、ユーザプログラムでセッション情報を取得する事はできません。

設定一覧

論理名	物理名	設定内容
同期／非同期制御	<im-workflow-system-config> /<thread> /<arrive-process-async>	true : 非同期 false : 同期

到達処理（承認）で同時アクセスエラー発生のリトライ設定

分岐内の複数ノードで自動処理が行われた場合、1つの案件に対して複数の到達処理（承認）が同時に発生することがあります。
この場合、案件には同時にアクセスできないために到達処理（承認）でエラーが発生しますが、到達処理（承認）を実行する必要があるため、成功するまでリトライします。

設定一覧

論理名	物理名	設定内容
到達処理（承認）のリトライ回数	<im-workflow-system-config> /<arrive-approve-at-sametime> /<arrive-approve-at-sametime-retry-count>	設定範囲（回）：[1] - [10]
1回のリトライあたりの待ち時間（秒）	<im-workflow-system-config> /<arrive-approve-at-sametime> /<arrive-approve-at-sametime-wait-second>	設定範囲（秒）：[1] - [10]

XMLファイルキャッシュの設定

XMLファイルキャッシュの設定を変更できます。

XMLファイル、 データベース へのアクセス数を減らし、システム全体の負荷を軽減します。

設定一覧

論理名	物理名	設定内容
XMLファイルキャッシュ設定	<im-workflow-system-config> </xml-file-cache> </not-use-xml-file-cache>	true :キャッシュ化しない。 false :キャッシュ化する。（デフォルト）
XMLファイルキャッシュ 保存時間（秒）	<im-workflow-system-config> </xml-file-cache> </xml-file-cache-store-second>	初期値 : 15秒 設定範囲 : 1秒以上 0秒設定の場合は、初期値15秒を利用します。
XMLファイルキャッシュ 保存最大数	<im-workflow-system-config> </xml-file-cache> </xml-file-cache-store-max-size>	初期値 : 10000 設定範囲 : 1以上 0設定の場合は初期値10000を利用します。

処理対象者標準プラグイン結果キャッシュ設定

処理対象者標準プラグイン結果キャッシュ設定を変更できます。

処理対象者標準プラグイン実行処理を減らし、システム全体の負荷を軽減します。

設定一覧

論理名	物理名	設定内容
処理対象者標準プラグイン結果 キャッシュ利用不可設定	<im-workflow-system-config> </standard-plugin-result-cache> </not-use-standard-plugin-result-cache>	true :キャッシュ化しない。 false :キャッシュ化する。（デフォルト）
処理対象者標準プラグイン 結果キャッシュ保存時間（秒）	<im-workflow-system-config> </standard-plugin-result-cache> </standard-plugin-result-cache-store-second>	初期値 : 60分（3600秒） 設定範囲 : 1秒以上 0秒設定の場合は、初期値60分を利用します。
処理対象者標準プラグイン 結果キャッシュ保存最大数	<im-workflow-system-config> </standard-plugin-result-cache> </standard-plugin-result-cache-store-max-size>	初期値 : 10000 設定範囲 : 1以上 0設定の場合は初期値10000を利用します。

処理対象者標準プラグインユーザ情報取得最大人数設定

処理対象者標準プラグインのユーザ情報取得処理で1つのクエリで同時に取得する情報数を設定します。

設定一覧

論理名	物理名	設定内容
処理対象者標準プラグイン ユーザ情報取得最大人数設定	<im-workflow-system-config> </standard-plugin-user-info> </standard-plugin-user-info-max-select-length>	初期値 : 1000 設定範囲 : データベースのIN句制限に合わせて設定します。 例）オラクルの場合は1000より大きい数字を設定するとユーザ情報取得処理で失敗します。

デザイナー設定

IM-Workflow のデザイナーに関する設定を行います。

デザイナー設定は、 IM-Juggling 上で編集が可能です。

設定ファイル：WEB-INF/conf/im-workflow-designer-config.xml

ルートデザイナーの設定

ルートデザイナーサイズを変更できます。

設定一覧

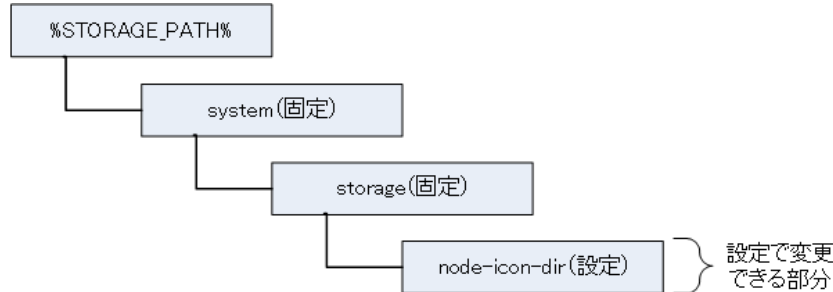
論理名	物理名	設定内容
ルート定義デザイン領域の幅	<im-workflow-designer-config> </route-designer> </imw-designer-canvas-width>	設定範囲 : [0] - [32000] 0を指定した場合は、初期値(10000)を使用します。

論理名	物理名	設定内容
ルート定義デザイン領域の高さ	<im-workflow-designer-config> /<imw-designer-canvas-height> /<imw-designer-canvas-height>	設定範囲：[0] - [32000] 0を指定した場合は、初期値(5000)を使用します。

アイコンの設定

ルートデザイナのノードアイコンとノードアイコンの保存ディレクトリを変更できます。
保存ディレクトリは下図のシステムストレージディレクトリ配下の中で変更ができます。

ノードアイコンの保存ディレクトリ



設定一覧

論理名	物理名	設定内容
ノードアイコン保存ディレクトリ	<im-workflow-designer-config> /<icon> /<node-icon-dir>	ノードアイコン保存ディレクトリのパス
開始ノードアイコンファイル	<im-workflow-designer-config> /<icon> /<start-node-icon>	アイコンファイル名
終了ノードアイコンファイル	<im-workflow-designer-config> /<icon> /<end-node-icon>	アイコンファイル名
申請ノードアイコンファイル	<im-workflow-designer-config> /<icon> /<apply-node-icon>	アイコンファイル名
承認ノードアイコンファイル	<im-workflow-designer-config> /<icon> /<approval-node-icon>	アイコンファイル名
動的ノードアイコンファイル	<im-workflow-designer-config> /<icon> /<dynamic-node-icon>	アイコンファイル名
システムノードアイコンファイル	<im-workflow-designer-config> /<icon> /<system-node-icon>	アイコンファイル名
確認ノードアイコンファイル	<im-workflow-designer-config> /<icon> /<confirm-node-icon>	アイコンファイル名
同期開始ノードアイコンファイル	<im-workflow-designer-config> /<icon> /<synchronous-start-node-icon>	アイコンファイル名
同期終了ノードアイコンファイル	<im-workflow-designer-config> /<icon> /<synchronous-end-node-icon>	アイコンファイル名
分岐開始ノードアイコンファイル	<im-workflow-designer-config> /<icon> /<branch-start-node-icon>	アイコンファイル名
分岐終了ノードアイコンファイル	<im-workflow-designer-config> /<icon> /<branch-end-node-icon>	アイコンファイル名

論理名	物理名	設定内容
横配置ノードアイコンファイル	<im-workflow-designer-config> /<icon> /<horizontal-node-icon>	アイコンファイル名
縦配置ノードアイコンファイル	<im-workflow-designer-config> /<icon> /<vertical-node-icon>	アイコンファイル名
テンプレート開始ノード アイコンファイル	<im-workflow-designer-config> /<icon> /<template-start-node-icon>	アイコンファイル名
テンプレート終了ノード アイコンファイル	<im-workflow-designer-config> /<icon> /<template-end-node-icon>	アイコンファイル名
テンプレート置換ノード アイコンファイル	<im-workflow-designer-config> /<icon> /<template-substitution-node-icon>	アイコンファイル名
コメントアイコンファイル	<im-workflow-designer-config> /<icon> /<comment-icon>	アイコンファイル名
スイムレーンアイコンファイル	<im-workflow-designer-config> /<icon> /<swimlane-icon>	アイコンファイル名

キャッシュ設定

IM-Workflow のキャッシュに関する設定を行います。
キャッシュ設定は、IM-Juggling 上で編集が可能です。

キャッシュ設定ファイルは intra-mart Accel Platform 2016 Spring(Maxima) から利用可能です。



注意

キャッシュ設定ファイルにて設定変更が可能な3つのキャッシュは IM-Workflow で必要なキャッシュです。
すべてのキャッシュは有効にしてください。
いずれかのキャッシュを無効化した場合には、IM-Workflow は正常に動作しないため、動作保証外に該当します。

フォーマットファイル(**xsd**) WEB-INF/schema/im-ehcache-config.xsd

設定ファイル WEB-INF/conf/im-ehcache-config/im_workflow.xml

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<im-ehcache-config
  xmlns="http://www.intra-mart.jp/cache/ehcache/config"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/cache/ehcache/config ../schema/im-ehcache-config.xsd ">

  <cache
    name="IM_WORKFLOW-FILE_PATH"
    enable="true"
    overflow-to-disk="false"
    max-elements-on-memory="1000"
    time-to-live-seconds="1800"
    time-to-idle-seconds="900"
  />
  <cache
    name="IM_WORKFLOW-PLUGIN_OBJECT"
    enable="true"
    overflow-to-disk="false"
    max-elements-on-memory="1000"
    time-to-live-seconds="1800"
    time-to-idle-seconds="900"
  />
  <cache
    name="IM_WORKFLOW-PLUGIN_DESCRIPTOR"
    enable="true"
    overflow-to-disk="false"
    max-elements-on-memory="1000"
    time-to-live-seconds="1800"
    time-to-idle-seconds="900"
  />

</im-ehcache-config>
```

リファレンス

ファイルバスキャッシュ設定

「ファイルバスキャッシュ」の設定です。

キャッシュ名 IM_WORKFLOW-FILE_PATH

ファイルバスキャッシュは、システム案件ID をキーとして、案件のトランザクションファイルまでのバスをキャッシュします。
このキャッシュはテナントごとに管理します。

【設定項目】

```
<im-ehcache-config>
  <cache
    name="IM_WORKFLOW-FILE_PATH"
    enable="true"
    overflow-to-disk="false"
    max-elements-on-memory="1000"
    time-to-live-seconds="1800"
    time-to-idle-seconds="900"
  />
</im-ehcache-config>
```

【属性】

各設定の属性項目については「[設定ファイルリファレンス](#)」 - 「[キャッシュ設定](#)」を参照してください。

プラグインオブジェクトキャッシュ設定

「プラグインオブジェクトキャッシュ」の設定です。

キャッシュ名 IM_WORKFLOW-PLUGIN_OBJECT

プラグインオブジェクトキャッシュは、プログラムのインスタンスの配列をキャッシュします。
このキャッシュはテナントごとに管理します。
キャッシュの対象は、IM-Workflow が利用するプラグイン設定から取得したプログラムです。
キャッシュのキーは以下の情報から生成します。

- 拡張ポイントID
- プラグインID
- テナントID

- ロケールID
- プラグインディスクリプタのJavaプログラムへのXPath
- プラグインディスクリプタのスクリプトプログラムへのXPath

【設定項目】

```
<im-ehcache-config>
  <cache
    name="IM_WORKFLOW-PLUGIN_OBJECT"
    enable="true"
    overflow-to-disk="false"
    max-elements-on-memory="1000"
    time-to-live-seconds="1800"
    time-to-idle-seconds="900"
  />
</im-ehcache-config>
```

【属性】

各設定の属性項目については「[設定ファイルリファレンス](#)」 - 「[キャッシュ設定](#)」を参照してください。

プラグインディスクリプタキャッシュ設定

「プラグインディスクリプタキャッシュ」の設定です。

キャッシュ名 IM_WORKFLOW-PLUGIN_DESCRIPTOR

プラグインディスクリプタキャッシュは、プラグイン設定の配列をキャッシュします。

このキャッシュはテナントごとに管理します。

キャッシュの対象は、IM-Workflow が利用するプラグイン設定です。

キャッシュのキーは以下の情報から生成します。

- 拡張ポイントID
- プラグインID
- テナントID
- ロケールID

【設定項目】

```
<im-ehcache-config>
  <cache
    name="IM_WORKFLOW-PLUGIN_DESCRIPTOR"
    enable="true"
    overflow-to-disk="false"
    max-elements-on-memory="1000"
    time-to-live-seconds="1800"
    time-to-idle-seconds="900"
  />
</im-ehcache-config>
```

【属性】

各設定の属性項目については「[設定ファイルリファレンス](#)」 - 「[キャッシュ設定](#)」を参照してください。

テナント 単位の設定

1 つの テナント 内でのみ有効な設定です。

テナント 単位の設定は、IM-Workflow の「ワークフローパラメータ」機能により、編集、初期化、および intra-mart Accel Platform の再起動なしでの即時設定反映が可能です。

設定ファイル：%PUBLIC_STORAGE_PATH%/im_workflow/conf/param/ param_group_%テナントID%.xml

詳細については下記を参照してください。

一覧表示画面の設定

設定一覧

論理名	物理名	設定内容
一覧表示画面に表示する 表示件数のパターン	record-at-page-pattern	[,]（カンマ）区切りで、数字を指定

論理名	物理名	設定内容
一覧表示画面に表示する最大行数	record-at-page	設定範囲（行）：[10] - [100] （「一覧表示画面に表示する表示件数のパターン」に定義した数値から選択）
利用者の一覧表示パターン機能の選択可否	list-display-pattern-handle	true : 選択可能 false : 選択不可能 （管理者が設定したものを使用する）
一覧表示パターンソート項目数	list-display-pattern-sort-column-num	「一覧表示パターン機能」で一覧画面のソート項目として指定できる項目の数の上下限 設定範囲（項目）：[0] - [3]

フローグループの設定

設定一覧

論理名	物理名	設定内容
フローグループ階層数	flow-group-hierarchy	設定範囲（階層）：[0] - [5] 設定数=[0]の場合はフローグループを使用しないことを意味します。
申請一覧画面のフローグループ検索条件表示	apply-list-flow-group-visible	true : 表示する false : 表示しない
一時保存一覧画面のフローグループ検索条件表示	temporary-save-list-flow-group-visible	true : 表示する false : 表示しない
未処理一覧画面のフローグループ検索条件表示	process-list-flow-group-visible	true : 表示する false : 表示しない
処理済（未完了）一覧画面のフローグループ検索条件表示	actv-proc-list-flow-group-visible	true : 表示する false : 表示しない
処理済（完了）一覧画面のフローグループ検索条件表示	cpl-proc-list-flow-group-visible	true : 表示する false : 表示しない
参照（未完了）一覧画面のフローグループ検索条件表示	reference-actv-list-flow-group-visible	true : 表示する false : 表示しない
参照（完了）一覧画面のフローグループ検索条件表示	reference-cpl-list-flow-group-visible	true : 表示する false : 表示しない
過去案件一覧画面のフローグループ検索条件表示	archived-matter-list-flow-group-visible	true : 表示する false : 表示しない
確認（未完了）一覧画面のフローグループ検索条件表示	confirm-actv-list-flow-group-visible	true : 表示する false : 表示しない
確認（完了）一覧画面のフローグループ検索条件表示	confirm-cpl-list-flow-group-visible	true : 表示する false : 表示しない
一括処理対象者変更一覧画面のフローグループ検索条件表示	change-list-flow-group-visible	true : 表示する false : 表示しない



コラム

「一括処理対象者変更一覧画面のフローグループ検索条件表示」は、IM-Workflow 2015 Winter (8.0.12) で追加されたパラメータです。

管理グループの設定

設定一覧

論理名	物理名	設定内容
管理グループ機能の使用可否	administration-group	true : 使用する false : 使用しない

代理の設定

設定一覧

論理名	物理名	設定内容
代理（人）機能の使用可否	personal-act	true : 使用する false : 使用しない
特定業務代理機能の使用可否	applicational-act	true : 使用する false : 使用しない
権限代理機能の使用可否	authoritative-act	true : 使用する false : 使用しない

標準組織の設定

設定一覧

論理名	物理名	設定内容
標準組織の使用可否	im-master-department-set-enabled	true : 使用する false : 使用しない

一時保存機能の設定

設定一覧

論理名	物理名	設定内容
一時保存機能の使用可否	temporary-save	true : 使用する false : 使用しない

一括処理機能・一括確認機能の設定

設定一覧

論理名	物理名	設定内容
一括処理機能の使用可否	lump-processing	true : 使用する false : 使用しない
一括確認機能の使用可否	lump-confirm	true : 使用する false : 使用しない

フロー画像出力機能の設定

設定一覧

論理名	物理名	設定内容
フロー画像出力機能の使用可否	flow-image-output	true : 使用する false : 使用しない

根回しの設定

設定一覧

論理名	物理名	設定内容
根回し機能の使用可否	negotiate-type	true : 使用する false : 使用しない

通知の設定

設定一覧

論理名	物理名	設定内容
通知種別	notice-type	0 : 通知しない 1 : 通知に全て使用する 2 : 通知にメールのみを使用する 3 : 通知にIMBoxのみを使用する

バージョンの設定

コンテンツバージョン、ルートバージョン、フローバージョンの最小期間、最大期間を設定します。
この設定の範囲を超えるバージョン期間の登録はできません。

設定一覧

論理名	物理名	設定内容
バージョンのシステム開始日	version-start-date	年月日 (yyyy/MM/dd)
バージョンのシステム終了日	version-end-date	年月日 (yyyy/MM/dd)



注意

- マスタデータのインポートを行う際には、インポート元とインポート先の環境でワークフローパラメータ「version-start-date」を同じ値に設定してください。

インポート元とインポート先のワークフローパラメータ「version-start-date」が異なる状態でインポートを実行した場合、コンテンツ・ルート・フロー定義に対して無効バージョン情報が補完的に登録される可能性があります。
無効バージョン情報が登録された場合、フロー定義の一部のノードが表示されなくなる等の予期せぬ事象が発生する可能性があります。

インポート時のバージョン補完に関する仕様の詳細は「[バージョンを持つマスタ定義のインポート仕様](#)」を参照してください。

自動処理、自動催促の設定

設定一覧

論理名	物理名	設定内容
処理期限自動処理ジョブ基準時間	exec-deadline-standard-time	設定範囲（時刻）：[00:00] - [23:59]
催促メール/IMBox送信ジョブ設定	pressing-notice-standard-time	設定範囲（時刻）：[00:00] - [23:59]

アーカイブの設定

設定一覧

論理名	物理名	設定内容
アーカイブ期間設定	archive-config	period-year : 年指定 period-month : 月指定 specified-date : 年月日指定
アーカイブ期間	archive-period	period-year : yy(0-99) period-month : mm(0-99) specified-date : yyyy/MM/dd specified-dateには未来日を指定できます。
アーカイブソート機能の使用可否	archive-orderby	true :使用する false :使用しない（デフォルト） ※この機能はアーカイブの処理順を[申請基準日（昇順）]-[申請日時（昇順）]順にソートする機能です。

アラートの設定

処理中案件検出（経過日時指定）ジョブ設定一覧

論理名	物理名	設定内容
処理中案件経過日	proc-processing-date	設定範囲（日）：[1] - [999]
処理中案件経過時間	proc-processing-time	設定範囲（時）：[0] - [23]

処理中ノード検出（経過日時指定）ジョブ設定一覧

論理名	物理名	設定内容
処理中ノード経過日	node-processing-date	設定範囲（日）：[1] - [999]
処理中ノード経過時間	node-processing-time	設定範囲（時）：[0] - [23]

リスナーの設定

案件削除リスナー関連設定一覧

論理名	物理名	設定内容
未完了案件削除リスナーの種類	delete-active-matter-type	java : JavaEE開発モデル script : スクリプト開発モデル logic-flow : ロジックフロー [] (指定なし) : リスナーを起動しない
未完了案件削除リスナーのパス	delete-active-matter-listener-path	リスナーの種類がjava : パッケージ名 リスナーの種類がscript : WEB-INF/jsspからのパス リスナーの種類がlogic-flow : ロジックフロー情報 [1]
完了案件削除リスナーの種類	delete-complete-matter-listener-type	java : JavaEE開発モデル script : スクリプト開発モデル logic-flow : ロジックフロー [] (指定なし) : リスナーを起動しない
完了案件削除リスナーのパス	delete-complete-matter-listener-path	リスナーの種類がjava : パッケージ名 リスナーの種類がscript : WEB-INF/jsspからのパス リスナーの種類がlogic-flow : ロジックフロー情報 [1]
過去案件削除リスナーの種類	delete-archive-matter-listener-type	java : JavaEE開発モデル script : スクリプト開発モデル logic-flow : ロジックフロー [] (指定なし) : リスナーを起動しない
過去案件削除リスナーのパス	delete-archive-matter-listener-path	リスナーの種類がjava : パッケージ名 リスナーの種類がscript : WEB-INF/jsspからのパス リスナーの種類がlogic-flow : ロジックフロー情報 [1]

案件退避リスナー関連設定一覧

論理名	物理名	設定内容
案件退避リスナーの種類	archive-proc-listener-type	java : JavaEE開発モデル script : スクリプト開発モデル logic-flow : ロジックフロー [] (指定なし) : リスナーを起動しない
案件退避リスナーのパス	archive-proc-listener-path	リスナーの種類がjava : パッケージ名 リスナーの種類がscript : WEB-INF/jsspからのパス リスナーの種類がlogic-flow : ロジックフロー情報 [1]

[1] [\(1, 2, 3, 4\)](#)

以下の形式で指定します。

形式

```
{"flowId": "%ロジックフロー フロー定義ID%", "version": %バージョン番号%, "versionDecide": %バージョン指定有無%}
```

説明

- ロジックフロー フロー定義ID: リスナーとして動作させるロジックフローのフロー定義ID
- バージョン番号: リスナーとして動作させるロジックフローのバージョン番号
- バージョン指定有無:
 - true を指定した場合、指定したバージョン番号のロジックフローが動作します。
 - false を指定した場合、常に最新のバージョンが動作します。この際、バージョン番号には null を指定してください。

設定例

- ```
{"flowId": "logic_flow_1", "version": 5, "versionDecide": true}
```
- ```
{"flowId": "logic_flow_1", "version": null, "versionDecide": false}
```

設定一覧

論理名	物理名	設定内容
ファイルトランザクションレベル	transaction-file-level	[1]: 必須ファイルのみ生成 (マスタデータ、開始タスクフローXMLファイル等) [2]: 上記[1]+操作履歴ファイル 権限者情報ファイルを追加で作成
トランザクションファイルおよび添付ファイル保存先	transaction-file-save-location	[1]: トランザクションファイル (XMLファイル) と添付ファイルをすべてストレージに保存する。 [2]: 【未完了案件】 トランザクションデータファイルをBinaryデータとしてデータベースに保存する。添付ファイルはストレージに保存する。 【完了案件・過去案件】 トランザクションファイル (XMLファイル) と添付ファイルをすべてストレージに保存する。 [3]: 【未完了案件・完了案件】 トランザクションデータファイルと添付ファイルをすべてデータベースに保存する。 【過去案件】 トランザクションファイル (XMLファイル) と添付ファイルをすべてストレージに保存する。(デフォルト) [4]: トランザクションデータファイルと添付ファイルをすべてデータベースに保存する。
マスタディレクトリ	master-file-dir	マスタデータファイルの保存ディレクトリ
トランザクションディレクトリ	transaction-file-dir	トランザクションデータファイルの保存ディレクトリ
アーカイブディレクトリ	archive-file-dir	アーカイブデータの保存ディレクトリ
削除案件ディレクトリ	delete-matter-file-dir	削除案件履歴ファイルの保存ディレクトリ

注意

トランザクションファイルおよび添付ファイル保存先のデフォルト値、設定値の変更

IM-Workflow 2016 Summer (8.0.14) から「トランザクションファイルおよび添付ファイル保存先」(transaction-file-save-location) のデフォルト値・設定値が変更になりました。

ご利用中の環境に合わせて適切な値を設定してください。

- IM-Workflow 2016 Spring (8.0.13) 以前のバージョンをご利用の場合
「transaction-file-save-location」は、IM-Workflow 2013 Summer (8.0.4) で追加されたパラメータです。
IM-Workflow 2013 Spring (8.0.3) 以前のバージョンの場合は「transaction-file-save-location」= [1]の設定と同じです。

		未完了案件	完了案件	過去案件
[1]	トランザクションデータファイル	ストレージ	ストレージ	ストレージ
	添付ファイル	ストレージ	ストレージ	ストレージ
[2] (デフォルト)	トランザクションデータファイル	データベース	ストレージ	ストレージ
	添付ファイル	ストレージ	ストレージ	ストレージ

- IM-Workflow 2016 Summer (8.0.14) 以降のバージョンをご利用の場合

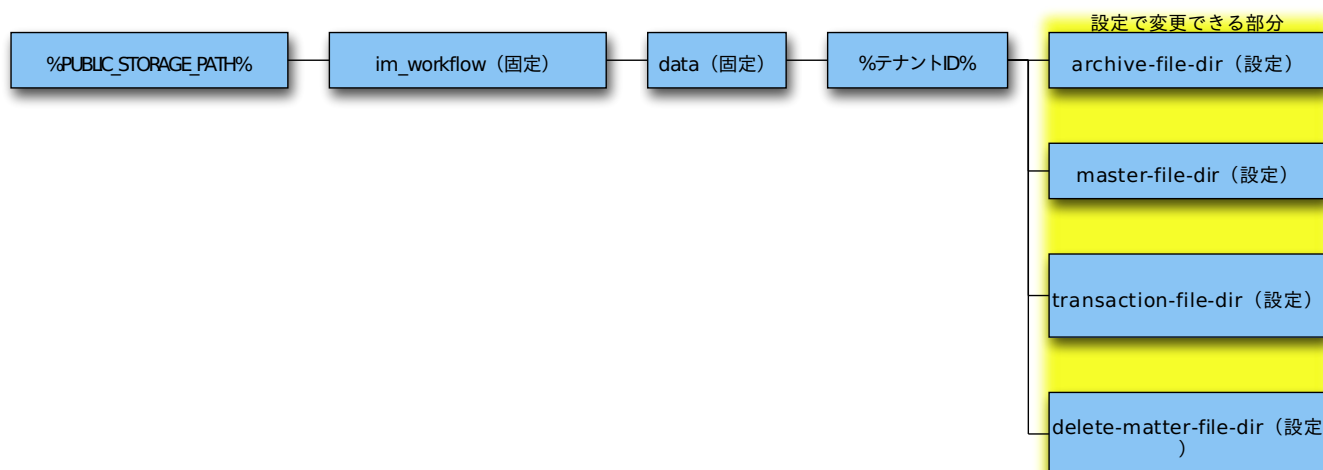
		未完了案件	完了案件	過去案件
[1]	トランザクションデータファイル	ストレージ	ストレージ	ストレージ
	添付ファイル	ストレージ	ストレージ	ストレージ
[2]	トランザクションデータファイル	データベース	ストレージ	ストレージ
	添付ファイル	ストレージ	ストレージ	ストレージ
[3] (デフォルト)	トランザクションデータファイル	データベース	データベース	ストレージ
	添付ファイル	データベース	データベース	ストレージ
[4]	トランザクションデータファイル	データベース	データベース	データベース
	添付ファイル	データベース	データベース	データベース

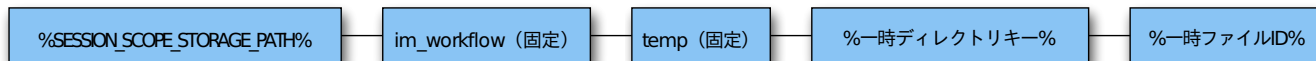
また、運用中に設定を変更する場合には、変更後にトランザクションデータファイルや添付ファイルの移行ジョブを実行し、ワークフローパラメータの設定値と既存のデータの保存先に不整合が発生しないようにしてください。

詳細については「[IM-Workflow 管理者操作ガイド](#)」-「[トランザクションデータ、添付ファイルの保存先を変更する](#)」を参照してください。

データファイルの保存ディレクトリは下図の「%テナントID%」ディレクトリ配下の中で変更ができます。

データファイルの保存ディレクトリ





ポップアップウィンドウサイズの設定

設定一覧

論理名	物理名	設定内容
ユーザコンテンツ詳細画面のポップアップウィンドウの幅	imw-detail-window-width	単位はピクセル(px)です。 [0] を指定した場合は、初期値(750)を使用します。
ユーザコンテンツ詳細画面のポップアップウィンドウの高さ	imw-detail-window-height	単位はピクセル(px)です。 [0] を指定した場合は、初期値(700)を使用します。
フロー参照画面のポップアップウィンドウの幅	imw-flow-window-width	単位はピクセル(px)です。 [0] を指定した場合は、初期値(750)を使用します。
フロー参照画面のポップアップウィンドウの高さ	imw-flow-window-height	単位はピクセル(px)です。 [0] を指定した場合は、初期値(700)を使用します。
履歴参照画面のポップアップウィンドウの幅	imw-history-window-width	単位はピクセル(px)です。 [0] を指定した場合は、初期値(750)を使用します。
履歴参照画面のポップアップウィンドウの高さ	imw-history-window-height	単位はピクセル(px)です。 [0] を指定した場合は、初期値(700)を使用します。

入力項目の設定

設定一覧

論理名	物理名	設定内容
案件名の入力可能文字数	matter-name-size	単位は半角文字数です。 全角文字は半角4文字として数えます。
申請・処理時コメントの入力可能文字数	proc-comment-size	単位は半角文字数です。 全角文字は半角4文字として数えます。
確認時コメントの入力可能文字数	confirm-comment-size	単位は半角文字数です。 全角文字は半角4文字として数えます。
添付ファイル名の入力可能文字数	attach-file-name-size	単位は半角文字数です。 全角文字は半角4文字として数えます。
ノード設定名の入力可能文字数	node-config-name-size	単位は半角文字数です。 全角文字は半角4文字として数えます。
展開するノード名の入力可能文字数	expand-node-name-size	単位は半角文字数です。 全角文字は半角4文字として数えます。

GreyBoxのz-indexの設定

設定一覧

論理名	物理名	設定内容
GreyBoxのz-index基準値	open-page-greybox-z-index	GreyBoxで使用されるz-index基準値です。(0-) ワークフローのタグライブラリ: workflowOpenPageCsjsで読み込まれるGreyBoxにおいて適用されます。 [] (指定なし) : 初期値(1100)を使用します。

案件終了時のタスクアーカイブファイル作成省略の設定

設定一覧

論理名	物理名	設定内容
案件終了時の タスクアーカイブファイル作成省略設定	not-make-task-zip-file	案件終了時のタスクアーカイブファイル作成省略設定。 true : 作成しない。(デフォルト) false : 作成する。

印影設定

印影の使用可否を設定します。

設定一覧

論理名	物理名	設定内容
印影の使用可否	stamp-enabled	true : 印影を使用する。 false : 印影を使用しない(デフォルト)。

ショートカットアクセスURLの設定

設定一覧

論理名	物理名	設定内容
メール置換文字列 / IMBox置換文字列 [イントラマートのショートカットアクセスURLの有効期間(日)]の値	login-limit	設定範囲(日) : [1] - [99]

スマートフォン用ユーザコンテンツのスキップ設定

設定一覧

論理名	物理名	設定内容
スマートフォン用ユーザコンテンツ画面が 未設定時の動作設定	sp-no-content-skip-enable	設定値未設定の場合は true の挙動と同じです。 version8.0.3環境新規構築時 true : スキップを許可する。 false : スキップを許可しない。(デフォルト) version8.0.0～8.0.2からのバージョンアップ時 true : スキップを許可する。(デフォルト) false : スキップを許可しない。

標準画面の処理の同期／非同期設定

設定一覧

論理名	物理名	設定内容
標準画面の処理の 同期／非同期の制御設定	standard-exec-jssp-async	設定値未設定の場合は false として動作します。 true : 非同期 false : 同期 ※非同期に設定した場合は標準画面の処理を同期／非同期で行うかフロー単位で設定することができます。処理済に「非同期処理ステータス」タブが表示されます。 ※同期に設定した場合はフロー単位で設定したものを無視し、標準画面の処理を同期で行います。処理済に「非同期処理ステータス」タブが表示されません。

申請者除外設定

申請者除外の使用可否を設定します。

設定一覧

論理名	物理名	設定内容
-----	-----	------

論理名	物理名	設定内容
処理対象者プラグイン申請者除外設定	not-extend-applyuser-flag	処理対象者や確認対象者、参照者から申請者を除外するかを設定します。 処理対象者プラグインの組織やロールを設定した場合には、申請者のユーザを除外した状態で対象ユーザを展開します。 また、案件操作で処理対象者の再展開を行った場合や、振替を行った場合も、申請者を除外します。 false : 除外しない（デフォルト） true : 除外する



コラム

例外として、以下の場合は申請者は除外されません。

- 引戻しや差戻しなどを実行した結果、申請ノードが処理待ち状態となり、申請ノードの処理対象者が再展開される場合
- 申請以外のノードで処理対象者プラグイン「申請者」を設定している場合

全角「%」、「_」のエスケープ設定

設定一覧

論理名	物理名	設定内容
全角「%」、「_」 エスケープ設定	escape-full-width-percent-and-underscore-flag	データベース検索時に全角「%」（パーセント）、「_」（アンダーバー）をエスケープするかを設定します。 false : エスケープしない（デフォルト） true : エスケープする ※全角文字をエスケープするときにエラーとなるデータベースの場合は「false」を設定してください。

処理対象ユーザの所属情報取得方法設定

案件を申請する際に選択可能な所属組織情報を取得するAPI「ApplyManager#getAuthUserOrgz」の処理方式を指定します。

- 「user-from-orgz」の場合は、ルート定義で設定した処理対象をユーザ単位に展開し、申請するユーザと比較することで所属情報を確定します。
ユーザが多数の「組織、役職、パブリックグループ、役割、ロール」に所属する場合に推奨します。
- 「orgz-from-user」の場合は、申請するユーザの所属情報を取得した後、ルート定義で設定した処理対象と比較することで所属情報を確定します。
「組織、役職、パブリックグループ、役割、ロール」にそれぞれ多数のユーザが所属する場合に推奨します。

設定一覧

論理名	物理名	設定内容
処理対象ユーザの 所属情報取得方法設定	target-users-organization-retrieving-type	user-from-orgz : 所属情報からユーザ情報を取得（初期値） orgz-from-user : ユーザ情報から所属情報を取得

インポート/エクスポートファイルのアップロード/ダウンロード設定

各種マスタ定義のインポート・エクスポート時のローカルディレクトリとのファイルアクセスについて設定します。

- インポート/エクスポートファイルのアップロード/ダウンロード：「使用する」の場合
 - インポート時にローカルディレクトリからインポートファイルをストレージにアップロードしてインポートを行うことができます。
 - エクスポート時にエクスポート結果の画面からパブリックストレージに出力されたエクスポートファイルをダウンロードすることができます。

設定一覧

論理名	物理名	設定内容
インポート/エクスポートファイルの アップロード/ダウンロード使用可否	import-export-file-upload-download	true : 使用する（初期値） false : 使用しない

トランザクションファイル（XMLファイル）圧縮可否

パブリックストレージに出力・保持されるトランザクションファイル（XMLファイル）の圧縮可否を指定します。

**コラム**

当設定は 2016 Winter(Olga) より追加されました。

- 当設定は、「[データ保存の設定](#)」において、トランザクションファイル（XMLファイル）の保存先が「ストレージ」となっている案件に対してのみ有効です。
- トランザクションファイル（XMLファイル）圧縮可否：「圧縮する」の場合
 - トランザクションファイル（XMLファイル）を ZIP 形式で圧縮した状態で出力・保持します。
 - トランザクションファイル（XMLファイル）は、インデントおよび改行コードが除去された状態で圧縮されます。

設定一覧

論理名	物理名	設定内容
トランザクションファイル（XMLファイル）圧縮可否	transaction-file-compression	設定値未設定の場合は false の挙動と同じです。 true：圧縮する false：圧縮しない（初期値）

**コラム**

トランザクションファイル（XMLファイル）を圧縮した状態で出力する機能は、当設定を「圧縮する」として設定した後の案件処理から有効な設定として扱われます。

そのため、設定を「圧縮する」に変更しただけでは既存のトランザクションファイル（XMLファイル）は圧縮されません。

既存のトランザクションファイル（XMLファイル）を圧縮する場合は、以下のジョブを実行してください。

- 「[未完了案件トランザクションXMLファイル圧縮](#)」
- 「[完了案件トランザクションXMLファイル圧縮](#)」
- 「[過去案件トランザクションXMLファイル圧縮](#)」

**コラム**

当設定を「圧縮する」とした場合でも、圧縮されていない状態の案件に対する参照や処理は正常に行うことが可能です。

ただし、当該案件への処理を行った場合、新たに作成または更新されるトランザクションファイル（XMLファイル）は圧縮された状態で出力されます。

その結果、同一案件のトランザクションファイル（XMLファイル）として、圧縮されているファイルとされていないファイルが混在した状態になります。

この状態が動作上の問題となることはありませんが、管理の都合上望ましくない場合は、上述の圧縮ジョブを実行した上で設定変更および案件への処理を行ってください。

複数の処理対象者プラグインから展開されたユーザ情報をマージする処理方式

複数の処理対象者プラグインから展開されたユーザ情報をマージする処理方式を指定します。

**注意**

以下の説明は他方の設定値による挙動に対する比較です。

ユーザ情報の全量によっては、設定に関わらず処理時間の増加やメモリの使用量が大きくなる可能性があります。

- 「メモリを用いた高速マージ」の場合
 - マージ先とマージ元のユーザ情報を効率的に照合するための一時情報をメモリ上に作成します。
 - ユーザ情報の数に関わらずマージ処理は高速です。
 - ユーザ情報の数に比例してメモリを使用します。
- 「単純マージ」の場合
 - マージ先とマージ元のユーザ情報を 1 件ずつ照合します。
 - ユーザ情報の数に比例してマージ処理時間は長くなります。
 - 必要最低限の情報のみで処理を行うためメモリの使用量が少なくなります。

設定一覧

論理名	物理名	設定内容
複数の処理対象者プラグインから展開されたユーザ情報をマージする処理方式	standard-plugin-result-merge-mode	1：メモリを用いた高速マージ 2：単純マージ



コラム

- このパラメータは IM-Workflow 2017 Summer(8.0.17) で追加されました。
- 新規環境構築時は「1：メモリを用いた高速マージ」が指定されています。
- 設定が存在しない場合は「2：単純マージ」と同一の挙動です。

組織フィルタリング設定

組織フィルタリングを設定します。

設定一覧

論理名	物理名	設定内容
組織フィルタリング設定の可否	use-department-filtering	設定値未設定の場合は false の挙動と同じです。 true：フィルタリングする false：フィルタリングしない（初期値）
組織フィルタリング設定の対象フロー設定	department-filtering-target-flow	組織フィルタリング設定の対象フローのフローIDを指定してください。 複数の案件を指定する場合は「,（カンマ）」区切りの値を指定してください。 当設定は「組織フィルタリング設定の可否」で「true」を指定している場合に適用されます。



コラム

組織フィルタリングとは

処理権限者のシステム日時時点の所属組織で処理した案件のみを表示するオプションです。

処理権限者がシステム日時時点で、過去に処理した案件で選択した組織に所属していない場合、一覧に表示されません。

組織フィルタリングを行うには「組織フィルタリング設定の可否」が「true」、かつ、組織フィルタリングを行うフローを「組織フィルタリング設定の対象フロー設定」に指定する必要があります。

組織フィルタリングの対応画面は以下の通りです。

- [処理済（未完了案件）一覧]画面
処理権限者単位の案件に対して組織フィルタリングをした案件を表示します。
- [処理済（完了案件）一覧]画面
処理権限者単位の案件に対して組織フィルタリングをした案件を表示します。
- [過去案件一覧]画面
処理権限で処理した履歴がある過去案件に対して組織フィルタリングをした案件を表示します。
(アーカイブをする際にAPIを用いて、処理した履歴がないユーザを過去案件参照可能ユーザに追加しても表示されません。)



コラム

組織フィルタリングは案件操作の「保留解除」、「ノードの移動」を行った案件に対しても適用されます。

案件操作権限者が案件操作を行うとき担当組織を指定しません。

案件操作権限者が組織に所属している場合は、案件操作権限者の[処理済（未完了案件）一覧]画面、[処理済（完了案件）一覧]画面、[過去案件一覧]画面には、案件操作を行った案件を表示させません。

上記の案件を閲覧または案件操作する場合は、案件の操作権限を許可された[参照一覧（未完了案件）]画面、[参照一覧（完了案件）]画面を利用してください。

また、[過去案件一覧]画面については、管理グループによる権限制御の利用を検討してください。

注意

「組織フィルタリング設定の対象フロー設定」に設定するフローIDは最大でも1000までとしてください。

- 組織フィルタリング機能が発行するSQLは、「組織フィルタリング設定の対象フロー設定」に設定されたフローIDをIN句に指定します。

「組織フィルタリング設定の対象フロー設定」 * 「ログインユーザ（処理権限者）の所属組織数」は1800以下程度としてください。

- 2000を超えた場合、処理性能が低下することを確認しています。
- 「組織フィルタリング設定の対象フロー設定」に設定する値は、ログインユーザ（処理権限者）によって所属組織は異なると想定しますので、組織に最も多く所属するユーザを基準として検討してください。
- 例として組織に最も多く所属するユーザの所属組織数が10であれば、「組織フィルタリング設定の対象フロー設定」は180を超えない値を設定してください。

上記に関連した制限事項です。併せて確認してください。

- 「リリースノート」 - 「各種データベース・JDBCドライバの仕様および、制限に準拠します。」

コラム

当設定は 2017 Winter(Rebecca) より追加されました。

案件一覧の設定

2019 Spring(Violette) より追加された「案件一覧」に関する設定です。

設定一覧

論理名	物理名	設定内容
一覧表示パターン定義画面のフローグループ/フロー単位の一覧表示パターン選択機能使用可否	list-display-pattern-mapping	設定値未設定の場合は false の挙動と同じです。 true : 機能を使用する false : 機能を使用しない（初期値）
「案件一覧」で利用するタスクステータス	enable-task-status	「案件一覧」で利用するタスクステータスを指定してください。 複数のタスクステータスを指定する場合は","（カンマ）区切りの値を指定してください。 設定値未設定の場合は 初期値 の挙動と同じです。 初期値は temporary-saves,active-matter-tasks,active-matters-processed,active-matters-reference,active-matters-unconfirmed,active-matters-confirmed,completed-matters-processed,completed-matters-reference,completed-matters-unconfirmed,completed-matters-confirmed
「案件一覧」で1回に取得するレコード数	matters-fetch-size-at-once	「案件一覧」でリストを無限スクロールで取得するときの1回で取得するレコード数を指定してください。 設定値未設定の場合は 初期値（60）を使用します。



コラム

「一覧表示パターン定義」のフローグループ/フロー単位の一覧表示パターン選択機能とは

「一覧表示パターン定義」で「案件一覧」のフローグループツリーのフローグループ/フローに対して一覧表示パターンを選択する機能です。
一覧表示パターンの設定方法については、「[IM-Workflow 管理者操作ガイド](#)」を参照してください。

当項目を有効 (true) にすると

「一覧表示パターン定義」のフローグループ項目とフロー項目が表示されます。

当項目を無効 (false) とすると

「一覧表示パターン定義」のフローグループ項目とフロー項目が表示されません。

当項目は「一覧表示パターン定義」のフローグループ項目とフロー項目の表示制御するだけです。

「案件一覧」のフローグループツリーのフローグループ/フローに対して選択した一覧表示パターンを有効/無効にするものではありません。



コラム

「案件一覧」で利用するタスクステータスとは

案件の状態や案件に対する役割に基づいて表示できる案件の分類です。

「案件一覧」で利用するタスクステータスと 2018 Winter (Urara) 以前の各種一覧画面の対比については「案件一覧」で利用するタスクステータスと 2018 Winter (Urara) 以前の各種一覧画面の対比を参照ください。

「案件一覧」で利用するタスクステータスと IM-Workflow の情報の区分の対比

論理名	物理名	IM-Workflow の案件状態
一時保存	temporary-saves	一時保存一覧
未処理	active-matter-tasks	未処理一覧
処理済 (未完了案件)	active-matters-processed	処理済一覧 (未完了)
参照 (未完了案件)	active-matters-reference	参照一覧 (未完了) の利用者用
未確認 (未完了案件)	active-matters-unconfirmed	確認一覧 (未完了) の確認状態が未確認
確認済 (未完了案件)	active-matters-confirmed	確認一覧 (未完了) の確認状態が確認済み
処理済 (完了案件)	completed-matters-processed	処理済一覧 (完了)
参照 (完了案件)	completed-matters-reference	参照一覧 (完了) の利用者用
未確認 (完了案件)	completed-matters-unconfirmed	確認一覧 (完了) の確認状態が未確認
確認済 (完了案件)	completed-matters-confirmed	確認一覧 (完了) の確認状態が確認済み

コラムサイズの拡張

IM-Workflow では下表に示す項目のサイズを、インストール後に変更することができます。

IM-Workflow をインストールした直後の設定は下表のとおりです。

設定一覧

論理名	物理名	初期のカラムサイズ
案件名	matter-name-size	400
申請・処理時コメント	proc-comment-size	2000
確認時コメント	confirm-comment-size	2000
添付ファイル名	attach-file-name-size	200
ノード設定名	node-config-name-size	200
横配置・縦配置ノードで展開するノード名	expand-node-name-size	200

IM-Workflow のインストール時にカラムサイズをあらかじめ設定しておくことはできません。

カラムサイズを変更する場合は、IM-Workflow のインストール後に テナント 単位の設定を更新した後、テーブルのカラムサイズを手動で更新する必要があります。

設定方法については下記を参照してください。

案件名のカラムサイズ設定

下記の操作を行います。

- テナント 単位の設定で「matter-name-size」項目の設定値を変更します。
- 下記のテーブルのmatter_nameフィールドのカラムサイズを同じ値に変更します。
 - imw_t_actv_matter
 - imw_t_cpl_matter
 - imw_t_temporary_save
 - imw_aYYYYMM_matter (※)

※「IM-Workflow アーカイブジョブ」を実行すると、各案件の申請基準日を元に過去案件テーブルが作成されます。
 YYYYは申請基準日の年、MMは月を表します。
 申請基準日が「2010/07/01」の場合、テーブル名は「imw_a201007_matter」と設定されます。

申請・処理時コメントのカラムサイズ設定

下記の操作を行います。

- テナント単位の設定で「proc-comment-size」項目の設定値を変更します。
- 下記のテーブルのprocess_commentフィールドのカラムサイズを同じ値に変更します。
 - imw_t_cpl_matter_task
 - imw_t_cpl_task
 - imw_t_temporary_save
 - imw_aYYYYMM_matter_task (※)

※「IM-Workflow アーカイブジョブ」を実行すると、各案件の申請基準日を元に過去案件テーブルが作成されます。
 YYYYは申請基準日の年、MMは月を表します。
 申請基準日が「2010/07/01」の場合、テーブル名は「imw_a201007_matter_task」と設定されます。

確認時コメントのカラムサイズ設定

下記の操作を行います。

- テナント単位の設定で「confirm-comment-size」項目の設定値を変更します。
- 下記のテーブルのconfirm_commentフィールドのカラムサイズを同じ値に変更します。
 - imw_t_confirm
 - imw_t_cpl_matter_confirm
 - imw_aYYYYMM_matter_confirm (※)

※「IM-Workflow アーカイブジョブ」を実行すると、各案件の申請基準日を元に過去案件テーブルが作成されます。
 YYYYは申請基準日の年、MMは月を表します。
 申請基準日が「2010/07/01」の場合、テーブル名は「imw_a201007_matter_confirm」と設定されます。

添付ファイル名のカラムサイズ設定

下記の操作を行います。

- テナント単位の設定で「attach-file-name-size」項目の設定値を変更します。
- 下記のテーブルのreal_file_nameフィールドのカラムサイズを同じ値に変更します。
 - imw_t_actv_matter_attach_file
 - imw_t_cpl_matter_attach_file
 - imw_aYYYYMM_matter_attach_file (※)

※「IM-Workflow アーカイブジョブ」を実行すると、各案件の申請基準日を元に過去案件テーブルが作成されます。
 YYYYは申請基準日の年、MMは月を表します。
 申請基準日が「2010/07/01」の場合、テーブル名は「imw_a201007_matter_attach_file」と設定されます。

ノード設定名のカラムサイズ設定

下記の操作を行います。

- テナント単位の設定で「node-config-name-size」項目の設定値を変更します。
- 下記のテーブルのnode_config_nameフィールドのカラムサイズを同じ値に変更します。
 - imw_t_user_node_config

横配置・縦配置ノードで展開するノード名のカラムサイズ設定

下記の操作を行います。

- テナント単位の設定で「expand-node-name-size」項目の設定値を変更します。

- 下記のテーブルのnode_nameフィールドのカラムサイズを同じ値に変更します。

- imw_t_actv_task
- imw_t_cpl_task
- imw_t_cpl_matter_confirm_user
- imw_t_cpl_matter_task
- imw_t_confirm_user
- imw_aYYYYMM_matter_task (※)

※「IM-Workflow アーカイブジョブ」を実行すると、各案件の申請基準日を元に過去案件テーブルが作成されます。

YYYYは申請基準日の年、MMは月を表します。

申請基準日が「2010/07/01」の場合、テーブル名は「imw_a201007_matter_task」と設定されます。